2019年度

シ　ラ　バ　ス

桐生大学　医療保健学部

栄養学科

講義コード	20010001
講義名	哲学・倫理学
(副題)	
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	３時限
区分	学部共通科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UM-C070
学年	4学年

担当教員

職種	氏名	所属
教 員	◎ 村上 隆夫	指定なし

授業の概要と教育目標

西欧の哲学および倫理学という学問に関する基本的な事柄について学ぶことを教育目標とする。そのために、古代ギリシアにおける哲学・倫理学の成立と、古代ユダヤのヘブライ文化を源流とするキリスト教の成立とを跡付けて、その後の西欧の哲学と倫理学の発展をを近代にいたるまで概観する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

広い基礎的な教養の獲得を目指す選択科目として卒業認定・学位授与の方針と関連する。

到達目標

古代および近代のヨーロッパの哲学・倫理学のみならず、現代の哲学・倫理学についての入門的な文献を読解できるようにすることを目標とする。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）
第1回	古代地中海世界の文化	古代地中海世界におけるギリシャ人の文化とユダヤ人の文化について説明する。
第2回	ギリシア哲学の形成（１）	ソクラテスの生涯とその哲学・倫理学について説明する。
第3回	ギリシャ哲学の形成（２）	上に同じ
第4回	ギリシャ哲学の展開（１）	プラトンの哲学・倫理学について説明する。
第5回	ギリシア哲学の展開（２）	上に同じ
第6回	ギリシア哲学の展開（３）	アリストテレスの哲学・倫理学について説明する。
第7回	ギリシア哲学の展開（４）	上に同じ

第8回	キリスト教の成立（１）	イエスの生涯とその倫理思想について説明する。
第9回	キリスト教の成立（２）	パウロによるキリスト教思想の形成について説明する。
第10回	キリスト教神学の形成	アウグスティヌスのキリスト教神学について説明する。
第11回	キリスト教神学の展開	中世キリスト教神学における普遍論争について説明する。
第12回	宗教改革の思想	マルティン・ルターとジャン・カルヴァンのキリスト教思想について説明する。
第13回	近代哲学・倫理学の形成（１）	トマス・ホッブズの哲学・倫理学の近代的性格について説明する。
第14回	近代哲学・倫理学の形成（２）	デカルトの哲学・倫理学の近代的性格について説明する。
第15回	総括と討論	これまでの講義について補講を行い、さらに総括のための討論の時間を設ける。

教科書

特に使用しない。講義の際にレジュメを配布する。

参考書

講義のなかで適宜指示する。

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上。学期末試験（１００％）による評価を行う。

課題等に対する
フィードバックの方法

授業の後で関連する事項について検索をおこなうなど、復習することが望ましい。

履修のポイント

レジュメに関連してノートに補足してまとめることが望ましい。

講義コード	20020001
講義名	心理学
(副題)	
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	１時限
区分	基礎科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UM-C001
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 大澤 靖彦	指定なし

授業の概要と教育目標

ものを見ること、覚えること、考えること、泣いたり笑ったりすることなど、私たちが意識するとしないとにかかわらず、人のあらゆる活動に心はかかわっている。心理学は、そのような私たちの心のはたらきを明らかにすることを目的としているが、そのはたらきはさまざまである。そして、人は常に、状況に応じて適切な判断を下し、その場に合った行動をうまく選択し、自分にとって必要で大切だと思うことをきちんと覚えておくような存在かというと、そうでもない。本講義では、そうした人の心の多様なはたらきについて取り上げる。授業は講義形式で行うが、テーマによって視聴覚にうったえる試みもする予定である。なお、人の心のはたらきについての基礎知識の習得し、人に対する理解を深めることを教育目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマ・ポリシーとの関連として、社会・環境・コミュニケーションなどの諸側面から人に対する理解を深めることを目指し、心理的側面の理解を通してその目的達成に資する知識を養う。そして将来的な展望としては、多様な人間のライフステージ、ライフサイクルを理解する基盤となる学修を行うことを目指すものとする。

到達目標

１．知覚・記憶・学習・発達・性格・感情と欲求・適応機制などにかかわる専門用語の意味を理解する。
２．知覚・記憶・学習・発達・性格・感情と欲求・適応機制などにかかわる心理学理論について理解する。
３．日常的な出来事を心理学の理論に沿って理解する。
４．人の心の全般的なしくみについて理解する。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	心理学のいろいろ	オリエンテーション（授業の進め方、成績評価など） 心理学の系譜を概観しながら、どのようなことが明らかにされてきているのか、日常生活のトピックスを取り上げる。	予習90分：教科書第1章を読む。 復習90分：配布資料を見直す。

第2回	知覚心理学	錯視をはじめとし、見えの不思議を取り上げる。	予習90分：教科書pp.20-34を読む。 復習90分：配布資料を見直す。
第3回	学習心理学	テスト勉強で何かを覚えるだけでなく、知らず知らず身につけてしまう学習について取り上げる。	予習90分：教科書pp.34-43を読む。 復習90分：配布資料を見直す。
第4回	認知心理学	記憶や思考について取り上げる。	予習90分：教科書pp.43-54を読む。 復習90分：配布資料を見直す。
第5回	人格心理学	パーソナリティの理解やとらえ方について取り上げる。	予習90分：教科書pp.56-70を読む。 復習90分：配布資料を見直す。
第6回	発達心理学①	達の基本概念について取り上げる。	予習90分：教科書pp.71-83を読む。 復習90分：配布資料を見直す。
第7回	発達心理学②	自分らしさを作り上げる過程から死を迎えるまでの発達について取り上げる。	予習90分：教科書pp.84-101を読む。 復習90分：配布資料を見直す。
第8回	社会心理学①	対人関係における印象形成、対人魅力、恋愛について取り上げる。	予習90分：教科書pp.102-118を読む。 復習90分：配布資料を見直す。
第9回	社会心理学②	人を動かす心理学にについて取り上げる。	予習90分：教科書pp.119-135を読む。 復習90分：配布資料を見直す。
第10回	社会心理学③	援助行動と攻撃行動について取り上げる。	予習90分：教科書pp136-148を読む。 復習90分：配布資料を見直す。
第11回	健康心理学①	心の健康、適応について取り上げる。	予習90分：教科書pp.149-158を読む。 復習90分：配布資料を見直す。
第12回	健康心理学②	ストレスについて取り上げる。	予習90分：教科書pp.158-163を読む。

			復習90分：配布資料を見直す。
第13回	健康心理学③	心の健康の維持、回復について取り上げる。	予習90分：教科書pp.164-171を読む。 復習90分：配布資料を見直す。
第14回	臨床心理学	無意識の発見から明らかになった知見について取り上げる。心の病と心理療法について取り上げる。	復習90分：配布資料を見直す。
第15回	社会現象	心理学から見た社会現象について取り上げる。	予習90分：教科書pp.172-182を読む。 復習90分：配布資料を見直す。

教科書

藤本忠明他 『ワークショップ心理学』 ナカニシヤ出版

参考書

適宜紹介する。

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上。
筆記試験40％ レポート・課題30％ 授業への積極性・態度30％

課題等に対するフィードバックの方法

授業内でレポートや課題を課すことがある。返却するので学習の参考にすること。また、授業の振り返りの資料とその解答を配布するので、授業内容の理解に役立てること。

履修のポイント

授業への積極的な取り組みを期待します。授業時間外の学習として、予習は各回の主題に該当する教科書の章に目を通すこと、復習は配布資料・ノートの整理することを勧めます。

オフィス・アワー

水曜日・木曜日、12：30～13：20（昼休み）、11 号館第 8 研究室。
※講義終了前後にも、適宜受け付けます。

講義コード	20030001
講義名	教育原論
(副題)	【教職必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	5時限
区分	学部共通科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UM-C002
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 田口 和人	指定なし

授業の概要と教育目標

教育に関する基本的な事項について学ぶ。これまで受けてきた家庭教育・学校教育・社会教育での経験を踏まえながら、「教育とは何か」について、また教育がもたらす弊害についても考える。そして、「主体的・対話的で、深い学び」とは何かついて理解を深めていく。※「読む」「書く」「話す」という実践的訓練（スキル）を毎時間行う。特に「話す」については、授業内容に即して発言を求める。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマ・ポリシーと関連して、人間のもっている社会・環境・コミュニケーションなどの諸側面についての理解を深めることを目指して、人間の存在・成長・発達に関わって教育のもっている意味を理解する。そして、そのことを通じて、学び続けることの重要性を実感できることを目指す。

到達目標

教育とは何か、人間として生きるために、また人間として成長するために、なぜ教育が必要であるかということについて考えます。その上で、現実に行われている教育について考える視点をもつことを目標とします。

授業計画

	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	これまで受けてきた教育を振り返りながら、家庭教育・学校教育・社会教育についての考え方を共有する。	予習90分：教育に関する事象について調べる。復習：配付資料を見直す。
第2回	人間が存在するようになった時代を想像しながら、教育の有り様を考える。	予習90分：教育に関する事象について調べる。復習：配付資料を見直す。
	乳幼児の成長を追いながら、親・家族の存在と教育（保	予習90分：教育に関する事象について調べ

第3回	育）について考える。	る。復習：配付資料を見直す。
第4回	児童期を迎えた子どもたちと小学校での教育（初等教育）と家庭・地域との連携・協力について考える。	予習90分：教育に関する事象について調べる。復習：配付資料を見直す。
第5回	生徒期を過ごす子どもたちと中学校・高等学校での教育（中等教育）と家庭・地域との連携・協力について考える。	予習90分：教育に関する事象について調べる。復習：配付資料を見直す。
第6回	学生期を過ごす青年たちと大学の教育（高等教育）と地域との連携・協力について考える。	予習90分：教育に関する事象について調べる。復習：配付資料を見直す。
第7回	人間についての観念（人間観）の歴史的変遷と教育を踏まえ、その内容と方法について 考える。	予習90分：教育に関する事象について調べる。復習：配付資料を見直す。
第8回	近代教育史を中心にして、その変遷と価値観の転換について考える。また、日本の近代公教育の成立を踏まえながら、権利としての教育（憲法）、教育基本法、学校教育法について考える。	予習90分：教育に関する事象について調べる。復習：配付資料を見直す。
第9回	学校の中心的な教育活動である授業と学習の関係について考える。	予習90分：教育に関する事象について調べる。復習：配付資料を見直す。
第10回	学校という組織の運営と計画、教育内容の組織化と形態、教育課程の編成、学習指導要領について学び、考える。	予習90分：教育に関する事象について調べる。復習：配付資料を見直す。
第11回	教科外教育としての生徒指導（生活指導）や特別活動、道徳教育の役割と課題について考える。また、教科外教育において、今日の学校環境を取り巻く学校安全についての理解を深める。	予習90分：教育に関する事象について調べる。復習：配付資料を見直す。
第12回	学校保健安全法をとりあげ、生活安全・交通安全・災害安全について学び、その意義を理解する。	予習90分：教育に関する事象について調べる。復習：配付資料を見直す。
第13回	今日求められる「開かれた学校」について学び、その意義を理解する。	予習90分：教育に関する事象について調べる。復習：配付資料を見直す。
第14回	教育や学習とは何かという問いに基づきながら、社会構成的学習（参加・対話型）を実際に行ってみる。	予習90分：教育に関する事象について調べる。復習：配付資料を見直す。
第15回	教育の現状を踏まえながら、これからの教育のあり方について考える。	予習90分：教育に関する事象について調べる。復習：配付資料を見直す。

教科書

なし
参考書
『学生のための教育学』西川信廣・ほか編、ナカニシヤ出版。 文部科学省『幼稚園教育要領』（平成29年）。 文部科学省『小学校学習指導要領』（平成29年）。 文部科学省『中学校学習指導要領』（平成29年）。 文部科学省『生徒指導提要』（平成22年）。 ※適宜資料を配付する。
成績評価の方法・基準
定期試験（80%）、授業時のレポート（20%） 単位認定基準60%以上
課題等に対する フィードバックの方法
授業内でレポートや課題を課すことがある。返却するので、授業の振り返りとして役立てること。
履修のポイント
主体的、対話的で深い学びを期待します。
オフィス・アワー
火曜日・木曜日の12：30～13：20（昼休み） 11号館 ※授業終了後にも、適宜受け付けます。

講義コード	20040001
講義名	法学
(副題)	
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	３時限
区分	学部共通科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UM-C003
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 松原 直樹	指定なし

授業の概要と教育目標

社会において、生活を営み、職業に従事する場合、少なからず法が関わってくる。特に、保健医療・健康・栄養に関する分野は、他の職業領域と比較して、国による規制および国によるサービスが実施されることが圧倒的に多い。そのため、保健医療・健康・栄養の従事者は法令により、その業務を行わなければならない。また、最近は、法的紛争に巻き込まれるケースは以前と比較して、格段に増加してきている。
本講座では、日常生活や職場において必要とされる最低限の法的ことがらについて学習し、生活者として、また職業人として必要不可欠な法に関する知識を身につけることを目ざす。

卒業認定・学位授与の方針との関連

人間に対して社会的な側面から理解する。人間の健康を規定する要因である社会・環境を科学的に理解し、健康生活と社会との関係について理解するための基礎である法的知識を理解する。食の専門職としてのみならず、社会人として守るべき法令とその目的について理解する。

到達目標

１．法とは何か、また法令の基本構造、法令の読み方を理解する。
２．日常生活に関わりのある法令のうち、社会人として特に必要な具体的法令を理解する。
３．専門職として理解しておく必要のある具体的法令のうち基礎的なものを理解できるようにする。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	法を学ぶことの意義	私たちが生活している中で、法がどのようにかかわっているのか、具体的な場面を通して、理解していく。	予習90分： シラバスを読み、授業計画について把握する。 復習90分：ハンドアウト第1回に記載してある法令の条文を読んで、復習する。
第2回	法の種	「法」には、いくつかの種類がある。その種類とそれぞれの関係について学習し、それらが具体的な場面において、ど	予習90分： ハンドアウト第2回を読む。 復習90分：ハンドアウト第2回に

	類(1)	のような役割を果たしていくのか、理解する。	記載してある法令の条文を読んで、復習する。
第3回	条文のしくみ(1)	法令は、条文という形で、一般的な文章とは異なる形式で存在している。医療保健関係の具体的な法令を利用して、条文の法令全体の構造、規定の意味等について理解する。また、法令用語についても基本的なものについて理解する。	予習90分： ハンドアウト第3回を読む。 復習90分：ハンドアウト第3回に記載してある法令の条文を読んで、復習する。
第4回	法の種類(2)	「法」の具体的種類である「法律」「政令」「省令」「条例」がどのように形作られていくのかについて、具体的な法令を利用して理解する。 〈アクティブ・ラーニング〉 グループごとに法律・政令・省令の関わりについての具体例を発表する。	予習90分： ハンドアウト第4回を読む。グループごとに指定された具体的な法律・政令・省令の相互の関わりを調べる。 復習90分：ハンドアウト第4回に記載してある自分のグループが指定された以外の法令の条文を読んで、復習する。
第5回	条文のしくみ(2)	「法」の多くは、時間がたつと改正される。ここでは、法令の改正について学習する。改正の仕方はどのようなものであり、また改正後に条文がどのようになるのか、医療保健関係の具体的な法令を利用して、学習する。	予習90分： ハンドアウト第5回を読む。 復習90分：ハンドアウト第5回に記載してある法令の条文を読んで、復習する。練習問題をやっておく。
第6回	健康・栄養と法	健康・栄養に関しては、職業として携わる人に関する「栄養士法」、市民の健康を守るための「健康増進法」「食品衛生法」、その他の「健康・栄養に関わる法」がある。それらの現状について概観する。	予習60分： ハンドアウト第6回を読む。 復習120分：ハンドアウト第6回に記載してある法令の条文を読んで、復習する。中間確認テストに向けて、これまでのハンドアウトを見直す。
第7回	不法行為と法	他人の権利を侵害した場合には、民事上の責任が発生する。不法行為に関する基礎を学習した上で、特に健康や栄養に関わる人による職場での事故により、どのような責任を負うか、具体的に検討する。 〈アクティブ・ラーニング〉 健康・栄養に関する判例のうちいくつかを取り上げ、議論する。	予習60分： ハンドアウト第7回を読む。 復習120分：ハンドアウト第7回に記載してある法令の条文を読んで、復習する。授業で取り上げた判例を読んで、復習する。中間確認テストに向けて、これまでのハンドアウトを見直す。
第8回	保健行政と法	保健については、さまざまな行政上の規制が存在している。そうした行政上の規制をいくつか取り上げ、免許制度との関係で、検討する。 中間確認テスト(30分間)を実施する。	予習90分： ハンドアウト第8回を読む。 復習90分：ハンドアウト第8回に記載してある法令の条文を読んで、復習する。
第9回	家族と法(1)	家族について規定している法を学習する。具体的には、結婚・離婚に関する法規定について理解する	予習90分： ハンドアウト第9回を読む。 復習90分：ハンドアウト第9回に記載してある法令の条文を読んで、復習する。
第10回	家族と法(2)	前回につづき、家族について規定している法を学習する。具体的には、親子関係、相続に関する法規定について理解する。	予習120分： ハンドアウト第10回を読む。レポート(第12回提出)を作成する。 復習60分：ハンドアウト第10回に記載してある法令の条文を読んで、復習する。返却されたテ

			ストの誤った部分について、正解を検討しておく。
第11回	労働と法(1)	労働者の権利を中心に学習する。労働条件の最低基準を定めた労働基準法を中心に、労働者保護のための諸法令について、理解する。	予習120分： ハンドアウト第11回を読む。レポート(第12回提出)を作成する。 復習60分：ハンドアウト第11回に記載してある法令の条文を読んで、復習する。
第12回	労働と法(2)	現代の労働環境において、大きな問題となっている「過労死」、「ブラックバイト」などへの労働者の対処法を学習する。 授業終了時にレポートを提出する。課題は「医療保健福祉に関するニュースもしくは課題を法学的に検討する。」Ａ４用紙１枚以上を条件とする。	予習120分： ハンドアウト第12回を読む。レポート(第12回提出)を作成する。 復習60分：ハンドアウト第12回に記載してある法令の条文を読んで、復習する。
第13回	情報化社会と法(1)	情報化の進展、特にインターネットを様々な分野で活用することによって、利便性が向上する一方で、さまざまなトラブルが発生している。インターネットをもぐる法令、法的トラブルの危険性について、学習する。	予習60分： ハンドアウト第13回を読む。 復習120分：ハンドアウト第13回に記載してある法令の条文を読んで、復習する。最終確認テストに向けて、これまでのハンドアウトを見直す。
第14回	情報化社会と法(2)	ＡＩがさまざまな分野で活用されはじめている。爆発的な普及によって、多数のトラブルの発生が予想されている。医療分野をはじめとしたＡＩの普及状況と予想される問題や法的規制について、検討する。	予習60分： ハンドアウト第14回を読む。 復習120分：ハンドアウト第14回に記載してある法令の条文を読んで、復習する。最終確認テストに向けて、これまでのハンドアウトを見直す。
第15回	全体のまとめ	これまでの学習について、健康・栄養をめぐる法という観点から、再検討する。 最終確認テスト(30分間)を実施する。	予習90分： ハンドアウト8～14を確認する。 復習90分：最終確認テストの解答・解説を確認し、間違ったところを解説にチェックし、ハンドアウトで復習する。

教科書

使用しない

参考書

『ポケット六法』山下友信・山口厚 編集代表 （有斐閣）

成績評価の方法・基準

平常点（授業への参加度・学習態度・授業内課題等）［30%］、レポート［30%］、確認テスト［40%］を総合して評価。総合点60点以上で単位認定する。

課題等に対するフィードバックの方法

第8回に実施する中間確認テストの解答例と解説は、第11回の授業時に行う予定である。採点した答案は、第10回の授業時に返却する予定である。第12回に提出を義務づけたレポートについては、採点および講評記載の後、第15回の授業時に返却する予定である。第15回の最終確認テストについては、解答例及び解説を「桐生大学学生共有フォルダー」の「栄養学科1年・法学」のフォルダーにPDFファイルで掲載する。採点した答案については、希望する者には返却する。11号館３階研究室11に取りに来ること。

履修のポイント
具体的な医療・福祉関係法令を学習する前提となることがらに関する授業なので、よく理解しておくこと。「公衆衛生学」に関連する知識についても学習する。
オフィス・アワー
月・水・金曜日，11時～15時（授業時間以外），11号館３階研究室11

講義コード	20050001
講義名	日本国憲法
(副題)	【教職必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	２時限
区分	基礎科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UM-C020
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 松原 直樹	指定なし

授業の概要と教育目標

社会保障費の増大と消費税増税、地方自治体の消滅可能性、働き方改革など、国の課題は山積している。そんな中、選挙権年齢が18歳以上に引き下げられ、大学生全員が選挙権を有することになってから、すでに何回かの選挙が行われている。本講座においては、私たちの生活や安全に大きな関わりをもつ国の基本法である日本国憲法を素材に、私たちの生活を考えていく予定である。
憲法の基本原理とその根底に流れる思想を学習した後、われわれの生活に深く関わりのある現代的なトピックを取り上げ、できる限りくらしとの関わりに留意しながら、主権者としての判断能力を身につけられるよう、学習していく。

卒業認定・学位授与の方針との関連

憲法を素材として、人間に対して、社会的諸側面から理解できるように学修する。憲法に関わる事がらを学修し、人間の健康を規定する要因である社会を科学的に理解できるようにする。

到達目標

１．憲法とは何か、また法令の基本構造、および法令における憲法の位置づけを理解する。
２．憲法に規定されている基本的人権は何か、またその具体的内容について理解する。
３．国の政治のしくみについて、憲法はどう規定しているかを理解する。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	憲法の意味	現在、日本国憲法に関してどのような問題が生じているのかについて学習した後、憲法とはどのような法かを学習する。立憲主義についても学習する。	予習90分： シラバスを読み、授業計画について把握する。 復習90分：ハンドアウト第1回に記載してある内容を読んで、復習する。
第2回	日本国憲	日本国憲法の制定過程について、第二次大戦後からＧＨＱによる憲法案の提示、国会での審議等について、ＶＴＲに沿って学習する。	予習90分： ハンドアウト第2回を読む。

	法の誕生	〈アクティブ・ラーニング〉 憲法の制定過程についてのドキュメンタリーVTRに対するコメントを発表する。	復習90分：ハンドアウト第2回に記載してある内容を読んで、復習する。
第3回	日本国憲法の基本原理(1)	日本国憲法の基本原理である「国民主権」について、規定と意味について学習する。さらに、「基本的人権の尊重」に関する規定とその概要について学習する。	予習90分： ハンドアウト第3回を読む。 復習90分：ハンドアウト第3回に記載してある憲法や関連法令の条文を読んで、復習する。
第4回	日本国憲法の基本原理(2)	日本国憲法の基本原理である「平和主義」について、規定内容を学習し、さらに日本の防衛政策の現状、安保関連法制との関係について、学習する。	予習90分： ハンドアウト第4回を読む。 復習90分：ハンドアウト第4回に記載してある憲法や関連法令の条文、その他の内容を読んで、復習する。
第5回	法の下の平等	憲法が保障している法の下の平等の意義・内容について学習する。現実に生じている平等をめぐる問題について、判例を素材として検討する。	予習90分： ハンドアウト第5回を読む。 復習90分：ハンドアウト第5回に記載してある憲法や関連法令の条文、判例、その他の内容を読んで、復習する。
第6回	精神的自由(1)	信教の自由を中心に学習する。なぜ認められる必要があるのか、その歴史的沿革、内容について学習する。また、政教分離原則について学習し、信教の自由に関する判例と政教分離に関する判例を素材として、学習する。	予習60分： ハンドアウト第6回を読む。 復習120分：ハンドアウト第6回に記載してある憲法や関連法令の条文、その他の内容を読んで、復習する。授業で取り上げた判例を読んで、復習する。中間確認テストに向けて、これまでのハンドアウトを見直す。
第7回	精神的自由(2)	表現の自由の意義とその内容について、学習する。また、プライバシー権との関係についても学習する。さらに、表現の自由・プライバシー権をめぐる判例を検討する。 〈アクティブ・ラーニング〉 表現の自由とプライバシー権に関する判例のうちいくつかを取り上げ、議論する。	予習60分： ハンドアウト第7回を読む。 復習120分：ハンドアウト第7回に記載してある憲法や関連法令の条文、その他の内容を読んで、復習する。授業で取り上げた判例を読んで、議論について、復習する。中間確認テストに向けて、これまでのハンドアウトを見直す。
第8回	法定手続きの保障人身の自由	憲法が保障する「人身の自由」について学習した後、刑法との関係について理解する。また、犯罪と刑罰制度の概要を学習し、特に死刑制度について、その現状とそれに対する議論を検討する。 中間確認テスト(30分間)を実施する。	予習90分： ハンドアウト第8回を読む。 復習90分：ハンドアウト第8回に記載してある憲法や関連法令の条文、その他の内容を読んで、復習する。授業で取り上げた判例を読んで、復習する。
第9回	社会権(1)	社会権と区分される人権について学習した後、「生存権」についての規定について学習した後、医療保健福祉行政にどのように関わっているかを中心に、その概要を学習する。	予習90分： ハンドアウト第9回を読む。 復習90分：ハンドアウト第9回に記載してある憲法や関連法令の条文、その他の内容を読んで、復習する。授業で取り上げた判例を読んで、復習する。
			予習120分： ハンドアウト第10回を読

第10回	社会権(2)	労働者に関わる人権と「教育を受ける権利」について学習し、理解する。	む。レポート 第　回提出 を作成する。 復習60分：ハンドアウト第10回に記載してある憲法や関連法令の条文、その他の内容を読んで、復習する。授業で取り上げた判例を読んで、復習する。返却されたテストの誤った部分について、正解を検討しておく。
第11回	立法	国会のさまざまの権能、国権における地位について概観する。衆議院と参議院の関係、国会の意思決定過程、具体的な役割について学習する。さらに、選挙制度についても、学習する。	予習120分： ハンドアウト第11回を読む。レポート(第12回提出)を作成する。 復習60分：ハンドアウト第11回に記載してある憲法や関連法令の条文、その他の内容を読んで、復習する。授業で取り上げた判例を読んで、復習する。
第12回	行政	内閣の地位・役割について、学習する。「議院内閣制」の内容とメリット、内閣総理大臣の選出方法、国務大臣の任免、さらに内閣の具体的な役割、意思決定の方法等について、主に学習する。 ※授業終了時にレポートを提出する。課題は「憲法に関するニュースもしくは課題を法学的に検討する。」Ａ４用紙１枚以上を条件とする。	予習120分： ハンドアウト第12回を読む。レポート(第12回提出)を作成する。 復習60分：ハンドアウト第12回に記載してある憲法や関連法令の条文、その他の内容を読んで、復習する。授業で取り上げた判例を読んで、復習する。
第13回	司法	裁判のしくみについて、概要を学習した後、刑事裁判で取り入れられている裁判員制度について、ＶＴＲに沿って学習する。 〈アクティブ・ラーニング〉 裁判員裁判に関するVTRに対するコメントを発表する。	予習60分： ハンドアウト第13回を読む。 復習120分：ハンドアウト第13回に記載してある憲法や関連法令の条文、その他の内容を読んで、復習する。授業で取り上げた判例を読んで、復習する。発表されたコメントについて、自分の意見と対照させる。最終確認テストに向けて、これまでのハンドアウトを見直す。
第14回	天皇・地方自治・憲法改正	憲法が規定する「象徴天皇」の地位・権能、またそれを規定している皇室典範について、学習する。また、地方自治に関する規定内容について学習し、さらに、憲法改正の手続、憲法改正に関する各政党・学界・国民の考え方について理解する。	予習60分： ハンドアウト第14回を読む。 ハンドアウト8～14を確認する。 復習120分：ハンドアウト第14回に記載してある憲法や関連法令の条文、その他の内容を読んで、復習する。授業で取り上げた判例を読んで、復習する。最終確認テストに向けて、これまでのハンドアウトを見直す。
第15回	全体のまとめ	これまでの学習について、全体をまとめ、憲法を取り巻く状況とその課題について検討する。 最終確認テスト(30分間)を実施する。	予習90分： ハンドアウト8～14を確認する。 復習90分：最終確認テストの解答・解説を確認し、間違ったところを解説にチェックし、ハンドアウトで復習する。

教科書

『目で見る憲法』初宿正典・大沢秀介・他 編著（有斐閣）

参考書

『ポケット六法』山下友信・山口厚 編集代表 （有斐閣）

成績評価の方法・基準

平常点（授業への参加度・学習態度・授業内課題等）［30％］、レポート［30％］、確認テスト［40％］を総合して評価。総合点60点以上で単位認定する。

課題等に対する
フィードバックの方法

第8回に実施する中間確認テストの解答例と解説は、第11回の授業時に行う予定である。採点した答案は、第10回の授業時に返却する予定である。第12回に提出を義務づけたレポートについては、採点および講評記載の後、第15回の授業時に返却する予定である。第15回の最終確認テストについては、解答例及び解説を「桐生大学学生共有フォルダー」の「栄養学科1年・憲法」のフォルダーにPDFファイルで掲載する。採点した答案については、希望する者には返却する。11号館３階研究室11に取りに来ること。

履修のポイント

教員免許を取得しようとする学生は、必ず履修すること。

オフィス・アワー

月・水・金曜日，11時～15時（授業時間以外），11号館３階研究室11

講義コード	20060001
講義名	国際文化論
(副題)	
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	３時限
区分	学部共通科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UM-C080
学年	4学年

担当教員

職種	氏名	所属
教 員	◎ 篠原 貴子	指定なし

授業の概要と教育目標

グローバル化は、政治、経済、文化、歴史を含め、人々を取り巻く社会を大きく変容させた。本講義では、近代以降を中心として、社会学の視点から歴史や文化について学ぶ。
本講義の目標は、幅広い視野に立ち、歴史や文化あるいは現代の問題を理解することである。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマ・ポリシーとの関連として、社会・環境・コミュニケーションなどの諸側面から人間に対する理解を深めるため、他者への理解として歴史や文化を学び、幅広い知識を身に付ける。

到達目標

1.世界の歴史や文化への興味・関心を高め、国際的な課題に対する認識を深める。
2.多様な文化の成立過程を理解し、文化や歴史を説明できる。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	イントロダクション	国際文化論の課題	予習90分：この分野への知識や関心を高める。 復習90分：配布資料を見直す。
第2回	近代と国家Ⅰ	近代社会の誕生と成立	予習90分：事前学習をする。 復習90分：配布資料を見直す。
第3回	近代と国家Ⅱ	近代人の精神とＳＦの世界	予習90分：事前学習をする。 復習90分：配布資料を見直す。
			予習90分：事前学習をする。

第4回	四大文明	文明の探求と世紀末の発見	復習90分：配布資料を見直す。
第5回	観光の近代Ⅰ	欧米のツーリズム 【アクティブ・ラーニング】 19世紀末の旅に関する作品を鑑賞し、コメントを書き、意見を述べる。	予習90分：事前学習をする。 復習90分：配布資料を見直す。
第6回	観光の近代Ⅱ	日本のツーリズム	予習90分：事前学習をする。 復習90分：配布資料を見直す。
第7回	芸術と文化	オリエンタリズム	予習90分：事前学習をする。 復習90分：配布資料を見直す。
第8回	日本の文化	日本イメージの形成 【アクティブ・ラーニング】 事例を紹介する。	予習90分：事前学習をする。 復習90分：配布資料を見直す。
第9回	移民の世紀Ⅰ	アメリカ移民の歴史	予習90分：事前学習をする。 復習90分：配布資料を見直す。
第10回	移民の世紀Ⅱ	移民と文化	予習90分：事前学習をする。 復習90分：配布資料を見直す。
第11回	歴史と文学	ポストコロニアリズムと文学	予習90分：事前学習をする。 復習90分：配布資料を見直す。
第12回	現代の課題	女性と文化	予習90分：事前学習をする。 復習90分：配布資料を見直す。
第13回	歴史と記憶Ⅰ	戦争の世紀と人々の語り	予習90分：事前学習をする。 復習90分：配布資料を見直す。
第14回	歴史と記憶Ⅱ	歴史の見方	予習90分：事前学習をする。 復習90分：配布資料を見直す。
第15回	まとめ	他者への理解	予習90分：事前学習をする。 復習90分：配布資料を見直す。

教科書

必要な資料は随時配布

参考書

授業時に随時紹介

成績評価の方法・基準
単位認定60点以上。授業態度や試験結果で総合評価する。
課題等に対する フィードバックの方法
リアクションペーパーを課す場合がある。重要点の確認や疑問点を解説し、学習内容の理解に役立てる。
履修のポイント
授業内容に関して、意欲的に学習する。
オフィス・アワー
授業日の授業開始前もしくは終了後に教室等で相談に応じます。

講義コード	20070001
講義名	家族関係論
(副題)	
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	１時限
区分	学部共通科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UM-C040
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教 員	◎ 篠原 貴子	指定なし

授業の概要と教育目標

本講義は、近代以降の家族をめぐる問題に関して、社会学や歴史学をはじめ多様な学問領域の視点を踏まえ、教育やジェンダーの視点を用いて歴史的に読み解くことを前提とする。また、現代の家族が抱える問題に着目し、家族を支援する諸制度も扱う。
本講義の目標は、家族の概念や歴史を学び、基本的な知識を身に付け、柔軟な思考力を養うことである。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマ・ポリシーの関連として、社会・環境・コミュニケーションなどの諸側面から人間に対する理解を深めることを目指し、家族を社会学をはじめとする複数の学問の視点から学ぶことで幅広い知識を身に付ける。

到達目標

1.家族の概念や歴史についての基本的な知識や用語を用いて説明できる。
2.家族が抱える現状や課題を踏まえて、現代の家族の位置づけを理解できる。
3.「ジェンダー」の視点から家族を考察することができる。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	イントロダクション	家族への着目	予習90分：この分野への知識や関心を高める学習をする。 復習90分：配布資料を見直す。
第2回	家族の歴史	近代社会と家族	予習90分：事前学習をする。 復習90分：配布資料を見直す。
第3回	家族研究の展開	家族研究の主題と方法	予習90分：事前学習をする。 復習90分：配布資料を見直す。
		現代のライフコース	

第4回	ライフコース研究	【アクティブ・ラーニング】 ライフコースについてのプリントを書く。	予習90分：事前学習をする。 復習90分：配布資料を見直す。
第5回	家族と制度	育児支援政策の展開	予習90分：事前学習をする。 復習90分：配布資料を見直す。
第6回	家族イメージの変容	メディアにおける家族・女性像 【アクティブ・ラーニング】 作品を鑑賞し、その時代の家族のあり方や女性の生き方の違いをまとめる。	予習90分：事前学習をする。 復習90分：配布資料を見直す。
第7回	結婚観の変容	恋愛結婚と未婚化の時代	予習90分：事前学習をする。 復習90分：配布資料を見直す。
第8回	生命の誕生と家族	子どもの誕生と家族の役割	予習90分：事前学習をする。 復習90分：配布資料を見直す。
第9回	近代家族論Ⅰ	欧米の近代家族	予習90分：事前学習をする。 復習90分：配布資料を見直す。
第10回	近代家族論Ⅱ	近代家族の大衆化と女性の社会進出	予習90分：事前学習をする。 復習90分：配布資料を見直す。
第11回	近代家族論Ⅲ	日本の近代家族と人口政策 【アクティブ・ラーニング】 日本の人口政策について考え、意見を述べる。	予習90分：事前学習をする。 復習90分：配布資料を見直す。
第12回	家族の形成	セクシュアリティ	予習90分：事前学習をする。 復習90分：配布資料を見直す。
第13回	現代の家族Ⅰ	家族が抱える子の問題（不登校、ひきこもり、児童虐待など）	予習90分：事前学習をする。 復習90分：配布資料を見直す。
第14回	現代の家族Ⅱ	高齢化と家族の課題	予習90分：事前学習をする。 復習90分：配布資料を見直す。
第15回	まとめ	家族の未来	予習90分：事前学習をする。 復習90分：配布資料を見直す。

教科書

必要な資料は随時配布

参考書

授業時に随時紹介

成績評価の方法・基準

単位認定 60 点以上。授業態度や試験結果で総合評価する。

課題等に対する
フィードバックの方法

リアクションペーパーを課す場合がある。重要点の確認や疑問点を解説し、学習内容の理解に役立てる。

履修のポイント

授業内容に関して、意欲的に学習する。
オフィス・アワー
授業日の、授業開始前もしくは終了後に教室等で相談に応じます。

講義コード	20080001
講義名	スポーツ科学Ⅰ
(副題)	【教職必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	前期
講義区分	実験・実習
基準単位数	1
代表曜日	木曜日
代表時限	４時限
区分	学部共通科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UM-C021
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 高見 達也	指定なし

授業の概要と教育目標

身体活動の必要性を理解し、身体の健全な維持などの合理的な方法を学ぶ。すなわち、スポーツを通しそれぞれの身体機能の維持あるいは向上を図るための基礎知識を知る。レクリエーションは精神的なストレスの解消ばかりでなく身体的な健康の維持にも重要である。レクリエーション理論について幅広く学ぶと共に、生涯に渡りレクリエーションとしてのスポーツを実践していく能力を高める。さらに実際のレクリエーションの計画・実施を行い、その効果の判定方法などについて学ぶ。

卒業認定・学位授与の方針との関連

自己身体運動の理解と分析を行い、身体の健全な維持などの合理的な方法を学び、
習得を目指す。

到達目標

レクリエーションの概念の理解
身体機能の維持・向上を図るための方法論の習得

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	オリエンテーション	授業概要、諸注意、体力と身体機能について	運動着(ジャージ・スウェット等)、体育館シューズを用意してください。
第2回	メディカルチェック	スポーツの意識調査、スポーツ経験調査、ストレッチ	運動着(ジャージ・スウェット等)、体育館シューズを用意してください。 【復習】 ストレッチを実施し、注意点を振り返る
第3回	コミュニケーション･ワーク	①ホスピタリティ･トレーニング ②アイスブレーキング	運動着(ジャージ・スウェット等)、体育館シューズを用意してください。

第4回	球技	レクリエーションバレーボールの実践(基礎練習①) 【アクティブラーニング】 バレーボールの基本であるオーバーハンドパスについて実践し、技術の特性を理解する	運動着(ジャージ・スウェット等)、体育館シューズを用意してください。 【予習】 バレーボールのルールについて調べる
第5回	球技	レクリエーションバレーボールの実践(基礎練習②) 【アクティブラーニング】 バレーボールの基本であるアンダーハンドパスについて実践し、技術の特性を理解する	運動着(ジャージ・スウェット等)、体育館シューズを用意してください。 【予習】 バレーボールの反則について調べる
第6回	球技	レクリエーションバレーボールの実践(基礎練習③) 【アクティブラーニング】 バレーボールの基本であるサーブの種類を体験し、自分に合っているものを見つける	運動着(ジャージ・スウェット等)、体育館シューズを用意してください。
第7回	球技	レクリエーションバレーボールの実践(基礎練習④)	運動着(ジャージ・スウェット等)、体育館シューズを用意してください。
第8回	球技	レクリエーションバレーボールの実践(戦術①)	運動着(ジャージ・スウェット等)、体育館シューズを用意してください。
第9回	球技	レクリエーションバレーボールの実践(戦術②)	運動着(ジャージ・スウェット等)、体育館シューズを用意してください。
第10回	球技	レクリエーションバレーボールの実践(ゲーム①)	運動着(ジャージ・スウェット等)、体育館シューズを用意してください。
第11回	球技	レクリエーションバレーボールの実践(ゲーム②)	運動着(ジャージ・スウェット等)、体育館シューズを用意してください。
第12回	球技	レクリエーションバレーボールの実践(ゲーム③)	運動着(ジャージ・スウェット等)、体育館シューズを用意してください。
第13回	球技	レクリエーションバレーボールの実践(ゲーム④)	運動着(ジャージ・スウェット等)、体育館シューズを用意してください。
第14回	レクリエーション	レクリエーションスポーツの実践	運動着(ジャージ・スウェット等)、体育館シューズを用意してください。
第15回	レクリエーション	指導方法、レクリエーションプログラム作成、実践	運動着(ジャージ・スウェット等)、体育館シューズを用意してください。

教科書

教科書は使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

参考書

特になし

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上 【実技試験60%、授業内確認テスト20%、授業内の安全性（ルール等の厳守）20%】
課題等に対する フィードバックの方法
レクリエーションの意義について事前に学習すること。 バレーボールの基本的なルールや技能について学習をすること。 授業中に全体としての講評をコメントする
履修のポイント
授業への積極的な取り組みを期待します。
オフィス・アワー
授業日の授業開始もしくは授業終了後に体育館等で相談に応じます。

講義コード	20090001
講義名	スポーツ科学Ⅱ
(副題)	【教職必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	前期
講義区分	実験・実習
基準単位数	1
代表曜日	金曜日
代表時限	５時限
区分	学部共通科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UM-C030
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 高見 達也	指定なし

授業の概要と教育目標

運動は健康で生き生きと過ごすために欠かせない大切な要素の一つである。生涯を通じて運動に親しみ実践していけるかどうかは青年期の取り組み如何による。基礎的な体力づくりのためのトレーニング方法の理論を学び、また運動実践能力を高めていく。更に、スポーツ活動を通じて心身を鍛え、スポーツコミュニケーションの追及、スポーツ実践による自己確認、技術の習熟による興味の拡大、スポーツ文化の理解を深める。

卒業認定・学位授与の方針との関連

自己身体運動の理解と分析を行い、生涯を通じて運動を実践できる基盤となる学修を行う。

到達目標

基本トレーニングの方法論の習得。
グループワークにより、練習計画をたてるとともに、より高い技術の習得をめざす。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	オリエンテーション	授業概要、諸注意、運動の原理・原則について	運動着(ジャージ・スウェット等)、体育館シューズを用意してください。
第2回	総合運動能力測定	運動能力測定の方法と実施	運動着(ジャージ・スウェット等)、体育館シューズを用意してください。
第3回	総合運動能力測定	運動能力測定の実施 測定結果発表	運動着(ジャージ・スウェット等)、体育館シューズを用意してください。
第4回	運動処方・トレーニング方法	運動能力測定結果に基づき、運動の種類･強さ･持続時間･頻度を示し、運動時の注意点を明確にする。	運動着(ジャージ・スウェット等)、体育館シューズを用意してください。 【復習】 自分の運動能力の課題を振

			り返る
第5回	球技Ⅰ	バドミントンの実践(基礎練習①) 【アクティブラーニング】 ストロークの種類を理解し、特徴や特性を体感する	運動着(ジャージ・スウェット等)、体育館シューズを用意してください。 【予習】 バトミントンのルールや反則について調べる
第6回	球技Ⅰ	バドミントンの実践(基礎練習②)	運動着(ジャージ・スウェット等)、体育館シューズを用意してください。
第7回	球技Ⅰ	バドミントンの実践(ゲーム①)	運動着(ジャージ・スウェット等)、体育館シューズを用意してください。
第8回	球技Ⅰ	バドミントンの実践(ゲーム②)	運動着(ジャージ・スウェット等)、体育館シューズを用意してください。
第9回	球技Ⅰ	バドミントンの実践(ゲーム③)	運動着(ジャージ・スウェット等)、体育館シューズを用意してください。
第10回	球技Ⅱ	バスケットボールの実践(基礎練習) 【アクティブラーニング】 パスの種類を理解し、特徴や特性を体感する	運動着(ジャージ・スウェット等)、体育館シューズを用意してください。 【予習】 バスケットボールのルールや反則について調べる
第11回	球技Ⅱ	バスケットボールの実践(基礎練習・ゲーム①) 【アクティブラーニング】 シュートの種類を理解し、特徴や特性を体感する	運動着(ジャージ・スウェット等)、体育館シューズを用意してください。
第12回	球技Ⅱ	バスケットボールの実践(ゲーム②)	運動着(ジャージ・スウェット等)、体育館シューズを用意してください。
第13回	球技Ⅱ	バスケットボールの実践(ゲーム③)	運動着(ジャージ・スウェット等)、体育館シューズを用意してください。
第14回	球技Ⅱ	バスケットボールの実践(ゲーム④)	運動着(ジャージ・スウェット等)、体育館シューズを用意してください。
第15回	有酸素トレーニングの実践	上肢・下肢のトレーニング(エアロビクス、サーキットトレーニング)	運動着(ジャージ・スウェット等)、体育館シューズを用意してください。

教科書

教科書は使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

参考書

特に無し

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上 【実技試験60%、授業内確認テスト20%、授業内の安全性（ルール等の厳守）20%】

課題等に対する

フィードバックの方法
基本的なルールについて学習をし、体力・技術の弱点を克服するように努めること。 授業中に全体としての講評をコメントする
履修のポイント
授業への積極的な取り組みを期待します。
オフィス・アワー
授業日の授業開始もしくは授業終了後に体育館等で相談に応じます。

講義コード	20100001
講義名	環境論
(副題)	
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期（重複②）
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	３時限
区分	学部共通科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UM-C081
学年	4学年

担当教員

職種	氏名	所属
教 員	◎ 園田 陽一	指定なし

授業の概要と教育目標

環境問題は社会、経済、健康、自然環境への影響は多岐にわたります。過去の社会は、環境保護、自然保護のように環境を人間活動から保護することが目的でした。しかし、これからの社会は、環境共生型社会であり、持続可能な社会が求められています。私たちは、地球の生物多様性を基盤とし、それらを消費して生きています。生物多様性は、地球の気象調節から国土や都市の基盤であり、農林水産業、観光業など自然を利用するものだけでなく、多くの社会経済の基盤となる重要な要素です。本授業では、身近な環境問題を生物多様性の観点から概観し、持続可能な地域社会の在り方について講義します。

卒業認定・学位授与の方針との関連

私たちの生活基盤となる生物多様性と環境問題を理解し、社会に出た際に社会的責任（CSR）などの活動への参画や協働について自ら考える力を身につける。

到達目標

環境観が養われているかどうかを論述で問う。産業活動や人間活動による環境の改変が生物多様性にどのような影響を与えるのかを判断できる知識を持っているかどうかを評価し，その内容が大学生としての素養を備えているかどうかを判断材料とする。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	ガイダンスと環境問題	本授業の目的や到達目標と成績評価の方法についてのガイダンスと環境問題について概説します。	アンケートを行います。
第2回	生物多様性と持続可能な利用	なぜ、生物多様性なのか。生態系サービスとなぜ持続可能な利用が必要なのかについて理解する。	
第3回	生態系サービスとは	地球と自然環境、生態系の構成要素とその役割を理解します。	

第4回	生物多様性への劣化	人間活動と生物多様性の危機、生態系サービスの劣化、公害問題等について理解します。	
第5回	都市化と環境問題	グローバルな人口増加と都市の集中がもたらす環境問題を理解します。	
第6回	地球温暖化と都市のヒートアイランド現象	地球温暖化とヒートアイランド現象の違いについて概説し、その影響がもたらす気候変化のメカニズムを理解します。	
第7回	グローバルな地球環境の変化	オゾン層の破壊、砂漠化、酸性雨、森林減少などグローバルな地球環境の変化について理解します。	
第8回	環境をめぐる世界的な動き	地球環境問題を解決するための世界的な動向、日本の取り組みについて理解します。	レポート課題を出します。
第9回	わが国の環境に関わる法律	日本の環境施策について理解します。	
第10回	環境アセスメントとミティゲーション	開発行為に対して、公害や自然環境の破壊を未然に防ぐ法的措置とその代替技術について理解する。	
第11回	カーボンオフセットと生物多様性オフセット	二酸化炭素排出量削減の取り組みや同様のオフセット制度の仕組みを理解する。	
第12回	生物多様性地域戦略とは	わが国の生物多様性基本法、生物多様性国家戦略に基づいた生物多様性地域戦略について理解します。	
第13回	環境への関心を高める取り組み	環境共生型まちづくりや、エコツーリズムなど環境へ関心をもつための仕組みづくりや取り組みについて紹介します。	
第14回	環境教育とESD	環境教育や持続可能な開発のための教育についてふれ、次世代の子供たちの教育について考えます。	
第15回	企業の社会的責任と自然資本	現代企業の社会的責任としての自然環境保全から自然資本としての積極的な活用へ、企業の取り組みについて理解します。	

教科書

東京商工会議所編著 ECO検定（環境社会検定試験）公式テキスト 日本能率マネジメントセンター

参考書

必要なとき講義中に提示する

成績評価の方法・基準

単位認定：60点以上
レポートの提出(20%)、期末試験(80%)をもとに総合的に評価する。

課題等に対する
フィードバックの方法

環境問題に関するニュースやウェブ、新聞記事等に目を通しておくとよい。

履修のポイント

レポートの提出を求めることがある。

オフィス・アワー

授業日の、授業開始前もしくは終了後に教室等で相談に応じます。

講義コード	20110001
講義名	人間発達学
(副題)	
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	２時限
区分	学部共通科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UM-C004
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教 員	◎ 篠原 貴子	指定なし

授業の概要と教育目標

本講義は、人間の発達過程に関して、社会学や心理学の視点から検討する。また、社会状況や社会的役割の変化によって生じる個人の諸問題を具体的に取り上げ、誕生から人生の終わりにいたるまでの人間の成長のあり方を考える。
本講義の目標は、それぞれの発達段階における課題を考察するとともに、現代人の抱える問題を理解することである。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマ・ポリシーとの関連として、社会・環境・コミュニケーションなどの諸側面から人間についての理解を深めるため、社会・心理的側面から人間発達の基本的知識を身に付ける。また、人間のライフステージ・ライフサイクルに関する知識は、他者への理解を助け、実践の場でも役立つことになる。

到達目標

1.人間の発達に関する知識を学び、人の一生を社会学及び心理学の視点から説明できる。
2.人生のあり方を学び、自己や他者への理解と関心を深める。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	イントロダクション	発達課題	予習90分：この分野への知識や関心を高める。 復習90分：配布資料を見直す。
第2回	発達の諸相 I	発達概念の検討	予習90分：事前学習をする。 復習90分：配布資料を見直す。
第3回	発達の諸相 II	発達段階	予習90分：事前学習をする。 復習90分：配布資料を見直

			す。
第4回	発達の諸相Ⅲ	生涯発達	予習90分：事前学習をする。 復習90分：配布資料を見直す。
第5回	青年期の課題	現代社会と若者	予習90分：事前学習をする。 復習90分：配布資料を見直す。
第6回	教育の病理	非行、いじめ、学級崩壊	予習90分：事前学習をする。 復習90分：配布資料を見直す。
第7回	家庭の病理	引きこもり、不登校	予習90分：事前学習をする。 復習90分：配布資料を見直す。
第8回	発達と教育	学校の社会化機能	予習90分：事前学習をする。 復習90分：配布資料を見直す。
第9回	成人期の課題Ⅰ	就労と職業	予習90分：事前学習をする。 復習90分：配布資料を見直す。
第10回	成人期の課題Ⅱ	家族と役割	予習90分：事前学習をする。 復習90分：配布資料を見直す。
第11回	個別の課題Ⅰ	女性のキャリア形成	予習90分：事前学習をする。 復習90分：配布資料を見直す。
第12回	個別の課題Ⅱ	中高年男性の抱える問題 【アクティブ・ラーニング】 作品を鑑賞し、コメントを書く。	予習90分：事前学習をする。 復習90分：配布資料を見直す。
第13回	老年期の課題	老いと社会参加	予習90分：事前学習をする。 復習90分：配布資料を見直す。
第14回	道徳の発達課題	道徳性の発達 【アクティブ・ラーニング】 個人で課題に取り組み、グループで話し合う。	予習90分：事前学習をする。 復習90分：配布資料を見直す。
第15回	まとめ	発達と自己	予習90分：事前学習をする。 復習90分：配布資料を見直す。

教科書
必要な資料は随時配布

参考書
授業時に随時紹介
成績評価の方法・基準
単位認定60点以上。授業態度や試験結果で総合評価する。
課題等に対する フィードバックの方法
リアクションペーパーを課す場合がある。重要点の確認や疑問点を解説し、学習内容の理解に役立てる。
履修のポイント
授業内容に関して、意欲的に学習する。また、自分自身の成長と関連づけて考える。
オフィス・アワー
授業日の、授業開始前もしくは終了後に教室等で相談に応じます。

講義コード	20120001
講義名	物理学
(副題)	
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	２時限
区分	学部共通科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UM-C005
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 椛沢 龍次郎	指定なし

授業の概要と教育目標

看護や栄養の専門分野を学習するうえで、「物理学」は重要な役割をもっています。本授業では、物理学の基礎知識や数的処理の方法、さらには、物理学の原理・原則を理解し、医療技術や臨床現場での応用まで発展させて学習します。専門科目を理解するための導入・基礎科目として、高等学校で物理を履修していなくても、十分理解できる内容と構成になっています(高校の教科書の内容をベースにして、物理学の基礎をまじえながら応用・事例の解説をする）。看護教育や栄養教育に必要な物理学的内容を、医療・看護・食と健康の現場との関連性を考慮できるようになることを目標とします。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマ・ポリシーとの関連として、社会・環境・コミュニケーションなどの諸側面から人に対する理解を深めることを目指し、物理現象の基本や法則性の理解を通してその目的達成に資する知識を養う。栄養・健康を考える基礎となる人体のしくみを理解する基盤とうなる学修を行うことを目指すものとする。

到達目標

・物理学の基礎「原理・原則」を理解する。
・看護・栄養分野への物理学の応用を理解する。
・基礎から専門分野への発展・応用ができるようにする。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	物理学と人体の関わり	・物理量と単位系 ・物理量の測定 ・物理学と医療機器	予習90分：高校の教科書があれば見直す。復習90分：配布資料を見直す。
第2回	人体の力学	・人体のてこ ・垂直跳び ・歩行と振り子 ・医療機器と力学	予習90分：新聞や雑誌等で医療保健の問題を考える。復習90分：配布資料

			を見直す。
第3回	流体と人体①（静止流体）	・大気圧と静水圧 ・圧力計 ・弾性薄膜 ・表面張力 ・陰圧 ・肺胞と表面張力	予習90分：新聞や雑誌等で医療保健の問題を考える。 復習90分：配布資料を見直す。
第4回	流体と人体②（運動流体）	・心臓と血液の流れ ・血圧の変化 ・血圧測定	予習90分：新聞や雑誌等で医療保健の問題を考える。 復習90分：配布資料を見直す。
第5回	流体と人体③（流体と医療）	・気体を流す場合 ・液体を流す場合（点滴装置の原理）	予習90分：新聞や雑誌等で医療保健の問題を考える。 復習90分：配布資料を見直す。
第6回	熱と体温①（熱と温度）	・温度と温度計 ・熱と比熱 ・融解と蒸発 ・熱と仕事（エネルギー）	予習90分：新聞や雑誌等で医療保健の問題を考える。 復習90分：配布資料を見直す。
第7回	熱と体温②（体温調節）	・体温と温度調節 ・体内で発生する熱 ・身体からの放熱 ・生理的体温調節機構 ・物理的放熱機構	予習90分：新聞や雑誌等で医療保健の問題を考える。 復習90分：配布資料を見直す。
第8回	熱と体温③（体温測定）	・平衡温 ・水銀温度計 ・電子体温計 ・耳式体温計 ・サーモグラフィー	予習90分：新聞や雑誌等で医療保健の問題を考える。 復習90分：配布資料を見直す。
第9回	音と光と人体①（音波）	・音の性質 ・耳の構造 ・聴覚 ・音波の医療への応用	予習90分：新聞や雑誌等で医療保健の問題を考える。 復習90分：配布資料を見直す。
第10回	音と光と人体②（光波）	・反射と屈折 ・スペクトル ・レンズとメガネ ・光の医療への応用	予習90分：新聞や雑誌等で医療保健の問題を考える。 復習90分：配布資料を見直す。
第11回	電気と磁気の世界①（基礎知識）	・電流、電圧、電気抵抗 ・直流と交流 ・電力と熱	予習90分：新聞や雑誌等で医療保健の問題を考える。 復習90分：配布資料を見直す。
第12回	電気と磁気の世界②（生体と電気）	・生体における静電気現象 ・心臓の刺激伝導系 ・医療における主な応用機器	予習90分：新聞や雑誌等で医療保健の問題を考える。 復習90分：配布資料を見直す。
13	原子と放射線	・原子の構造と原子核 ・原子の定常状態	予習90分：新聞や雑誌等で医療保健の問題

第　回	①（基礎知識）	・放射線と性質	を考える。 復習90分：配布資料を見直す。
第14回	原子と放射線②（医学における放射線）	・放射線の基礎知識 ・放射線による障害とその防護	予習90分：新聞や雑誌等で医療保健の問題を考える。 復習90分：配布資料を見直す。
第15回	原子と放射線③（医療への応用機器）	・医療における放射線の応用 ・Ｘ線ＣＴ ・ＭＲＩ装置 ・ポジトロンＣＴ装置	予習90分：新聞や雑誌等で医療保健の問題を考える。 復習90分：配布資料を見直す。

教科書

特に使用しません。

参考書

適宜紹介します。

成績評価の方法・基準

単位認定６０点以上。
筆記試験80％ 授業への参加度20％ を総合的に評価します。

課題等に対するフィードバックの方法

授業内で課題を出した際には、その解説を行うので（フィードバック）、事後の学習内容の理解に役立てること。

履修のポイント

新聞や雑誌・書籍等を通して、科学技術と人間及び医療保健について考えるようにする。健康や医療に関する種々の事象・応用が、どのようなしくみで成り立っているのかを考えながら履修すること。

オフィス・アワー

水曜日、木曜日（11：00～16：00）

講義コード	20130001
講義名	生物学
(副題)	
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	２時限
区分	学部共通科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UM-C006
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 荒井 勝己	指定なし

授業の概要と教育目標

管理栄養士になるために学ぶ教科目の中で、生物学が関与する内容は非常に多い。高校時代に「生物」を履修してこなかった学生にも解りやすく、今後の授業で障害とならないよう、特に私たちヒトに関する内容（細胞、遺伝、免疫など）を中心に講義する。また最新のバイオテクノロジーやバイオサイエンスの情報なども織り込んでいく。管理栄養士として“私たちのヒトのからだのメカニズム”を知る上で必要な基礎的な知識を深めることを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマポリシーとの関連として、「２．人間の健康を規定する要因として幅広く社会・環境を科学的に理解し、さらに健康の維持・増進プログラムを実践するために必要な人体の構造並びに疾病の成り立ちから食べ物と健康の知識や技能を修得している。」に基づき、私たちヒトのからだのメカニズムに対する理解を深めることを目指し、さらに本学の建学の精神である“社会に出て役立つ人材の育成”に基づき、管理栄養士として必要な生物学の基礎を習得させることを目指すものとする。

到達目標

生命の基本単位である“細胞”に共通の基本構造および機能を踏まえ、細胞の発生・遺伝・進化のしくみについて理解する。またこれらを通じて、私たちの生体内で起こる様々な生命現象を理解するための基礎を身につけることを目標とする。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	生物学の基本	進化論の登場、地球上の生物に共通すること、生物体のつくりと階層性など 【アクティブラーニング】私たちヒトがどのようにして生まれてきたのか、また進化してきたのかなど質問し、さまざまな回答に対して意見を求める。	予習90分：教科書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習90分：配布した試料をまとめ、復習問題を解き、理解できなかった内容について調べる。

第2回	細胞のプロフィール	細胞を構成している物質、細胞小器官の構造と機能など	予習90分：教科書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習90分：配布した試料をまとめ、復習問題を解き、理解できなかった内容について調べる。
第3回	何が細胞の形や機能を決めているのか	形質を決めているものを求めて、遺伝子としてのDNAなど	予習90分：教科書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習90分：配布した試料をまとめ、復習問題を解き、理解できなかった内容について調べる。
第4回	細胞が生きて活動していくために	ATPの産生、代謝経路のネットワークなど	予習90分：教科書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習90分：配布した試料をまとめ、復習問題を解き、理解できなかった内容について調べる。
第5回	タンパク質が細胞のさまざまな活動を担う	タンパク質のさまざまな機能 【アクティブラーニング】“たんぱく質とは何か”をもとに学生たちがイメージするものを回答させ、私たちに対してたんぱく質がどのように機能・関与しているのかを理解させる。	予習90分：教科書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習90分：配布した試料をまとめ、復習問題を解き、理解できなかった内容について調べる。
第6回	多細胞生物への道Ⅰ	細胞間の情報交換、ホルモンと受容体で情報を伝えるなど	予習90分：教科書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習90分：配布した試料をまとめ、復習問題を解き、理解できなかった内容について調べる。
第7回	多細胞生物への道Ⅱ	DNAの複製、細胞周期と体細胞分裂など	予習90分：教科書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習90分：配布した試料をまとめ、復習問題を解き、理解できなかった内容について調べる。
第8回	多細胞生物への道Ⅲ	減数分裂、生殖細胞の形成、受精など 【アクティブラーニング】私たちにとって体細胞分裂や減数分裂が行われなかった場合にどのような不具合が生じるかを意見させ、細胞分裂の意義について検討する。	予習90分：教科書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習90分：配布した試料をまとめ、復習問題を解き、理解できなかった内容について調

			べる。
第9回	個体を守る免疫システム	非特異的生体防御機構、特異的生体防御機構、免疫機能の制御など	予習90分：教科書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習90分：配布した試料をまとめ、復習問題を解き、理解できなかった内容について調べる。
第10回	生きること、死ぬこと	細胞の再生、細胞が死ぬとき、老化・寿命と遺伝子の関係など	予習90分：教科書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習90分：配布した試料をまとめ、復習問題を解き、理解できなかった内容について調べる。
第11回	個体としてのまとまり	内部環境を一定に、制御中枢による情報の処理と調整、動物の行動など	予習90分：教科書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習90分：配布した試料をまとめ、復習問題を解き、理解できなかった内容について調べる。
第12回	生物の進化と多様性	進化と多様性の創出、地球上の生物多様性を守るためになど	予習90分：教科書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習90分：配布した試料をまとめ、復習問題を解き、理解できなかった内容について調べる。
第13回	遺伝とはⅠ	遺伝とは、メンデルの研究と遺伝の法則など	予習90分：教科書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習90分：配布した試料をまとめ、復習問題を解き、理解できなかった内容について調べる。
第14回	遺伝とはⅡ	さまざまな遺伝 【アクティブラーニング】“さまざまな遺伝”について説明後、血液型や耳あかなど私たちの身近な遺伝の優劣について調査し、日本人全般の優劣の比率とクラスの比率に差があるのかを検討する。	予習90分：教科書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習90分：配布した試料をまとめ、復習問題を解き、理解できなかった内容について調べる。
第15回	遺伝とはⅢ	性と遺伝、性染色体と性の決定、伴性遺伝など	予習90分：教科書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習90分：配布した試料をまとめ、復習問題を解き、理解できな

			かった内容について調べる。

教科書
『基礎から学ぶ 生物学・細胞生物学』第３版 和田 勝著（羊土社）
参考書
単元ごとにプリント教材を配布する。
成績評価の方法・基準
単位認定60点以上 筆記試験100％
課題等に対する フィードバックの方法
授業内に問題を提示したり、課題を課すことがある。学期末の筆記試験にも関与する事柄なので、必ず復習しておくこと。また、単元ごとに復習問題を配付するので、必ず問題を解いて授業内容の理解に役立てること。
履修のポイント
教科書の内容以外の事柄についても取り入れていくので、授業には積極的に参加すること。
オフィス・アワー
授業内容等の質問については、授業終了後、または月～金曜日のお昼休みに11号館3F研究室13で受け付ける。

講義コード	20140001
講義名	化学
(副題)	
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	１時限
区分	学部共通科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UM-C007
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 小林 葉子	指定なし

授業の概要と教育目標

パーセント濃度やモル濃度、原子の構造、化学結合、化学反応、化学平衡、溶液の性質、酸化と還元、浸透など管理栄養士に必要とされる化学の基礎を学習する。
化学の知識は、栄養学を理解し、実践するために必須である。単位換算や濃度計算、化学変化の原理を理解することを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

化学は学部共通科目（人間と環境）に配当され、体内の生命現象や食品の性質を理解するための基礎となる科目である。栄養学にかかかわる化学の基礎知識を身に着けることを目標とする。

到達目標

栄養学を理解するための化学の基礎知識を身に付ける。次の１）～５）ができるようにする。
１）パーセント濃度、モル濃度、希釈の計算 ） ２）SI 単位の理解、単位変換
３）原子、分子、イオン、化学結合の理解
４）酸、塩基、酸化、還元、pHの理解
５）化学反応の理解

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	栄養学と化学のかかわり	栄養学を学ぶ上での化学の理解が重要性：基礎化学 はじめに アクティブラーニング これまでの化学の学習状況について意見交換し、自分に必要な勉強、勉強方法を考える。	予習90分 学習範囲の教科書を読む 復習90分 問題集を使用し、授業内容を復習する。
第2回	水	水の性質、状態：基礎化学 第１章 アクティブラーニング	予習90分 学習範囲の教科書を読む 復習90分 問題集

		前回の授業範囲の理解度を、小試験として確認する。問題集から問題を出すので、わからなかった問題は、各自問題集の解答を読んで理解する。	を使用し、授業内容を復習する。
第3回	水	栄養学の中の水：基礎化学 第１章 アクティブラーニング 前回の授業範囲の理解度を、小試験として確認する。問題集から問題を出すので、わからなかった問題は、各自問題集の解答を読んで理解する。	予習90分 学習範囲の教科書を読む 復習90分 問題集を使用し、授業内容を復習する。
第4回	元素と原子、周期表	物質の成り立ち及び元素：基礎化学 第２章 アクティブラーニング 前回の授業範囲の理解度を、小試験として確認する。問題集から問題を出すので、わからなかった問題は、各自問題集の解答を読んで理解する。	予習90分 学習範囲の教科書を読む 復習90分 問題集を使用し、授業内容を復習する。
第5回	分子・化合物	物質を構成する結合：基礎化学 第２章 アクティブラーニング 前回の授業範囲の理解度を、小試験として確認する。問題集から問題を出すので、わからなかった問題は、各自問題集の解答を読んで理解する。	予習90分 学習範囲の教科書を読む 復習90分 問題集を使用し、授業内容を復習する。
第6回	物質の三態	物質の三態、体や食品の中の分子の状態：基礎化学 第２章 アクティブラーニング 前回の授業範囲の理解度を、小試験として確認する。問題集から問題を出すので、わからなかった問題は、各自問題集の解答を読んで理解する。	予習90分 学習範囲の教科書を読む 復習90分 問題集を使用し、授業内容を復習する。
第7回	溶液の濃度	パーセントの計算：基礎化学 第3章 アクティブラーニング 前回の授業範囲の理解度を、小試験として確認する。問題集から問題を出すので、わからなかった問題は、各自問題集の解答を読んで理解する。	予習90分 学習範囲の教科書を読む 復習90分 問題集を使用し、授業内容を復習する。
第8回	溶液の濃度	モル濃度の計算：基礎化学 第3章 アクティブラーニング 前回の授業範囲の理解度を、小試験として確認する。問題集から問題を出すので、わからなかった問題は、各自問題集の解答を読んで理解する。	予習90分 学習範囲の教科書を読む 復習90分 問題集を使用し、授業内容を復習する。
第9回	密度・比重	密度、比重を考慮した濃度の計算、ヒトや食品の中の濃度：基礎化学 第3章 アクティブラーニング 前回の授業範囲の理解度を、小試験として確認する。問題集から問題を出すので、わからなかった問題は、各自問題集の解答を読んで理解する。	予習90分 学習範囲の教科書を読む 復習90分 問題集を使用し、授業内容を復習する。
第10回	溶液の性質	沸点上昇、凝固点降下、浸透、浸透圧：基礎化学 第4章 アクティブラーニング 前回の授業範囲の理解度を、小試験として確認する。問題集から問題を出すので、わからなかった問題は、各自問題集の解答を読んで理解する。	予習90分 学習範囲の教科書を読む 復習90分 問題集を使用し、授業内容を復習する。
		溶解度、コロイド溶液、ヒトや体の中の溶液の性質：基礎化学 第4章	

第11回	溶液の性質	アクティブラーニング 前回の授業範囲の理解度を、小試験として確認する。問題集から問題を出すので、わからなかった問題は、各自問題集の解答を読んで理解する。	予習90分 学習範囲の教科書を読む 復習90分 問題集を使用し、授業内容を復習する。
第12回	溶け方、状態	酸と塩基、水素イオン指数：基礎化学 第5章 アクティブラーニング 前回の授業範囲の理解度を、小試験として確認する。問題集から問題を出すので、わからなかった問題は、各自問題集の解答を読んで理解する。	予習90分 学習範囲の教科書を読む 復習90分 問題集を使用し、授業内容を復習する。
第13回	酸と塩基	緩衝作用：基礎化学 第5章 アクティブラーニング 前回の授業範囲の理解度を、小試験として確認する。問題集から問題を出すので、わからなかった問題は、各自問題集の解答を読んで理解する。	予習90分 学習範囲の教科書を読む 復習90分 問題集を使用し、授業内容を復習する。
第14回	酸と塩基	化学反応 アクティブラーニング 前回の授業範囲の理解度を、小試験として確認する。問題集から問題を出すので、わからなかった問題は、各自問題集の解答を読んで理解する。	予習90分 学習範囲の教科書を読む 復習90分 問題集を使用し、授業内容を復習する。
第15回	まとめ	化学のまとめ アクティブラーニング 化学の授業で学んだ範囲の課題について、解答を出す。課題がわからなかった場合、各自で調べると共に、相互に議論し理解を深める。	予習90分 学習範囲の教科書を読む 復習90分 問題集を使用し、授業内容を復習する。

教科書

栄耀科学イラストレィテッド 基礎化学 土居純子著 羊土社
インプレス基礎化学 実教出版
サイエンスビュー化学総合資料

参考書

特になし

成績評価の方法・基準

授業内の課題及び小試験の評価が60点以上 （課題80% 小試験20%）

課題等に対するフィードバックの方法

時間内の小試験は、インプレス基礎化学から問題を選ぶ。各自で、正誤を確認できるが、解説が必要な場合には、小試験後の質問時間に開設する。疑問点を共有し、受講者全体の理解を深める。

履修のポイント

2回目以降は、前回の授業範囲のインプレス基礎化学の問題の小試験を行う。
自らで学習し、理解するようにする。授業内で理解したつもりになっても、自己学習をすると理解できていないことに気づくことがある。その場合は、教科書を調べ、理解をするようにする。
授業のスライドは、配布しない。
学力レベルに合わせ、授業進行速度を変更する。そのため、シラバス通りに進まない場合もある。授業は休まないで出席すること。
高校までの履修状況に差があるため、各自の努力のみならず、受講者間での学び合いも必要である。

オフィス・アワー

月～金の昼休み（だたし、3限が授業の日を除く） 11号館3階16研究室

講義コード	20150001
講義名	生活とデザイン
(副題)	
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	５時限
区分	学部共通科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UM-C071
学年	4学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 松村 誠一	指定なし

授業の概要と教育目標

現代社会の中で生きている私たちは、多くの優れたデザインに囲まれて生活しており、そこから大きな影響を受けています。文明や文化が開化し、デザインと私たちの生活には密接な関係があります。近代になりグラフィックデザインやインダストリアルデザインなどの分野が確立され、本授業では生活とデザインの関係について考察していきます。そして日常生活の中に普通に存在しているデザインについて、その意味や歴史、価値、可能性などを多角的に学んでいき理解を深めることを教育目標とします。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマ・ポリシーとの関連として、社会・環境・コミュニケーションなどの諸側面からデザインに対する理解を深めることを目指し、生活とデザインの関係を考察し知識を養う。そして将来的な展望としては、多様な人間の生活環境がデザインによって、より良い社会生活になることを理解する基盤となる学習を行うことを目指すものとします。

到達目標

デザインの意味や歴史、価値、可能性について考察し、デザインと人間との関係に理解を深め、より良い社会生活が営まれることを目標とします

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	デザインの歴史①	イギリスの伝統と革新 ［アクティブ・ラーニングの内容］ 履修者に対してデザインに関しての質問をし、ディスカッション、意見交換する。	予習９０分：イギリスのデザインについて調べる。復習９０分：配布資料を見直す。
第2回	デザインの歴史②	アール・ヌーヴォーの世界	予習９０分：アール・ヌーヴォーについて調べる。 復習９０分：配布資料を見直す。
		市民生活のグラフィックデザイン	

第3回	デザインの歴史③	［アクティブ・ラーニングの内容］ 履修者に対して印刷・広告に関しての質問をし、ディスカッション、意見交換する。	予習９０分：グラフィックデザインについて調べる。 復習９０分：配布資料を見直す。
第4回	デザインの歴史④	バウハウス「デザインの実験と統合」①	予習９０分：バウハウスについて調べる。 復習９０分：配布資料を見直す。
第5回	デザインの歴史⑤	バウハウス「デザインの実験と統合」② ［アクティブ・ラーニングの内容］ バウハウスについてディスカッション、意見交換する。	予習９０分：バウハウスについて調べる。 復習９０分：配布資料を見直す。
第6回	デザイン実習①	アクリル絵具による色彩表現、平面構成実習①	予習９０分：色彩について調べる。 復習９０分：配布資料を見直す。
第7回	デザイン実習②	アクリル絵具による色彩表現、平面構成実習②	予習９０分：色彩について調べる。 復習９０分：配布資料を見直す。
第8回	デザイン実習③	アクリル絵具による色彩表現、平面構成実習③ ［アクティブ・ラーニングの内容］ 各自の作品を講評、ディスカッション、意見交換する。	予習９０分：色彩について調べる。 復習９０分：配布資料を見直す。
第9回	デザイン実習④	ロゴデザイン、ＰＯＰ広告制作実習①	予習９０分：広告について調べる。 復習９０分：配布資料を見直す。
第10回	デザイン実習⑤	ロゴデザイン、ＰＯＰ広告制作実習② ［アクティブ・ラーニングの内容］ 各自の作品を講評、ディスカッション、意見交換する。	予習９０分：広告について調べる。 復習９０分：配布資料を見直す。
第11回	デザインと人間工学①	人体寸法と設計	予習９０分：デザインと人間工学の関係について調べる。 復習９０分：配布資料を見直す。
第12回	デザインと人間工学②	家具、設備への応用「座る」	予習９０分：「座る」という行為とデザインの関係について調べる。 復習９０分：配布資料を見直す。
第13回	デザインと人間工学③	家具、設備への応用「寝る」	予習９０分：「寝る」という行為とデザインの関係について調べる。 復習９０分：配布資料を見直す。
第14回	デザインと人間工学④	家具、設備への応用「立つ」	予習９０分：「立つ」という行為とデザインの関係について調べる。 復習９０分：配布資料を見直す。
第15回	デザインと人間工	錯視効果、空間の心理 ［アクティブ・ラーニングの内容］	予習９０分：空間での人間の心理、行動について考えてみる。

	学⑤	デザインと人間工学の関係についてディスカッション、意見交換する。	復習９０分：配布資料を見直す。

教科書
使用しない。
参考書
使用しない。
成績評価の方法・基準
単位認定６０点以上 課題８０%、授業への参加度２０%
課題等に対する フィードバックの方法
授業内で実技課題を課すことがある。また、毎回資料を配布するので授業内容の理解に役立てること。
履修のポイント
授業への積極的な取り組みを期待する。
オフィス・アワー
月曜日、１２：３０～１３：２０（昼休み） １号館１１１研究室で行う。

講義コード	20160001
講義名	地域社会学
(副題)	
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	３時限
区分	学部共通科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UM-C072
学年	4学年

担当教員

職種	氏名	所属
教 員	◎ 篠原 貴子	指定なし

授業の概要と教育目標

近代社会は、社会構造や生活様式に大きな変化をもたらした。特に、農村から都市への人口流出や都市化は、コミュニティや個人を取り巻く環境を転換させた。本講義では、都市や農村に関する社会学の展開を中心に学ぶとともに、社会を構成する主要な組織が担う役割や課題を経済や文化の側面から把握する。
本講義の目標は、地域社会の歴史や課題を理解し、社会学的思考を身に付けることである。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマ・ポリシーとの関連として、社会・環境・コミュニケーションなどの諸側面から人間に対する理解を深めることを目指し、社会的側面から学ぶことで多角的な視点から物事を捉える能力や柔軟な思考力を養う。

到達目標

講義内容を踏まえて、地域社会が抱える現代的課題を発見し、読み解く力を培う。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	イントロダクション	地域社会学の意義と課題	予習90分：この分野への知識や関心を高める学習をする。 復習90分：配布資料を見直す。
第2回	都市社会学の系譜	都市社会学の展開	予習90分： 復習90分：配布資料を見直す。
第3回	流動型社会論	近代化論	予習90分： 復習90分：配布資料を見直す。
第4回	現代の都市	都市空間と人間形成	予習90分： 復習90分：配布資料を見

	社会		直す。
第5回	現代の農村社会	高度経済成長と農村社会 【アクティブ・ラーニング】 高度経済成長期を描いた作品を鑑賞し、これまでの学習した知識を踏まえてコメントを書く。	予習90分： 復習90分：配布資料を見直す。
第6回	地域権力構造論	地域と政治	予習90分： 復習90分：配布資料を見直す。
第7回	アーバニズムとコミュニティ	町内会の変遷と課題	予習90分： 復習90分：配布資料を見直す。
第8回	アーバニズムとローカリティ	東京の都市空間	予習90分： 復習90分：配布資料を見直す。
第9回	グローバル社会	グローバル化と地域社会の変貌	予習90分： 復習90分：配布資料を見直す。
第10回	エスニック・コミュニティ	エスニック・コミュニティの形成	予習90分： 復習90分：配布資料を見直す。
第11回	社会変動と地域社会の形成	住民生活と行政	予習90分： 復習90分：配布資料を見直す。
第12回	農山村の混住化社会	現代の農村社会	予習90分： 復習90分：配布資料を見直す。
第13回	地域社会の活性化	地域の復興と観光 【アクティブ・ラーニングの内容】 地域活性化として観光の事例紹介やフィールドワークでの経験を話し合う。	予習90分：課題内容を学習する。 復習90分：配布資料を見直す。
第14回	コミュニティ形成の課題	新たなコミュニティの創出と地域社会	予習90分： 復習90分：配布資料を見直す。
第15回	まとめ	地域社会学の展望	予習90分： 復習90分：配布資料を見直す。

教科書

必要な資料は随時配布

参考書

鈴木広監修 『地域社会学の現在』 （ミネルヴァ書房）

成績評価の方法・基準

成績評価 60点以上。授業態度や試験結果で総合評価する。

課題等に対するフィードバックの方法

リアクションペーパーを課す場合がある。重要点の確認や疑問点を解説し、学習内容の理解に役立てる。

履修のポイント

授業内容に関して、意欲的に学習する。
オフィス・アワー
授業日の、授業開始前もしくは終了後に教室等で相談に応じます。

講義コード	20170001
講義名	人間工学
(副題)	
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	４時限
区分	学部共通科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UM-C023
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教 員	◎ 松村 昌俊	指定なし
教 員	亀井 実	指定なし
教 員	篠﨑 有陛	指定なし

授業の概要と教育目標

人間の運動機能や動作特性について理解を深めるとともに、障害者や高齢者の日常生活を援助する観点から福祉用具の活用や住環境整備の方法を学ぶ
人間の日常生活動作の特性及び福祉機器、住環境に関して医療・福祉の分野などで役立つ実践的知識を習得する

卒業認定・学位授与の方針との関連

本授業では、偏見や先入観を持たずに、社会・環境・コミュニケーションなどの諸側面から全人的に対象者を理解するために、精神面、身体面から人間の諸活動を考察できるようになることを目指します。
福祉、臨床の現場でチーム医療の一員として活躍し、そこで調整する能力及び問題を解決する能力を修得するための機会として、理学療法士の視点と考え方を共有します。
多様な対象や人間のライフステージ・ライフサイクルを理解するための機会として、ノーマライゼーションの視点から実生活を観察する考え方を共有します。

到達目標

医療・福祉分野における人間工学の活用について理解を深める。
福祉機器や、住環境整備の基礎知識を得る。
患者や障害者の生活利便性、安全性、快適性の向上と支援者の負担軽減のため、人間工学の活用について考える。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習 と そのために 必要な時間
		（オリエンテーション）	講義内容について 予習90分、

第1回	姿勢の観察	重心と姿勢、バランスについて学ぶ	復習90分 配付資料を見直す
第2回	転倒と転倒予防	日常生活動作における転倒と転倒予防について学ぶ	講義内容について 予習90分、 復習90分 配付資料を見直す
第3回	日常生活動作と間接可動域	関節可動域の評価と日常生活動作に必要な関節可動域について学ぶ	講義内容について 予習90分、 復習90分 配付資料を見直す
第4回	日常生活動作と筋力	筋力の評価と日常生活動作に必要な筋力について学ぶ	講義内容について 予習90分、 復習90分 配付資料を見直す
第5回	起居動作	立ち上がり動作をはじめとする動作分析について学ぶ	講義内容について 予習90分、 復習90分 配付資料を見直す
第6回	歩行	歩行分析について学ぶ	講義内容について 予習90分、 復習90分 配付資料を見直す
第7回	福祉機器	身体特性に応じた福祉機器について学ぶ	講義内容について 予習90分、 復習90分 配付資料を見直す
第8回	車椅子体験	車椅子操作を体験し、車椅子利用者の視点について学ぶ	講義内容について 予習90分、 復習90分 配付資料を見直す
第9回	日常生活の援助①	ボディメカニクスを使った援助、食事の援助について学ぶ（講義）	講義内容について 予習90分、 復習90分 配付資料を見直す
	日常生活の援助	【アクティブラーニング】	講義内容について 予習90分、

第10回	②	ボディメカニクスを使った援助、食事の援助について学ぶ（実技）	復習90分 配付資料を見直す
第11回	歩行障害	歩行補助具の種類と杖歩行のパターンについて学ぶ	講義内容について 予習90分、 復習90分 配付資料を見直す
第12回	事例紹介	福祉用具の活用や住環境整備の実際の事例について紹介する	講義内容について 予習90分、 復習90分 配付資料を見直す
第13回	フィールドワーク①	【アクティブラーニング】 障害者、高齢者の立場からキャンパス内の建造物、環境を見直す（グループワーク）	講義内容について 予習90分、 復習90分 配付資料を見直す
第14回	フィールドワーク②	【アクティブラーニング】 障害者、高齢者の立場からキャンパス内の建造物、環境を見直す（グループワーク）	講義内容について 予習90分、 復習90分 配付資料を見直す
第15回	まとめ	これまでの講義のまとめを行う	講義内容について 予習90分、 復習90分 配付資料を見直す

教科書
なし（授業時に資料を配布する）
参考書
なし（授業時に資料を配布する）
成績評価の方法・基準
単位認定60点以上（定期試験100％）（授業中の提出物を加味して最終的な点数を算出する）
課題等に対する フィードバックの方法
授業中に出た課題等は、当日もしくは後日の授業中にフィードバックを行います。 実技については、授業中に都度、フィードバックを行います。
履修のポイント
授業中の課題に積極的に取り組むことで、専門職としての学びが深まります。 小テストや試験に真摯に取り組むことで、国家試験受験時の準備ができます。
オフィス・アワー
授業日の授業開始前もしくは終了後に教室等で質問に応じます。

講義コード	20180001
講義名	行動科学
(副題)	
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期（重複①）
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	３時限
区分	学部共通科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UM-C082
学年	4学年

担当教員

職種	氏名	所属
教 員	◎ 徐 淑子	指定なし

授業の概要と教育目標

この授業で゛は、人々が゛健康を守る行動を起こすときにど゛んな心理社会的仕組みが゛働いているのかについて、学び゛ます。また、それらの知識を健康教育や患者教育にど゛のように応用で゛きるかについて、考えます。まずは、じぶん自身の行動をモデルに当てはめて考えてみることから学習を始めましょう。
行動モデ゛ルの発想を、保健医療の現場、とくに生活習慣指導等で゛生かすための、基礎をつくることを目的とします。

卒業認定・学位授与の方針との関連

到達目標

１．「健康と病気」をめぐる行動のさまざまなすがたについて、理解を深める
２．行動モデルを用いて，身近な健康現象を理解・説明することができるようになる

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	保健行動の多様性１	健康と病気にかかわるさまざまな行動を、いくつかの視点で分類しながら理解する。看護職者がとりあつかうケア範囲の広さを確認する。	個人ワーク／視聴覚資料
第2回	保健行動の生起とその習慣化１	生活構造論、段階的変化理論について取り上げ、保健行動の習慣化、保健行動がどのようにして個人の生活の中に組み込まれていくのかについて考える。	個人ワーク／視聴覚資料
		保健行動を説明する代表的な行動モデルについて学習する。	個人

第3回	保健行動の生起とその習慣化２	①教育モデルとヘルス・リテラシー ②恐怖アピールモデルは人々の行動を変えるか ③保健信念モデルーグッド・ニュースとバッド・ニュースのバランス	ワーク／視聴覚資料
第4回	保健行動の生起とその習慣化３	保健行動を説明する代表的な行動モデルについて学習する。 ④保健行動シーソーモデルー保健動機と生活動機の連合 ⑤計画的行動理論と人の判断	個人ワーク／視聴覚資料
第5回	保健行動の生起とその習慣化４	社会的学習理論（自己効力感モデル）の考え方より、行動変容の過程について考える。	個人ワーク／視聴覚資料
第6回	精神健康が保健行動に与える影響	生活ストレス論の立場から、「なぜ、かんたんな保健行動が起こせない／続かない人がいるのか」について、考える。	個人ワーク／視聴覚資料
第7回	行動科学的な知見の応用１（生活習慣指導への応用）	行動科学的知見を、生活習慣指導における個別支援にどのように活用できるか、ワークをとおして体験的に学ぶ。 ①認知行動療法の基本的な考え方	個人ワーク／視聴覚資料
第8回	行動科学的な知見の応用２（生活習慣指導への応用）	行動科学的知見を、生活習慣指導における個別支援にどのように活用できるか、ワークをとおして体験的に学ぶ。 ②認知行動療法的な発想を、生活習慣指導にとりいれる	個人ワーク／視聴覚資料

教科書

指定教科書はありません。教員が資料を配布します。

参考書

授業中に、その都度、情報の出典を示し、より深く学習したい方のために関連書籍や文献を紹介いたします。

成績評価の方法・基準

最終課題（レポート）100%で評価します。レポートは100点満点で、60点以上が合格となります。

履修のポイント

・視聴覚資料を毎回視聴します。
・授業中に個別ワークにとりくんでもらいます。
・最終課題は授業中に実施するワークを統合したかたちで出題されます。学習成果を最終課題にうまく生かせるよう、授業内ワークでその都度確認しながら学習に取り組んでください。
・私語厳禁でお願いいたします。

講義コード	20190001
講義名	コミュニケーション論
(副題)	
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	４時限
区分	学部共通科目
必修/選択	必修
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UM-R008
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 大澤 靖彦	指定なし

授業の概要と教育目標

人との関係性に見られるコミュニケーションは、対人援助職にとって極めて重要であるとよく言われる。では、現代においてコミュニケーション能力が求められるのはなぜなのか、そもそもコミュニケーションとは何なのか、コミュニケーションが上手とか下手とかは何をもって判断されるのか。この授業では、今日のコミュニケーション研究の成果を学修しながら、多面的にコミュニケーションについて理解を深める。演習形式を取り入れながら、体験を通した学修を進める予定である。日常的なコミュニケーション場面の特徴を広く学修し、その基本的な理論や原理を修得し、自他を理解する基本的態度の修得を目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマポリシーとの関連として、社会・環境・コミュニケーションなどの諸側面から人に対する理解を深めることを目指し、対人関係上で交わされるコミュニケーションの理解を通してその目的達成に資する知識を養う。そして、対人援助職として援助対象となる人の健康の諸側面、健康生活と社会との関係について、コミュニケーションの重要性を理解し、自己理解と他者理解に基づいた援助実践ができるようになることを目指す。

到達目標

１．コミュニケーションにかかわる基本的な理論や原理を理解できる。
２．自己と他者の違いを実感し、自分の対人関係場面でみられる特徴を自覚できる。
３．他者とのコミュニケーションを通して、人の話を「聞く」とはどういうことか、自分のことを相手に「伝える」とはどういうことかを理解できる。
４．コミュニケーションに関する知見を、栄養指導等の場面での人とのかかわりに適用して考えることができる。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	人付き合いのスタートの心理学①	オリエンテーション（授業の進め方、成績評価等について） 人付き合いのスタートでは、どのような	予習90分：事前にシラバス等を確認する。 復習90分：配布資

		ことが大切なのかについて考えてみる	料の整理、まとめ。
第2回	人付き合いのスタートの心理学②	人間関係を深めていくためには何が大切なのかについて考えてみる	予習90分：事前にシラバス等を確認する。 復習90分：配布資料の整理、まとめ。
第3回	自己理解	コミュニケーションの基本となる自分自身についての理解を深める	予習90分：事前にシラバス等を確認する。 復習90分：配布資料の整理、まとめ。
第4回	人とかかわること	対人場面での不安や緊張を軽減することを学ぶ	予習90分：事前にシラバス等を確認する。 復習90分：配布資料の整理、まとめ。
第5回	グループメンバーと知り合う	仲間関係を深めることを学ぶ	予習90分：事前にシラバス等を確認する。 復習90分：配布資料の整理、まとめ。
第6回	聞き上手になろう	相手の話の聞き方について学ぶ	予習90分：事前にシラバス等を確認する。 復習90分：配布資料の整理、まとめ。
第7回	傾聴スキルを使って信頼関係を築こう	第6回で学んだスキルを活かして、よりよい関係を気づくことを学ぶ	予習90分：事前にシラバス等を確認する。 復習90分：配布資料の整理、まとめ。
第8回	話し上手になろう	自分のことを上手に伝えること、アサーションの考え方について学ぶ	予習90分：事前にシラバス等を確認する。 復習90分：配布資料の整理、まとめ。
第9回	ノンバーバル・コミュニケーションを学ぼう	ノンバーバル・コミュニケーションの重要性について学ぶ	予習90分：事前にシラバス等を確認する。 復習90分：配布資料の整理、まとめ。
第10回	自分と他者の「認知」の違いを知ろう	自分が認知していることと他者が認知していることにはズレが生じていることを学ぶ	予習90分：事前にシラバス等を確認する。 復習90分：配布資

			料の整理、まとめ。
第11回	自己理解・他者理解	ジェノグラムを使って自己理解を深め、他者理解を深める	予習90分：事前にシラバス等を確認する。 復習90分：配布資料の整理、まとめ。
第12回	恋愛の心理学①	人に好意を持ったり持たれたりする仕組みについて考える①	予習90分：事前にシラバス等を確認する。 復習90分：配布資料の整理、まとめ。
第13回	恋愛の心理学②	人に好意を持ったり持たれたりする仕組みについて考える②	予習90分：事前にシラバス等を確認する。 復習90分：配布資料の整理、まとめ。
第14回	職場の人間関係①	職場のリーダーシップ：どのようなリーダーシップが生産性を上げるのか考える	予習90分：事前にシラバス等を確認する。 復習90分：配布資料の整理、まとめ。
第15回	職場の人間関係②	職場のコミュニケーション：どのようなコミュニケーションがあれば仕事で頑張れるのか考える	予習90分：事前にシラバス等を確認する。 復習90分：配布資料の整理、まとめ。

教科書

特に指定せず。

参考書

適宜紹介する。

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上。
筆記試験40％ レポート・課題30％ 授業への積極性・態度30％

課題等に対する
フィードバックの方法

授業内でレポートや課題を課すことがある。返却するので学習の参考にすること。また、授業の振り返りの資料とその解答を配布するので、授業内容の理解に役立てること。

履修のポイント

授業への積極的な取り組みを期待します。演習を含めて授業を進めていきます。授業時間外の学習として、幅広い興味関心のもと日常的な出来事の中の人の行動を見つめることを予習として、本講義の配布資料・ノートの見直しやまとめを復習として勧めます。

オフィス・アワー

水曜日・木曜日、12：30～13：20（昼休み）、11 号館第 8 研究室。
※講義終了前後にも、適宜受け付けます。

講義コード	20200001
講義名	基礎英語Ⅰ（Aクラス）
(副題)	【教職必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	１時限
区分	学部共通科目
必修/選択	必修
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UM-R009
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 野中 博雄	指定なし

授業の概要と教育目標

英語の４技能は、Listening、Reading、Speaking、Writing と言われる。本科目では、基本的な英文法や英語表現を学習し、基礎的な Listening や Reading 能力の向上を図る。またインターネットを援用して英語で書かれた情報を理解する方法も習得する。これにより、後期に開講される基礎英語Ⅱ(Speaking、Writing) の学習への円滑な移行を目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

栄養学科のディプロマ・ポリシーの１つである「人間に対して、社会・環境・コミュニケーションなどの諸側面から理解している」ことを目指し、「現代の食を考える」の教科書の学習を通して、英語の Listening、Reading の技能の向上を図りつつ、「現代の食」の諸側面についての理解を深める。

到達目標

1. 高校までの基本的な英文法を復習し、Reading 能力の向上を図る。
2. CDやインターネットの音声データを利用してListening 能力を高める。
3. Exerciseの解答や課題の提出はワードでできるようにする。
4. インターネットの辞書・翻訳機能を利用できるようにする。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	Outline	評価方法、授業の進め方等の説明 課題：英語に対する自己の印象、自己紹介、ある語の連想語などの質問に対する答えを作成する。	
第2回	Counting Calories	Listening, Reading, Exercises 会話文はペアで練習する。 Exercisesもペアで回答する。 課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。

第3回	A New Sports Tradition	Listening, Reading, Exercises 会話文はペアで練習する。 Exercisesもペアで回答する。 課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第4回	As American as Apple Pie	Listening, Reading, Exercises 会話文はペアで練習する。 Exercisesもペアで回答する。 課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第5回	Use as Directed	Listening, Reading, Exercises 会話文はペアで練習する。 Exercisesもペアで回答する。 課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第6回	The End of Home Cooking	Listening, Reading, Exercises 会話文はペアで練習する。 Exercisesもペアで回答する。 課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第7回	Just Follow the Recipe	Listening, Reading, Exercises 会話文はペアで練習する。 Exercisesもペアで回答する。 課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第8回	Supplemental Health	Listening, Reading, Exercises 会話文はペアで練習する。 Exercisesもペアで回答する。 課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第9回	Time for Tea	Listening, Reading, Exercises 会話文はペアで練習する。 Exercisesもペアで回答する。 課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第10回	Fresh from the Garden	Listening, Reading, Exercises 会話文はペアで練習する。 Exercisesもペアで回答する。 課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第11回	Local Delicacies	Listening, Reading, Exercises 会話文はペアで練習する。 Exercisesもペアで回答する。 課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第12回	Trick or Treat!	Listening, Reading, Exercises 会話文はペアで練習する。 Exercisesもペアで回答する。 課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第13回	Giving Thanks	Listening, Reading, Exercises 会話文はペアで練習する。 Exercisesもペアで回答する。 課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。

第14回	Turkey and All the Trimmings	Listening, Reading, Exercises 会話文はペアで練習する。 Exercisesもペアで回答する。 課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第15回	Review	Course Reviewing	復習90分：コース全体の既習内容の復習をするので、配布資料を確認し、まとめておくこと。

教科書

Food for Thought 「現代の食を考える」（南雲堂）

参考書

Internet Materials （毎回英語の歌などの聞き取りをする）

成績評価の方法・基準

単位認定 60点以上
筆記試験：50%、
課題、授業参加度等:50%

**課題等に対する
フィードバックの方法**

課題は次回の週に返却し、共通する間違い等について説明するので、指摘内容を理解して以後間違いの無いようにすること。

履修のポイント

ペアワークでの課題や授業での積極性（授業参加度）が最終評価に影響するので積極的に授業に臨むことが必要。

オフィス・アワー

授業の前後の時間が可能。

講義コード	20200002
講義名	基礎英語Ⅰ（Bクラス）
(副題)	【教職必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	４時限
区分	学部共通科目
必修/選択	必修
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UM-R009
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 野中 博雄	指定なし

授業の概要と教育目標

英語の４技能は、Listening、Reading、Speaking、Writing と言われる。本科目では、基本的な英文法や英語表現を学習し、基礎的な Listening や Reading 能力の向上を図る。またインターネットを援用して英語で書かれた情報を理解する方法も習得する。これにより、後期に開講される基礎英語Ⅱ(Speaking、Writing) の学習への円滑な移行を目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

栄養学科のディプロマ・ポリシーの１つである「人間に対して、社会・環境・コミュニケーションなどの諸側面から理解している」ことを目指し、「現代の食を考える」の教科書の学習を通して、英語の Listening、Reading の技能の向上を図りつつ、「現代の食」の諸側面についての理解を深める。

到達目標

1. 高校までの基本的な英文法を復習し、Reading 能力の向上を図る。
2. CDやインターネットの音声データを利用してListening 能力を高める。
3. Exerciseの解答や課題の提出はワードでできるようにする。
4. インターネットの辞書・翻訳機能を利用できるようにする。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	Outline	評価方法、授業の進め方等の説明 課題：英語に対する自己の印象、自己紹介、ある語の連想語などの質問に対する答えを作成する。	
第2回	Counting Calories	Listening, Reading, Exercises 会話文はペアで練習する。 Exercisesもペアで回答する。 課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。

第3回	A New Sports Tradition	Listening, Reading, Exercises 会話文はペアで練習する。 Exercisesもペアで回答する。 課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第4回	As American as Apple Pie	Listening, Reading, Exercises 会話文はペアで練習する。 Exercisesもペアで回答する。 課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第5回	Use as Directed	Listening, Reading, Exercises 会話文はペアで練習する。 Exercisesもペアで回答する。 課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第6回	The End of Home Cooking	Listening, Reading, Exercises 会話文はペアで練習する。 Exercisesもペアで回答する。 課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第7回	Just Follow the Recipe	Listening, Reading, Exercises 会話文はペアで練習する。 Exercisesもペアで回答する。 課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第8回	Supplemental Health	Listening, Reading, Exercises 会話文はペアで練習する。 Exercisesもペアで回答する。 課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第9回	Time for Tea	Listening, Reading, Exercises 会話文はペアで練習する。 Exercisesもペアで回答する。 課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第10回	Fresh from the Garden	Listening, Reading, Exercises 会話文はペアで練習する。 Exercisesもペアで回答する。 課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第11回	Local Delicacies	Listening, Reading, Exercises 会話文はペアで練習する。 Exercisesもペアで回答する。 課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第12回	Trick or Treat!	Listening, Reading, Exercises 会話文はペアで練習する。 Exercisesもペアで回答する。 課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第13回	Giving Thanks	Listening, Reading, Exercises 会話文はペアで練習する。 Exercisesもペアで回答する。 課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。

第14回	Turkey and All the Trimmings	Listening, Reading, Exercises 会話文はペアで練習する。 Exercisesもペアで回答する。 課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第15回	Review	Course Reviewing	復習90分：コース全体の既習内容の復習をするので、配布資料を確認し、まとめておくこと。

教科書

Food for Thought 「現代の食を考える」（南雲堂）

参考書

Internet Materials （毎回英語の歌などの聞き取りをする）

成績評価の方法・基準

単位認定 60点以上
筆記試験：50%、
課題、授業参加度等:50%

**課題等に対する
フィードバックの方法**

課題は次回の週に返却し、共通する間違い等について説明するので、指摘内容を理解して以後間違いの無いようにすること。

履修のポイント

ペアワークでの課題や授業での積極性（授業参加度）が最終評価に影響するので積極的に授業に臨むことが必要。

オフィス・アワー

授業の前後の時間が可能。

講義コード	20210001
講義名	基礎英語Ⅱ（Aクラス）
(副題)	
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	木曜日
代表時限	３時限
区分	学部共通科目
必修/選択	必修
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UM-R023
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 野中 博雄	指定なし

授業の概要と教育目標

英語の４技能は、Listening、Reading、Speaking、Writing と言われる。本科目では、基本的な英文法や英語表現を学習し、基礎的な Speaking や Writing 能力の向上を図る。またインターネットを援用して Speaking や Writing に必要な英語表現を作成する方法も習得することを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

栄養学科のディプロマ・ポリシーの１つである「人間に対して、社会・環境・コミュニケーションなどの諸側面から理解している」ことを目指し、教科書やインターネット資料の学習を通して、英語の Speaking や Writing 技能の向上を図りつつ、英語におけるコミュニケーションの諸側面についての理解を深める。

到達目標

1. テキストのUnitで学習するトピックスに関する Speaking, Writing 能力を高める。
2. Exerciseの解答や課題の提出はワードでできるようにする。
3. インターネットの辞書・翻訳機能を利用してSpeaking Writing に利用できるようにする。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	Outline	Textbook, Course Outline, Grading System, Classroom Procedures 評価方法、授業の進め方等の説明	
第2回	Self-Introduction	Vocabulary, Reading, Listening 会話文はペアで練習する。Exercisesもペアで回答する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。

		課題はペアで作成し、提出する。	
第3回	Self-Introduction	Speaking, Practice, Writing 会話文はペアで練習する。Exercisesもペアで回答する。 課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第4回	My College	Vocabulary, Reading, Listening 会話文はペアで練習する。Exercisesもペアで回答する。 課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第5回	My College	Speaking, Practice, Writing 会話文はペアで練習する。Exercisesもペアで回答する。 課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第6回	Family and Home Town	Vocabulary, Reading, Listening 会話文はペアで練習する。Exercisesもペアで回答する。 課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第7回	Family and Home Town	Speaking, Practice, Writing 会話文はペアで練習する。Exercisesもペアで回答する。 課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第8回	Pastimes and Hobbies	Vocabulary, Reading, Listening 会話文はペアで練習する。Exercisesもペアで回答する。 課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第9回	Pastimes and Hobbies	Speaking, Practice, Writing 会話文はペアで練習する。Exercisesもペアで回答する。 課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第10回	Weekends	Vocabulary, Reading, Listening 会話文はペアで練習する。Exercisesもペアで回答する。 課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
		Speaking, Practice, Writing	

第11回	Weekends	会話文はペアで練習する。 Exercisesもペアで回答する。 課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第12回	Friends	Vocabulary, Reading, Listening 会話文はペアで練習する。 Exercisesもペアで回答する。 課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第13回	Friends	Speaking, Practice, Writing 会話文はペアで練習する。 Exercisesもペアで回答する。 課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第14回	High School Days	Vocabulary, Reading, Listening 会話文はペアで練習する。 Exercisesもペアで回答する。 課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第15回	Review	Course Reviewing	復習90分：コース全体の既習内容の復習をするので、配布資料を確認し、まとめておくこと。

教科書

Can't Stop Writing 「英語で書いてみよう」 （三修社）

参考書

Internet Materials （毎回英語の歌などの聞き取りをする）

成績評価の方法・基準

単位認定 60点以上
筆記試験：50%、
課題、授業参加度等:50%

課題等に対する
フィードバックの方法

課題は次回の週に返却し、共通する間違い等について説明するので、指摘内容を理解して以後間違いの無いようにすること。

履修のポイント

ペアワークでの課題や授業での積極性（授業参加度）が最終評価に影響するので積極的に授業に臨むことが必要。

オフィス・アワー

授業の前後の時間が可能。

講義コード	20210002
講義名	基礎英語Ⅱ（Bクラス）
(副題)	
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	木曜日
代表時限	１時限
区分	学部共通科目
必修/選択	必修
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UM-R023
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 野中 博雄	指定なし

授業の概要と教育目標

英語の４技能は、Listening、Reading、Speaking、Writing と言われる。本科目では、基本的な英文法や英語表現を学習し、基礎的な Speaking や Writing 能力の向上を図る。またインターネットを援用して Speaking や Writing に必要な英語表現を作成する方法も習得することを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

栄養学科のディプロマ・ポリシーの１つである「人間に対して、社会・環境・コミュニケーションなどの諸側面から理解している」ことを目指し、教科書やインターネット資料の学習を通して、英語の Speaking や Writing 技能の向上を図りつつ、英語におけるコミュニケーションの諸側面についての理解を深める。

到達目標

1. テキストのUnitで学習するトピックスに関する Speaking, Writing 能力を高める。
2. Exerciseの解答や課題の提出はワードでできるようにする。
3. インターネットの辞書・翻訳機能を利用してSpeaking Writing に利用できるようにする。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	Outline	Textbook, Course Outline, Grading System, Classroom Procedures 評価方法、授業の進め方等の説明	
第2回	Self-Introduction	Vocabulary, Reading, Listening 会話文はペアで練習する。Exercisesもペアで回答する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。

		課題はペアで作成し、提出する。	
第3回	Self-Introduction	Speaking, Practice, Writing 会話文はペアで練習する。Exercisesもペアで回答する。 課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第4回	My College	Vocabulary, Reading, Listening 会話文はペアで練習する。Exercisesもペアで回答する。 課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第5回	My College	Speaking, Practice, Writing 会話文はペアで練習する。Exercisesもペアで回答する。 課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第6回	Family and Home Town	Vocabulary, Reading, Listening 会話文はペアで練習する。Exercisesもペアで回答する。 課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第7回	Family and Home Town	Speaking, Practice, Writing 会話文はペアで練習する。Exercisesもペアで回答する。 課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第8回	Pastimes and Hobbies	Vocabulary, Reading, Listening 会話文はペアで練習する。Exercisesもペアで回答する。 課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第9回	Pastimes and Hobbies	Speaking, Practice, Writing 会話文はペアで練習する。Exercisesもペアで回答する。 課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第10回	Weekends	Vocabulary, Reading, Listening 会話文はペアで練習する。Exercisesもペアで回答する。 課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
		Speaking, Practice, Writing	

第11回	Weekends	会話文はペアで練習する。 Exercisesもペアで回答する。 課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第12回	Friends	Vocabulary, Reading, Listening 会話文はペアで練習する。 Exercisesもペアで回答する。 課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第13回	Friends	Speaking, Practice, Writing 会話文はペアで練習する。 Exercisesもペアで回答する。 課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第14回	High School Days	Vocabulary, Reading, Listening 会話文はペアで練習する。 Exercisesもペアで回答する。 課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第15回	Review	Course Reviewing	復習90分：コース全体の既習内容の復習をするので、配布資料を確認し、まとめておくこと。

教科書

Can't Stop Writing 「英語で書いてみよう」 （三修社）

参考書

Internet Materials （毎回英語の歌などの聞き取りをする）

成績評価の方法・基準

単位認定 60点以上
筆記試験：50%、
課題、授業参加度等:50%

課題等に対する
フィードバックの方法

課題は次回の週に返却し、共通する間違い等について説明するので、指摘内容を理解して以後間違いの無いようにすること。

履修のポイント

ペアワークでの課題や授業での積極性（授業参加度）が最終評価に影響するので積極的に授業に臨むことが必要。

オフィス・アワー

授業の前後の時間が可能。

講義コード	20220001
講義名	実践英会話（Aクラス）
(副題)	【教職必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	木曜日
代表時限	１時限
区分	学部共通科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UM-C031
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 野中 博雄	指定なし

授業の概要と教育目標

テキストのトピックに応じた英会話表現やインターネットネットで映画のセリフの英会話表現を活用して実生活に必要な英会話表現をペア・ワークで学習する。さらに、インターネットやプリント資料などで時事的なトピックスや栄養学科専攻学生に必要な英会語表現も学習する。本科目は様々な状況で実践的に応用できる英会話表現を習得することを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

栄養学科のディプロマ・ポリシーの１つである「人間に対して、社会・環境・コミュニケーションなどの諸側面から理解している」ことを目指し、テキストとインターネットネット教材の学習を通して、英語の Listening と Reading の技能の向上を図りつつ、多くの実践的な英会話表現を学習する。さらに時事・文化的な表現も学習し、国際社会人として、外国文化の理解を深めることを目指す。

到達目標

1. 各種の状況に応じた英会話表現を習得する。
2. 栄養学分野での専門用語の英語を学習する。
3. インターネットで専門分野に関するトピックスを検索し、その内容を発表できるようにする。
4. 外国映画の会話表現と内容を理解する。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	Outline	Textbook, Course Outline, Grading System, Classroom Procedures 評価方法、授業の進め方等の説明 課題：英語の質問に対する回答の作成（個人ごとで提出）	

第2回	Self-introduction	Explanation, Listening, Conversation Practice 会話文はペアで練習する。Exercisesもペアで回答する。 課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第3回	Family	Explanation, Listening, Conversation Practice 会話文はペアで練習する。Exercisesもペアで回答する。 課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第4回	Campus Life	Explanation, Listening, Conversation Practice 会話文はペアで練習する。Exercisesもペアで回答する。 課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第5回	Hobbies	Explanation, Listening, Conversation Practice 会話文はペアで練習する。Exercisesもペアで回答する。 課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第6回	Subjects at University	Explanation, Listening, Conversation Practice 会話文はペアで練習する。Exercisesもペアで回答する。 課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第7回	Club Activities	Explanation, Listening, Conversation Practice 会話文はペアで練習する。Exercisesもペアで回答する。 課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第8回	Pets	Explanation, Listening, Conversation Practice 会話文はペアで練習する。Exercisesもペアで回答する。 課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第9回	Traveling	Explanation, Listening, Conversation Practice 会話文はペアで練習する。Exercisesもペアで回答する。 課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。

第10回	Music	Explanation, Listening, Conversation Practice 会話文はペアで練習する。Exercisesもペアで回答する。 課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第11回	Sports	Explanation, Listening, Conversation Practice 会話文はペアで練習する。Exercisesもペアで回答する。 課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第12回	Part-time Job	Explanation, Listening, Conversation Practice 会話文はペアで練習する。Exercisesもペアで回答する。 課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第13回	Watching TV	Explanation, Listening, Conversation Practice 会話文はペアで練習する。Exercisesもペアで回答する。 課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第14回	Cooking	Explanation, Listening, Conversation Practice 会話文はペアで練習する。Exercisesもペアで回答する。 課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第15回	Review	Course Reviewing	復習90分：コース全体の既習内容の復習をするので、配布資料を確認し、まとめておくこと。

教科書

Listen and Speak in English （三修社）

参考書

Internet Materials （毎回映画のセリフなどの聞き取りをする）

成績評価の方法・基準

単位認定 60点以上
筆記試験：50%、
課題、授業参加度等:50%

**課題等に対する
フィードバックの方法**

課題は次回の週に返却し、共通する間違い等について説明するので、指摘内容を理解して以後間違いの無いようにすること。

履修のポイント

ペアワークでの課題や授業での積極性（授業参加度）が最終評価に影響するので積極的に授業に

臨むことが必要。
オフィス・アワー
授業の前後の時間が可能。

講義コード	20220002
講義名	実践英会話（Bクラス）
(副題)	【教職必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	３時限
区分	学部共通科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UM-C031
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 野中 博雄	指定なし

授業の概要と教育目標

テキストのトピックに応じた英会話表現やインターネットネットで映画のセリフの英会話表現を活用して実生活に必要な英会話表現をペア・ワークで学習する。さらに、インターネットやプリント資料などで時事的なトピックスや栄養学科専攻学生に必要な英会語表現も学習する。本科目は様々な状況で実践的に応用できる英会話表現を習得することを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

栄養学科のディプロマ・ポリシーの１つである「人間に対して、社会・環境・コミュニケーションなどの諸側面から理解している」ことを目指し、テキストとインターネットネット教材の学習を通して、英語の Listening と Reading の技能の向上を図りつつ、多くの実践的な英会話表現を学習する。さらに時事・文化的な表現も学習し、国際社会人として、外国文化の理解を深めることを目指す。

到達目標

1. 各種の状況に応じた英会話表現を習得する。
2. 栄養学分野での専門用語の英語を学習する。
3. インターネットで専門分野に関するトピックスを検索し、その内容を発表できるようにする。
4. 外国映画の会話表現と内容を理解する。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	Outline	Textbook, Course Outline, Grading System, Classroom Procedures 評価方法、授業の進め方等の説明 課題：英語の質問に対する回答の作成（個人ごとで提出）	

第2回	Self-introduction	Explanation, Listening, Conversation Practice 会話文はペアで練習する。Exercisesもペアで回答する。 課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第3回	Family	Explanation, Listening, Conversation Practice 会話文はペアで練習する。Exercisesもペアで回答する。 課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第4回	Campus Life	Explanation, Listening, Conversation Practice 会話文はペアで練習する。Exercisesもペアで回答する。 課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第5回	Hobbies	Explanation, Listening, Conversation Practice 会話文はペアで練習する。Exercisesもペアで回答する。 課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第6回	Subjects at University	Explanation, Listening, Conversation Practice 会話文はペアで練習する。Exercisesもペアで回答する。 課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第7回	Club Activities	Explanation, Listening, Conversation Practice 会話文はペアで練習する。Exercisesもペアで回答する。 課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第8回	Pets	Explanation, Listening, Conversation Practice 会話文はペアで練習する。Exercisesもペアで回答する。 課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第9回	Traveling	Explanation, Listening, Conversation Practice 会話文はペアで練習する。Exercisesもペアで回答する。 課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。

第10回	Music	Explanation, Listening, Conversation Practice 会話文はペアで練習する。Exercisesもペアで回答する。 課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第11回	Sports	Explanation, Listening, Conversation Practice 会話文はペアで練習する。Exercisesもペアで回答する。 課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第12回	Part-time Job	Explanation, Listening, Conversation Practice 会話文はペアで練習する。Exercisesもペアで回答する。 課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第13回	Watching TV	Explanation, Listening, Conversation Practice 会話文はペアで練習する。Exercisesもペアで回答する。 課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第14回	Cooking	Explanation, Listening, Conversation Practice 会話文はペアで練習する。Exercisesもペアで回答する。 課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第15回	Review	Course Reviewing	復習90分：コース全体の既習内容の復習をするので、配布資料を確認し、まとめておくこと。

教科書

Listen and Speak in English （三修社）

参考書

Internet Materials （毎回映画のセリフなどの聞き取りをする）

成績評価の方法・基準

単位認定 60点以上
筆記試験：50%、
課題、授業参加度等:50%

**課題等に対する
フィードバックの方法**

課題は次回の週に返却し、共通する間違い等について説明するので、指摘内容を理解して以後間違いの無いようにすること。

履修のポイント

ペアワークでの課題や授業での積極性（授業参加度）が最終評価に影響するので積極的に授業に

臨むことが必要。
オフィス・アワー
授業の前後の時間が可能。

講義コード	20230001
講義名	医療保健英語
(副題)	
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	木曜日
代表時限	５時限
区分	学部共通科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UM-C041
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 女鹿 喜治	指定なし

授業の概要と教育目標

私たちを取り巻く環境や食生活がますます急激に変動しつつあります。このような時代における心身の健康や食生活に関わる英文を読みます。一応、講義計画表通り進めていきますが、場合によっては、みなさんの英語力と予習の出来を見ながら進度を調節します。

卒業認定・学位授与の方針との関連

栄養に関わる基本的な英文を読み慣れて、将来、英語で書かれた専門的な論文などを読むことのできる下地を作る。

到達目標

栄養に関わる英文を読み、基本的な語彙と表現を習得する。TOEIC 550点程度を目指します。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	導入	ある程度専門的な英語を読めるようにするためにはどんなことをしなければならないのかを考えてみます。	
第2回	食生活と健康に関わる英文の購読	Nutrition equals life	予習：30分程度 復習：30分程度
第3回	〃	Nutrition as energy source	予習：30分程度 復

			習：30分程度
第4回	〃	What essential Nutritions we need?	予習：30分程度 復習：30分程度
第5回	〃	What's body made of?	予習：30分程度 復習：30分程度
第6回	〃	Introducing the digestive system and digestive organs	予習：30分程度 復習：30分程度
第7回	〃	Mechanical digestion and chemical digestion	予習：30分程度 復習：30分程度
第8回	〃	All aboard the nutrition express!	予習：30分程度 復習：30分程度
第9回	〃	Powerful protein	予習：30分程度 復習：30分程度
第10回	〃	A healthey body needs fat	予習：30分程度 復習：30分程度
第11回	〃	Carbohydrate and energy: how glucose becomes energy	予習：30分程度 復習：30分程度
第12回	〃	Vigorous vitamins	予習：30分程度 復

			習：30分程度
第13回	〃	Mighty Mineral	予習：30分程度 復習：30分程度
第14回	〃	You can't live without water	予習：30分程度 復習：30分程度
第15回	〃	Understand the difference between hunger and appetite	予習：30分程度 復習：30分程度

教科書

Nutrition For Dummies (Carol Ann Rinzler)の中から抜粋したプリントを配布しますので、テキストの購入は必要ありません。

参考書

教室で適宜指示します。

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上：試験の点数(80%)。教室での発言やその内容など(20%)。（履修人数が少なければ、平常点のみ。）

**課題等に対する
フィードバックの方法**

答案用紙は採点して返却するか、何らかの形で講評をコメントします。

履修のポイント

ここで語られている内容そのものは栄養学を勉強している学生なら既に知っているものかもしれません。英語そのものは難しく感じても、そのような場合、意外に読みやすいものです。恐れずにチャレンジしてみてください。大雑把でいいですから、事前に英文を読んで、内容を把握しておいてください。そして、講義の後には、その英語が英語のままで左か右にそのまま頭の中に入ってくるまで何度も読んでください。こういった積み重ねが英語力を高めます。

オフィス・アワー

基本的には、私の空いた時間ならいつでも来室してください。ただ、それなりの話をするつもりなら、予約を取ってください。

講義コード	20240001
講義名	英書講読
(副題)	
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	木曜日
代表時限	２時限
区分	学部共通科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UM-C042
学年	3学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 野中 博雄	指定なし

授業の概要と教育目標

Quality of Life (Making Smart, Healthy Choices) のテキストを使用し、食・健康や社会環境に関する英文に触れ、英文読解能力を高める。毎回、英文理解の方法、英文和訳の方法についても様々な視点から説明をする。本科目では英文理解の方法についての理解を深め、食・健康や社会環境に関する英文を読解して理解を深めることを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

栄養学科のディプロマ・ポリシーの１つである「人間に対して、社会・環境・コミュニケーションなどの諸側面から理解している」ことを目指し、テキストとインターネットネット教材の学習を通して、「人間に対して、社会・環境・コミュニケーションなどの諸側面」についてのトピックスに関する知識を深め、さらに英文理解、英文和訳の方法についての理解も深めることを目指す。

到達目標

1. 一般的な英文、専門分野の英文、表、グラフ等の読解能力を高める。
2. 多くの医療・保健分野の英文に触れ、英文理解を線的理解によって読解する技術を得る。
3. パラグラフでのキーワード、キーセンテンスを理解し、英文内容を要約できるようにする。
4. 英文理解を英文和訳の違いについて学ぶ。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	Outline	Textbook, Course Outline, Grading System, Classroom Procedures 評価方法、授業の進め方等の説明	
	Slowing Down in a Fast-food World	Vocabulary, Useful Expressions, Readin g ① 英文理解と英文和訳の方	予習90分：教科書該当範囲の単語、

第2回	何をどう食べるかー健康、地球環境	法 ①	表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第3回	Slowing Down in a Fast-food World 何をどう食べるかー健康、地球環境	Reading ②, Reading Comprehension, Listening Practice, Further Practice 英文理解と英文和訳の方法 ②	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第4回	Laugh Your Troubles Away 笑って健康	Vocabulary, Useful Expressions, Readin g ① 英文理解と英文和訳の方法 ①	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第5回	Laugh Your Troubles Away 笑って健康	Reading ②, Reading Comprehension, Listening Practice, Further Practice 英文理解と英文和訳の方法 ②	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第6回	Is It Possible to Be Too Clean? 清潔すぎる環境がアレルギーの原因に？	Vocabulary, Useful Expressions, Readin g ① 英文理解と英文和訳の方法 ①	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第7回	Is It Possible to Be Too Clean? 清潔すぎる環境がアレルギーの原因に？	Reading ②, Reading Comprehension, Listening Practice, Further Practice 英文理解と英文和訳の方法 ②	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第8回	Sleep: How Much Is Too Much? 健康な生活のための睡眠時間	Vocabulary, Useful Expressions, Readin g ① 英文理解と英文和訳の方法 ①	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第9回	Sleep: How Much Is Too Much? 健康な生活のための睡眠時間	Reading ②, Reading Comprehension, Listening Practice, Further Practice 英文理解と英文和訳の方法 ②	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第10回	Save Your Life and Others' 乳がんとピンクリボン運動	Vocabulary, Useful Expressions, Readin g ① 英文理解と英文和訳の方法 ①	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第11回	Save Your Life and Others' 乳がんとピンクリボン運動	Reading ②, Reading Comprehension, Listening Practice, Further Practice 英文理解と英文和訳の方法 ②	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第12回	Alcohol on the Brain アルコールと脳容積の関係	Vocabulary, Useful Expressions, Readin g ① 英文理解と英文和訳の方法 ①	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。

第13回	Alcohol on the Brain アルコールと脳容積の関係	Reading ②, Reading Comprehension, Listening Practice, Further Practice 英文理解と英文和訳の方法 ②	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第14回	The Dangers of Cannabis 若者に拡がる大麻汚染	Vocabulary, Useful Expressions, Readin g ① 英文理解と英文和訳の方法 ①	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第15回	Review	Course Reviewing	復習90分：コース全体の既習内容の復習をするので、配布資料を確認し、まとめておくこと。

教科書

Quality of Life (Making Smart, Healthy Choices) 南雲堂

参考書

Internet Materials （トピックスに関連したサイトを見る）

成績評価の方法・基準

単位認定 60点以上
授業での課題、期末課題、授業参加度等による評価

**課題等に対する
フィードバックの方法**

課題は次回の週に返却し、共通する間違い等について説明するので、指摘内容を理解して以後間違いの無いようにすること。

履修のポイント

課題や授業での積極性（授業参加度）が最終評価に影響するので積極的に授業に臨むことが必要。

オフィス・アワー

授業の前後の時間が可能。

講義コード	20250001
講義名	中国語
(副題)	
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	５時限
区分	学部共通科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UM-C032
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教 員	◎ 佐々木 百合	指定なし

授業の概要と教育目標

中国語を初めて学習する者を対象にした授業です。教科書に沿って中国語の発音の基礎となる声調とピンインの発音練習から行います。また、中国語の基礎的な単語や慣用句、文法を学び、日常会話までを目指します。そして、隣国中国の文化が古くから日本文化に大きな影響を与えてきたことの理解をいっそう深めることです。
将来様々な職業に従事し、一般社会において中国人と接した時、中国語で積極的に交流ができること。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマポリシーとの関連で、社会・環境・コミュニケーションなどの諸側面から人間に対する理解を深めることを目標としている。外国人増加と国際化を背景に、コミュニケーションツールとして最低限の中国語会話能力を養成することを目指すものとする。

到達目標

中国語の正しい発音と簡単なあいさつから日常会話までの読む・聴く・話す・書くを総合的にバランスよく習得する。基礎的な単語を覚え、基礎的な文法を理解することで、簡単な中国語の表現ができることを目標とします。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	発音1	声調・単母音・発音練習	予習(15分)：発音の予習を行う 復習(30分)：文法の復習を行う
第2回	発音2	子音・複合母音・発音練習	予習(15分)：発音の予習を行う

			復習(30分)：文法の復習を行う
第3回	発音3	ピンインの組み合わせ・発音のまとめ	予習(15分)：発音の予習を行う 復習(30分)：文法の復習を行う
第4回	第1課 挨拶と自己紹介	人称代名詞・「是」の文・単語の発音練習・会話文の解説・トレーニング	予習(15分)：発音の予習を行う 復習(30分)：文法の復習を行う
第5回	第2課 疑問文	指示代名詞1・疑問詞疑問文・「的」の用法・副詞「也」の用法・単語の発音練習・会話文の解説・トレーニング	予習(15分)：発音の予習を行う 復習(30分)：文法の復習を行う
第6回	第3課 動詞の文	所有を表す「有」・省略疑問の「呢」・単語の発音練習・会話文の解説・トレーニング	予習(15分)：発音の予習を行う 復習(30分)：文法の復習を行う
第7回	第4課 形容詞の文	量詞・指示代名詞2・形容詞の文・「几」と「多少」・単語の発音練習・会話文の解説・トレーニング	予習(15分)：発音の予習を行う 復習(30分)：文法の復習を行う
第8回	第5課 数のいろいろ	数字・日付時刻を表す語・動作の時点を言う表現・単語の発音練習・会話文の解説・トレーニング	予習(15分)：発音の予習を行う 復習(30分)：文法の復習を行う
第9回	第6課 完了・所在のアスペクト	完了を表す「了」・所在を表す「在」・助動詞1「想」・単語の発音練習・会話文の解説・トレーニング	予習(15分)：発音の予習を行う 復習(30分)：文法の復習を行う
第10回	第7課 介詞の用法（1）	介詞1「在」「离」・存在を表す「有」・反復疑問文・単語の発音練習・会話文の解説・トレーニング	予習(15分)：発音の予習を行う 復習(30分)：文法の復習を行う
第11回	第8課 介詞の	介詞2「从」・助動詞2「得」・「時間量」・単語の	予習(15分)：発音の予習を行う

	用法（2）	発音練習・会話文の解説・トレーニング	復習(30分)：文法の復習を行う
第12回	第9課 介詞の用法（3）	介詞３「跟，給」・過去の経験を表す「　」・「是～的」文・単語の発音練習・会話文の解説・トレーニング	予習(15分)：発音の予習を行う 復習(30分)：文法の復習を行う
第13回	総復習	単語と文法のまとめ	予習(15分)：発音の予習を行う 復習(30分)：文法の復習を行う
第14回	試験範囲の問題	総合練習	予習(15分)：発音の予習を行う 復習(30分)：文法の復習を行う
第15回	まとめと解説	試験および解説	予習(15分)：発音の予習を行う 復習(30分)：文法の復習を行う

教科書

＜最新２訂版＞中国語はじめの一歩 尹景春・竹島毅 著 白水社

参考書

特になし

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上授業中の問答に１０％、期末試験を９０％として、合計６０％以上を合格とします。

**課題等に対する
フィードバックの方法**

課題に対する質問や解答例を次回の授業で詳細に解説を行う。

履修のポイント

中国語を母国語とする学生の履修は認めません。授業中は中国の様々なことについてたくさん質問して下さい。

オフィス・アワー

授業日の授業開始前もしくは終了後に教室等で質問に応じます。

講義コード	20260001
講義名	スペイン語
(副題)	
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	木曜日
代表時限	５時限
区分	学部共通科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UM-C025
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教 員	◎ 伊勢島 セリア 明美	指定なし

授業の概要と教育目標

モデル会話の文型を確認しながら、リスニングを含む練習問題に答えて頂きます。
授業の後半はミニ会話を発表して頂き、初級会話の養成を目標とします。
適宜、音楽を初め、ラテン文化も紹介します。

卒業認定・学位授与の方針との関連

国際化が急速に進む社会環境で、言語を通して多文化に
親しみを感じることを目指します。

到達目標

初歩的な会話能力を身に付けると同時に異文化理解を深めることを目標とします。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）
第1回	¿Qué tal？	アルファベット、挨拶
第2回	Yo soy Carmen.	動詞ser、否定形、単語力UP: 国名、国籍
第3回	¿Eres tú japonés？	疑問文と答え方
第4回	Él es mi hermano.	所有形容詞、単語力UP: 家族
第5回	Tu hermana es muy guapa.	指示詞、単語力UP：形容詞①
第6回	¿Qué es esto？	不定冠詞、指示形容詞、単語力UP：形容詞②
第7回	Yo ceno a las 8.	時間を表す表現、数詞①
第8回	Yo tengo 18 años.	動詞tener、数詞②
第9回	¿Dónde está Roxana？	動詞estar、前置詞en
第10回	¿Eres tú estudiante？	前置詞de、単語力UP：学部、職業
第11回	Yo trabajo todos los días.	現在形-ar、前置詞con
第12回	Ella corre los domingos.	現在形-er, -ir、曜日

第13回	Yo voy a la biblioteca.	動詞ir、未来形
第14回	¿Trabajaste tú ayer？	過去形-ar, -er, -ir、月の名前
第15回	Yo tengo dolor de estómago.	症状の表現

教科書
教材プリントを配布します。
参考書
桜庭雅子・貫井一美「しっかり学ぶスペイン語」 ベル出版
成績評価の方法・基準
単位認定：６０点以上 小テスト（８０%）会話発表（２０%）で１００%評価
課題等に対する フィードバックの方法
基本文型の復習及び動詞の活用の確認
履修のポイント
学習した文型の応用を広めること
オフィス・アワー
授業終了後に質問を受け付けます。

講義コード	20270001
講義名	ポルトガル語
(副題)	
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	火曜日
代表時限	５時限
区分	学部共通科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UM-C024
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教 員	◎ 伊勢島 セリア 明美	指定なし

授業の概要と教育目標

基本文法を取り上げた後、練習問題を通して学習を確認します。
授業の後半は口頭練習及びリスニングを行い、
初級会話の養成を目標とします。
適宜、ポルトガル語圏の文化も紹介したいと思います。

卒業認定・学位授与の方針との関連

国際化が急速に進む社会環境で、言語を通して多文化に
親しみを感じることを目指します。

到達目標

挨拶を初め、初歩の会話を身につけると同時に異文化理解を目標とします。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）
第1回	Qual é o seu nome?	アルファベット、挨拶、基本構文
第2回	Eu sou japonês.	動詞ser、否定文、疑問文、出身地を表す前置詞de
第3回	Meu pai é professor.	所有形容詞とその変化
第4回	Meu irmão é alto.	形容詞とその変化
第5回	O português é mais difícil do que o japonês?	定冠詞、比較の表現
第6回	Quantos anos você tem?	動詞ter、数詞、名詞の数
第7回	Eu gosto de estudar.	動詞gostar、動詞preferir
第8回	Eu quero um computador preto.	不定冠詞、動詞querer、色の名前
第9回	Meu celular está na bolsa.	動詞estar、場所を表す前置詞em
第10回	Meu amigo vai à biblioteca.	動詞ir、方向を表す前置詞a、交通手段を表す前置詞de

第11回	A que horas você acorda?	ar動詞の現在形、時間の表現
第12回	Ela entende português.	er動詞の現在形、同伴を表す前置詞com
第13回	Eu abro e-mail todos os dias.	ir動詞の現在形、月の名前
第14回	Ele estudou português.	完全過去形、時を表す前置詞em、曜日の名前
第15回	Escreveremos uma carta.	未来形

教科書

教材プリントを配布します。

参考書

初級ブラジルポルトガル語
深沢暁著 東洋書店

成績評価の方法・基準

単位認定：６０点以上
小テスト（８０%）会話発表（２０%）で１００%評価

**課題等に対する
フィードバックの方法**

動詞の活用及び前置詞の変化の確認

履修のポイント

練習問題及び会話発表に積極的に取り組むこと

オフィス・アワー

授業日の授業終了後に教室で相談に応じます。

講義コード	20280001
講義名	統計学
(副題)	
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	火曜日
代表時限	２時限
区分	学部共通科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UM-C010
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 石井 広二	指定なし

授業の概要と教育目標

統計学は、偶然に起きると思われる事象から得られるデータを、数表化、視覚化したり、数学的道具を用いてより科学的に分析したりして、その集団の特徴や傾向を把握し、その結果を人間の活動や社会生活に広く役立てていくことを目的としている。そのためにこの授業は、統計学の概念を理解し、科学的に考え、分析するための基礎的な見方を身につけることを目標にし、必要となる統計的手法について、記述統計から推測統計まで演習を通して学ぶ。
また、授業ではグループでの学び合いも取り入れたい。予習・復習ではMoodleを活用する予定である。

卒業認定・学位授与の方針との関連

この授業は、医療保健学部看護学科DPの「人間に対して、社会・環境・コミュニケーションなどの諸側面から理解」を目指し、社会において数値や図表として表現されているデータの持っている意味を様々な側面から分析できるような力を養う。その上で、専門的な科目での人間の健康に対する科学的な理解を行うための知識や技術の基礎を身に付ける。

到達目標

・統計学の概念を理解する
・標本を抽出し、度数分布表が作成できる
・データを集計し、各種統計量を求められる
・正規分布などの確率分布の特性を理解する
・母平均などの推定が行える
・統計的仮説検定の考え方を理解し、実際に母平均の検定などが行える

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	統計学とは（１）	母集団や標本などの統計学の基本概念と数学知識の確認、電卓の使用方法 【電卓を持参すること】	予習90分：高校の数学「データの分析」について、教科書等で確認 復習90分：教科書および配布教材の見直し

第2回	統計学とは（２）	標本抽出、度数分布表の作り方 課題	予習90分：教科書p17～36を読む 復習90分：教科書および配布教材の見直し、課題を解く
第3回	標本分布の特性値（１）	中心的傾向の特性値（平均、中央値、最頻値など）の求め方	予習90分：教科書p49～62を読む 復習90分：教科書および配布教材の見直し
第4回	標本分布の特性値（２）	変動の特性値（不偏分散、標準偏差など）の求め方 課題 【アクティブラーニングの内容】 グループワーク：課題の検討	予習90分：教科書p63～71を読む 復習90分：教科書および配布教材の見直し、課題を解く
第5回	前半のまとめ	確認テスト①	予習90分：教科書の～ｐ76までの範囲 復習90分：教科書および配布教材の見直し
第6回	確率分布	確率分布の性質について （確率ｐ78～88については、授業中扱いませんので、各自で学習してください）	予習90分：教科書p77～101を読む 復習90分：教科書および配布教材の見直し
第7回	正規分布	正規分布の性質や標準化、標準正規分布表の見方などについて 課題 【アクティブラーニングの内容】 グループワーク：課題の検討	予習90分：教科書p107～130を読む 復習90分：教科書および配布教材の見直し、課題を解く
第8回	標本平均の分布	統計的有意性（有意水準、信頼係数など）と 標本平均の分布、中心極限定理、推定方法の基本的な考え方	予習90分：教科書p131～138を読む 復習90分：教科書および配布教材の見直し
第9回	母平均の推定（１）	正規分布と母平均の推定 課題 【アクティブラーニングの内容】 グループワーク：課題の検討	予習90分：教科書p139～150を読む 復習90分：教科書および配布教材の見直し、課題を解く
第10回	母平均の推定（２）	t分布と母平均の推定 課題	予習90分：教科書第6章を読む 復習90分：教科書および配布教材の見直し、課題を解く
第11回	母平均の推定（３）	母平均の推定のまとめ	予習90分：配布教材を読む 復習90分：教科書および配布教材の見直し
第12回	仮説検定（１）	統計的仮説検定の考え方（有意水準、有意確率、棄却域、仮説）	予習90分：配布教材・教科書第8章を読む 復習90分：教科書および配布教材の見直し
第13回	仮説検定（２）	母平均に関する仮説検定の方法 課題 【アクティブラーニングの内容】 グループワーク：課題の検討	予習90分：配布教材・教科書第8章を読む 復習90分：教科書および配布教材の見直し、課題を解く
			予習90分：配布教材・教科書

第14回	仮説検定（３）	母平均に関する仮説検定のまとめ 課題	第8章を読む 復習90分：教科書および配布教材の見直し、課題を解く
第15回	まとめ	講義のまとめ、確認テスト②	予習90分：教科書・配布教材の見直し 復習90分：授業全体の振り返り

教科書

「はじめての統計学」鳥居泰彦（日本経済新聞社）

参考書

「管理栄養士・栄養士のための統計処理入門」武藤志真子編著（建帛社）「完全独習統計学入門」小島寛之（ダイヤモンド社）「マンガでわかる統計学」高橋信（オーム社）など

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上。課題への取り組み30%、確認テスト70%。

課題等に対する
フィードバックの方法

確認テストについて、返却をしますので、参考にしてください。
課題については解答を明らかにしますので、各自で確認し、疑問点は質問してください。

履修のポイント

数学的な理論には深入りせず、なるべく具体例で統計学の考え方を身に付けられるように配慮していく予定であるが、理解のため演習課題は必ず自分で解くこと。
・講義には【電卓】『平方根の機能がついたもの！』を持参すること。
・課題については必ず自分の力で解き、疑問点などは質問すること（その際Moodleを積極的に利用すること）
・授業に欠席（公欠も含む）した場合は、授業の課題等を確認すること

オフィス・アワー

火曜日の昼休み。それ以外の曜日・時間については、授業の際に伝える。また、研究室は9号館3階第11研究室。

講義コード	20290001
講義名	情報処理基礎演習（Aクラス）
(副題)	【教職必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	木曜日
代表時限	３時限
区分	学部共通科目
必修/選択	必修
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UM-R011
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 石井 広二	指定なし

授業の概要と教育目標

我々の生活やビジネスが情報化によってどのように変化しているか、コンピュータやネットワークの利用を通して理解し、積極的に関わっていく態度を養成する。ここではPCの基本操作やアプリケーションソフトの入門を中心に、インターネットを利用しての情報検索・コミュニケーションなどについても学ぶ。
そのため、コンピュータやオフィスなどのアプリケーションソフト、インターネットなどの基本的な操作方法を理解することで、今後の学習や研究の基盤として活用できるようになることを目標とする。
また、授業ではMoodleを活用する予定である。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のDP「人間に対して、社会・環境・コミュニケーションなどの諸側面から理解している」に関連し、「人間」に対して、社会・コミュニケーションを特に情報化を通して理解し、専門的な科目での人間の健康に対する科学的な理解を行うための知識や技術の基礎を身に付ける。

到達目標

・Windows及びオフィスソフトの基本的な使用法を理解している
・オフィスソフトを活用し、自分のレポートや課題を進められる
・インターネットを利用して情報の検索・収集・整理がおこなえる
・情報倫理に配慮した資料を作成して、効果的なプレゼンテーションがおこなえる

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	ガイダンス PCの操作方法	基礎知識、Windowsの基本操作、諸注意 （ネットワークの利用、学習システム、電子メールの活用）	予習45分：配布資料を確認 復習45分：各種システムのアクセス方法について復習
	Wordの操	ネットワークの利用について、Wordの基礎知識・文書の作成	予習45分：教科書序

第2回	作(1)	練習問題 レポート課題：食に関するレポート作成	章・1章・2章1-3確認 復習45分：教科書の実習問題
第3回	Wordの操作(2)	表の作成、文書の編集 練習問題	予習45分：教科書2章4-5の確認 復習45分：教科書の実習問題
第4回	Wordの操作(3)	Wordでグラフィックの利用 練習問題	予習45分：教科書2章6の確認 復習45分：教科書の実習問題
第5回	Wordの操作(4)	論文やレポートの作成、課題の作成 レポート課題の完成	予習45分：教科書2章7の確認 復習45分：教科書の実習問題
第6回	PowerPointの操作(1)	PowerPointの基礎知識 課題：各自で考えた企画のプレゼンテーション プレゼンテーション資料の情報収集	予習45分：教科書4章1-2の確認 復習45分：教科書の実習問題
第7回	PowerPointの操作(2)	表・図などオブジェクトを利用してのスライドの作成 プレゼンテーション資料の作成	予習45分：教科書4章3-5の確認 復習45分：教科書の実習問題
第8回	PowerPointの操作(3)	その他の機能、プレゼンテーション資料の作成 発表シナリオ等準備	予習45分：教科書4章6-7の確認 復習45分：教科書の実習問題
第9回	プレゼンテーション(1)	【アクティブラーニングの内容】 各自が作成した資料をもとにプレゼンテーションを行う 自己評価・相互評価を行う	予習45分：プレゼンテーション資料の確認 復習45分：プレゼンテーションの振り返り
第10回	プレゼンテーション(2)	【アクティブラーニングの内容】 各自が作成した資料をもとにプレゼンテーションを行う 自己評価・相互評価を行う	予習45分：プレゼンテーション資料の確認 復習45分：プレゼンテーションの振り返り
第11回	Excelの操作(1)	Excelの基礎知識、書式設定 練習問題	予習45分：教科書3章1-3の確認 復習45分：教科書の実習問題
第12回	Excelの操作(2)	見やすい表の作成、関数の利用 練習問題	予習45分：教科書3章3-5の確認 復習45分：教科書の実習問題
第13回	Excelの操作(3)	グラフの作成 練習問題	予習45分：教科書3章6の確認 復習45分：教科書の実習問題
第14回	Excelの操作(4)	データベースの利用、ソフトウェアの統合的活用 練習問題	予習45分：教科書3章7-8の確認 復習45分：教科書の実習問題
第15回	Excelの操作(5)	Excelのまとめと確認テスト	予習45分：教科書3章全体の確認 復習45分：授業全体の振り返り

教科書

「30時間アカデミック情報リテラシーOffice2016」（実教出版）杉本くみ子・大澤栄子

参考書

その他市販のOffice関連書籍やWebを参考にしてください。

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上。Word課題30%、プレゼンテーション（資料・発表）30%、Excel確認テスト30%、その他課題10%。
課題等に対する フィードバックの方法
課題については、学習者の相互評価を実施します。その状況について、Moodleもしくは口頭でコメントを行いますので、参考にしてください。
履修のポイント
コンピュータを利用する機会を増やし、慣れることが重要です。また授業ではMoodleを活用し、オンラインでファイルの提出などを行いますが、可能ならば各自のデータを保存するためのUSBフラッシュメモリを用意しておくとよいでしょう。 Moodleには積極的にアクセスし、理解を深めてください。 欠席（公欠含む）した場合、課題等の確認をすること。
オフィス・アワー
火曜日の昼休み。それ以外の曜日・時間については、授業の際に伝える。また、研究室は9号館3階第11研究室。

講義コード	20290002
講義名	情報処理基礎演習（Bクラス）
(副題)	【教職必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	３時限
区分	学部共通科目
必修/選択	必修
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UM-R011
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 石井 広二	指定なし

授業の概要と教育目標

我々の生活やビジネスが情報化によってどのように変化しているか、コンピュータやネットワークの利用を通して理解し、積極的に関わっていく態度を養成する。ここではPCの基本操作やアプリケーションソフトの入門を中心に、インターネットを利用しての情報検索・コミュニケーションなどについても学ぶ。
そのため、コンピュータやオフィスなどのアプリケーションソフト、インターネットなどの基本的な操作方法を理解することで、今後の学習や研究の基盤として活用できるようになることを目標とする。
また、授業ではMoodleを活用する予定である。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のDP「人間に対して、社会・環境・コミュニケーションなどの諸側面から理解している」に関連し、「人間」に対して、社会・コミュニケーションを特に情報化を通して理解し、専門的な科目での人間の健康に対する科学的な理解を行うための知識や技術の基礎を身に付ける。

到達目標

・Windows及びオフィスソフトの基本的な使用法を理解している
・オフィスソフトを活用し、自分のレポートや課題を進められる
・インターネットを利用して情報の検索・収集・整理がおこなえる
・情報倫理に配慮した資料を作成して、効果的なプレゼンテーションがおこなえる

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	ガイダンス PCの操作方法	基礎知識、Windowsの基本操作、諸注意 （ネットワークの利用、学習システム、電子メールの活用）	予習45分：配布資料を確認 復習45分：各種システムのアクセス方法について復習
	Wordの操	ネットワークの利用について、Wordの基礎知識・文書の作成	予習45分：教科書序

第2回	作(1)	練習問題 レポート課題：食に関するレポート作成	章・1章・2章1-3確認 復習45分：教科書の実習問題
第3回	Wordの操作(2)	表の作成、文書の編集 練習問題	予習45分：教科書2章4-5の確認 復習45分：教科書の実習問題
第4回	Wordの操作(3)	Wordでグラフィックの利用 練習問題	予習45分：教科書2章6の確認 復習45分：教科書の実習問題
第5回	Wordの操作(4)	論文やレポートの作成、課題の作成 レポート課題の完成	予習45分：教科書2章7の確認 復習45分：教科書の実習問題
第6回	PowerPointの操作(1)	PowerPointの基礎知識 課題：各自で考えた企画のプレゼンテーション プレゼンテーション資料の情報収集	予習45分：教科書4章1-2の確認 復習45分：教科書の実習問題
第7回	PowerPointの操作(2)	表・図などオブジェクトを利用してのスライドの作成 プレゼンテーション資料の作成	予習45分：教科書4章3-5の確認 復習45分：教科書の実習問題
第8回	PowerPointの操作(3)	その他の機能、プレゼンテーション資料の作成 発表シナリオ等準備	予習45分：教科書4章6-7の確認 復習45分：教科書の実習問題
第9回	プレゼンテーション(1)	【アクティブラーニングの内容】 各自が作成した資料をもとにプレゼンテーションを行う 自己評価・相互評価を行う	予習45分：プレゼンテーション資料の確認 復習45分：プレゼンテーションの振り返り
第10回	プレゼンテーション(2)	【アクティブラーニングの内容】 各自が作成した資料をもとにプレゼンテーションを行う 自己評価・相互評価を行う	予習45分：プレゼンテーション資料の確認 復習45分：プレゼンテーションの振り返り
第11回	Excelの操作(1)	Excelの基礎知識、書式設定 練習問題	予習45分：教科書3章1-3の確認 復習45分：教科書の実習問題
第12回	Excelの操作(2)	見やすい表の作成、関数の利用 練習問題	予習45分：教科書3章3-5の確認 復習45分：教科書の実習問題
第13回	Excelの操作(3)	グラフの作成 練習問題	予習45分：教科書3章6の確認 復習45分：教科書の実習問題
第14回	Excelの操作(4)	データベースの利用、ソフトウェアの統合的活用 練習問題	予習45分：教科書3章7-8の確認 復習45分：教科書の実習問題
第15回	Excelの操作(5)	Excelのまとめと確認テスト	予習45分：教科書3章全体の確認 復習45分：授業全体の振り返り

教科書

「30時間アカデミック情報リテラシーOffice2016」（実教出版）杉本くみ子・大澤栄子

参考書

その他市販のOffice関連書籍やWebを参考にしてください。

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上。Word課題30%、プレゼンテーション（資料・発表）30%、Excel確認テスト30%、その他課題10%。
課題等に対する フィードバックの方法
課題については、学習者の相互評価を実施します。その状況について、Moodleもしくは口頭でコメントを行いますので、参考にしてください。
履修のポイント
コンピュータを利用する機会を増やし、慣れることが重要です。また授業ではMoodleを活用し、オンラインでファイルの提出などを行いますが、可能ならば各自のデータを保存するためのUSBフラッシュメモリを用意しておくとよいでしょう。 Moodleには積極的にアクセスし、理解を深めてください。 欠席（公欠含む）した場合、課題等の確認をすること。
オフィス・アワー
火曜日の昼休み。それ以外の曜日・時間については、授業の際に伝える。また、研究室は9号館3階第11研究室。

講義コード	20300001
講義名	情報処理応用演習
(副題)	【教職必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	金曜日
代表時限	２時限
区分	学部共通科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UM-C026
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 石井 広二	指定なし

授業の概要と教育目標

コンピュータの基本的な操作方法はすでに習得したものとして、基礎的な内容から発展させ、学習や研究に役立てられるよう、より実践的な形での活用する方法を学ぶ。具体的には、PCとインターネットを活用して情報の収集・整理を行なう方法や、表計算ソフトを用いての統計的な処理の仕方、さらにメディアを利用した情報のまとめ方とのその提示や発信方法について演習を行なう。
これらの演習を通して、授業の課題や研究などで、コンピュータを利用し科学的に分析できるスキルを身につけ、情報の発信が行えるような情報活用力を身につけることを目標とする。
また、授業ではMoodleを活用し、後半はグループによる作業を行う予定である。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のDP「人間に対して、社会・環境・コミュニケーションなどの諸側面から理解している」に関連し、「人間」に対して、社会・コミュニケーションを、特にPCを利用した分析力・表現力を通して理解し、専門的な科目での人間の健康に対する科学的な理解を行うための知識や技術の基礎を身に付ける。

到達目標

・Excelを利用した統計的処理の方法を理解している
・Excelを利用して課題の統計処理を行える
・Webを利用した情報の検索・収集・整理ができる
・メディアそれぞれの特性を理解している
・様々なメディアを利用した情報のまとめ方・発信の仕方がわかる

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	Excelによる統計処理（1）	度数分布表、平均値、標準偏差	予習60分：教科書第1章～3章を確認 復習60分：理解度チェックの問題
	Excelによる		予習60分：教科書第4章

第2回	統計処理（2）	グラフによるデータのまとめ方	を確認 復習60分：理解度チェックの問題
第3回	Excelによる統計処理（3）	散布図と相関係数	予習60分：教科書第5章を確認 復習60分：理解度チェックの問題
第4回	Excelによる統計処理（4）	回帰直線	予習60分：教科書第6章を確認 復習60分：理解度チェックの問題
第5回	Excelによる統計処理（5）	確率分布とその数表	予習60分：教科書第8章を確認 復習60分：理解度チェックの問題
第6回	Excelによる統計処理（6）	区間推定	予習60分：教科書第9章を確認 復習60分：理解度チェックの問題
第7回	Excelによる統計処理（7）	仮説検定(1)	予習60分：教科書第10章を確認 復習60分：理解度チェックの問題
第8回	Excelによる統計処理（8）	仮説検定(2)	予習60分：教科書第11章を確認 復習60分：理解度チェックの問題
第9回	Excelによる統計処理（9）	クロス集計と独立性の検定	予習60分：教科書第7章・12章を確認 復習60分：理解度チェックの問題
第10回	Excelによる統計処理（10）	まとめの確認テスト 分析課題：データをもとに各自で分析レポートを作成	予習60分：教科書第15章を確認 復習60分：課題
第11回	情報の収集と編集、発信(1)	メディア編集の基礎(1) 【アクティブラーニングの内容】 グループ課題：各グループでマルチメディアコンテンツを作成	予習60分：Moodle資料を確認 復習60分：ソフトウェアの使用法確認
第12回	情報の収集と編集、発信(2)	メディア編集の基礎(2) 【アクティブラーニングの内容】 グループ課題の構想を練る	予習60分：Moodle資料を確認 復習60分：構想をもとにコンテンツの内容を検討
第13回	情報の収集と編集、発信(3)	マルチメディアによるコンテンツのまとめ方	予習60分：Moodle資料を確認 復習60分：コンテンツの収集・作成について検討
第14回	情報の収集と編集、発信(4)	マルチメディアによるコンテンツ作成	予習60分：Moodle資料を確認 復習60分：コンテンツ

			の完成と発表準備
第15回	情報の収集と編集、発信(5)	情報の発信、授業のまとめ 【アクティブラーニングの内容】 グループ発表：各グループで作成したコンテンツを発表、互いにコメントをおこなう 課題：授業を通して学んだことの振り返りレポート	予習60分：Moodle資料を確認 復習60分：授業の振り返り課題

教科書

Excelによる統計処理：「よくわかる統計学介護福祉・栄養管理データ編第2版」石村貞夫他（東京図書）

参考書

「管理栄養士・栄養士のための統計処理入門」武藤志真子編著（建帛社）、「栄養情報処理」水上茂樹（講談社）、「エクセル活用コメディカル統計テキスト」宮城重二（医歯薬出版）、「Excelで学ぶ統計解析」涌井良幸・涌井貞美（ナツメ社）、他適宜紹介する。

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上。確認テスト60%、課題とその取り組み40%。

課題等に対するフィードバックの方法

課題については、学習者の相互評価を実施します。その状況について、Moodleもしくは口頭でコメントを行いますので、参考にしてください。

履修のポイント

1年次の「情報処理基礎演習」と「統計学」を基礎にして授業を進めるため、理解が不十分な場合は各自で復習してください。また、教員免許取得には必修となっていることに注意してください。
Moodleに積極的にアクセスし、理解を深めること教科書の理解度チェック問題は必ず自分でやってみてください。
欠席（公欠含む）した場合、課題等の確認をすること。

オフィス・アワー

火曜日の昼休み。それ以外の曜日・時間については、授業の際に伝える。また、研究室は9号館3階第11研究室。

講義コード	20310001
講義名	文献検索とクリティーク
(副題)	
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	火曜日
代表時限	２時限
区分	学部共通科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UM-C043
学年	3学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 石井 広二	指定なし

授業の概要と教育目標

研究を進めていく際に、資料や文献を集めることが必要不可欠であることはいうまでもない。特に現在ではそれらの情報はインターネット上に電子的な情報として存在しているものも多くあるため、その情報を検索する方法を身に付けることが必要である。また、論文やレポートを作成するために必要な事柄について学び、さらに具体的な論文などの文章内容を批評的に読解することで、より深く理解することができる。
従ってこの授業では、科学論文などの資料の検索・収集する方法について理解し、実践し、また実際に論文の作成方法や構成・記述の仕方を身に付け、さらに論文に対する批評的な読解法についても身に付けることを目標としている。このような深い学びのために、グループディスカッションやプレゼンテーションなどの演習を取り入れて進めていく。
また、授業ではMoodleを活用する予定である。

卒業認定・学位授与の方針との関連

この授業は、医療保健学部栄養学科のDP「人間に対して、社会・環境・コミュニケーションなどの諸側面から理解」するために必要な科学的根拠となる資料の収集と批評的読解について身に付けることで、専門科目での科学的理解が行えるようになる力を養う。

到達目標

・レポートや論文作成のため資料の検索・収集・整理の方法を理解し、行える
・レポートや論文作成について基礎的な事柄を身に付け、作成ができる
・レポートや論文で作成した内容をプレゼンテーションできる
・レポートや論文に対する批評的な読解方法を理解し、実際に読解を行える

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	オリエンテーション	授業の概要や進め方の説明 （情報、エビデンス）	予習60分：シラバスの確認と教科書の0章と1章を読む 復習60分：資料の確認と振り返り

第2回	レポート・論文の作成(1)	レポート・論文の種類、基本構成、構造、課題の発見、ワークシートで全体の構成を考える 課題レポートの作成と相互評価	予習60分：教科書2章を読む 復習60分：資料の確認と振り返り、レポートのテーマを決める
第3回	文献・資料の集め方(1)	参考文献の役割、表記の方法、文献の種類と特徴	予習60分：Moodle資料を読む 復習60分：資料の確認と振り返り
第4回	文献・資料の集め方(2)	電子的な文献資料の集め方、本学図書館から医中誌、メディカルオンラインなどの活用方法（OPAC、リポジトリ、シソーラス） 課題：参考文献の検索	予習60分：教科書3章とMoodle資料を読む 復習60分：資料の確認と振り返り、レポートの資料を収集する
第5回	文献・資料の集め方(3)	その他の電子的な文献資料の集め方、管理の仕方（NDL-OPAC、PubMed）	予習60分：教科書4章とMoodle資料を読む 復習60分：資料の確認と振り返り
第6回	クリティカルシンキング(1)	クリティカルシンキングとは	予習60分：クリティカルシンキングを調べる 復習60分：資料の確認と振り返り
第7回	クリティカルシンキング(2)	文章の読解とクリティカルシンキング	予習60分：教科書5章を読む 復習60分：資料の確認と振り返り
第8回	論文の作成	レポート・論文作成の流れと基本的な書き方のルール	予習60分：教科書6章とMoodle資料を読む 復習60分：資料の確認と振り返り、レポートの構想を考える
第9回	クリティカルシンキング(3)	データ分析とクリティカルシンキング ワークシートをもとに課題レポートを文章にまとめる	予習60分：教科書7章を読む 復習60分：資料の確認と振り返り、レポート作成
第10回	レポート・論文の作成(2)	課題レポートを文章にまとめ、提出 【アクティブラーニングの内容】 課題レポートの相互評価	予習60分：レポートの提出準備 復習60分：資料の確認と振り返り
第11回	プレゼンテーション(1)	プレゼンテーション資料の作成	予習60分：教科書8章を読む 復習60分：資料の確認と振り返り
第12回	プレゼンテーション(2)	【アクティブラーニングの内容】 学生による発表とグループディスカッション（受講者の人数により、回数や内容を変更する場合があります）	予習60分：発表資料の確認 復習60分：発表の振り返り
第13回	プレゼンテーション(3)	【アクティブラーニングの内容】 学生による発表とグループディスカッション（受講者の人数により、回数や内容を変更する場合があります）	予習60分：発表資料の確認 復習60分：発表の振り返り
			予習60分：検討論文の

第14回	文献の検討(1)	学術論文の読解	準備 復習60分：資料の確認と振り返り
第15回	文献の検討(2)	【アクティブラーニングの内容】 学術論文等の読解発表、まとめ	予習60分：読解発表の準備 復習60分：授業全体の振り返り

教科書

山田剛史、林創：大学生のためのリサーチリテラシー入門、ミネルヴァ書房（予定）

参考書

日本栄養改善学会：栄養学を志す研究者のための論文の書き方・まとめ方、第一出版
山崎茂明、六本木淑恵：看護研究のための文献検索ガイド、日本看護協会出版局
佐藤望ほか： アカデミック・スキルズ(第2版)――大学生のための知的技法入門 、慶應義塾大学出版会
小笠原善康：最新版 大学生のためのレポート・論文術、講談社現代新書 他、授業中に紹介する

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上。課題レポート40%、プレゼンテーション20%、ディスカッションへの参加態度20%、その他の課題20%。

課題等に対するフィードバックの方法

授業中の課題に対して、個別もしくは全体にコメントをしますので、参考にしてください。また、Moodleによるフィードバックを行うこともあります。

履修のポイント

講義では、各自で課題の文章を読み、発表や検討をおこないながら進めていく予定です。欠席（公欠含む）した場合は、事後に授業内容について確認してください。

オフィス・アワー

火曜日の昼休み。それ以外の曜日・時間については、授業の際に伝える。また、研究室は9号館3階第11研究室。

講義コード	20320001
講義名	医療保健論
(副題)	
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	金曜日
代表時限	２時限
区分	専門基礎科目
必修/選択	必修
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UM-R120
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 髙橋 美砂子	指定なし

授業の概要と教育目標

地域社会は、保健医療の目的である「健康」に大きな影響力を有する。まず、地域社会のどのような要因が健康に影響を及ぼすかについて、自分が生活する地域の自然環境、生活環境、政治、風土、特産物等について知り、その要因について検討し、現状の保健医療福祉施策について学習する。その上で、地域社会で生活する住民の健康の維持・増進に必要な保健医療サービスについて考える。

卒業認定・学位授与の方針との関連

本学のディプロマ・ポリシーである医療保健分野に関する幅広い知識と確かな技術を修得するための序章としての科目であり、日本の国民健康づくり施策および身近な地域の健康づくり計画とその背景について理解する。社会環境の質としてのソーシャルキャピタル、社会とのつながり（ネットワーク）等をキーワードに地域を構成する人々の健康と保健医療福祉サービスの関連について理解・説明することができることを目指す。

到達目標

１．日本の健康づくり政策について理解できる ２．地域社会での暮らしと健康の関連が理解できる ３．健康な生活を送りための社会資源とその活用が理解できる ４．地域力と健康の関係が理解できる ５．これからの日本や身近な地域の保健医療問題を考えることができる

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	医療と保健(1)	・授業ガイダンス・日本の保健医療福祉の現状について 毎回書き込み資料（ワークノート）を配布します。授業内容を整理する。 【アクティブ・ラーニング】 日本の歳出入と社会保障費、医療費のことを自分の家計に例えて考えたとき、今後どうしたらよいのかディスカッション	〔予習60分〕日本の保健医療福祉に関する最近の話題を調べる 〔復習60分〕ワークノートを仕上げ、授業内容を整理する。わからないところは次回必ず質問する。
		・日本の健康づくり政策の変遷と健康日	

第2回	医療と保健(2)	本21(2次) 毎回書き込み資料（ワークノート）を配布します。授業内容を整理する。 【アクティブ・ラーニングの内容】 少子高齢社会の現状について意見交換する	〔予習60分〕日本の保健医療福祉に関する最近の話題を調べる 〔復習60分〕ワークノートを仕上げ、授業内容を整理する。わからないところは次回必ず質問する。
第3回	地域と健康(1)	・健康寿命と健康格差とは ・日常の生活習慣と生活習慣病について 毎回書き込み資料（ワークノート）を配布します。授業内容を整理する。 【アクティブ・ラーニングの内容】 自分たちの生活習慣を見直すためのディスカッション	〔予習60分〕生活習慣病について調べる 〔復習60分〕ワークノートを仕上げ、授業内容を整理する。わからないところは次回必ず質問する。
第4回	地域と健康(2)	・群馬県の特徴と健康づくり施策 ・大学隣接の市の特徴と健康づくり施策 毎回書き込み資料（ワークノート）を配布します。授業内容を整理する。	〔予習60分〕群馬県、みどり市、桐生市の基本統計について調べる 〔復習60分〕ワークノートを仕上げ、授業内容を整理する。わからないところは次回必ず質問する。
第5回	地域と健康(3)	【アクティブ・ラーニングの内容】 健康づくりワークショップ 生活習慣病予防のための啓発教材の作成	〔予習60分〕ワークショップに活用する資料、教材を準備し授業に持参する 〔復習60分〕 ワークショップに活用する資料や教材を準備し、授業時に持参する。
第6回	保健医療と社会資源(1)	・地域力としてのソーシャルキャピタルと保健、医療、福祉 毎回書き込み資料（ワークノート）を配布します。授業内容を整理する。	〔予習60分〕地域の持つ力についての文献を検索する 〔復習60分〕ワークノートを仕上げ、授業内容を整理する。わからないところは次回必ず質問する。
第7回	保健医療と社会資源(2)	保健医療の専門職について・地域ケアシステムとネットワーク（チーム連携）のあり方 毎回書き込み資料（ワークノート）を配布します。授業内容を整理する。 【アクティブ・ラーニングの内容】 連携する専門職について調べ発表する	〔予習60分〕保健医療の専門職についてどのような職種があるのか資料を見ておく 〔復習60分〕ワークノートを仕上げ、授業内容を整理する。わからないところは次回必ず質問する。
第8回	保健医療の今後展望	・本講座のポイント、振り返り・自分の考えを述べる（まとめ） レポート（論述問題について） ・健康づくりワークショップの作品講評 【授業評価】	〔予習60分〕論述課題の解決に関する文献を見つける 〔復習60分〕 これまでの授業内容を振り返る。自分の興味関心のあるテーマを選定する。

教科書

特定の教科書はありません。授業時に資料を配布します。

参考書

必要時、紹介します。国民衛生の動向、医療福祉総合ガイドブック(医学書院）、社会福祉士シリーズ17保健医療サービス（弘文堂）

成績評価の方法・基準

単位認定は60点以上。試験60%、 ワークショップ30%、 ノート10%

課題等に対する
フィードバックの方法

自分で調べて、考える学習を取り入れます。体験型学習（ワークショップ）もしますので、準備をしてきてください。
履修のポイント
私たちが生活している地域のことをよく知り、自然環境や習慣、世間体など様々な社会資源と、健康・医療問題を関連付けて考えられる、そんな問題提起をしていきます。
オフィス・アワー
授業開講曜日(水曜日）および研究室在室時は対応します。（10号館2階）

講義コード	20330001
講義名	チーム連携論
(副題)	
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	火曜日
代表時限	５時限
区分	専門基礎科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UM-C160
学年	3学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 髙橋 美砂子	指定なし
教員	片野 吉子	指定なし

授業の概要と教育目標

今日の医療ニーズの多様化に対応したより良質なサービスを提供するためには、医療・保健・福祉などの多様な専門職による役割と機能の有機的な連携や協働が必要不可欠である。本授業では、チーム医療の意義を理解し、チームアプローチの実際についてグループ討議を通して学習する（オムニバス方式全15回）。

卒業認定・学位授与の方針との関連

本学のディプロマ・ポリシーである幅広い知識と確かな技術を修得するために医療・保健・福祉領域の各専門職種の役割、機能、責任についてさらに学習し、より専門性の高い良質なサービス提供を目指すチーム医療実現のための役割と機能について理解し、将来その一端を担う人材となることを目指す。

到達目標

１．チーム医療の背景、あり方、倫理といった基本的な知識を習得し、説明できる。
２．各専門職に対する理解を深めるとともに、チーム構成員の役割、機能、責任を説明できる。
３．情報の伝達やコミュニケーションの重要性について、異なる専攻学生とのグループワークの中で実践できる。
４．効果的で円滑なチーム医療を展開する方法についてグループ発表やレポート報告ができる。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	チーム連携の基本（１）	・授業ガイダンス ・連携の概念、目的、目標 ・連携のプロセス	〔予習90分〕これまでの実習を振り返り、連携した職種について整理する。 〔復習90分〕授業時に配布した資料を再度復習し、内容を理解する。わからないことは次回必ず質問する。
		・チームとは ・チームワークの利点と	

第2回	チーム連携の基本（２）	課題 ・リーダーシップとは 【アクティブラーニングの内容】 ・グループワークの進め方について意見を聞く	〔予習90分〕これまでの実習を振り返り、連携した職種について整理する。 〔復習90分〕授業時に配布した資料を再度復習し、内容を理解する。わからないことは次回必ず質問する。
第3回	地域ケアにおける連携（１）	・連携する医療保健福祉分野の専門職 【アクティブラーニングの内容】(グループワーク) グループ毎に連携する職種を詳しく調べ、発表して学習したこ とを全員で共有する。	〔予習90分〕早期体験合同実習等の学びを振り返り、更に詳しく調べて、資料を作成する。 〔復習90分〕本日のグループワークで学んだことを各自まとめる。
第4回	地域ケアにおける連携（２）	・地域包括ケアシステムについて ・退院支援における多職種連携について 【アクティブラーニングの内容】(グループワーク) ＤＶＤをみて、 ワークブックを活用して、学習を整理する	〔予習90分〕地域包括ケアシステムに関する文献を検索する。 〔復習90分〕学習した内容からワークブックを仕上げる
第5回	地域ケアにおける連携（３）	・住み慣れた地域で暮らす高齢者の療養生活を支援する他職種連 携の在り方を考える 【アクティブラーニングの内容】(グループワーク) ＤＶＤをみて、 ワークブックを活用して、学習を整理する	〔予習90分〕地域での療養に関する文献を検索する 〔復習90分〕学習した内容からワークブックを仕上げる
第6回	地域ケアにおける連携（４）	【アクティブラーニングの内容】 ・事例検討の方法 ・事例検討におけるグループワークの実際 ・情報共有ワークシートを使っってのアセスメント	〔予習90分〕地域での療養に関する文献を検索する 〔復習90分〕学習した内容からワークブックを仕上げる
第7回	チーム医療の実際（１）	・チーム医療とは 【外部講師】 チーム医療の実際（１） 施設におけるチーム医療	〔予習90分〕ＮＳＴについて予習する 〔復習90分〕授業時に配布した資料を再度復習し、内容を理解する。
第8回	チーム医療の実際（２）	・チーム医療の実際（２） 【外部講師】 施設におけるチーム医療 （中間授業評価）	〔予習90分〕ＲＳＴについて予習する 〔復習90分〕授業時に配布した資料を再度復習し、内容を理解する。
第9回	チーム医療の実際	・チーム医療の実際（３） 【外部講師】 施設におけるチーム医療	〔予習90分〕糖尿病チームについて予習する 〔復習90分〕授業時に配布した資料を再度復習し、内容を理解する。

	（3）		
第10回	チーム医療の実際（4）	・チーム医療の実際（4） 【外部講師】施設におけるチーム医療	〔予習90分〕褥瘡チームについて予習する。〔復習90分〕授業時に配布した資料を再度復習し、内容を理解する。
第11回	チーム連携の事例検討(1)	【アクティブラーニングの内容】 ・事例検討グループワーク グループメンバーの役割、ルールを決める 事例の紹介 （在宅療養を希望をするがん末期患者の事例）	〔予習90分〕事例の背景について、わからないことを調べておく。 〔復習90分〕授業時に配布した資料を再度復習し、内容を理解する。
第12回	チーム連携の事例検討(2)	【アクティブラーニングの内容】 ・事例検討グループワーク ワークシートを用いて、情報の整理とアセスメント かかわる職種の役割と連携	〔予習90分〕事例の背景について、わからないことを調べておく。 〔復習90分〕発表用資料を作成し、提出する。
第13回	チーム連携の事例検討(3)	【アクティブラーニングの内容】 ・事例検討グループワーク 発表用資料の作成、提出	〔予習90分〕発表資料作成で必要なものを準備する 〔復習90分〕発表用資料を作成し、指定日までに提出する。
第14回	事例検討のまとめ(発表)	【アクティブラーニングの内容】 ・事例検討グループワーク 発表 発表会の運営について（係とその役割）	〔予習90分〕他のグループに発表について内容を理解し、質問を考える。〔復習90分〕他のグループの発表を参考にわかりやすく発表する練習をする。
第15回	事例検討のまとめ(発表)	【アクティブラーニングの内容】 ･事例検討グループワーク 発表（つづき） チームで協働することからの気づき レポート課題ついて（最終授業評価）	〔予習90分〕他のグループに発表について内容を理解し、質問を考える。 〔復習90分〕この授業で学修したことからまとめレポートを書くテーマについて考える。

教科書

指定の教科書はありません。必要時、資料を配布します。

参考書

地域包括ケアと多職種連携(日本医師会)
平成27年度文部科学省「成長分野における中核的専門人材育成等の戦略的推進事業

成績評価の方法・基準

単位認定は60点以上とする。
①グループワークの参加状況 ②発表資料の作成 ③発表態度・・・30%
ワークブックの書き込み・レポート・・・70%

課題等に対する

フィードバックの方法
授業で配布したワークブックは書き込みと問題回答をし、提出後にはまとめレポートと一緒にコメントして返却する。
履修のポイント
患者や地域住民を中心とした良質な保健医療サービスを提供するためには、チームによる協働は必要不可欠である。これまでの実習を振り返り、知識の補強をしましょう。認定看護師によるチームケアの実際を聞く機会を設けました。
オフィス・アワー
授業開講曜日ならびに研究室にいる場合、いつでも対応します。(10号館2階)

講義コード	20340001
講義名	早期体験合同実習
(副題)	
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	前期
講義区分	実験・実習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
区分	専門基礎科目
必修/選択	必修
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UM-R110
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 宮原 公子	指定なし
教員	橘 陽子	指定なし
教員	神戸 美恵子	指定なし
教員	島田 美樹子	指定なし
教員	齋藤 陽子	指定なし

授業の概要と教育目標

管理栄養士を目指す学生にとって専門職に対する職業観を育むことは、将来像を描くことができ、大学での基礎的な学習に対するモチベーションの向上にもつながる。
本授業では、大学入学後の早期に、医療・福祉・地域保健・学校教育および食品関連企業の現場に触れる体験を行う。それにより、社会における管理栄養士の使命や役割及び活動分野を理解し、管理栄養士を目指すことへの動機付けを目的とした体験型実習を行う。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマ・ポリシーとの関連として、多様な対象や人間のライフステージ・ライフサイクルに沿った栄養教育の方法として、臨床栄養、公衆栄養および給食経営管理分野等に関する必要な知識や技術を修得することを最終目標とする。そのために管理栄養士の現場業務を体験学習をすることで大学での学習と自己の将来像を結びつけ、管理栄養士を目指す気持ちを養う。

到達目標

1.管理栄養士という専門職に対する職業観を身に付ける。
2.管理栄養士の使命や役割、関連職種との関わりについて理解する。
3.早期体験実習に必要な基本的事項について習得する。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	事前学	○ガイダンス：早期体験実習へのアプローチ ・授業の概要の説明 ・体験実習の学習内容（観察・見学・	予習60分：管理栄養士の活躍する職域について調べる

	習(1)	参加） ○早期体験実習の意義や目的 ・実習施設 ・今後のスケジュール	復習60分：授業での学びを整理し、理解を深める
第2回	事前学習(2)	○体験実習における基本事項 ・体験実習におけるマナー ・実習ノートの書き方 ○体験実習施設ごとの管理栄養士の役割 ○看護学科との合同発表会：事前学習の成果報告会 【アクティブラーニング】 ○事前学習を行った成果として「管理栄養士の役割」に対して、 プレゼンテーションを行う。 ○看護学科の成果発表に対して、積極的に質疑応答に参加し、デ スカッションする。	予習60分：体験実習施設の概要について調べる 復習60分：看護学科の発表の踏まえ、授業での学びを整理し理解を深める
第3回	体験実習(1)	○企業（食品メーカー）で勤務する管理栄養士の体験実習 ・観察学習 ・見学学習 ・参加学習 【アクティブラーニング】 ○事前学習の内容を実習施設において、積極的に質問をするな どし、双方向の参加型学習を行う。	予習60分：企業で勤務する管理栄養士の役割について調べる 復習60分：体験学習内容を整理し、理解を深める
第4回	学内演習(1)	○企業での体験実習のまとめ（グループディスカッション） ○職域ごとの体験実習の事前学習（グループディスカッション） ・医療施設：医療施設における管理栄養士の役割 ・学校教育施設：学校教育における管理栄養士の役割 ・地域保健施設：地域保健における管理栄養士の役割 ・社会福祉施設：老人福祉施設における管理栄養士の役割 ・児童福祉施設：児童福祉施設における管理栄養士の役割 【アクティブラーニング】 上記の内容で、グループ内でディスカッションを行い、事前学 習を深める。	予習60分：体験実習での学びに関するまとめを仕上げる 復習60分：演習内容を整理し、理解を深める
第5回	体験実	○各職域（医療、学校教育、地域保健、社会福祉施設、児童福祉 施設で勤務する管理栄養士の実習 ・医療施設：病院の概要、臨床における管理栄養士の役割、多 職種連携 ・学校教育施設：給食センターの概要、管理栄養士の役割、 学校の食育と給食管理の実際 ・地域保健施設：市町村保健センターの概要、管理栄養士の役 割、乳幼児健診における離乳食指導の実際	予習60分：実習施設で勤務する管理栄養士の役割について調べる

	習(2)	・社会福祉施設：老人福祉施設の概要、管理栄養士の役割、食 事提供や介護食の実際 ・児童福祉施設：児童福祉施設の概要、管理栄養士の役割、食 事提供や食育の実際 【アクティブラーニング】 ◯事前学習の内容を実習施設において、積極的に質問をするな どし、双方向の参加型学習を行う。	復習60分：体験実習内容を整理し、理解を深める
第6回	学内演習(2)	◯各職域ごとの体験実習（観察・見学・参加）の学習のまとめ（グループディスカッション） ◯実習ノートの整理・確認 【アクティブラーニング】 体験学習の成果をグループ内でディスカッションを行い、発 表会に備える。	予習60分：体験実習での学びに関するまとめを仕上げる 復習60分：実習ノートを仕上げる
第7回	学内演習(3)	◯学内報告会準備 ・発表スライドや発表資料の作成 ・発表原稿・内容の共有 ◯発表練習・確認 【アクティブラーニング】 プレゼンテーション計画書に基づき、発表練習を行い効果的な 方法を検討する。	予習60分：パワーポイントを使用した発表スライドの操作に慣れておく 復習60分：報告会発表資料を仕上げる 予想される質問を想定し準備をする
第8回	学内報告会	◯体験実習報告会 ・発表 ・質疑応答 ◯実習ノートのまとめ 【アクティブラーニング】 プレゼンテーションに対して、積極的に質疑応答を行い、発表 の成果をまとめる。	予習60分：発表練習をする 復習60分：他者からの評価及び他者の発表内容を整理し、本授業での学びに関する理解を深める

教科書

授業内で提示する学習ノート

参考書

適宜紹介する。

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上。筆記試験はしない。
授業への参加度50%、レポート・課題50%

課題等に対するフィードバックの方法

学習の学びを発表する報告会においてコメントを付する。

履修のポイント

実習前の事前の準備も含めて授業に連続性がある。
また、学外においての体験実習のため遅刻・欠席は厳禁である。

オフィス・アワー

宮原 火曜日～金曜日 昼休み 研究室19（宮原研究室）
神戸 月曜日～金曜日 昼休み 研究室15（神戸研究室）
島田 火曜日～木曜日 昼休み 研究室12

橘 月曜日 昼休み 栄養教育準備室
齋藤 月曜日～金曜日 昼休み 研究室6

講義コード	20350001
講義名	管理栄養士活動論
(副題)	
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	３時限
区分	専門基礎科目
必修/選択	必修
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UE-R111
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 吉村 英悟	指定なし
教員	宮原 公子	指定なし
教員	島田 美樹子	指定なし
教員	齋藤 陽子	指定なし

授業の概要と教育目標

食に関心が高まる現代社会において、管理栄養士は高度な専門知識や技術のみならず態度や考え方に加え、栄養教育の力、マネジメント能力、コミュニケーション力など総合力が求められている。本講義では、社会における管理栄養士の使命や役割について学び、多様化する管理栄養士の職務内容について理解を深めるとともに基本的な知識と技術を涵養する。そのことにより、自己が理想とする管理栄養士像を描くことを教育目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

社会における管理栄養士の使命や役割について学び、多様化する管理栄養士の職務内容について理解を深めることを目指し、基本的な知識と技術を養う。そして、社会・環境・コミュニケーションなど諸側面から人に対する理解を深めることを目指し、実践的な職業人として活躍する管理栄養士像を明確にする。

到達目標

1.活躍する管理栄養士の職務を理解する。
2.管理栄養士に必要な基礎的な知識、技術、態度および考え方の総合的能力を身に付けることができる。
3.基本的な栄養教育の能力、コミュニケーション能力、マネジメント能力を理解することができる。
4.自己ビジョンに必要な知識やスキルは何かを理解し、どのような管理栄養士を目指すのかを明確にできる。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	オリエンテーション	オリエンテーション ・21世紀を担う管理栄養士の使命、役割	予習：90分 管理栄養士の職務を調べる 復習：90分 活躍の場の復習を

		・活躍の場の理解	行う
第2回	管理栄養士に必要な知識と実践力（1）	コミュニケーション能力① ・有意義な大学生活をおくるために、基本的なマナー ・自己分析（振り返りシート） ・管理栄養士を志したきっかけ	予習：90分 自己分析をする 復習：90分 振り返りシートを仕上げる
第3回	管理栄養士に必要な知識と実践力（2）	コミュニケーション能力② ・管理栄養士として働く職域、仕事内容 ・グループ内発表 〔アクティブラーニングの内容〕 管理栄養士として働く職域の概要と仕事内容をまとめ、グループ内で発表して共通理解を深める	予習：90分 管理栄養士として働く職域、仕事内容を調べる 復習：90分 管理栄養士として働く職域、仕事内容を復習する
第4回	管理栄養士に必要な知識と実践力（3）	コミュニケーション能力③ ・管理栄養士を取り巻く他職種 ・グループ内発表 〔アクティブラーニングの内容〕 管理栄養士として働く職域ごとに関わる他職種を調べ、グループ内で発表して共通理解を深める	予習：90分 関連職種を調べる 復習：90分 他職種との連携を復習する
第5回	管理栄養士に必要な知識と技術（1）	マネジメント能力① ・職域別で活躍する管理栄養士① 医療分野、福祉分野	予習：90分 医療・福祉分野で働く管理栄養士の役割を調べる 復習：90分 聴講した内容、考えをまとめる
第6回	管理栄養士に必要な知識と技術（2）	マネジメント能力② ・職域別で活躍する管理栄養士② 学校教育、地域保健	予習：90分 学校教育、地域保健分野で働く管理栄養士の役割を調べる 復習：90分 聴講した内容、考えをまとめる
第7回	管理栄養士に必要な知識と技術（3）	マネジメント能力③ ・職域別で活躍する管理栄養士③ ドラッグストア、スポーツ栄養	予習：90分 ドラッグストア、スポーツ栄養分野で働く管理栄養士の役割を調べる 復習：90分 聴講した内容、考えをまとめる
第8回	管理栄養士に必要な知識と技術（4）	マネジメント能力④ ・管理栄養士を取り巻く他職種① 医療従事者への理解	予習：90分 他職種（医療職）について第4回の復習をする 復習：90分 聴講した内容、考えをまとめる
第9回	管理栄養士に必要な知識と技術（5）	マネジメント能力⑤ ・管理栄養士を取り巻く他職種② 食品関連、環境関係	予習：90分 食品や廃棄物の分別を調べる 復習：90分 聴講した内容、考えをまとめる
第10回	管理栄養士に必要な知識と実践力（4）	栄養教育能力① 栄養・食事管理の重要性から基礎を学ぶ 〔アクティブラーニングの内容〕 献立マネジメントに必要な食品の知識を習得する	予習：90分 食品成分表の第1章を読んでくる 復習：90分 献立作成に必要な食品の知識を復習する
第11回	管理栄養士に必要な知識と実践力（5）	栄養教育能力② 臨床栄養の立場から基礎を学ぶ 〔アクティブラーニングの内容〕 コミュニケーション能力を養うた	予習：90分 問診の仕方を調べる 復習：90分 コミュニケーション能力を養うための問診の仕

		めに問診の仕方を習得する	方を復習する
第12回	管理栄養士に必要な知識と実践力（6）	栄養教育能力③ 栄養教育の立場から基礎を学ぶ 〔アクティブラーニングの内容〕 効果的な教材作成を行うための知識と実践力を習得する	予習：90分 教材の目的・役割について調べる 復習：90分 効果的な教材作成について復習する
第13回	管理栄養士に必要な技術の実際（1）	マネジメント能力⑥ ・理想とする管理栄養士像と職業 ・プレゼンテーション計画書、原稿の作成	予習：90分 理想とする管理栄養士像と職業をまとめる 復習：90分 プレゼンテーション計画書、原稿を仕上げる
第14回	管理栄養士に必要な技術の実際（2）	コミュニケーション能力④ ・プレゼンテーション（前半） 理想とする管理栄養士像	予習：90分 発表の準備をする 復習：90分 評価用紙をまとめる
第15回	管理栄養士に必要な技術の実際（3） まとめ	コミュニケーション能力⑤ ・プレゼンテーション（後半） 理想とする管理栄養士像	予習：90分 発表の準備をする 復習：90分 評価用紙をまとめる
第16回			
第17回			

教科書

授業内で配布する学習ノート

参考書

日本食品標準成分表2015年版（七訂）（文部科学省 科学技術・審議会）

成績評価の方法・基準

単位認定 60点以上
成績評価：課題50%、発表40%、授業への参加度10%

課題等に対するフィードバックの方法

課せられた課題に真摯に取り組み、提出期日は厳守のこと。授業内で配布する資料を随時まとめ、理解を深めること。課題等については、コメントをつけて返却するので、それを参考に学習を深める。

履修のポイント

管理栄養士の使命や活躍の場を学び、未来の管理栄養士像を描き大学での学びへと発展させる導入教育となるため、積極的に学習に取り組んで欲しい。また、私語、講義と関係ない作業をすること、無断退席など厳に慎むこと。

オフィス・アワー

宮原：月曜日～金曜日 12:45～13:15 11号館3F 19研究室
島田：火曜日～金曜日 12:45～13:15 11号館3F 12研究室
吉村：月曜日～金曜日 12:45～13:15 11号館3F 6研究室
齋藤：月曜日～金曜日 12:45～13:15 11号館3F 6研究室

講義コード	20360001
講義名	生物有機化学
(副題)	
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	４時限
区分	専門基礎科目
必修/選択	必修
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UE-R112
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 小林 葉子	指定なし

授業の概要と教育目標

栄養学を学ぶ上で有機化学の基礎を理解する必要がある。物質の成り立ち、書き方、物質の構造からみた性質の特徴などを理解する。
有機化学の知識を深め、栄養学・生化学の理解につなげることを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

栄養学科専門基礎科目栄養学科基礎科目必須科目である。生体内や食品に含まれる化学物質の多くは、有機化合物である。生化学、食品学、基礎栄養学をはじめとする専門基礎科目を理解するための基礎的な知識を身に着けることを目標とする。

到達目標

化学式から、物質の名称、性質や特徴、化学反応のルールが理解できることを目標とする。そのためには、化学の苦手意識を少なくし、自ら、読んで、書いて、解いて、学習をする。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	はじめに	化学っておもしろい？？？ アクティブラーニング 高校有機化学の問題に取り組み、解答を導き出す。	予習90分：学習範囲の教科書を読む 復習90分：学習範囲の教科書の問題を解く
第2回	原子・分子	第１章 元素・原子・分子 周期表の覚え方 有機化学に出てくる元素 アクティブラーニング	予習90分：学習範囲の教科書を読む 復習90分：学習範囲の教科書の問

		前回授業範囲の問題に取り組み、解答を導き出す。	題を解く
第3回	有機化学に出てくる元素	第１章 原子価 アクティブラーニング 前回授業範囲の問題に取り組み、解答を導き出す。	予習90分：学習範囲の教科書を読む 復習90分：学習範囲の教科書の問題を解く
第4回	原子量・分子量・式量	第１章 原子量・分子量・式量の求め方 アクティブラーニング 前回授業範囲の問題に取り組み、解答を導き出す。	予習90分：学習範囲の教科書を読む 復習90分：学習範囲の教科書の問題を解く
第5回	化合物・構造式	第１章 化合物・構造式の書き方 構造異性体 アクティブラーニング 前回授業範囲の問題に取り組み、解答を導き出す。	予習90分：学習範囲の教科書を読む 復習90分：学習範囲の教科書の問題を解く
第6回	示性式	第一章 分子の特性がわかるような構造式の書き方 官能基 アクティブラーニング 前回授業範囲の問題に取り組み、解答を導き出す。	予習90分：学習範囲の教科書を読む 復習90分：学習範囲の教科書の問題を解く
第7回	飽和炭化水素	第２章 飽和炭化水素の命名 アクティブラーニング 前回授業範囲の問題に取り組み、解答を導き出す。	予習90分：学習範囲の教科書を読む 復習90分：学習範囲の教科書の問題を解く
第8回	飽和炭化水素	第２章 分岐・脂環式炭化水素の命名 アクティブラーニング 前回授業範囲の問題に取り組み、解答を導き出す。	予習90分：学習範囲の教科書を読む 復習90分：学習範囲の教科書の問題を解く
第9回	化合物群	第一章 有機化学を理解するために必要な13種 アルコール、アミン。アルデヒド、カルボン酸 芳香族 アクティブラーニング 前回授業範囲の問題に取り組み、解答を導き出す。	予習90分：学習範囲の教科書を読む 復習90分：学習範囲の教科書の問題を解く
第10回	化合物群	第３章 有機化学を理解するために必要な13種 アクティブラーニング 前回授業範囲の問題に取り組み、解答を導き出す。	予習90分：学習範囲の教科書を読む 復習90分：学習範囲の教科書の問題を解く
第11回	飽和有機化合物；アルカン	第４章 ハロアルカン アミン・アルコール アクティブラーニング	予習90分：学習範囲の教科書を読む

	の誘導体	前回授業範囲の問題に取り組み、解答を導き出す。	復習90分：学習範囲の教科書の問題を解く
第12回	不飽和有機化合物；アルデヒド	第５章 アルデヒド・カルボン酸 アクティブラーニング 前回授業範囲の問題に取り組み、解答を導き出す。	予習90分：学習範囲の教科書を読む 復習90分：学習範囲の教科書の問題を解く
第13回	芳香族化合物	第６章 カルボン酸 アクティブラーニング 前回授業範囲の問題に取り組み、解答を導き出す。	予習90分：学習範囲の教科書を読む 復習90分：学習範囲の教科書の問題を解く
第14回	生化学・栄養学とのつながり	第７章 生化学・栄養学で学ぶ有機化合物 アクティブラーニング 前回授業範囲の問題に取り組み、解答を導き出す。	予習90分：学習範囲の教科書を読む 復習90分：学習範囲の教科書の問題を解く
第15回	まとめ	全学習範囲のまとめ アクティブラーニング 課題の問題に取り組み、解答を導き出す。終了後、各自、受講者相互間で問題の正しい解の求め方を導き出す。	予習90分：学習範囲の教科書を読む 復習90分：学習範囲の教科書の問題を解く

教科書

生物有機化学 有機化学 基礎の基礎 立屋敷哲 丸善
サイエンスビュー 化学資料 実教出版

参考書

化学 栄耀科学イラストレイテッド 基礎化学 土居純子 羊土社

成績評価の方法・基準

授業内の課題及び小試験で60点以上（課題80% 小試験20%）

課題等に対するフィードバックの方法

授業内で受講者全員に小テストの簡単な解説を行う。また、その後に質問時間を設け、質問がある場合には、その解説を行う。

履修のポイント

問題を解き、化学に慣れる。必要な事項は、覚える。苦手苦手、と逃げないで、とにかく、自分で取り組んでみる。
理解度に合わせ、シラバスを変更する。授業には休まないで出席すること。
予習・復習で自分の理解度を確認し、理解不足の場合は、受講者間での学びあいをすることも大切である。

オフィス・アワー

月～金 お昼休み（3限が授業のときは不可） 11号館3階16研究室

講義コード	20370001
講義名	医療保健統計学
(副題)	
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	１時限
区分	専門基礎科目
必修/選択	必修
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UE-R140
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 吉村 英悟	指定なし

授業の概要と教育目標

保健統計学の考え方、用いる方法について講義する。医学･栄養学の領域における定量化や仮説検証の歴史を理解し，統計学がどのように利用されているかを学ぶ。また，それらを比較するための指標を紹介する。医学研究の企画・計画，データ収集・マネジメント，データ要約，データ解析といった各段階で用いられる統計学的手法を学び，さらに現在行われている各種統計調査の実情を学ぶ。

卒業認定・学位授与の方針との関連

栄養学科のディプロマポリシーの関連として①での人間の社会・環境の理解と②で人間の健康を規定する要因の社会や環境を理解することそして③での公衆栄養につながる知識の習得、④では疫学データから読み解き社会のニーズや変化を理解することができるようになる。つまり統計資料、統計を利用した研究結果を正しく理解、解釈できる。

到達目標

保健統計を見て正しく解釈できる。現実に行われている保健統計の種類をあげ、その仕組みを説明できる。記述統計の方法が使える。推測統計の方法が使える。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	統計学とは	医学・栄養学領域におけるデータ解析と統計学	予習：60分 統計学を調べる 復習：90分 統計学の概要の復習を行う
第2回	保健統計とその見方①	人口動態統計、感染症発生動向調査、国勢調査	予習：60分 保健統計(人口動態統計、感染症発生動向調査、国勢調査）を調べる 復習：90分 統計調査の復習を行う
第3回	保健統計とその見方②	国民生活基礎調査、その他の統計調査	予習：60分 保健統計(国民生活基礎調査、その他の統計調査）を調べる 復習：90分 統計調査の復習を行う

第4回	疫学について①	疫学の基本的な考え方	予習：60分 疫学を調べる 復習：90分 疫学の復習を行う
第5回	疫学について②	記述疫学の方法と健康情報の収集	予習：60分 記述疫学、情報収集を調べる 復習：90分 疫学の方法論の復習を行う
第6回	疫学について③	疫学に使用する指標の算出 指標の計算(課題）の発表	予習：60分 疫学指標を調べる 復習：90分 疫学指標の復習を行う、課題の作成
第7回	データ収集と記述的解析①	データの種類（分類）， 量的データの 記述 （度数分布表，ヒストグラム，度数多角形，幹葉表示，箱ひげ図）	予習：60分 データの表現についてを調べる 復習：90分 （授業の記録をノートと資料で再確認する）
第8回	データ収集と記述的解析②	量的データの分布に関する指標 （平均値，中央値，最頻値，パーセンタイル，範囲，四分位数）	予習：60分 代表値について調べる 復習：90分 （授業の記録をノートと資料で再確認する）
第9回	データ収集と記述的解析③	散布度 ・偏差 平均偏差 分散，標準偏差，変動係数 ・散布図と相関係数	予習：60分 代表値について調べる 復習：90分 （授業の記録をノートと資料で再確認する）
第10回	データ収集と記述的解析④	回帰係数､回帰直線① 係数データの2変数の関連，クロス集計表	予習：60分 予測について調べる 復習：90分 （授業の記録をノートと資料で再確認する）
第11回	データ収集と記述的解析⑤	回帰係数，回帰直線② 係数データの2変数の関連，クロス集計表	予習：60分 予測について調べる 復習：90分 （授業の記録をノートと資料で再確認する）
第12回	推測統計	推測統計推定法（点推定，区間推定），区間推定	予習：60分 推測について調べる 復習：90分 （授業の記録をノートと資料で再確認する）
第13回	データ収集と記述的解析⑥	・食調査について ・食事調査の実施	予習：60分 食事調査について調べる 復習：90分 （授業の記録をノートと資料で再確認する）
第14回	データ収集と記述的解析⑦	食事調査に基づくデータ分析と解析について データの解析を行う。 解析のデータについてアクティブラーニングにてグループ毎にまとめ発表する	予習：60分 データの解析の準備および資料をまとめる 復習：90分 （授業の記録をノートと資料で再確認する）
第15回	まとめ	授業のまとめ	予習：60分 いままでの資料をまとめる 復習：90分 （授業の記録をノートと資料で再確認する）

教科書

疫学・保健統計―看護師・保健師・管理栄養士を目指す―：建帛社

参考書

国民健康・栄養要調査成績,
国民衛生の動向
他各種統計資料
電卓

エクセル栄養君建帛社。
エクセル栄養君FFQｇ 建帛社

成績評価の方法・基準

単位認定 60 点以上 定期試験を実施します。

課題等に対する
フィードバックの方法

小テスト等の課題は採点後返却の後、解説をおこなう。
また発表についても評価を行う

履修のポイント

授業に連続性があります。また，修得度に合わせた内容の変更もあるので欠席はしないこと。
教科書を予め読むこと。

オフィス・アワー

曜 日：月曜日～金曜日
時 間：12：30～13：15
場 所：11号館3階 研究室6

講義コード	20380001
講義名	食文化論
(副題)	
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	１時限
区分	専門基礎科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UE-C150
学年	3学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 野沢 弘子	指定なし

授業の概要と教育目標

授業の概要は、日本の食文化とは何か、外国から来た食材や料理を巧みに取り入れていった歴史、自然環境や 社会環境がどのように影響して発酵技術や郷土料理を発展させたのか、世界の食文化と比較しその特色を学ぶ。
教育目標は、様々な食と文化についての理解を深め、健康と栄養を学ぶ際の補填的な知識を得る。

卒業認定・学位授与の方針との関連

健康栄養学科のディプロマポリシーとの関連1.人間に対して、社会・環境・コミュニケーションなどの側面から理解している。に基づき、特に食文化の知識の獲得を目指す科目である。

到達目標

１食文化を理解する。 2 食の歴史、行事伝統を学ぶ。 3 食文化の形成・発展に自然環境（気候・地形など）や社会環境（生活様式・風習・宗教 など）が影響していることを説明できる。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	オリエンテーション 食文化への関心の高まり	授業の進め方、課題の提出について 〇なぜ食文化なのか 〇文化とは 〇食文化の領域 【アクティブラーニング】 食文化とは何か考えよう	予習90分Ｐ1～12を読む 復習90分 考察レポート作成
第2回	カルチャーによる文化の開幕	〇人間はどのようにして食料を確保してきたか 〇植物の栽培化と動物の飼い慣らし 〇栽培植物の伝播のルートを巡る 〇世界の主食文化の類型を探る	予習90分Ｐ13～28を読む 復習90分 考察レポート作成

		【アクティブラーニング】 食べ方の違いを探ろう	
第3回	集まって食べる喜び	○共食の思想 ○ハレとケの世界 ○日本の行事食、世界の祝祭日と食べ物 【アクティブラーニング】 郷土料理とは何か。各地の郷土料理の成り立ちや特徴を探ろう	予習90分Ｐ29～43を読む 復習90分 考察レポート作成
第4回	世界の3大食法と食事の作法	○食べ物を口に運ぶ方法 手食の文化・箸の歴史・内容ナイフ、フォーク、スプーン食 【アクティブラーニング】 箸と日本人について、また、ヨーロッパのナイフの歴史を探ろう	予習90分Ｐ45～61を読む 復習90分 考察レポート作成
第5回	食の思想と調理技術の発展	○食の思想とは何か ○料理の生成発展について	予習90分Ｐ63～110を読む 復習90分 考察レポート作成
第6回	世界の供応食	○調理技術の特徴を探る 【アクティブラーニング】 それぞれの国の料理の特徴を話し合おう	予習90分 Ｐ143～153を読む 復習90分 考察レポート作成
第7回	宗教とのかかわり	○世界の主な宗教について ○宗教と食べ物 ○食べ物ととタブー ○宗教行事と食べ物	予習90分 Ｐ115～170を読む 復習90分 考察レポート作成
第8回	人の移動と新しい食の創造	○人の移動による伝播の条件 ○世界の歴史を振り返る ○日本の歴史を振り返る	予習60分 Ｐ171～178を読む 復習60分 考察レポート作成
第9回	日本の食の生い立ちを探る	○日本食の生い立ち ○再評される日本食 ○どうなる２１世紀の食事目標	予習90分 Ｐ189～199を読む 復習90分 考察レポート作成
第10回	嗜好飲料と菓子の文化を巡る 微生物を利用する知恵	○アルコール飲料について ○茶について ○その他の嗜好飲料について 【アクティブラーニング】 世界の日本の発酵食品について	予習90分 Ｐ200～230を読む 復習90分 考察レポート作成
第11回	どうなる家庭の台所空間	○台所の発生小史 ○台所空間を巡る諸問題 ○どうなる21世紀の台所空間	予習90分 Ｐ231～247を読む 復習90分 考察レポート作成
第12回	変貌を続ける食のライフスタイル	○急速な社会化、外部化、2極化 ○食の産業化、情報化、国際化、世界化 【アクティブラーニング】 食のライフスタイルの変遷について	予習90分 Ｐ248～261を読む 復習90分 考察レポート作成
第13回	２１世紀の調理文化への模索	○家庭調理文化の変貌 ○集団給食の調理 ○調理と文化の関わり ○食事文化の中の調理科学	予習90分 Ｐ264～282を読む 復習90分 考察レポート

		【アクティブラーニング】 食文化を学んで理解したこと	作成
第14回	まとめ１	【アクティブラーニング】 〇課題発表に向け、パワーポイント作成。プレゼン準備	予習90分プレゼンの内容 復習90分パワーポイントの作成
第15回	まとめ２	【アクティブラーニング】 〇グループ毎に発表	予習90分プレゼンの内容を練習しておく

教科書

食の文化を知る辞典 岡田哲 東京堂出版

参考書

適宜紹介

成績評価の方法・基準

課題発表30％…食文化における課題発表 ・ レポート20％…授業についての理解をレポートで提出 ・ 受講態度50％…出席状況・受講時のマナーが悪い場合は、減点する場合がある。

課題等に対する
フィードバックの方法

授業の内容、ポイントをルーズリーフに記述し、ポートフォリオを作成する。ポートフォリオを確認し、食文化について理解したことをクループで考え、パワーポイントを作成しプレゼンをする。

履修のポイント

旅行等に出かけたときは、その国の料理や郷土料理に目を向けたり、日頃から食文化についてのテーマに関わる新聞の記事や本などを読むこと。

オフィス・アワー

月曜日・火曜日・水曜日 １２：３０～１３：２０（昼休み）
１１号館 調理学実習室準備室
＊講義終了前後にも、適宜受け付けます。

講義コード	20390001
講義名	栄養生命科学
(副題)	
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	火曜日
代表時限	３時限
区分	専門基礎科目
必修/選択	必修
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UE-R161
学年	3学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 小林 葉子	指定なし

授業の概要と教育目標

生を受けて死に至るまで続けられる生命の営みを科学の眼でみつめ理解する。この数十年で生命科学は飛躍的に発展し、生命の持つ高度で複雑なシステムの一部が理解されるようになった。バクテリアからヒトまでに共通して存在する生命の原理と、今日まで生命が受け継がれてきた方法を知るとともに、ヒトとしての生命をよりよく生かすために最新の科学技術が、どのように用いられ、今後、どのような進歩が期待されるのかを考える。
栄養素による生体現象の調節を学び、栄養と生命のかかわりを理解することを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

栄養学科専門基礎科目栄養学科基礎科目に配当される必須科目である。
生化学をさらに深め、基礎栄養学、応用栄養学、臨床栄養学との結びつきを定着させることを目標とする。

到達目標

ニュースで流れる生命科学の内容を理解し、現代の医療へのかかわりを理解する。1，2年次で学習した生化学を再確認し、生化学の理解を深めるとと共に、分子栄養学として栄養素により生体反応調節を理解する。生化学の内容は、管理栄養士国家試験問題の正答率が60%以上のレベルに到達することを目標とする。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	摂食制御と栄養素の消化と吸収	栄養素の消化と吸収 分子栄養 3章 アクティブラーニング 生化学の消化と吸収の範囲の小テストを行い、知識の定着を確認する。小テスト後、自ら、及び、学生相互に答えを導き出す。	予習90分：学習範囲の教科書を読む 復習90分：クエスチョンバンクを使用して、学習範囲の知識を定着させる。
第2回	情報伝達	個体内の情報伝達システム、細胞内情報伝達 分子栄養 2章 アクティブラーニング	予習90分：学習範囲の教科書を読む 復習90分：クエスチョン

		生化学の細胞内情報伝達の範囲の小テストを行い、知識の定着を確認する。小テスト後、自ら、及び、学生相互に答えを導き出す。	バンクを使用して、学習範囲の知識を定着させる。
第3回	遺伝子発現・エネルギー代謝	遺伝子発現に基づく臓器による栄養素利用の違い、エネルギー代謝調節 アクティブラーニング 生化学の細胞内情報伝達の範囲の小テストを行い、知識の定着を確認する。小テスト後、自ら、及び、学生相互に答えを導き出す。	予習90分：学習範囲の教科書を読む 復習90分：クエスチョンバンクを使用して、学習範囲の知識を定着させる。
第4回	糖質の利用	糖の消化吸収、代謝、組織特異的発現、ホルモンの作用 アクティブラーニング 生化学の細胞内情報伝達の範囲の小テストを行い、知識の定着を確認する。小テスト後、自ら、及び、学生相互に答えを導き出す。	予習90分：学習範囲の教科書を読む 復習90分：クエスチョンバンクを使用して、学習範囲の知識を定着させる。
第5回	脂質の利用	脂質の消化吸収、リポタンパク質による輸送、代謝、ホルモンの作用アクティブラーニング 生化学の細胞内情報伝達の範囲の小テストを行い、知識の定着を確認する。小テスト後、自ら、及び、学生相互に答えを導き出す。	予習90分：学習範囲の教科書を読む 復習90分：クエスチョンバンクを使用して、学習範囲の知識を定着させる。
第6回	アミノ酸・タンパク質の利用	アミノ酸の吸収、代謝 アクティブラーニング 生化学の細胞内情報伝達の範囲の小テストを行い、知識の定着を確認する。小テスト後、自ら、及び、学生相互に答えを導き出す。	予習90分：学習範囲の教科書を読む 復習90分：クエスチョンバンクを使用して、学習範囲の知識を定着させる。
第7回	ビタミン・ミネラルの利用	ビタミン、ミネラルによる遺伝子発現制御 ホルモンによる制御 アクティブラーニング 生化学の細胞内情報伝達の範囲の小テストを行い、知識の定着を確認する。小テスト後、自ら、及び、学生相互に答えを導き出す。	予習90分：学習範囲の教科書を読む 復習90分：クエスチョンバンクを使用して、学習範囲の知識を定着させる。
第8回	代謝の調節とその相互作用	代謝調節とその相互作用 エネルギーによる調節 ホルモンによる調節 アクティブラーニング 生化学の細胞内情報伝達の範囲の小テストを行い、知識の定着を確認する。小テスト後、自ら、及び、学生相互に答えを導き出す。	予習90分：学習範囲の教科書を読む 復習90分：クエスチョンバンクを使用して、学習範囲の知識を定着させる。

教科書

クエスチョンバンク2019 メディックメディア社
エキスパート管理栄養士養成シリーズ 分子栄養学 金本 龍平 編 化学同人
シンプル生化学 林典夫/廣野治子著 南江堂

参考書

増補新訂版サイエンスビュー生物総合資料 牛木 辰男 (監修),長野 敬 実教出版

成績評価の方法・基準

補講日に行う総合試験及び授業内小テストで60点以上 （総合試験80% 小試験20%）

課題等に対する
フィードバックの方法

小試験の解説は、復習を兼ね、授業内で行う。わからない点は、授業内に質問を知識を定着させ

る。

履修のポイント
生化学 I・II 及び基礎栄養の発展型として総括的に学習する。理解度によりシラバスを変更し、補講を行う。

オフィス・アワー
月～金のお昼休み（3限に授業のある日は不可） 11号館16研究室

講義コード	20400001
講義名	臨床医学概論
(副題)	
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	２時限
区分	専門基礎科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UE-C121
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 山﨑 純一	指定なし

授業の概要と教育目標

我が国では高齢化に伴って生活習慣病がクローズアップされている。一方、疾病の発症には遺伝要因と環境因子が関わっているが、生活習慣病の治療には環境因子の是正が重要である。管理栄養士は食事療法を介して患者の治療にも携わることから、疾病の病態や診断・治療に関する知識が不可欠である。講義では臨床検査や人体の解剖・生理も含め、代表的な疾病について理解を深めることを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保険学部栄養学科のディプロマ・ポリシーである「多様な対象や人間のライフステージ・ライフサイクルに沿って、利用者の身体の状況、栄養状態、生活習慣に係る栄養・食事管理、栄養教育、臨床栄養ならびに公衆栄養、給食経営分野に関して必要な知識や技術を修得していること。」を達成するための幅広い知識・技能とともに豊かな人間性が養われていること。

到達目標

１．人体の解剖・生理機能を理解する。
２．代表的な疾病の原因・症状・診断・治療などを理解し、栄養学に展開できるよう知識・技能を習得する。
３．診断のための臨床検査について理解し、診断に至る過程について知識を高める。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	オリエンテーション診断のための検査(1)	オリエンテーション（講義の進め方など）、一般的診察・身体所見	（予習90分）当日の講義の概要を教科書で確認（復習90分）配布した講義資料を中心に教科書の関係領域を通
			（予習90分）当日

第2回	診断のための検査(2)	検査の種類と採取法・臨床検査における基準値の設定の考え方	の講義の概要を教科書で確認 （復習90分）配布した講義資料を中心に教科書の関係領域を通
第3回	診断のための検査(3)	一般検査・血液検査・生化学検査	（予習90分）当日の講義の概要を教科書で確認 （復習90分）配布した講義資料を中心に教科書の関係領域を通
第4回	診断のための検査(4)	生化学検査・生理機能検査	（予習90分）当日の講義の概要を教科書で確認 （復習90分）配布した講義資料を中心に教科書の関係領域を通
第5回	診断のための検査(5)	免疫学検査・画像検査 生活習慣病を有した仮想の患者を小グループ（5～6名）提供し、各グループで検査計画を立て、発表する（45分間）。【アクティブラーニング】	（予習90分）当日の講義の概要を教科書で確認 （復習90分）配布した講義資料を中心に教科書の関係領域を通
第6回	栄養・代謝系疾患(1)	糖尿病・脂質異常症	（予習90分）当日の講義の概要を教科書で確認 （復習90分）配布した講義資料を中心に教科書の関係領域を通
第7回	栄養・代謝系疾患(2)	肥満・高尿酸血症	（予習90分）当日の講義の概要を教科書で確認 （復習90分）配布した講義資料を中心に教科書の関係領域を通
第8回	内分泌系疾患	先端肥大症・尿崩症・甲状腺機能障害・副腎の異常症	（予習90分）当日の講義の概要を教科書で確認 （復習90分）配布した講義資料を中心に教科書の関係領域を通
第9回	消化器疾患(1)	食道炎・食道がん・胃炎・胃がん	（予習90分）当日の講義の概要を教科書で確認 （復習90分）配布した講義資料を中心に教科書の関係領域を通

第10回	消化器疾患(2)	アカラジア・ダンピング症候群・クローン病・潰瘍性大腸炎・イレウス 生活習慣病について病態・治療・予後などについて小グループで検討し、報告する（45分間）。【アクティブラーニング】	（予習90分）当日の講義の概要を教科書で確認 （復習90分）配布した講義資料を中心に教科書の関係領域を通
第11回	肝・胆・膵疾患	肝疾患・膵・胆道疾患	（予習90分）当日の講義の概要を教科書で確認 （復習90分）配布した講義資料を中心に教科書の関係領域を通
第12回	循環器疾患	心不全・動脈硬化・虚血性心疾患・高血圧・不整脈	（予習90分）当日の講義の概要を教科書で確認 （復習90分）配布した講義資料を中心に教科書の関係領域を通
第13回	腎・尿路系疾患(1)	急性腎炎症候群・腎不全	（予習90分）当日の講義の概要を教科書で確認 （復習90分）配布した講義資料を中心に教科書の関係領域を通
第14回	腎・尿路系疾患(2)	慢性腎臓病・末期腎不全の治療・尿路系疾患・透析	（予習90分）当日の講義の概要を教科書で確認 （復習90分）配布した講義資料を中心に教科書の関係領域を通
第15回	神経・精神系疾患	摂食障害・認知症・変性疾患・精神疾患 生活習慣病について病態・治療・予後などについて小グループで検討し、報告する（45分間）。【アクティブラーニング】	（予習90分）当日の講義の概要を教科書で確認 （復習90分）配布した講義資料を中心に教科書の関係領域を通

教科書

「栄養科学イラストレイテッドー臨床医学ー（疾病の成り立ち）」田中明（編）羊土社

参考書

適宜紹介する。

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上
課題形式の試験（教科書・資料持ち込み可）70%、授業への参加度30%

課題等に対する
フィードバックの方法

授業内でレポートや課題を課すことがある。授業での講義内容を配布するので、授業内容の理解

に役立てること。

履修のポイント
授業への積極的な取り組みを期待する。予習：当日の講義の概要を教科書で確認する。復習：配布した講義資料を中心に教科書の関係領域を通読する（90分）。
オフィス・アワー
講義終了後に適宜受け付ける。その他、火・木・金曜日に適宜受け付けるので、教務課に依頼し予約すること。

講義コード	20410001
講義名	公衆衛生学Ⅰ
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	３時限
区分	専門基礎科目
必修/選択	必修
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UE-R151
学年	3学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 岩田 昇	指定なし

授業の概要と教育目標

公衆衛生学の概念，方法論の基礎を学ぶ。一次予防，二次予防および三次予防の理論に基づき，環境諸要因が健康あるいは社会生活に及ぼす影響について理解を深め，疾病予防や健康増進へのアプローチの方法等，保健予防・医療に関する知識を習得する。公衆衛生実践活動を学び，人々の健康を守るための組織，機関および医療従事者の役割や機能への理解を深める。
なお、ほぼ毎回、公衆衛生学・社会医学に関する新聞報道等の題材を用いて、グループディスカッション・プレゼンテーションの時間を設定し、身近な健康問題に対する自身の判断・見解を持ち、それを他者に示すためのスキルも学ぶ。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマ・ポリシーとの関連として、「人間と環境の理解」を主軸に、「健康・環境・栄養・食品・生活」に関する理解に基づく観察力や判断能力を養うとともに、保健・医療分野を支えるための総合的な科目として、社会・環境の諸要因と健康問題との関係や保健医療の公的システムを理解することを目指す。

到達目標

1. 健康の概念・ヘルスプロモーション政策の概要を説明できる。
2. 健康に影響する環境要因の概要を説明できる。
3. 主な健康指標を挙げて、その現在までの状況を説明できる。
4. 社会・環境と健康との関係性を調べる方法論を理解し、その概要を説明できる。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	オリエンテーション	公衆衛生学Ⅰについて 国家試験出題基準	予習90分：国家試験出題基準をダウンロードし、社会・環境の学習内容を把握しておくこと 復習90分：配布資料を見直し、疑問点を調べてくこと
			予習90分：教科書P. 1～11に目を通

第2回	第１章 社会と健康①	健康の概念/予防の概念 ヘルスプロモーション/プライマリーヘルス	し、重要キーワードを調べておくこと 復習90分：配布資料を見直し、疑問点を調べてくこと
第3回	第１章 社会と健康②	公衆衛生活動の実践/歴史	予習90分：教科書P. 12～26に目を通し、重要キーワードを調べておくこと 復習90分：配布資料を見直し、疑問点を調べてくこと
第4回	第２章 環境と健康①	環境問題の概念	予習90分：教科書P. 27～36に目を通し、重要キーワードを調べておくこと 復習90分：配布資料を見直し、疑問点を調べてくこと
第5回	第２章 環境と健康②	世界の水問題、廃棄物問題	予習90分：教科書P. 37～49に目を通し、重要キーワードを調べておくこと 復習90分：配布資料を見直し、疑問点を調べてくこと
第6回	確認テスト１	確認テスト１の実施 解答と解説	予習120分：1～5回の講義で扱った重要キーワードを理解しておくこと 復習90分：不正解個所を再度確認し、ノートに記しておくこと
第7回	第３章 健康、疾病、行動に関わる統計資料①	保健統計の概要、人口静態統計、人口動態統計	予習90分：教科書P. 51～64に目を通し、重要キーワードを調べておくこと 復習90分：配布資料を見直し、疑問点を調べてくこと
第8回	第３章 健康、疾病、行動に関わる統計資料②	生命表、傷病統計	予習90分：教科書P. 64～72に目を通し、重要キーワードを調べておくこと 復習90分：配布資料を見直し、疑問点を調べてくこと
第9回	第３章 健康、疾病、行動に関わる統計資料③	その他の保健統計、国際比較	予習90分：教科書P. 72～77に目を通し、重要キーワードを調べておくこと 復習90分：配布資料を見直し、疑問点を調べてくこと
第10回	確認テスト２	確認テスト２の実施 解答と解説	予習120分：7～9回の講義で扱った重要キーワードを理解しておくこと 復習90分：不正解個所を再度確認し、ノートに記しておくこと
第11回	第４章 疫学①	疫学の概念/健康指標/有病率と罹患率	予習90分：教科書P. 79～85に目を通し、重要キーワードを調べておくこと 復習90分：配布資料を見直し、疑問点を調べてくこと
第12回	第４章 疫学②	疫学の種類、バイアス	予習90分：教科書P. 85～99に目を通し、重要キーワードを調べておくこと 復習90分：配布資料を見直し、疑問点を調べてくこと
			予習90分：教科書P. 100～108に目

第13回	第４章 疫学③	スクリーニング、EBM	を通し、重要キーワードを調べておくこと 復習90分：配布資料を見直し、疑問点を調べてくこと
第14回	第４章 疫学④	リスク評価、研究倫理	予習90分：教科書P. 108～115に目を通し、重要キーワードを調べておくこと 復習90分：配布資料を見直し、疑問点を調べてくこと
第15回	まとめ	全体確認テストの実施 解答と解説	予習120分：1～14回の講義で扱った重要キーワードを理解しておくこと 復習90分：不正解個所を再度確認し、ノートに記しておくこと

教科書

古野・辻・吉池編『社会・環境と健康』 南江堂

参考書

・適宜紹介する。

成績評価の方法・基準

・単位認定60点以上。
・３回の筆記試験90%、授業への参加度10%

課題等に対する
フィードバックの方法

・確認テスト(45分程度)の後、解答および解説を行う。
・ほぼ毎回のグループディスカッション・プレゼンテーションに対するコメントは適宜行う。

履修のポイント

・健康水準の高い社会に住んでいることを自覚し、俯瞰的視点を持って，積極的な取り組みを期待します。

オフィス・アワー

・水曜日・木曜日12:30～13:20（昼休み） 11号館第5研究室
（講義終了前後にも適宜受付可能）

講義コード	20420001
講義名	公衆衛生学Ⅱ（3年生）
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	１時限
区分	専門基礎科目
必修/選択	必修
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UE-R162
学年	3学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 岩田 昇	指定なし

授業の概要と教育目標

公衆衛生学の概念，方法論の基礎を学ぶ。一次予防，二次予防および三次予防の理論に基づき，環境諸要因が健康あるいは社会生活に及ぼす影響について理解を深め，疾病予防や健康増進へのアプローチの方法等，保健予防・医療に関する知識を習得する。公衆衛生実践活動を学び，人々の健康を守るための組織，機関および医療従事者の役割や機能への理解を深める。
なお、授業ではほぼ毎回、現代社会における健康問題・報道などを題材として、グループディスカッションおよびプレゼンテーションの時間を設定し、自らの判断・見解を持ち、それを他者に伝えるスキルの習得も目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマ・ポリシーとの関連として、「人間と環境の理解」を主軸に、「健康・環境・栄養・食品・生活」に関する理解に基づく観察力や判断能力を養うとともに、保健・医療分野を支えるための総合的な科目として、社会・環境の諸要因と健康問題との関係や保健医療の公的システムを理解することを目指す。

到達目標

1. 生活習慣と健康との関係について、その概要を説明できる。
2. ガンやその他の５大疾患の危険因子と予防活動について、概要を説明できる。
3. 感染症に対する法律、国・コミュニティの対策の概要について説明できる。
4. 予防活動における栄養士の役割について説明できる。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	ガイダンス 公衆衛生学Ⅰの復習①	授業の進め方・評価の仕方等 生活・社会・健康に関する今日的話題	予習90分：公衆衛生学Ⅰの資料に目を通し、キーワードを確認しておくこと 復習90分：配布資料を見直し、要点を確認しておくこと

第2回	公衆衛生学Ⅰの復習②	環境保健の復習 疫学の復習	予習90分：疫学の指標、計算方法などについて、確認しておくこと 復習90分：配布資料を見直し、要点を確認しておくこと
第3回	第５章 生活習慣の現状と対策①	健康日本21、食行動	予習90分：教科書P.117～137に目を通し、重要キーワードを調べておくこと 復習90分：配布資料を見直し、要点を確認しておくこと
第4回	第５章 生活習慣の現状と対策②	喫煙行動、飲酒行動	予習90分：教科書P.137～145に目を通し、重要キーワードを調べておくこと 復習90分：配布資料を見直し、要点を確認しておくこと
第5回	第５章 生活習慣の現状と対策③	睡眠・ストレス、歯科保健活動	予習90分：教科書P.146～158に目を通し、重要キーワードを調べておくこと 復習90分：配布資料を見直し、要点を確認しておくこと
第6回	確認テスト１	確認テスト１の実施 解答と解説	予習90分：1～5回の授業資料を見直して、理解しておくこと 復習90分：不正解の箇所を中心に、資料を見直し、要点をノートに記すこと
第7回	第６章 主要疾患の疫学と予防①	ガン、循環器疾患	予習90分：教科書P.159～168に目を通し、重要キーワードを調べておくこと 復習90分：配布資料を見直し、要点を確認しておくこと
第8回	第６章 主要疾患の疫学と予防②	代謝疾患、骨・関節疾患	予習90分：教科書P.168～179に目を通し、重要キーワードを調べておくこと 復習90分：配布資料を見直し、要点を確認しておくこと
第9回	第６章 主要疾患の疫学と予防③	感染症 感染症法・主要感染症	予習90分：教科書P.180～185に目を通し、重要キーワードを調べておくこと 復習90分：配布資料を見直し、要点を確認しておくこと
第10回	第６章 主要疾患の疫学と予防④	感染症 予防接種 検疫	予習90分：教科書P.185～188に目を通し、重要キーワードを調べておくこと復習90分：配布資料を見直し、要点を確認しておくこと
第11回	確認テスト２	確認テスト２の実施 解答と解説	予習90分：7～10回の授業資料を見直して、理解しておくこと 復習90分：不正解の箇所を中心に、資料を見直し、要点をノートに記すこと
第12回	第６章 主要疾患の疫学と予防⑤	精神疾患	予習90分：教科書P.188～191に目を通し、重要キーワードを調べておくこと 復習90分：配布資料を見直し、要点を確認しておくこと
第13回	第６章 主要疾患の疫学と予防⑤	その他の疾患	予習90分：教科書P.191～196に目を通し、重要キーワードを調べておくこと 復習90分：配布資料を見直し、要点を確認しておくこと
第14回	第６章 主要疾患の疫学と予防⑤	外因（自殺・不慮の事故・虐待・暴力）	予習90分：教科書P.196～201に目を通し、重要キーワードを調べておくこと 復習90分：配布資料を見直し、要点を確認しておくこと
			予習90分：1～14回の授業資料を見直しで、理

第15回	まとめ	全体確認テストの実施 解答と解説	解しておくこと 復習90分：不正解の箇所を中心に、資料を見直し、要点をノートに記すこと

教科書

古野・辻・吉池編『社会・環境と健康』 南江堂

参考書

適宜紹介する。

成績評価の方法・基準

・単位認定60点以上。
・３回の筆記試験 90%、授業への参加度 10%

**課題等に対する
フィードバックの方法**

・確認テスト(45分程度)の後、解答および解説を行う。
・グループディスカッション・プレゼンテーションに対するコメント等を適宜行う。

履修のポイント

・健康水準の高い社会に住んでいることを自覚し、俯瞰的視点を持って，積極的に取り組むことを期待します。

オフィス・アワー

・水曜日・木曜日12:30〜13:20（昼休み）11号館第5研究室
（講義終了前後にも適宜受付可能）

講義コード	20420002
講義名	公衆衛生学Ⅱ（4年生）
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	２時限
区分	専門基礎科目
必修/選択	必修
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UE-R162
学年	4学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 岩田 昇	指定なし

授業の概要と教育目標

公衆衛生学の概念，方法論の基礎を学ぶ。一次予防，二次予防および三次予防の理論に基づき，環境諸要因が健康あるいは社会生活に及ぼす影響について理解を深め，疾病予防や健康増進へのアプローチの方法等，保健予防・医療に関する知識を習得する。公衆衛生実践活動を学び，人々の健康を守るための組織，機関および医療従事者の役割や機能への理解を深める。
なお、授業ではほぼ毎回、現代社会における健康問題・報道などを題材として、グループディスカッションおよびプレゼンテーションの時間を設定し、自らの判断・見解を持ち、それを他者に伝えるスキルの習得も目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマ・ポリシーとの関連として、「人間と環境の理解」を主軸に、「健康・環境・栄養・食品・生活」に関する理解に基づく観察力や判断能力を養うとともに、保健・医療分野を支えるための総合的な科目として、社会・環境の諸要因と健康問題との関係や保健医療の公的システムを理解することを目指す。

到達目標

1. 生活習慣と健康との関係について、その概要を説明できる。
2. ガンやその他の５大疾患の危険因子と予防活動について、概要を説明できる。
3. 感染症に対する法律、国・コミュニティの対策の概要について説明できる。
4. 予防活動における栄養士の役割について説明できる。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	ガイダンス 公衆衛生学Ⅰの復習①	授業の進め方・評価の仕方等 生活・社会・健康に関する今日的話題	予習90分：公衆衛生学Ⅰの資料に目を通し、キーワードを確認しておくこと 復習90分：配布資料を見直し、要点を確認しておくこと

第2回	公衆衛生学Ⅰの復習②	環境保健の復習 疫学の復習	予習90分：疫学の指標、計算方法などについて、確認しておくこと 復習90分：配布資料を見直し、要点を確認しておくこと
第3回	第５章 生活習慣の現状と対策①	健康日本21、食行動	予習90分：教科書P.117～137に目を通し、重要キーワードを調べておくこと 復習90分：配布資料を見直し、要点を確認しておくこと
第4回	第５章 生活習慣の現状と対策②	喫煙行動、飲酒行動	予習90分：教科書P.137～145に目を通し、重要キーワードを調べておくこと 復習90分：配布資料を見直し、要点を確認しておくこと
第5回	第５章 生活習慣の現状と対策③	睡眠・ストレス、歯科保健活動	予習90分：教科書P.146～158に目を通し、重要キーワードを調べておくこと 復習90分：配布資料を見直し、要点を確認しておくこと
第6回	確認テスト１	確認テスト１の実施 解答と解説	予習90分：1～5回の授業資料を見直して、理解しておくこと 復習90分：不正解の箇所を中心に、資料を見直し、要点をノートに記すこと
第7回	第６章 主要疾患の疫学と予防①	ガン、循環器疾患	予習90分：教科書P.159～168に目を通し、重要キーワードを調べておくこと 復習90分：配布資料を見直し、要点を確認しておくこと
第8回	第６章 主要疾患の疫学と予防②	代謝疾患、骨・関節疾患	予習90分：教科書P.168～179に目を通し、重要キーワードを調べておくこと 復習90分：配布資料を見直し、要点を確認しておくこと
第9回	第６章 主要疾患の疫学と予防③	感染症 感染症法・主要感染症	予習90分：教科書P.180～185に目を通し、重要キーワードを調べておくこと 復習90分：配布資料を見直し、要点を確認しておくこと
第10回	第６章 主要疾患の疫学と予防④	感染症 予防接種 検疫	予習90分：教科書P.185～188に目を通し、重要キーワードを調べておくこと復習90分：配布資料を見直し、要点を確認しておくこと
第11回	確認テスト２	確認テスト２の実施 解答と解説	予習90分：7～10回の授業資料を見直して、理解しておくこと 復習90分：不正解の箇所を中心に、資料を見直し、要点をノートに記すこと
第12回	第６章 主要疾患の疫学と予防⑤	精神疾患	予習90分：教科書P.188～191に目を通し、重要キーワードを調べておくこと 復習90分：配布資料を見直し、要点を確認しておくこと
第13回	第６章 主要疾患の疫学と予防⑤	その他の疾患	予習90分：教科書P.191～196に目を通し、重要キーワードを調べておくこと 復習90分：配布資料を見直し、要点を確認しておくこと
第14回	第６章 主要疾患の疫学と予防⑤	外因（自殺・不慮の事故・虐待・暴力）	予習90分：教科書P.196～201に目を通し、重要キーワードを調べておくこと 復習90分：配布資料を見直し、要点を確認しておくこと
			予習90分：1～14回の授業資料を見直しで、理

第15回	まとめ	全体確認テストの実施 解答と解説	解しておくこと 復習90分：不正解の箇所を中心に、資料を見直し、要点をノートに記すこと

教科書

古野・辻・吉池編『社会・環境と健康』 南江堂

参考書

適宜紹介する。

成績評価の方法・基準

・単位認定60点以上。
・３回の筆記試験 90%、授業への参加度 10%

**課題等に対する
フィードバックの方法**

・確認テスト(45分程度)の後、解答および解説を行う。
・グループディスカッション・プレゼンテーションに対するコメント等を適宜行う。

履修のポイント

・健康水準の高い社会に住んでいることを自覚し、俯瞰的視点を持って，積極的に取り組むことを期待します。

オフィス・アワー

・水曜日・木曜日12:30〜13:20（昼休み）11号館第5研究室
（講義終了前後にも適宜受付可能）

講義コード	20430001
講義名	公衆衛生学Ⅲ
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	３時限
区分	専門基礎科目
必修/選択	必修
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UE-R170
学年	4学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 岩田 昇	指定なし

授業の概要と教育目標

公衆衛生学の概念，方法論の基礎を学ぶ。一次予防，二次予防および三次予防の理論に基づき，環境諸要因が健康あるいは社会生活に及ぼす影響について理解を深め，疾病予防や健康増進へのアプローチの方法等，保健予防・医療に関する知識を習得する。公衆衛生実践活動を学び，人々の健康を守るための組織，機関および医療従事者の役割や機能への理解を深める。
なお、授業ではほぼ毎回、現代社会における健康問題・報道などを題材として、グループディスカッションおよびプレゼンテーションの時間を設定し、自らの判断・見解を持ち、それを他者に伝えるスキルの習得も目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマ・ポリシーとの関連として、「人間と環境の理解」を主軸に、「健康・環境・栄養・食品・生活」に関する理解に基づく観察力や判断能力を養うとともに、保健・医療分野を支えるための総合的な科目として、社会・環境の諸要因と健康問題との関係や保健医療の公的システムを理解することを目指す。

到達目標

1. 社会保障に関する公的システムについて，その概要を説明できる
2. 医療制度に関する公的システムについて、その概要を説明できる
3. 地域保健・高齢者保健に関する現状と公的活動について説明できる
4. 母子保健・学校保健・産業保健など、ライフサイクルに則した保健課題の概要を説明できる。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	オリエンテーション	授業の進め方、評価の仕方等 公衆衛生学Ⅰ・Ⅱの振り返り	予習90分：公衆衛生学Ⅰ・Ⅱの資料に目を通し、重要キーワードについて、確認しておくこと 復習90分：配布資料を見直し、要点を整理しておくこと

第2回	第７章 保健・医療・福祉の制度①	社会保障、行政	予習90分：教科書P. 203～207に目を通し、重要キーワードについて、調べておく 復習90分：配布資料を見直し、要点を整理しておく
第3回	第７章 保健・医療・福祉の制度②	医療制度、福祉制度	予習90分：教科書P. 207～221に目を通し、重要キーワードについて、調べておく 復習90分：配布資料を見直し、要点を整理しておく
第4回	第８章 地域保健	地域保健活動、資源、健康危機管理	予習90分：教科書P. 223～231に目を通し、重要キーワードについて、調べておく 復習90分：配布資料を見直し、要点を整理しておく
第5回	確認テスト１	確認テスト１の実施 解答および解説	予習90分：1～4回の授業資料に目を通し、理解しておくこと 復習90分：不正解箇所について、資料等で確認整理し、ノートに記しておくこと
第6回	第９章 母子保健	母子保健法、母子保健事業、母子保健施策	予習90分：教科書P. 233～244に目を通し、重要キーワードについて、調べておく 復習90分：配布資料を見直し、要点を整理しておく
第7回	第10章 成人保健	生活習慣病の予防、特定健康診査、特定保健指導、法律	予習90分：教科書P. 245～254に目を通し、重要キーワードについて、調べておく 復習90分：配布資料を見直し、要点を整理しておく
第8回	第11章 高齢者保健・介護①	高齢者保健・介護、介護保険法、介護予防、要介護認定、ケアマネジメント	予習90分：教科書P. 255～259に目を通し、重要キーワードについて、調べておく 復習90分：配布資料を見直し、要点を整理しておく
第9回	第11章 高齢者保健・介護②	地域包括支援センター、介護施設、老人保健施設、地域包括ケアシステム	予習90分：教科書P. 259～264に目を通し、重要キーワードについて、調べておく 復習90分：配布資料を見直し、要点を整理しておく
第10回	確認テスト２	確認テスト２の実施 解答および解説	予習90分：6～9回の授業資料に目を通し、理解しておくこと 復習90分：不正解箇所について、資料等で確認整理し、ノートに記しておくこと
第11回	第12章 産業保健①	産業保健の目的・制度、現状と対策、労働災害	予習90分：教科書P. 265～271に目を通し、重要キーワードについて、調べておく 復習90分：配布資料を見直し、要点を整理しておく
第12回	第12章 産業保健② 第13章 学校	職業と健康障害、うつ 学校保健の現状と対策	予習90分：教科書P. 271～280に目を通し、重要キーワードについて、調べておく 復習90分：配布資料を見直し、要点

	保健①		を整理しておく
第13回	第13章 学校保健②	児童生徒の健康、学校保健安全対策、学校感染症	予習90分：教科書P. 280～290に目を通し、重要キーワードについて、調べておく 復習90分：配布資料を見直し、要点を整理しておく
第14回	第14章 国際保健	地球規模の健康問題、開発途上国の健康問題、国際的協力機関	予習90分：教科書P. 291～301に目を通し、重要キーワードについて、調べておく 復習90分：配布資料を見直し、要点を整理しておく
第15回	まとめ	全体確認テストの実施 解答および解説	予習120分：1～14回の講義の中の重要キーワードを確認しておく 復習90分：不正解の個所を再度確認し、ノートに記しておく

教科書

古野・辻・吉池編『社会・環境と健康』 南江堂

参考書

適宜紹介する。

成績評価の方法・基準

・単位認定60点以上。
・３回の筆記試験90%、授業への参加度10%

**課題等に対する
フィードバックの方法**

・確認テスト(45分程度)の後、解答および解説を行う。
・グループディスカッション・プレゼンテーションに対するコメント等を適宜行う。

履修のポイント

・健康水準の高い社会に住んでいることを自覚し、俯瞰的視点を持って，積極的に取り組むことを期待します。

オフィス・アワー

・水曜日・木曜日12:30～13:20（昼休み） 11号館第5研究室
（講義終了前後にも適宜受付可能）

講義コード	20440002
講義名	解剖生理学Ⅰ
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	１時限
区分	専門基礎科目
必修/選択	必修
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UE-R113
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 影山 晴秋	指定なし

授業の概要と教育目標

栄養面からの健康増進と維持、疾病の成り立ちや疾病のリスク低下とのかかわりを理解するためは、人体の構造や機能について解剖学的および生理学的な両側面から習得する必要がある。本講義では総論として4大組織の構造的特徴、各論として循環器および内分泌系に属する器官の構造と機能について講義を行う予定である。本科目では、解剖生理学で得られた知識をもとに、ヒトの生理機能の基礎知識の修得を目指す。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマポリシーとの関連として、「2. 人間の健康を規定する要因として幅広く社会・環境を科学的に理解し、さらに健康の維持・増進プログラムを実践するために必要な人体の構造並びに疾病の成り立ちから食べ物と健康の知識や技能を修得している。」並びに「3. 多様な対象や人間のライフステージ・ライフサイクルに沿って、利用者の身体の状況、栄養状態、生活習慣に係る栄養・食事管理、栄養教育、臨床栄養ならびに公衆栄養、給食経営分野に関して必要な知識や技術を修得している。」に基づき、正常の人体の構造と機能・役割についての知識修得を目指す。さらには、専門科目、特に基礎栄養学、病理学、臨床栄養学を理解する上で基盤となる知識の獲得を目指すものとする。

到達目標

1. 人体の構成単位である細胞レベルから組織・器官・器官系レベルまでを体系的に理解し、構造や機能を説明できる。
2. 生化学、基礎栄養学、臨床栄養学に関わる基礎的な知識を身につける。
3. 食・栄養・健康という幅広い分野で科学的根拠に基づく栄養の実践活動ができるようにするために、人体の仕組みを説明できる。
4. 解剖生理学Ⅰでは組織、循環器および内分泌の機能と構造について説明できる。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	解剖生理学Ⅰの概要	オリエンテーション（授業の進め方など） 解剖生理学Ⅰの内容について	予習90分：シラバスを事前に確認すること 復習90分：第1章をよく読み、解剖学の

	組織	細胞から個体	言葉遣いに慣れるようにする。
第2回	細胞と組織１	細胞の基本構造（生体膜、細胞小器官）	予習90分：教科書２章10-14ページを読んで分からなかったところを把握する。 復習90分「解剖生理学まとめドリル」を用いて必ず復習を行い、講義の内容をきちんと理解する。
第3回	細胞と組織２	４大組織：上皮組織の構造とはたらき、外分泌腺の構造とはたらき	予習90分：教科書3章16-19ページを読んで分からなかったところを把握する。 復習90分「解剖生理学まとめドリル」を用いて必ず復習を行い、講義の内容をきちんと理解する。
第4回	細胞と組織３	４大組織：細胞間結合装置、支持組織と筋組織の種類と構造	予習90分：教科書3章20-25ページを読んで分からなかったところを把握する。 復習90分「解剖生理学まとめドリル」を用いて必ず復習を行い、講義の内容をきちんと理解する。
第5回	細胞と組織４ 運動器（骨格系・筋系）１	神経組織 骨の構造	予習90分：教科書3章24-33ページを読んで分からなかったところを把握する。 復習90分「解剖生理学まとめドリル」を用いて必ず復習を行い、講義の内容をきちんと理解する。
第6回	運動器（骨格系・筋系）２	骨の構成細胞、骨の成長とリモデリング	予習90分：教科書3章32-37ページを読んで分からなかったところを把握する。 復習90分「解剖生理学まとめドリル」を用いて必ず復習を行い、講義の内容をきちんと理解する。
第7回	運動器（骨格系・筋系）３ 血液・免疫系１	筋の構造と機能と運動のしくみ 血液の概要と血球の種類	予習90分：教科書4章16-59ページと5章73-75ページを読んで分からなかったところを把握する。 復習90分「解剖生理学まとめドリル」を用いて必ず復習を行い、講義の内容をきちんと理解する。
第8回	血液・免疫系１	血球の分化・成熟、血漿成分、赤血球の処理 凝固・線溶系	予習90分：教科書5章76-83ページを読んで分からなかったところを把握する。 復習90分「解剖生理学まとめドリル」を用いて必ず復習を行い、講義の内容をきちんと理解する。
第9回	血液・免疫系２	免疫細胞、免疫機構（自然免疫と獲得免疫）	予習90分：教科書5章84-102ページを読んで分からなかったところを把握する。 復習90分「解剖生理学まとめドリル」を用いて必ず復習を行い、講義の内容をきちんと理解する。
第10回	循環器系１	心臓の構造、血液循環路、心周期、心臓の刺激伝導系	予習90分：教科書6章103-113ページを読んで分からなかったところを把握する。 復習90分「解剖生理学まとめドリル」を用いて必ず復習を行い、講義の内容をきちんと理解する。
第11回	循環器系２	血管の構造、リンパ管の構造と機能	予習90分：教科書6章112-119ページ、126−129ページを読んで分からなかったところを把握する。 復習90分「解剖生理学まとめドリル」を用いて必ず復習を行い、講義の内容をき

			ちんと理解する。
第12回	循環器系3 内分泌系1	循環系の調節 内分泌腺の構造	予習90分：教科書6、7章128-135ページを読んで分からなかったところを把握する。 復習90分「解剖生理学まとめドリル」を用いて必ず復習を行い、講義の内容をきちんと理解する。
第13回	内分泌系2	ホルモンの種類とホルモン分泌調節機構 視床下部ホルモンと下垂体ホルモンと分泌機能	予習90分：教科書7章134-143ページを読んで分からなかったところを把握する。 復習90分「解剖生理学まとめドリル」を用いて必ず復習を行い、講義の内容をきちんと理解する。
第14回	内分泌系3	甲状腺と上皮小体の構造と機能、ホルモンの作用	予習90分：教科書7章142-147ページを読んで分からなかったところを把握する。 復習90分「解剖生理学まとめドリル」を用いて必ず復習を行い、講義の内容をきちんと理解する。
第15回	内分泌系4	副腎と膵臓の構造と機能、ホルモンの作用	予習90分：教科書7章146-156ページを読んで分からなかったところを把握する。 復習90分「解剖生理学まとめドリル」を用いて必ず復習を行い、講義の内容をきちんと理解する。

教科書

管理栄養士を目指す学生のための解剖生理学テキスト 岩堀修明（著）・文光堂
解剖生理学まとめドリル―人体の基本を総チェック― SENKOSHA

参考書

栄養科学イラストレイテッド 解剖生理学 人体の構造と機能 志村二三夫，岡 純，山田和彦／編・羊土社
得意になる解剖生理 美田誠二（著）・照林社
上記２つの参考書を挙げますが、図書館に解剖学や生理学に関する教科書がたくさんあります。自分に合った読みやすいものを参考書として使ってください。または高校の時に使用した「生物」「基礎生物」の教科書も参考書となります。

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上。
期末試験80%、単元終了時の講義内確認小テスト20%

課題等に対するフィードバックの方法

授業内確認小テストを採点し、答案で気になる点に関してはコメントを付けて返却するので、授業内容の理解に役立てること。確認証テストで点数が30%未満の場合は、正答に直して再提出すること。

履修のポイント

膨大な情報量を教科書の図を使って講義しますので、しっかりと授業についてきて下さい。講義はスライド中心となりますが、講義スライドをプリントアウトしたものは配布しませんので、ノートを取るあるいは教科書に書き込んで下さい。解剖生理学IとIIが理解できると、「健康に関するテレビ番組やメディア」や「ダイエットに関するテレビ番組やメディア」に対して、深く理解できるようになります。

オフィス・アワー

月曜日から木曜日までの9:00-17:00（講義が無いとき）
11号館3階第10研究室にて対応。
また講義終了時も対応します。

講義コード	20450001
講義名	解剖生理学 II
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	３時限
区分	専門基礎科目
必修/選択	必修
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UE-R123
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 影山 晴秋	指定なし

授業の概要と教育目標

栄養面からの健康増進と維持、疾病の成り立ちや疾病のリスク低下とのかかわりを理解するためは、人体の構造や機能を解剖学的および生理学的な面から習得する必要がある。解剖生理学で得られた知識をもとに、ヒトの生理機能の基礎を学ぶ。解剖生理学IIでは消化器系、呼吸器系、腎・泌尿器系、生殖器系および感覚器に属する器官の構造と機能について講義する。特に栄養学全般で重要になる「食べ物の消化・吸収、代謝、排泄」という一連の流れを、どこの器官系で行っているかを学習していく。本科目では、解剖生理学で得られた知識をもとに、ヒトの生理機能の基礎知識の修得を目指す。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマポリシーとの関連として、「2. 人間の健康を規定する要因として幅広く社会・環境を科学的に理解し、さらに健康の維持・増進プログラムを実践するために必要な人体の構造並びに疾病の成り立ちから食べ物と健康の知識や技能を修得している。」並びに「3. 多様な対象や人間のライフステージ・ライフサイクルに沿って、利用者の身体の状況、栄養状態、生活習慣に係る栄養・食事管理、栄養教育、臨床栄養ならびに公衆栄養、給食経営分野に関して必要な知識や技術を修得している。」に基づき、正常の人体の構造と機能・役割についての知識修得を目指す。さらには、専門科目、特に基礎栄養学、病理学、臨床栄養学を理解する上で基盤となる知識の獲得を目指すものとする。

到達目標

1. 食・栄養・健康という幅広い分野で科学的根拠に基づく栄養の実践活動ができるようにするために、人体の仕組みを説明できる。
2. 食べ物の摂取、消化・吸収、排泄といった消化器系や腎・泌尿器系、ガス交換をおこなう呼吸系、生殖器及び神経系の構造と機能について、説明できる。
3. 食・栄養・健康という幅広い分野で科学的根拠に基づく栄養の実践活動ができるようにするために、人体の仕組みを説明できる。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
			予習90分：教科書８章157-165ページ

第1回	消化器系1	消化器の総論、口腔（歯、舌、味覚器）、咽頭、食道の構造	と13章322−324ページを読んで分からなかったところを把握する。 復習90分「解剖生理学まとめドリル」を用いて必ず復習を行い、講義の内容をきちんと理解する。
第2回	消化器系2	食道、胃、小腸の構造	予習90分：教科書8章164-173ページを読んで分からなかったところを把握する。 復習90分「解剖生理学まとめドリル」を用いて必ず復習を行い、講義の内容をきちんと理解する。
第3回	消化器系3	大腸の構造、肝臓の構造と生理機能	予習90分：教科書8章172-177ページを読んで分からなかったところを把握する。 復習90分「解剖生理学まとめドリル」を用いて必ず復習を行い、講義の内容をきちんと理解する。
第4回	消化器系4	胆嚢、膵臓の構造と生理機能 消化管の生理機能（唾液腺、嚥下のしくみ）	予習90分：教科書8章160-163、177-182ページを読んで分からなかったところを把握する。 復習90分「解剖生理学まとめドリル」を用いて必ず復習を行い、講義の内容をきちんと理解する。
第5回	消化器系5 呼吸器系1	消化管の生理機能（胃液分泌の調節、消化ホルモン、栄養素の消化） 呼吸器系の概要	予習90分：教科書8章169，182-188ページ、9章169，189-191を読んで分からなかったところを把握する。 復習90分「解剖生理学まとめドリル」を用いて必ず復習を行い、講義の内容をきちんと理解する。
第6回	呼吸器系2	鼻腔、咽頭、気管、肺の構造と機能 呼吸のしくみ	予習90分：教科書9章192-204ページを読んで分からなかったところを把握する。 復習90分「解剖生理学まとめドリル」を用いて必ず復習を行い、講義の内容をきちんと理解する。
第7回	呼吸器系2	ガス交換と運搬、呼吸の調節	予習90分：教科書9章204-216ページを読んで分からなかったところを把握する。 復習90分「解剖生理学まとめドリル」を用いて必ず復習を行い、講義の内容をきちんと理解する。
第8回	泌尿器系1	腎臓の構造とはたらき（老廃物の排泄）	予習90分：教科書10章217-223、236−239ページを読んで分からなかったところを把握する。 復習90分「解剖生理学まとめドリル」を用いて必ず復習を行い、講義の内容をきちんと理解する。
第9回	泌尿器系2	腎臓のはたらき（水分量、酸塩基平衡、血圧、体内カルシウム量、造血機能の調節）	予習90分：教科書10章224-234ページを読んで分からなかったところを把握する。 復習90分「解剖生理学まとめドリル」を用いて必ず復習を行い、講義の内容をきちんと理解する。
	生殖		予習90分：教科書11章241-253ページを読んで分からなかったところを把握する。

第10回	器系1	男性・女性生殖器の機能と構造	復習90分「解剖生理学まとめドリル」を用いて必ず復習を行い、講義の内容をきちんと理解する。
第11回	生殖器系2	性周期、受精から着床まで	予習90分：教科書11章256-261ページを読んで分からなかったところを把握する。 復習90分「解剖生理学まとめドリル」を用いて必ず復習を行い、講義の内容をきちんと理解する。
第12回	生殖器系3神経系1	胎盤の形成、構造と機能、乳腺の構造と機能 中枢神経系の総論、脊髄と脳の構造と機能	予習90分：教科書11章260−256ページ、12章269−278ページを読んで分からなかったところを把握する。 復習90分「解剖生理学まとめドリル」を用いて必ず復習を行い、講義の内容をきちんと理解する。
第13回	神経系2感覚器系1	脳の構造と機能 末梢神経系の構造と機能 視覚器の構造	予習90分：教科書12章278-300ページ、13章310-313ページを読んで分からなかったところを把握する。 復習90分「解剖生理学まとめドリル」を用いて必ず復習を行い、講義の内容をきちんと理解する。
第14回	感覚器系2	視覚器の構造と機能 聴覚器１の聴覚器の構造と機能	予習90分：教科書13章312-318ページを読んで分からなかったところを把握する。 復習90分「解剖生理学まとめドリル」を用いて必ず復習を行い、講義の内容をきちんと理解する。
第15回	感覚器系2	聴覚器２・平衡覚器・皮膚感覚の構造と機能	予習90分：教科書13章318-323、302−309ページを読んで分からなかったところを把握する。 復習90分「解剖生理学まとめドリル」を用いて必ず復習を行い、講義の内容をきちんと理解する。

教科書

管理栄養士を目指す学生のための解剖生理学テキスト 岩堀修明（著）・文光堂
解剖生理学まとめドリル―人体の基本を総チェック― SENKOSHA

参考書

栄養科学イラストレイテッド 解剖生理学 人体の構造と機能 志村二三夫，岡 純，山田和彦／編・羊土社
得意になる解剖生理 美田誠二（著）・照林社
上記２つの参考書を挙げますが、図書館に解剖学や生理学に関する教科書がたくさんあります。自分に合った読みやすいものを参考書として使ってください。または高校の時に使用した「生物」「基礎生物」の教科書も参考書となります。

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上。
期末試験80％、単元終了時の講義内確認小テスト20%

課題等に対する
フィードバックの方法

授業内確認小テストを採点し、気になる点をコメントして返却するので、授業内容の理解に役立てること。確認証テストで点数が30%未満の場合は、正答に直して再提出すること。
履修のポイント
膨大な情報量を教科書の図を使って講義しますので、しっかりと授業についてきて下さい。 講義はスライド中心となりますが、講義スライドをプリントアウトしたものは配布しませんので、ノートを取るあるいは教科書に書き込んで下さい。解剖生理学IとIIが理解できると、「健康に関するテレビ番組やメディア」や「ダイエットに関するテレビ番組やメディア」に対して、深く理解できるようになります。
オフィス・アワー
月曜日から木曜日までの9:00-17:00（講義が無いとき） 11号館3階第10研究室にて対応。 また講義終了時も対応します。

講義コード	20460001
講義名	解剖生理学実験Ⅰ（Aクラス）
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期
講義区分	実験・実習
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	１時限
区分	専門基礎科目
必修/選択	必修
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UE-R122
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 影山 晴秋	指定なし

授業の概要と教育目標

解剖生理学の講義内容を形態学的観点から確認する。解剖生理学の講義で使っている教科書では組織像はイラストで示されていたが、実際に顕微鏡を用いて、組織標本の観察・スケッチを行い、組織像を確認する。第5回、第10回、第15回目に個人発表を行い、組織構造の理解を深める。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマポリシーとの関連として、「2. 人間の健康を規定する要因として幅広く社会・環境を科学的に理解し、さらに健康の維持・増進プログラムを実践するために必要な人体の構造並びに疾病の成り立ちから食べ物と健康の知識や技能を修得している。」に基づき、各器官の構造ついての知識の修得を目指すものとする。さらには、顕微鏡を使って細胞同定ができる技能の修得を目指す。

到達目標

1. 解剖生理学の講義内容を形態学的視点から説明できる。
2. 顕微鏡を使って、標本を観察することができる。
3. 人体の構造と機能を実習を通じて理解し、臨床栄養学、基礎栄養学、病理学を理解する上で必要となる基礎知識を習得する。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	実習のガイダンス細胞と組織	実習全体の注意・説明、顕微鏡の使い方 細胞と4大組織の組織構造（上皮組織、結合組織）の観察・スケッチ	予習20分：実習に該当する範囲の教科書を事前に読んでおくこと 復習25分：配布されたプリントと教科書を使って、組織構造の理解を深め、忘れないようにすること。
			予習20分：実習に該当する範囲の教科書を事前に読んでおくこと。

第2回	骨格系・筋系	4大組織の組織構造（骨組織、筋組織）の観察・スケッチ	また骨芽細胞、破骨細胞、骨格筋について調べておくこと。 復習25分：配布されたプリントと教科書を使って、組織構造の理解を深め、忘れないようにすること。
第3回	血液・造血器系	造血器官と一次・二次リンパ性器官の組織構造の観察・スケッチ	予習20分：実習に該当する範囲の教科書を事前に読んでおくこと。 また骨髄、胸腺、脾臓について調べておくこと。 復習25分：配布されたプリントと教科書を使って、組織構造の理解を深め、忘れないようにすること。
第4回	循環器系・呼吸器系	心臓、血管、肺の組織構造の観察・スケッチ	予習20分：実習に該当する範囲の教科書を事前に読んでおくこと。 また心筋、大動脈、気管、肺胞について調べておくこと。 復習25分：配布されたプリントと教科書を使って、組織構造の理解を深め、忘れないようにすること。
第5回	実習内容のまとめ（1）	1回から4回までのまとめの確認小テスト 【アクティブラーニング】 1回から4回までの実習内容の範囲から、1つテーマを与えて、そのテーマに沿ってホワイトボードを使ってプレゼンテーションを行い、形態学的視点から説明できるようにする。	予習45分：1回から4回までの配布プリントを使って、組織構造を説明できるようにしておくこと。
第6回	消化器系１	唾液腺、胃、小腸の組織構造の観察・スケッチ （唾液腺、胃腺、小腸の管壁）	予習20分：実習に該当する範囲の教科書を事前に読んでおくこと。 また唾液腺、胃腺、小腸の管壁について調べておくこと。 復習25分：配布されたプリントと教科書を使って、組織構造の理解を深め、忘れないようにすること。
第7回	消化器系２	小腸、大腸の組織構造の観察・スケッチ	予習20分：実習に該当する範囲の教科書を事前に読んでおくこと。 また腸管免疫、腸内神経叢、食道-胃接合部について調べておくこと。 復習25分：配布されたプリントと教科書を使って、組織構造の理解を深め、忘れないようにすること。
第8回	消化器系３	肝臓、膵臓、胆嚢の組織構造の観察・スケッチ	予習20分：実習に該当する範囲の教科書を事前に読んでおくこと。 また肝小葉・肝三つ組み、膵臓の内分泌部と外分泌部について調べておくこと。 復習25分：配布されたプリントと教科書を使って、組織構造の理解を深め、忘れないようにすこ

			と。
第9回	内分泌系	下垂体、甲状腺、上皮小体、副腎の組織構造の観察・スケッチ	予習20分：実習に該当する範囲の教科書を事前に読んでおくこと 復習25分：配布されたプリントと教科書を使って、組織構造の理解を深め、忘れないようにすること。
第10回	実習内容のまとめ（2）	6回から9回までのまとめの確認小テスト 【アクティブラーニング】 6回から9回までの実習内容の範囲から、1つテーマを与えて、そのテーマに沿ってホワイトボードを使ってプレゼンテーションを行い、形態学的視点から説明できるようにする。	予習45分：6回から9回までの配布プリントを使って、組織構造を説明できるようにしておくこと。
第11回	泌尿器系	腎臓、尿管、膀胱の組織構造の観察・スケッチ	予習20分：実習に該当する範囲の教科書を事前に読んでおくこと。また腎小体と糸球体近接装置について調べておくこと。 復習25分：配布されたプリントと教科書を使って、組織構造の理解を深め、忘れないようにすること。
第12回	生殖器系	男性生殖器と女性生殖器・スケッチ	予習20分：実習に該当する範囲の教科書を事前に読んでおくこと。また精巣、卵巣について調べておくこと。 復習25分：配布されたプリントと教科書を使って、組織構造の理解を深め、忘れないようにすること。
第13回	神経系	4大組織の神経系の組織構造の観察・スケッチ	予習20分：実習に該当する範囲の教科書を事前に読んでおくこと。また神経細胞、有髄線維、神経筋接合部について調べておくこと。 復習25分：配布されたプリントと教科書を使って、組織構造の理解を深め、忘れないようにすること。
第14回	種々の細胞と細胞内小器官	脂肪細胞、皮膚の細胞の観察と細胞小器官の観察・スケッチ	予習20分：実習に該当する範囲の教科書を事前に読んでおくこと。また白色脂肪細胞、褐色脂肪細胞、表皮の構造、ミトコンドリアについて調べておくこと。 復習25分：配布されたプリントと教科書を使って、組織構造の理解を深め、忘れないようにすること。
第15回	実習内容のまとめ（3）	11回から14回までのまとめの確認小テスト 【アクティブラーニング】 11回から14回までの実習内容の範囲から、1つテーマを与えて、そのテーマに沿ってホワイトボードを使ってプレゼンテーションを行い、形態学的視点か	予習45分：11回から14回までの配布プリントを使って、組織構造を説明できるようにしておくこと。

		ら説明できるようにする。	

教科書
配布プリント 管理栄養士を目指す学生のための解剖生理学テキスト 岩堀修明（著）・文光堂（解剖生理学IとIIで使用した教科書）
参考書
使用しない
成績評価の方法・基準
単位認定60点以上。 まとめの時間に行うプレゼンテーション5%、確認小試験15%、レポート課題60%および定期試験20% ただし、レポート(スケッチ)は毎回期日までに提出し、1 回でも未提出の場合、レポート点は無いものとする。レポート提出が遅れた場合、減点とする。
課題等に対する フィードバックの方法
レポートは、臓器の形態や体内における位置関係、組織の微細構造の正確性について 3段階評価を行う。レポート返却後、誤っているところおよび指摘された箇所は必ずもう一度調べ、訂正する。
履修のポイント
実際の標本の組織像と教科書に載っているイラストの組織像を比較しながら観察し、詳細な組織構造を観察・スケッチします。2次元の観察できる組織像を、3次元の構造をイメージできることが重要です。解剖生理学の講義の復習になりますので、この実習を通して、知識を定着する。他人に依存せず、積極的に実習に取り組むこと。
オフィス・アワー
月曜日から木曜日：9:00-16:00。11号館研究室10にて対応します。講義終了前後にも、適宜受け付けます。

講義コード	20460002
講義名	解剖生理学実験Ⅰ（Bクラス）
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期
講義区分	実験・実習
基準単位数	1
代表曜日	火曜日
代表時限	１時限
区分	専門基礎科目
必修/選択	必修
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UE-R122
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 影山 晴秋	指定なし

授業の概要と教育目標

解剖生理学の講義内容を形態学的観点から確認する。解剖生理学の講義で使っている教科書では組織像はイラストで示されていたが、実際に顕微鏡を用いて、組織標本の観察・スケッチを行い、組織像を確認する。第5回、第10回、第15回目に個人発表を行い、組織構造の理解を深める。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマポリシーとの関連として、「2. 人間の健康を規定する要因として幅広く社会・環境を科学的に理解し、さらに健康の維持・増進プログラムを実践するために必要な人体の構造並びに疾病の成り立ちから食べ物と健康の知識や技能を修得している。」に基づき、各器官の構造ついての知識の修得を目指すものとする。さらには、顕微鏡を使って細胞同定ができる技能の修得を目指す。

到達目標

1. 解剖生理学の講義内容を形態学的視点から説明できる。
2. 顕微鏡を使って、標本を観察することができる。
3. 人体の構造と機能を実習を通じて理解し、臨床栄養学、基礎栄養学、病理学を理解する上で必要となる基礎知識を習得する

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	実習のガイダンス細胞と組織	実習全体の注意・説明、顕微鏡の使い方 細胞と4大組織の組織構造（上皮組織、結合組織）の観察・スケッチ	予習20分：実習に該当する範囲の教科書を事前に読んでおくこと 復習25分：配布されたプリントと教科書を使って、組織構造の理解を深め、忘れないようにすること。
			予習20分：実習に該当する範囲の教科書を事前に読んでおくこと。

第2回	骨格系・筋系	4大組織の組織構造（骨組織、筋組織）の観察・スケッチ	また骨芽細胞、破骨細胞、骨格筋について調べておくこと。 復習25分：配布されたプリントと教科書を使って、組織構造の理解を深め、忘れないようにすること。
第3回	血液・造血器系	造血器官と一次・二次リンパ性器官の組織構造の観察・スケッチ	予習20分：実習に該当する範囲の教科書を事前に読んでおくこと。 また骨髄、胸腺、脾臓について調べておくこと。 復習25分：配布されたプリントと教科書を使って、組織構造の理解を深め、忘れないようにすること。
第4回	循環器系・呼吸器系	心臓、血管、肺の組織構造の観察・スケッチ	予習20分：実習に該当する範囲の教科書を事前に読んでおくこと。 また心筋、大動脈、気管、肺胞について調べておくこと。 復習25分：配布されたプリントと教科書を使って、組織構造の理解を深め、忘れないようにすること。
第5回	実習内容のまとめ（1）	1回から4回までのまとめの確認小テスト 【アクティブラーニング】 1回から4回までの実習内容の範囲から、1つテーマを与えて、そのテーマに沿ってホワイトボードを使ってプレゼンテーションを行い、形態学的視点から説明できるようにする。	予習45分：1回から4回までの配布プリントを使って、組織構造を説明できるようにしておくこと。
第6回	消化器系１	唾液腺、胃、小腸の組織構造の観察・スケッチ （唾液腺、胃腺、小腸の管壁）	予習20分：実習に該当する範囲の教科書を事前に読んでおくこと。 また唾液腺、胃腺、小腸の管壁について調べておくこと。 復習25分：配布されたプリントと教科書を使って、組織構造の理解を深め、忘れないようにすること。
第7回	消化器系２	小腸、大腸の組織構造の観察・スケッチ	予習20分：実習に該当する範囲の教科書を事前に読んでおくこと。 また腸管免疫、腸内神経叢、食道-胃接合部について調べておくこと。 復習25分：配布されたプリントと教科書を使って、組織構造の理解を深め、忘れないようにすること。
第8回	消化器系３	肝臓、膵臓、胆嚢の組織構造の観察・スケッチ	予習20分：実習に該当する範囲の教科書を事前に読んでおくこと。 また肝小葉・肝三つ組み、膵臓の内分泌部と外分泌部について調べておくこと。 復習25分：配布されたプリントと教科書を使って、組織構造の理解を深め、忘れないようにすこ

			と。
第9回	内分泌系	下垂体、甲状腺、上皮小体、副腎の組織構造の観察・スケッチ	予習20分：実習に該当する範囲の教科書を事前に読んでおくこと 復習25分：配布されたプリントと教科書を使って、組織構造の理解を深め、忘れないようにすること。
第10回	実習内容のまとめ（2）	6回から9回までのまとめの確認小テスト 【アクティブラーニング】 6回から9回までの実習内容の範囲から、1つテーマを与えて、そのテーマに沿ってホワイトボードを使ってプレゼンテーションを行い、形態学的視点から説明できるようにする。	予習45分：6回から9回までの配布プリントを使って、組織構造を説明できるようにしておくこと。
第11回	泌尿器系	腎臓、尿管、膀胱の組織構造の観察・スケッチ	予習20分：実習に該当する範囲の教科書を事前に読んでおくこと。また腎小体と糸球体近接装置について調べておくこと。 復習25分：配布されたプリントと教科書を使って、組織構造の理解を深め、忘れないようにすること。
第12回	生殖器系	男性生殖器と女性生殖器・スケッチ	予習20分：実習に該当する範囲の教科書を事前に読んでおくこと。また精巣、卵巣について調べておくこと。 復習25分：配布されたプリントと教科書を使って、組織構造の理解を深め、忘れないようにすること。
第13回	神経系	4大組織の神経系の組織構造の観察・スケッチ	予習20分：実習に該当する範囲の教科書を事前に読んでおくこと。また神経細胞、有髄線維、神経筋接合部について調べておくこと。 復習25分：配布されたプリントと教科書を使って、組織構造の理解を深め、忘れないようにすること。
第14回	種々の細胞と細胞内小器官	脂肪細胞、皮膚の細胞の観察と細胞小器官の観察・スケッチ	予習20分：実習に該当する範囲の教科書を事前に読んでおくこと。また白色脂肪細胞、褐色脂肪細胞、表皮の構造、ミトコンドリアについて調べておくこと。 復習25分：配布されたプリントと教科書を使って、組織構造の理解を深め、忘れないようにすること。
第15回	実習内容のまとめ（3）	11回から14回までのまとめの確認小テスト 【アクティブラーニング】 11回から14回までの実習内容の範囲から、1つテーマを与えて、そのテーマに沿ってホワイトボードを使ってプレゼンテーションを行い、形態学的視点か	予習45分：11回から14回までの配布プリントを使って、組織構造を説明できるようにしておくこと。

		ら説明できるようにする。	

教科書
配布プリント 管理栄養士を目指す学生のための解剖生理学テキスト 岩堀修明（著）・文光堂（解剖生理学IとIIで使用した教科書）
参考書
使用しない
成績評価の方法・基準
単位認定60点以上。 まとめの時間に行うプレゼンテーション5%、確認小試験15%、レポート課題60%および定期試験20% ただし、レポート(スケッチ)は毎回期日までに提出し、1 回でも未提出の場合、レポート点は無いものとする。レポート提出が遅れた場合、減点とする。
課題等に対する フィードバックの方法
レポートは、臓器の形態や体内における位置関係、組織の微細構造の正確性について 3段階評価を行う。レポート返却後、誤っているところおよび指摘された箇所は必ずもう一度調べ、訂正する。
履修のポイント
実際の標本の組織像と教科書に載っているイラストの組織像を比較しながら観察し、詳細な組織構造を観察・スケッチします。2次元の観察できる組織像を、3次元の構造をイメージできることが重要です。解剖生理学の講義の復習になりますので、この実習を通して、知識を定着する。他人に依存せず、積極的に実習に取り組むこと。
オフィス・アワー
月曜日から木曜日：9:00-16:00。11号館研究室10にて対応します。講義終了前後にも、適宜受け付けます。

講義コード	20470001
講義名	解剖生理学実験Ⅱ（Aクラス）
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	前期
講義区分	実験・実習
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	３時限
区分	専門基礎科目
必修/選択	必修
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UE-R130
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 影山 晴秋	指定なし

授業の概要と教育目標

解剖生理学の講義内容を自身の体や試験管内の生理実験を通じで理解する。また栄養の消化・吸収・代謝・排泄などの理解に役立てるような実験を行う。
第5回、第10回、第15回目に個人発表を行い、体のしくみについて理解を深める。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマポリシーとの関連として、「2. 人間の健康を規定する要因として幅広く社会・環境を科学的に理解し、さらに健康の維持・増進プログラムを実践するために必要な人体の構造並びに疾病の成り立ちから食べ物と健康の知識や技能を修得している。」に基づき、管理栄養士として、栄養アセスメント、栄養指導や栄養療法を行う上で必要となる人体の生理機能について理解を深める。

到達目標

1. 実験に積極的に取り組み、得られた結果に対して客観的な評価と生理学的な考察ができる。
2. 人体の生理機能や役割についてを正しく説明できる。
3. 生理機能検査の意義・原理・方法を説明できる。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	腎機能1	実験のガイダンス（実験の注意事項、成績の評価法） 透析膜による腹膜透析類似効果と尿の観察	予習20分：実習に該当する範囲の教科書を事前に読んでおくこと。また拡散、半透性、尿試験紙による測定項目について調べておくこと。 復習25分：配布されたプリントと教科書を使って、実習内容をその日のうちにノートをまとめ、疑問点を調べて解決しておく。
			予習20分：実習に該当する範囲の教科書を事前に読んでおくこと。またクレアチニンクリアランス、糸球体濾過

第2回	腎機能2	血液クレアチニンの測定、推算糸球体濾過（eGFR）の評価	量、推算糸球体濾過について調べておくこと。 復習25分：配布されたプリントと教科書を使って、実習内容をその日のうちにノートをまとめ、疑問点を調べて解決しておく。
第3回	呼吸機能	肺活量、ピークフローメーター、パルスオキシメーターによる肺機能評価	予習20分：実習に該当する範囲の教科書を事前に読んでおくこと。また呼吸中枢、肺活量、1秒率、慢性閉塞性肺疾患について調べておくこと。 復習25分：配布されたプリントと教科書を使って、実習内容をその日のうちにノートをまとめ、疑問点を調べて解決しておく。
第4回	心機能	自己血圧測定	予習20分：実習に該当する範囲の教科書を事前に読んでおくこと。また収縮期血圧が示すこと、拡張期血圧が示すこと、血圧の神経性調節、血圧の液性調節について調べておくこと。 復習25分：配布されたプリントと教科書を使って、実習内容をその日のうちにノートをまとめ、疑問点を調べて解決しておく。
第5回	実習内容のまとめ（1）	1回から4回までのまとめの確認小テスト 【アクティブラーニング】 1回から4回までの実習内容の範囲から、1つテーマを与えて、そのテーマに沿ってホワイトボードを使ってプレゼンテーションを行い、形態学的視点から説明できるようにする。	予習45分：1回から5回までの配布プリントを使って、生理機能を説明できるようにしておくこと。
第6回	消化1	唾液による消化と唾液の性質	予習20分：実習に該当する範囲の教科書を事前に読んでおくこと。またアミラーゼ、単糖類、アミロース、アミノペクチン、α1,4結合、膜消化、管腔内消化について調べておくこと。 復習25分：配布されたプリントと教科書を使って、実習内容をその日のうちにノートをまとめ、疑問点を調べて解決しておく。
第7回	消化2	胃液、膵液、小腸の膜消化酵素による消化	予習20分：実習に該当する範囲の教科書を事前に読んでおくこと。またペプシン、トリプシン、リパーゼ、膜消化について調べておくこと。 復習25分：配布されたプリントと教科書を使って、実習内容をその日のうちにノートをまとめ、疑問点を調べて解決しておく。
第8回	空腹時と自由摂食時の	空腹時と自由摂食時の肝グリコーゲン測定	予習20分：実習に該当する範囲の教科書を事前に読んでおくこと。また血糖上昇作用ホルモン、GLUT4、ヘキソキナーゼ、グルコキナーゼ、グルコース６−ホスファターゼについて調べておくこと。

	糖代謝		復習25分：配布されたプリントと教科書を使って、実習内容をその日のうちにノートをまとめ、疑問点を調べて解決しておく。
第9回	空腹時と自由摂食時の中性脂肪代謝	血中遊離脂肪酸の測定	予習20分：実習に該当する範囲の教科書を事前に読んでおくこと。またホルモン感受性リパーゼ、リポタンパク質リパーゼ、オートファジー、ユビキチンープロテアソーム系について調べておくこと。 復習25分：配布されたプリントと教科書を使って、実習内容をその日のうちにノートをまとめ、疑問点を調べて解決しておく。
第10回	実習内容のまとめ（2）	6回から9回までのまとめの確認小テスト 【アクティブラーニング】 6回から9回までの実習内容の範囲から、1つテーマを与えて、そのテーマに沿ってホワイトボードを使ってプレゼンテーションを行い、形態学的視点から説明できるようにする。	予習45分：6回から9回までの配布プリントを使って、生理機能を説明できるようにしておくこと。
第11回	血液1	末梢血球の観察と血球数測定	予習20分：実習に該当する範囲の教科書を事前に読んでおくこと。またエリスロポエチン、血液浸透圧、血液の緩衝性について調べておくこと。 復習25分：配布されたプリントと教科書を使って、実習内容をその日のうちにノートをまとめ、疑問点を調べて解決しておく。
第12回	血液2	ヘモグロビン濃度とヘマトクリット値の測定	予習20分：実習に該当する範囲の教科書を事前に読んでおくこと。また平均赤血球容積、平均赤血球ヘモグロビン濃度、平均赤血球ヘモグロビン量について調べておくこと。 復習25分：配布されたプリントと教科書を使って、実習内容をその日のうちにノートをまとめ、疑問点を調べて解決しておく。
第13回	血糖値の変動	血糖値の測定	予習20分：実習に該当する範囲の教科書を事前に読んでおくこと。またインスリン、インスリン追加分泌、インクレチン、深部体温、皮膚温について調べておくこと。 復習25分：配布されたプリントと教科書を使って、実習内容をその日のうちにノートをまとめ、疑問点を調べて解決しておく。
第14回	身体観察と計測	身長・体重、BMI、体脂肪の測定	予習20分：実習に該当する範囲の教科書を事前に読んでおくこと。またBMI、インピーダンス法について調べておくこと。 復習25分：配布されたプリントと教科書を使って、実習内容をその日のうち

			にノートをまとめ、疑問点を調べて解決しておく。
第15回	実習内容のまとめ（3）	11回から14回までのまとめの確認小テスト 【アクティブラーニング】 11回から14回までの実習内容の範囲から、1つテーマを与えて、そのテーマに沿ってホワイトボードを使ってプレゼンテーションを行い、形態学的視点から説明できるようにする。	予習45分：11回から14回までの配布プリントを使って、生理機能を説明できるようにしておくこと。

教科書

配布プリント
管理栄養士を目指す学生のための解剖生理学テキスト 岩堀修明（著）・文光堂（解剖生理学の講義で使用した教科書）

参考書

使用しない

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上。
まとめの時間に行うプレゼンテーション5%、確認小試験15%、レポート課題60%および定期試験20%
ただし、レポートは毎回期日までに提出し、1 回でも未提出の場合、レポート点は無いものとする。レポート提出が遅れた場合、減点とする。

課題等に対するフィードバックの方法

レポートは、1）実験の結果に基づいて考察を行う、2）課題問題について生理学の理屈に合うように自分の考えをまとめる。以上 2点について3段階評価を行う。レポート返却後、指摘された箇所は必ずもう一度調べ、訂正する。

履修のポイント

解剖生理学の講義の復習になりますので、この実習を通して、知識を定着する。他人に依存せず、積極的に実習に取り組むこと。生理実験で疑問に思ったことを調べる。毎回少なくとも2つくらいは疑問を持ち、それを解決するステップを学んでいく。

オフィス・アワー

月曜日から木曜日：9:00-16:00。11号館研究室10にて対応します。講義終了前後にも、適宜受け付けます。

講義コード	20470002
講義名	解剖生理学実験Ⅱ（Bクラス）
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	前期
講義区分	実験・実習
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	１時限
区分	専門基礎科目
必修/選択	必修
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UE-R130
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 影山 晴秋	指定なし

授業の概要と教育目標

解剖生理学の講義内容を自身の体や試験管内の生理実験を通じで理解する。また栄養の消化・吸収・代謝・排泄などの理解に役立てるような実験を行う。
第5回、第10回、第15回目に個人発表を行い、体のしくみについて理解を深める。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマポリシーとの関連として、「2. 人間の健康を規定する要因として幅広く社会・環境を科学的に理解し、さらに健康の維持・増進プログラムを実践するために必要な人体の構造並びに疾病の成り立ちから食べ物と健康の知識や技能を修得している。」に基づき、管理栄養士として、栄養アセスメント、栄養指導や栄養療法を行う上で必要となる人体の生理機能について理解を深める。

到達目標

1. 実験に積極的に取り組み、得られた結果に対して客観的な評価と生理学的な考察ができる。
2. 人体の生理機能や役割についてを正しく説明できる。
3. 生理機能検査の意義・原理・方法を説明できる。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	腎機能1	実験のガイダンス（実験の注意事項、成績の評価法） 透析膜による腹膜透析類似効果と尿の観察	予習20分：実習に該当する範囲の教科書を事前に読んでおくこと。また拡散、半透性、尿試験紙による測定項目について調べておくこと。 復習25分：配布されたプリントと教科書を使って、実習内容をその日のうちにノートをまとめ、疑問点を調べて解決しておく。
			予習20分：実習に該当する範囲の教科書を事前に読んでおくこと。またクレアチニンクリアランス、糸球体濾過

第2回	腎機能2	血液クレアチニンの測定、推算糸球体濾過（eGFR）の評価	量、推算糸球体濾過について調べておくこと。 復習25分：配布されたプリントと教科書を使って、実習内容をその日のうちにノートをまとめ、疑問点を調べて解決しておく。
第3回	呼吸機能	肺活量、ピークフローメーター、パルスオキシメーターによる肺機能評価	予習20分：実習に該当する範囲の教科書を事前に読んでおくこと。また呼吸中枢、肺活量、1秒率、慢性閉塞性肺疾患について調べておくこと。 復習25分：配布されたプリントと教科書を使って、実習内容をその日のうちにノートをまとめ、疑問点を調べて解決しておく。
第4回	心機能	自己血圧測定	予習20分：実習に該当する範囲の教科書を事前に読んでおくこと。また収縮期血圧が示すこと、拡張期血圧が示すこと、血圧の神経性調節、血圧の液性調節について調べておくこと。 復習25分：配布されたプリントと教科書を使って、実習内容をその日のうちにノートをまとめ、疑問点を調べて解決しておく。
第5回	実習内容のまとめ（1）	1回から4回までのまとめの確認小テスト 【アクティブラーニング】 1回から4回までの実習内容の範囲から、1つテーマを与えて、そのテーマに沿ってホワイトボードを使ってプレゼンテーションを行い、形態学的視点から説明できるようにする。	予習45分：1回から5回までの配布プリントを使って、生理機能を説明できるようにしておくこと。
第6回	消化1	唾液による消化と唾液の性質	予習20分：実習に該当する範囲の教科書を事前に読んでおくこと。またアミラーゼ、単糖類、アミロース、アミノペクチン、α1,4結合、膜消化、管腔内消化について調べておくこと。 復習25分：配布されたプリントと教科書を使って、実習内容をその日のうちにノートをまとめ、疑問点を調べて解決しておく。
第7回	消化2	胃液、膵液、小腸の膜消化酵素による消化	予習20分：実習に該当する範囲の教科書を事前に読んでおくこと。またペプシン、トリプシン、リパーゼ、膜消化について調べておくこと。 復習25分：配布されたプリントと教科書を使って、実習内容をその日のうちにノートをまとめ、疑問点を調べて解決しておく。
第8回	空腹時と自由摂食時の	空腹時と自由摂食時の肝グリコーゲン測定	予習20分：実習に該当する範囲の教科書を事前に読んでおくこと。また血糖上昇作用ホルモン、GLUT4、ヘキソキナーゼ、グルコキナーゼ、グルコース６−ホスファターゼについて調べておくこと。

	糖代謝		復習25分：配布されたプリントと教科書を使って、実習内容をその日のうちにノートをまとめ、疑問点を調べて解決しておく。
第9回	空腹時と自由摂食時の中性脂肪代謝	血中遊離脂肪酸の測定	予習20分：実習に該当する範囲の教科書を事前に読んでおくこと。またホルモン感受性リパーゼ、リポタンパク質リパーゼ、オートファジー、ユビキチンープロテアソーム系について調べておくこと。 復習25分：配布されたプリントと教科書を使って、実習内容をその日のうちにノートをまとめ、疑問点を調べて解決しておく。
第10回	実習内容のまとめ（2）	6回から9回までのまとめの確認小テスト 【アクティブラーニング】 6回から9回までの実習内容の範囲から、1つテーマを与えて、そのテーマに沿ってホワイトボードを使ってプレゼンテーションを行い、形態学的視点から説明できるようにする。	予習45分：6回から9回までの配布プリントを使って、生理機能を説明できるようにしておくこと。
第11回	血液1	末梢血球の観察と血球数測定	予習20分：実習に該当する範囲の教科書を事前に読んでおくこと。またエリスロポエチン、血液浸透圧、血液の緩衝性について調べておくこと。 復習25分：配布されたプリントと教科書を使って、実習内容をその日のうちにノートをまとめ、疑問点を調べて解決しておく。
第12回	血液2	ヘモグロビン濃度とヘマトクリット値の測定	予習20分：実習に該当する範囲の教科書を事前に読んでおくこと。また平均赤血球容積、平均赤血球ヘモグロビン濃度、平均赤血球ヘモグロビン量について調べておくこと。 復習25分：配布されたプリントと教科書を使って、実習内容をその日のうちにノートをまとめ、疑問点を調べて解決しておく。
第13回	血糖値の変動	血糖値の測定	予習20分：実習に該当する範囲の教科書を事前に読んでおくこと。またインスリン、インスリン追加分泌、インクレチン、深部体温、皮膚温について調べておくこと。 復習25分：配布されたプリントと教科書を使って、実習内容をその日のうちにノートをまとめ、疑問点を調べて解決しておく。
第14回	身体観察と計測	身長・体重、BMI、体脂肪の測定	予習20分：実習に該当する範囲の教科書を事前に読んでおくこと。またBMI、インピーダンス法について調べておくこと。 復習25分：配布されたプリントと教科書を使って、実習内容をその日のうち

			にノートをまとめ、疑問点を調べて解決しておく。
第15回	実習内容のまとめ（3）	11回から14回までのまとめの確認小テスト 【アクティブラーニング】 11回から14回までの実習内容の範囲から、1つテーマを与えて、そのテーマに沿ってホワイトボードを使ってプレゼンテーションを行い、形態学的視点から説明できるようにする。	予習45分：11回から14回までの配布プリントを使って、生理機能を説明できるようにしておくこと。

教科書

配布プリント
管理栄養士を目指す学生のための解剖生理学テキスト 岩堀修明（著）・文光堂（解剖生理学の講義で使用した教科書）

参考書

使用しない

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上。
まとめの時間に行うプレゼンテーション5%、確認小試験15%、レポート課題60%および定期試験20%
ただし、レポートは毎回期日までに提出し、1 回でも未提出の場合、レポート点は無いものとする。レポート提出が遅れた場合、減点とする。

課題等に対するフィードバックの方法

レポートは、1）実験の結果に基づいて考察を行う、2）課題問題について生理学の理屈に合うように自分の考えをまとめる。以上 2点について3段階評価を行う。レポート返却後、指摘された箇所は必ずもう一度調べ、訂正する。

履修のポイント

解剖生理学の講義の復習になりますので、この実習を通して、知識を定着する。他人に依存せず、積極的に実習に取り組むこと。生理実験で疑問に思ったことを調べる。毎回少なくとも2つくらいは疑問を持ち、それを解決するステップを学んでいく。

オフィス・アワー

月曜日から木曜日：9:00-16:00。11号館研究室10にて対応します。講義終了前後にも、適宜受け付けます。

講義コード	20480001
講義名	生化学Ⅰ
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	１時限
区分	専門基礎科目
必修/選択	必修
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UE-R124
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 小林 葉子	指定なし

授業の概要と教育目標

ヒトの生命現象について、細胞及び分子のレベルで学習する。生体構成成分であるタンパク質、糖、脂質、ビタミン、核酸など分子構造・機能・性質について学ぶ。また、遺伝情報の伝達系、遺伝情報に基づく生体構成成分の合成及び生体応答の変化についても学ぶ。
本科目では、生体を構成する物質の特性を学び、複雑な生命現象を理解するために必要な基礎知識の定着を目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科の専門基礎科目必須科目の1つである。栄養学を理解する上で、生化学は必須である。生化学の知識を身に着け、専門科目（基礎栄養学、臨床栄養学、応用栄養学など）の理解に密接につなげることを目標とする。

到達目標

生体構成成分の基本構造、機能、性質、および、遺伝情報の伝達について学び、生命現象と生体分子のつながりを理解する。
１、生体基本構成成分である糖、アミノ酸、タンパク質、脂質、核酸、ビタミンの構造、機能、生体内での役割を理解する。
２、遺伝情報の伝達系、遺伝情報に基づく生体構成成分の合成、及び、生体反応の変化を理解する。
３、日進月歩で進む生化学領域の技術の原理を理解できるようにする。
４、自分で教科書を読み、大切なところを理解・記憶する力をつける。予習、復習の習慣をつけ、授業の内容を理解する。管理栄養士国家試験合格レベルまで理解する。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	基礎力試験、細胞の基本構造と機能	基礎力試験、細胞の基本構造と機能 アクティブラーニング 高校までの基礎知識を確認するため、生物・化学の問題を解く。 自ら、及び、学生相互に答えを導き出す。	予習90分 復習90分：生化学ドリルを使用して、学習範囲の知識を定着させる。

第2回	生命体の構造：細胞の構造	糖質、脂質、タンパク質、核酸の概論 ゲノム・遺伝子について アクティブラーニング 前回の授業範囲の小テストを行い、知識の定着を確認する。小テスト後、自ら、及び、学生相互に答えを導き出す。	予習90分：学習範囲の教科書を読む 復習90分：生化学ドリルを使用して、学習範囲の知識を定着させる。
第3回	生命体の遺伝情報の伝達	細胞の分裂、DNA の複製 アクティブラーニング 前回の授業範囲の小テストを行い、知識の定着を確認する。小テスト後、自ら、及び、学生相互に答えを導き出す。	予習90分：学習範囲の教科書を読む 復習90分：生化学ドリルを使用して、学習範囲の知識を定着させる。
第4回	タンパク質の合成	遺伝情報に基づいたタンパク質の合成 アクティブラーニング 前回の授業範囲の小テストを行い、知識の定着を確認する。小テスト後、自ら、及び、学生相互に答えを導き出す。	予習90分：学習範囲の教科書を読む 復習90分：生化学ドリルを使用して、学習範囲の知識を定着させる。
第5回	遺伝子の変異	遺伝子の変異、遺伝子変異による生体応答の変化 アクティブラーニング 前回の授業範囲の小テストを行い、知識の定着を確認する。小テスト後、自ら、及び、学生相互に答えを導き出す。	予習90分：学習範囲の教科書を読む 復習90分：生化学ドリルを使用して、学習範囲の知識を定着させる。
第6回	糖質	糖質の分子構造と機能、分類、生体内での役割 アクティブラーニング 前回の授業範囲の小テストを行い、知識の定着を確認する。小テスト後、前回の復習を兼ね、小テストの解説を行う。	予習90分：学習範囲の教科書を読む 復習90分：生化学ドリルを使用して、学習範囲の知識を定着させる。
第7回	脂質	脂質の分子構造と機能、分類、生体内での役割 アクティブラーニング 前回の授業範囲の小テストを行い、知識の定着を確認する。小テスト後、自ら、及び、学生相互に答えを導き出す。	予習90分：学習範囲の教科書を読む 復習90分：生化学ドリルを使用して、学習範囲の知識を定着させる。
第8回	アミノ酸	アミノ酸の分子構造、機能、分類、特性 アクティブラーニング 前回の授業範囲の小テストを行い、知識の定着を確認する。小テスト後、自ら、及び、学生相互に答えを導き出す。	予習90分：学習範囲の教科書を読む 復習90分：生化学ドリルを使用して、学習範囲の知識を定着させる。
第9回	タンパク質	タンパク質の分子構造、機能、分類、特性 アクティブラーニング 前回の授業範囲の小テストを行い、知識の定着を確認する。小テスト後、自ら、及び、学生相互に答えを導き出す。	予習90分：学習範囲の教科書を読む 復習90分：生化学ドリルを使用して、学習範囲の知識を定着させる。
第10回	核酸	核酸の基本構造、ヌクレオチドとヌクレオシド、DNAとRNAの構造 アクティブラーニング 前回の授業範囲の小テストを行い、知識の定着を確認する。小テスト後、自ら、及び、学生相互に答えを導き出す。	予習90分：学習範囲の教科書を読む 復習90分：生化学ドリルを使用して、学習範囲の知識を定着させる。

第11回	生体エネルギーの概論	生体で使われるエネルギー、エネルギーの合成 アクティブラーニング 前回の授業範囲の小テストを行い、知識の定着を確認する。小テスト後、自ら、及び、学生相互に答えを導き出す。	予習90分：学習範囲の教科書を読む 復習90分：生化学ドリルを使用して、学習範囲の知識を定着させる。
第12回	酵素１	酵素・酵素反応・分類、酵素反応速度論 アクティブラーニング 前回の授業範囲の小テストを行い、知識の定着を確認する。小テスト後、自ら、及び、学生相互に答えを導き出す。	予習90分：学習範囲の教科書を読む 復習90分：生化学ドリルを使用して、学習範囲の知識を定着させる。
第13回	酵素２	酵素反応とその阻害、活性調節 アクティブラーニング 前回の授業範囲の小テストを行い、知識の定着を確認する。小テスト後、自ら、及び、学生相互に答えを導き出す。	予習90分：学習範囲の教科書を読む 復習90分：生化学ドリルを使用して、学習範囲の知識を定着させる。
第14回	ビタミン 水・無機質	ビタミンの分類と生体内での役割 水、電解質の機能と細胞内分布 アクティブラーニング 前回の授業範囲の小テストを行い、知識の定着を確認する。小テスト後、自ら、及び、学生相互に答えを導き出す。	予習90分：学習範囲の教科書を読む 復習90分：生化学ドリルを使用して、学習範囲の知識を定着させる。
第15回	まとめ	生化学Iの全学習範囲のまとめ アクティブラーニング 学習範囲全範囲の問題を提示し、知識の定着を確認する。問題終了後、各自、及び、学生相互で問題の解答を見出し、誤っていた場合には、正しい知識の定着をはかる。	予習90分：学習範囲の教科書を読む 復習90分：生化学ドリルを使用して、学習範囲の知識を定着させる。

教科書

シンプル生化学 林 典夫/廣野 治子 南江堂
増補新訂版サイエンスビュー生物総合資料 牛木 辰男 (監修), 長野 敬 実教出版
生化学ドリル 田村 隆明 南山堂

参考書

特になし

成績評価の方法・基準

時間内の課題で60点以上 （全学習範囲の課題 80% 小テスト20%）

課題等に対する
フィードバックの方法

小テストは、試験終了後に簡単な説明を行う。解説をきいても理解できなかった場合には、解説終了後に質問時間を設けるのでその時間に質問をする。
授業中に質問を促すので、わからないことは積極的に時間内に聞くようにする。

履修のポイント

生命現象を分子レベルで理解するために必要な生体物質の構造と機能を中心に学ぶ。理解度によりシラバスを変更する場合もある。
授業のスライド配布しない。ポストイットの利用など工夫をすること。
15回で範囲の講義を行うため、授業の進行速度が速い。予習、復習を自ら行う必要がある。生化学ドリルを使って、授業後に理解の確認を各自で行うこと。

オフィス・アワー

月から金曜日の昼休み(ただし、3限に授業のある日は除く) 11号館3階16研究室

講義コード	20490001
講義名	生化学Ⅱ
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	３時限
区分	専門基礎科目
必修/選択	必修
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UE-R131
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 小林 葉子	指定なし

授業の概要と教育目標

生化学Ⅰで学習した内容を基礎として、エネルギー代謝、生体構成成分の代謝、代謝経路、代謝調節について学ぶ。糖代謝、アミノ酸の代謝、脂質の代謝、さらには核酸からタンパク質の生合成、細胞内情報伝達を理解する。体の中で自然と生じている生体応答を理解する。
本科目では、栄養素の体内での代謝、生体内での栄養素の相互作用を中心に学び、栄養素の生理作用の基礎知識の定着を目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科の専門基礎科目必須科目の1つである。生化学の内容のみならず、専門科目である基礎栄養学、応用栄養学、臨床栄養学の理解に結び付けることを目標とする。

到達目標

ヒトの体の中で生じてる様々な生命現象のもととなる栄養素の代謝を中心に１）～４）を中心に理解する。
１）代謝経路の名称、役割、特性、反応、調節
２）代謝にかかわる酵素と調節制御および臓器による違い
３）遺伝要因と代謝のかかわり
４）代謝を制御する仕組み

管理栄養士国家試験合格レベルまで、内容を理解することを到達目標とする。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	栄養素の概論 消化と吸収 エネルギー代謝 （生化学I 復習試験を含む）	生化学Iの復習 栄養素の構造と機能の概論 タンパク質、糖質、脂質の吸収、代謝の意味、代謝にかかわる細胞内小器官、物質の輸送 生体エネルギー、ATPと高エネルギー化合物、電子伝達系、酸化的リン酸化	予習90分：学習範囲の教科書を読む 復習90分：生化学ドリルを用いて、学習範囲の知識の定着を図る

第2回	酵素 補酵素(生化学Iの復習を含む)	酵素・補酵素の役割、酵素の反応の調節 アクティブラーニング 前回の授業範囲の小テストを行い、知識の定着を確認する。小テスト後、前回の復習を兼ね小テストの簡単な解説を行うので、各自で解答を作成する。	予習90分：授業の範囲をシンプル生化学を使って学習する。わからない言葉は、調べてノートにまとめる。 復習90分：：「生化学ドリル」を使用して、授業の学習範囲を復習する。わからない点があれば、シンプル生化学を使用して調べる。
第3回	糖質の代謝	解糖 アクティブラーニング 前回の授業範囲の小テストを行い、知識の定着を確認する。小テスト後、前回の復習を兼ね小テストの簡単な解説を行うので、各自で解答を作成する。	予習90分：授業の範囲をシンプル生化学を使って学習する。わからない言葉は、調べてノートにまとめる。 復習90分：：「生化学ドリル」を使用して、授業の学習範囲を復習する。わからない点があれば、シンプル生化学を使用して調べる。
第4回	糖質の代謝	TCAサイクル アクティブラーニング 前回の授業範囲の小テストを行い、知識の定着を確認する。小テスト後、前回の復習を兼ね小テストの簡単な解説を行うので、各自で解答を作成する。	予習90分：授業の範囲をシンプル生化学を使って学習する。わからない言葉は、調べてノートにまとめる。 復習90分：：「生化学ドリル」を使用して、授業の学習範囲を復習する。わからない点があれば、シンプル生化学を使用して調べる。
第5回	糖質の代謝	糖新生、ペントースリン酸回路、その他の回路 アクティブラーニング 前回の授業範囲の小テストを行い、知識の定着を確認する。小テスト後、前回の復習を兼ね小テストの簡単な解説を行うので、各自で解答を作成する。	予習90分：授業の範囲をシンプル生化学を使って学習する。わからない言葉は、調べてノートにまとめる。 復習90分：：「生化学ドリル」を使用して、授業の学習範囲を復習する。わからない点があれば、シンプル生化学を使用して調べる。
第6回	脂質の代謝	脂肪酸の分解　(β酸化) アクティブラーニング 前回の授業範囲の小テストを行い、知識の定着を確認する。小テスト後、前回の復習を兼ね小テストの簡単な解説を行うので、各自で解答を作成する。	予習90分：学習範囲の教科書を読む 復習90分：生化学ドリルを用いて、学習範囲の知識の定着を図る
第7回	脂質の代謝	脂肪酸の生合成、コレステロールの生合成 アクティブラーニング 前回の授業範囲の小テストを行い、知識の定着を確認する。小テスト後、前回の復習を兼ね小テストの簡単な解説を行うので、各自で解答を作成する。	予習90分：授業の範囲をシンプル生化学を使って学習する。わからない言葉は、調べてノートにまとめる。 復習90分：：「生化学ドリル」を使用して、授業の学習範囲を復習する。わからない点があれば、シンプル生化学を使用して調べる。
		アミノ酸の分解、アミノ酸の窒素の代謝、代謝による糖の分類 アクティブラーニング	予習90分：授業の範囲をシンプル生化学を使って学習する。わからない言葉は、調べてノート

第8回	アミノ酸の代謝	前回の授業範囲の小テストを行い、知識の定着を確認する。小テスト後、前回の復習を兼ね小テストの簡単な解説を行うので、各自で解答を作成する。	にまとめる。 復習90分：：「生化学ドリル」を使用して、授業の学習範囲を復習する。わからない点があれば、シンプル生化学を使用して調べる。
第9回	アミノ酸・ヌクレオチドの代謝	アミノ酸からのグルコース、ケトン体への代謝、アミノ酸の生合成 ヌクレオチドの合成、分解、再生 アクティブラーニング 前回の授業範囲の小テストを行い、知識の定着を確認する。小テスト後、前回の復習を兼ね小テストの簡単な解説を行うので、各自で解答を作成する。	予習90分：授業の範囲をシンプル生化学を使って学習する。わからない言葉は、調べてノートにまとめる。 復習90分：：「生化学ドリル」を使用して、授業の学習範囲を復習する。わからない点があれば、シンプル生化学を使用して調べる。
第10回	代謝の相互関係	糖質、脂質、アミノ酸代謝の相互作用、ホルモンの作用 アクティブラーニング 前回の授業範囲の小テストを行い、知識の定着を確認する。小テスト後、前回の復習を兼ね小テストの簡単な解説を行うので、各自で解答を作成する。	予習90分：授業の範囲をシンプル生化学を使って学習する。わからない言葉は、調べてノートにまとめる。 復習90分：：「生化学ドリル」を使用して、授業の学習範囲を復習する。わからない点があれば、シンプル生化学を使用して調べる。
第11回	情報伝達１	情報伝達物質、細胞内情報伝達（概要） アクティブラーニング 前回の授業範囲の小テストを行い、知識の定着を確認する。小テスト後、前回の復習を兼ね小テストの簡単な解説を行うので、各自で解答を作成する。	予習90分：授業の範囲をシンプル生化学を使って学習する。わからない言葉は、調べてノートにまとめる。 復習90分：：「生化学ドリル」を使用して、授業の学習範囲を復習する。わからない点があれば、シンプル生化学を使用して調べる。
第12回	情報伝達２	細胞内情報伝達 （受容体と情報伝達経路） アクティブラーニング 前回の授業範囲の小テストを行い、知識の定着を確認する。小テスト後、前回の復習を兼ね小テストの簡単な解説を行うので、各自で解答を作成する。	予習90分：授業の範囲をシンプル生化学を使って学習する。わからない言葉は、調べてノートにまとめる。 復習90分：：「生化学ドリル」を使用して、授業の学習範囲を復習する。わからない点があれば、シンプル生化学を使用して調べる。
第13回	情報伝達３	細胞内情報伝達（インスリン、アドレナリン、グルカゴンの作用機序） アクティブラーニング 前回の授業範囲の小テストを行い、知識の定着を確認する。小テスト後、前回の復習を兼ね小テストの簡単な解説を行うので、各自で解答を作成する。	予習90分：授業の範囲をシンプル生化学を使って学習する。わからない言葉は、調べてノートにまとめる。 復習90分：：「生化学ドリル」を使用して、授業の学習範囲を復習する。わからない点があれば、シンプル生化学を使用して調べる。
		栄養素による遺伝子発現調節、その他の遺伝子発現調節 アクティブラーニング 前回の授業範囲の小テストを行	予習90分：授業の範囲をシンプル生化学を使って学習する。わからない言葉は、調べてノートにまとめる。

第14回	遺伝子発現	い、知識の定着を確認する。小テスト後、前回の復習を兼ね小テストの簡単な解説を行うので、各自で解答を作成する。	復習90分：：「生化学ドリル」を使用して、授業の学習範囲を復習する。わからない点があれば、シンプル生化学を使用して調べる。
第15回	まとめ	生化学IIの学習範囲の総合的なまとめ アクティブラーニング 生化学IIの授業範囲の課題に取り組む。指定された課題に対して回答を求め、終了後、各自、及び学生間で解答を求める。	予習120分：学習範囲の教科書、小テストの再確認を行う。 復習60分：政党のできなかった部分を教科書を再度読み、正しい知識の定着を勧める。

教科書

シンプル生化学 林典夫/廣野治子 南江堂
増補新訂版サイエンスビュー生物総合資料 牛木 辰男 (監修), 長野 敬 実教出版
生化学ドリル 田村 隆明 南山堂

参考書

特になし

成績評価の方法・基準

時間内の課題・小テストで60点以上 (まとめの課題 80% 小テスト20%)

課題等に対する
フィードバックの方法

小テストは、試験終了後に簡単な説明を行う。解説をきいても理解できなかった場合には、解説終了後に質問時間を設けるのでその時間に質問をする。
授業中に質問を促すので、わからないことはその時間に聞くようにする。

履修のポイント

2回目以降は、前回の授業範囲内の小試験を行う。出席確認も兼ねる。生体構成成分の代謝経路の名称、特性を理解する。授業で行った範囲を配布プリント・生化学ドリルを使って必ず復習すこと。理解度によりシラバスの変更をする場合がある。
授業で使用したスライドは配布しない。
15回で範囲の講義を行うため、授業の進行速度が速い。予習、復習を自ら行う必要がある。時間内の質問など、積極的に授業に参加し、受講者間の知識の共有をはかる。

オフィス・アワー

月から金曜日の昼休み(ただし、3限に授業のある日は除く) 11号館3階16研究室

講義コード	20500001
講義名	生化学実験Ⅰ（Aクラス）
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期
講義区分	実験・実習
基準単位数	1
代表曜日	金曜日
代表時限	３時限
区分	専門基礎科目
必修/選択	必修
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UE-R125
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 小林 葉子	指定なし

授業の概要と教育目標

生化学・栄養学で使用する器具・機器分析の基本操作・技術を学ぶ。生化学で学んだ糖・タンパク質・核酸などの構造、物性、化学的性質、生体機能に関する知識をさらに深めるための基本的な実験を行う。また、自分の体から得た生体試料を用いることにより、自分の体の特徴を知る。実験から得られた結果を読みとり、それをまとめ、文章、口頭で発表ができるようにすることを教育目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

栄養学科専門基礎科目人体と構造機能・その疾病の成り立ちの分野の必須科目である。生化学実験を通し、生化学の理解を深めることを目標とする。

到達目標

実験を通して生化学Iで学んだタンパク質や核酸の特性を理解する。また、実験を行なう時のノートの取り方、レポートの書き方を学ぶ。また、実験で得られた知見を発表できるようにする。
１、実験ノートを記録し、実験結果に対する考察ができるようにする。
２、形式にそったレポートが書けるようにする。
３、実験で得られた知見をパワーポイントを使って発表できるようにする。
４、実験器具の基本操作、化学計算、単位換算を理解する。
５、生体成分であるタンパク質、核酸の機能、性質を理解する。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	実験の心得 模擬実験	実験上の注意、器具の取り扱い、試薬の取り扱い、身支度、事故、けがの対応について。器具を使った基礎実習	1単位を1時間（60分）として予習15分：実験のテキストを読む 復習30分：行った実験のレポートを書く
		溶液をつくるためのの計算、試薬の調整、UV法によるタンパク質の	1単位を1時間（60分）として

第2回	実験準備 UV法によるタンパク質の定量-1	定量 アクティブラーニング 実験で使用する溶液量を計算し、各班ごとに確認をする。受講者の計算したものをもとにして必要な試薬を作成する。	予習15分：実験のテキストを読む 復習30分：行った実験のレポートを書く
第3回	タンパク質の定量 -2	検量線の作成、タンパク質の定量(ローリー法、UV法)。濃度の算定 アクティブラーニング 実験で使用する溶液量を計算し、各班ごとに確認をする。受講者の計算したものをもとにして必要な試薬を作成する。	1単位を1時間（60分）として 予習15分：実験のテキストを読む 復習30分：行った実験のレポートを書く
第4回	タンパク質の定量 -3	タンパク濃度未知試料のタンパク質の定量 (ローリー法。濃度の算定 アクティブラーニング 各班ごとに議論を進めながら実験を行う。	レポート提出 レポート締切 2週間後の前曜日 1単位を1時間（60分）として 予習15分：実験のテキストを読む 復習30分：行った実験のレポートを書く
第5回	DNA の抽出	試薬の調整 トリ肝臓からの DNA の抽出、DNA の定量（UV法) アクティブラーニング 各班ごとに議論を進めながら実験を行う。	1単位を1時間（60分）として 予習15分：実験のテキストを読む 復習30分：行った実験のレポートを書く
第6回	DNA の濃度の検出	濃度の計算、アガロース電気泳動 アクティブラーニング 各班ごとに議論を進めながら実験を行う。	レポート提出 レポート締切 2週間後の前曜日 1単位を1時間（60分）として 予習15分：実験のテキストを読む 復習30分：行った実験のレポートを書く
第7回	生体から抽出したDNA実験の基礎	PCR の概説、試薬の調整、実験器具の整備 アクティブラーニング 各班ごとに議論を進めながら実験を行う。	ゲノム使用の承諾書を次週の実験前までに提出 1単位を1時間（60分）として 予習15分：実験のテキストを読む 復習30分：行った実験のレポートを書く
第8回	DNA の抽出	各自の DNA の抽出 アクティブラーニング 各班ごとに議論を進めながら実験を行う。	1単位を1時間（60分）として 予習15分：実験のテキストを読む 復習30分：行った実験のレポートを書く
第9回	DNA の定量、PCRによる遺伝子の増幅	抽出したDNAの定量、PCR 反応溶液の作成、PCR による遺伝子の増幅 アクティブラーニング 各班ごとに議論を進めながら実験を行う。	1単位を1時間（60分）として 予習15分：実験のテキストを読む 復習30分：行った実験のレポートを書く
		アガロースゲル電気泳動法による遺伝子型の解析	1単位を1時間（60分）として 予習15分：実験のテキストを

第10回	PCR 産物の解析	アクティブラーニング 各班ごとに議論を進めながら実験を行う。	読む 復習30分：行った実験のレポートを書く
第11回	PCR 産物の解析	制限酵素のよる切断、アガロース電気泳動による解析 アクティブラーニング 各班ごとに議論を進めながら実験を行う。	1単位を1時間（60分）として 予習15分：実験のテキストを読む 復習30分：行った実験のレポートを書く
第12回	生体反応とゲノム情報との関連	アルコールパッチテストによる生体応答の検出/実験に使用した器具の片付け アクティブラーニング 各班ごとに議論を進めながら実験を行う。	レポート提出 レポート締切 2週間後の前曜日 1単位を1時間（60分）として 予習15分：実験のテキストを読む 復習30分：行った実験のレポートを書く
第13回	プレゼンテーション	授業で行った実験について、各自の結果及び考察を含めた発表を行う。 アクティブラーニング 実験結果について各自、考察し、実験についてのプレゼンテーションを行う。他の発表者の発表を聴き、質問、評価する。	プレゼンテーション：講義室 プレゼンテーションタイトル提出 プレゼンテーションのためのスライドの提出 1単位を1時間（60分）として 予習30分：発表のスライドを作成する復習15分：質問に対して答えられなかったことを確認して提出する
第14回	プレゼンテーション	授業で行った実験について、各自の結果及び考察を含めた発表を行う。 アクティブラーニング 実験結果について各自、考察し、実験についてのプレゼンテーションを行う。他の発表者の発表を聴き、質問、評価する。	1単位を1時間（60分）として 予習30分：発表のスライドを作成する復習15分：質問に対して答えられなかったことを確認して提出する
第15回	タンパク質の定量、DNAの定量、遺伝子操作のまとめ	提示した課題に対して、個人の考えをまとめる。 アクティブラーニング 各班ごとに議論を進めながら実験を行う。	授業前準備：授業中に自分の考えのまとめを作成するため、必要なものを各自で準備する。

教科書

実験書配布

参考書

シンプル生化学 林典夫/廣野治子 南江堂
増補新訂版サイエンスビュー生物総合資料 牛木 辰男 (監修), 長野 敬 実教出版

成績評価の方法・基準

レポート(3回のレポート）、プレゼンテーション、および、時間内のまとめと小試験の平均点が60点以上

課題等に対する
フィードバックの方法

提出されたレポートに対して授業内でコメントする。レポート課題についての質問は積極的に授

業内ですることが望ましい。

履修のポイント

実験前には実験テキストを読み、手順等を理解する。実験後は実験内容を整理し、内容を理解する。実験レポート、及び、課題は各項目ごとに提出する。最終段階で、各自、プレゼンテーションのためのスライドや原稿を作成し、発表を行う。

自分の体から得た生体試料を用い、自分の体の特徴を知る。実験に必要な計算、生化学の知識の試験も時間内で行なう。実験結果の読み方、計算方法が理解できな場合は、実験の待ち時間等を利用し、積極的に質問、受講者間での学び合いをする。

レポートは、Moodle (教育オンラインシステム）を利用して提出する。学内イベント等によりレポートの締め切りが変更する場合もある。

オフィス・アワー

月、水、木 お昼休み （3限に授業のある日は不可）11号館3階16研究室

講義コード	20500002
講義名	生化学実験Ⅰ（Bクラス）
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期（重複②）
講義区分	実験・実習
基準単位数	1
代表曜日	金曜日
代表時限	３時限
区分	専門基礎科目
必修/選択	必修
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UE-R125
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 小林 葉子	指定なし

授業の概要と教育目標

生化学・栄養学で使用する器具・機器分析の基本操作・技術を学ぶ。生化学で学んだ糖・タンパク質・核酸などの構造、物性、化学的性質、生体機能に関する知識をさらに深めるための基本的な実験を行う。また、自分の体から得た生体試料を用いることにより、自分の体の特徴を知る。実験から得られた結果を読みとり、それをまとめ、文章、口頭で発表ができるようにすることを教育目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

栄養学科専門基礎科目人体と構造機能・その疾病の成り立ちの分野の必須科目である。生化学実験を通し、生化学の理解を深めることを目標とする。

到達目標

実験を通して生化学Iで学んだタンパク質や核酸の特性を理解する。また、実験を行なう時のノートの取り方、レポートの書き方を学ぶ。また、実験で得られた知見を発表できるようにする。
１、実験ノートを記録し、実験結果に対する考察ができるようにする。
２、形式にそったレポートが書けるようにする。
３、実験で得られた知見をパワーポイントを使って発表できるようにする。
４、実験器具の基本操作、化学計算、単位換算を理解する。
５、生体成分であるタンパク質、核酸の機能、性質を理解する。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	実験の心得 模擬実験	実験上の注意、器具の取り扱い、試薬の取り扱い、身支度、事故、けがの対応について。器具を使った基礎実習	1単位を1時間（60分）として予習15分：実験のテキストを読む 復習30分：行った実験のレポートを書く
		溶液をつくるためのの計算、試薬の調整、UV法によるタンパク質の	1単位を1時間（60分）として

第2回	実験準備 UV法によるタンパク質の定量-1	定量 アクティブラーニング 実験で使用する溶液量を計算し、各班ごとに確認をする。受講者の計算したものをもとにして必要な試薬を作成する。	予習15分：実験のテキストを読む 復習30分：行った実験のレポートを書く
第3回	タンパク質の定量 -2	検量線の作成、タンパク質の定量(ローリー法、UV法)。濃度の算定 アクティブラーニング 実験で使用する溶液量を計算し、各班ごとに確認をする。受講者の計算したものをもとにして必要な試薬を作成する。	1単位を1時間（60分）として 予習15分：実験のテキストを読む 復習30分：行った実験のレポートを書く
第4回	タンパク質の定量 -3	タンパク濃度未知試料のタンパク質の定量 (ローリー法。濃度の算定 アクティブラーニング 各班ごとに議論を進めながら実験を行う。	レポート提出 レポート締切 2週間後の前曜日 1単位を1時間（60分）として 予習15分：実験のテキストを読む 復習30分：行った実験のレポートを書く
第5回	DNA の抽出	試薬の調整 トリ肝臓からの DNA の抽出、DNA の定量（UV法) アクティブラーニング 各班ごとに議論を進めながら実験を行う。	1単位を1時間（60分）として 予習15分：実験のテキストを読む 復習30分：行った実験のレポートを書く
第6回	DNA の濃度の検出	濃度の計算、アガロース電気泳動 アクティブラーニング 各班ごとに議論を進めながら実験を行う。	レポート提出 レポート締切 2週間後の前曜日 1単位を1時間（60分）として 予習15分：実験のテキストを読む 復習30分：行った実験のレポートを書く
第7回	生体から抽出したDNA実験の基礎	PCR の概説、試薬の調整、実験器具の整備 アクティブラーニング 各班ごとに議論を進めながら実験を行う。	ゲノム使用の承諾書を次週の実験前までに提出 1単位を1時間（60分）として 予習15分：実験のテキストを読む 復習30分：行った実験のレポートを書く
第8回	DNA の抽出	各自の DNA の抽出 アクティブラーニング 各班ごとに議論を進めながら実験を行う。	1単位を1時間（60分）として 予習15分：実験のテキストを読む 復習30分：行った実験のレポートを書く
第9回	DNA の定量、PCRによる遺伝子の増幅	抽出したDNAの定量、PCR 反応溶液の作成、PCR による遺伝子の増幅 アクティブラーニング 各班ごとに議論を進めながら実験を行う。	1単位を1時間（60分）として 予習15分：実験のテキストを読む 復習30分：行った実験のレポートを書く
		アガロースゲル電気泳動法による遺伝子型の解析	1単位を1時間（60分）として 予習15分：実験のテキストを

第10回	PCR 産物の解析	アクティブラーニング 各班ごとに議論を進めながら実験を行う。	読む 復習30分：行った実験のレポートを書く
第11回	PCR 産物の解析	制限酵素のよる切断、アガロース電気泳動による解析 アクティブラーニング 各班ごとに議論を進めながら実験を行う。	1単位を1時間（60分）として 予習15分：実験のテキストを読む 復習30分：行った実験のレポートを書く
第12回	生体反応とゲノム情報との関連	アルコールパッチテストによる生体応答の検出/実験に使用した器具の片付け アクティブラーニング 各班ごとに議論を進めながら実験を行う。	レポート提出 レポート締切 2週間後の前曜日 1単位を1時間（60分）として 予習15分：実験のテキストを読む 復習30分：行った実験のレポートを書く
第13回	プレゼンテーション	授業で行った実験について、各自の結果及び考察を含めた発表を行う。 アクティブラーニング 実験結果について各自、考察し、実験についてのプレゼンテーションを行う。他の発表者の発表を聴き、質問、評価する。	プレゼンテーション：講義室 プレゼンテーションタイトル提出 プレゼンテーションのためのスライドの提出 1単位を1時間（60分）として 予習30分：発表のスライドを作成する復習15分：質問に対して答えられなかったことを確認して提出する
第14回	プレゼンテーション	授業で行った実験について、各自の結果及び考察を含めた発表を行う。 アクティブラーニング 実験結果について各自、考察し、実験についてのプレゼンテーションを行う。他の発表者の発表を聴き、質問、評価する。	1単位を1時間（60分）として 予習30分：発表のスライドを作成する復習15分：質問に対して答えられなかったことを確認して提出する
第15回	タンパク質の定量、DNAの定量、遺伝子操作のまとめ	提示した課題に対して、個人の考えをまとめる。 アクティブラーニング 各班ごとに議論を進めながら実験を行う。	授業前準備：授業中に自分の考えのまとめを作成するため、必要なものを各自で準備する。

教科書

実験書配布

参考書

シンプル生化学 林典夫/廣野治子 南江堂
増補新訂版サイエンスビュー生物総合資料 牛木 辰男 (監修), 長野 敬 実教出版

成績評価の方法・基準

レポート(3回のレポート）、プレゼンテーション、および、時間内のまとめと小試験の平均点が60点以上

課題等に対する
フィードバックの方法

提出されたレポートに対して授業内でコメントする。レポート課題についての質問は積極的に授

業内ですることが望ましい

履修のポイント

実験前には実験テキストを読み手順等を理解する。実験後は実験内容を整理し、内容を理解する。実験レポート、及び、課題は各項目ごとに提出する。最終段階で、各自、プレゼンテーションのためのスライドや原稿を作成し、発表を行う。

自分の体から得た生体試料を用い、自分の体の特徴を知る。実験に必要な計算、生化学の知識の試験も時間内で行なう。実験結果の読み方、計算方法が理解できな場合は、実験の待ち時間等を利用し、積極的に質問、受講者間での学び合いをする。

レポートは、Moodle (教育オンラインシステム）を利用して提出する。学内イベント等によりレポートの締め切りが変更する場合もある。

オフィス・アワー

月、水、木 お昼休み （3限に授業のある日は不可）11号館3階16研究室

講義コード	20510001
講義名	生化学実験Ⅱ（Aクラス）
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	前期（重複①）
講義区分	実験・実習
基準単位数	1
代表曜日	木曜日
代表時限	３時限
区分	専門基礎科目
必修/選択	必修
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UE-R132
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 小林 葉子	指定なし

授業の概要と教育目標

近年、生化学・栄養学領域では、遺伝子組換え技術を応用した開発が進んでいる。遺伝子組換え技術の法的規制、法的規制に従い遺伝子組換え実験の基礎を学習する。そして、遺伝子組換え技術の有効性、問題点を考察する。遺伝子組換え実験の過程で使用するざまざまな酵素を用いて、酵素の特性、酵素活性検出法を学ぶ。
遺伝子組換え実験を通し、これらの技術の有効性を理解し、問題点を提案する能力を付ける事を目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

栄養学科専門基礎科目人体の構造と機能・その疾病の成り立ちの必須科目である。生化学実験を通し、生化学の理解を深め、法的規制を理解する。法的規制を遵守し、実験を行い、論文としてまとめる力を付を目標とする。

到達目標

生化学実験IIでは、１）～５）の習得を目標とする。
１）酵素実験法、酵素の特性、機能、活性検出法の基礎知識をの修得
２）遺伝子組換え技術の基本操作の習得
３）自らで実験計画を立て、遂行できる能力
４）行った実験を論文形式でまとめる力
５）法的規制の理解と遵守

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	遺伝子組換え技術の法的規制	遺伝子組換え安全講習を行い、組換え体の封じ込み、法的規制、名称学ぶ。	1時間を60分として 予習15分：学習範囲のテキストを読む 復習45分：レポートとして、まとめる
	遺伝子		1時間を60分として

第2回	組換え技術概論 1	遺伝子組換え実験の手順、操作法を学ぶ。	予習15分：学習範囲のテキストを読む 復習45分：レポートとして、まとめる
第3回	実験計画書の作成	モデル実験、遺伝子組換え実験の手順を各自考え、計画書を作成する。 アクティブラーニング 手順書を参考にし、各班で議論し、実験計画を組む。	レポート提出：実験計画書、各自でみどりに光る大腸菌を作成するための実験手順書を作成し提出する。各自で作成したものが今後の実験書になる。1時間を60分として 予習15分：学習範囲のテキストを読む 復習45分：レポートとして、まとめる
第4回	制限酵素を用いた酵素の特性	制限酵素を用い酵素の基質特異性を学ぶ。 アクティブラーニング 課題に対してグループ内で実験方法を議論し、実験を組む。	1時間を60分として 予習15分：学習範囲のテキストを読む 復習45分：レポートとして、まとめる
第5回	試薬の調製	酵素活性を検出するための、緩衝液・アガロースゲルの作成する。 アクティブラーニング 課題に対してグループ内で実験方法を議論し、実験を組む。	1時間を60分として 予習15分：学習範囲のテキストを読む 復習45分：レポートとして、まとめる
第6回	酵素の活性の検出	制限酵素で切断したDNA断片のアガロース電気泳動による解析、確認試験 アクティブラーニング 各班ごとに議論し考えた実験方法で実験を行う。	レポート提出・試験 1時間を60分として 予習15分：学習範囲のテキストを読む 復習45分：レポートとして、まとめる
第7回	制限酵素による切断	アガロースゲル、プレート、培地の作成 アクティブラーニング 各班ごとに議論し考えた実験方法で実験を行う。	1時間を60分として 予習15分：学習範囲のテキストを読む 復習45分：結果等をノートにまとめる
第8回	DNA の抽出	GFP遺伝子を含むプラスミドの抽出、電気泳動によるプラスミドの確認（P1実験） アクティブラーニング 提示された材料を使用し、各班ごとに実験を進める。	1時間を60分として 予習15分：学習範囲のテキストを読む 復習45分：結果等をノートにまとめる
第9回	制限酵素による切断	GFP遺伝子を含むDNA領域の制限酵素による切断 実験講義 （P1実験） アクティブラーニング 提示された材料を使用し、各班ごとに実験を進める。	1時間を60分として 予習15分：学習範囲のテキストを読む 復習45分：結果等をノートにまとめる
10	DNA の	制限酵素で切断したプラスミドを電気泳動し、目的のDNA断片を切り出し、精製する。 （P1実	1時間を60分として

第　回	精製	験） アクティブラーニング 提示された材料を使用し、各班ご都に実験を進める。	予習　分：学習範囲のテキストを読む 復習45分：結果等をノートにまとめる
第11回	DNA の接合	目的の DNA 断片をベクターに挿入(ライゲーション)、大腸菌への形質転換（P1実験） アクティブラーニング 提示された材料を使用し、各班ごとに実験を進める。	1時間を60分として 予習15分：学習範囲のテキストを読む 復習45分：結果等をノートにまとめる
第12回	形質変換	形質転換大腸菌の確認、コロニーPCR、講義（P1実験） アクティブラーニング 提示された材料を使用し、各班ごとに実験を進める。	1時間を60分として 予習15分：学習範囲のテキストを読む 復習45分：レポートとして、まとめる
第13回	組換え体の検出 1	アガロースゲルによる検出、形質転換大腸菌の培養 （P1実験） アクティブラーニング 提示された材料を使用し、各班ごとに実験を進める。	1時間を60分として 予習15分：学習範囲のテキストを読む 復習45分：結果等をノートにまとめる
第14回	組換え体の検出 2	大腸菌に発現したタンパク質を確認する。タンパク質の特性の確認 （P1実験） アクティブラーニング 提示された材料を使用し、各班ごとに実験を進める。	1時間を60分として 予習15分：学習範囲のテキストを読む 復習45分：結果等をノートにまとめる 時間内でまとめた実験ノート提出
第15回	組換えタンパク質の検出	遺伝子組換え大腸菌の廃棄処理 （P1実験） アクティブラーニング 提示された材料を使用し、各班ごとに実験を進める。	1時間を60分として 予習15分：学習範囲のテキストを読む 復習45分：結果等をノートにまとめるまとめた実験ノート提出 （授業時間内）

教科書

実験書配布

参考書

シンプル生化学 林典夫/廣野治子 南江堂
増補新訂版サイエンスビュー生物総合資料 牛木 辰男 (監修), 長野 敬 実教出版

成績評価の方法・基準

単位認定 60点以上：レポート(実験計画書、および、制限酵素を用いた実験）、実験ノート（遺伝子組換え実験）、時間内の小試験、定期試験(遺伝子組換え実験）の平均点として求める。

課題等に対する
フィードバックの方法

提出されたレポートに対して、授業内で全体にコメントをする。

履修のポイント
実験前に実験書を読み、実験内容を理解する。実験中に実験記録（ノート）を必ず作成し、実験毎に実験内容を整理する。15回の授業で2回のレポートおよび複数回の試験を行うため、内容の理解を怠らないようにする。 理解を確認するため、時間内でテストを行う。理解度により実験・講義内容に変更あり。連続実験が多いため、欠席しないようにする。レポートはMoodle（オンライン教育システム）を使って提出する。遺伝子組換え実験の実験のノートは最終実験日の時間内に提出する。遺伝子組換え実験の内容の理解度は、レポートではなく、定期試験ではかる。 各班、及び、各自で考え、行動するアクティブラーニングを中心とする授業であるため、積極的に参加する。
オフィス・アワー
月～金 お昼休み （3限に授業のある日は不可） 11号館3階16研究室

講義コード	20510002
講義名	生化学実験 II （Bクラス）
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	前期（重複②）
講義区分	実験・実習
基準単位数	1
代表曜日	木曜日
代表時限	５時限
区分	専門基礎科目
必修/選択	必修
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UE-R132
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 小林 葉子	指定なし

授業の概要と教育目標

近年、生化学・栄養学領域では、遺伝子組換え技術を応用した開発が進んでいる。遺伝子組換え技術の法的規制、法的規制に従い遺伝子組換え実験の基礎を学習する。そして、遺伝子組換え技術の有効性、問題点を考察する。遺伝子組換え実験の過程で使用するざまざまな酵素を用いて、酵素の特性、酵素活性検出法を学ぶ。
遺伝子組換え実験を通し、これらの技術の有効性を理解し、問題点を提案する能力を付ける事を目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

栄養学科専門基礎科目人体の構造と機能・その疾病の成り立ちの必須科目である。生化学実験を通し、生化学の理解を深め、法的規制を理解する。法的規制を遵守し、実験を行い、論文としてまとめる力を付を目標とする。

到達目標

生化学実験IIでは、１）～５）の習得を目標とする。
１）酵素実験法、酵素の特性、機能、活性検出法の基礎知識をの修得
２）遺伝子組換え技術の基本操作の習得
３）自らで実験計画を立て、遂行できる能力
４）行った実験を論文形式でまとめる力
５）法的規制の理解と遵守

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	遺伝子組換え技術の法的規制	遺伝子組換え安全講習を行い、組換え体の封じ込み、法的規制、名称学ぶ。	1時間を60分として 予習15分：学習範囲のテキストを読む 復習45分：レポートとして、まとめる
	遺伝子		1時間を60分として

第2回	組換え技術概論 1	遺伝子組換え実験の手順、操作法を学ぶ。	予習15分：学習範囲のテキストを読む 復習45分：レポートとして、まとめる
第3回	実験計画書の作成	モデル実験、遺伝子組換え実験の手順を各自考え、計画書を作成する。 アクティブラーニング 手順書を参考にし、各班で議論し、実験計画を組む。	レポート提出：実験計画書、各自でみどりに光る大腸菌を作成するためのの実験手順書を作成し提出する。各自で作成したものが今後の実験書になる。1時間を60分として 予習15分：学習範囲のテキストを読む 復習45分：レポートとして、まとめる
第4回	制限酵素を用いた酵素の特性	制限酵素を用い酵素の基質特異性を学ぶ。 アクティブラーニング 課題に対してグループ内で実験方法を議論し、実験を組む。	1時間を60分として 予習15分：学習範囲のテキストを読む 復習45分：レポートとして、まとめる
第5回	試薬の調製	酵素活性を検出するための、緩衝液・アガロースゲルの作成する。 アクティブラーニング 課題に対してグループ内で実験方法を議論し、実験を組む。	1時間を60分として 予習15分：学習範囲のテキストを読む 復習45分：レポートとして、まとめる
第6回	酵素の活性の検出	制限酵素で切断したDNA断片のアガロース電気泳動による解析、確認試験 アクティブラーニング 各班ごとに議論し考えた実験方法で実験を行う。	レポート提出・試験 1時間を60分として 予習15分：学習範囲のテキストを読む 復習45分：レポートとして、まとめる
第7回	制限酵素による切断	アガロースゲル、プレート、培地の作成 アクティブラーニング 各班ごとに議論し考えた実験方法で実験を行う。	1時間を60分として 予習15分：学習範囲のテキストを読む 復習45分：結果等をノートにまとめる
第8回	DNA の抽出	GFP遺伝子を含むプラスミドの抽出、電気泳動によるプラスミドの確認（P1実験） アクティブラーニング 提示された材料を使用し、各班ごとに実験を進める。	1時間を60分として 予習15分：学習範囲のテキストを読む 復習45分：結果等をノートにまとめる
第9回	制限酵素による切断	GFP遺伝子を含むDNA領域の制限酵素による切断 実験講義 （P1実験） アクティブラーニング 提示された材料を使用し、各班ごとに実験を進	1時間を60分として 予習15分：学習範囲のテキストを読む 復習45分：結果等をノートにまとめる

		める。	
第10回	DNA の精製	制限酵素で切断したプラスミドを電気泳動し、目的のDNA断片を切り出し、精製する。 （P1実験） アクティブラーニング 提示された材料を使用し、各班ごとに実験を進める。	1時間を60分として 予習15分：学習範囲のテキストを読む 復習45分：結果等をノートにまとめる
第11回	DNA の接合	目的の DNA 断片をベクターに挿入(ライゲーション)、大腸菌への形質転換（P1実験） アクティブラーニング 提示された材料を使用し、各班ごとに実験を進める。	1時間を60分として 予習15分：学習範囲のテキストを読む 復習45分：結果等をノートにまとめる
第12回	形質変換	形質転換大腸菌の確認、コロニーPCR、講義（P1実験） アクティブラーニング 提示された材料を使用し、各班ごとに実験を進める。	1時間を60分として 予習15分：学習範囲のテキストを読む 復習45分：レポートとして、まとめる
第13回	組換え体の検出 1	アガロースゲルによる検出、形質転換大腸菌の培養 （P1実験） アクティブラーニング 提示された材料を使用し、各班ごとに実験を進める。	1時間を60分として 予習15分：学習範囲のテキストを読む 復習45分：結果等をノートにまとめる
第14回	組換え体の検出 2	大腸菌に発現したタンパク質を確認する。タンパク質の特性の確認 （P1実験） アクティブラーニング 提示された材料を使用し、各班ごとに実験を進める。	1時間を60分として 予習15分：学習範囲のテキストを読む 復習45分：結果等をノートにまとめる 時間内でまとめた実験ノート提出
第15回	組換えタンパク質の検出	遺伝子組換え大腸菌の廃棄処理 （P1実験） アクティブラーニング 提示された材料を使用し、各班ごとに実験を進める。	1時間を60分として 予習15分：学習範囲のテキストを読む 復習45分：結果等をノートにまとめるまとめた実験ノート提出 （授業時間内）

教科書
実験書配布
参考書
シンプル生化学 林典夫/廣野治子 南江堂 増補新訂版サイエンスビュー生物総合資料 牛木 辰男 (監修), 長野 敬 実教出版
成績評価の方法・基準
単位認定 60点以上：レポート(実験計画書、および、制限酵素を用いた実験）、実験ノート（遺伝子組換え実験）、時間内の小試験、定期試験(遺伝子組換え実験）の平均点として求める。
課題等に対する フィードバックの方法
提出されたレポートに対して、授業内で全体にコメントをする。
履修のポイント
実験前に実験書を読み、実験内容を理解する。実験中に実験記録（ノート）を必ず作成し、実験毎に実験内容を整理する。15回の授業で2回のレポートおよび複数回の試験を行うため、内容の理解を怠らないようにする。 理解を確認するため、時間内でテストを行う。理解度により実験・講義内容に変更あり。連続実験が多いため、欠席しないようにする。レポートはMoodle（オンライン教育システム）を使って提出する。遺伝子組換え実験の実験のノートは最終実験日の時間内に提出する。遺伝子組換え実験の内容の理解度は、レポートではなく、定期試験ではかる。 各班、及び、各自で考え、行動するアクティブラーニングを中心とする授業であるため、積極的に参加する。
オフィス・アワー
月～金 お昼休み （3限に授業のある日は不可） 11号館3階16研究室

講義コード	20520001
講義名	免疫学
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	４時限
区分	専門基礎科目
必修/選択	必修
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UE-R133
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 影山 晴秋	指定なし

授業の概要と教育目標

免疫機構は、人体の防御機構として発達してきた。免疫機構がどのようにして、自己と非自己を区別し、非自己を排除しているのかというメカニズムを学習するのが、主な内容である。また食物アレルギーといった免疫機能の変調によって引き起こされる疾患が身近に存在していることから、免疫機構が関与する疾病の成り立ちについてもふれる。
この講義では免疫学についての幅広い知識を習得します。特に解剖生理学で深く学べなかった内容について学習します。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマポリシーとの関連として、「2. 人間の健康を規定する要因として幅広く社会・環境を科学的に理解し、さらに健康の維持・増進プログラムを実践するために必要な人体の構造並びに疾病の成り立ちから食べ物と健康の知識や技能を修得している。」並びに「3. 多様な対象や人間のライフステージ・ライフサイクルに沿って、利用者の身体の状況、栄養状態、生活習慣に係る栄養・食事管理、栄養教育、臨床栄養ならびに公衆栄養、給食経営分野に関して必要な知識や技術を修得している。」に基づき、各種感染因子による食中毒や感染症、食物アレルギー、自己免疫疾患など人体の防御機構についてについての知識修得を目指すものとする。

到達目標

1. 免疫機構について説明できる。
2. アレルギーについて説明できる。
3. 免疫に関わる物質や細胞について説明できる。
4. 免疫と病気のメカニズムを説明できる。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	総論	オリエンテーション（授業の進め方、成績評価） 解剖生理学で講義した免疫機構の振り返り	予習90分：解剖生理学で使用した教科書の免疫の章を読む。 復習90分：配布資料を見直し、授業内容を確認する。

第2回	細菌感染による防御反応1	炎症の総論とその発症機序から自然免疫まで	予習90分：教科書のチャプター1を読む。理解できない部分を把握しておく。 復習90分：教科書と授業ノートを使ってまとめながら、授業内容を理解できるようにする。
第3回	液性免疫機構1	リンパ系とBリンパ球	予習90分：教科書のチャプター2 Stage 8からStage 11を読む。理解できない部分を把握しておく。 復習90分：教科書と授業ノートを使ってまとめながら、授業内容を理解できるようにする。
第4回	液性免疫機構2	抗原提示から抗原産生まで	予習90分：教科書のチャプター2 Stage 12からStage 16を読む。理解できない部分を把握しておく。 復習90分：教科書と授業ノートを使ってまとめながら、授業内容を理解できるようにする。
第5回	ウィルスに対する防御機構1	ウィルス感染による自然免疫と獲得免疫の防御反応	予習90分：教科書のチャプター3 Stage 17からStage 22を読む。理解できない部分を把握しておく。 復習90分：教科書と授業ノートを使ってまとめながら、授業内容を理解できるようにする。
第6回	ウィルスに対する防御機構2	ウィルスに対する体液性免疫と細胞性免疫機構について	予習90分：教科書のチャプター3 Stage 23からStage 28を読む。理解できない部分を把握しておく。 復習90分：教科書と授業ノートを使ってまとめながら、授業内容を理解できるようにする。
第7回	免疫に関わる物質・細胞1	補体・免疫細胞について	予習90分：教科書のチャプター4を読む。理解できない部分を把握しておく。 復習90分：教科書と授業ノートを使ってまとめながら、授業内容を理解できるようにする。
第8回	免疫に関わる物質・細胞2	抗体・抗原について	予習90分：教科書のチャプター5を読む。理解できない部分を把握しておく。 復習90分：教科書と授業ノートを使ってまとめながら、授業内容を理解できるようにする。
第9回	免疫に関わる物質・細胞3	Bリンパ球（B細胞）とTリンパ球（T細胞）のはたらきについて	予習90分：教科書のチャプター6 Stage 40からStage 45を読む。理解できない部分を把握しておく。 復習90分：教科書と授業ノートを使ってまとめながら、授業内容を理解できるようにする。
第10回	リンパ球2	リンパ球の多様性とTリンパ球の成熟	予習90分：教科書のチャプター6 Stage 46からStage 51を読む。理解できない部分を把握しておく。 復習90分：教科書と授業ノートを使ってまとめながら、授業内容を理解できるようにする。
第11回	免疫と病気のメカ	炎症、能動免疫と受動免疫とアレルギーについ	予習90分：教科書のチャプター7とチャプター8 Stage 61からStage 62を読む。理解できない部分を把握しておく。

	ニズム1	て1（1型アレルギー疾患）	復習90分：教科書と授業ノートを使ってまとめながら、授業内容を理解できるようにする。
第12回	免疫と病気のメカニズム2	アレルギーについて2（1型アレルギー疾患）	予習90分：教科書のチャプター8 Stage 63からStage 69を読む。理解できない部分を把握しておく。 復習90分：教科書と授業ノートを使ってまとめながら、授業内容を理解できるようにする。
第13回	免疫と病気のメカニズム3	アレルギーについて3（2型と3型アレルギー疾患）	予習90分：教科書のチャプター9 Stage 70からStage 72を読む。理解できない部分を把握しておく。 復習90分：教科書と授業ノートを使ってまとめながら、授業内容を理解できるようにする。
第14回	免疫と病気のメカニズム4	アレルギーについて4（4型アレルギー疾患）	予習90分：教科書のチャプター9 Stage 73からStage 75を読む。理解できない部分を把握しておく。 復習90分：教科書と授業ノートを使ってまとめながら、授業内容を理解できるようにする。
第15回	免疫と病気のメカニズム5	先天的免疫不全、後天的免疫不全	予習90分：教科書のチャプター9 Stage 76からStage 81を読む。理解できない部分を把握しておく。 復習90分：教科書と授業ノートを使ってまとめながら、授業内容を理解できるようにする。

教科書

休み時間の免疫学 齋藤先紀（著）・講談社
管理栄養士を目指す学生のための解剖生理学テキスト 岩堀修明（著）・文光堂（1年生の時に解剖生理学の講義で使った教科書）

参考書

大学図書館に免疫学、感染症、アレルギー、自己免疫病に関する本が多数有ります。なるべくわかりやすいと思ったものを探して読んで下さい。

成績評価の方法・基準

単位認定 60 点以上 学期末試験（100%）で評価

課題等に対するフィードバックの方法

最終授業時に全体に対するフィードバックを行う。
試験問題を返却するので、各自今後の勉強に役立てること。

履修のポイント

本シラバスの予習・復習にそって勉強して下さい。講義が終わったら復習として必ずノート整理を行うこと。
解剖生理学で使った教科書の免疫・リンパの章を復習しながら、免疫学の教科書で理解を深める。

オフィス・アワー

月曜日から木曜日：9:00-16:00。11号館研究室10にて対応します。講義終了前後にも、適宜受け付けます。

講義コード	20530001
講義名	病理学
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	２時限
区分	専門基礎科目
必修/選択	必修
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UE-R152
学年	3学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 岡安 勲	指定なし

授業の概要と教育目標

健康維持の基本に適切な食・栄養があります。その栄養管理を行う上で、健康と病気との違い、病気の原因・成り立ち、病態を理解していることが重要です。本科目は病気の原因・成り立ちを理解し、基礎知識として習得して栄養学の学習につなげることを目標とします。
病理学は基礎医学と臨床医学にまたがる分野であり、マクロ・ミクロを含む形態的変化に機能変化も加味して、病気の原因や病態を理解しようとする学問領域です。本講義では教科書に沿った順序で進めます。
管理栄養士国家試験に高頻度なキーワードも含めて解説・討論します。また、アクティブラーニングを想定し、１４班にグループ分けして、あらかじめグループ毎に課題を設定して発表（プレゼンテーション）してもらいます。グループ学生から質問を出して、質疑応答を行い、理解を含めます（アクティブラーニング）。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科の目標である「自立した専門職としての知識・技能・態度を身につけた人材」「保健・医療・福祉分野に対応できる食のスペシャリスト」「地域の保健・医療・福祉分野における食と健康に関する実践的職業人」をめざして、そのディプローマポリシーの基礎となる、「人体の構造並びに疾病の成り立ちから食べ物と健康の知識や技能」を習得する。
具体的には疾患の原因・成因、病態を理解し、さらにそれを自分の言葉で説明できるようにする。
管理栄養士として、患者さん、未病者、健康な方それぞれに適切な栄養指導を行えるように、疾患の基礎および臨床的事項を基礎知識として習得する。

到達目標

１．疾患の原因・成因、病態の概念を理解して、説明できるようにする。
２．疾患に関する専門用語の意味を理解して、習得する。
３．疾患の成り立ちについて興味を持ち、その予防・治療について、食・栄養の面から自ら考える習慣を身につける。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間

第1回	疾病の成り立ちの概論 6 B 疾患に伴う変化①	疾病の原因、発症機序などの理解のための導入 炎症と創傷治癒、変性、壊死・アポトーシス、萎縮・肥大、化生 初回のクラス全体の課題： 炎症とは生体にとって悪いこと？ 細胞の壊死とアポトーシスの違いは？ アポトーシスは避けられないのか？ 肥大と過形成の違いは？	予習90分：教科書６章Bを読む。 復習90分：教科書・メモ・ノートを見直す
第2回	6 B 疾患に伴う変化②	異形成、腫瘍（良性腫瘍、悪性腫瘍＝がん）、発がんのメカニズム、がん遺伝子・抑制遺伝子、がんの増殖・浸潤・転移・播種 グループ課題（プレゼンテーション、アクティブラーニング）： 腫瘍とはどういう定義か？ がんはどうやって出現して増殖して広がるのか？ 悪性腫瘍の悪性である原因は？	予習90分：教科書６章Bを読む。 復習90分：教科書・メモ・ノートを見直す
第3回	6 A 加齢に伴う変化 C 個体の死	分子レベル、臓器レベル、個体レベルの老化 植物状態、心臓死、脳死 グループ課題（プレゼンテーション、アクティブラーニング）： 加齢によって臓器、組織、細胞はどんな形態像になるのか？ 個体死の種類とその説明は？	予習90分：教科書６章A Cを読む。 復習90分：教科書・メモ・ノートを見直す
第4回	7 疾患診断の概要	問診、診察、主な症候、臨床検査 グループ課題（プレゼンテーション、アクティブラーニング）： クリニックや病院では、病気の診断がどのような流れでなされているか？ 診断のためにどのような検査があるか？	予習90分：教科書７章を読む。 復習90分：教科書・メモ・ノートを見直す
第5回	8 疾患治療の概要	治療法の種類と特徴、治療計画、治療の方法 グループ課題（プレゼンテーション、アクティブラーニング）： 医療施設では、どのような流れで治療が選択されてなされているか？ 治療にはどのような治療があるか？ それぞれの特徴は？	予習90分：教科書８章を読む。 復習90分：教科書・メモ・ノートを見直す
第6回	9 栄養障害と代謝疾患	栄養・代謝にかかわるホルモン・サイトカイン 栄養障害、肥満と代謝疾患、先天性代謝異常症 グループ課題（プレゼンテーション、アクティブラーニング）： メタボリックシンドロームとは？ その予防とは？ 肥満はなぜ良くないのか？ 生活習慣病とは？	予習90分：教科書９章を読む。 復習90分：教科書・メモ・ノートを見直す
第7回	10 消化器系①	消化管の疾患（炎症、腫瘍） グループ課題（プレゼンテーション、アクティブラーニング）： 胃潰瘍の原因は？ ピロリ菌感染の影響は？ 下痢・下血をおこす疾患は？ 消化管腫瘍の診断の手順は？	予習90分：教科書１０章を読む。 復習90分：教科書・メモ・ノートを見直す
第8回	10 消化器系②	肝臓、胆道系、膵臓疾患（炎症、腫瘍、結石） グループ課題（プレゼンテーション、アクティブラーニング）： 黄疸はどのような機序で生じる？ 肝、胆道系、膵臓の腫瘍の症候の特徴は？ 慢性肝炎ー肝硬変ー肝細胞がん系とは？	予習90分：教科書１０章を読む。 復習90分：教科書・メモ・ノートを見直す
	11	虚血、血栓・塞栓、動脈硬化、高血圧、虚血性心疾患（狭心症、心筋梗塞）、不整脈、脳卒中（脳出血、脳梗塞）	予習90分：教科書１１章を読

第9回	循環器系	グループ課題（プレゼンテーション、アクティブラーニング）： 心不全とはどういう状態？ 虚血性心疾患の発生機序は？ 不整脈ー脳梗塞の発症系とはどのようなメカニズムでおきるのか？	む。 復習90分：教科書・メモ・ノートを見直す
第10回	12 腎・尿路系疾患①	糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、尿路結石、尿路系腫瘍 グループ課題（プレゼンテーション、アクティブラーニング）： 糸球体腎炎の種類・成因・治療は？ 尿路系結石はどこに生じ、どのような症状があり、どのような治療方法がとられているか？ 尿路系腫瘍の診断は？	予習90分：教科書１２章を読む。 復習90分：教科書・メモ・ノートを見直す
第11回	12 腎・尿路系② 13 内分泌系疾患	急性腎不全、慢性腎不全、糖尿性腎症、慢性腎臓病の重症度 甲状腺機能亢進症、クッシング症候群、原発性アルドステロン症 グループ課題（プレゼンテーション、アクティブラーニング）： 慢性腎不全の治療は？ バセドウ病の成因とその治療は？ 橋本病のの成因とその治療は？	予習90分：教科書１２、１３章を読む。 復習90分：教科書・メモ・ノートを見直す
第12回	14 神経系	クモ膜下出血、アルツハイマー型認知症、脳血管性認知症、パーキンソン病、脳腫瘍 グループ課題（プレゼンテーション、アクティブラーニング）： くも膜下出血の原因、症状と治療は？ 認知症とはどういう定義？ その原因と病態は？	予習90分：教科書１４章を読む。 復習90分：教科書・メモ・ノートを見直す
第13回	15 呼吸器系 16 運動器（筋・骨格）系	肺炎、慢性閉塞性肺疾患、肺気腫、気管支喘息、肺がん 骨粗鬆症、変形性関節症 グループ課題（プレゼンテーション、アクティブラーニング）： 喫煙が関係する肺疾患は？ 肺がんはタイプ、進行度によって治療法が大きく違うがその内容は？ ロコモティブシンドロームとは？	予習90分：教科書１５、１６章を読む。 復習90分：教科書・メモ・ノートを見直す
第14回	17 生殖系 18 血液・造血器・リンパ系	妊娠合併症（高血圧症候群、妊娠糖尿病）、子宮外妊娠 貧血（溶血性貧血、巨赤芽球性貧血）、出血性疾患、白血病、 グループ課題（プレゼンテーション、アクティブラーニング）： 不妊症の原因と治療は？ 子宮体部がんと頸部がんとは発生の原因、メカニズムが違うがどのように違うのか？ 血友病とは？ 血友病はなぜ男性に多いのか？	予習90分：教科書１７、１８章を読む。 復習90分：教科書・メモ・ノートを見直す
第15回	19 免疫・アレルギー 20 感染症	食物アレルギー、膠原病・自己免疫疾患、免疫不全病原微生物、性病、院内感染症、抗菌薬・抗生物質 グループ課題（プレゼンテーション、アクティブラーニング）： 成人の食物アレルギーは？ エイズとは？ 感染症の治療の際に抗生物質はどのように選ばれているか？	予習90分：教科書１９、２０章を読む。 復習90分：教科書・メモ・ノートを見直す

教科書

サクセス管理栄養士講座「人体の構造と機能及び疾病の成り立ちII」(解剖生理学・病理学) 加藤昌彦・他(第一出版)

参考書
臨床栄養学、臨床医学概論の教科書、病理学関連参考書 ロビンス＆コットラン 「病理学アトラス」 （高橋浩幸、羽野寛、白石泰三、福田邦彦監訳、エルゼビア・ジャパン）； 「臨床病理・病態学 疾病の成り立ち」MCメディカ出版（ナーシング・グラフィカ 3）
成績評価の方法・基準
単位認定：60点以上。 筆記試験 60%、レポート・課題 20%、授業への参加度（グループのプレゼンテーション含む）20%
課題等に対する フィードバックの方法
毎回の講義修了前に課題（授業内課題）を与え、ミニレポートを提出する。 この授業内課題の評価を次回の講義のはじめに講評をコメントする、このことによって、疾患の理解、基礎知識の習得を促進する。各グループのプレゼンテーションには学生に客観的評価をしてもらい、授業への参加度の算定に利用する。 定期試験の結果は採点して答案を返却する。
履修のポイント
予習・復習の積み重ねが知識を身につける力になり、試験対策にもつながります。 範囲が広く、また理解が難しい点もありますので、興味のある箇所を読み込んでおいて、授業に参加してください。また、授業の後に疑問を持った個所を自分で調べるのも効果的です。 一度の読み、聞きでは理解できなくても、繰り返すことで理解できることが多々ありますので、病気の成り立ちのメカニズムにこだわって、習得するようにしましょう。
オフィス・アワー
月曜日 12:50-13:20。金曜日 12:50-14:00、４号館２階教員居室。

講義コード	20540001
講義名	栄養生理学（1年生）
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	３時限
区分	専門基礎科目
必修/選択	必修
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UE-R141
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 榮 昭博	指定なし

授業の概要と教育目標

栄養生理学では人の栄養に関する生理学的意義を中心に講義し、健康の保持・増進、疾病の予防・治療における栄養の役割を理解することを目的とする。具体的には、糖・脂肪・蛋白質の３大栄養素、これにビタミン、ミネラルを加えた５大栄養素を中心に摂取した場合の消化吸収や特にミネラル摂取の生理作用・欠乏症や過剰症等について理解すること。

卒業認定・学位授与の方針との関連

栄養生理学は、対象の身体の状況、栄養状態、生活習慣に係る栄養・食事管理、栄養教育、臨床栄養ならびに公衆栄養、給食経営分野に関して必要な知識や技術を修得する実践的栄養学の基となる知識を理解する科目と考えられる。それ故、栄養生理学では、栄養素等の生体内でのはたらき，それらの相互作用について理解し，健康維持・増進，疾病予防の活用に発展させる知識を習得することを卒業認定の要件の一つとする。

到達目標

管理栄養士として栄養実践活動に対応できるように、その基礎知識を習得する。具体的には５大栄養素の消化吸収、ミネラルの代謝排泄、水と電解質の代謝、栄養と遺伝、特殊な機能をもつ栄養素、エネルギー代謝について理解する。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	栄養素の機能 ミネラル Ⅰ	多量無機化合物の生理作用、特にカルシウムの生理作用と欠乏症について述学習する。	予習：教科書p117～122を読み理解すること。復習：左記の内容について講義ノートを作成すること。これらについて4時間以上作業すること。
第2回	栄養素の機能 ミネラル Ⅱ	多量無機化合物のナトリウム、カリウムおよび微量無機化合物鉄の生理作用と欠乏症について述学習する。	予習：教科書p122～127を読み理解すること。復習：左記の内容について講義ノートを作成すること。これらについて4時間以上作

			業すること。
第3回	微量無機化合物の生理作用、特に鉄の生理作用と欠乏症について述学習する。	微量無機化合物の生理作用について述学習する。	予習：教科書p127～132を読み理解すること。復習：左記の内容について講義ノートを作成すること。これらについて4時間以上作業すること。
第4回	摂食行動	空腹感と食欲、食欲の調節について学ぶ食事のリズムとタイミングについて学ぶ。また、小テストで理解度を確認する。	予習：教科書p13～18を読み理解すること。復習：左記の内容について講義ノートを作成すること。これらについて4時間以上作業すること。
第5回	栄養素の消化吸収と栄養素の体内動態Ⅰ	消化器の構造と機能について学ぶ（食道・胃・小腸・大腸・肝臓）。 および消化酵素（各消化腺ごとの）につて理解する。	予習：教科書p21～31を読み理解すること。復習：左記の内容について講義ノートを作成すること。これらについて4時間以上作業すること。
第6回	栄養素の消化吸収と栄養素の体内動態Ⅱ	糖・脂質・たんぱく質等の栄養素別の消化吸収について学ぶ。	予習：教科書p42～43、57～59、78～80を読み理解すること。復習：左記の内容について講義ノートを作成すること。これらについて4時間以上作業すること。
第7回	栄養素の消化吸収と栄養素の体内動態Ⅲ	引き続き、栄養素別の消化吸収および栄養素の体内動態について学ぶ（門脈系・リンパ系・細胞外液）。	予習：教科書教科書p42～43、57～59、78～80およびp32～35を読み理解すること。復習：左記の内容について講義ノートを作成すること。これらについて4時間以上作業すること。
第8回	栄養素の消化吸収と栄養素の体内動態Ⅳ	生物学的利用特に消化吸収率や栄養価について学ぶ。また、栄養素の消化吸収について、小テストで理解度を確認する。	予習：教科書p36～38を読み理解すること。復習：左記の内容について講義ノートを作成すること。これらについて4時間以上作業すること。
第9回	特殊な生理機能を持つ栄養素	食物繊維（難消化性糖質）の機能、特に腸内における発酵、吸収、短鎖脂肪酸、腸内細菌について学ぶ。	予習：教科書p163～168を読み理解すること。復習：左記の内容について講義ノートを作成すること。これらについて4時間以上作業すること。
第10回	水・電解質の代謝Ⅰ	水の機能（分布、機能、体内量、出納、バランス）、酸塩基平衡調節について理解する。	予習：教科書p133～135を読み理解すること。復習：左記の内容について講義ノートを作成すること。これらについて4時間以上作業すること。
第11回	水・電解質の代謝Ⅱ	電解質の機能（分布、機能、体内量、出納、バランス）、酸塩基平衡調節について理解する。水および電解質について小テストで理解度を確認する。	予習：教科書p135～138を読み理解すること。復習：左記の内容について講義ノートを作成すること。これらについて4時間以上作業すること。
第12回	エネルギー代謝 （1）	エネルギーとは、食品のエネルギー、エネルギー代謝の測定報、基礎代謝について学ぶ。	予習：教科書p139～144を読み理解すること。復習：左記の内容について講義ノートを作成すること。これらについて4時間以上作業すること。

第13回	エネルギー代謝 （２）	エネルギーの必要量・消費量について理解し、エネルギー代謝の測定に関する事項（メッツ等）について学ぶ。エネルギー代謝について小テストで理解度を確認する。	予習：教科書p144～146を読み理解すること。復習：左記の内容について講義ノートを作成すること。これらについて4時間以上作業すること。
第14回	栄養と遺伝	生活習慣病の発症と遺伝との関係について理解する。	予習：教科書p147～161を読み理解すること。復習：左記の内容について講義ノートを作成すること。これらについて4時間以上作業すること。
第15回	まとめ	今まで学習したことについて確認する。また、不足分を補う。	予習：作成した講義ノートを確認すること。これについて4時間以上作業すること。

教科書

『Ｎブックス 改訂基礎栄養学』 林 淳三ら 建帛社

参考書

管理栄養士講座 基礎栄養学 第一出版 エッセンシャル基礎栄養学 医師薬出版

成績評価の方法・基準

学期末試験 100点、試験の各得点に講義ノート5点を加点。合計で 60点以上にて合格とする。

課題等に対する
フィードバックの方法

事前の学習として、また、授業終了後に、講義ノートとは別の国家試験の基礎栄養学出題基準に対応した講義ノートを作成すること。ノートは最終日に提出し、これを確認して点数を記して返却する。

履修のポイント

前期基礎栄養学の内容とも関連するので、基礎栄養学をしっかり理解すること。また、生理生化学的視点の講義内容を含むので生化学の教科書も参考となる。

オフィス・アワー

授業開講日の１２：３０～１３：２０に１１号館３階第14研究室で行う。ただし、この時間帯以外でも講義・会議・出張等の校務がない場合行うことができることがある。

講義コード	20550001
講義名	食品学Ⅰ
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	４時限
区分	専門基礎科目
必修/選択	必修
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UE-R114
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 荒井 勝己	指定なし

授業の概要と教育目標

食品に含まれる個々の成分の特徴を把握しておくことは、食品自体を理解するためだけではなく、栄養学的あるいは生理学的な視点から食生活を考えていくためにもたいへん重要である。本講義では食品に含まれている栄養素がどのような元素から成り立ち、化学的性質をもつのかを解説し、栄養素とはどのようなものであるかを解説する。また、食品は栄養素だけでは成り立たず、その他の成分（呈味成分や香気成分など）の構造・性質・役割や調理・加工による成分変化、食品の物性などについても講義する。また、近年の食の国際化に伴う最新の食情報に加え、現在注目されている保健機能食品や特別用途食品や食品に関する法規についても取り上げる。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマポリシーとの関連として、「２．人間の健康を規定する要因として幅広く社会・環境を科学的に理解し、さらに健康の維持・増進プログラムを実践するために必要な人体の構造並びに疾病の成り立ちから食べ物と健康の知識や技能を修得している。」に基づき、管理栄養士として知っておかなければならない食品の基礎知識を理解することを目指す。

到達目標

講義の最後に復習問題を配付する。講義の内容をふまえて、すべての問題について正答だけでなく、その理由も解説できるようになることを目標とする。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	人間と食品（食べ物）	食文化と食生活、食生活と健康、食料と環境問題など 【アクティブラーニング】 授業内容についての質問や疑問などを学生に提示し、その場で出てきた解答や意見に対してディスカッションを行う時間を設ける（第2回～第15回も同様）	予習90分：教科書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習90分：配布した試料をまとめ、復習問題を解き、理解できなかった内容について調べる。

第2回	食品の一次機能Ⅰ 炭水化物	炭水化物とは、食品中の炭水化物、単糖類の構造・種類・特徴、二糖類、オリゴ糖類、多糖類など	予習90分：教科書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習90分：配布した試料をまとめ、復習問題を解き、理解できなかった内容について調べる。
第3回	食品の一次機能Ⅱ 脂質	脂質とは、単純・複合・誘導脂質、油脂（脂質）の性質など	予習90分：教科書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習90分：配布した試料をまとめ、復習問題を解き、理解できなかった内容について調べる。
第4回	食品の一次機能Ⅲ たんぱく質	たんぱく質とは、アミノ酸、ペプチド、たんぱく質の構造・分類・変性など	予習90分：教科書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習90分：配布した試料をまとめ、復習問題を解き、理解できなかった内容について調べる。
第5回	食品の一次機能Ⅳ ビタミン	ビタミンとは、脂溶性ビタミン、水溶性ビタミン	予習90分：教科書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習90分：配布した試料をまとめ、復習問題を解き、理解できなかった内容について調べる。
第6回	食品の一次機能Ⅴ ミネラル（無機質）、核酸・核酸構成成分	ミネラルの定義と分類、多量・微量ミネラル、核酸、プリンおよびピリミジンヌクレオチドの合成と分解、食品中のプリン体など	予習90分：教科書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習90分：配布した試料をまとめ、復習問題を解き、理解できなかった内容について調べる。
第7回	食品の二次機能Ⅰ 水分	水の特性、食品中の水、自由水と結合水、水分活性と水分含量など	予習90分：教科書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習90分：配布した試料をまとめ、復習問題を解き、理解できなかった内容について調べる。
第8回	食品の二次機能Ⅱ 色素成分、呈味成分、香気成分、官能評価	食品中に含まれる色素成分の分類、味とは、食品中の呈味成分、香気・においとは、香気成分の種類、官能評価とは、官能評価の種類と方法など	予習90分：教科書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習90分：配布した試料をまとめ、復習問題を解き、理解できなかった内容について調

			べる。
第9回	食品成分の変化	炭水化物・脂質・たんぱく質の変化、褐変、光・加熱・加圧・減圧・酵素による変化	予習90分：教科書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習90分：配布した試料をまとめ、復習問題を解き、理解できなかった内容について調べる。
第10回	食品の物性	食品の物性とは、コロイド、レオロジー、テクスチャーなど	予習90分：教科書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習90分：配布した試料をまとめ、復習問題を解き、理解できなかった内容について調べる。
第11回	食品の三次機能	三次機能とは、機能性食品とは、口腔内や消化管内で作用する機能、消化管吸収後の標的組織での生理機能調節	予習90分：教科書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習90分：配布した試料をまとめ、復習問題を解き、理解できなかった内容について調べる。
第12回	食品の表示と規格基準Ⅰ	食品表示制度（食品表示に関する法律、期限表示、成分表示、品質表示基準など）	予習90分：教科書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習90分：配布した試料をまとめ、復習問題を解き、理解できなかった内容について調べる。
第13回	食品の表示と規格基準Ⅱ	健康や栄養に関する表示の制度（特定保健用食品、特別用途食品、栄養機能食品、機能性表示食品など）	予習90分：教科書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習90分：配布した試料をまとめ、復習問題を解き、理解できなかった内容について調べる。
第14回	食品の表示と規格基準Ⅲ	基準（製造・加工・調理基準、保存基準、器具・容器包装の安全性の規格基準など）	予習90分：教科書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習90分：配布した試料をまとめ、復習問題を解き、理解できなかった内容について調べる。
第15回	まとめ	今まで学んだ内容について補足、質問に対する解説など	予習90分：教科書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習90分：配布した試料をまとめ、復習問題を解き、理解できな

			かった内容について調べる。

教科書
『栄養科学イラストレイテッド 食品学Ⅰ 食品の成分と機能を学ぶ』水品善之、菊﨑泰枝、小西洋太郎 編（羊土社）
参考書
単元ごとにプリント教材を配布する。
成績評価の方法・基準
単位認定60点以上 筆記試験100％
課題等に対する フィードバックの方法
授業内に問題を提示したり、課題を課すことがある。学期末の筆記試験にも関与する事柄なので、必ず復習しておくこと。また、単元ごとに復習問題を配付するので、必ず問題を解いて授業内容の理解に役立てること。
履修のポイント
予習・復習の積み重ねが知識を身につける力となり、試験対策にもつながっていく。教科書の内容以外の事柄についても取り入れていくので、授業には積極的に参加すること。
オフィス・アワー
授業内容等の質問については、授業終了後、または月～金曜日のお昼休みに11号館3F研究室13で受け付ける。

講義コード	20560001
講義名	食品学Ⅱ
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	5時限
区分	専門基礎科目
必修/選択	必修
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UE-R127
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 荒井 勝己	指定なし

授業の概要と教育目標

ほとんどの食品は、植物あるいは動物体そのものか、それらによって生産されたもの、あるいはそれらを調理・加工したものである。本講義では、まず食品成分表について理解し、次いで植物性食品、動物性食品、その他の食品（油脂食品や微生物利用食品など）について、成分組織、栄養特性、機能特性、化学的性質などを解説する。後半では、食品の加工原理や加工工程を中心に、保存・貯蔵法とその原理、食品の包装、加工食品の表示や規格などについて解説する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマポリシーとの関連として、「2．人間の健康を規定する要因として幅広く社会・環境を科学的に理解し、さらに健康の維持・増進プログラムを実践するために必要な人体の構造並びに疾病の成り立ちから食べ物と健康の知識や技能を修得している。」に基づき、管理栄養士として知っておかなければならない食品学・食品加工学の基礎知識を理解することを目指す。

到達目標

講義の最後に復習問題を配付する。講義の内容をふまえて、すべての問題について正答だけでなく、その理由も解説できるようになることを目標とする。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	食品の分類と食品成分表	生産様式・原料・主要栄養素等による分類、食品成分表法の理解 【アクティブラーニング】授業内容についての質問や疑問などを学生に提示し、その場で出てきた解答や意見に対してディスカッションを行う時間を設ける（第2回～第15回も同様）	予習90分：教科書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習90分：配布した試料をまとめ、復習問題を解き、理解できなかった内容について調べる。
	植物性食品Ⅰ		予習90分：教科書を読み、わからない単語や内容について調べる。

第2回	穀類、いも類	穀類およびいも類の種類・性質・成分など	復習90分：配布した試料をまとめ、復習問題を解き、理解できなかった内容について調べる。
第3回	植物性食品Ⅱ豆類、種実類	豆類および種実類の種類・性質・成分など	予習90分：教科書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習90分：配布した試料をまとめ、復習問題を解き、理解できなかった内容について調べる。
第4回	植物性食品Ⅲ野菜類、果実類	野菜類および果実類の種類・性質・成分など	予習90分：教科書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習90分：配布した試料をまとめ、復習問題を解き、理解できなかった内容について調べる。
第5回	植物性食品Ⅳきのこ類、藻類	きのこ類および藻類の種類・性質・成分など	予習90分：教科書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習90分：配布した試料をまとめ、復習問題を解き、理解できなかった内容について調べる。
第6回	動物性食品Ⅰ肉類	肉類の種類・性質・成分・変化、食肉加工品など	予習90分：教科書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習90分：配布した試料をまとめ、復習問題を解き、理解できなかった内容について調べる。
第7回	動物性食品Ⅱ魚介類	魚介類の食品学的特徴・構造・成分、魚の死後変化と鮮度、魚介類の特徴と利用・加工など	予習90分：教科書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習90分：配布した試料をまとめ、復習問題を解き、理解できなかった内容について調べる。
第8回	動物性食品Ⅲ乳類	乳類の種類・性質・成分・変化、飲用乳、主な乳製品など	予習90分：教科書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習90分：配布した試料をまとめ、復習問題を解き、理解できなかった内容について調べる。
第9回	動物性食品Ⅳ卵類	卵類の種類・特徴・構造・成分、卵の調理加工特性など	予習90分：教科書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習90分：配布した試料をまとめ、復習問題を解き、理解できなかった内容について調べる。
			予習90分：教科書を読

第10回	油脂	食用油脂の特徴と分類、植物油脂、動物油脂、加工油脂など	み、わからない単語や内容について調べる。 復習90分：配布した試料をまとめ、復習問題を解き、理解できなかった内容について調べる。
第11回	調味料、香辛料、嗜好飲料	調味料、香辛料の特徴・性質、嗜好飲料（茶、コーヒー、ココア、清涼飲料）など	予習90分：教科書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習90分：配布した試料をまとめ、復習問題を解き、理解できなかった内容について調べる。
第12回	加工食品	食品加工とは、加工食品の意義・目的、加工食品の分類、食品添加物とは（メリットとデメリット）、食品添加物の種類と用途など	予習90分：教科書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習90分：配布した試料をまとめ、復習問題を解き、理解できなかった内容について調べる。
第13回	微生物利用食品	微生物利用食品（発酵食品）の分類と性質、アルコール飲料、発酵調味料、その他の微生物利用食品	予習90分：教科書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習90分：配布した試料をまとめ、復習問題を解き、理解できなかった内容について調べる。
第14回	バイオ食品などの新規食品	バイオテクノロジー応用食品、最近の食品加工技術による食品	予習90分：教科書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習90分：配布した試料をまとめ、復習問題を解き、理解できなかった内容について調べる。
第15回	まとめ	今まで学んだ内容（食品学Ⅰを含む）について補足、質問に対する解説など	予習90分：教科書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習90分：配布した試料をまとめ、復習問題を解き、理解できなかった内容について調べる。

教科書

『栄養科学イラストレイテッド 食品学Ⅱ 食品の分類と特性、加工を学ぶ』栢野新市、水品善之、小西洋太郎 編（羊土社）

参考書

単元ごとにプリント教材を配布する。

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上 筆記試験100％

課題等に対する
フィードバックの方法

授業内に問題を提示したり、課題を課すことがある。学期末の筆記試験にも関与する事柄なので、必ず復習しておくこと。また、単元ごとに復習問題を配付するので、必ず問題を解いて授業

内容の理解に役立てること。

履修のポイント
予習・復習の積み重ねが知識を身につける力となり、試験対策にもつながっていく。教科書の内容以外の事柄についても取り入れていくので、授業には積極的に参加すること。
オフィス・アワー
授業内容等の質問については、授業終了後、または月～金曜日のお昼休みに11号館3F研究室13で受け付ける。

講義コード	20570001
講義名	食品学実験Ⅰ（Aクラス）
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期
講義区分	実験・実習
基準単位数	1
代表曜日	火曜日
代表時限	１時限
区分	専門基礎科目
必修/選択	必修
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UE-R126
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 荒井 勝己	指定なし

授業の概要と教育目標

食品の性質を科学的・栄養学的に理解する場合、その食品に含まれる成分含量を知ることが重要となる。私たちが日ごろ食べている食品の成分値は日本食品成分表により知ることができるが、本実験では食品成分表に記載されている栄養成分（水分、たんぱく質、脂質、糖質、灰分など）を中心に定量分析を行い、食品成分表に関する基礎知識と実験技術を習得することを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマポリシーとの関連として、「２．人間の健康を規定する要因として幅広く社会・環境を科学的に理解し、さらに健康の維持・増進プログラムを実践するために必要な人体の構造並びに疾病の成り立ちから食べ物と健康の知識や技能を修得している。」に基づき、“食品学”の講義で学んだ内容について、実験を通じて検証することで、さらに深く内容を理解し、管理栄養士として第一歩を踏み出す際の、基本的知識の構築を目指す。

到達目標

各実験を通じて得た体験から、食品学で学んだ食品に関する知識をさらに深めるとともに“食品とは何か”を知ることを目標とする。また、実験結果を実験報告書に的確にまとめ、表現できる力を身につける。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	授業ガイダンス	実験を行うための諸注意、実験器具説明、レポートの書き方など 実験を行うにあたって必要な内容を問う小テストを実施し、その内容に基づいて実験の重要性や危険性などについて説明する。	予習60分：実験書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習60分：実験結果より実験報告書をまとめる。また理解できなかった内容について調べ

			る。
第2回	水分の定量・粗灰分の定量	常圧加熱乾燥法により、食品中の水分含量を求める。直接灰化法により、食品中の粗灰分含量を求める。 【アクティブラーニング】実験終了後、得られた結果から、どのようなことが推測あるいは判別・判定できるか、実験班毎に発表してもらい、ディスカッションする（第2回～第15回すべてで実施）	予習60分：実験書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習60分：実験結果より実験報告書をまとめる。また理解できなかった内容について調べる。
第3回	糖の定性試験	数種の糖類未知試料を用い、いかなる糖であるかを分析（同定）するとともに糖の化学的性質を理解する。	予習60分：実験書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習60分：実験結果より実験報告書をまとめる。また理解できなかった内容について調べる。
第4回	たんぱく質・アミノ酸の定性試験	数種のたんぱく質、アミノ酸を含む未知試料に呈色試験を行い、いかなる化合物であるかを分析（同定）するとともにアミノ酸の化学的性質を理解する。	予習60分：実験書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習60分：実験結果より実験報告書をまとめる。また理解できなかった内容について調べる。
第5回	滴定用標準溶液の調整Ⅰ	粗たんぱく質の定量等で使用する0.1N NaOH溶液を調整する。	予習60分：実験書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習60分：実験結果より実験報告書をまとめる。また理解できなかった内容について調べる。
第6回	粗たんぱく質の定量Ⅰ・滴定用標準溶液の調整Ⅱ	ケルダール窒素定量法により、食品中の窒素量を測定し、得られた値から粗たんぱく質含量を算出する（蒸留過程）。調整した0.1N NaOHを用いて0.1N 硫酸溶液を調整する。	予習60分：実験書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習60分：実験結果より実験報告書をまとめる。また理解できなかった内容について調べる。
	粗たんぱ	ケルダール窒素定量法により、食品中の窒素量を	予習60分：実験書を読み、わからない単語や内容について調べる。

第7回	く質の定量Ⅱ	測定し、得られた値から粗たんぱく質含量を算出する（分解過程→滴定）。	復習60分：実験結果より実験報告書をまとめる。また理解できなかった内容について調べる。
第8回	粗脂肪の定量・小テスト①	エーテル抽出法により、食品中の粗脂肪含量を求める。	予習60分：実験書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習60分：実験結果より実験報告書をまとめる。また理解できなかった内容について調べる。
第9回	粗繊維の定量Ⅰ	粗繊維の希酸・希アルカリ・アルコール・エーテルに不溶である性質を利用して、食品中の粗繊維含量を求める（ヘンネベルグ・ストーマン改良法）。	予習60分：実験書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習60分：実験結果より実験報告書をまとめる。また理解できなかった内容について調べる。
第10回	粗繊維の定量Ⅱ・還元糖の定量	アルカリ性でヨウ素は還元糖により還元されヨウ素イオンとなる。残存するヨウ素量を濃度既知のチオ硫酸ナトリウムで滴定することによって還元糖により消費されたﾖｳ素量、すなわち還元糖の量を求める（ウィルシュテッター・シューデル法）。	予習60分：実験書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習60分：実験結果より実験報告書をまとめる。また理解できなかった内容について調べる。
第11回	還元型ビタミンCの定量	アスコルビン酸（ビタミンC）にジクロロフェノールインドフェノール色素溶液を作用させると、アスコルビン酸の還元力で色素が還元される。色素溶液にｱｽｺﾙﾋﾞﾝ酸を滴下し、その紅点の消失する点を求めて定量する（インドフェノール法）。	予習60分：実験書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習60分：実験結果より実験報告書をまとめる。また理解できなかった内容について調べる。
第12回	カルシウムの定量	Caはシュウ酸と反応し、難水溶性のシュウ酸Caの沈殿を生じる。過剰なシュウ酸を除いた後、硫酸でシュウ酸とCaに分解し、このシュウ酸を過マンガン酸カリウムで滴定することによりCa含量を求める。（過マンガン酸カリウム滴定法）	予習60分：実験書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習60分：実験結果より実験報告書をまとめる。また理解できなかった内容について調べ

			る。
第13回	ケン化価・ヨウ素価の測定	数種の未知油脂を用いて、ケン化価およびヨウ素価を測定し、どのような油脂であるかを調べる。	予習60分：実験書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習60分：実験結果より実験報告書をまとめる。また理解できなかった内容について調べる。
第14回	酸化・過酸化物価の測定・小テスト②	保存状態の異なる数種の油脂を用いて、酸価および過酸化物価を測定することにより、油脂の劣化状態を調べる。	予習60分：実験書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習60分：実験結果より実験報告書をまとめる。また理解できなかった内容について調べる。
第15回	果実の香りの実験	数種のカルボン酸およびアルコールを用いて果実の香りを合成し、どの果物のものかを判別する。	予習60分：実験書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習60分：実験結果より実験報告書をまとめる。また理解できなかった内容について調べる。

教科書

「桐生大学 食品学実験書（第12版）」

参考書

実験毎に補足プリントを配布する。

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上 授業内確認テスト（2回）50%、実験報告書（レポート） 50%を総合して評価する。

課題等に対する
フィードバックの方法

実験毎に実験報告書を作成・提出を義務付けている。報告書の内容（特に考察・まとめ）により成績が左右するため、よく調べて自分なりの考えなどをまとめること。

履修のポイント

原則としてグループ実験を行う。初めに実験の内容や原理等について説明するのでよく理解してから積極的な態度で実験に取り組んでほしい。また、実験報告書は期限を守って必ず提出すること。

オフィス・アワー

授業内容等の質問については、授業終了後、または月～金曜日のお昼休みに11号館3F研究室13で受け付ける。

講義コード	20570002
講義名	食品学実験Ⅰ（Bクラス）
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期
講義区分	実験・実習
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	１時限
区分	専門基礎科目
必修/選択	必修
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UE-R126
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 荒井 勝己	指定なし

授業の概要と教育目標

食品の性質を科学的・栄養学的に理解する場合、その食品に含まれる成分含量を知ることが重要となる。私たちが日ごろ食べている食品の成分値は日本食品成分表により知ることができるが、本実験では食品成分表に記載されている栄養成分（水分、たんぱく質、脂質、糖質、灰分など）を中心に定量分析を行い、食品成分表に関する基礎知識と実験技術を習得することを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマポリシーとの関連として、「２．人間の健康を規定する要因として幅広く社会・環境を科学的に理解し、さらに健康の維持・増進プログラムを実践するために必要な人体の構造並びに疾病の成り立ちから食べ物と健康の知識や技能を修得している。」に基づき、“食品学”の講義で学んだ内容について、実験を通じて検証することで、さらに深く内容を理解し、管理栄養士として第一歩を踏み出す際の、基本的知識の構築を目指す。

到達目標

各実験を通じて得た体験から、食品学で学んだ食品に関する知識をさらに深めるとともに“食品とは何か”を知ることを目標とする。また、実験結果を実験報告書に的確にまとめ、表現できる力を身につける。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	授業ガイダンス	実験を行うための諸注意、実験器具説明、レポートの書き方など 実験を行うにあたって必要な内容を問う小テストを実施し、その内容に基づいて実験の重要性や危険性などについて説明する。	予習60分：実験書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習60分：実験結果より実験報告書をまとめる。また理解できなかった内容について調べ

			る。
第2回	水分の定量・粗灰分の定量	常圧加熱乾燥法により、食品中の水分含量を求める。直接灰化法により、食品中の粗灰分含量を求める。 【アクティブラーニング】実験終了後、得られた結果から、どのようなことが推測あるいは判別・判定できるか、実験班毎に発表してもらい、ディスカッションする（第2回～第15回すべてで実施）	予習60分：実験書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習60分：実験結果より実験報告書をまとめる。また理解できなかった内容について調べる。
第3回	糖の定性試験	数種の糖類未知試料を用い、いかなる糖であるかを分析（同定）するとともに糖の化学的性質を理解する。	予習60分：実験書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習60分：実験結果より実験報告書をまとめる。また理解できなかった内容について調べる。
第4回	たんぱく質・アミノ酸の定性試験	数種のたんぱく質、アミノ酸を含む未知試料に呈色試験を行い、いかなる化合物であるかを分析（同定）するとともにアミノ酸の化学的性質を理解する。	予習60分：実験書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習60分：実験結果より実験報告書をまとめる。また理解できなかった内容について調べる。
第5回	滴定用標準溶液の調整Ⅰ	粗たんぱく質の定量等で使用する0.1N NaOH溶液を調整する。	予習60分：実験書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習60分：実験結果より実験報告書をまとめる。また理解できなかった内容について調べる。
第6回	粗たんぱく質の定量Ⅰ・滴定用標準溶液の調整Ⅱ	ケルダール窒素定量法により、食品中の窒素量を測定し、得られた値から粗たんぱく質含量を算出する（蒸留過程）。調整した0.1N NaOHを用いて0.1N 硫酸溶液を調整する。	予習60分：実験書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習60分：実験結果より実験報告書をまとめる。また理解できなかった内容について調べる。
	粗たんぱ	ケルダール窒素定量法により、食品中の窒素量を	予習60分：実験書を読み、わからない単語や内容について調べる。

第7回	く質の定量Ⅱ	測定し、得られた値から粗たんぱく質含量を算出する（分解過程→滴定）。	復習60分：実験結果より実験報告書をまとめる。また理解できなかった内容について調べる。
第8回	粗脂肪の定量・小テスト①	エーテル抽出法により、食品中の粗脂肪含量を求める。	予習60分：実験書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習60分：実験結果より実験報告書をまとめる。また理解できなかった内容について調べる。
第9回	粗繊維の定量Ⅰ	粗繊維の希酸・希アルカリ・アルコール・エーテルに不溶である性質を利用して、食品中の粗繊維含量を求める（ヘンネベルグ・ストーマン改良法）。	予習60分：実験書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習60分：実験結果より実験報告書をまとめる。また理解できなかった内容について調べる。
第10回	粗繊維の定量Ⅱ・還元糖の定量	アルカリ性でヨウ素は還元糖により還元されヨウ素イオンとなる。残存するヨウ素量を濃度既知のチオ硫酸ナトリウムで滴定することによって還元糖により消費されたﾖｳ素量、すなわち還元糖の量を求める（ウィルシュテッター・シューデル法）。	予習60分：実験書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習60分：実験結果より実験報告書をまとめる。また理解できなかった内容について調べる。
第11回	還元型ビタミンCの定量	アスコルビン酸（ビタミンC）にジクロロフェノールインドフェノール色素溶液を作用させると、アスコルビン酸の還元力で色素が還元される。色素溶液にｱｽｺﾙﾋﾞﾝ酸を滴下し、その紅点の消失する点を求めて定量する（インドフェノール法）。	予習60分：実験書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習60分：実験結果より実験報告書をまとめる。また理解できなかった内容について調べる。
第12回	カルシウムの定量	Caはシュウ酸と反応し、難水溶性のシュウ酸Caの沈殿を生じる。過剰なシュウ酸を除いた後、硫酸でシュウ酸とCaに分解し、このシュウ酸を過マンガン酸カリウムで滴定することによりCa含量を求める。（過マンガン酸カリウム滴定法）	予習60分：実験書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習60分：実験結果より実験報告書をまとめる。また理解できなかった内容について調べ

			る。
第13回	ケン化価・ヨウ素価の測定	数種の未知油脂を用いて、ケン化価およびヨウ素価を測定し、どのような油脂であるかを調べる。	予習60分：実験書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習60分：実験結果より実験報告書をまとめる。また理解できなかった内容について調べる。
第14回	酸化・過酸化物価の測定・小テスト②	保存状態の異なる数種の油脂を用いて、酸価および過酸化物価を測定することにより、油脂の劣化状態を調べる。	予習60分：実験書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習60分：実験結果より実験報告書をまとめる。また理解できなかった内容について調べる。
第15回	果実の香りの実験	数種のカルボン酸およびアルコールを用いて果実の香りを合成し、どの果物のものかを判別する。	予習60分：実験書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習60分：実験結果より実験報告書をまとめる。また理解できなかった内容について調べる。

教科書

「桐生大学 食品学実験書（第12版）」

参考書

実験毎に補足プリントを配布する。

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上 授業内確認テスト（2回）50%、実験報告書（レポート） 50%を総合して評価する。

課題等に対する
フィードバックの方法

実験毎に実験報告書を作成・提出を義務付けている。報告書の内容（特に考察・まとめ）により成績が左右するため、よく調べて自分なりの考えなどをまとめること。

履修のポイント

原則としてグループ実験を行う。初めに実験の内容や原理等について説明するのでよく理解してから積極的な態度で実験に取り組んでほしい。また、実験報告書は期限を守って必ず提出すること。

オフィス・アワー

授業内容等の質問については、授業終了後、または月～金曜日のお昼休みに11号館3F研究室13で受け付ける。

講義コード	20580001
講義名	食品学実験Ⅱ（Aクラス）
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	前期（重複②）
講義区分	実験・実習
基準単位数	1
代表曜日	木曜日
代表時限	３時限
区分	専門基礎科目
必修/選択	必修
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UE-R134
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 荒井 勝己	指定なし

授業の概要と教育目標

植物性食品や動物性食品、微生物利用食品などの性状に関する知識を修得するために、食品原料及び加工食品の品質判別に関する実験を行う。また食品学の講義で得た知識について、さらに理解を深めるために、食品の加工・製造に関する実験を行い、食品の保存の原理や加工食品の製造原理を学習するとともに、製造技術を習得することを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマポリシーとの関連として、「２．人間の健康を規定する要因として幅広く社会・環境を科学的に理解し、さらに健康の維持・増進プログラムを実践するために必要な人体の構造並びに疾病の成り立ちから食べ物と健康の知識や技能を修得している。」に基づき、“食品学”の講義で学んだ内容について、実験を通じて検証することで、さらに深く内容を理解し、管理栄養士として第一歩を踏み出す際の、基本的知識の構築を目指す。

到達目標

実験を通じて得た体験から、食品学で学んだ食品に関する知識をさらに深めるとともに“食品とは何か”を知ることを目標とする。また、実験結果を実験報告書に的確にまとめ、表現できる力を身につける。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	ガイダンス・滴定用標準溶液の調整	実験を行うための諸注意、0.1N NaOH標準溶液の調整など 実験を行うにあたって必要な内容を問う小テストを実施し、その内容に基づいて実験の重要性や危険性などについて説明する。	予習60分：実験書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習60分：実験結果より実験報告書をまとめる。また理解できなかった内容について調べる。
		米の種別、鮮度、搗精度合いの違いを、試薬による呈色を用いて判定する。	予習60分：実験書を読み、わからない単語や

第2回	米の品質判定	【アクティブラーニング】実験終了後、得られた結果から、どのようなことが推測あるいは判別・判定できるか、実験班毎に発表してもらい、ディスカッションする（第2回～第15回すべてで実施）	内容について調べる。復習60分：実験結果より実験報告書をまとめる。また理解できなかった内容について調べる。
第3回	小麦粉の品質判定	小麦粉のたんぱく質含量による品質比較及び、グルテンの形成と添加物の影響を観察する。	予習60分：実験書を読み、わからない単語や内容について調べる。復習60分：実験結果より実験報告書をまとめる。また理解できなかった内容について調べる。
第4回	卵の凝固試験	各要因によっておきる卵たんぱく質の凝固・沈殿反応を試薬による呈色反応で確認する。また、全卵の熱凝固性について温度の影響と変化を観察する。	予習60分：実験書を読み、わからない単語や内容について調べる。復習60分：実験結果より実験報告書をまとめる。また理解できなかった内容について調べる。
第5回	豆乳の凝固試験	豆乳が凝固剤（塩化マグネシウム及び他の塩類）によりどのような凝固の状態を示すか、また、塩の濃度や温度条件の変化でどのような状態を示すかを観察する。	予習60分：実験書を読み、わからない単語や内容について調べる。復習60分：実験結果より実験報告書をまとめる。また理解できなかった内容について調べる。
第6回	寒天・ゼラチンの凝固試験	パイナップル（ブロメリン）とキウイフルーツ（アクチニジン）に含まれるたんぱく質分解酵素の働きを、寒天とゼラチンを基質とした凝固試験で観察する。	予習60分：実験書を読み、わからない単語や内容について調べる。復習60分：実験結果より実験報告書をまとめる。また理解できなかった内容について調べる。
第7回	ヨーグルトの酸度測定	ヨーグルトの酸度を中和滴定を用いて測定する。その結果をふまえて、糖分含量による酸度への影響をみる。	予習60分：実験書を読み、わからない単語や内容について調べる。復習60分：実験結果より実験報告書をまとめる。また理解できなかった内容について調べる。
第8回	食品中の有機酸の定量	食酢の主成分は酢酸、リンゴジュース中の主成分はリンゴ酸である。中和滴定により、これらの酸を有機酸として定量し、重量%濃度に換算する。	予習60分：実験書を読み、わからない単語や内容について調べる。復習60分：実験結果より実験報告書をまとめる。また理解できなかった内容について調べる。
			予習60分：実験書を読

第9回	しょうゆ・みその塩分含量	各種しょうゆ・みそを試料とし、沈殿滴定法（モール法）を用いて試料中の塩分含量を定量する。	み、わからない単語や内容について調べる。復習60分：実験結果より実験報告書をまとめる。また理解できなかった内容について調べる。
第10回	乳脂肪の定量	乳等省令における公定法であるゲルベル乳脂計を用いて乳脂肪を求める。	予習60分：実験書を読み、わからない単語や内容について調べる。復習60分：実験結果より実験報告書をまとめる。また理解できなかった内容について調べる。
第11回	食品の褐変反応試験	褐変反応のﾒｶﾆｽﾞﾑを、酵素的なもの（ポリフェノールオキシダーゼによる着色物質の生成）と、非酵素的なものアミノ・カルボニル反応、糖のカラメル化など）に大別し、それぞれの反応を観察する。	予習60分：実験書を読み、わからない単語や内容について調べる。復習60分：実験結果より実験報告書をまとめる。また理解できなかった内容について調べる。
第12回	緑茶飲料中のポリフェノールの定量	市販の緑茶飲料に含まれるポリフェノール量を酒石酸鉄吸光光度法により定量する。	予習60分：実験書を読み、わからない単語や内容について調べる。復習60分：実験結果より実験報告書をまとめる。また理解できなかった内容について調べる。
第13回	マヨネーズの製造	材料や製造工程を変えることで、マヨネーズの乳化の状態がどのようになるかを調べる。	予習60分：実験書を読み、わからない単語や内容について調べる。復習60分：実験結果より実験報告書をまとめる。また理解できなかった内容について調べる。
第14回	官能検査Ⅰ	基本味（五味）の識別試験、2点識別試験、2点嗜好試験	予習60分：実験書を読み、わからない単語や内容について調べる。復習60分：実験結果より実験報告書をまとめる。また理解できなかった内容について調べる。
第15回	官能検査Ⅱ	3点識別試験、3点嗜好試験、順位法	予習60分：実験書を読み、わからない単語や内容について調べる。復習60分：実験結果より実験報告書をまとめる。また理解できなかった内容について調べる。

教科書
「桐生大学 食品学実験書（第11版）」
参考書
実験毎に補足プリントを配布する。
成績評価の方法・基準
単位認定60点以上 授業内確認テスト（2回）50%、実験報告書（レポート） 50%を総合して評価する。
課題等に対する フィードバックの方法
実験毎に実験報告書を作成・提出を義務付けている。報告書の内容（特に考察・まとめ）により成績が左右するため、よく調べて自分なりの考えなどをまとめること。
履修のポイント
原則としてグループ実験を行う。初めに実験の内容や原理等について説明するのでよく理解してから積極的な態度で実験に取り組んでほしい。また、実験報告書は期限を守って必ず提出すること。
オフィス・アワー
授業内容等の質問については、授業終了後、または月～金曜日のお昼休みに11号館3F研究室13で受け付ける。

講義コード	20580002
講義名	食品学実験Ⅱ（Bクラス）
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	前期（重複①）
講義区分	実験・実習
基準単位数	1
代表曜日	木曜日
代表時限	３時限
区分	専門基礎科目
必修/選択	必修
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UE-R134
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 荒井 勝己	指定なし

授業の概要と教育目標

植物性食品や動物性食品、微生物利用食品などの性状に関する知識を修得するために、食品原料及び加工食品の品質判別に関する実験を行う。また食品学の講義で得た知識について、さらに理解を深めるために、食品の加工・製造に関する実験を行い、食品の保存の原理や加工食品の製造原理を学習するとともに、製造技術を習得することを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマポリシーとの関連として、「２．人間の健康を規定する要因として幅広く社会・環境を科学的に理解し、さらに健康の維持・増進プログラムを実践するために必要な人体の構造並びに疾病の成り立ちから食べ物と健康の知識や技能を修得している。」に基づき、“食品学”の講義で学んだ内容について、実験を通じて検証することで、さらに深く内容を理解し、管理栄養士として第一歩を踏み出す際の、基本的知識の構築を目指す。

到達目標

実験を通じて得た体験から、食品学で学んだ食品に関する知識をさらに深めるとともに“食品とは何か”を知ることを目標とする。また、実験結果を実験報告書に的確にまとめ、表現できる力を身につける。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	ガイダンス・滴定用標準溶液の調整	実験を行うための諸注意、0.1N NaOH標準溶液の調整など 実験を行うにあたって必要な内容を問う小テストを実施し、その内容に基づいて実験の重要性や危険性などについて説明する。	予習60分：実験書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習60分：実験結果より実験報告書をまとめる。また理解できなかった内容について調べる。
		米の種別、鮮度、搗精度合いの違いを、試薬による呈色を用いて判定する。	予習60分：実験書を読み、わからない単語や

第2回	米の品質判定	【アクティブラーニング】実験終了後、得られた結果から、どのようなことが推測あるいは判別・判定できるか、実験班毎に発表してもらい、ディスカッションする（第2回～第15回すべてで実施）	内容について調べる。復習60分：実験結果より実験報告書をまとめる。また理解できなかった内容について調べる。
第3回	小麦粉の品質判定	小麦粉のたんぱく質含量による品質比較及び、グルテンの形成と添加物の影響を観察する。	予習60分：実験書を読み、わからない単語や内容について調べる。復習60分：実験結果より実験報告書をまとめる。また理解できなかった内容について調べる。
第4回	卵の凝固試験	各要因によっておきる卵たんぱく質の凝固・沈殿反応を試薬による呈色反応で確認する。また、全卵の熱凝固性について温度の影響と変化を観察する。	予習60分：実験書を読み、わからない単語や内容について調べる。復習60分：実験結果より実験報告書をまとめる。また理解できなかった内容について調べる。
第5回	豆乳の凝固試験	豆乳が凝固剤（塩化マグネシウム及び他の塩類）によりどのような凝固の状態を示すか、また、塩の濃度や温度条件の変化でどのような状態を示すかを観察する。	予習60分：実験書を読み、わからない単語や内容について調べる。復習60分：実験結果より実験報告書をまとめる。また理解できなかった内容について調べる。
第6回	寒天・ゼラチンの凝固試験	パイナップル（ブロメリン）とキウイフルーツ（アクチニジン）に含まれるたんぱく質分解酵素の働きを、寒天とゼラチンを基質とした凝固試験で観察する。	予習60分：実験書を読み、わからない単語や内容について調べる。復習60分：実験結果より実験報告書をまとめる。また理解できなかった内容について調べる。
第7回	ヨーグルトの酸度測定	ヨーグルトの酸度を中和滴定を用いて測定する。その結果をふまえて、糖分含量による酸度への影響をみる。	予習60分：実験書を読み、わからない単語や内容について調べる。復習60分：実験結果より実験報告書をまとめる。また理解できなかった内容について調べる。
第8回	食品中の有機酸の定量	食酢の主成分は酢酸、リンゴジュース中の主成分はリンゴ酸である。中和滴定により、これらの酸を有機酸として定量し、重量%濃度に換算する。	予習60分：実験書を読み、わからない単語や内容について調べる。復習60分：実験結果より実験報告書をまとめる。また理解できなかった内容について調べる。
			予習60分：実験書を読

第9回	しょうゆ・みその塩分含量	各種しょうゆ・みそを試料とし、沈殿滴定法（モール法）を用いて試料中の塩分含量を定量する。	み、わからない単語や内容について調べる。復習60分：実験結果より実験報告書をまとめる。また理解できなかった内容について調べる。
第10回	乳脂肪の定量	乳等省令における公定法であるゲルベル乳脂計を用いて乳脂肪を求める。	予習60分：実験書を読み、わからない単語や内容について調べる。復習60分：実験結果より実験報告書をまとめる。また理解できなかった内容について調べる。
第11回	食品の褐変反応試験	褐変反応のﾒｶﾆｽﾞﾑを、酵素的なもの（ポリフェノールオキシダーゼによる着色物質の生成）と、非酵素的なものアミノ・カルボニル反応、糖のカラメル化など）に大別し、それぞれの反応を観察する。	予習60分：実験書を読み、わからない単語や内容について調べる。復習60分：実験結果より実験報告書をまとめる。また理解できなかった内容について調べる。
第12回	緑茶飲料中のポリフェノールの定量	市販の緑茶飲料に含まれるポリフェノール量を酒石酸鉄吸光光度法により定量する。	予習60分：実験書を読み、わからない単語や内容について調べる。復習60分：実験結果より実験報告書をまとめる。また理解できなかった内容について調べる。
第13回	マヨネーズの製造	材料や製造工程を変えることで、マヨネーズの乳化の状態がどのようになるかを調べる。	予習60分：実験書を読み、わからない単語や内容について調べる。復習60分：実験結果より実験報告書をまとめる。また理解できなかった内容について調べる。
第14回	官能検査Ⅰ	基本味（五味）の識別試験、2点識別試験、2点嗜好試験	予習60分：実験書を読み、わからない単語や内容について調べる。復習60分：実験結果より実験報告書をまとめる。また理解できなかった内容について調べる。
第15回	官能検査Ⅱ	3点識別試験、3点嗜好試験、順位法	予習60分：実験書を読み、わからない単語や内容について調べる。復習60分：実験結果より実験報告書をまとめる。また理解できなかった内容について調べる。

教科書
「桐生大学 食品学実験書（第11版）」
参考書
実験毎に補足プリントを配布する。
成績評価の方法・基準
単位認定60点以上 授業内確認テスト（2回）50%、実験報告書（レポート） 50%を総合して評価する。
課題等に対する フィードバックの方法
実験毎に実験報告書を作成・提出を義務付けている。報告書の内容（特に考察・まとめ）により成績が左右するため、よく調べて自分なりの考えなどをまとめること。
履修のポイント
原則としてグループ実験を行う。初めに実験の内容や原理等について説明するのでよく理解してから積極的な態度で実験に取り組んでほしい。また、実験報告書は期限を守って必ず提出すること。
オフィス・アワー
授業内容等の質問については、授業終了後、または月～金曜日のお昼休みに11号館3F研究室13で受け付ける。

講義コード	20590001
講義名	食品衛生学
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	２時限
区分	専門基礎科目
必修/選択	必修
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UE-R135
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教 員	◎ 小山 孝	指定なし

授業の概要と教育目標

人は生きていくために食品を摂取しなければならない。また、食品を摂取し人が健康であり続けるためには、第一に安全でなければならない。食品衛生学では、食品の生産から流通、加工、そして消費に至る一連の過程において、安全な食品を得るための関係法規、そして食品の規格・基準、危害要因などを学修する。これにより、安全な食品を得るための基礎を学修するとともに、食品による健康被害を未然に防ぐための知識を習得することが主たる教育目的である。

卒業認定・学位授与の方針との関連

食品衛生の学習をとおして、安全な食物を摂取し健康を維持するために必要となる基礎知識を理解し習得していること。

到達目標

食品衛生学では、食品衛生に関連する法規を始め、食中毒、食品媒介感染症、寄生虫、添加物、残留農薬、有害物質、遺伝子組み換え食品、食品製造工程の衛生管理、食品表示等を学修することにより、食品の安全性を確保するために必要な基礎知識を習得することを到達目標とする。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	食品衛生と法規	食品衛生の概要、関連法規、食品安全基本法と食品衛生法、その他関連する法規	予習40分：教科書、復習40分：教科書、ノート
第2回	食品衛生関連組織	食品安全委員会、厚生労働省、地方自治体の役割、国際的な関連組織	予習40分：教科書、復習40分：教科書、ノート
第3回	食品の変質	変質の定義、微生物による変質、鮮度・腐敗度の判定法	予習40分：教科書、復習40分：教科書、ノート
第4回	食品の	化学的変質、酸敗の判定法、変質により生じる有害	予習40分：教科書、復習40分：教

	変質②	物質、変質の防止法	科書、ノート
第5回	食中毒	食中毒の定義、食中毒の分類・発生状況（月別・病因物質別・原因施設別・原因食品別発生状況）	予習40分：教科書、復習40分：教科書、ノート
第6回	食中毒②	細菌性感染型・毒素型食中毒、ウイルス性食中毒	予習40分：教科書、復習40分：教科書、ノート
第7回	食中毒③	人獣共通感染症、食品と寄生虫疾患、化学物質による食中毒	予習40分：教科書、復習40分：教科書、ノート
第8回	食中毒④	動物性・植物性自然毒による食中毒、食中毒の原因調査と統計的手法	予習40分：教科書、復習40分：教科書、ノート
第9回	食品中の汚染物質	カビ毒、化学物質、有害元素	予習40分：教科書、復習40分：教科書、ノート
第10回	食品中の汚染物質②	放射性物質、異物混入、フードディフェンス	予習40分：教科書、復習40分：教科書、ノート
第11回	食品添加物	添加物の定義、添加物の安全性評価、添加物の分類	予習40分：教科書、復習40分：教科書、ノート
第12回	食品添加物②	残留農薬・動物医薬品、ポジティブリスト制度、器具・容器包装の規格基準、遺伝子組み換え食品	予習40分：教科書、復習40分：教科書、ノート
第13回	食品衛生管理	食品衛生管理の概要、食品工場等の一般衛生管理、HACCPによる衛生管理、集団給食施設等における衛生管理、国際標準化機構（ISO)	予習40分：教科書、復習40分：教科書、ノート
第14回	食品表示制度	食品表示法の概要、栄養成分表示、保健機能食品	予習40分：教科書、復習40分：教科書、ノート
第15回	講義のまとめ	学期末試験、解答と解説	予習120分：教科書、復習40分：教科書、資料

教科書

食品衛生学 田﨑達明ほか 羊土社

参考書

食品の安全 有薗幸司ほか 南江堂、食品衛生学 一戸正勝ほか 講談社

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上。学期末試験100%で評価する。

課題等に対する
フィードバックの方法

課題提出の都度、及び講義のまとめで講評する。

履修のポイント

教科書、参考書により予習する。講義終了後はノートを活用し理解を深めるとともに不明な点があればそのままにせず調べること。

オフィス・アワー

火曜日、12:30～15:00、講義終了後。

講義コード	20600001
講義名	食品衛生学実験（Aクラス）
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期
講義区分	実験・実習
基準単位数	1
代表曜日	火曜日
代表時限	３時限
区分	専門基礎科目
必修/選択	必修
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UE-R142
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教 員	◎ 小山 孝	指定なし

授業の概要と教育目標

食品を摂取し人が健康であり続けるためには、第一に安全でなければならない。食品衛生学では、食品の生産から流通、加工、そして消費に至る一連の過程において安全な食品を得るための関係法規、そして食品の規格・基準、危害要因などを学修した。そこで、食品衛生学実験では、科学的な手法を用い、講義で学んだ安全性確保のための食品の規格基準等について確認するとともに、各検査法の原理を理解し習得することが教育目標となる。

卒業認定・学位授与の方針との関連

食品衛生の学習をとおして、安全な食物を摂取し健康を維持するために必要となる基礎知識を理解し習得していること。

到達目標

食品衛生学実験をとおして、食品の安全性を確保するために必要となる食品衛生検査の基礎を学修するとともに、食品の規格基準等を科学的視点をもって評価できることを目標とする。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	食品衛生の分析化学実験の基礎	食品衛生学の分析化学の基礎を学ぶ：使用する薬品・器具・測定機器、試薬の調整、試料のサンプリング、レポートの書き方、小テスト	予習40分：教科書、復習40分：配布資料
第2回	飲料水の硬度測定、残留塩素濃度測定	清涼飲料水中の硬度を滴定法により測定する。DPD法により水道水中の遊離型・結合型残留塩素を測定する。	予習40分：教科書、課題：レポートにまとめる
第3回	分光光度計の応用の基礎	分光光度計の原理（Lambert-Beerの法則）を理解する。メチレンブルーの未知濃度試料を測定をする。	予習40分：教科書、課題：レポートにまとめる

第4回	未知試料の同定	アミノ酸、タンパク質、糖質について7種類の化学反応を利用し、6種類の未知試料を同定する。	予習40分：教科書、課題：レポートにまとめる
第5回	食品添加物着色料の測定	食品中に添加された着色料を抽出し、TLC（薄層クロマトグラフィー）法により定性試験を行う。	予習40分：教科書、課題：レポートにまとめる
第6回	食品添加物発色剤の測定	食肉製品中に添加された発色剤（亜硝酸根）を、ジアゾ化法により定量試験を行う。	予習40分：教科書、課題：レポートにまとめる
第7回	油脂の変敗の測定	各種の油脂を用い、滴定法により遊離脂肪酸濃度（酸価）の定量試験を行う。	予習40分：教科書、課題：レポートにまとめる
第8回	食品添加物漂白剤の測定	食品中に添加された漂白剤（亜硫酸）をヨウ素酸カリウム・でんぷん紙を用いて定性試験を行う。	予習40分：教科書、課題：レポートにまとめる
第9回	食品衛生の微生物実験の基礎、培地の作成	食品衛生学の微生物等の基礎を学ぶ、：使用する培地・薬品・器具・機器、試料のサンプリング、微生物の形態と性質、レポートの書き方、培地の作成、小テスト	予習40分：教科書、復習40分：配布資料
第10回	細菌数測定：ふき取り検査	・施設、器具等のふき取り検査による細菌数測定の前処理を行う。 ・次回実験の準備（培地作成）	予習40分：教科書、課題：レポートにまとめる
第11回	落下細菌・真菌の分離、手指からの細菌分離	・前回実験の細菌数の測定 ・落下細菌の測定、手指洗浄消毒の効果判定の前処理を行う。 ・次回実験の準備（培地作成）	予習40分：教科書、課題：レポートにまとめる
第12回	グラム染色による細菌・真菌の形態観察	・前回実験の細菌数の測定 ・グラム染色による細菌の染色、及び真菌の顕微鏡による形態観察 ・次回実験の準備（培地作成）	予習40分：教科書、課題：レポートにまとめる
第13回	食品からの細菌数、大腸菌群の測定	市販食品からの一般細菌数、及び大腸菌群の測定	予習40分：教科書、課題：レポートにまとめる
第14回	鮮魚介類からの寄生虫の分離、形態観察	市販の鮮魚介類からの寄生虫の分離、及び形態観察	予習40分：教科書、課題：レポートにまとめる
第15回	食器の残留物検査	食器の残留物を測定することにより各種洗浄効果を確認する。	予習40分：教科書、課題：レポートにまとめる

教科書

食品・環境の衛生検査 桑原祥浩ほか 朝倉書店

参考書

食品安全・衛生学実験 岡崎眞ほか 講談社ｻｲｴﾝﾃｨﾌｨｯｸ
成績評価の方法・基準
単位認定60点以上。実験レポート80%、実験への積極的参加20%を総合して評価
課題等に対する フィードバックの方法
各実験終了後、レポートを期限までに提出すること。レポート内容については必要の都度、講評を行うのでレポートの構成に生かすこと。
履修のポイント
分析化学、微生物実験の基礎を理解し、積極的に実験に取り組むこと。
オフィス・アワー
火曜日、12:30〜15:00、講義、実験終了後。

講義コード	20600002
講義名	食品衛生学実験（Bクラス）
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期
講義区分	実験・実習
基準単位数	1
代表曜日	火曜日
代表時限	３時限
区分	専門基礎科目
必修/選択	必修
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UE-R142
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教 員	◎ 小山 孝	指定なし

授業の概要と教育目標

食品を摂取し人が健康であり続けるためには、第一に安全でなければならない。食品衛生学では、食品の生産から流通、加工、そして消費に至る一連の過程において安全な食品を得るための関係法規、そして食品の規格・基準、危害要因などを学修した。そこで、食品衛生学実験では、科学的な手法を用い、講義で学んだ安全性確保のための食品の規格基準等について確認するとともに、各検査法の原理を理解し習得することが教育目標となる。

卒業認定・学位授与の方針との関連

食品衛生の学習をとおして、安全な食物を摂取し健康を維持するために必要となる基礎知識を理解し習得していること。

到達目標

食品衛生学実験をとおして、食品の安全性を確保するために必要となる食品衛生検査の基礎を学修するとともに、食品の規格基準等を科学的視点をもって評価できることを目標とする。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	食品衛生の分析化学実験の基礎	食品衛生学の分析化学の基礎を学ぶ：使用する薬品・器具・測定機器、試薬の調整、試料のサンプリング、レポートの書き方、小テスト	予習40分：教科書、復習40分：配布資料
第2回	飲料水の硬度測定、残留塩素濃度測定	清涼飲料水中の硬度を滴定法により測定する。DPD法により水道水中の遊離型・結合型残留塩素を測定する。	予習40分：教科書、課題：レポートにまとめる
第3回	分光光度計の応用の基礎	分光光度計の原理（Lambert-Beerの法則）を理解する。メチレンブルーの未知濃度試料を測定をする。	予習40分：教科書、課題：レポートにまとめる

第4回	未知試料の同定	アミノ酸、タンパク質、糖質について7種類の化学反応を利用し、6種類の未知試料を同定する。	予習40分：教科書、課題：レポートにまとめる
第5回	食品添加物着色料の測定	食品中に添加された着色料を抽出し、TLC（薄層クロマトグラフィー）法により定性試験を行う。	予習40分：教科書、課題：レポートにまとめる
第6回	食品添加物発色剤の測定	食肉製品中に添加された発色剤（亜硝酸根）を、ジアゾ化法により定量試験を行う。	予習40分：教科書、課題：レポートにまとめる
第7回	油脂の変敗の測定	各種の油脂を用い、滴定法により遊離脂肪酸濃度（酸価）の定量試験を行う。	予習40分：教科書、課題：レポートにまとめる
第8回	食品添加物漂白剤の測定	食品中に添加された漂白剤（亜硫酸）をヨウ素酸カリウム・でんぷん紙を用いて定性試験を行う。	予習40分：教科書、課題：レポートにまとめる
第9回	食品衛生の微生物実験の基礎、培地の作成	食品衛生学の微生物等の基礎を学ぶ、：使用する培地・薬品・器具・機器、試料のサンプリング、微生物の形態と性質、レポートの書き方、培地の作成、小テスト	予習40分：教科書、復習40分：配布資料
第10回	細菌数測定：ふき取り検査	・施設、器具等のふき取り検査による細菌数測定の前処理を行う。 ・次回実験の準備（培地作成）	予習40分：教科書、課題：レポートにまとめる
第11回	落下細菌・真菌の分離、手指からの細菌分離	・前回実験の細菌数の測定 ・落下細菌の測定、手指洗浄消毒の効果判定の前処理を行う。 ・次回実験の準備（培地作成）	予習40分：教科書、課題：レポートにまとめる
第12回	グラム染色による細菌・真菌の形態観察	・前回実験の細菌数の測定 ・グラム染色による細菌の染色、及び真菌の顕微鏡による形態観察 ・次回実験の準備（培地作成）	予習40分：教科書、課題：レポートにまとめる
第13回	食品からの細菌数、大腸菌群の測定	市販食品からの一般細菌数、及び大腸菌群の測定	予習40分：教科書、課題：レポートにまとめる
第14回	鮮魚介類からの寄生虫の分離、形態観察	市販の鮮魚介類からの寄生虫の分離、及び形態観察	予習40分：教科書、課題：レポートにまとめる
第15回	食器の残留物検査	食器の残留物を測定することにより各種洗浄効果を確認する。	予習40分：教科書、課題：レポートにまとめる

教科書

食品・環境の衛生検査 桑原祥浩ほか 朝倉書店

参考書

食品安全・衛生学実験 岡崎眞ほか 講談社ｻｲｴﾝﾃｨﾌｨｯｸ
成績評価の方法・基準
単位認定60点以上。実験レポート80%、実験への積極的参加20%を総合して評価
課題等に対する フィードバックの方法
各実験終了後、レポートを期限までに提出すること。レポート内容については必要の都度、講評を行うのでレポートの構成に生かすこと。
履修のポイント
分析化学、微生物実験の基礎を理解し、積極的に実験に取り組むこと。
オフィス・アワー
火曜日、12:30〜15:00、講義、実験終了後。

講義コード	20610001
講義名	食事設計計画実習（Aクラス）
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期
講義区分	実験・実習
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	４時限
区分	専門基礎科目
必修/選択	必修
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UE-R128
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 橘 陽子	指定なし
教員	神戸 美恵子	指定なし
教員	齋藤 陽子	指定なし

授業の概要と教育目標

「食事設計計画実習」は、専門基礎科目にあたる「食べ物と健康」分野における食品学及び調理学等と専門応用科目分野において、個人及び集団に対する食事設計に関する理論と技能を統合させ、実践する能力を養うための必修科目として開講する。なお、食事設計に関する基本的知識(食品に含まれる栄養素の体内での役割)及び食品成分表の注意点、献立作成の手順等を理解し、健康人を対象にした食事計画における献立マネジメントができる能力を修得することを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマ・ポリシーとの関連として、多様な対象に沿って、利用者の身体の状況、栄養状態、生活習慣に係る栄養・食事管理、栄養教育に関して必要な基礎的知識や技術を修得することを目指すものとする。

到達目標

1.食事設計に必要な指標として、日本人の食事摂取基準、食品成分表、食生活指針、食事バランスガイド等の概要及び活用方法を理解する。
2.食事計画に必要な基本的知識（食品の栄養と調理性、食事形態、調理形態、食文化、嗜好性）を踏まえた献立マネジメントができる。
3.食事設計におけるアセスメントを踏まえた、献立マネジメント（計画、実施、評価、修正）の仕方を説明することができる。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	ガイダンス	オリエンテーション 食事記録の概要説明 課題：授業のまとめワークシート、食事記録	復習270分：授業のまとめワークシート、各自の食事内容を記録する。

第2回	個人の食事設計（1） アセスメント①	自分の体位・生活を知る（身体計測、身体活動） 課題：授業のまとめワークシート、身体活動記録	予習60分：食事記録の確認と前回の復習を行う。 復習120分：授業のまとめワークシート、身体活動の記録、添削された食事記録の修正を行う。
第3回	個人の食事設計（2） アセスメント②	食事記録の整理、栄養計算の方法 課題：各自の食事記録の栄養計算合計値から栄養比率の計算を行う。	予習60分：栄養比率について教科書等で調べる。 復習60分：課題の計算を仕上げる。
第4回	個人の食事設計（3） 栄養計画①	栄養計算の確認、日本人の食事摂取基準（2020年版）の概要 課題：授業のまとめワークシート	予習60分：日本人の食事摂取基準（2020年版）の総論部分を読んでおく。 復習60分：総論部分を再度読み込み、栄養素に関する各種指標について理解する。
第5回	個人の食事設計（4） 栄養計画②	日本人の食事摂取基準（2020年版）の活用と評価方法（個人） 課題：各自の食事記録の結果を食事摂取基準にあてはめて評価する。	予習60分：日本人の食事摂取基準（2020年版）の活用に関する基本的事項の部分を読んでおく。 復習60分：課題の評価を仕上げる。
第6回	個人の食事設計（5） 食事計画①	献立作成理論と実際(献立とは、献立の考え方、献立の要件)、評価を踏まえた献立作成 課題：授業のまとめワークシート	予習60分：各自の食事記録の評価を確認する。 復習60分：授業のまとめワークシート
第7回	個人の食事設計（6） 食事計画②	献立作成演習（献立例、課題献立） 課題：授業のまとめワークシート、献立	予習60分：調理学実習の資料などを参考に料理の種類や一人分の重量を確認する。栄養計算の方法を復習する。 復習90分：授業のまとめワークシート、個人を対象とした献立を仕上げる。
第8回	個人の食事設計（7） アセスメント③	課題献立の振り返り 課題：授業のまとめワークシート、献立の修正	予習30分：各自で作成した献立を確認する。 復習60分：授業のまとめワークシート、添削された献立の修正を行う。
第9回	集団の食事設計（1） 栄養計画	日本人の食事摂取基準（2020年版）の活用と評価方法（集団） 課題：授業のまとめワークシート	予習60分：第5回の内容について復習する。 復習60分：授業のまとめワークシート
第10回	集団の食事設計（2） 食事計画①	集団を対象とした献立作成の考え方 課題：授業のまとめワークシート	予習60分：第6回の内容について復習する。 復習60分：授業のまとめワークシート
第11回	集団の食事設計（3） 食事計画②	集団を対象とした献立作成 課題：授業のまとめワークシート、献立	予習60分：第9、10回の内容について復習する。 復習90分：授業のまとめワークシート、集団を対象とした献立を仕上げる。
	集団の食事	集団を対象とした献立の評	予習30分：各自で作成した献立を確認する。

第12回	設計（4） 食事計画③	価・修正（グループワーク） 課題：授業のまとめワークシート	復習90分：授業のまとめワークシート、グループで選んだ献立の修正案を仕上げる。
第13回	プレゼンテーション（1）	プレゼンテーション（集団を対象とした献立）計画書の作成（グループワーク） 課題：授業のまとめワークシート	予習30分：献立修正案を確認する。 復習60分：授業のまとめワークシート、プレゼンテーション計画書を仕上げる。
第14回	プレゼンテーション（2）	プレゼンテーション（集団を対象とした献立）教材の作成（グループワーク） 課題：授業のまとめワークシート	予習60分：プレゼンテーションに必要な資料を収集し、教材案を考える。 復習60分：授業のまとめワークシート、教材を完成させる。
第15回	プレゼンテーション（3）	プレゼンテーション（集団を対象とした献立）とその評価（グループワーク）	予習60分：プレゼンテーションの準備をする。 復習120分：第1～15回の授業内容について復習する。

教科書

日本人の食事摂取基準（2020年版）、授業内で配布する学習ノート

参考書

日本食品標準成分表2015年版（七訂）、調理のためのベーシックデータ（第5版）

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上
定期試験70%、課題20%、授業への参加度10%で総合的に判断

課題等に対する
フィードバックの方法

提出された課題は、添削し返却します。再提出を求める場合もあります。
課題を共有し、授業内でディスカッションする場合もあります。

履修のポイント

授業内容に連続性があります。また、習得度に合わせた内容の変更もあるので欠席はしないこと。
予習復習の時間数：不足分については試験前の学習で補完すること。

オフィス・アワー

神戸：月曜日～金曜日 12:45～13:15 11号館3F 15研究室（神戸研究室）
橘 ：月曜日～金曜日 12:45～13:15 11号館2F 栄養教育準備室
齋藤：月曜日～金曜日 12:45～13:15 11号館3F 6研究室

講義コード	20610002
講義名	食事設計計画実習（Bクラス）
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期
講義区分	実験・実習
基準単位数	1
代表曜日	火曜日
代表時限	３時限
区分	専門基礎科目
必修/選択	必修
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UE-R128
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 橘 陽子	指定なし
教員	神戸 美恵子	指定なし
教員	齋藤 陽子	指定なし

授業の概要と教育目標

「食事設計計画実習」は、専門基礎科目にあたる「食べ物と健康」分野における食品学及び調理学等と専門応用科目分野において、個人及び集団に対する食事設計に関する理論と技能を統合させ、実践する能力を養うための必修科目として開講する。なお、食事設計に関する基本的知識(食品に含まれる栄養素の体内での役割)及び食品成分表の注意点、献立作成の手順等を理解し、健康人を対象にした食事計画における献立マネジメントができる能力を修得することを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマ・ポリシーとの関連として、多様な対象に沿って、利用者の身体の状況、栄養状態、生活習慣に係る栄養・食事管理、栄養教育に関して必要な基礎的知識や技術を修得することを目指すものとする。

到達目標

1.食事設計に必要な指標として、日本人の食事摂取基準、食品成分表、食生活指針、食事バランスガイド等の概要及び活用方法を理解する。
2.食事計画に必要な基本的知識（食品の栄養と調理性、食事形態、調理形態、食文化、嗜好性）を踏まえた献立マネジメントができる。
3.食事設計におけるアセスメントを踏まえた、献立マネジメント（計画、実施、評価、修正）の仕方を説明することができる。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	ガイダンス	オリエンテーション 食事記録の概要説明 課題：授業のまとめワークシート、食事記録	復習270分：授業のまとめワークシート、各自の食事内容を記録する。

第2回	個人の食事設計（1） アセスメント①	自分の体位・生活を知る（身体計測、身体活動） 課題：授業のまとめワークシート、身体活動記録	予習60分：食事記録の確認と前回の復習を行う。 復習120分：授業のまとめワークシート、身体活動の記録、添削された食事記録の修正を行う。
第3回	個人の食事設計（2） アセスメント②	食事記録の整理、栄養計算の方法 課題：各自の食事記録の栄養計算合計値から栄養比率の計算を行う。	予習60分：栄養比率について教科書等で調べる。 復習60分：課題の計算を仕上げる。
第4回	個人の食事設計（3） 栄養計画①	栄養計算の確認、日本人の食事摂取基準（2020年版）の概要 課題：授業のまとめワークシート	予習60分：日本人の食事摂取基準（2020年版）の総論部分を読んでおく。 復習60分：総論部分を再度読み込み、栄養素に関する各種指標について理解する。
第5回	個人の食事設計（4） 栄養計画②	日本人の食事摂取基準（2020年版）の活用と評価方法（個人） 課題：各自の食事記録の結果を食事摂取基準にあてはめて評価する。	予習60分：日本人の食事摂取基準（2020年版）の活用に関する基本的事項の部分を読んでおく。 復習60分：課題の評価を仕上げる。
第6回	個人の食事設計（5） 食事計画①	献立作成理論と実際(献立とは、献立の考え方、献立の要件)、評価を踏まえた献立作成 課題：授業のまとめワークシート	予習60分：各自の食事記録の評価を確認する。 復習60分：授業のまとめワークシート
第7回	個人の食事設計（6） 食事計画②	献立作成演習（献立例、課題献立） 課題：授業のまとめワークシート、献立	予習60分：調理学実習の資料などを参考に料理の種類や一人分の重量を確認する。栄養計算の方法を復習する。 復習90分：授業のまとめワークシート、個人を対象とした献立を仕上げる。
第8回	個人の食事設計（7） アセスメント③	課題献立の振り返り 課題：授業のまとめワークシート、献立の修正	予習30分：各自で作成した献立を確認する。 復習60分：授業のまとめワークシート、添削された献立の修正を行う。
第9回	集団の食事設計（1） 栄養計画	日本人の食事摂取基準（2020年版）の活用と評価方法（集団） 課題：授業のまとめワークシート	予習60分：第5回の内容について復習する。 復習60分：授業のまとめワークシート
第10回	集団の食事設計（2） 食事計画①	集団を対象とした献立作成の考え方 課題：授業のまとめワークシート	予習60分：第6回の内容について復習する。 復習60分：授業のまとめワークシート
第11回	集団の食事設計（3） 食事計画②	集団を対象とした献立作成 課題：授業のまとめワークシート、献立	予習60分：第9、10回の内容について復習する。 復習90分：授業のまとめワークシート、集団を対象とした献立を仕上げる。
	集団の食事	集団を対象とした献立の評	予習30分：各自で作成した献立を確認する。

第12回	設計（4） 食事計画③	価・修正（グループワーク） 課題：授業のまとめワークシート	復習90分：授業のまとめワークシート、グループで選んだ献立の修正案を仕上げる。
第13回	プレゼンテーション（1）	プレゼンテーション（集団を対象とした献立）計画書の作成（グループワーク） 課題：授業のまとめワークシート	予習30分：献立修正案を確認する。 復習60分：授業のまとめワークシート、プレゼンテーション計画書を仕上げる。
第14回	プレゼンテーション（2）	プレゼンテーション（集団を対象とした献立）教材の作成（グループワーク） 課題：授業のまとめワークシート	予習60分：プレゼンテーションに必要な資料を収集し、教材案を考える。 復習60分：授業のまとめワークシート、教材を完成させる。
第15回	プレゼンテーション（3）	プレゼンテーション（集団を対象とした献立）とその評価（グループワーク）	予習60分：プレゼンテーションの準備をする。 復習120分：第1～15回の授業内容について復習する。

教科書

日本人の食事摂取基準（2020年版）、授業内で配布する学習ノート

参考書

日本食品標準成分表2015年版（七訂）、調理のためのベーシックデータ（第5版）

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上。
定期試験70%、課題20%、授業への参加度10%で総合的に判断

課題等に対するフィードバックの方法

提出された課題は、添削し返却します。再提出を求める場合もあります。
課題を共有し、授業内でディスカッションする場合もあります。

履修のポイント

授業内容に連続性があります。また、習得度に合わせた内容の変更もあるので欠席はしないこと。
予習復習の時間数：不足分については試験前の学習で補完すること。

オフィス・アワー

神戸：月曜日～金曜日 12:45～13:15 11号館3F 15研究室（神戸研究室）
橘 ：月曜日～金曜日 12:45～13:15 11号館2F 栄養教育準備室
齋藤：月曜日～金曜日 12:45～13:15 11号館3F 6研究室

講義コード	20620001
講義名	調理科学
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	２時限
区分	専門基礎科目
必修/選択	必修
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UE-R115
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 中島 君恵	指定なし

授業の概要と教育目標

「食べ物と健康」において、食べ物の嗜好性と機能、おいしさを演出する食品素材の科学、調理操作の科学、食事計画、食品食材の調理による変化と科学等について学習する。食べることの意義を基点として調理科学の法則について学ぶ。なお本教科は、食事計画の基礎となる調理科学や調理操作の科学に関する基礎知識を習得し、調理科学に対する理解を深めることを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

栄養学科のディプロマ・ポリシーとの関連として、「人間と環境の理解」を主軸に、「健康・環境・栄養・食品・生活」に関する理解を深めることを目指し、「調理科学」の理解を通してその目的達成に資する知識を養う。そして将来的展望としては実践的な管理栄養士として活躍するため、多様な社会のニーズ、変化に対応できる知識・技術を身につけるための基盤となる学修を行うことを目指すものとする。

到達目標

・食品食材の調理による変化と科学の理論を習得する。
・調理操作の理論を習得する。
・食事の設計を行う上で食事摂取基準、食品成分表、食事バランスガイドの活用のための知識を習得する。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	調理の意義と食事計画Ⅰ	調理とは	予習90分：教科書chapter1-1を読む。復習90分：配布資料を見直す。
	調理		予習90分：教科

第2回	の意義と食事計画Ⅱ	食事の形態 食事計画(食事摂取基準・食品成分表・食事バランスガイドの活用)	書chapter1-2・3を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第3回	食物のおいしさⅠ	食べ物のおいしさに関与する要因 食べ物の特性要因Ⅰ 【アクティブラーニングの内容】 履修者に美味しいと感じる食べ物、場面について意見交換をさせ、おいしさの科学について理解するきっかけを作る。また図を用いておいしさの科学について解説して理解を深め、再度自分のおいしいと感じる食べ物、場面について分析して意見交換する。	予習90分：教科書chapter2-1・2を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第4回	食物のおいしさⅡ	食べ物の特性要因Ⅱ その他の要因	予習90分：教科書2-2・3を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第5回	調理操作と調理機器Ⅰ	調理操作の分類 加熱調理操作	予習90分：教科書chapter3-1・2を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第6回	調理操作と調理機器Ⅱ	非加熱調理操作 調理機器	予習90分：教科書chapter3-3・4を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第7回	食品の成分と調理ー植物性食品ー	穀類の調理Ⅰ ・澱粉の糊化と老化 ・米の調理	予習90分：教科書chapter4-Ⅰ-1を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第8回	食品の成分と調理ー植物性食品ー	穀類の調理Ⅱ ・小麦粉の調理 ・いもの調理 ・豆の調理	予習90分：教科書教科書chapter4-Ⅰ-1・2・3を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第9回	食品の成分と調理ー植物性食品ー	野菜の調理 果実類の調理	予習90分：教科書教科書chapter4-Ⅰ-4を読む。復習90分：配布資料を見直す。
	食品の成分と		予習90分：教科書1教科 chapter4- -

第10回	調理－植物性食品－	きのこの調理 藻類の調理	書　　Ⅰ 5・6を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第11回	食品の成分と調理－動物性食品－	肉類 魚介類	予習90分：教科書chapter4-Ⅱ-1・2を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第12回	食品の成分と調理－動物性食品－	卵類 乳・乳製品	予習90分：教科書chapter4-Ⅱ-3・4を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第13回	食品の成分と調理－成分抽出素材－	澱粉・油脂・砂糖	予習90分：教科書chapter4-Ⅲ-1・2・3を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第14回	食品の成分と調理－成分抽出素材－	ゲル化剤 【アクティブラーニングの内容】 履修者に第5回～第14回の講義内容とと調理学実習の関連について意見交換をさせ、調理科学についてまとめを行い理解を深める。	予習90分：教科書chapter4-Ⅲ-4を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第15回	まとめ	第1回～第14回の講義のポイントとまとめ	予習90分：配布資料を読む。復習90分：配布資料を見直す。

教科書

エスカベーシック 食べ物と健康－調理科学－

参考書

調理と理論
調理のためのベーシックデータ

成績評価の方法・基準

単位認定：60点以上 定期試験80% 小テスト15% 授業レポート5%

課題等に対する
フィードバックの方法

授業内で課題やレポートを課すことがあります。返却しますので、学習の参考にしてください。

履修のポイント
調理学をよく理解するために日々の食や健康に関する情報収集が事前学習につながるので、教科書や配布プリント等の講義資料の熟読を復習として勧めます。調理（科学）と健康の視点を持ち授業には積極的に参加する。
オフィス・アワー
木曜日、12：30～13：20(昼休み)、９号館３階第９研究室 ※講義授業前後にも、適宜受けます。

講義コード	20630001
講義名	調理学実習Ⅰ（Aクラス）
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	前期
講義区分	実験・実習
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	４時限
区分	専門基礎科目
必修/選択	必修
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UE-R116
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 野沢 弘子	指定なし

授業の概要と教育目標

食物摂取の最終段階である調理を通して、食品が人に摂取されるまでの過程を理解し、人々の健康をサポートする管理栄養士として必要な、調理の基礎について実習をとおして学び、確かな知識と技術を習得する。また、衛生・安全に留意して日常の基礎的な調理を習得することを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマポリシーの関連として、2、人間の健康を規定する要因として幅広く社会・環境を科学的に理解し、さらに健康の維持・増進プログラムを実践するために必要な人体の構造並びに疾病の成り立ちから食べ物と健康の知識や技能を修得している。に基づき、調理科学の知識と調理技術並びに献立作成やその評価など食事設計の方法の修得を目指すものとする。

到達目標

1,栄養面、安全面、嗜好面の各特性を高める食品の基礎的調理方法について調理理論と結びつけて調理ができる。
2、食品の安全性の重要性を認識し、衛生管理の方法について理解し、調理ができる。
3.効率よく、適切な調理・非加熱調理操作ができる。
5. 料理様式別に（日本料理、西洋料理）、日常の献立を作成でき、実習をとおして、実際の食生活で活かすことできる。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	オリエンテーション 調理の知識と技術	○調理実習を学ぶ意義 ○調理実習上の留意点 ○基本の切り方（非加熱調理操作） ○計量（非加熱調理操作） 【アクティブラーニング】 調理実習を学ぶ意義を小グ	予習60分 教科書を読む 教科書Ｐ22～26を読む 復習90分 実習結果の考察

	の基本（１）	ループ内でディスカッションする	計量についてのプリント
第2回	調理の知識と技術の基本（２）	○調味 塩分計算の仕方、だしの取り方の習得 ○廃棄率 計算の仕方を知る ○栄養計算の仕方を知る	予習60分 食品成分表の調味料、廃棄率を読む 復習90分 復習90分実習結果の考察 家庭での技術の向上
第3回	調理の知識と技術の基本（３）	○献立の成り立ち（日本料理について） 白飯、みそ汁、厚焼き卵、菜の花のお浸しの調理を通し ◯切り方、計量の仕方、廃棄率の算出を学び、献立の栄養計算をする	予習60分教科書Ｐ28～31を読む 復習90分実習結果の考察 栄養計算 家庭での技術の向上
第4回	日本料理（１）	○魚料理 豆ごはん、かきたま汁、かれいの煮つけ、きゅうりとわかめの酢の物 ◯切り方、計量の仕方、廃棄率の算出を学び、献立の栄養計算をする	予習60分 前回までの授業の要点を確認し実習に活かす 復習90分 実習結果の考察 栄養計算 家庭での技術の向上
第5回	日本料理（２）	○炒め物 三色ごはん、けんちん汁、きんぴらごぼう、野菜の即席漬け ◯切り方、計量の仕方、廃棄率の算出を学び、献立の栄養計算をする	予習60分 教科書Ｐ36～39を読む 復習90分 実習結果の考察 栄養計算 家庭での技術の向上
第6回	日本料理（３）	○あえ物 白飯、沢煮椀、なす肉みそ田楽、青柳とわけぎのぬた まんじゅう ◯切り方、計量の仕方、廃棄率の算出を学び、献立の栄養計算をする	予習60分 教科書Ｐ40～43を読む 復習90分 実習結果の考察 栄養計算をし関連事項を調べる 家庭での技術の向上
第7回	日本料理（４）	◯魚の取り扱い方 白飯、吉野鳥の澄まし汁、イワシのかば焼き、白和え ◯切り方、魚の手開き、計量の仕方、廃棄率の算出を学び、献立の栄養計算をする	予習60分 教科書Ｐ44～47を読む 復習90分 実習結果の考察 栄養計算をし関連事項を調べる 家庭での技術の向上
第8回	調理の知識と技術の基本（４）	○日本料理における、小麦粉の調理 手打ちうどん、天ぷら、あえ物 うどんのこね方、てんぷらの揚げ温度を学び、実習する	予習60分 教科書Ｐ41、P148を読む 復習90分 実習結果の考察 栄養計算をし関連事項を調べる 家庭での技術の向上
第9回	調理の知識と技術の基本	○廃棄率 計算の仕方の復習 ○食品成分表の使い方の復習 ○栄養計算の仕方の復習 【アクティブラーニング】 日本料理の特徴と献立作成の	予習60分 前回までの授業の要点を確認 復習90分 授業の考察、家庭学習において料理を作る。写真を撮り、レポー

	（５）	ポイントを話し合う。 小グループで日本料理の献立を立て評価をする	トに貼り、コメントをつけ提出
第10回	西洋料理（１）	○肉調理 ピラフ、コンソメスープ、ハンバーグ、ババロア 【アクティブラーニング】 日本料理と西洋料理の相違点と献立作成のポイントを話し合う	予習60分 教科書Ｐ92～95を読む 復習90分 実習結果の考察 栄養計算 家庭での技術の向上
第11回	西洋料理（２）	○サラダの種類と特徴 いわしの香草焼き、キャロットスープ、トマトサラダ、ドーナツ ○サラダの種類と特徴、ドレッシングを学ぶ	予習90分 教科書Ｐ96～99を読む 復習90分 実習結果の考察 栄養計算 家庭での技術の向上
第12回	西洋料理（３）	○西洋料理のソース① マカロニグラタン、ポーチドエッグ、グリーンサラダ、クッキー ○ソースの種類とソースを使用した料理を覚える	予習60分 教科書Ｐ100～103を読む 復習90分 実習結果の考察 栄養計算 家庭での技術の向上復習
第13回	西洋料理（４）	○西洋料理のソース② カレー＆サフランライス、ポテトサラダ（マヨネーズソース）マドレーヌ ○カレーソースの作り方を学ぶ	予習60分 教科書Ｐ104～107を読む 復習90分 実習結果の考察 栄養計算 家庭での技術の向上
第14回	西洋料理（５）	○小麦粉の料理法 スパゲティーミートソース、クラムチャウダー、コールスロー、カップケーキ ○小麦粉の特性を生かした料理方法を学ぶ	予習60分 教科書Ｐ108～111を読む 復習90分 実習結果の考察 栄養計算 家庭での技術の向上
第15回	まとめ 調理の知識と技術の基本 日本料理、西洋料理について	調理技術と知識の到達度の確認 ○前期で習得した内容の確認 切り方、計量、廃棄率、献立作成等 実技テスト 千切り 拍子切り 短冊切り	予習60分 教科書今まで学習した内容 切り方、計量、調味、栄養計算 復習90分 教科書や今まで学習した内容のそれぞれのポイントをまとめる

教科書

流れと要点が分かる・調理学実習 香西みどり・綾部園子編著 光生館

参考書

栄養士・管理栄養士を目指す人の 調理・献立作成の基礎 坂本裕子・森美奈子編
他 適宜紹介

成績評価の方法・基準

実技試験２０％ レポート３０％ 実習への参加度５０％

**課題等に対する
フィードバックの方法**

実習後のレポート（調理の要点や実習内容）と関連した事項を調べてまとめ、それを活用しフィードバックする。また、実習した料理の栄養計価算をする。
履修のポイント
基礎技術の習得と実習への積極的な取り組み
オフィス・アワー
月曜日・火曜日・水曜日 １２：３０～１３：２０（昼休み） １１号館 調理学実習室準備室 ＊講義終了前後にも、適宜受け付けます。

講義コード	20630002
講義名	調理学実習Ⅰ（Bクラス）
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	前期
講義区分	実験・実習
基準単位数	1
代表曜日	火曜日
代表時限	３時限
区分	専門基礎科目
必修/選択	必修
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UE-R116
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 野沢 弘子	指定なし

授業の概要と教育目標

食物摂取の最終段階である調理を通して、食品が人に摂取されるまでの過程を理解し、人々の健康をサポートする管理栄養士として必要な、調理の基礎について実習をとおして学び、確かな知識と技術を習得する。また、衛生・安全に留意して日常の基礎的な調理を習得することを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマポリシーの関連として、2、人間の健康を規定する要因として幅広く社会・環境を科学的に理解し、さらに健康の維持・増進プログラムを実践するために必要な人体の構造並びに疾病の成り立ちから食べ物と健康の知識や技能を修得している。に基づき、調理科学の知識と調理技術並びに献立作成やその評価など食事設計の方法の修得を目指すものとする。

到達目標

1,栄養面、安全面、嗜好面の各特性を高める食品の基礎的調理方法について調理理論と結びつけて調理ができる。
2、食品の安全性の重要性を認識し、衛生管理の方法について理解し、調理ができる。
3.効率よく、適切な調理・非加熱調理操作ができる。
5. 料理様式別に（日本料理、西洋料理）、日常の献立を作成でき、実習をとおして、実際の食生活で活かすことできる。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	オリエンテーション 調理の知識と技術	○調理実習を学ぶ意義 ○調理実習上の留意点 ○基本の切り方（非加熱調理操作） ○計量（非加熱調理操作） 【アクティブラーニング】 調理実習を学ぶ意義を小グ	予習60分 教科書を読む 教科書Ｐ22～26を読む 復習90分 実習結果の考察

	の基本（１）	ループ内でディスカッションする	計量についてのプリント
第2回	調理の知識と技術の基本（２）	○調味 塩分計算の仕方、だしの取り方の習得 ○廃棄率 計算の仕方を知る ○栄養計算の仕方を知る	予習60分 食品成分表の調味料、廃棄率を読む 復習90分 復習90分実習結果の考察 家庭での技術の向上
第3回	調理の知識と技術の基本（３）	○献立の成り立ち（日本料理について） 白飯、みそ汁、厚焼き卵、菜の花のお浸しの調理を通し ◯切り方、計量の仕方、廃棄率の算出を学び、献立の栄養計算をする	予習60分教科書Ｐ28～31を読む 復習90分実習結果の考察 栄養計算 家庭での技術の向上
第4回	日本料理（１）	○魚料理 豆ごはん、かきたま汁、かれいの煮つけ、きゅうりとわかめの酢の物 ◯切り方、計量の仕方、廃棄率の算出を学び、献立の栄養計算をする	予習60分 前回までの授業の要点を確認し実習に活かす 復習90分 実習結果の考察 栄養計算 家庭での技術の向上
第5回	日本料理（２）	○炒め物 三色ごはん、けんちん汁、きんぴらごぼう、野菜の即席漬け ◯切り方、計量の仕方、廃棄率の算出を学び、献立の栄養計算をする	予習60分 教科書Ｐ36～39を読む 復習90分 実習結果の考察 栄養計算 家庭での技術の向上
第6回	日本料理（３）	○あえ物 白飯、沢煮椀、なす肉みそ田楽、青柳とわけぎのぬた まんじゅう ◯切り方、計量の仕方、廃棄率の算出を学び、献立の栄養計算をする	予習60分 教科書Ｐ40～43を読む 復習90分 実習結果の考察 栄養計算をし関連事項を調べる 家庭での技術の向上
第7回	日本料理（４）	◯魚の取り扱い方 白飯、吉野鳥の澄まし汁、イワシのかば焼き、白和え ◯切り方、魚の手開き、計量の仕方、廃棄率の算出を学び、献立の栄養計算をする	予習60分 教科書Ｐ44～47を読む 復習90分 実習結果の考察 栄養計算をし関連事項を調べる 家庭での技術の向上
第8回	調理の知識と技術の基本（４）	○日本料理における、小麦粉の調理 手打ちうどん、天ぷら、あえ物 うどんのこね方、てんぷらの揚げ温度を学び、実習する	予習60分 教科書Ｐ41、P148を読む 復習90分 実習結果の考察 栄養計算をし関連事項を調べる 家庭での技術の向上
第9回	調理の知識と技術の基本	○廃棄率 計算の仕方の復習 ○食品成分表の使い方の復習 ○栄養計算の仕方の復習 【アクティブラーニング】 日本料理の特徴と献立作成の	予習60分 前回までの授業の要点を確認 復習90分 授業の考察、家庭学習において料理を作る。写真を撮り、レポー

	（５）	ポイントを話し合う。 小グループで日本料理の献立を立て評価をする	トに貼り、コメントをつけ提出
第10回	西洋料理（１）	○肉調理 ピラフ、コンソメスープ、ハンバーグ、ババロア 【アクティブラーニング】 日本料理と西洋料理の相違点と献立作成のポイントを話し合う	予習60分 教科書Ｐ92～95を読む 復習90分 実習結果の考察 栄養計算 家庭での技術の向上
第11回	西洋料理（２）	○サラダの種類と特徴 いわしの香草焼き、キャロットスープ、トマトサラダ、ドーナツ ○サラダの種類と特徴、ドレッシングを学ぶ	予習90分 教科書Ｐ96～99を読む 復習90分 実習結果の考察 栄養計算 家庭での技術の向上
第12回	西洋料理（３）	○西洋料理のソース① マカロニグラタン、ポーチドエッグ、グリーンサラダ、クッキー ○ソースの種類とソースを使用した料理を覚える	予習60分 教科書Ｐ100～103を読む 復習90分 実習結果の考察 栄養計算 家庭での技術の向上復習
第13回	西洋料理（４）	○西洋料理のソース② カレー＆サフランライス、ポテトサラダ（マヨネーズソース）マドレーヌ ○カレーソースの作り方を学ぶ	予習60分 教科書Ｐ104～107を読む 復習90分 実習結果の考察 栄養計算 家庭での技術の向上
第14回	西洋料理（５）	○小麦粉の料理法 スパゲティーミートソース、クラムチャウダー、コールスロー、カップケーキ ○小麦粉の特性を生かした料理方法を学ぶ	予習60分 教科書Ｐ108～111を読む 復習90分 実習結果の考察 栄養計算 家庭での技術の向上
第15回	まとめ 調理の知識と技術の基本 日本料理、西洋料理について	調理技術と知識の到達度の確認 ○前期で習得した内容の確認 切り方、計量、廃棄率、献立作成等 実技テスト 千切り 拍子切り 短冊切り	予習60分 教科書今まで学習した内容 切り方、計量、調味、栄養計算 復習90分 教科書や今まで学習した内容のそれぞれのポイントをまとめる

教科書

流れと要点が分かる・調理学実習 香西みどり・綾部園子編著 光生館

参考書

栄養士・管理栄養士を目指す人の 調理・献立作成の基礎 坂本裕子・森美奈子編
他 適宜紹介

成績評価の方法・基準

実技試験２０％ レポート３０％ 実習への参加度５０％

**課題等に対する
フィードバックの方法**

実習後のレポート（調理の要点や実習内容）と関連した事項を調べてまとめ、それを活用しフィードバックする。また、実習した料理の栄養計価算をする。
履修のポイント
基礎技術の習得と実習への積極的な取り組み
オフィス・アワー
月曜日・火曜日・水曜日 １２：３０～１３：２０（昼休み） １１号館 調理学実習室準備室 ＊講義終了前後にも、適宜受け付けます。

講義コード	20640001
講義名	調理学実習Ⅱ（Aクラス）
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期
講義区分	実験・実習
基準単位数	1
代表曜日	火曜日
代表時限	３時限
区分	専門基礎科目
必修/選択	必修
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UE-R129
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 野沢 弘子	指定なし

授業の概要と教育目標

食物摂取の最終段階である調理を通して、食品が人に摂取されるまでの過程を理解するとともに、人々の健康をサポートする管理栄養士として応用的な知識と技術を習得する。調理実習Ⅰの基本的な調理操作をふまえ、日本料理、中国料理、西洋料理の調理手法や季節や行事を取り入れた献立構成や食事時の約束事や食文化について理解する。また、食事摂取基準や食品構成にそった、１食分の献立作成や調理を行うことで、食事設計について理解し習得することを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマポリシーの関連として、2、人間の健康を規定する要因として幅広く社会・環境を科学的に理解し、さらに健康の維持・増進プログラムを実践するために必要な人体の構造並びに疾病の成り立ちから食べ物と健康の知識や技能を修得している。に基づき、調理科学の知識と調理技術並びに献立作成やその評価など食事設計の方法の修得を目指すものとする。

到達目標

1．調理実習Ⅰの基本的な調理操作をふまえて、素材別、手法別（煮る、焼く、蒸 す、揚げる等）に発展させて理解することができる。
2.料理様式別に（中国料理、日本料理、西洋料理）日常の献立を作成でき、実習をとおして、実際の食生活で活かすことできる
3.季節や行事を取り入れた献立構成や1日分の食事設計知について理解できる。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	調理の知識と技術の応用（１）	○ガイダンス 調理学実習Ⅰを振り返って 計量、調味、廃棄、だしの取り方、切り方 中国料理の基本について	予習60分 Ｐ2～20を読む 復習90 レポート
			予習60分 教科書

第2回	中華料理（1）	○片栗粉の特性 ラ白菜、古老肉、玉米湯、蝦仁焼売、白飯 ・切り方、計量、調味、とろみづけ、廃棄率の確認	Ｐ64～67を読む 復習90分 実習結果の考察 栄養計算をして栄養価を知る 家庭での技術の向上
第3回	中華料理（2）	○高温短時間加熱調理 チャン黄瓜、青椒牛肉絲、西湖魚羹、杏仁豆腐、白 ・切り方、計量、調味、とろみづけ、廃棄率の確認	予習60分 教科書Ｐ68～71を読む 復習90分 実習結果の考察 栄養計算をして栄養価を知る 家庭での技術の向上
第4回	中国料理（3）	○中国の調味料、乾物の種類と特徴 涼拌茄子、干焼明蝦、搾菜肉絲湯、杏仁酥餅、白飯 ・切り方、計量、調味、とろみづけ、廃棄率の確認	予習60分 教科書Ｐ72～75を読む 復習90分 実習結果の考察 栄養計算をして栄養価を知る 家庭での技術の向上
第5回	中国料理（4）	○蒸菜の特徴とポイント 拌墨魚、珍珠丸子、豆腐蛤仔湯、抜絲地瓜、白飯 ・切り方、計量、調味、とろみづけ、廃棄率の確認	予習60分 教科書Ｐ76～79を読む 復習90分 実習結果の考察 栄養計算をして栄養価を知る 家庭での技術の向上
第6回	日本料理（1）	○旬の食材を使った日本料理① 玄米ごはん、さつま汁、秋鮭の照り焼きと菊花かぶ、ひじきの煮物 ・切り方、計量、調味、廃棄率の確認 ・旬の食材について知る	予習60分教科書Ｐ56～59を読む 復習90分実習結果の考察 栄養計算をして栄養価を知る 家庭での技術の向上
第7回	日本料理（2）	○旬の食材を使った日本料理② 栗飯、土瓶蒸し、包み焼き、白和え ・切り方、計量、調味、廃棄率の確認 ・旬の食材について知る	予習60分教科書 応用・発展・単品料理を確認しておく 復習90分郷土料理について調べる
第8回	調理の知識と技術の応用（2）	○教科書の応用・発展・単品料理を参考に1食分の食事計画を立てる（食事摂取基準に基づいた作成） 【アクティブラーニング】 それぞれ考えた献立の中からグループで作りたい献立を1つ選び、次回の実習で実際に作ってみる。材料や作り方を詳細に明記し、食材の発注書を提出	予習60分 調理学実習Ⅰ、Ⅱで作った料理の確認 復習90分 実習の献立計画の確認と作り方のシミュレーション
第9回	調理の知識と技術の応用（3）	○グループごとに考えた料理の実習 ・調理、試食、後片付け、評価をする 【アクティブラーニング】 ・調理手順や技術、味付けや時間配分について評価する	予習60分 実習の献立計画の確認と作り方のシミュレーション 復習90分実 習結果の考察 調理法の書き方のポ

			イント 家庭での技術の向上
第10回	西洋料理（１）	○シュー生地作りのポイント さけのムニエル、オニオングラタンスープ、にんじんサラダ、シュークリーム ・調理法の書き方の習得	予習60分教科書Ｐ112～115を読む 復習90分実習結果の考察 栄養計算をして栄養価を知る 家庭での技術の向上
第11回	西洋料理（２）	○パン生地の作り方 手作りパン、ミネストローネ、シーザーサラダ 一次発酵、ガス抜き、二次発酵について学ぶ	予習60分 教科書Ｐ120～123を読む 復習90分 実習結果の考察 家庭での技術の向上
第12回	行事食（１）	○クリスマス料理 ブッシュドノエル、パンプキンスープ、鶏もも肉の炙り焼き、フルーツパンチ ・行事食について学ぶ	予習60分 教科書Ｐ130～135を読む 復習90分 実習結果の考察 家庭での技術の向上
第13回	行事食（２）	○正月料理 田作り、松風焼き、伊達巻、栗きんとん、紅白なます、野菜の煮しめ、かまぼこ、えびのうま煮、黒豆、雑煮 ・行事食について学ぶ	予習60分 教科書Ｐ124～129を読む 復習90分 実習結果の考察 家庭での技術の向上 切り方、煮方、詰め方の練習
第14回	行事食（３）	○桃の節句 ちらしずし、はまぐりの潮汁、しらうお小エビのかき揚げ、酢みそ和え、桜餅 ・行事食について学ぶ	予習60分 桃の節句について日本各地の料理を調べる 予習90分 実習結果の考察 家庭での技術の向上
第15回	まとめ	調理技術と知識の到達度の確認 小テスト	予習 プリント 復習 プリント

教科書

流れと要点が分かる・調理学実習 香西みどり・綾部園子編著 光生館

参考書

栄養士・管理栄養士を目指す人の 調理・献立作成の基礎 坂本裕子・森美奈子編
他
これからの調理学実習（基本手法から各国料理・行事食まで）新調理研究会編 オーム社

成績評価の方法・基準

実技試験２０％ レポート３０％ 実習への積極性５０％

課題等に対する
フィードバックの方法

実習後のレポートに、調理のポイントと実習内容に関連した事項を調べてまとめる。家庭での技術向上に努める。実習した献立の栄養計算をする。

履修のポイント

基礎技術の習得と実習への積極的な取り組み
食事設計の基本と栄養計算ができる

オフィス・アワー
月曜日・火曜日・水曜日 １２：３０～１３：２０（昼休み） １１号館 調理学実習室準備室 ＊講義終了前後にも、適宜受け付けます。

講義コード	20640002
講義名	調理学実習Ⅱ（Bクラス）
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期
講義区分	実験・実習
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	４時限
区分	専門基礎科目
必修/選択	必修
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UE-R129
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 野沢 弘子	指定なし

授業の概要と教育目標

食物摂取の最終段階である調理を通して、食品が人に摂取されるまでの過程を理解するとともに、人々の健康をサポートする管理栄養士として応用的な知識と技術を習得する。調理実習Ⅰの基本的な調理操作をふまえ、日本料理、中国料理、西洋料理の調理手法や季節や行事を取り入れた献立構成や食事時の約束事や食文化について理解する。また、食事摂取基準や食品構成にそった、１食分の献立作成や調理を行うことで、食事設計について理解し習得することを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマポリシーの関連として、2、人間の健康を規定する要因として幅広く社会・環境を科学的に理解し、さらに健康の維持・増進プログラムを実践するために必要な人体の構造並びに疾病の成り立ちから食べ物と健康の知識や技能を修得している。に基づき、調理科学の知識と調理技術並びに献立作成やその評価など食事設計の方法の修得を目指すものとする。

到達目標

1．調理実習Ⅰの基本的な調理操作をふまえて、素材別、手法別（煮る、焼く、蒸 す、揚げる等）に発展させて理解することができる。
2.料理様式別に（中国料理、日本料理、西洋料理）日常の献立を作成でき、実習をとおして、実際の食生活で活かすことできる
3.季節や行事を取り入れた献立構成や1日分の食事設計知について理解できる。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	調理の知識と技術の応用（１）	○ガイダンス 調理学実習Ⅰを振り返って 計量、調味、廃棄、だしの取り方、切り方 中国料理の基本について	予習60分 Ｐ2～20を読む 復習90 レポート
			予習60分 教科書

第2回	中華料理（1）	○片栗粉の特性 ラ白菜、古老肉、玉米湯、蝦仁焼売、白飯 ・切り方、計量、調味、とろみづけ、廃棄率の確認	Ｐ64～67を読む 復習90分 実習結果の考察 栄養計算をして栄養価を知る 家庭での技術の向上
第3回	中華料理（2）	○高温短時間加熱調理 チャン黄瓜、青椒牛肉絲、西湖魚羹、杏仁豆腐、白 ・切り方、計量、調味、とろみづけ、廃棄率の確認	予習60分 教科書Ｐ68～71を読む 復習90分 実習結果の考察 栄養計算をして栄養価を知る 家庭での技術の向上
第4回	中国料理（3）	○中国の調味料、乾物の種類と特徴 涼拌茄子、干焼明蝦、搾菜肉絲湯、杏仁酥餅、白飯 ・切り方、計量、調味、とろみづけ、廃棄率の確認	予習60分 教科書Ｐ72～75を読む 復習90分 実習結果の考察 栄養計算をして栄養価を知る 家庭での技術の向上
第5回	中国料理（4）	○蒸菜の特徴とポイント 拌墨魚、珍珠丸子、豆腐蛤仔湯、抜絲地瓜、白飯 ・切り方、計量、調味、とろみづけ、廃棄率の確認	予習60分 教科書Ｐ76～79を読む 復習90分 実習結果の考察 栄養計算をして栄養価を知る 家庭での技術の向上
第6回	日本料理（1）	○旬の食材を使った日本料理① 玄米ごはん、さつま汁、秋鮭の照り焼きと菊花かぶ、ひじきの煮物 ・切り方、計量、調味、廃棄率の確認 ・旬の食材について知る	予習60分教科書Ｐ56～59を読む 復習90分実習結果の考察 栄養計算をして栄養価を知る 家庭での技術の向上
第7回	日本料理（2）	○旬の食材を使った日本料理② 栗飯、土瓶蒸し、包み焼き、白和え ・切り方、計量、調味、廃棄率の確認 ・旬の食材について知る	予習60分教科書 応用・発展・単品料理を確認しておく 復習90分郷土料理について調べる
第8回	調理の知識と技術の応用（2）	○教科書の応用・発展・単品料理を参考に1食分の食事計画を立てる（食事摂取基準に基づいた作成） 【アクティブラーニング】 それぞれ考えた献立の中からグループで作りたい献立を1つ選び、次回の実習で実際に作ってみる。材料や作り方を詳細に明記し、食材の発注書を提出	予習60分 調理学実習Ⅰ、Ⅱで作った料理の確認 復習90分 実習の献立計画の確認と作り方のシミュレーション
第9回	調理の知識と技術の応用（3）	○グループごとに考えた料理の実習 ・調理、試食、後片付け、評価をする 【アクティブラーニング】 ・調理手順や技術、味付けや時間配分について評価する	予習60分 実習の献立計画の確認と作り方のシミュレーション 復習90分実 習結果の考察 調理法の書き方のポ

			イント 家庭での技術の向上
第10回	西洋料理（１）	○シュー生地作りのポイント さけのムニエル、オニオングラタンスープ、にんじんサラダ、シュークリーム ・調理法の書き方の習得	予習60分教科書Ｐ112～115を読む 復習90分実習結果の考察 栄養計算をして栄養価を知る 家庭での技術の向上
第11回	西洋料理（２）	○パン生地の作り方 手作りパン、ミネストローネ、シーザーサラダ 一次発酵、ガス抜き、二次発酵について学ぶ	予習60分 教科書Ｐ120～123を読む 復習90分 実習結果の考察 家庭での技術の向上
第12回	行事食（１）	○クリスマス料理 ブッシュドノエル、パンプキンスープ、鶏もも肉の炙り焼き、フルーツパンチ ・行事食について学ぶ	予習60分 教科書Ｐ130～135を読む 復習90分 実習結果の考察 家庭での技術の向上
第13回	行事食（２）	○正月料理 田作り、松風焼き、伊達巻、栗きんとん、紅白なます、野菜の煮しめ、かまぼこ、えびのうま煮、黒豆、雑煮 ・行事食について学ぶ	予習60分 教科書Ｐ124～129を読む 復習90分 実習結果の考察 家庭での技術の向上 切り方、煮方、詰め方の練習
第14回	行事食（３）	○桃の節句 ちらしずし、はまぐりの潮汁、しらうお、小エビのかき揚げ、酢みそ和え、桜餅 ・行事食について学ぶ	予習60分 桃の節句について日本各地の料理を調べる 予習90分 実習結果の考察 家庭での技術の向上
第15回	まとめ	調理技術と知識の到達度の確認 小テスト	予習 プリント 復習 プリント

教科書

流れと要点が分かる・調理学実習 香西みどり・綾部園子編著 光生館

参考書

栄養士・管理栄養士を目指す人の 調理・献立作成の基礎 坂本裕子・森美奈子編
他
これからの調理学実習（基本手法から各国料理・行事食まで）新調理研究会編 オーム社

成績評価の方法・基準

実技試験２０％ レポート３０％ 実習への積極性５０％

課題等に対する
フィードバックの方法

実習後のレポートに、調理のポイントと実習内容に関連した事項を調べてまとめる。家庭での技術向上に努める。実習した献立の栄養計算をする。

履修のポイント

基礎技術の習得と実習への積極的な取り組み
食事設計の基本と栄養計算ができる

オフィス・アワー
月曜日・火曜日・水曜日 １２：３０～１３：２０（昼休み） １１号館 調理学実習室準備室 ＊講義終了前後にも、適宜受け付けます。

講義コード	20650001
講義名	基礎栄養学
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	１時限
区分	専門科目
必修/選択	必修
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UE-R210
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 榮 昭博	指定なし

授業の概要と教育目標

基礎栄養学では栄養素の機能と生理学的意義を中心に講義し、健康の保持・増進、疾病の予防・治療における栄養の役割を理解することを目標とする。具体的には、糖・脂肪・たんぱく質の３大栄養素、これにビタミンを加えた栄養素を中心にその化学・摂取した場合の消化吸収・生理作用・欠乏症や過剰症等について理解することを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

基礎栄養学は、多様な対象や人間のライフステージ・ライフサイクルに沿って、利用者の身体の状況、栄養状態、生活習慣に係る栄養・食事管理、栄養教育、臨床栄養ならびに公衆栄養、給食経営分野に関して必要な知識や技術を修得する実践的栄養学の基となる知識を理解する科目と考えられる。それ故、基礎栄養学では、栄養素等の生体内でのはたらき，それらの相互作用について理解し，健康維持・増進，疾病予防の活用に発展させる知識を習得することを卒業認定の要件の一つとする。

到達目標

管理栄養士として栄養実践活動に対応できるように、その基礎知識を習得する。具体的には三大栄養素および水溶性・脂溶性ビタミンの代謝及び排泄を学習しその栄養学的意義を理解する。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	栄養の概念と歴史および栄養素の基礎	栄養と栄養素の定義、栄養素の分類、食品の機能について学び、また栄養学に関する歴史について学ぶ。また、事前課題の「課題１」について学生が発表し、これについてディスカッションしてその内容の理解を深める。 課題（第２回）を配布する。	予習：事前課題として課題１：官能基（高校化学等の教科書やインターネットを参考にする）および栄養の概念（教科書p1～5）を参考にまとめる。復習：栄養の概念等のノートを作成する。合計で4時間以上。
	栄養	糖（炭水化物）の分類、機能等、糖の栄	予習：教科書p39～41を読み理解

第2回	素の機能糖質Ⅰ	養学的意義ついて学ぶ。 課題（第2回）について学生が発表し、これについてディスカッションしてその内容の理解を深める。 課題（第3回）を配布する。	する。課題（第2回）をまとめる。復習：本日の授業内容のノートを作成する。合計で4時間以上。
第3回	栄養素の機能糖質Ⅱ	でんぷん等の糖を摂取した場合の、消化、吸収、代謝について学ぶ（血糖の調節）。	予習：教科書p42～47を読み理解する。課題（第3回）をまとめる。復習：本日の授業内容のノートを作成する。合計で4時間以上。
第4回	栄養素の機能糖質Ⅲ	糖代謝の臓器差について学ぶ（コリ回路等を含む）。また、他の栄養素との関係についても学ぶ。課題（第4回）を配布する。	予習：教科書p48～52を読み理解する。 復習：本日の授業内容のノートを作成する。合計で4時間以上。
第5回	栄養素の機能脂質Ⅰ	脂質の分類と定義，脂肪、リン脂質、ステロイド等に分類し、特に脂質の消化吸収について学ぶ。	予習：教科書p53～59を読み理解する。 復習：本日の授業内容のノートを作成する。合計で4時間以上。
第6回	栄養素の機能脂質Ⅱ	脂質の臓器間輸送と脂肪酸の代謝について学ぶ。また、脂肪細胞の役割について学ぶ（プリント）。	予習：教科書p59～64を読み理解する。 復習：本日の授業内容のノートを作成する。合計で4時間以上。
第7回	栄養素の機能脂質Ⅲ	必須脂肪酸・エイコサイドの代謝および脂肪酸・脂質の栄養機能について学ぶ。また、他の栄養素との関係（B1節約効果）についても学ぶ。	予習：教科書p64～68を読み理解する。 復習：本日の授業内容のノートを作成する。合計で4時間以上。
第8回	栄養素の機能脂質Ⅳ	コレステロールの作用と生体に及ぼす影響と脂質の食事摂取基準を学ぶ。まとめとして模擬試験（糖・脂質）を実施し、その解答について学生同士および教員で確認する。	予習：教科書p68～70読み理解する。糖と脂質の確認模擬試験に対応できるように対策する。 復習：本日の授業内容のノートを作成する。合計で4時間以上。
第9回	栄養素の機能蛋白質Ⅰ	アミノ酸の分子構造と種類、ペプチド、必須アミノ酸，さ らに、不可欠（必須）アミノ酸について学ぶ。また、蛋白質の構造と種類，理化学的性質にもとずき蛋白質を分類し、それぞれの特性について説明し、また立体構造についても理解する。	予習：教科書p71～78を読み理解する。 復習：本日の授業内容のノートを作成する。合計で4時間以上。
第10回	栄養素の機能蛋白質Ⅱ	蛋白質・アミノ酸の代謝（食後、食間期と臓器間輸送等）について学ぶ。	予習：教科書p78～83を読み理解する。 復習：本日の授業内容のノートを作成する。合計で4時間以上。
第11回	栄養素の機能蛋白質Ⅲ	蛋白質の代謝と栄養価について学ぶ。	予習：教科書p83～91を読み理解する。 復習：本日の授業内容のノートを作成する。合計で4時間以上。
	栄養素の	蛋白質の栄養価について述べるとともに他の栄養素との関係について学ぶ。まと	予習：教科書p91～92を読み理解する。アミノ酸と蛋白質の確認模擬試験に対応できるように対策す

第12回	機能蛋白質Ⅳ	めとして模擬試験（蛋白質）を実施し、その解答について学生同士および教員で確認する。	る。 復習：本日の授業内容のノートを作成する。合計で4時間以上。
第13回	栄養素の機能ビタミンⅠ	脂溶性ビタミン（ビタミンA.D.E.K等 の生理作用と欠乏症について学ぶ。	予習：教科書p93～102を読み理解する。 復習：本日の授業内容のノートを作成する。合計で4時間以上。
第14回	栄養素の機能ビタミンⅡ	水溶性ビタミン（ビタミンＢ１、Ｂ２、Ｂ６、ナイアシン等 の生理作用と欠乏症について学ぶ。	予習：教科書p102～108を読み理解する。アミノ酸と蛋白質の確認模擬試験に対応できるように対策する。 復習：本日の授業内容のノートを作成する。合計で4時間以上。
第15回	栄養素の機能ビタミンⅢ	水溶性ビタミン（ビタミンB12、葉酸、ビオチン、パントテン酸、ビタミンC等の生理作用と欠乏症について学ぶ。 ビタミンの確認模擬試験を実施し、その解答について学生同士および教員で確認する。	予習：教科書p108～116を読み理解する。ビタミンの確認模擬試験に対応できるように対策する。 復習：本日の授業内容のノートを作成する。合計で4時間以上。

教科書

『Ｎブックス 三訂基礎栄養学』 林 淳三ら 建帛社

参考書

管理栄養士講座 基礎栄養学 第一出版

成績評価の方法・基準

単位認定：60点以上 期末試験100点。これに加えて授業中に提出された課題を評価して試験の素点に最大１０点加点することがある。ただし合計点が100点を超しても評価は100点とする。

課題等に対する
フィードバックの方法

事前の学習課題を行い提出するまたは発表すること。課題レポートは授業担当が確認し、評価点またはコメントを記して後日返却する。また、講義ノートとして基礎栄養学出題基準に対応したノートを作成すること。ノートは最終日に提出し後日、その評価点を記して返却する。

履修のポイント

生理生化学的視点の講義内容を含むので生化学の教科書が参考となる。

オフィス・アワー

授業開講日の１２：３０～１３：２０に１１号館３階第14研究室で行う。ただし、この時間帯以外でも講義・会議・出張等の校務がない場合行うことができることがある。

講義コード	20660001
講義名	基礎栄養学実験（Aクラス）
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	前期
講義区分	実験・実習
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	１時限
区分	専門科目
必修/選択	必修
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UE-R240
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 榮 昭博	指定なし

授業の概要と教育目標

栄養素の基本的性質を理解し、生体成分のいくつかを実験により定性あるいは定量する。尿中成分では通常に含まれるものとを測定し生体内で行われている代謝の状況を推察し、異常成分の試験では、臨床的判断材料になることを知る。血液成分の実験では、各栄養素の生理的役割や病気の診断に用いられることも理解する。酵素活性に関する実験では消化の過程等を理解する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

基礎栄養学の分野は、栄養管理、栄養教育、臨床栄養ならびに公衆栄養、給食経営分野に関して必要な知識や技術を修得する実践的栄養学の基となる知識を理解する科目と考えられる。それ故、基礎栄養学実験では、基礎栄養学・栄養生理学で学んだ内容について、実験を行うことで栄養素等の生体内でのはたらき，それらの相互作用について理解し，健康維持・増進，疾病予防の活用に発展させる知識を習得することを卒業認定の要件の一つとする。

到達目標

実験を通じて尿・血液検査等に関する生理的意義を理解し、栄養評価ができる能力の取得を目標とする。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	尿中成分異常成分	尿中の蛋白質、糖、アセトン体等異常成分の検出をおこう。各グループごとに実験結果について考察し、実験終了時に担当教員に報告する。教員から質疑があるのでこれについて応答する。これらの作業によりそれらの生理学的意義と疾病との関係を理解する。	予習：尿たんぱく、尿糖、アセトン体（ケトン体）ビリルビンについて調べておく。復習：実験結果・考察等をレポートにまとまる。これらに要する時間は1時間以上とする。
第2回	ビタミンの定	脂溶性ビタミンAの定性試験を行い、肝臓中の存在を確認する。各グループごとに実験結果について考察し、実験終了時に担当教員に報告す	予習：ビタミンAについて調べておく。復習：実験結果・考察等をレポート

	性試験Ⅰ	る。教員から質疑があるのでこれについて応答する。これらの作業によりビタミンAの生理学的意義と疾病との関係を理解する。	にまとまる。これらに要する時間は1時間以上とする
第3回	ビタミンの定性試験Ⅱ	水溶性ビタミンB2の定性試験を行い、肝臓中の存在を確認する。各グループごとに実験結果について考察し、実験終了時に担当教員に報告する。教員から質疑があるのでこれについて応答する。これらの作業によりビタミンB2の生理学的意義と疾病との関係を理解する。	予習：ビタミンB2のみでなくその他の水溶性ビタミンについても調べておく。復習：実験結果・考察等をレポートにまとまる。これらに要する時間は1時間以上とする
第4回	血漿総蛋白質およびアルブミンの定量	血漿蛋白質およびアルブミンを測定し、その生理学的意義と栄養状態の判定を行う。各グループごとに実験結果について考察し、実験終了時に担当教員に報告する。教員から質疑があるのでこれについて応答する。これらの作業により血漿アルブミンやグロブリンの生理学的意義と疾病および栄養状態との関係を理解する。	予習：血漿蛋白質と低栄養について調べておく。復習：実験結果・考察等をレポートにまとまる。これらに要する時間は1時間以上とする。
第5回	血漿コレステロールの定量	血漿コレステロールを測定して、その生理学的意義と疾病との関係を学ぶ。各グループごとに実験結果について考察し、実験終了時に担当教員に報告する。教員から質疑があるのでこれについて応答する。これらの作業によりコレステロールの生理学的意義と疾病および栄養状態との関係を理解する。	予習：血漿コレステロール（LDL、HDL）と疾病との関係について調べておく。復習：実験結果・考察等をレポートにまとまる。これらに要する時間は1時間以上とする。
第6回	血糖の定量	血糖を測定し、疾病特に糖尿病との関係を学ぶ。各グループごとに実験結果について考察し、実験終了時に担当教員に報告する。教員から質疑があるのでこれについて応答する。これらの作業により血糖と糖尿病との関係を理解する。	予習：血糖と糖尿病の関係について調べておく。復習：実験結果・考察等をレポートにまとまる。これらに要する時間は1時間以上とする。
第7回	血漿尿酸の定量	血漿尿酸を測定し、高尿酸血症と痛風との関係を学ぶ。各グループごとに実験結果について考察し、実験終了時に担当教員に報告する。教員から質疑があるのでこれについて応答する。これらの作業により尿酸の生理学的意義と疾病との関係を理解する。	予習：血漿尿酸と痛風の関係について調べておく。復習：実験結果・考察等をレポートにまとまる。これらに要する時間は1時間以上とする。
第8回	血漿カルシウムの定量	血漿カルシウムを測定し、カルシウムの生理学的意義を学ぶ。各グループごとに実験結果について考察し、実験終了時に担当教員に報告する。教員から質疑があるのでこれについて応答する。これらの作業によりカルシウムの生理学的意義と疾病との関係を理解する。	予習：生体内におけるカルシウムの作用について調べておく。復習：実験結果・考察等をレポートにまとまる。これらに要する時間は1時間以上とする。
第9回	肝臓の鉄定量	貯蔵鉄としての肝臓鉄を測定し、鉄の生理学的意義を学ぶ。各グループごとに実験結果について考察し、実験終了時に担当教員に報告する。教員から質疑があるのでこれについて応答する。これらの作業により生体内の鉄の生理学的意義と疾病および栄養状態との関係を理解する。	予習：生体内の機能鉄と貯蔵鉄について調べておく。復習：実験結果・考察等をレポートにまとまる。これらに要する時間は1時間以上とする。
	唾液アミ	唾液アミラーゼ活性を測定し、デンプンの口腔における消化を理解する。各グループごとに実	予習：でんぷんの消化過程を調べておく。復習：

第10回	ラーゼ活性	験結果について考察し、実験終了時に担当教員に報告する。教員から質疑があるのでこれについて応答する。これらの作業により糖の消化について理解する。	実験結果・考察等をレポートにまとまる。これらに要する時間は1時間以上とする。
第11回	膵臓プロテアーゼ活性	膵臓トリプシン活性を測定し、蛋白質の消化を調べる。各グループごとに実験結果について考察し、実験終了時に担当教員に報告する。教員から質疑があるのでこれについて応答する。これらの作業により蛋白質の消化について理解する。	予習：胃、小腸内における蛋白質の消化酵素について調べておく。復習：実験結果・考察等をレポートにまとまる。これらに要する時間は1時間以上とする。
第12回	膵臓リパーゼ活性	膵臓リパーゼ活性を測定し、脂肪の消化を学ぶ。各グループごとに実験結果について考察し、実験終了時に担当教員に報告する。教員から質疑があるのでこれについて応答する。これらの作業により脂質の消化について理解する。	予習：脂肪の消化、脂質の乳化について調べておく。復習：実験結果・考察等をレポートにまとまる。これらに要する時間は1時間以上とする。
第13回	腸管マルターゼ活性	ラット腸粘膜のマルターゼ活性を測定し、糖の膜消化を学ぶと同時に活性阻害物質についても学ぶ。各グループごとに実験結果について考察し、実験終了時に担当教員に報告する。教員から質疑があるのでこれについて応答する。これらの作業により糖の膜消化について理解する。	予習：糖の膜消化について調べておく。復習：実験結果・考察等をレポートにまとまる。これらに要する時間は1時間以上とする。
第14回	エネルギー代謝	メッツの概念や基礎代謝、活動時消費エネルギー等について理解したうえ、個人の消費エネルギーを計算によって求める。各グループごとに実験結果について考察し、実験終了時に担当教員に報告する。教員から質疑があるのでこれについて応答する。これらの作業により生体内のエネルギー代謝について理解する。	予習：エネルギー代謝（教科書p139～146）について調べておく。復習：結果・考察等をレポートにまとまる。これらに要する時間は1時間以上とする。
第15回	栄養アセスメント	仮想患者の身体計測や各血液検査データを読み、栄養評価の実践を行う。各グループごとに実験結果について考察し、実験終了時に担当教員に報告する。これらの作業により栄養アセスメントの基礎について理解する。	予習：栄養アセスメント（p171～177）について調べておく。復習：結果・考察等をレポートにまとまる。これらに要する時間は1時間以上とする。

教科書

使用しない（レジメを配布する）。

参考書

栄養学領域からみた生理生化学実験 五島孜郎 編 建帛社 Nブックス改訂基礎栄養学 林淳三監修 建帛社

成績評価の方法・基準

学期末試験やレポート(ノート）点等を合計した総合点で60点以上で合格とする。100点満点の学期末試験の素点に実験ノート点（最大20点）、サンプル提供（最大15点）について加点することがある。ただし、合計点が100点を超えた場合でも評価は100点とする。

課題等に対する
フィードバックの方法

実験終了後レポートを各単元ごとに作成し、これを綴り実験ノートを作成すること。ノートは８週目と１５週目の実験終了時に提出する。このノート内容について評価（点数化）しノート最終ページ等に評価点を記載し返却する。

履修のポイント
実験操作のみでなく各測定成分の栄養・生理学的意義をよく理解すること。白衣着用のこと。電卓等持参のこと。
オフィス・アワー
授業開講日の１２：３０～１３：２０に１１号館３階第14研究室で行う。ただし、この時間帯以外でも講義・会議・出張等の校務がない場合行うことができることがある。

講義コード	20660002
講義名	基礎栄養学実験（Bクラス）
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	前期
講義区分	実験・実習
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	１時限
区分	専門科目
必修/選択	必修
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UE-R240
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 榮 昭博	指定なし

授業の概要と教育目標

栄養素の基本的性質を理解し、生体成分のいくつかを実験により定性あるいは定量する。尿中成分では通常に含まれるものとを測定し生体内で行われている代謝の状況を推察し、異常成分の試験では、臨床的判断材料になることを知る。血液成分の実験では、各栄養素の生理的役割や病気の診断に用いられることも理解する。酵素活性に関する実験では消化の過程等を理解する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

基礎栄養学の分野は、栄養管理、栄養教育、臨床栄養ならびに公衆栄養、給食経営分野に関して必要な知識や技術を修得する実践的栄養学の基となる知識を理解する科目と考えられる。それ故、基礎栄養学実験では、基礎栄養学・栄養生理学で学んだ内容について、実験を行うことで栄養素等の生体内でのはたらき，それらの相互作用について理解し，健康維持・増進，疾病予防の活用に発展させる知識を習得することを卒業認定の要件の一つとする。

到達目標

実験を通じて尿・血液検査等に関する生理的意義を理解し、栄養評価ができる能力の取得を目標とする。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	尿中成分異常成分	尿中の蛋白質、糖、アセトン体等異常成分の検出をおこう。各グループごとに実験結果について考察し、実験終了時に担当教員に報告する。教員から質疑があるのでこれについて応答する。これらの作業によりそれらの生理学的意義と疾病との関係を理解する。	予習：尿たんぱく、尿糖、アセトン体（ケトン体）ビリルビンについて調べておく。復習：実験結果・考察等をレポートにまとまる。これらに要する時間は1時間以上とする。
第2回	ビタミンの定	脂溶性ビタミンAの定性試験を行い、肝臓中の存在を確認する。各グループごとに実験結果について考察し、実験終了時に担当教員に報告す	予習：ビタミンAについて調べておく。復習：実験結果・考察等をレポート

	性試験Ⅰ	る。教員から質疑があるのでこれについて応答する。これらの作業によりビタミンAの生理学的意義と疾病との関係を理解する。	にまとまる。これらに要する時間は1時間以上とする
第3回	ビタミンの定性試験Ⅱ	水溶性ビタミンB2の定性試験を行い、肝臓中の存在を確認する。各グループごとに実験結果について考察し、実験終了時に担当教員に報告する。教員から質疑があるのでこれについて応答する。これらの作業によりビタミンB2の生理学的意義と疾病との関係を理解する。	予習：ビタミンB2のみでなくその他の水溶性ビタミンについても調べておく。復習：実験結果・考察等をレポートにまとまる。これらに要する時間は1時間以上とする
第4回	血漿総蛋白質およびアルブミンの定量	血漿蛋白質およびアルブミンを測定し、その生理学的意義と栄養状態の判定を行う。各グループごとに実験結果について考察し、実験終了時に担当教員に報告する。教員から質疑があるのでこれについて応答する。これらの作業により血漿アルブミンやグロブリンの生理学的意義と疾病および栄養状態との関係を理解する。	予習：血漿蛋白質と低栄養について調べておく。復習：実験結果・考察等をレポートにまとまる。これらに要する時間は1時間以上とする。
第5回	血漿コレステロールの定量	血漿コレステロールを測定して、その生理学的意義と疾病との関係を学ぶ。各グループごとに実験結果について考察し、実験終了時に担当教員に報告する。教員から質疑があるのでこれについて応答する。これらの作業によりコレステロールの生理学的意義と疾病および栄養状態との関係を理解する。	予習：血漿コレステロール（LDL、HDL）と疾病との関係について調べておく。復習：実験結果・考察等をレポートにまとまる。これらに要する時間は1時間以上とする。
第6回	血糖の定量	血糖を測定し、疾病特に糖尿病との関係を学ぶ。各グループごとに実験結果について考察し、実験終了時に担当教員に報告する。教員から質疑があるのでこれについて応答する。これらの作業により血糖と糖尿病との関係を理解する。	予習：血糖と糖尿病の関係について調べておく。復習：実験結果・考察等をレポートにまとまる。これらに要する時間は1時間以上とする。
第7回	血漿尿酸の定量	血漿尿酸を測定し、高尿酸血症と痛風との関係を学ぶ。各グループごとに実験結果について考察し、実験終了時に担当教員に報告する。教員から質疑があるのでこれについて応答する。これらの作業により尿酸の生理学的意義と疾病との関係を理解する。	予習：血漿尿酸と痛風の関係について調べておく。復習：実験結果・考察等をレポートにまとまる。これらに要する時間は1時間以上とする。
第8回	血漿カルシウムの定量	血漿カルシウムを測定し、カルシウムの生理学的意義を学ぶ。各グループごとに実験結果について考察し、実験終了時に担当教員に報告する。教員から質疑があるのでこれについて応答する。これらの作業によりカルシウムの生理学的意義と疾病との関係を理解する。	予習：生体内におけるカルシウムの作用について調べておく。復習：実験結果・考察等をレポートにまとまる。これらに要する時間は1時間以上とする。
第9回	肝臓の鉄定量	貯蔵鉄としての肝臓鉄を測定し、鉄の生理学的意義を学ぶ。各グループごとに実験結果について考察し、実験終了時に担当教員に報告する。教員から質疑があるのでこれについて応答する。これらの作業により生体内の鉄の生理学的意義と疾病および栄養状態との関係を理解する。	予習：生体内の機能鉄と貯蔵鉄について調べておく。復習：実験結果・考察等をレポートにまとまる。これらに要する時間は1時間以上とする。
	唾液アミ	唾液アミラーゼ活性を測定し、デンプンの口腔における消化を理解する。各グループごとに実	予習：でんぷんの消化過程を調べておく。復習：

第10回	ラーゼ活性	験結果について考察し、実験終了時に担当教員に報告する。教員から質疑があるのでこれについて応答する。これらの作業により糖の消化について理解する。	実験結果・考察等をレポートにまとまる。これらに要する時間は1時間以上とする。
第11回	膵臓プロテアーゼ活性	膵臓トリプシン活性を測定し、蛋白質の消化を調べる。各グループごとに実験結果について考察し、実験終了時に担当教員に報告する。教員から質疑があるのでこれについて応答する。これらの作業により蛋白質の消化について理解する。	予習：胃、小腸内における蛋白質の消化酵素について調べておく。復習：実験結果・考察等をレポートにまとまる。これらに要する時間は1時間以上とする。
第12回	膵臓リパーゼ活性	膵臓リパーゼ活性を測定し、脂肪の消化を学ぶ。各グループごとに実験結果について考察し、実験終了時に担当教員に報告する。教員から質疑があるのでこれについて応答する。これらの作業により脂質の消化について理解する。	予習：脂肪の消化、脂質の乳化について調べておく。復習：実験結果・考察等をレポートにまとまる。これらに要する時間は1時間以上とする。
第13回	腸管マルターゼ活性	ラット腸粘膜のマルターゼ活性を測定し、糖の膜消化を学ぶと同時に活性阻害物質についても学ぶ。各グループごとに実験結果について考察し、実験終了時に担当教員に報告する。教員から質疑があるのでこれについて応答する。これらの作業により糖の膜消化について理解する。	予習：糖の膜消化について調べておく。復習：実験結果・考察等をレポートにまとまる。これらに要する時間は1時間以上とする。
第14回	エネルギー代謝	メッツの概念や基礎代謝、活動時消費エネルギー等について理解したうえ、個人の消費エネルギーを計算によって求める。各グループごとに実験結果について考察し、実験終了時に担当教員に報告する。教員から質疑があるのでこれについて応答する。これらの作業により生体内のエネルギー代謝について理解する。	予習：エネルギー代謝（教科書p139～146）について調べておく。復習：結果・考察等をレポートにまとまる。これらに要する時間は1時間以上とする。
第15回	栄養アセスメント	仮想患者の身体計測や各血液検査データを読み、栄養評価の実践を行う。各グループごとに実験結果について考察し、実験終了時に担当教員に報告する。これらの作業により栄養アセスメントの基礎について理解する。	予習：栄養アセスメント（p171～177）について調べておく。復習：結果・考察等をレポートにまとまる。これらに要する時間は1時間以上とする。

教科書

使用しない（レジメを配布する）。

参考書

栄養学領域からみた生理生化学実験 五島孜郎 編 建帛社 Nブックス改訂基礎栄養学 林淳三監修 建帛社

成績評価の方法・基準

学期末試験やレポート(ノート）点等を合計した総合点で60点以上で合格とする。100点満点の学期末試験の素点に実験ノート点（最大20点）、サンプル提供（最大15点）について加点することがある。ただし、合計点が100点を超えた場合でも評価は100点とする。

課題等に対する
フィードバックの方法

実験終了後レポートを各単元ごとに作成し、これを綴り実験ノートを作成すること。ノートは８週目と１５週目の実験終了時に提出する。このノート内容について評価（点数化）しノート最終ページ等に評価点を記載し返却する。

履修のポイント
実験操作のみでなく各測定成分の栄養・生理学的意義をよく理解すること。白衣着用のこと。電卓等持参のこと。
オフィス・アワー
授業開講日の１２：３０～１３：２０に１１号館３階第14研究室で行う。ただし、この時間帯以外でも講義・会議・出張等の校務がない場合行うことができることがある。

講義コード	20670001
講義名	応用栄養学Ⅰ
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	４時限
区分	専門科目
必修/選択	必修
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UE-R230
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 増野 弥生	指定なし

授業の概要と教育目標

少子・高齢化社会を迎え、子供たちの健康の保持・増進を図ることはもとより、次世代を担う思春期、青年期への正しい食生活の知識の普及、成人期の生活習慣病の予防、高齢期の自立した健康な暮らし、これらのどのライフステージでも日常の食生活が健康に深く関わっている。各ライフステージの正しい食生活について修得することを目的とする。妊娠期、授乳期、新生児期、乳児期、幼児期、学童期、思春期、成人期、閉経期（更年期）、高齢期の各ライフステージについて生理的・精神的特徴を踏まえ、栄養状態の変化、栄養アセスメントの方法、栄養ケアのあり方について学ぶ。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマポリシーの関連として、多様な対象や人間のライフステージ・ライフサイクルに沿って、利用者の身体の状況、栄養状態、生活習慣に係わる栄養・食事管理に関して必要な知識や技術の習得を目指し、各ライフステージの正しい食生活について修得する。

到達目標

各ライフステージに応じた生理的特徴や栄養アセスメント指標、病態・疾患、栄養ケアプランまでの栄養管理に必要な知識を修得することができる。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	栄養管理 発育・発達・加齢	栄養管理、栄養アセスメント 【アクティブラーニング】 ケーススタディからアセスメントシートに記入する	予習：テキスト第1章を読んでくる90分 復習：配布プリントを見直す
第2回	妊娠期①	妊娠期、分娩期、産褥期の栄養アセスメント、栄養と病態・疾患、栄養ケアのあり方	予習：テキスト妊娠期の章を読んでくる90分

			復習：配布プリントを見直す 90分
第3回	妊娠期②	妊娠期の栄養アセスメント、栄養と病態・疾患、栄養ケアのあり方 【アクティブラーニング】 ケーススタディからアセスメントシートに記入する	予習：テキスト妊娠期の章を読んでくる 90分 復習：配布プリントを見直す 90分
第4回	妊娠期③	分娩期、産褥期の栄養アセスメント、栄養と病態・疾患、栄養ケアのあり方	予習：テキスト妊娠期の章を読んでくる 90分 復習：配布プリントを見直す 90分
第5回	授乳期	授乳期の生理的特徴、栄養アセスメント、栄養と病態･疾患、栄養ケアのあり方 【アクティブラーニング】 ケーススタディからアセスメントシートに記入する	予習：テキスト授乳婦の章を読んでくる 90分 復習：配布プリントを見直す 90分
第6回	新生児期・乳児期①	新生児期の生理的特徴、栄養アセスメント、栄養と病態･疾患、栄養補給法、栄養ケアのあり方	予習：テキスト新生児期・乳児期の章を読んでくる 90分 復習：配布プリントを見直す 90分
第7回	新生児期・乳児期②	乳児期の生理的特徴、栄養アセスメント、栄養と病態･疾患、栄養補給法、栄養ケアのあり方	予習：テキスト乳児期の章を読んでくる 90分 復習：配布プリントを見直す 90分
第8回	幼児期	幼児期の成長・発達、栄養状態の変化、栄養アセスメント、栄養と病態・疾患、生活習慣、栄養ケアのあり方 【アクティブラーニング】 ケーススタディからアセスメントシートに記入する	予習：テキスト幼児期の章を読んでくる 90分 復習：配布プリントを見直す 90分
第9回	学童期	学童期の成長・発達、栄養状態の変化、栄養アセスメント、栄養と病態・疾患、生活習慣、栄養ケアのあり方 【アクティブラーニング】 ケーススタディからアセスメントシートに記入する	予習：テキスト学童期の章を読んでくる 90分 復習：配布プリントを見直す 90分
第10回	思春期	思春期の成長・発達、栄養状態の変化、栄養アセスメント、栄養と病態・疾患、生活習慣、栄養ケアのあり方	予習：テキスト思春期の章を読んでくる 90分 復習：配布プリントを見直す 90分
第11回	成人期①	成人期（青年期）の生理的特徴、栄養アセスメント、栄養と病態･疾患、栄養補給法、栄養ケアのあり方と栄養状態 【アクティブラーニング】 ケーススタディからアセスメントシートに記入する	予習：テキスト成人期の章を読んでくる 90分 復習：配布プリントを見直す 90分
第12回	成人期	成人期（壮年期・実年期）の生理的特徴、栄養アセスメント、栄養と病態･疾患、栄養補給法、栄養	予習：テキスト成人期の章を読んでくる 90分

	②	ケアのあり方と栄養状態	復習：配布プリントを見直す 90分
第13回	閉経期(更年期)	更年期の身体の変化、栄養アセスメント、栄養と病態・疾患、栄養ケアのあり方	予習：テキスト更年期の章を読んでくる 90分 復習：配布プリントを見直す 90分
第14回	高齢期①	高齢期の生理的特徴、栄養アセスメント 【アクティブラーニング】 ケーススタディからアセスメントシートに記入する	予習：テキスト「高齢者」の章を読んでくる 90分 復習：配布プリントを見直す 90分
第15回	高齢期②	高齢期の栄養と病態･疾患、栄養補給法、栄養ケアのあり方と栄養状態	予習：テキスト「高齢者」の章を読んでくる 90分 復習：配布プリントを見直す 90分

教科書

五明紀春・渡邉早苗・小原郁夫・山田哲雄 編著、「応用栄養学」、朝倉書店

参考書

日本人の食事摂取基準（2015年版）第一出版

成績評価の方法・基準

単位認定 60点以上
前期定期試験（定期試験80%、小テスト20%を総合的に評価する）

**課題等に対する
フィードバックの方法**

授業内で行う確認テストは添削した後、講義期間中にフィードバックする。

履修のポイント

学習内容は、他の基礎科目と結びつけて理解をすること。
シラバスを参考に予習を行なうこと。テキストを読んでくること。
授業の内容を復習し、各自のノートにポイントをまとめておくこと。

オフィス・アワー

水・木・金曜日の昼休み、１１号館１８研究室にて対応

講義コード	20680001
講義名	応用栄養学 II
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	２時限
区分	専門科目
必修/選択	必修
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UE-R241
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 増野 弥生	指定なし

授業の概要と教育目標

前半では、栄養管理に必要な栄養アセスメントについて、その方法・項目・意味などについて学ぶ。後半は、日本人の食事摂取基準（２０１５年版）の食事摂取基準策定の基礎理論についてエネルギー、各栄養素の策定方法やその数値の意味について学ぶ。各ライフステージに適した栄養管理は、管理栄養士にとって大変重要である。健康維持・増進するための栄養管理について、その方法や指標、特に食事摂取基準の策定の知識、数値の意味を理解できる。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマポリシーの関連として、「3.多様な対象や人間のライフステージ・ライフサイクルに沿って、利用者の身体の状況、栄養状態に関して必要な知識や技術の修得している」に基づき、人間の健康を規定する要因として幅広く社会・環境を科学的に理解し、栄養管理に必要な知識を身につけることを目指すものとする。

到達目標

各ライフステージに応じた栄養アセスメントの知識、ケアプログラムを作成する知識を身につけることができる。食事摂取基準値の策定根拠や数値の意味を理解することができる。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	栄養ケア・マネジメント①	栄養ケア・マネジメントの概念、栄養スクリーニング 栄養アセスメント （栄養アセスメントの意義と目的） 栄養アセスメントの方法 （身体計測指標） 【アクティブラーニング】 ケーススタディからア	予習：応用栄養学Ｉのテキスト 第1章、第2章、第3章を読んでくること 90分 復習：配布資料を見直す 90分

		セスメントシートに記入する	
第2回	栄養ケア・マネジメント②	栄養アセスメントの方法 （臨床検査指標） 栄養アセスメントの方法 （食事調査方法他） 【アクティブラーニング】 ケーススタディからアセスメントシートに記入する	予習：応用栄養学Ⅰのテキスト 第1章、第2章、第3章を読んでくること 90分 復習：配布資料を見直す 90分
第3回	栄養ケア・マネジメント③	栄養ケア計画の実施、モニタリング、評価、フィードバック （目標設定・実施・評価） 【アクティブラーニング】 ケーススタディからアセスメントシートに記入する	予習：応用栄養学Ⅰのテキスト 第1章、第2章、第3章を読んでくること 90分 復習：配布資料を見直す 90分
第4回	食事摂取基準の基本的理解	食事摂取基準の概要と各指標	予習：「日本人の食事摂取基準」の食事摂取基準の概要について読んでくること 90分 復習：配布資料を見直す 90分
第5回	成人期の策定の機序①	エネルギー・エネルギー摂取量の過不足の評価方法	予習：「日本人の食事摂取基準」のエネルギー摂取量ついて読んでくること 90分 復習：配布資料を見直す 90分
第6回	成人期の策定の機序②	たんぱく質の指標と策定根拠	予習：「日本人の食事摂取基準」のたんぱく質の章を読んでくること 90分 復習：配布資料を見直す 90分
第7回	成人期の策定の機序③	炭水化物の指標と策定根拠	予習：「日本人の食事摂取基準」の炭水化物の章を読んでくること 90分 復習：配布資料を見直す 90分
第8回	成人期の策定の機序④	脂質の指標と策定根拠	予習：「日本人の食事摂取基準」の脂質の章を読んでくること 90分 復習：配布資料を見直す 90分
第9回	成人期の策定の機序⑤	エネルギー産生栄養素バランスの指標と策定根拠	予習：「日本人の食事摂取基準」のエネルギー産生栄養素バランスの章を読んでくること 90分 復習：配布資料を見直す 90分
第10回	成人期の策定の機序⑥	ビタミン①（脂溶性ビタミン）の指標と策定根拠	予習：「日本人の食事摂取基準」の脂溶性ビタミンの章を読んでくること 90分 復習：配布資料を見直す 90分
第11回	成人期の策定の機序⑦	ビタミン②（水溶性ビタミン）の指標と策定根拠	予習：「日本人の食事摂取基準」の水溶性ビタミンの章を読んでくること 90分 復習：配布資料を見直す 90分
第12回	成人期の策定の機序⑧	ミネラル①（多量ミネラル）の指標と策定根拠	予習：「日本人の食事摂取基準」の食事摂取基準の多量ミネラルの章を読んでくること 90分 復習：配布資料を見直す 90分
第13回	成人期の策定の機序⑨	ミネラル②（微量ミネラル）の指標と策定根	予習：「日本人の食事摂取基準」の微量ミネラルの章を読んでくること 90分

		拠	復習：配布資料を見直す 90分
第14回	ライフステージ別の策定の機序①	乳幼児・高齢者の食事摂取基準の概要と各指標 【アクティブラーニング】 ケーススタディからアセスメントシートに記入する	予習：「日本人の食事摂取基準」のライフステージ別の策定（乳幼児・高齢者）について読んでくること 90分 復習：配布資料を見直す 90分
第15回	ライフステージ別の策定の機序②	妊産婦の食事摂取基準の概要と各指標 【アクティブラーニング】 ケーススタディからアセスメントシートに記入する	予習：「日本人の食事摂取基準」のライフステージ別の策定（妊産婦）について読んでくること 90分 復習：配布資料を見直す 90分

教科書

「応用栄養学」五明紀春・渡邉早苗・小原郁夫・山田哲雄 編著 （朝倉書店）
「日本人の食事摂取基準（2015年版）」 第一出版

参考書

特になし

成績評価の方法・基準

単位認定 60点以上
定期試験（定期試験80%、小テスト・提出物20% を総合して評価する）

**課題等に対する
フィードバックの方法**

課題プリント・小テストは添削後、返却する。

履修のポイント

配布プリント・小テストで重要な事柄を確認し、必ず復習を行なうこと。

オフィス・アワー

月・火・水・金曜日の昼休み、１１号館１８研究室にて対応する

講義コード	20690001
講義名	応用栄養学Ⅲ
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	２時限
区分	専門科目
必修/選択	必修
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UE-R250
学年	3学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 増野 弥生	指定なし

授業の概要と教育目標

本講義では、前半は食事摂取基準策定の基礎理論をふまえ、ライフステージ別にエネルギーや栄養素等の策定根拠やその数値の意味について学ぶ。後半では、運動・スポーツと栄養管理、特殊環境と栄養について、生理的特徴と栄養補給法について学ぶ。各ライフステージに適した栄養管理、健康・スポーツ及び特殊環境の栄養管理を行う上で必要な基礎知識を習得することができる。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマポリシーとの関連として、「3.多様な対象や人間のライフステージ・ライフサイクルに沿って、利用者の身体の状況、栄養状態、生活習慣に係る栄養・食事管理に関して必要な知識や技術を修得している」に基づき、各ライフステージに適した栄養管理、健康・スポーツ及び特殊環境の栄養管理を行う上で必要な基礎知識を身につける。将来的な展望としては、これまでの学習を統合・発展させ、多様な社会のニーズ、変化に対応できる知識・技術を身につけ、実践的な職業人として活躍できる知識・技術の習得を目指すものとする。

到達目標

各ライフステージの食摂取基準策定根拠を理解し、運動時や特殊環境に適した栄養管理を立てることができる。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	成人期の食事摂取基準	成人期の食事摂取基準の基礎的理解のまとめ 【アクティブラーニング】 ケーススタディからアセスメントシートに記入する	予習：テキスト第1章、第9章を読んでくること 「日本人の食事摂取基準 2015年版」の食事摂取基準の基礎的理解について読んでくること 90分 復習：配布資料を見直し、まとめる 90分

第2回	乳児・小児の食事摂取基準①	食事摂取基準で対象となる乳児・小児の特性	予習：テキスト第5章、第6章を読んでくること 「日本人の食事摂取基準 2015年版」の乳幼児の食事摂取基準について読んでくること 90分 復習：配布資料を見直し、まとめる 90分
第3回	乳児・小児の食事摂取基準②	乳児・小児の食事摂取基準策定根拠 【アクティブラーニング】 ケーススタディからアセスメントシートに記入する	予習：テキスト第5章、第6章を読んでくること 「日本人の食事摂取基準 2015年版」の乳幼児の食事摂取基準について読んでくること 90分 復習：配布資料を見直し、まとめる 90分
第4回	妊婦・授乳婦の食事摂取基準①	食事摂取基準で対象となる妊婦・授乳婦の特性	予習：テキスト第4章、第5章を読んでくること 「日本人の食事摂取基準 2015年版」の妊婦・授乳婦の食事摂取基準について読んでくること 90分 復習：配布資料を見直し、まとめる 90分
第5回	妊婦・授乳婦の食事摂取基準②	妊婦・授乳婦の食事摂取基準策定根拠 【アクティブラーニング】 ケーススタディからアセスメントシートに記入する	予習：テキスト第4章、第5章を読んでくること 「日本人の食事摂取基準 2015年版」の妊婦・授乳婦の食事摂取基準について読んでくること 90分 復習：配布資料を見直し、まとめる 90分
第6回	高齢者の食事摂取基準①	食事摂取基準で対象となる高齢者の特性	予習：テキスト第10章を読んでくること 「日本人の食事摂取基準 2015年版」の高齢者の食事摂取基準について読んでくること 90分 復習：配布資料を見直し、まとめる 90分
第7回	高齢者の食事摂取基準②	高齢者の食事摂取基準策定根拠 【アクティブラーニング】 ケーススタディからアセスメントシートに記入する	予習：テキスト第10章を読んでくること 「日本人の食事摂取基準 2015年版」の高齢者の食事摂取基準について読んでくること 90分 復習：配布資料を見直し、まとめる 90分
第8回	運動・スポーツと栄養管理①	運動とエネルギー代謝 健康増進と運動 【アクティブラーニング】 ケーススタディからアセスメントシートに記入する	予習：テキスト第11章を読んでくること 90分 復習：配布資料を見直し、まとめる 90分
第9回	運動・スポーツと栄養管理②	スポーツと体力 トレーニングと栄養補給	予習：テキスト第11章を読んでくること 90分 復習：配布資料を見直し、まとめる 90分
第10回	特殊環境と栄養管理①	ストレス時の栄養管理、生体リズムと栄養	予習：テキスト第12章を読んでくること 90分 復習：配布資料を見直し、まとめる 90分
第11回	特殊環境と栄養管理②	高温環境・低温環境時の栄養管理、災害時の栄養管理	予習：テキスト第13章を読んでくること 90分 復習：配布資料を見直し、まとめる 90分
	特殊環境	高圧環境・低圧環境	

第12回	と栄養管理③	時の栄養管理、無重力と栄養管理	予習：テキスト第13章を読んでくること 90分 復習：配布資料を見直し、まとめる 90分
第13回	成長、発達、加齢①	成長と発達に伴う身体的・精神的変化と栄養管理	予習：テキスト第2章を読んでくること 90分 復習：配布資料を見直し、まとめる 90分
第14回	成長、発達、加齢②	加齢に伴う身体的・精神的変化と栄養管理 【アクティブラーニング】 ケーススタディからアセスメントシートに記入する	予習：テキスト第2章を読んでくること 90分 復習：配布資料を見直し、まとめる 90分
第15回	各ライフステージの栄養管理	各ライフステージの食事摂取基準策定根拠のまとめ 各ライフステージの栄養管理プロセス	予習：テキスト第1章～第3章を読んでくること 90分 復習：配布資料を見直し、まとめる 90分

教科書
「応用栄養学」五明紀春・渡邉早苗・小原郁夫・山田哲雄 編著 （朝倉書店） 「日本人の食事摂取基準（2015年版）」第一出版
参考書
特になし
成績評価の方法・基準
単位認定 60点以上 前期定期試験（定期試験80％、小テスト・提出物20％を総合して評価する）
課題等に対する フィードバックの方法
課題レポート・小テストは添削後、返却する。
履修のポイント
応用栄養学Ⅰで学んだ各ライフステージの特徴と、応用栄養学Ⅱで学んだ成人期の食事摂取基準の各栄養素の策定根拠について復習し、各ライフステージの食事摂取基準の策定根拠について十分に予習を行なうこと。配布プリント、小テストで重要な事柄を修得すること。
オフィス・アワー
水・木・金曜日の昼休み、１１号館１８研究室にて対応する

講義コード	20700001
講義名	応用栄養学実習（Aクラス）
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期
講義区分	実験・実習
基準単位数	1
代表曜日	金曜日
代表時限	１時限
区分	専門科目
必修/選択	必修
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UE-R260
学年	3学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 増野 弥生	指定なし

授業の概要と教育目標

①～⑤の各ライフステージの対象者について栄養ケア・マネジメントを学ぶ。PDCAサイクルに基づき栄養アセスメント・食事ケア計画の作成と食事の調整・供食実習を行い、各ライフステージの食事摂取基準を理解し、対象者に適した栄養ケア・マネジメントのスキルを身に付ける。
①妊娠期・授乳期の食事
②乳児の調乳・離乳食の調整
③成人期の食事
④スポーツ選手の食事
⑤高齢期の食事

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマポリシーとの関連として、「3.多様な対象や人間のライフステージ・ライフサイクルに沿って、利用者の身体の状況、栄養状態、生活習慣に係わる栄養・食事管理、栄養教育、臨床栄養並びに公衆栄養、給食経営分野に関して必要な知識や技術を修得している」に基づき、各対象者に適した栄養ケア・マネジメントのスキルを身に付けることを目指すものとする。

到達目標

・各ライフステージの特性を理解する。
・各ライフステージにおいて対象者に応じた栄養アセスメントを実施し、ケアプログラムを作成するスキルを身につける。
・各対象者の栄養管理を、食事計画やその実習を通して習得する。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	成人期の栄養ケア・マネ	（演習）実習･演習の内容説明。班分け、実習・演習の注意事項、栄養ケア・マネジメント（栄養アセスメント及び栄養ケア・計画の作成）について女子大生を対象者として学ぶ。	予習：テキスト第1章及び応用栄養学Ⅰで使用したテキストをよく読んでくる60分

	ジメント① 	【アクティブ・ラーニング】 アセスメントシートの作成、評価表を用い、理解を深める。：グループワーク	復習：配布プリントを見直す。ノート整理を行う。 60分
第2回	成人期の栄養ケア・マネジメント②	（演習）栄養ケア・マネジメント（栄養アセスメント及び栄養ケア・計画の作成）について女子大生を対象者として学ぶ。 【アクティブ・ラーニング】 発表(プレゼンテーション）：アセスメントシートを作成・パワーポイントを用いて発表を行い、理解を深める。	予習：テキスト第1章及び応用栄養学Ⅰで使用したテキストをよく読んでくる60分 復習：配布プリントを見直す。ノート整理を行う。 60分
第3回	高齢期の栄養ケア・マネジメント管理①	（演習）高齢期の生理的特徴を学び栄養アセスメント・食事計画を行う。 【アクティブ・ラーニング】アセスメントシートの作成、評価表を用い、理解を深める。：グループワーク	予習：テキスト第12章及び応用栄養学Ⅰで使用したテキストをよく読んでくる60分 復習：配布プリントを見直す。ノート整理を行う。 60分
第4回	高齢期の栄養ケア・マネジメント管理②	（演習）後期高齢者の食事の調整・供食を通して高齢者の栄養ケア・マネジメントについて学習する。 【アクティブ・ラーニング】 アセスメントシートの作成を行いパワーポイントを用いて発表し、理解を深める：ディスカッション、グループワーク	予習：テキスト第12章及び応用栄養学Ⅰで使用したテキストをよく読んでくる60分 復習：配布プリントを見直す。ノート整理を行う。 60分
第5回	高齢期の栄養ケア・マネジメント管理③	（実習）後期高齢者の食事の調整・供食を通して高齢者の栄養ケア・マネジメントについて学習する。 【アクティブ・ラーニング】 提供献立によるグループワーク	予習：テキスト第12章及び応用栄養学Ⅰで使用したテキストをよく読んでくる60分 復習：配布プリントを見直す。ノート整理を行う。 60分
第6回	妊娠時の栄養ケア・マネジメント①	（演習）妊娠期の生理的特徴を理解し、栄養アセスメント・食事計画を行う。 【アクティブ・ラーニング】 アセスメントシートの作成を行い理解を深める：グループワーク	予習：テキスト第5章及び応用栄養学Ⅰで使用したテキストをよく読んでくる60分 復習：配布プリントを見直す。ノート整理を行う。 60分
第7回	妊娠時の栄養ケア・マネジメント②	（演習）妊娠期の生理的特徴を理解し、栄養アセスメント・食事計画を行う。 【アクティブ・ラーニング】 自主献立作成・発注：グループワーク	予習：テキスト第5章及び応用栄養学Ⅰで使用したテキストをよく読んでくる60分 復習：配布プリントを見直す。ノート整理を行う。 60分
			予習：テキスト第5章及び応用栄養学Ⅰで使用したテキ

第8回	妊娠時の栄養ケア・マネジメント③	（実習）妊娠後期妊婦の食事の調整・供食実習を通して妊婦・授乳婦の栄養ケア・マネジメントについて学習する 【アクティブ・ラーニング】自主献立の実習：グループワーク	ストをよく読んでくる60分 復習：配布プリントを見直す。ノート整理を行う。 60分 ・テキスト ・電卓 ・成分表 ・応用栄養学Ⅰで使用したテキスト ・食事摂取基準2015年版 ・料理集
第9回	妊娠時の栄養ケア・マネジメント④	（演習）妊娠後期妊婦の食事の調整・供食実習を通して妊婦・授乳婦の栄養ケア・マネジメントについて、班ごとにPPを作成し発表する。 【アクティブ・ラーニング】 作成したアセスメントシート・献立を使用し、妊娠時の栄養ケア・マネジメントをパワーポイントを用いて発表する。：プレゼンテーション、グループワーク	予習：テキスト 第5章及び応用栄養学Ⅰで使用したテキストをよく読んでくる60分 復習：配布プリントを見直す。ノート整理を行う。 60分 ・白衣一式など調理実習ができる服装 ・作成したアセスメントシート、 発注表、献立表
第10回	乳児期の栄養ケア・マネジメント	（実習）調乳と調乳器具の滅菌。離乳食の調整・供食実習を通して、乳児期の栄養ケア・マネジメントについて学習する。 【アクティブ・ラーニング】 調乳・提供献立(離乳食）：グループワーク	予習：テキスト 第6章及び応用栄養学Ⅰで使用したテキストをよく読んでくる60分 復習：配布プリントを見直す。ノート整理を行う。 60分
第11回	思春期の栄養ケア・マネジメント	（演習）思春期の食事の調整・供食を通して思春期の栄養ケア・マネジメントについて学習する。 【アクティブ・ラーニング】 アセスメントシートの作成、献立作成、発注：ディスカッション、グループワーク	予習：テキスト 第8章、第9章及び応用栄養学Ⅰで使用したテキストをよく読んでくる 60分 復習：配布プリントを見直す。ノート整理を行う。 60分
第12回	思春期の栄養ケア・マネジメント	(実習）思春期の食事の調整・供食を通して思春期の栄養ケア・マネジメントについて学習する。 【アクティブ・ラーニング】 アセスメントシートの作成を行い理解を深める：ディスカッション、グループワーク	予習：テキスト 第8章、第9章及び応用栄養学Ⅰで使用したテキストをよく読んでくる 60分 復習：配布プリントを見直す。ノート整理を行う。 60分
第13回	運動・スポーツのケア・マネジメント①	（演習）スポーツ時のエネルギー代謝を学び、栄養アセスメントを行い、さらに食事計画を学ぶ。 【アクティブ・ラーニング】 献立作成・発注表作成：ディスカッション、グループワーク	予習：テキスト 第13章及び応用栄養学Ⅰで使用したテキストをよく読んでくる 60分 復習：配布プリント

			を見直す。ノート整理を行う。 60分
第14回	運動・スポーツのケア・マネジメント②	（実習）スポーツ時のエネルギー代謝を学び、栄養アセスメントを行い、さらに食事計画を行う。【アクティブ・ラーニング】自主献立の実習：グループワーク	予習：テキスト第13章及び応用栄養学Ⅰで使用したテキストをよく読んでくる 60分 復習：配布プリントを見直す。ノート整理を行う。 60分
第15回	運動・スポーツのケア・マネジメント③	（発表）プロスポーツ選手の食事の調整・供食実習を通して、スポーツ時のエネルギー代謝を学び、栄養アセスメント、食事計画を検討する。【アクティブ・ラーニング】作成したアセスメントシート・献立を使用し、スポーツ選手の栄養ケア・マネジメントをパワーポイントを用いて発表する。：プレゼンテーション、ディスカッション、グループワーク	、予習：テキスト第13章及び応用栄養学Ⅰで使用したテキストをよく読んでくる 60分 復習：配布プリントを見直す。ノート整理を行う。 60分

教科書

「応用栄養学実習」建白社

参考書

「応用栄養学」朝倉書店（応用栄養学Ⅰ・Ⅱで使用した教科書）
「日本人の食事摂取基準（2015年版）」

成績評価の方法・基準

単位認定 60点以上。
本試験（50%）、レポートなど提出物（50%)を総合して評価する。

**課題等に対する
フィードバックの方法**

応用栄養学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで学んだ各ライフステージの特徴と食事摂取基準（2015年版）を復習しておく。献立、アセスメントシートは添削後、返却する。

履修のポイント

課題は、出来るだけ授業時間内にレポートにまとめ、提出期限を厳守する。
個人レポートは各自完成させてからグループワークに参加する。
調理実習時は管理栄養士を目指す学生としての自覚をもち、体調管理と清潔な身だしなみを心がける。

オフィス・アワー

月・火・水・金曜日の昼休み、１１号館１８研究室にて対応する

講義コード	20700002
講義名	応用栄養学実習（Bクラス）
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期
講義区分	実験・実習
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	１時限
区分	専門科目
必修/選択	必修
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UE-R260
学年	3学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 増野 弥生	指定なし

授業の概要と教育目標

①～⑤の各ライフステージの対象者について栄養ケア・マネジメントを学ぶ。PDCAサイクルに基づき栄養アセスメント・食事ケア計画の作成と食事の調整・供食実習を行い、各ライフステージの食事摂取基準を理解し、対象者に適した栄養ケア、・マネジメントのスキルを身につける。
①妊娠期・授乳期の食事
②乳児の調乳・離乳食の調整
③成人期の食事
④スポーツ選手の食事
⑤高齢期の食事

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマポリシーとの関連として、「3.多様な対象や人間のライフステージ・ライフサイクルに沿って、利用者の身体の状況、栄養状態、生活習慣に係わる栄養・食事管理、栄養教育、臨床栄養ならびに公衆栄養、給食経営分野に関して必要な知識や技術を修得している」に基づき、各対象者に適した栄養ケア・マネジメントのスキルを身につけることを目指すものとする。

到達目標

・各ライフステージの特性を理解できる。
・各ライフステージにおいて対象者に応じた栄養アセスメントを実施し、ケアプログラムを作成するスキルを身につける。
・各対象者の栄養管理を、食事計画やその実習を通して習得する。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	成人期の栄養ケア・マネ	（演習）実習･演習の内容説明。班分け、実習・演習の注意事項。栄養ケア・マネジメント（栄養アセスメント及び栄養ケア・計画の作成）について女子大生を対象者として学ぶ。 【アクティブ・ラーニング】	予習：テキスト第1章及び応用栄養学Ⅰで使用したテキストをよく読んでくる60分

	ジメント① 	アセスメントシートの作成、評価表を用い、理解を深める。 ：グループワーク	復習：配布プリントを見直す。ノート整理を行う。 60分
第2回	成人期の栄養ケア・マネジメント②	（演習）栄養ケア・マネジメント（栄養アセスメント及び栄養ケア・計画の作成）について女子大生を対象者として学ぶ。 【アクティブ・ラーニング】 発表(プレゼンテーション）：アセスメントシートを作成・パワーポイントを用いて発表を行い、理解を深める。	予習：テキスト第1章及び応用栄養学Ⅰで使用したテキストをよく読んでくる60分 復習：配布プリントを見直す。ノート整理を行う。 60分
第3回	高齢期の栄養ケア・マネジメント管理①	（演習）高齢期の生理的特徴を学び栄養アセスメント・食事計画を行う。 【アクティブ・ラーニング】アセスメントシートの作成、評価表を用い、理解を深める。：グループワーク	予習：テキスト第12章及び応用栄養学Ⅰで使用したテキストをよく読んでくる60分 復習：配布プリントを見直す。ノート整理を行う。 60分
第4回	高齢期の栄養ケア・マネジメント管理②	（演習）後期高齢者の食事の調整・供食を通して高齢者の栄養ケア・マネジメントについて学習する。 【アクティブ・ラーニング】 アセスメントシートの作成を行いパワーポイントを用いて発表し、理解を深める。：ディスカッション、グループワーク	予習：テキスト第12章及び応用栄養学Ⅰで使用したテキストをよく読んでくる60分 復習：配布プリントを見直す。ノート整理を行う。 60分
第5回	高齢期の栄養ケア・マネジメント管理③	（実習）後期高齢者の食事の調整・供食を通して高齢者の栄養ケア・マネジメントについて学習する。 【アクティブ・ラーニング】 提供献立によるグループワーク	予習：テキスト第12章及び応用栄養学Ⅰで使用したテキストをよく読んでくる60分 復習：配布プリントを見直す。ノート整理を行う。 60分
第6回	妊娠時の栄養ケア・マネジメント①	（演習）妊娠期の生理的特徴を理解し、学び栄養アセスメント・食事計画を行う。 【アクティブ・ラーニング】 アセスメントシートの作成を行い理解を深める：グループワーク	予習：テキスト第5章及び応用栄養学Ⅰで使用したテキストをよく読んでくる60分 復習：配布プリントを見直す。ノート整理を行う。 60分
第7回	妊娠時の栄養ケア・マネジメント②	（演習）妊娠期の生理的特徴を理解し、学び栄養アセスメント・食事計画を行う。 【アクティブ・ラーニング】 自主献立作成・発注：グループワーク	予習：テキスト第5章及び応用栄養学Ⅰで使用したテキストをよく読んでくる60分 復習：配布プリントを見直す。ノート整理を行う。 60分
			予習：テキスト第5章及び応用栄養学Ⅰで使用したテキ

第8回	妊娠時の栄養ケア・マネジメント③	（実習）妊娠後期妊婦の食事の調整・供食実習を通して妊婦・授乳婦の栄養ケア・マネジメントについて学習する 【アクティブ・ラーニング】自主献立の実習：グループワーク	ストをよく読んでくる60分 復習：配布プリントを見直す。ノート整理を行う。 60分 ・テキスト ・電卓 ・成分表 ・応用栄養学Ⅰで使用したテキスト ・食事摂取基準2015年版 ・料理集
第9回	妊娠時の栄養ケア・マネジメント④	（演習）妊娠後期妊婦の食事の調整・供食実習を通して妊婦・授乳婦の栄養ケア・マネジメントについて、班ごとにPPを作成し発表する。 【アクティブ・ラーニング】 作成したアセスメントシート・献立を使用し、妊娠時の栄養ケア・マネジメントをパワーポイントを用いて発表する。：プレゼンテーション、グループワーク	予習：テキスト 第5章及び応用栄養学Ⅰで使用したテキストをよく読んでくる60分 復習：配布プリントを見直す。ノート整理を行う。 60分 ・白衣一式など調理実習ができる服装 ・作成したアセスメントシート、 発注表、献立表
第10回	乳児期の栄養ケア・マネジメント	（実習）調乳と調乳器具の滅菌。離乳食の調整・供食実習を通して、乳児期の栄養ケア・マネジメントについて学習する。 【アクティブ・ラーニング】 調乳・提供献立(離乳食）：グループワーク	予習：テキスト 第6章及び応用栄養学Ⅰで使用したテキストをよく読んでくる60分 復習：配布プリントを見直す。ノート整理を行う。 60分
第11回	思春期の栄養ケア・マネジメント	（演習）思春期の食事の調整・供食を通して思春期の栄養ケア・マネジメントについて学習する。 【アクティブ・ラーニング】 アセスメントシートの作成、献立作成、発注：ディスカッション、グループワーク	予習：テキスト 第8章、第9章及び応用栄養学Ⅰで使用したテキストをよく読んでくる 60分 復習：配布プリントを見直す。ノート整理を行う。 60分
第12回	思春期の栄養ケア・マネジメント	(実習）思春期の食事の調整・供食を通して思春期の栄養ケア・マネジメントについて学習する。 【アクティブ・ラーニング】 アセスメントシートの作成を行い理解を深める：ディスカッション、グループワーク	予習：テキスト 第8章、第9章及び応用栄養学Ⅰで使用したテキストをよく読んでくる 60分 復習：配布プリントを見直す。ノート整理を行う。 60分
第13回	運動・スポーツのケア・マネジメント①	（演習）スポーツ時のエネルギー代謝を学び、栄養アセスメントを行いさらに食事計画を行う。 【アクティブ・ラーニング】 献立作成・発注表作成：ディスカッション、グループワーク	予習：テキスト 第13章及び応用栄養学Ⅰで使用したテキストをよく読んでくる 60分 復習：配布プリント

			を見直す。ノート整理を行う。 60分
第14回	運動・スポーツのケア・マネジメント②	（実習）スポーツ時のエネルギー代謝を学び、栄養アセスメントを行いさらに食事計画を行う。 【アクティブ・ラーニング】自主献立の実習：グループワーク	予習：テキスト第13章及び応用栄養学Ⅰで使用したテキストをよく読んでくる 60分 復習：配布プリントを見直す。ノート整理を行う。 60分
第15回	運動・スポーツのケア・マネジメント③	（発表）プロスポーツ選手の食事の調整・供食実習を通してスポーツ時のエネルギー代謝を学び、栄養アセスメント、食事計画を検討する。 【アクティブ・ラーニング】作成したアセスメントシート・献立を使用し、スポーツ選手の栄養ケア・マネジメントをパワーポイントを用いて発表する。：プレゼンテーション、ディスカッション、グループワーク	、予習：テキスト第13章及び応用栄養学Ⅰで使用したテキストをよく読んでくる 60分 復習：配布プリントを見直す。ノート整理を行う。 60分

教科書
「応用栄養学実習」建白社
参考書
「応用栄養学」朝倉書店（応用栄養学Ⅰ・Ⅱで使用した教科書）、「日本人の食事摂取基準（2015年版）」
成績評価の方法・基準
単位認定 60点以上。 本試験（50%）、レポートなど提出物（50%)を総合して評価する。
課題等に対する フィードバックの方法
応用栄養学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで学んだ各ライフステージの特徴と食事摂取基準（2015年版）を復習しておく。献立、アセスメントシートは添削後、返却する。
履修のポイント
課題は、出来るだけ授業時間内にレポートにまとめ、提出期限を厳守する。 個人レポートは各自完成させてからグループワークに参加する。 調理実習時は管理栄養士を目指す学生としての自覚をもち、体調管理と清潔な身だしなみを心がける。
オフィス・アワー
月・火・水・金曜日の昼休み、１１号館１８研究室にて対応する

講義コード	20710001
講義名	栄養教育論Ⅰ
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	３時限
区分	専門科目
必修/選択	必修
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UE-R231
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 宮原 公子	指定なし

授業の概要と教育目標

栄養教育は、対象者の健康や生活の質（QOL）の向上に向けて実践するもので、同時に管理栄養士の役割や使命ともなるものである。そのためには、基本的事項である栄養教育の概念や栄養教育・指導の歴史、栄養教育計画の立案・実施・評価・検討という一連のPDCAサイクルを回した栄養教育マネジメントを学習する。特に栄養教育計画の立案には、学習者の現状を把握することが重要であるため、アセスメントおよび行動科学の理論について修得する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

栄養教育の対象であるライフステージ・ライフスタイルに応じ、専門性を発揮した栄養教育を実践し、社会が求める管理栄養士の役割を果たすことができる必要な知識や技術を修得している。

到達目標

(1)栄養教育の定義や目標を理解し、管理栄養士の役割や使命を説明できる。
(2)栄養教育における行動変容の理論や行動療法の必要性を理解し、栄養教育実践の場での活用する知識や技術を修得する。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	栄養教育へのアプローチ(1)	○授業内容の説明（進め方・評価方法） ○栄養教育の目的・目標 ○栄養教育の必要性、栄養教育の対象と機会 ○目指す管理栄養士 【アクティブラーニング】 これまで学習を踏まえ、自分が目指す絵管理栄養士の小論文を論理だって記述する。	予習90分：栄養士法第1条を調べておく。 復習90分：目指す管理栄養士の小論文を仕上げる。
			予習90分：栄養教育の目的を調べ

第2回	栄養教育へのアプローチ(2)	○栄養教育・指導の歴史 ○国際的栄養の動向 ○栄養教育と行動科学	ておく。 復習90分：栄養教育の目的・目標をまとめる。予習で調べた内容との相違点を確認する。
第3回	栄養教育の現状と展望(1)	○行動科学理論と栄養教育 ○生活習慣病・健康増進と栄養教育 【アクティブラーニング】 生活習慣病予防と食生活の関連を調べ、小グループ内でディスカッションする。	予習90分：生活習慣病とはを説明できるよう調べておく。 復習90分：生活習慣病と食生活の関連をレポートする。
第4回	栄養教育の現状と展望(2)	○行動療法における問題解決 ○行動療法からみた食行動の特性	予習90分：栄養教育における行動療法とは何かを調べる。 復習90分：栄養教育に行動療法が必要な理由をまとめる。
第5回	栄養教育の現状と展望(3)	○健康増進や生活習慣病に共通したコントロール ○心理的要因、変容に必要条件	予習90分：栄養教育に影響する要因を調べておく。 復習90分：心理的要因、変容に必要な条件をまとめる。
第6回	栄養教育の手法と技術(1)	○カウンセリングの基本 ○カウンセリングとは ○栄養カウンセリング	予習90分：栄養カウンセリングとはを調べておく。 復習90分：カウンセリングの基本をまとめる。予習で調べた内容との相違点を確認する。
第7回	栄養教育の手法と技術(2)	○組織・地域づくりへの展望と食環境づくり ○食環境と栄養教育	予習90分：栄養教育における食環境づくりの方法を調べる。 復習90分：食環境づくりの重要性を事例をあげてまとめる。
第8回	栄養教育のマネジメント(1)	○栄養教育の特性 ○栄養教育の対象 ○栄養教育のマネジメント	予習90分：栄養教育の対象者を調べておく。 復習90分：栄養教育マネジメントの内容をまとめる。
第9回	栄養教育のマネジメント(2)	○栄養教育のマネジメントの実際 ○対象と機会別の事例の演習 【アクティブラーニング】 栄養教育の事例を基に、小グループでディスカッションをして 実際を体験する。	予習90分：栄養教育マネジメントサイクルを調べておく。 復習90分：栄養教育マネジメントサイクルをまとめ、事例をとおして確実に習得する。
第10回	栄養教育とアセスメント(1)	○アセスメントの目的 ○アセスメントの種類･方法 ○情報収集の方法 【アクティブラーニング】 二次データの情報収集方法を演習し、小グループでディスカッションする。	予習90分：アセスメントの意味と種類を調べておく。 復習90分：二次データの入手方法と種類をまとめる。
第11回	栄養教育とアセスメント(2)	○系統的・食行動とアセスメント ○栄養・食生活調査等の実際	予習90分：栄養・食生活のアセスメントの方法を調べておく。 復習90分：栄養・食生活調査の種類や方法をまとめる。
第12回	栄養教育計画の立案と	○栄養教育プログラムの基本 ○栄養教育の目標設定	予習90分：栄養教育プログラムの方法を調べておく。 復習90分：栄養教育の目標設定の

	知識(1)	○教育方法の選択	事例をあげまとめる。
第13回	栄養教育計画の立案と知識(2)	○教材の種類と特性 ・食生活指針 ・食事バランスガイド ・食品群等の活用	予習90分：わが国におけるメジャーな教材は何か調べておく。 復習90分：食生活指針、食事バランスガイドの活用の実際をまとめる。
第14回	栄養教育計画の立案と実践(1)	○栄養教育プログラムの作成 ○栄養・食生活デザインの提示による教育 【アクティブラーニング】 栄養・食生活提示案の立案を演習し、助言を踏まえて作成の実際を体験する。	予習90分：献立計画の持つ役割を調べておく。 復習90分：栄養・食生活デザイン提示案を完成させる。
第15回	栄養教育計画の立案と実践(2)	○プレゼンテーション：二次データを活用した栄養アセスメントの活用 ○行動科学理論の活用 ○授業のまとめ 【アクティブラーニング】 小グループでプレゼンテーションを行い、相互に評価をする。そのことで、授業のまとめとなるようにする。	予習90分：プレゼンテーションの内容を練習しておく。 復習90分：プレゼンテーションので相互評価の内容を整理しておく。授業のまとめをする。
第16回			

教科書

教 科 書：健康科学シリーズ「栄養教育論」改訂4版 丸山千鶴子ほか編著（南江堂）
配布資料：授業概要としてプリント配布

参考書

クエスチョンバンク管理栄養士国家試験解説 （2018版）
楽しく学ぶ献立の教材化の理論と実践 宮原公子編著 （東山書房）

成績評価の方法・基準

単位認定基準60点以上
評価方法：定期試験（80%） 課題・授業の取り組み態度（20%）で評価する。

課題等に対するフィードバックの方法

授業概要を活用し、各自、意欲的に学習に取り組んで欲しい。授業終了時に授業内容の確認・課題・予習として授業の要点をまとめフィードバックする。そのまとめをとおして、管理栄養士の根幹となる栄養教育の学びをとおしてモチベーションを高めていただきたい。

履修のポイント

栄養教育論Ⅰでは、管理栄養士の栄養教育・指導業務に関わる内容を総論的に学習し、栄養教育論Ⅱ･Ⅲ、栄養教育論実習および臨地実習に繋げていく。確認テストや課題レポートを課すことがあるので、積極的に取り組んで欲しい。また、私語、本講義と関係ない作業をすること、無断退席など厳に慎むこと。

オフィス・アワー

曜日：火曜日から金曜日までの4日間
時間：12:45～13:15（昼休み）
場所：11号館3階 19研究室（宮原研究室）

講義コード	20720001
講義名	栄養教育論Ⅱ
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	１時限
区分	専門科目
必修/選択	必修
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UE-R232
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 宮原 公子	指定なし

授業の概要と教育目標

近年の栄養教育の分野では、科学的根拠および理論に基づいて栄養教育の対象者の行動変容を促す企画・実施、その実践活動を評価を組織や社会に発信していく能力を有する人材が期待されている。
本講義では企画する際に社会のニーズを踏まえ、科学的根拠に基づくプログラムの立案、さらに栄養教育の目的・目標、実践・評価時の教育内容や手法について、管理栄養士として必要な基礎知識を習得する。
したがって、講義だけでなく演習を取り入れ能動的な学習ができるように授業をすすめる。

卒業認定・学位授与の方針との関連

ライフステージ・ライフサイクル別の利用者の身体の状況、栄養状態、生活習慣などを把握し、栄養教育に関して必要な知識や技術を修得している。
また、栄養教育マネジメント（計画・実施・評価・改善）に必要な知識と技能に関する基本的事項を修得している。

到達目標

１．社会のニーズや対象者であるライフステージ・スタイルに応じた健康課題、栄養教育の特徴を理解する。
２．PDCAサイクルにしたがって行う栄養教育マネジメントを理解する。
３．管理栄養士が行う栄養教育に必要な知識と技術を統合できる。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	オリエンテーション	○ガイダンス：栄養教育Ⅱの授業概要（授業内容、進め方・評価 方法）の説明 ○栄養教育の機会･対象施設別管理栄養士 ○管理栄養士に必要なプ	予習90分：栄養教育の機会と場を復習しておく。 復習90分：管理栄養士に必要なスキルを学習ノートにまとめる。

		レゼンテーション能力	
第2回	21世紀を担う管理栄養士と栄養教育	○栄養教育と目的・目標と管理栄養士 ○諸外国の管理栄養士と国際的な動向 ○管理栄養士の方向性と課題	予習90分：管理栄養士に社会が求めているものはないかを調べておく。 復習90分：栄養教育の目的と管理栄養士の役割をまとめる。
第3回	対象と場に応じた栄養教育(1)	○ライフステージ・スタイル別栄養教育① ・妊娠期の栄養教育の課題と要点 ・乳幼児期の栄養教育の課題と要点	予習90分：妊娠期・乳幼児期の栄養教育の課題を調べておく。 復習90分：妊娠期・乳幼児期の栄養教育の要点をまとめる。予習で調べたこととの違いを確認する。
第4回	対象と場に応じた栄養教育(2)	○ライフステージ・スタイル別栄養教育②：学童期・思春期① ・学童期・思春期の栄養教育の課題と要点 ・プレゼンテーション計画書の作成 【アクティブラーニング】 二次データを活用した学童期・思春期の健康課題をプレゼン計 画書に起こす。	予習90分：学童期・思春期期の栄養教育の課題を調べておく。 復習90分：学童期・思春期の栄養教育の要点をまとめる。プレゼン計画書を作成準備する。
第5回	対象と場に応じた栄養教育(3)	○ライフステージ・スタイル別栄養教育③：学童期・思春期② ・学童期・思春期の栄養教育の実際 ・健康課題のプレゼンテーション 【アクティブラーニング】 小グループで、作成した栄養教育計画の構想をプレゼンし、 相互に評価する。	予習90分：プレゼンテーションでの内容を練習する。 復習90分：学童期・思春期期の栄養教育の要点をまとめる。評価内容を整理し、次回プレゼンの場に生かせるようにする。
第6回	対象と場に応じた栄養教育(4)	○ライフステージ・スタイル別栄養教育④：成人期・高齢期 ・成人期の栄養教育の課題と要点 ・高齢期の栄養教育の課題と要点	予習90分：成人期・高齢期の栄養教育の課題を調べておく。 復習90分：成人期・高齢期の栄養教育の要点をまとめる。予習で調べたこととの違いを確認する。
第7回	対象と場に応じた栄養教育(5)	○ライフステージ・スタイル別栄養教育⑤ ・障害者の栄養教育の課題と要点 ・傷病者の栄養教育の課題と要点 ・実践事例をとおした理解	予習90分：障害者期・傷病者の栄養教育の課題を調べておく。 復習90分：障害者・傷病者の栄養教育の要点をまとめる。予習で調べたこととの違いを確認する。
		○栄養教育のためのアセ	

第8回	栄養教育マネジメント(1)	スメントの目的と実施・分析・活用 ・栄養アセスメントの重要性 ・栄養アセスメントの分析 ・栄養アセスメントの活用	予習90分：栄養アセスメントとは何かを確認しておく。 復習90分：栄養アセスメントの種類と方法を整理する。
第9回	栄養教育マネジメント(2)	○栄養教育プログラムの作成(1) ・栄養教育全体計画 ・栄養教育目標の設定 【アクティブラーニング】 ワークシート「栄養教育全体計画」作成を練習する。	予習90分：栄養教育のプログラムかを調べておく。 復習90分：栄養教育の目的と管理栄養士の役割をまとめる。
第10回	栄養教育マネジメント(3)	○栄養教育プログラムの作成(2) ・プログラムの作成 ・学習指導案の作成 【アクティブラーニング】 プログラム・学習指導計画案の作成ポイントを演習し、 小グループで検討し合う。	予習90分：学習指導計画案の様式を調べておく。 復習90分：演習したプログラムと学習指導計画案を指定された部分を完成させる。
第11回	栄養教育マネジメント(4)	○栄養教育プログラムの作成(3) ・教材作成 ・教材の提示方法・活用 ・教材作成の要点と実際	予習90分：栄養教育教材の種類を調べておく。 復習90分：栄養教育教材作成の要点を整理しておく。
第12回	栄養教育マネジメント(5)	○栄養教育の実施者の技術 ・栄養教育実施に必要な準備内容 ・栄養教育の評価	予習90分：栄養教育者に必要な技術は何か調べておく。 復習90分：栄養教育者に必要な技術を整理する。予習で調べたこととの違いを確認する。
第13回	栄養教育マネジメント(6)	○PDCAサイクルに従った栄養教育の評価 ・評価の意義 ・評価の方法 ・評価の手順	予習90分：栄養教育におけるPDCAサイクルについて調べておく。 復習90分：栄養教育の目標に対する評価の方法をまとめる。
第14回	栄養教育マネジメント(7)	○栄養教育マネジメントで用いる理論とモデル ・栄養教育における行動科学とは ・行動科学の理論の必要性	予習90分：行動科学とはの意味を調べておく。 復習90分：栄養教育に行動科学の理論の必要性をまとめる。
第15回	栄養教育論Ⅱの授業ま	○授業の要点とまとめ ・栄養教育実施と今後の方向性	予習90分：管理栄養士が行う栄養教育をまとめる。

	とめ	・栄養教育の実践へ繋げる	復習　分：行動科学の理論とモデルと栄養教育における活用のまとめをする。

教科書

教 科 書：健康科学シリーズ「栄養教育論」改訂４版 丸山千鶴子ほか 編著（南江堂）
配布資料：授業概要としてプリントを配布する。

参考書

クエスチョンバンク管理栄養士国家試験解説（2020版）

成績評価の方法・基準

単位認定基準60点以上
評価方法：定期試験（80%） 課題・レポート（10%） 授業への参加度（10%）

課題等に対する
フィードバックの方法

毎回配布する授業概要を活用し、各自、意欲的に学習に取り組んで欲しい。授業終了時に授業の要点（確認 課題 予習）をまとめるので、まとめた内容を確実に学習し、管理栄養士業務の根幹となる栄養教育論の学びをとおして、モチベーションを高めていただきたい。毎回の授業概要を活用してフィードバックする。さらに、授業確認票を毎回双方向で評価するので、有効活用を奨める。

履修のポイント

栄養教育論Ⅱでは、管理栄養士が行う栄養教育の内容を各論的に学習し、栄養教育論Ⅲ、栄養教育論実習Ⅰ・Ⅱに繋げていく。確認テストや課題レポートを課すので、積極的に取り組んで欲しい。また、私語、本講義と関係のない作業をすること、無断退席など厳に慎むこと。

オフィス・アワー

曜日：火曜日から金曜日までの4日間
時間：12:45～13:15
場所：11号館3階 19研究室（宮原研究室）

講義コード	20730001
講義名	栄養教育論Ⅲ
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	３時限
区分	専門科目
必修/選択	必修
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UE-R270
学年	4学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 宮原 公子	指定なし

授業の概要と教育目標

栄養教育においては、個人・個人間、集団や社会の行動変容及び栄養カウセリングの実施に向けて、コミュニケーション技術は必須である。本授業においては、栄養教育のための理論的基礎知識と技法を理解し、既学習を整理し、管理栄養士に必要な「栄養教育力」「マネジメント能力」「コミュニケーション能力」であるスキルをまとめる。教育目標は、栄養教育と行動科学、行動科学の理論とモデル、栄養カウンセリング、行動変容技法の概念、組織・地域づくりへの展開及び食環境づくりとの関連をとおして、理論と実践を結びつけて学修することを目的とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

これまでの学習した専門基礎科目と専門科目（基礎栄養学・応用栄養学、臨床栄養学、公衆栄養学、給食経営管理論）を統合･発展させる。そのことにより、多様な社会のニーズ、変化に対応できる知識・技術を身につけ、実践栄養教育の場において職業人として活躍できる知識・技術を修得している。

到達目標

１．栄養教育の意義及び目的に応じた理論と技法について理解する。
２．栄養教育で活用する行動科学理論の基礎および行動変容技法を理解する。
３．栄養教育の実践場面で何を求められているか理解し、21世紀を担う高度な管理栄養士としての自覚を持つ。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	栄養教育実践へのアプローチ	○ガイダンス：栄養教育論Ⅲ概要（教育目標・到達目標、評価方法、授業の進め方）説明 ○栄養教育確認テスト：栄養教育論Ⅰ・Ⅱの既習学習	予習90分：管理栄養士が行う栄養教育の役割を復習しておく。 復習90分：栄養教育と行動科学の理論を学習ノートにまとめる。

第2回	行動科学の理論とモデル（1）	行動科学の理論とモデルに関する理論の解説(1) ○食行動変容と栄養教育① ○個人・個人間、集団や社会の行動変容の理論① ・健康信念モデル ・KAP/KABモデル 【アクティブラーニング】 Aグループ、Bグループ分けによる小集団においてのデスカッション	予習90分：行動科学の理論・モデルの種類を調べておく。 復習90分：食行動変容に関するプレゼンと事例演習の準備をする。
第3回	行動科学の理論とモデル（2）	行動科学の理論とモデルに関する理論の解説(2) ○食行動変容と栄養教育② ○個人・個人間、集団や社会の行動変容② ・行動変容段階モデル、 ・計画的行動理論 【アクティブラーニング】 Aグループ：プレゼンテーション準備① Bグループ：〔課題解決学習〕行動科学理論とモデル収集	予習90分：行動科学の理論とモデルの種類を調べておく。 復習90分：食行動変容に関するプレゼンと事例演習の準備をする。
第4回	行動科学の理論とモデル（3）	行動科学の理論とモデルに関する理論の解説(3) ○食行動変容と栄養教育③ ○個人・個人間、集団や社会の行動変容③ ・社会的学習理論、 ・社会的認知理論 【アクティブラーニング】 Aグループ：プレゼンテーション実施① Bグループ：〔課題解決学習〕行動科学理論とモデル実施	予習90分：行動科学の理論とモデルの種類を調べておく。 復習90分：食行動変容に関するプレゼンと事例演習の準備をする。
第5回	行動科学の理論とモデル（4）	行動科学の理論とモデルに関する理論の解説(4) ○食行動変容と栄養教育④ ○個人・個人間、集団や社会の行動変容④ ・レスポンデンス学習理論 ・オペラント学習理論 【アクティブラーニング】 Aグループ：〔課題〕行動科学理論とモデル収集 Bグループ：プレゼンテーション準備②	予習90分：行動科学の理論とモデルの種類を調べておく。 復習90分：食行動変容に関するプレゼンと事例演習の準備をする。
第6回	行動科学の理論とモデル（5）	行動科学の理論とモデルに関する理論の解説(5) ○食行動変容と栄養教育⑤ ○個人・個人間、集団や社会の行動変容⑤ ・ソーシャルネットワーク ・ソーシャルサポート 【アクティブラーニング】 Aグループ：〔課題〕行動科学理	予習90分：行動科学の理論とモデルの種類を調べておく。 復習90分：食行動変容に関するプレゼンと事例演習の準備をする。

		論とモデル実施 Bグループ：プレゼンテーション実施②	
第7回	栄養カウンセリング（1）	栄養カウンセリングに関する理論の解説(1) ○栄養カウンセリングの本質① ○栄養カウンセリング① ・カウンセリングマインド ・ラポールの形成 【アクティブラーニング】 Aグループ：〔課題〕行動科学理論とモデル実施 Bグループ：プレゼンテーション実施②	予習90分：栄養カウンセリングの基本的事項を調べておく。 復習90分：栄養カウンセリングに関するプレゼンと事例演習の準備をする。
第8回	栄養カウンセリング（2）	栄養カウンセリングに関する理論の解説(2) ○栄養カウンセリングの本質② ○栄養カウンセリング② ・対人コミュニケーション ・コーチング① 【アクティブラーニング】 Aグループ：プレゼンテーション準備② Bグループ：〔課題〕栄養相談・カウンセリング収集	予習90分：栄養カウンセリングの基本的事項を調べておく。 復習90分：栄養カウンセリングに関するプレゼンと事例演習の準備をする。
第9回	栄養カウンセリング（3）	栄養カウンセリングに関する理論の解説(3) ○栄養カウンセリングの本質③ ○栄養カウンセリング③ ・コーチング② ・行動カウンセリング 【アクティブラーニング】 Aグループ：プレゼンテーション実施② Bグループ：〔課題〕栄養相談・カウンセリング実施	予習90分：栄養カウンセリングの基本的事項を調べておく。 復習90分：栄養カウンセリングに関するプレゼンと事例演習の準備をする。
第10回	行動変容に関する理論（1）	行動変容に関する理論の解説(1) ○個人の行動を促す技法① ○行動変容技法① ・社会変革モデル ・プリシード・プロシードモデル① 【アクティブラーニング】 Aグループ：プレゼンテーション実施② Bグループ：〔課題〕栄養相談・カウンセリング実施	予習90分：栄養教育における個人の行動を促す技法を調べておく。 復習90分：栄養教育における個人の行動を促す技法に関するプレゼンと事例演習の準備をする。
第11回	行動変容に関する理論（2）	行動変容に関する理論の解説(2) ○個人の行動を促す技法② ○行動変容技法② ・プリシード・プロシードモデル② ・コミュニケーションモデル 【アクティブラーニング】 Aグループ：〔課題〕行動科学理	予習90分：栄養教育における個人の行動を促す技法を調べておく。 復習90分：栄養教育における個人の行動を促す技法に関するプレゼンと事例演習の準備をする。

		論とモデル準備 Bグループ：プレゼンテーション準備②	
第12回	行動変容に関する理論（3）	行動変容に関する理論の解説(2) ○個人の行動を促す技法③ ○行動変容技法③ ・コミュニティーオーガニゼーション ・イノベーション普及理論 Aグループ：〔課題〕行動科学理論とモデル実施 Bグループ：プレゼンテーション実施②	予習90分：栄養教育における個人の行動を促す技法を調べておく。 復習90分：栄養教育における個人の行動を促す技法に関するプレゼンと事例演習の準備をする。
第13回	組織・地域・食環境づくり（1）	組織・地域・食環境づくりの解説(1) ○集団や社会の行動変容① ○組織・地域・食環境づくり① ・ネットワークづくり ・自助集団 【アクティブラーニング】 Aグループ：プレゼンテーション実施① Bグループ：〔課題〕組織・地域・食環境づくり収集①	予習90分：組織・地域・食環境づくりと栄養教育を調べておく。 復習90分：組織・地域・食環境づくりと栄養教育に関するプレゼンと事例演習の準備をする。
第14回	組織・地域・食環境づくり（2）	組織・地域・食環境づくりの解説(2) ○集団や社会の行動変容② ○組織・地域・食環境づくり② ・集団力学（グループダイナミックス） ・エンパワメント 【アクティブラーニング】 Aグループ：プレゼンテーション実施② Bグループ：〔課題〕組織・地域・食環境づくり収集②	予習90分：組織・地域・食環境づくりと栄養教育を調べておく。 復習90分：組織・地域・食環境づくりと栄養教育に関するプレゼンと事例演習の準備をする。
第15回	組織・地域・食環境づくり（3） 栄養教育論Ⅲ授業のまとめ	組織・地域・食環境づくりの解説(3) ○集団や社会の行動変容③ ○組織・地域・食環境づくり③ ・ポピュレーションアプローチ） ・ハイリスクアプローチ 【アクティブラーニング】 Aグループ：プレゼンテーション実施③ Bグループ：〔課題〕組織・地域・食環境づくり実施③	予習90分：組織・地域・食環境づくりと栄養教育を調べておく。 復習90分：組織・地域・食環境づくりと栄養教育に関するプレゼンと事例演習の準備をする。

教科書

健康科学シリーズ「栄養教育論」改訂4版 丸山千鶴子ほか編著 （南江堂）
配布資料：授業概要としてプリント配布

参考書

参考文献：クエスチョンバンク管理栄養士国家試験解説（2018版）

成績評価の方法・基準

単位認定基準60点以上
評価方法：定期試験（80%） 課題・事例演習（10%）授業の取り組み（10%）

課題等に対する
フィードバックの方法

授業は能動的学習を取り入れるので、積極的に参加してもらいたい。また、毎回配布する授業概要を活用し、確実に基礎から応用を繋ぐ学習になるよう取り組んで欲しい。授業終了時に授業の要点をまとめるので、確認・課題・予習を行い、栄養教育論の学びのまとめとなるようにしていただきたい。授業出席カードによりフィードバックする。

履修のポイント

栄養教育論Ⅲでは、管理栄養士の栄養教育・指導業務に関わる内容を行動変容に焦点をあて学習し、栄養教育栄養教育論Ⅰ・Ⅱ、栄養教育論実習Ⅰ・Ⅱ及び臨地実習のまとめとする。学習主題にそったプレゼンテーションや事例課題を課すので、積極的に取り組み管理栄養士の専門性を高めるようにする。

オフィス・アワー

曜日：火曜日から金曜日までの4日間
時間：12:45〜13:15
場所：11号館3階 19研究室（宮原研究室）

講義コード	20740001
講義名	栄養教育論実習Ⅰ（Aクラス）
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	前期
講義区分	実験・実習
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	４時限
区分	専門科目
必修/選択	必修
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UE-R251
学年	3学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 宮原 公子	指定なし
教員	齋藤 陽子	指定なし

授業の概要と教育目標

栄養教育の目的は、「人々の健康維持・増進および生活の質（QOL）の向上を目指し、ライフステージ別に望ましい栄養状態の実現を図ること」である。栄養教育論Ⅰ・Ⅱおよび専門基礎科目で学んだ知識を基に、対象者の把握に必要なアセスメント手法や栄養教育の計画から評価までの基本的手法を習得する。具体的には、栄養教育の対象と機会に応じた栄養教育の実際を学び、管理栄養士として現場で活用できる実践力を身につける。

卒業認定・学位授与の方針との関連

ライフステージ・ライフサイクル別利用者の身体の状況、栄養状態、生活習慣など、エビデンスを基にした栄養教育（小集団・ポピュレーションアプローチ）が現場で推進できるよう必要な知識や技術を修得している。そのためには、PDCAサイクルにそった一連の流れ（Plan Do Check Action）の実践力と考察力を身につけている。

到達目標

１．栄養アセスメントの目的・種類・方法の基本的事項を理解し、対象者と機会に応じたマネジメントの流れを習得する。
２．栄養教育全体計画を基に諸計画を作成し、必要な知識と技術を統合し具体的な栄養教育計画ができる。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	オリエンテーション	栄養教育実習の目的・目標 栄養教育の理論と実践を繋ぐ実習の方向性	予習：90分 栄養教育論の理論を確認する 復習：90分 栄養教育実習の目的・目標を復習する
第2回	栄養教育のアセスメント（1）	栄養アセスメントの目的・種類・方法	予習：90分 栄養アセスメントの目的・種類・方法を確認する 復習：90分 食事記録をとる

第3回	栄養教育のアセスメント（2）	身体状況の把握（身体計測、体組成測定、骨密度測定） 身体活動レベルの推定（行動記録） 【アクティブラーニング】 グループ内でデータの見方を確認し合う	予習：90分 身体状況の把握の仕方を調べる 復習：90分 記録用紙を仕上げる
第4回	栄養教育のアセスメント（3）	栄養・食事調査の種類と方法 栄養状態の把握①（食物摂取頻度調査法、目安量記録法） 栄養計算ソフトの使い方 【アクティブラーニング】 グループ内で入力したデータを評価し合う	予習：90分 栄養・食事調査の種類と方法を調べる 復習：90分 データを入力する
第5回	栄養教育のアセスメント（4）	栄養状態の把握②（食事バランスガイド） 【アクティブラーニング】 グループ内で評価し合う	予習：90分 食事バランスガイドを調べる 復習：90分 栄養状態の把握の仕方を理解する
第6回	栄養教育のアセスメント（5）	対象者のアセスメント結果の分析方法 Excel関数を活用した基本統計量の求め方	予習：90分 Excelの基本統計量を確認する 復習：90分 基本統計量を復習する
第7回	栄養教育のアセスメント（6）	対象者のアセスメント実施 アセスメント結果の分析、課題抽出 二次データの活用 【アクティブラーニング】 事例をもとにディスカッションをする	予習：90分 アセスメントの分析方法を調べる 復習：90分 二次データを利用した課題抽出方法を復習する
第8回	栄養教育のマネジメント（1）	栄養教育全体計画の立案① ・対象者の決定、目標の設定、計画書の作成 【アクティブラーニング】 立てた計画書をグループ内でディスカッションをする	予習：90分 栄養教育計画を調べる 復習：90分 栄養教育全体計画を立案するにあた目標などの設定の理解を深める
第9回	栄養教育のマネジメント（2）	栄養教育全体計画の立案② ・対象者の決定、目標の設定、計画書の作成 【アクティブラーニング】 立てた計画書をグループ内でディスカッションをする	予習：90分 栄養教育全体計画を立案する 復習：90分 計画書を進める
第10回	栄養教育のマネジメント（3）	栄養教育学習指導案の作成 ・栄養教育指導案の意義、目的	予習：90分 学習指導案について調べる 復習：90分 栄養教育学習指導案を仕上げる
第11回	栄養教育のマネジメント（4）	栄養・食生活デザイン提示案の作成 ・栄養・食生活デザイン提示案の意義、目的	予習：90分 管理栄養士が食品レベル、料理レベルで提示する能力が求められる理由を考える 復習：90分 栄養教育のための栄養・食生活デザイン提示の必要性を理解する
第12回	栄養教育のマネジメン	栄養教育における教材 ・教材の種類	予習：90分 栄養教育における教材について調べる

	ト（5）	・教材の効果的な活用法 ・教材作成の実際	復習：90分 教材の種類、効果的な活用方法の理解を深める
第13回	栄養教育のマネジメント（6）	栄養教育実施者の技術 ・プレゼンテーション技術 ・プレゼンテーション計画書、原稿の作成	予習：90分 プレゼンテーションの技術について調べる 復習：90分 プレゼンテーション計画書、原稿を仕上げる
第14回	栄養教育のマネジメント（7）	栄養教育計画に基づいた対象者・機会別グループ内プレゼン 【アクティブラーニング】 グループ内プレゼンテーション及び評価	予習：90分 プレゼンテーションの練習をする 復習：90分 他者からの評価を受け、修正・改善をする
第15回	栄養教育のPDCAサイクル	栄養教育の計画・展開・評価・改善の実際 実習のまとめ、実習ノートの整理 【アクティブラーニング】 役割分担して全体討議をする	予習：90分 栄養教育全体計画の修正・改善をする 復習：90分

教科書

教 科 書：健康科学シリーズ「栄養教育論」改訂4版 丸山千鶴子ほか編著（南江堂）
配布資料：授業概要としてプリント配布

参考書

栄養教育論実習 講談社
楽しく学ぶ献立の教材化の理論と実践 東山書房

成績評価の方法・基準

単位認定：最終評価点 60点以上
評価方法：課題・レポート（50%）、授業の取り組み（30%）、授業参加度（20%）で評価する。

課題等に対するフィードバックの方法

授業概要を活用し、各自、意欲的に学習に取り組んで欲しい。課題については、コメントを入れて返却する。授業準備は必須で確認・課題・予習を確実に行い、管理栄養士の業務の根幹をなす栄養教育の技術を学びモチベーションを高めていただきたい。

履修のポイント

栄養教育論実習Ⅰでは、栄養教育の実践を総論的に学習してきたので、栄養教育論実習Ⅱに繋げていく。課題や情報収集としてレポートを課すことがあるので、滞ることなく取り組むようにする。

オフィス・アワー

宮原：火曜日～金曜日 12:45～13:15 11号館3階 19研究室（宮原研究室）
齋藤：月曜日～金曜日 12:45～13:15 11号館3階 6研究室

講義コード	20740002
講義名	栄養教育論実習Ⅰ（Bクラス）
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	前期
講義区分	実験・実習
基準単位数	1
代表曜日	木曜日
代表時限	１時限
区分	専門科目
必修/選択	必修
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UE-R251
学年	3学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 宮原 公子	指定なし
教員	齋藤 陽子	指定なし

授業の概要と教育目標

栄養教育の目的は、「人々の健康維持・増進および生活の質（QOL）の向上を目指し、ライフステージ別に望ましい栄養状態の実現を図ること」である。栄養教育論Ⅰ・Ⅱおよび専門基礎科目で学んだ知識を基に、対象者の把握に必要なアセスメント手法や栄養教育の計画から評価までの基本的手法を習得する。具体的には、栄養教育の対象と機会に応じた栄養教育の実際を学び、管理栄養士として現場で活用できる実践力を身につける。

卒業認定・学位授与の方針との関連

ライフステージ・ライフサイクル別利用者の身体の状況、栄養状態、生活習慣など、エビデンスを基にした栄養教育（小集団・ポピュレーションアプローチ）が現場で推進できるよう必要な知識や技術を修得している。そのためには、PDCAサイクルにそった一連の流れ（Plan Do Check Action）の実践力と考察力を身につけている。

到達目標

１．栄養アセスメントの目的・種類・方法の基本的事項を理解し、対象者と機会に応じたマネジメントの流れを習得する。
２．栄養教育全体計画を基に諸計画を作成し、必要な知識と技術を統合し具体的な栄養教育計画ができる。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	オリエンテーション	栄養教育実習の目的・目標 栄養教育の理論と実践を繋ぐ実習の方向性	予習：90分 栄養教育論の理論を確認する 復習：90分 栄養教育実習の目的・目標を復習する
第2回	栄養教育のアセスメント（1）	栄養アセスメントの目的・種類・方法	予習：90分 栄養アセスメントの目的・種類・方法を確認する 復習：90分 食事記録をとる

第3回	栄養教育のアセスメント（2）	身体状況の把握（身体計測、体組成測定、骨密度測定） 身体活動レベルの推定（行動記録） 【アクティブラーニング】 グループ内でデータの見方を確認し合う	予習：90分 身体状況の把握の仕方を調べる 復習：90分 記録用紙を仕上げる
第4回	栄養教育のアセスメント（3）	栄養・食事調査の種類と方法 栄養状態の把握①（食物摂取頻度調査法、目安量記録法） 栄養計算ソフトの使い方 【アクティブラーニング】 グループ内で入力したデータを評価し合う	予習：90分 栄養・食事調査の種類と方法を調べる 復習：90分 データを入力する
第5回	栄養教育のアセスメント（4）	栄養状態の把握②（食事バランスガイド） 【アクティブラーニング】 グループ内で評価し合う	予習：90分 食事バランスガイドを調べる 復習：90分 栄養状態の把握の仕方を理解する
第6回	栄養教育のアセスメント（5）	対象者のアセスメント結果の分析方法 Excel関数を活用した基本統計量の求め方	予習：90分 Excelの基本統計量を確認する 復習：90分 基本統計量を復習する
第7回	栄養教育のアセスメント（6）	対象者のアセスメント実施 アセスメント結果の分析、課題抽出 二次データの活用 【アクティブラーニング】 事例をもとにディスカッションをする	予習：90分 アセスメントの分析方法を調べる 復習：90分 二次データを利用した課題抽出方法を復習する
第8回	栄養教育のマネジメント（1）	栄養教育全体計画の立案① ・対象者の決定、目標の設定、計画書の作成	予習：90分 栄養教育計画を調べる 復習：90分 栄養教育全体計画を立案するにあた目標などの設定の理解を深める
第9回	栄養教育のマネジメント（2）	栄養教育全体計画の立案② ・対象者の決定、目標の設定、計画書の作成 【アクティブラーニング】 立てた計画書をグループ内でディスカッションをする	予習：90分 栄養教育全体計画を立案する 復習：90分 計画書を進める
第10回	栄養教育のマネジメント（3）	栄養教育学習指導案の作成 ・栄養教育指導案の意義、目的	予習：90分 学習指導案について調べる 復習：90分 栄養教育学習指導案を仕上げる
第11回	栄養教育のマネジメント（4）	栄養・食生活デザイン提示案の作成 ・栄養・食生活デザイン提示案の意義、目的	予習：90分 管理栄養士が食品レベル、料理レベルで提示する能力が求められる理由を考える 復習：90分 栄養教育のための栄養・食生活デザイン提示の必要性を理解する
第12回	栄養教育のマネジメント（5）	栄養教育における教材 ・教材の種類 ・教材の効果的な活用法 ・教材作成の実際	予習：90分 栄養教育における教材について調べる 復習：90分 教材の種類、効果的な活用方法の理解を深める

第13回	栄養教育のマネジメント（6）	栄養教育実施者の技術 ・プレゼンテーション技術 ・プレゼンテーション計画書、原稿の作成	予習：90分 プレゼンテーションの技術について調べる 復習：90分 プレゼンテーション計画書、原稿を仕上げる
第14回	栄養教育のマネジメント（7）	栄養教育計画に基づいた対象者・機会別グループ内プレゼン 【アクティブラーニング】 グループ内プレゼンテーション及び評価	予習：90分 プレゼンテーションの練習をする 復習：90分 他者からの評価を受け、修正・改善をする
第15回	栄養教育のPDCAサイクル	栄養教育の計画・展開・評価・改善の実際 実習のまとめ、実習ノートの整理 【アクティブラーニング】 役割分担して全体討議をする	予習：90分 栄養教育全体計画の修正・改善をする 復習：90分

教科書

教 科 書：健康科学シリーズ「栄養教育論」改訂4版 丸山千鶴子ほか編著 （南江堂）
配布資料：授業概要としてプリント配布

参考書

栄養教育論実習 講談社
楽しく学ぶ献立の教材化の理論と実践 東山書房

成績評価の方法・基準

単位認定：最終評価点 60点以上
評価方法：課題・レポート（50%）、授業の取り組み（30%）、授業参加度（20%）で評価する。

課題等に対するフィードバックの方法

授業概要を活用し、各自、意欲的に学習に取り組んで欲しい。課題については、コメントを入れて返却する。授業準備は必須で確認・課題・予習を確実に行い、管理栄養士の業務の根幹をなす栄養教育の技術を学びモチベーションを高めていただきたい。

履修のポイント

栄養教育論実習Ⅰでは、栄養教育の実践を総論的に学習してきたので、栄養教育論実習Ⅱに繋げていく。課題や情報収集としてレポートを課すことがあるので、滞ることなく取り組むようにする。

オフィス・アワー

宮原：火曜日～金曜日 12:45～13:15 11号館3階 19研究室（宮原研究室）
齋藤：月曜日～金曜日 12:45～13:15 11号館3階 6研究室

講義コード	20750001
講義名	栄養教育論実習Ⅱ（Aクラス）
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期
講義区分	実験・実習
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	１時限
区分	専門科目
必修/選択	必修
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UE-R261
学年	3学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 宮原 公子	指定なし
教員	齋藤 陽子	指定なし

授業の概要と教育目標

栄養教育の実践は、ハイリスク者である個人を対象にするだけでなく、ポピュレーションアプローチの視点を持つことが重要である。本授業では地域集団（地域・職場・学校等）を対象に、食環境アプローチを視野に入れた栄養教育の実践力を養う。
栄養教育論実習Ⅰの基礎実習で習得した基本的知識と技能を生かし、行動科学理論やエビデンスに基づき、企画推進・実践展開の仕方を応用実習として取り組んでいく。

卒業認定・学位授与の方針との関連

これまでの学習を統合･発展させ、多様な社会のニーズ、変化に対応できる知識・技術を身につけている。具体的には、エビデンスを基づいたポピュレーションアプローチ（ 教育的・環境的 ）が管理栄養士の活躍の場で推進できるようになり、
実践的な職業人として活躍できる知識・技術を修得している。

到達目標

１．小集団・ポピュレーションを対象にした栄養教育において、行動科学理論が活用できるようになる。
２．小集団・ポピュレーションアプローチを実施する上での栄養教育の流れ（レビュー、アセスメント、教育計画、目標設定、実施、評価）の体験をとおして、その知識と技能を習得する。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	オリエンテーション 授業ガイダンス	栄養教育論実習Ⅱ授業概要（目標・進め方）実施に向けての準備作業	予習：90分 ポピュレーションアプローチを調べる 復習：90分 ポピュレーションアプローチを理解する
第2回	栄養教育実施の方法：応用（1）	学習形態と方法①：一斉学習 グループ学習 【アクティブラーニング】 グループ内ディスカッション	予習：90分 学習形態と方法を調べる 復習：90分 一斉学習とグ

		全体においての発表	ループ学習を理解する
第3回	栄養教育実施の方法：応用（2）	学習形態と方法②：個別学習 栄養相談 【アクティブラーニング】 グループ内ディスカッション 全体においての発表	予習：90分 個別学習と栄養相談を調べる 復習：90分 個別学習と栄養相談を理解する
第4回	栄養教育のマネジメント 計画(1)	学習者の栄養アセスメント：二次データの利用① 情報収集準備 【アクティブラーニング】 グループワーク（情報収集）	予習：90分 栄養アセスメントの情報収集を確認する 復習：90分 栄養アセスメントの情報収集の仕方を理解する
第5回	栄養教育のマネジメント 計画(2)	栄養教育計画書（学習指導計画案、栄養・食生活提示案）の作成 【アクティブラーニング】 グループワーク（諸計画書の作成）	予習：90分 栄養教育計画書を再確認する 復習：90分 諸計画書を進める
第6回	栄養教育のマネジメント 計画(3)	栄養教育計画書（学習指導計画案、栄養・食生活提示案）の作成 【アクティブラーニング】 グループワーク（諸計画書の作成）	予習：90分 諸計画書を進める 復習：90分 諸計画書の目的を理解しながら進める
第7回	栄養教育のマネジメント 計画(4)	栄養教育計画書（学習指導計画案、栄養・食生活提示案）の作成 【アクティブラーニング】 グループワーク（諸計画書の作成）	予習：90分 諸計画書を進める 復習：90分 二諸計画書の目的を理解しながら進める
第8回	栄養教育のマネジメント 計画(5)	栄養教育のための食事計画と栄養教育教材の作成 【アクティブラーニング】 グループワーク（教材作成）	予習：90分 栄養教育教材について再確認する 復習：90分 栄養教育のための食事計画の理解を深める
第9回	栄養教育のマネジメント 実施(1)	栄養・食生活提示案に基づく試作・検討・評価・修正 【アクティブラーニング】 グループワーク（試作・検討・評価・修正）	予習：90分 試作の準備をする 復習：90分 計画段階と実施段階を評価し、修正する
第10回	栄養教育のマネジメント 実施(2)	栄養教育の機会と場別模擬栄養教育の実施 ディスカッション 【アクティブラーニング】 グループ内でのプレ模擬栄養教育実施及びディスカッション	予習：90分 プレ模擬栄養教育の練習をする 復習：90分 ディスカッションをまとめる
第11回	栄養教育のマネジメント 評価(1)	栄養教育の機会と場別模擬栄養教育の評価 改善 【アクティブラーニング】 グループワーク（栄養教育全体計画の評価・改善）	予習：90分 栄養教育全体計画の見直しをする 復習：90分 他者からの評価を受け、修正・改善をする
第12回	栄養教育のマネジメント 評価(2)	学習指導案の修正 栄養教育全体計画の見直し模擬教育の準備 アクティブラーニング】 グループワーク（模擬教育の準備）	予習：90分 諸計画書、教材を完成させる 復習：90分 模擬教育の準備をする
13	模擬栄養教育の	学習指導案の修正 栄養教育全体計画の見直し模擬教育の実践① 【アクティブラーニング】	予習：90分 模擬教育の練習をする

第　回	実践・評価(1)	グループワーク（模擬教育の準備①） 全体において模擬教育実施	復習：　分 他者からの評価を受け、修正・改善をする
第14回	模擬栄養教育の実践・評価(2)	学習指導案の修正 栄養教育全体計画の見直し模擬教育の実践② 【アクティブラーニング】 グループワーク（栄養教育全体計画の最終修正）	予習：90分 栄養教育全体計画の見直しをする 復習：90分 栄養教育全体計画の最終修正をする
第15回	栄養教育論実習Ⅱのまとめ	実習ノート整理 栄養教育の知識と技能の確認課題まとめ	予習：90分 確認テストの予習をする 復習：90分 栄養教育の知識と技能の理解を深める

教科書

教 科 書：健康科学シリーズ「栄養教育論」改訂4版 丸山千鶴子ほか編著（南江堂）
配布資料：授業概要としてプリント配布

参考書

栄養教育論実習 講談社
楽しく学ぶ献立の教材化の理論と実践 東山書房

成績評価の方法・基準

評価方法：課題・レポート（50%）、授業の取り組み（30%）、授業参加度（20%）で評価する。

課題等に対するフィードバックの方法

授業概要を活用し、各自、意欲的に学習に取り組んで欲しい。本実習授業は、グループ単位で取り組む内容が多くメンバーと協力して、積極的に取り組みをして欲しい。授業に際しては、授業の流れや目的を授業概要として示し、双方向で活用できる書き込み方式で、フィードバックできるようにする。

履修のポイント

栄養教育論実習Ⅰでは、栄養教育の実践を総論的に学習してきたので、栄養教育論実習Ⅱに繋げていく。課題や情報収集としてレポートを課すことがあるので、滞ることなく取り組むようにする。

オフィス・アワー

宮原：火曜日～金曜日 12:45～13:15 11号館3階 19研究室（宮原研究室）
齋藤：月曜日～金曜日 12:45～13:15 11号館3階 6研究室

講義コード	20750002
講義名	栄養教育論実習Ⅱ（Bクラス）
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期
講義区分	実験・実習
基準単位数	1
代表曜日	金曜日
代表時限	１時限
区分	専門科目
必修/選択	必修
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UE-R261
学年	3学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 宮原 公子	指定なし
教員	齋藤 陽子	指定なし

授業の概要と教育目標

栄養教育の実践は、ハイリスク者である個人を対象にするだけでなく、ポピュレーションアプローチの視点を持つことが重要である。本授業では地域集団（地域・職場・学校等）を対象に、食環境アプローチを視野に入れた栄養教育の実践力を養う。
栄養教育論実習Ⅰの基礎実習で習得した基本的知識と技能を生かし、行動科学理論やエビデンスに基づき、企画推進・実践展開の仕方を応用実習として取り組んでいく。

卒業認定・学位授与の方針との関連

これまでの学習を統合･発展させ、多様な社会のニーズ、変化に対応できる知識・技術を身につけている。具体的には、エビデンスを基づいたポピュレーションアプローチ（ 教育的・環境的 ）が管理栄養士の活躍の場で推進できるようになり、
実践的な職業人として活躍できる知識・技術を修得している。

到達目標

１．小集団・ポピュレーションを対象にした栄養教育において、行動科学理論が活用できるようになる。
２．小集団・ポピュレーションアプローチを実施する上での栄養教育の流れ（レビュー、アセスメント、教育計画、目標設定、実施、評価）の体験をとおして、その知識と技能を習得する。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	オリエンテーション 授業ガイダンス	栄養教育論実習Ⅱ授業概要（目標・進め方）実施に向けての準備作業	予習：90分 ポピュレーションアプローチを調べる 復習：90分 ポピュレーションアプローチを理解する
第2回	栄養教育実施の方法：応用（1）	学習形態と方法①：一斉学習 グループ学習 【アクティブラーニング】 グループ内ディスカッション	予習：90分 学習形態と方法を調べる 復習：90分 一斉学習とグ

		全体においての発表	ループ学習を理解する
第3回	栄養教育実施の方法：応用（2）	学習形態と方法②：個別学習 栄養相談 【アクティブラーニング】 グループ内ディスカッション 全体においての発表	予習：90分 個別学習と栄養相談を調べる 復習：90分 個別学習と栄養相談を理解する
第4回	栄養教育のマネジメント 計画(1)	学習者の栄養アセスメント：二次データの利用① 情報収集準備 【アクティブラーニング】 グループワーク（情報収集）	予習：90分 栄養アセスメントの情報収集を確認する 復習：90分 栄養アセスメントの情報収集の仕方を理解する
第5回	栄養教育のマネジメント 計画(2)	栄養教育計画書（学習指導計画案、栄養・食生活提示案）の作成 【アクティブラーニング】 グループワーク（諸計画書の作成）	予習：90分 栄養教育計画書を再確認する 復習：90分 諸計画書を進める
第6回	栄養教育のマネジメント 計画(3)	栄養教育計画書（学習指導計画案、栄養・食生活提示案）の作成 【アクティブラーニング】 グループワーク（諸計画書の作成）	予習：90分 諸計画書を進める 復習：90分 諸計画書の目的を理解しながら進める
第7回	栄養教育のマネジメント 計画(4)	栄養教育計画書（学習指導計画案、栄養・食生活提示案）の作成 【アクティブラーニング】 グループワーク（諸計画書の作成）	予習：90分 諸計画書を進める 復習：90分 諸計画書の目的を理解しながら進める
第8回	栄養教育のマネジメント 計画(5)	栄養教育のための食事計画と栄養教育教材の作成 【アクティブラーニング】 グループワーク（教材作成）	予習：90分 栄養教育教材について再確認する 復習：90分 栄養教育のための食事計画の理解を深める
第9回	栄養教育のマネジメント 実施(1)	栄養・食生活提示案に基づく試作・検討・評価・修正 【アクティブラーニング】 グループワーク（試作・検討・評価・修正）	予習：90分 試作の準備をする 復習：90分 計画段階と実施段階を評価し、修正する
第10回	栄養教育のマネジメント 実施(2)	栄養教育の機会と場別模擬栄養教育の実施 ディスカッション 【アクティブラーニング】 グループ内でのプレ模擬栄養教育実施及びディスカッション	予習：90分 プレ模擬栄養教育の練習をする 復習：90分 ディスカッションをまとめる
第11回	栄養教育のマネジメント 評価(1)	栄養教育の機会と場別模擬栄養教育の評価 改善 【アクティブラーニング】 グループワーク（栄養教育全体計画の評価・改善）	予習：90分 栄養教育全体計画の見直しをする 復習：90分 他者からの評価を受け、修正・改善をする
第12回	栄養教育のマネジメント 評価(2)	学習指導案の修正 栄養教育全体計画の見直し模擬教育の準備 【アクティブラーニング】 グループワーク（模擬教育の準備）	予習：90分 諸計画書、教材を完成させる 復習：90分 模擬教育の準備をする
13	模擬栄養教育の	学習指導案の修正 栄養教育全体計画の見直し模擬教育の実践① 【アクティブラーニング】	予習：90分 模擬教育の練習をする

第　回	実践・評価(1)	グループワーク（模擬教育の準備①） 全体において模擬教育実施	復習：　分 他者からの評価を受け、修正・改善をする
第14回	模擬栄養教育の実践・評価(2)	学習指導案の修正 栄養教育全体計画の見直し模擬教育の実践② 【アクティブラーニング】 グループワーク（栄養教育全体計画の最終修正）	予習：90分 栄養教育全体計画の見直しをする 復習：90分 栄養教育全体計画の最終修正をする
第15回	栄養教育論実習Ⅱのまとめ	実習ノート整理 栄養教育の知識と技能の確認課題まとめ	予習：90分 確認テストの予習をする 復習：90分 栄養教育の知識と技能の理解を深める

教科書

教 科 書：健康科学シリーズ「栄養教育論」改訂4版 丸山千鶴子ほか編著（南江堂）
配布資料：授業概要としてプリント配布

参考書

栄養教育論実習 講談社
楽しく学ぶ献立の教材化の理論と実践 東山書房

成績評価の方法・基準

評価方法：課題・レポート（60%）、確認小テスト（20%）、授業への参加度（20%）で評価する。

課題等に対するフィードバックの方法

授業概要を活用し、各自、意欲的に学習に取り組んで欲しい。本実習授業は、グループ単位で取り組む内容が多くメンバーと協力して、積極的に取り組みをして欲しい。授業に際しては、授業の流れや目的を授業概要として示し、双方向で活用できる書き込み方式で、フィードバックできるようにする。

履修のポイント

本授業は、栄養教育論実習Ⅰの学習内容栄養教育の実践を総論的に学習してきたことを踏まえて、栄養教育論実習Ⅱに繋げる。課題や情報収集としてレポートを課すことがあるので、滞ることなく取り組むようにする。

オフィス・アワー

宮原：火曜日～金曜日 12:45～13:15 11号館3階 19研究室（宮原研究室）
齋藤：月曜日～金曜日 12:45～13:15 11号館3階 6研究室

講義コード	20760001
講義名	臨床栄養学Ⅰ
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	２時限
区分	専門科目
必修/選択	必修
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UE-R243
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 島田 美樹子	指定なし

授業の概要と教育目標

臨床栄養領域におけるコメディカルとしてチーム医療に参画するために必要な基礎知識を学ぶ。傷病者の病態や栄養状態の特徴に基づいて適切な栄養管理を行うために、臨床症候および栄養状態の評価、それに対する臨床栄養管理の基礎知識を学習する。傷病者の病態に基づいて、各種疾患別に身体状況や栄養状態に応じた具体的な栄養管理方法について修得し、医療人としての資質を養い、チーム医療の中で多職種連携がとれる管理栄養士としての自覚を養うことを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

人体の構造ならびに疾病の成り立ちを理解し、多様な対象や人間のライフステージ・ライフサイクルに沿って、利用者の身体の状況、栄養状態、生活習慣に係る栄養・食事管理、栄養教育、臨床栄養の分野に関して必要な知識や技術を修得することを目指す。

到達目標

１．栄養アセスメント、栄養管理を理解し疾病の予防や治療につなげて考えることができる。
２．臨床栄養管理を行うための役割を理解する。
３．栄養ケア・マネジメントから栄養状態や疾病コントロール状況を把握できる。
４．栄養補給法を理解する。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	臨床栄養の意義と目的	・臨床栄養学の意義 ・ホメオスタシスへの栄養支援の効果 ・QOLと臨床栄養 ・チーム医療の概要	予習：新しい臨床栄養学の基礎知識 1章を読む 90分 復習：栄養療法、QOL、緩和ケアを復習する 90分
第2回	医療と臨床栄養	・管理栄養士の職業倫理 ・チーム医療 ・リスクマネジメント 【アクティブラーニング】	予習：2章医療と臨床栄養を読み職業倫理について予習する 90分

		インシデントレポートからリスクマネジメントを実施する体制を知る	復習：チーム医療、リスクマネジメントをまとめる 90分
第3回	医療制度の基本	・医療保健制度 ・診療報酬の基本 ・特定健診・特定保健指導	予習：3章医療制度の基本を読み診療報酬に出てくる言葉を調べる 90分 復習：医療保険制度と診療報酬の基本をまとめる 90分
第4回	福祉・介護と臨床栄養	・福祉・介護保険制度 ・栄養管理の意義	予習：4章福祉・介護と臨床栄養を読み施設について予習する 90分 復習：福祉・介護保険制度をまとめる 90分
第5回	栄養ケア・マネジメントの概要	・栄養管理の目的 ・プロセス	予習：5章医栄養ケア・マネジメントの概要を読む 90分 復習：栄養管理プロセスをまとめる 90分
第6回	栄養アセスメント(1)	・栄養スクリーニング ・栄養アセスメント項目 【アクティブラーニング】 実際の症例で栄養スクリーニングをする	予習：6章栄養アセスメントを読む 90分 復習：栄養スクリーニングをまとめる 90分
第7回	栄養アセスメント(2)	・栄養アセスメントの項目（症状、臨床検査、尿検査、身体計測） ・栄養アセスメントの実際 【アクティブラーニング】 実際の症例で栄養アセスメントを実施する	予習：6章栄養アセスメントを読む 90分 復習：栄養アセスメントの項目をリストアップしまとめる 90分
第8回	栄養状態の判定、栄養介入(1)	・栄養診断の判定 ・用語 ・手順 【アクティブラーニング】 栄養診断を手順に沿って実施する	予習：7章栄養診断を読む 90分 復習：栄養診断の用語をリストアップしまとめる 90分
第9回	栄養介入(2)	・栄養介入 ・栄養管理計画 ・栄養教育 【アクティブラーニング】 推定エネルギー必要量をハリス・ベネディクトの式とストレス係数、アクティブ係数を用いて算出する	予習：8章栄養介入を読む 90分 復習：栄養管理計画書の作成手順、およびエネルギー必要量を算出できるようにまとめる 90分
第10回	栄養状態のモニタリングと評価、栄養補給法(1)	・栄養状態のモニタリングの必要性と評価 ・栄養補給法の種類	予習：9章栄養状態のモニタリングと評価を読む 90分 復習：個別疾患のモニタリング、栄養補給ルートをまとめる 90分
第11回	栄養補給法(2)	・静脈栄養法 ・経腸栄養法 ・経口栄養法 【アクティブラーニング】 症例から栄養補給法の種類と特徴を選択する	予習：10章栄養補給法を読む 90分 復習：栄養補給法と栄養剤の特徴をまとめる 90分
			予習：11章傷病者・要介護者

第12回	傷病者・要介護者への栄養教育	・臨床栄養における栄養教育の理論と展開 ・傷病者・要介護者への栄養教育	への栄養教育を読む 90分 復習：様々なライフスタイルごとの栄養教育をまとめる 90分
第13回	食物と薬剤の相互作用	・薬物の吸収による効果と副作用 ・食物と薬剤の相互作用	予習：12章食物と薬剤の相互作用を読む 90分 復習：薬物の代謝、副作用、相互作用をまとめる 90分
第14回	臨床検査	・臨床検査の基礎知識 ・臨床検査と診断、治療との関連 【アクティブラーニング】 臨床検査の項目と正常値をリストアップし、疾病との関連をまとめる	予習：13章臨床検査を読む 90分 復習：臨床検査の項目をまとめる 90分
第15回	まとめ	・臨床栄養学Ⅰの総括 ・復習および重要事項の確認	予習：今までのノートまとめを復習する 90分 復習：臨床栄養学Ⅰのまとめをする 90分

教科書

佐藤和人・本間健・小松龍史 編 「臨床栄養学 第8版」(医歯薬出版)

参考書

適宜紹介する。

成績評価の方法・基準

単位認定：60点以上。
筆記試験、80%、小テスト・レポート・課題10%、授業への参加度10%

課題等に対するフィードバックの方法

授業内でレポートや課題、小テストを実施することがある。返却するので、学習の参考にすること。また、授業毎に資料を配布するので、授業内容の理解に役立てること。

履修のポイント

臨床栄養学ⅡおよびⅢに繋がる重要な科目である。教科書で予習復習をしっかりと行い、不明な単語はあらかじめ調べ授業に臨むようにする。

オフィス・アワー

火曜日～木曜日 昼休み 研究室12

講義コード	20770001
講義名	臨床栄養学Ⅱ
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	１時限
区分	専門科目
必修/選択	必修
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UE-R252
学年	3学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 島田 美樹子	指定なし

授業の概要と教育目標

臨床栄養学Ⅰと専門基礎科目にて学習した知識を基に、栄養管理を必要とする各領域別疾患の発症機序および病態生理を概説し、臨床施設における栄養管理の専門職として活躍するために、有効な栄養療法の意義とその内容を解説する。各疾病における栄養療法を理解し、疾病に対する臨床栄養学的なアプローチを実践するために必要な基礎知識を修得することを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

人体の構造ならびに疾病の成り立ち、臨床栄養学Ⅰを理解し、多様な対象や人間のライフステージ・ライフサイクルに沿って、利用者の身体の状況、栄養状態、生活習慣に係る栄養・食事管理、栄養教育、臨床栄養の分野に関して必要な知識や技術を修得することを目指す。

到達目標

１．各疾病の病態や栄養状態の特徴を理解する。
２．各疾病の発症機序と栄養食事療法の関係を理解する。
３．各疾病の診断基準やガイドラインを理解する。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	消化器疾患の病態生理と栄養食事療法(1)	本講座の目的や講義の進め方 胃食道逆流症、胃十二指腸疾患、胃癌 【アクティブラーニング】 栄養アセスメントと栄養管理計画について、疾患ごとにポイントをまとめる	予習90分：教科書1章を読む 復習90分：資料とノートをまとめる
第2回	消化器疾患の病態生理と栄養食事療法(2)	下痢・便秘、過敏性腸症候群、炎症性腸疾患、潰瘍性大腸炎、クローン病、大腸癌 【アクティブラーニング】 栄養アセスメントと栄養管理計画について、クローン病と潰瘍性大腸炎を比	予習90分：教科書1章を読む 復習90分：資料とノートをまとめる

		較しポイントをまとめる	
第3回	肝疾患の病態生理と栄養食事療法	肝炎、肝硬変、肝癌、脂肪肝、NAFLD・NASH 【アクティブラーニング】 肝疾患の食事療法、エネルギー産生栄養素バランスを整理する	予習90分：教科書2章を読む 復習90分：資料とノートをまとめる
第4回	胆嚢・膵臓疾患の病態生理と栄養食事療法	胆石症、胆嚢炎、胆管炎、膵炎、膵癌	予習90分：教科書2章を読む 復習90分：資料とノートをまとめる
第5回	代謝・内分泌疾患の病態生理と栄養食事療法(1)	肥満・るいそう、脂質異常症 【アクティブラーニング】 肥満や脂質異常症をテキストとガイドラインから食事療法をまとめる	予習90分：教科書3章を読む 復習90分：資料とノートをまとめる
第6回	代謝・内分泌疾患の病態生理と栄養食事療法(2)	糖尿病 【アクティブラーニング】 糖尿病治療ガイドから予防と治療の食生活をまとめる	予習90分：教科書3章を読む 復習90分：資料とノートをまとめる
第7回	代謝・内分泌疾患の病態生理と栄養食事療法(3)	高尿酸血症・痛風、甲状腺機能亢進症・低下症、クッシング症候群	予習90分：教科書3章を読む 復習90分：資料とノートをまとめる
第8回	循環器疾患の病態生理と栄養食事療法	メタボリックシンドローム、動脈硬化症、高血圧症 【アクティブラーニング】 特定保健指導の仕組みを理解し、階層化を経験する	予習90分：教科書4章を読む 復習90分：資料とノートをまとめる
第9回	循環器疾患と呼吸器疾患の病態生理と栄養食事療法	虚血性心疾患、うっ血性心不全、脳卒中、呼吸器疾患	予習90分：教科書4、5章を読む 復習90分：資料とノートをまとめる
第10回	腎臓疾患の病態生理と栄養食事療法(1)	慢性腎臓病、糸球体腎炎 【アクティブラーニング】 CKDガイドラインから病期ごとに食事療法基準をまとめる	予習90分：教科書6章を読む 復習90分：資料とノートをまとめる
第11回	腎臓疾患の病態生理と栄養食事療法(2)	ネフローゼ症候群、糖尿病性腎症	予習90分：教科書6章を読む 復習90分：資料とノートをまとめる
第12回	腎臓疾患の病態生理と栄養食事療法(3)	腎盂腎炎、急性腎不全、人工透析療法	予習90分：教科書6章を読む 復習90分：資料とノートをまとめる
第13回	血液疾患の病態生理と栄養食事療法	鉄欠乏性貧血、巨赤芽球性貧血、出血性疾患、白血病	予習90分：教科書7章を読む 復習90分：資料とノートをまとめる
第14回	免疫・アレルギー疾患の病態生理と栄養食事療法	アレルギー疾患、自己免疫疾患、免疫不全症候群	予習90分：教科書8章を読む 復習90分：資料とノートをまとめる
		消化器疾患、肝・胆・膵、代謝・内分	予習90分：教科書や配布プリントの不明

第15回	各疾患の栄養管理 まとめ	泌、循環器、呼吸器、腎臓、血液、免疫・アレルギー	な点を復習する 復習90分：資料とノートをまとめる

教科書
佐藤和人・本間健・小松龍史 編 「臨床栄養学 第8版」(医歯薬出版)
参考書
適宜紹介する。
成績評価の方法・基準
単位認定：60点以上。 筆記試験、80%、小テスト・レポート・課題10%、授業への参加度10%
課題等に対する フィードバックの方法
授業内でレポートや課題、テストを実施することがある。返却するので、学習の参考にすること。また、授業の振り替え入りの資料とその解答を配布するので、授業内容の理解に役立てること。
履修のポイント
自ら栄養計画を立案するために、何か必要で重要であるのかを考え、目的意識を持って積極的に取り組んでください。
オフィス・アワー
火曜日～木曜日 昼休み 12研究室

講義コード	20780001
講義名	臨床栄養学Ⅲ
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	２時限
区分	専門科目
必修/選択	必修
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UE-R253
学年	3学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 島田 美樹子	指定なし

授業の概要と教育目標

臨床栄養学ⅠとⅡ、専門基礎科目にて学習した知識を基に、栄養管理を必要とする各領域別疾患の発症機序および病態生理を概説し、臨床施設における栄養管理の専門職として活躍するために、有効な栄養療法の意義とその内容を解説する。各疾病における栄養療法を理解し、疾病に対する臨床栄養学的なアプローチを実践するために必要な基礎知識を修得することを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

人体の構造ならびに疾病の成り立ちを理解し、多様な対象者の身体状況、栄養状態、生活習慣に係る栄養・食事管理、栄養教育、臨床栄養の分野に関して必要な知識や技術を修得することを目指す。臨床栄養学Ⅰを基本的に理解し実習と統合、発展させ、実践でも活躍できる人材の育成をする。

到達目標

１．各疾病の病態や栄養状態の特徴を理解する。
２．各疾病の発症機序と栄養食事療法の関係を理解する。
３．各疾病の診断基準やガイドラインを理解する。
４．これまでの学習で得た知識から適切な栄養管理計画を立案できるようになる。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	感染症の病態生理と栄養食事療法	オリエンテーション 急性熱性疾患、慢性消耗性疾患	予習90分：教科書9章を読む 復習90分：資料とノートをまとめる
第2回	骨・関節疾患の病態生理と栄養食事療法	骨粗鬆症、くる病・骨軟化症、サルコペニア、廃用性筋萎縮	予習90分：教科書10章を読む 復習90分：資料とノートをまとめる
	歯科疾患の病態生	歯科疾患、栄養失調症、ビタミン欠	予習90分：教科書12章を読む

第3回	理と栄養食事療法、栄養障害	乏症および過剰症	復習90分：資料とノートをまとめる
第4回	心身症の病態生理と栄養食事療法	神経性摂食障害	予習90分：教科書13章を読む 復習90分：資料とノートをまとめる
第5回	外科疾患の病態生理と栄養食事療法(1)	胃の手術と術後後遺症、肝・胆・膵、小腸・大腸の手術	予習90分：教科書14章を読む 復習90分：資料とノートをまとめる
第6回	外科疾患の病態生理と栄養食事療法(2)	基礎疾患と外科手術、クリティカルケア	予習90分：教科書14章を読む 復習90分：資料とノートをまとめる
第7回	小児疾患の病態生理	小児疾患	予習90分：教科書15章を読む 復習90分：資料とノートをまとめる
第8回	小児疾患の病態生理	小児疾患	予習90分：教科書15章を読む 復習90分：資料とノートをまとめる
第9回	妊産婦・授乳婦疾患の病態生理と栄養食事療法	妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病	予習90分：教科書16章を読む 復習90分：資料とノートをまとめる
第10回	高齢者疾患の病態生理と栄養食事療法(1)	高齢者の特異性、高齢者の症候と疾患	予習90分：教科書17章を読む 復習90分：資料とノートをまとめる
第11回	高齢者疾患の病態生理と栄養食事療法(2)	高齢者に多くみられる障害、褥瘡、栄養問題	予習90分：教科書17章を読む 復習90分：資料とノートをまとめる
第12回	災害時における栄養管理	災害時の食事対応、防災マニュアルについて	予習90分：事前配布資料を読む 復習90分：資料とノートをまとめる
第13回	症例に応じた臨床栄養学的なアプローチ(1)	糖尿病 ケーススタディ 【アクティブラーニング】 患者情報からスクリーニング、アセスメント、栄養評価をまとめる。	予習90分：教科書の糖尿病に関する事項を読む 復習90分：資料とノートをまとめる
第14回	症例に応じた臨床栄養学的なアプローチ(2)	慢性腎臓病 ケーススタディ 【アクティブラーニング】 患者情報からスクリーニング、アセスメント、栄養評価をまとめる。	予習90分：教科書の慢性腎臓病に関する事項を読む 復習90分：資料とノートをまとめる
第15回	各疾患の栄養管理まとめ	感染症、骨・関節、歯科、栄養障害、心身症、外科、小児、妊産婦・授乳婦、高齢者疾患	予習90分：教科書や配布プリントの不明な点を復習する 復習90分：資料とノートをまとめる

教科書
佐藤和人・本間健・小松龍史 編 「臨床栄養学 第8版」(医歯薬出版)
参考書
適宜紹介する。
成績評価の方法・基準
単位認定：60点以上。 筆記試験、80%、小テスト・レポート・課題10%、授業への参加度10%
課題等に対する フィードバックの方法
授業内でレポートや課題、テストを実施することがある。返却するので、学習の参考にすること。また、授業の振り替え入りの資料とその解答を配布するので、授業内容の理解に役立てること。
履修のポイント
自ら栄養計画を立案するために何が必要・重要であるのかという目的意識を持って履修すること。授業内でレポートや課題、テストを実施することがある。返却するので、学習の参考にすること。また、授業毎に資料を配布するので、授業内容の理解に役立てること。
オフィス・アワー
火曜日～木曜日 昼休み 12研究室

講義コード	20790001
講義名	臨床栄養学Ⅳ
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	１時限
区分	専門科目
必修/選択	必修
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UE-R262
学年	3学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 中山 優子	指定なし

授業の概要と教育目標

医療現場での管理栄養士の実践力を身に付けるために、疾病の発生機序、病態生理の知識に加え、疾患別に臨床所見や臨床検査から栄養状態を把握し、治療に適した栄養管理を行う。
さらに、患者の生命を維持し、疾病の治療・予防に貢献し、QOLの向上に寄与することも視野に入れ、実践に活用できる知識や技術養う。

卒業認定・学位授与の方針との関連

疾病の発生機序、病態生理の知識に加え、疾患別に臨床所見や臨床検査から栄養状態を把握し、治療に適した栄養管理を行うための能力を養う。

到達目標

・本講義で栄養食事療法に関する知識し説明できる。
・自分の力で「まとめる」ことができる。
・学んだことを伝える力を身につけ、説明できる。
・疾病の栄養管理方法を知ることで、病態の発生機序、病態生理などの知識を分析して説明できる。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	栄養療法の意義と目的	ガイダンス 栄養療法の意義と目的 症例に関する【ディスカッションとグループワーク】を行い発表する。	予習：栄養食事療法必携使用テキストを読んでおく。90分 復習：配布プリントをまとめておく。90分
第2回	栄養性疾患	栄養障害の栄養食事療法 症例に関する【ディスカッションとグループワーク】を行い発表する。	予習：栄養食事療法必携使用テキストを読んでおく。90分 復習：配布プリントをまとめておく。90分
第3回	消化器疾患－１－	消化器疾患の栄養食事療法① 症例に関する【ディスカッションと	予習：栄養食事療法必携使用テキストを読んでおく。90分 復習：配布プリントをまとめ

		グループワーク】を行い発表する。	ておく。90分
第4回	消化器疾患 －2－	消化器疾患の栄養食事療法② 症例に関する【ディスカッションとグループワーク】を行い発表する。	予習：栄養食事療法必携使用テキストを読んでおく。90分 復習：配布プリントをまとめておく。90分
第5回	循環器疾患	循環器疾患の栄養食事療法 症例に関する【ディスカッションとグループワーク】を行い発表する。	予習：栄養食事療法必携使用テキストを読んでおく。90分 復習：配布プリントをまとめておく。90分
第6回	腎臓・泌尿器疾患 －１－	腎・尿路疾患の栄養食事療法① 症例に関する【ディスカッションとグループワーク】を行い発表する。	予習：栄養食事療法必携使用テキストを読んでおく。90分 復習：配布プリントをまとめておく。90分
第7回	腎臓・泌尿器疾患 －2－	腎・尿路疾患の栄養食事療法② 症例に関する【ディスカッションとグループワーク】を行い発表する。	予習：栄養食事療法必携使用テキストを読んでおく。90分 復習：配布プリントをまとめておく。90分
第8回	代謝疾患 －１－	代謝疾患の栄養食事療法① 症例に関する【ディスカッションとグループワーク】を行い発表する。	予習：栄養食事療法必携使用テキストを読んでおく。90分 復習：配布プリントをまとめておく。90分
第9回	代謝疾患 －2－	代謝疾患の栄養食事療法② 症例に関する【ディスカッションとグループワーク】を行い発表する	予習：栄養食事療法必携使用テキストを読んでおく。90分 復習：配布プリントをまとめておく。90分
第10回	その他の疾患 －１－	内分泌、感覚器・神経疾患、摂食障害、呼吸器疾患の栄養食事療法 症例に関する【ディスカッションとグループワーク】を行い発表する。	予習：栄養食事療法必携使用テキストを読んでおく。90分 復習：配布プリントをまとめておく。90分
第11回	その他の疾患 －2－	血液疾患、筋骨格疾患、免疫・アレルギーの栄養食事療法 症例に関する【ディスカッションとグループワーク】を行い発表する。	予習：栄養食事療法必携使用テキストを読んでおく。90分 復習：配布プリントをまとめておく。90分
第12回	その他の疾患 －3－	癌、術前・術後、クリティカルケア、摂食機能障害の栄養食事療法 症例に関する【ディスカッションとグループワーク】を行い発表する。	予習：栄養食事療法必携使用テキストを読んでおく。90分 復習：配布プリントをまとめておく。90分
第13回	妊産婦・乳幼児・小児疾患	妊産婦・乳幼児・小児疾患の栄養食事療法 症例に関する【ディスカッションとグループワーク】を行い発表する。	予習：栄養食事療法必携使用テキストを読んでおく。90分 復習：配布プリントをまとめておく。90分
第14回	高齢者の栄養管理	高齢期の疾患の栄養食事療法 症例に関する【ディスカッションとグループワーク】を行い発表する。	予習：栄養食事療法必携使用テキストを読んでおく。90分 復習：配布プリントをまとめておく。90分
第15回	まとめと復習	各疾患の栄養食事療法の内容すべて 症例に関する【ディスカッションとグループワーク】を行い発表する。	予習：栄養食事療法必携使用テキストを読んでおく。90分 復習：配布プリントをまとめておく。90分

教科書
栄養食事療法必携

参考書
実践臨床栄養学・実習、栄養食事療法必携 糖尿病食品交換表 腎臓病食品交換表
成績評価の方法・基準
単位認定60点以上。 期末試験結果90％課題10％、平常点（授業参加度・貢献度等）を加味して総合的に判断する。
課題等に対する フィードバックの方法
授業の前に自ら予習学習し、不明点を授業内で解決するようにする。必ず教科書を読んでキーワードを学習する。 復習では、各自ノートを作成し、必要事項を覚える。 各自ノートにコメントを入れて返却する。
履修のポイント
臨床栄養学実習Ⅲ（臨地実習）へ繋げるよう理解を深める。臨床栄養学実習Ⅲ（臨地実習）における教育効果をあげるため、専門的知識及び技術を修得する。
オフィス・アワー
月曜日～金曜日 昼休み 17研究室・臨床栄養学実習準備室にて対応。

講義コード	20800001
講義名	臨床栄養学実習Ⅰ（Aクラス）
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	前期（重複①）
講義区分	実験・実習
基準単位数	1
代表曜日	木曜日
代表時限	３時限
区分	専門科目
必修/選択	必修
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UE-R254
学年	3学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 島田 美樹子	指定なし

授業の概要と教育目標

医療機関や介護施設において管理栄養士としての役割を果たせるよう、関連専門職と多職種連携を理解し病態・疾患別の栄養アセスメント（スクリーニング、栄養アセスメント、栄養補給量、補給方法の選択、栄養状態モニタリング）の方法と手技を学び、管理栄養士が行う具体的な栄養状態の評価・判定、栄養介入の方法を活用し体得する。また、アクティブラーニングを取り入れた演習に能動的に参加して栄養ケア・マネジメントおよび栄養ケアプロセスを修得することを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

人体の構造ならびに疾病の成り立ちを理解し、多様な対象者の身体状況、栄養状態、生活習慣に係る栄養・食事管理、栄養教育、臨床栄養の分野に関して必要な知識や技術を修得する。臨床栄養学ⅠならびにⅡを基本的に理解し実習と統合、発展させ、実践でも活躍できる人材の育成をする。

到達目標

1.栄養スクリーニングツールの利用ができる。
2.栄養アセスメント及びその結果に基づいた栄養評価ができる。
3.栄養評価に基づき、栄養介入計画を立案・作成できる。
4.モニタリングの経過を記録できる。
5.傷病者に対する栄養改善に向け、積極的に関わる姿勢を身に付ける。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	ガイダンス・栄養スクリーニングと栄養アセスメント	・ガイダンス ・臨床情報の収集 ・患者への問診 ・栄養スクリーニング、臨床検査 【アクティブラーニング】 SGAレポートをグループ内発表。	予習：スクリーニングやアセスメント、臨床検査について復習 90分 復習：SGAの項目をまとめる 90分
			予習：身体計測項目と

第2回	栄養アセスメント(1)	・身体計測（身長、体重、上腕周囲長、上腕三頭筋部皮下脂肪厚など）	手技 90分 復習：アセスメント項目の算出を復習 90分
第3回	栄養アセスメント(2)	・エネルギー必要量の算出	予習：栄養必要量の算出方法の復習 90分 ・エネルギー必要量算出方法の復習 90分
第4回	栄養アセスメント(3)	・食事調査及び栄養計算 ・聞き取り調査の演習 ・食品成分表を用いた栄養計算 【アクティブラーニング】 食事聞き取り調査を栄養計算し自己評価レポートを作成する。 電卓、記録表、栄養算出記録（第3回使用）、食品成分表を持参。	予習：テキスト18-21を予習、食事記録1日分 90分 復習：聞き取り調査のポイントをまとめる 90分
第5回	栄養補給法	・栄養補給法の分類と選択基準 ・経腸栄養剤の分類や特徴を学ぶ 【アクティブラーニング】 経腸栄養剤を試飲し、症例に合わせた選択や特徴、自分が患者にどのように提供していくかも含めレポートにまとめる。	予習：栄養補給法は臨床栄養学Ⅰのテキストで復習する 90分 復習：疾患別の特徴をまとめる 90分
第6回	栄養管理計画書の作成	・栄養管理計画書の作成と計画 ・症例患者の栄養管理計画を立案する	予習：栄養管理計画書の作成に必要な項目を予習 90分 復習：立案した事例を復習しまとめる 90分
第7回	症例検討～病棟訪問	・栄養管理計画書における栄養不良症例のモニタリング ・病棟訪問の実際	予習：病棟訪問のポイントと身体計測を予習する 90分 復習：症例と併せて病棟訪問からの対応を復習する 90分
第8回	栄養診断にもとづいた管理計画	・栄養介入 ・栄養ケアプロセスと栄養診断 【アクティブラーニング】 実際の栄養診断をSOAP記載し演習する。	予習：栄養ケアプロセスについて臨床栄養学Ⅰのテキストで復習する 90分 復習：SOAP記載についてまとめる 90分
第9回	栄養管理計画書の作成	・様々な疾患・病態別の栄養管理計画書を作成 【アクティブラーニング】 症例の栄養管理計画をグループワークにて実施し発表する。	予習：疾患ガイドラインや臨床検査値の復習 90分 復習：グループワーク発表後のまとめをする 90分
第10回	糖尿病(1) ～食品交換表	・糖尿病食事療法のための食品交換表の使い方 ・交換表による栄養指導 【アクティブラーニング】 ロールプレイによる交換表を用いた栄養指導を演習する。	予習：食品交換表の表分類を予習する 90分 復習：糖尿病患者の栄養管理の復習 90分
第11回	糖尿病(2) ～症例の栄養評	・糖尿病の栄養管理 ・食事療法を用いた献立作成と栄養指導	予習：食品交換表利用の栄養管理 90分 復習：糖尿病ガイドラ

	価	・特別治療食の試食とレポート	イン、栄養指導の復習 90分
第12回	慢性腎臓病(1)～交換表の使い方	・腎臓病食事療法のための食品交換表の使い方 ・交換表を用いた栄養指導 【アクティブラーニング】 ロールプレイによる交換表を用いた栄養指導を演習する。	予習：食品交換表の表分類を予習する 90分 復習：慢性腎臓病患者の栄養管理をまとめる 90分
第13回	慢性腎臓病(2)～症例の栄養評価	・CKDの栄養管理 ・食事療法を用いた献立作成と栄養指導 ・CKD治療食品の試食とレポート	予習：食品交換表利用の栄養管理の予習90分 復習：CKD栄養指導の復習 90分
第14回	咀嚼嚥下障害者の栄養管理	・咀嚼嚥下障害の判定および栄養管理の方法 ・嚥下調整食、とろみ調整食 ・試食と評価	予習：嚥下障害をまとめる 90分 復習：嚥下調整食の特徴をまとめる 90分
第15回	各疾患ごとの栄養管理	・疾患別栄養管理（脂質異常症、肝硬変、胃切除、肺がん、クローン病） 【アクティブラーニング】 栄養管理計画書及び栄養評価を演習する。	予習：臨床栄養学実習Ⅰのまとめ 90分 復習：実習の資料を整理しノートにまとめる 90分

教科書

中村富予、高岸和子 「改訂臨床栄養学実習フローチャートで学ぶ臨床栄養学管理」 建帛社

参考書

「糖尿病食事療法のための食品交換表 第7版」 （日本糖尿病学会）
黒川清監修、中尾俊之、小沢尚、酒井謙 編集 「腎臓病食品交換表 第9版 治療食の基準」（医歯薬出版）

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上。
レポート・課題の提出70%、確認ミニテスト20%、授業への参加度10%

課題等に対するフィードバックの方法

授業内でレポートや課題、ミニテストを課すことがある。返却するので、学習の参考にすること。また、授業ではテキストに補足する資料を配布するので、臨床栄養学実習Ⅰで学んだ内容の理解に役立てること。

履修のポイント

臨地実習（臨床栄養学実習Ⅲ）に向けて、臨床栄養学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲとともに教育効果をあげるため、積極的に演習に取り組み専門的知識及び技術を修得すること。

オフィス・アワー

火曜日～木曜日 昼休み 研究室12

講義コード	20800002
講義名	臨床栄養学実習Ⅰ（Bクラス）
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	前期（重複②）
講義区分	実験・実習
基準単位数	1
代表曜日	木曜日
代表時限	３時限
区分	専門科目
必修/選択	必修
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UE-R254
学年	3学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 島田 美樹子	指定なし

授業の概要と教育目標

医療機関や介護施設において管理栄養士としての役割を果たせるよう、関連専門職と多職種連携を理解し病態・疾患別の栄養アセスメント（スクリーニング、栄養アセスメント、栄養補給量、補給方法の選択、栄養状態モニタリング）の方法と手技を学び、管理栄養士が行う具体的な栄養状態の評価・判定、栄養介入の方法を活用し体得する。また、アクティブラーニングを取り入れた演習に能動的に参加して栄養ケア・マネジメントおよび栄養ケアプロセスを修得することを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

人体の構造ならびに疾病の成り立ちを理解し、多様な対象者の身体状況、栄養状態、生活習慣に係る栄養・食事管理、栄養教育、臨床栄養の分野に関して必要な知識や技術を修得する。臨床栄養学ⅠならびにⅡを基本的に理解し実習と統合、発展させ、実践でも活躍できる人材の育成をする。

到達目標

1.栄養スクリーニングツールの利用ができる。
2.栄養アセスメント及びその結果に基づいた栄養評価ができる。
3.栄養評価に基づき、栄養介入計画を立案・作成できる。
4.モニタリングの経過を記録できる。
5.傷病者に対する栄養改善に向け、積極的に関わる姿勢を身に付ける。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	ガイダンス・栄養スクリーニングと栄養アセスメント	・ガイダンス ・臨床情報の収集 ・患者への問診 ・栄養スクリーニング、臨床検査 【アクティブラーニング】 SGAレポートをグループ内発表。	予習：スクリーニングやアセスメント、臨床検査について復習 90分 復習：SGAの項目をまとめる 90分
			予習：身体計測項目と

第2回	栄養アセスメント(1)	・身体計測（身長、体重、上腕周囲長、上腕三頭筋部皮下脂肪厚など）	手技 90分 復習：アセスメント項目の算出を復習 90分
第3回	栄養アセスメント(2)	・エネルギー必要量の算出	予習：栄養必要量の算出方法の復習 90分 ・エネルギー必要量算出方法の復習 90分
第4回	栄養アセスメント(3)	・食事調査及び栄養計算 ・聞き取り調査の演習 ・食品成分表を用いた栄養計算 【アクティブラーニング】 食事聞き取り調査を栄養計算し自己評価レポートを作成する。 電卓、記録表、栄養算出記録（第3回使用）、食品成分表を持参。	予習：テキスト18-21を予習、食事記録1日分 90分 復習：聞き取り調査のポイントをまとめる 90分
第5回	栄養補給法	・栄養補給法の分類と選択基準 ・経腸栄養剤の分類や特徴を学ぶ 【アクティブラーニング】 経腸栄養剤を試飲し、症例に合わせた選択や特徴、自分が患者にどのように提供していくかも含めレポートにまとめる。	予習：栄養補給法は臨床栄養学Ⅰのテキストで復習する 90分 復習：疾患別の特徴をまとめる 90分
第6回	栄養管理計画書の作成	・栄養管理計画書の作成と計画 ・症例患者の栄養管理計画を立案する	予習：栄養管理計画書の作成に必要な項目を予習 90分 復習：立案した事例を復習しまとめる 90分
第7回	症例検討～病棟訪問	・栄養管理計画書における栄養不良症例のモニタリング ・病棟訪問の実際	予習：病棟訪問のポイントと身体計測を予習する 90分 復習：症例と併せて病棟訪問からの対応を復習する 90分
第8回	栄養診断にもとづいた管理計画	・栄養介入 ・栄養ケアプロセスと栄養診断 【アクティブラーニング】 実際の栄養診断をSOAP記載し演習する。	予習：栄養ケアプロセスについて臨床栄養学Ⅰのテキストで復習する 90分 復習：SOAP記載についてまとめる 90分
第9回	栄養管理計画書の作成	・様々な疾患・病態別の栄養管理計画書を作成 【アクティブラーニング】 症例の栄養管理計画をグループワークにて実施し発表する。	予習：疾患ガイドラインや臨床検査値の復習 90分 復習：グループワーク発表後のまとめをする 90分
第10回	糖尿病(1) ～食品交換表	・糖尿病食事療法のための食品交換表の使い方 ・交換表による栄養指導 【アクティブラーニング】 ロールプレイによる交換表を用いた栄養指導を演習する。	予習：食品交換表の表分類を予習する 90分 復習：糖尿病患者の栄養管理の復習 90分
第11回	糖尿病(2) ～症例の栄養評	・糖尿病の栄養管理 ・食事療法を用いた献立作成と栄養指導	予習：食品交換表利用の栄養管理 90分 復習：糖尿病ガイドラ

	価	・特別治療食の試食とレポート	イン、栄養指導の復習 90分
第12回	慢性腎臓病(1)～交換表の使い方	・腎臓病食事療法のための食品交換表の使い方 ・交換表を用いた栄養指導 【アクティブラーニング】 ロールプレイによる交換表を用いた栄養指導を演習する。	予習：食品交換表の表分類を予習する 90分 復習：慢性腎臓病患者の栄養管理をまとめる 90分
第13回	慢性腎臓病(2)～症例の栄養評価	・CKDの栄養管理 ・食事療法を用いた献立作成と栄養指導 ・CKD治療食品の試食とレポート	予習：食品交換表利用の栄養管理の予習90分 復習：CKD栄養指導の復習 90分
第14回	咀嚼嚥下障害者の栄養管理	・咀嚼嚥下障害の判定および栄養管理の方法 ・嚥下調整食、とろみ調整食 ・試食と評価	予習：嚥下障害をまとめる 90分 復習：嚥下調整食の特徴をまとめる 90分
第15回	各疾患ごとの栄養管理	・疾患別栄養管理（脂質異常症、肝硬変、胃切除、肺がん、クローン病） 【アクティブラーニング】 栄養管理計画書及び栄養評価を演習する。	予習：臨床栄養学実習Ⅰのまとめ 90分 復習：実習の資料を整理しノートにまとめる 90分

教科書

中村富予、高岸和子 「改訂臨床栄養学実習フローチャートで学ぶ臨床栄養学管理」 建帛社

参考書

「糖尿病食事療法のための食品交換表 第7版」 （日本糖尿病学会）
黒川清監修、中尾俊之、小沢尚、酒井謙 編集 「腎臓病食品交換表 第9版 治療食の基準」（医歯薬出版）

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上。
レポート・課題の提出70%、確認ミニテスト20%、授業への参加度10%

課題等に対するフィードバックの方法

授業内でレポートや課題、ミニテストを課すことがある。返却するので、学習の参考にすること。また、授業ではテキストに補足する資料を配布するので、臨床栄養学実習Ⅰで学んだ内容の理解に役立てること。

履修のポイント

臨地実習（臨床栄養学実習Ⅲ）に向けて、臨床栄養学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲとともに教育効果をあげるため、積極的に演習に取り組み専門的知識及び技術を修得すること。

オフィス・アワー

火曜日～木曜日 昼休み 研究室12

講義コード	20810001
講義名	臨床栄養学実習Ⅱ（Aクラス）
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期
講義区分	実験・実習
基準単位数	1
代表曜日	木曜日
代表時限	３時限
区分	専門科目
必修/選択	必修
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UE-R263
学年	3学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 中山 優子	指定なし
教員	島田 美樹子	指定なし

授業の概要と教育目標

医療現場での管理栄養士の実践力を身に付けるために、関連教科で学習した内容を基礎知識とし、栄養上の欠陥がもたらす疾病や栄養食事療法が有効な疾病について疾病の概要、栄養食事療法の意義や方法を理解する。臨床栄養学実習Ⅰでは、各疾患・病態に応じた栄養食事療法の実際の栄養・食事管理を行うとともに、患者のQOLの向上に寄与した食事の提供を理解する。
臨床栄養学実習Ⅱでは、班編成や班役割分担により、実習献立を活用した治療食を作成する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

臨床栄養学で学んだ内容を基礎知識とし、食事療法が有効な疾病についての治療に適した栄養管理を行うため、実践に活用できる知識及び技術の能力を養う。
臨床栄養学実習Ⅲ（臨地実習）に向けて、一人一人が臨床栄養学に関するスキルや意欲を高める。

到達目標

・栄養食事療法が有効な疾病に応じた栄養食事療法の実際の栄養・食事管理を行うことができる。
・患者のQOLの向上に寄与した食事の提供を試みることができる。
・病状の改善、疾病の治療回復など効果的な治療食について献立立案することができる。
・実際に調理、検食、評価し学習することができる。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	臨床栄養学実習Ⅱの概要	ガイダンス、臨床栄養学実習について（栄養マネジメント） 栄養補給法についてと食事管理について 【グループワークでディスカッションをして実習をする】	予習：臨床栄養学実習Ⅱテキストを読んでおく。90分 復習：配布プリントをまとめておく90分
		食事療法の重要性、治療食の種類、食	予習：臨床栄養学実習Ⅱテ

第2回	栄養補給マネジメント -1-	事計画および献立作成 【グループワークでディスカッションをして実習をする】	キストを読んでおく。90分 復習：配布プリントをまとめておく90分
第3回	栄養補給マネジメント -2-	献立作成の流れ、常食から特別治療食への展開 【グループワークでディスカッションをして実習をする】	予習：臨床栄養学実習Ⅱテキストを読んでおく。90分 復習：配布プリントをまとめておく90分
第4回	消化器疾患 -1-	消化器疾患（胃十二指腸潰瘍）の献立作成、発注書の作成 【グループワークでディスカッションをして実習をする】	予習：臨床栄養学実習Ⅱテキストを読んでおく。90分 復習：配布プリントをまとめておく90分
第5回	消化器疾患 -2-	消化器疾患（胃十二指腸潰瘍）の献立実習、試食、評価 【グループワークでディスカッションをして実習をする】	予習：臨床栄養学実習Ⅱテキストを読んでおく。90分 復習：配布プリントをまとめておく90分
第6回	代謝疾患 -1-	代謝疾患（糖尿病）の献立作成、発注書の作成 【グループワークでディスカッションをして実習をする】	予習：臨床栄養学実習Ⅱテキストを読んでおく。90分 復習：配布プリントをまとめておく90分
第7回	代謝疾患 -2-	代謝疾患（糖尿病）の献立実習、試食、評価 【グループワークでディスカッションをして実習をする】	予習：臨床栄養学実習Ⅱテキストを読んでおく。90分 復習：配布プリントをまとめておく90分
第8回	循環器疾患 -1-	循環器疾患（高血圧）の献立作成、発注書の作成 【グループワークでディスカッションをして実習をする】	予習：臨床栄養学実習Ⅱテキストを読んでおく。90分 復習：配布プリントをまとめておく90分
第9回	循環器疾患 -2-	循環器疾患（高血圧）の献立実習、試食、評価 【グループワークでディスカッションをして実習をする】	予習：臨床栄養学実習Ⅱテキストを読んでおく。90分 復習：配布プリントをまとめておく90分
第10回	腎疾患 -1-	腎疾患（腎臓病）の献立作成、発注書の作成 【グループワークでディスカッションをして実習をする】	予習：臨床栄養学実習Ⅱテキストを読んでおく。90分 復習：配布プリントをまとめておく90分
第11回	腎疾患 -2-	腎疾患（腎臓病）の献立実習、試食、評価 【グループワークでディスカッションをして実習をする】	予習：臨床栄養学実習Ⅱテキストを読んでおく。90分 復習：配布プリントをまとめておく90分
第12回	摂食・嚥下障害 -1-	摂食・嚥下障害の献立作成、発注書の作成 【グループワークでディスカッションをして実習をする】	予習：臨床栄養学実習Ⅱテキストを読んでおく。90分 復習：配布プリントをまとめておく90分
第13回	摂食・嚥下障害 -2-	摂食・嚥下障害の献立実習、試食、評価 【グループワークでディスカッションをして実習をする】	予習：臨床栄養学実習Ⅱテキストを読んでおく。90分 復習：配布プリントをまとめておく90分
第14回	治療食献立のまとめ	医療機関における治療食献立作成のまとめ 【グループワークでディスカッションをして実習をする】	予習：臨床栄養学実習Ⅱテキストを読んでおく。90分 復習：配布プリントをまとめておく90分
	臨床栄養学実	各疾患の栄養管理のまとめ	予習：臨床栄養学実習Ⅱテキストを読んでおく。90分

第15回	習Ⅰのまとめ	【グループワークでディスカッションをしてプレゼンテーションをする】	復習：配布プリントをまとめておく90分

教科書
栄養食事療法必携 担当教員作成プリント及び帳票類
参考書
栄養食事療法必携 糖尿病食品交換表 腎臓病食品交換表 日本標準食品成分表
成績評価の方法・基準
単位認定60点以上。 疾患別献立の立案・課題献立提出50%、課題レポート20%、平常点（授業参加度・貢献度）30%として総合して評価。
課題等に対する フィードバックの方法
臨床栄養学実習Ⅰの内容を復習しておくこと。 栄養食事療法必携授業の各疾患について復習しておくこと。 臨地実習に向けて重要な事柄を修得すること。 疾患別献立については、コメントを入れて返却する。
履修のポイント
課題は提出期限を厳守する。 持ち物：教科書、調理用白衣、調理用帽子、実習室用上履、電卓を持参する。 臨地実習における教育効果をあげるため、専門的知識及び技術を修得するよう心がける。
オフィス・アワー
月曜日～金曜日 昼休み 17研究室・臨床栄養学実習準備室にて対応

講義コード	20810002
講義名	臨床栄養学実習Ⅱ（Bクラス）
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期
講義区分	実験・実習
基準単位数	1
代表曜日	木曜日
代表時限	３時限
区分	専門科目
必修/選択	必修
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UE-R263
学年	3学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 中山 優子	指定なし
教員	島田 美樹子	指定なし

授業の概要と教育目標

医療現場での管理栄養士の実践力を身に付けるために、関連教科で学習した内容を基礎知識とし、栄養上の欠陥がもたらす疾病や栄養食事療法が有効な疾病について疾病の概要、栄養食事療法の意義や方法を理解する。臨床栄養学実習Ⅰでは、各疾患・病態に応じた栄養食事療法の実際の栄養・食事管理を行うとともに、患者のQOLの向上に寄与した食事の提供を理解する。臨床栄養学実習Ⅱでは、班編成や班役割分担により、実習献立を活用した治療食を作成する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

臨床栄養学で学んだ内容を基礎知識とし、食事療法が有効な疾病についての治療に適した栄養管理を行うため、実践に活用できる知識及び技術の能力を養う。
臨床栄養学実習Ⅲ（臨地実習）に向けて、一人一人が臨床栄養学に関するスキルや意欲を高める。

到達目標

・栄養食事療法が有効な疾病に応じた栄養食事療法の実際の栄養・食事管理を行うことができる。
・患者のQOLの向上に寄与した食事の提供を試みることができる。
・病状の改善、疾病の治療回復など効果的な治療食について献立立案することができる。
・実際に調理、検食、評価し学習することができる。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	臨床栄養学実習Ⅰの概要	ガイダンス、臨床栄養学実習について（栄養マネジメント） 栄養補給法についてと食事管理について 【グループワークでディスカッションをして実習をする】	予習：臨床栄養学実習Ⅱテキストを読んでおく。90分 復習：配布プリントをまとめておく90分
		食事療法の重要性、治療食の種類、食	予習：臨床栄養学実習Ⅱテ

第2回	栄養補給マネジメント -1-	事計画および献立作成 【グループワークでディスカッションをして実習をする】	キストを読んでおく。90分 復習：配布プリントをまとめておく90分
第3回	栄養補給マネジメント -2-	献立作成の流れ、常食から特別治療食への展開 【グループワークでディスカッションをして実習をする】	予習：臨床栄養学実習Ⅱテキストを読んでおく。90分 復習：配布プリントをまとめておく90分
第4回	消化器疾患 -1-	消化器疾患（胃十二指腸潰瘍）の献立作成、発注書の作成 【グループワークでディスカッションをして実習をする】	予習：臨床栄養学実習Ⅱテキストを読んでおく。90分 復習：配布プリントをまとめておく90分
第5回	消化器疾患 -2-	消化器疾患（胃十二指腸潰瘍）の献立実習、試食、評価 【グループワークでディスカッションをして実習をする】	予習：臨床栄養学実習Ⅱテキストを読んでおく。90分 復習：配布プリントをまとめておく90分
第6回	代謝疾患 -1-	代謝疾患（糖尿病）の献立作成、発注書の作成 【グループワークでディスカッションをして実習をする】	予習：臨床栄養学実習Ⅱテキストを読んでおく。90分 復習：配布プリントをまとめておく90分
第7回	代謝疾患 -2-	代謝疾患（糖尿病）の献立実習、試食、評価 【グループワークでディスカッションをして実習をする】	予習：臨床栄養学実習Ⅱテキストを読んでおく。90分 復習：配布プリントをまとめておく90分
第8回	循環器疾患 -1-	循環器疾患（高血圧）の献立作成、発注書の作成 【グループワークでディスカッションをして実習をする】	予習：臨床栄養学実習Ⅱテキストを読んでおく。90分 復習：配布プリントをまとめておく90分
第9回	循環器疾患 -2-	循環器疾患（高血圧）の献立実習、試食、評価 【グループワークでディスカッションをして実習をする】	予習：臨床栄養学実習Ⅱテキストを読んでおく。90分 復習：配布プリントをまとめておく90分
第10回	腎疾患 -1-	腎疾患（腎臓病）の献立作成、発注書の作成 【グループワークでディスカッションをして実習をする】	予習：臨床栄養学実習Ⅱテキストを読んでおく。90分 復習：配布プリントをまとめておく90分
第11回	腎疾患 -2-	腎疾患（腎臓病）の献立実習、試食、評価 【グループワークでディスカッションをして実習をする】	予習：臨床栄養学実習Ⅱテキストを読んでおく。90分 復習：配布プリントをまとめておく90分
第12回	摂食・嚥下障害 -1-	摂食・嚥下障害の献立作成、発注書の作成 【グループワークでディスカッションをして実習をする】	予習：臨床栄養学実習Ⅱテキストを読んでおく。90分 復習：配布プリントをまとめておく90分
第13回	摂食・嚥下障害 -2-	摂食・嚥下障害の献立実習、試食、評価 【グループワークでディスカッションをして実習をする】	予習：臨床栄養学実習Ⅱテキストを読んでおく。90分 復習：配布プリントをまとめておく90分
第14回	治療食献立のまとめ	医療機関における治療食献立作成のまとめ 【グループワークでディスカッションをして実習をする】	予習：臨床栄養学実習Ⅱテキストを読んでおく。90分 復習：配布プリントをまとめておく90分
	臨床栄養学実	各疾患の栄養管理のまとめ	予習：臨床栄養学実習Ⅱテキストを読んでおく。90分

第15回	習Ⅰのまとめ	【グループワークでディスカッションをしてプレゼンテーションをする】	復習：配布プリントをまとめておく90分

教科書
栄養食事療法必携 担当教員作成プリント及び帳票類
参考書
栄養食事療法必携 糖尿病食品交換表 腎臓病食品交換表 日本標準食品成分表
成績評価の方法・基準
単位認定60点以上。 疾患別献立の立案・課題献立提出50%、課題レポート20%、平常点（授業参加度・貢献度）30%として総合して評価。
課題等に対する フィードバックの方法
臨床栄養学実習Ⅰの内容を復習しておくこと。 栄養食事療法必携授業の各疾患について復習しておくこと。 臨地実習に向けて重要な事柄を修得すること。 疾患別献立については、コメントを入れて返却する。
履修のポイント
課題は提出期限を厳守する。 持ち物：教科書、調理用白衣、調理用帽子、実習室用上履、電卓を持参する。 臨地実習における教育効果をあげるため、専門的知識及び技術を修得するよう心がける。
オフィス・アワー
月曜日～金曜日 昼休み 17研究室・臨床栄養学実習準備室にて対応

講義コード	20820001
講義名	公衆栄養学Ⅰ
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期（重複①）
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	４時限
区分	専門科目
必修/選択	必修
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UE-R264
学年	3学年

担当教員

職種	氏名	所属
教 員	◎ 佐藤 加代子	指定なし

授業の概要と教育目標

先ずは、公衆栄養学の意義と目的、生態系と食料・栄養、保健・医療・福祉システムと公衆栄養活動などの概念を理解する。その後、国や地域、諸外国の健康・栄養問題の現状と課題に関する動向および現状・課題に対応した栄養政策について公衆栄養活動の歴史、国際比較をしながら習得する。政策展開の為にヘルスプロモーションの考えに沿って、国や地域、諸外国における生活習慣病予防、健康寿命の延伸を目的とした具体的な健康づくりのための公衆栄養活動についても学ぶ。

卒業認定・学位授与の方針との関連

公衆栄養学は国民、地域住民、職域などさまざまな集団を対象に、食と健康の関係を明らかにし、望ましい食生活の実現に向けた公衆栄養活動推進のための基本的な知識と技術を習得することを目指している。公衆栄養学Ⅰでは、管理栄養士が活躍するいずれの職場においても必要とされる生活習慣病の1次予防から3次予防にわたる公衆栄養活動を行うためにガイドラインに沿って①公衆栄養学の概念②健康・栄養問題の現状と課題③健康づくり施策と公衆栄養と公衆栄養活動についての理解と習得を目指すものとする。

到達目標

1.認知の観点から：「公衆栄養の概論、公衆栄養活動の必要性について説明ができる」「わが国、諸外国の健康・栄養の問題点の現状について説明ができる」「わが国、諸外国の公衆栄養政策の現状について説明ができる」
2.態度の観点から：「わが国、諸外国の健康・栄養の問題点の要因について図・表を見て探求と分析力、読解力を表現できる」「わが国、諸外国の健康・栄養の問題点の要因の討論で学生間のチームワーク、協調性を発揮できる」
3.技能の観点から：「わが国、諸外国の健康・栄養の問題点をもとに公衆栄養政策や事業の必要性について、批判的・創造的思考力、問題解決力が発揮できる」

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習と そのために必要な時間
			予習（60分基準）：教科書の授業該当箇所を読む

第1回	導入、公衆栄養学の概念①	公衆栄養の意義と目的	復習（60分基準）：配付資料、教科書および練習問題などの見直しをして理解を深める
第2回	公衆栄養学の概念②	保健・医療・介護システム	予習（60分基準）：教科書の授業該当箇所を読む 復習（60分基準）：配付資料、教科書および練習問題などの見直しをして理解を深める
第3回	公衆栄養活動①	公衆栄養活動の歴史	予習（60分基準）：教科書の授業該当箇所を読む 復習（60分基準）：配付資料、教科書および練習問題などの見直しをして理解を深める
第4回	公衆栄養活動②	生態系保全	予習（60分基準）：教科書の授業該当箇所を読む 復習（60分基準）：配付資料、教科書および練習問題などの見直しをして理解を深める
第5回	公衆栄養活動③	コミュニティ、ヘルスプロモーション	予習（60分基準）：教科書の授業該当箇所を読む 復習（60分基準）：配付資料、教科書および練習問題などの見直しをして理解を深める
第6回	わが国の健康・栄養問題の現状と課題①	人口問題、少子化、食糧問題など社会環境と健康・栄養問題	予習（60分基準）：教科書の授業該当箇所を読む 復習（60分基準）：配付資料、教科書および練習問題などの見直しをして理解を深める
第7回	わが国の健康・栄養問題の現状と課題②	死亡状況、平均・健康寿命、生活習慣病など健康状態の年次的変化	予習（60分基準）：教科書の授業該当箇所を読む 復習（60分基準）：配付資料、教科書および練習問題などの見直しをして理解を深める
第8回	わが国の健康・栄養問題の現状と課題③	栄養素・食品摂取量、料理・食事パターンなどの食事・食行動の変化	予習（60分基準）：教科書の授業該当箇所を読む 復習（60分基準）：配付資料、教科書および練習問題などの見直しをして理解を深める
第9回	わが国の健康・栄養問題の現状と課題④	食品生産・流通、健康食品、食料自給率など食環境の変化	予習（60分基準）：教科書の授業該当箇所を読む 復習（60分基準）：配付資料、教科書および練習問題などの見直しをして理解を深める
第10回	諸外国の健康・栄養問題の現状と課題	先進諸国、開発途上国、地域間格差などについて	予習（60分基準）：教科書の授業該当箇所を読む 復習（60分基準）：配付資料、教科書および練習問題などの見直しをして理解を深める
第11回	わが国の公衆栄養政策①	公衆栄養活動の役割・人材育成、公衆栄養関連法規、管理栄養士・栄養士制度	予習（60分基準）：教科書の授業該当箇所を読む 復習（60分基準）：配付資料、教科書および練習問題などの見直しをして理解を深める

第12回	わが国の公衆栄養政策②	国民健康・栄養調査、食生活指針、食事バランスガイド、運動指針	予習（60分基準）：教科書の授業該当箇所を読む 復習（60分基準）：配付資料、教科書および練習問題などの見直しをして理解を深める
第13回	わが国の公衆栄養政策③	国の健康増進基本方針と地方計画	予習（60分基準）：教科書の授業該当箇所を読む 復習（60分基準）：配付資料、教科書および練習問題などの見直しをして理解を深める
第14回	わが国の公衆栄養政策④	諸外国における健康栄養政策	予習（60分基準）：教科書の授業該当箇所を読む 復習（60分基準）：配付資料、教科書および練習問題などの見直しをして理解を深める
第15回	振り返りと到達目標の確認	振り返りと到達目標の確認	予習（60分基準）：教科書の授業該当箇所を読む 復習（60分基準）：配付資料、教科書および練習問題などの見直しをして理解を深める

教科書

公衆栄養学-地域・国・国際レベルでの栄養マネジメント-、医歯薬出版株式会社

参考書

・厚生の指標増刊「国民衛生の動向」、厚生統計協会
・国民健康・栄養の現状、平成22年厚生労働省国民健康・栄養調査報告、国立健康・栄養研究所監修、第一出版
・管理栄養士国家試験問題解説、メディックメディアの過去問

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上
授業参加度（発言などを含む）、レポート等の提出、小テストなど：30%
定期試験：70%

課題等に対する
フィードバックの方法

①出席表を作成し、学生にその日の授業内容の質問や感想の記述を求め、コメントをつけて、毎回の授業前に返却する。
②課題レポートは、添削し、コメントをつけて返却する。
③授業内容の練習問題を実施し、答え合わせは授業中に行い、自分の間違いだけでなく問題の文章の違うところまでの直しを宿題として翌週に提出、添削後に返却する。

履修のポイント

①管理栄養士として卒業後の活躍、また国家試験受験を意識し、なぜ、どうしての考えを大切に、また質問などによる学生と教員とのキャッチボールを大切にした授業とする。
②教科書にない資料はなるべく配布する。
③授業中の集中力を期待し、パワーポイント資料は後日に配布する。

オフィス・アワー

授業日の授業開始前もしくは終了後に教室等で質問に応じる。

講義コード	20830001
講義名	公衆栄養学Ⅱ
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	４時限
区分	専門科目
必修/選択	必修
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UE-R271
学年	4学年

担当教員

職種	氏名	所属
教 員	◎ 佐藤 加代子	指定なし

授業の概要と教育目標

「公衆栄養学Ⅰ」で学んだ公衆栄養の概念、健康栄養問題の現状と課題、栄養政策を理解したうえでの「公衆栄養学Ⅱ」では、地域、職域における公衆栄養活動の展開に向けて、必要な栄養疫学、公衆栄養マネジメント、また具体的な公衆栄養プログラムの展開についての理解、知識を身につけることを目的とした学びとする。「公衆栄養学Ⅱ」での学びが「公衆栄養学実習」に継続し、「臨地実習」で応用となります。
栄養疫学では、栄養疫学の必要性と意義、基本的な考え方とその役割、曝露情報としての栄養・食事摂取量の取り扱い、栄養調査における食事摂取量の測定方法、公衆栄養プログラム立案、栄養疫学の科学的根拠の活用方法について学ぶ。
公衆栄養マネジメントでは、公衆栄養マネジメントの基本的な考え方、その必要性、アセスメントの目的や方法、公衆栄養プログラムにおける目標設定の方法、取り組みの計画、実施、評価の各段階に応じた対応について学ぶ。
公衆栄養プログラムの展開では、具体的な事例を通じて地域特性、食環境づくり、集団特性を考慮したプログラム展開、より客観的・総合的視野から対応する力量形成を目指した学びとする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

公衆栄養学は、集団の健康に栄養学的因子がどのように関わるのか明らかにし、得られた知見を健康問題解決に役立てることを目指している。日本は諸外国に比べて少子高齢化のスピードが速く、世界でも過去に例を見ない少子高齢化社会を迎えており、健康寿命の延伸に向けて管理栄養士の役割は大きい。
公衆栄養学Ⅱでは、公衆栄養学Ⅰの学びを基に公衆栄養マネジメント（PDCA）理論モデルの考え方に則り、①栄養疫学の概要②公衆栄養マネジメント③公衆栄養プログラムの展開についての基本的な知識と技術の習得を目指すものとする。

到達目標

1.認知の観点から：「栄養疫学・食事調査の必要性について理解し、説明ができる」「公衆栄養マネジメントについて理解し、説明ができる」「公衆栄養マネジメント理論による具体的な公衆栄養プログラムの展開について理解し、説明ができる」
２.態度の観点から：「栄養疫学・食事調査について探求力と分析力、読解力、表現力を獲得できる」「公衆栄養マネジメント理論から具体的な公衆栄養プログラムの展開に至るまでの探求力と分析力、読解力、表現力を獲得できる」
３.技能の観点から：「栄養疫学・食事調査、および公衆栄養マネジメント理論から具体的な公

衆栄養プログラムの展開に至るまでの探求力、分析力、読解力、表現力の獲得から事例等の批判的・創造的思考力が発揮できる」

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	栄養疫学①	栄養疫学の概要、曝露情報としての食事摂取量の扱い	予習（60分基準）：教科書の授業該当箇所を読む 復習（60分基準）：配付資料、教科書および練習問題などの見直しをして理解を深める
第2回	栄養疫学②	食事摂取量の測定方法①（24時間思い出し法）	予習（60分基準）：教科書の授業該当箇所を読む 復習（60分基準）：配付資料、教科書および練習問題などの見直しをして理解を深める
第3回	栄養疫学③	食事摂取量の測定方法②（食物摂取頻度調査）	予習（60分基準）：教科書の授業該当箇所を読む 復習（60分基準）：配付資料、教科書および練習問題などの見直しをして理解を深める
第4回	栄養疫学④	食事摂取量の評価方法①（食事調査と食事摂取基準）	予習（60分基準）：教科書の授業該当箇所を読む 復習（60分基準）：配付資料、教科書および練習問題などの見直しをして理解を深める
第5回	栄養疫学⑤	食事摂取量の評価方法②（総エネルギー調整栄養素摂取量）	予習（60分基準）：教科書の授業該当箇所を読む 復習（60分基準）：配付資料、教科書および練習問題などの見直しをして理解を深める
第6回	公衆栄養マネジメント①	公衆栄養マネジメントの基本的考え方、必要性	予習（60分基準）：教科書の授業該当箇所を読む 復習（60分基準）：配付資料、教科書および練習問題などの見直しをして理解を深める
第7回	公衆栄養マネジメント②	公衆栄養アセスメントの目的、方法、活用、応用	予習（60分基準）：教科書の授業該当箇所を読む 復習（60分基準）：配付資料、教科書および練習問題などの見直しをして理解を深める
第8回	公衆栄養マネジメント③	公衆栄養プログラムの目標設定	予習（60分基準）：教科書の授業該当箇所を読む 復習（60分基準）：配付資料、教科書および練習問題などの見直しをして理解を深める
第9回	公衆栄養マネジメント④	公衆栄養プログラムの取り組みの計画、実施、評価	予習（60分基準）：教科書の授業該当箇所を読む 復習（60分基準）：配付資料、教科書および練習問題などの見直しをして理解を深める
	公衆栄養マ		予習（60分基準）：教科書の授業該当箇所を読む

第10回	ネジメント⑤	公衆栄養プログラムの取り組みの計画、実施、評価	復習（60分基準）：配付資料、教科書および練習問題などの見直しをして理解を深める
第11回	公衆栄養プログラムの展開①	地域特性に対応したプログラムの展開	予習（60分基準）：教科書の授業該当箇所を読む 復習（60分基準）：配付資料、教科書および練習問題などの見直しをして理解を深める
第12回	公衆栄養プログラムの展開②	食環境づくりの為のプログラムの展開	予習（60分基準）：教科書の授業該当箇所を読む 復習（60分基準）：配付資料、教科書および練習問題などの見直しをして理解を深める
第13回	公衆栄養プログラムの展開③	地域集団のライフステージ別のプログラム展開	予習（60分基準）：教科書の授業該当箇所を読む 復習（60分基準）：配付資料、教科書および練習問題などの見直しをして理解を深める
第14回	公衆栄養プログラムの展開④	生活習慣病ハイリスク集団のプログラムの展開	予習（60分基準）：教科書の授業該当箇所を読む 復習（60分基準）：配付資料、教科書および練習問題などの見直しをして理解を深める
第15回	振り返りと到達目標の確認	振り返りと到達目標の確認	予習（60分基準）：教科書の授業該当箇所を読む 復習（60分基準）：配付資料、教科書および練習問題などの見直しをして理解を深める

教科書

・田中平三、徳留信寛、伊達ちぐさ編 健康・栄養科学シリーズ「公衆栄養学」改訂5版 南江堂
・サクセス管理栄養士講座「公衆栄養学」井上浩一他、第一出版

参考書

・管理栄養士国家試験問題解説、メディックメディアの過去問

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上
授業参加度、レポート等の提出、小テストなど：30%
定期試験：70%

課題等に対する
フィードバックの方法

①出席表を作成し、学生にその日の授業内容の質問や感想の記述を求め、コメントをつけて毎回の授業前に返却する。
②課題レポートは、添削し、コメントをつけて返却する。
③授業内容の練習問題を実施し、答え合わせは授業中に行い、自分の間違いだけでなく問題の文章の違うところまでの直しを宿題として翌週に提出、添削後に返却する。

履修のポイント

①管理栄養士として卒業後の活躍、または国家試験受験を意識し、なぜ、どうしての考えを大切に、また質問などによる学生と教員とのキャッチボールを大切にした授業とする。
②教科書にない資料はなるべく配布する。
③授業中の集中力を期待し、パワーポイント資料は後日に配布する。

オフィス・アワー

授業日の授業開始前もしくは終了後に教室等で質問に応じる。

講義コード	20840001
講義名	公衆栄養学実習Ⅰ（Aクラス）
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	前期
講義区分	実験・実習
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	３時限
区分	専門科目
必修/選択	必修
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UE-R272
学年	4学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 橘 陽子	指定なし

授業の概要と教育目標

公衆栄養活動は、地域住民の健康の維持・増進を目的として綿密なる計画を堅実に実行し、その結果を的確に評価するという行為の繰り返しである。そのためには，正確な情報の収集による問題点の把握（公衆栄養アセスメント）及びヘルスプロモーションの考えに基づく計画・実施・評価・改善（公衆栄養マネジメント）の技術が必須となる。本授業では、地域集団の健康・栄養状態を把握する技術の修得、問題解決のための論理的な公衆栄養プログラムの樹立方法及び実施方法の修得及びそれらを支持する法的根拠の正しい理解を目指し、成果の見える公衆栄養施策を行うための技術を養うことを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマ・ポリシーとの関連として、多様な対象や人間のライフステージ・ライフサイクルに沿った、利用者の身体の状況、栄養状態、生活習慣に係る公衆栄養分野に関する必要な知識や技術を修得することを目指し、地域集団への公衆栄養アセスメントおよび公衆栄養プログラムの実施を通じてその目的達成に資する知識を養う。将来的な展望としては、多様な社会のニーズ及び変化に対応できる知識及び技術を身に付け、実践的な職業人として活躍できる基盤を修得することを目指すものとする。

到達目標

1.地域集団の健康状態及び食事・栄養素等摂取状況などの分析方法及び・診断方法、優先すべき課題の抽出の実際、その改善のための活動・事業のマネジメント方法を理解する。
2.各種食事調査法の長所・欠点と活用、「日本人の食事摂取基準」の活用の実際、国民健康・栄養調査データの解析、食事・栄養素摂取量のデータ処理・統計解析方法を理解する。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
	公衆栄養マネジメントとモデルの	ガイダンス PDCAサイクル、プリシード・プロシードモデル、計画のレベル 実態把握・分析 【アクティブラーニングの内容】 市町村における健康分野の各種計画を複数示	予習60分：公衆栄養マネジメントの理論的モデル、健康日本21（第2次）につい

第1回	理解 公衆栄養アセスメント①	し、それぞれの相互関係について意見交換する。 都道府県別性別疾患別年齢調整死亡率を示し、順位付けを行わせ、対象となる地域の課題となる疾患を抽出させる。また、その原因となる栄養・食生活要因について意見交換を行い、仮説を設定させる。	て教科書等で理解しておく。 復習60分：アクティブラーニングの内容について復習し、理解を深める。
第2回	公衆栄養アセスメント②	優先すべき健康課題の特定 健康課題の要因の特定 【アクティブラーニングの内容】 対象地域の健康課題について、当該地域の保健所管内地域別標準化死亡比を示し、順位付けを行わせ、地域特性について意見交換を行わせる。また、健康課題の背景にある食習慣及び食環境の要因分析を行わせる。	予習30分：標準化死亡比について教科書等で理解しておく。 復習60分：アクティブラーニングの内容について復習し、理解を深める。
第3回	公衆栄養アセスメント③ 公衆栄養プログラムの目標設定と計画の立案	ターゲット層と食生活の特徴の明確化 目標設定の方法、計画の立案 【アクティブラーニングの内容】 国民健康・栄養調査結果をもとに、性別、年齢階級別、地域ブロック別の栄養・食品摂取状況をアセスメントさせる。また、健康課改善に向けた短期目標達成のための事業計画書を作成させる。	予習60分：国民・健康栄養調査の最新の調査結果を調べておく。 復習60分：アクティブラーニングの内容について復習し、理解を深める。
第4回	公衆栄養プログラムの評価	評価デザインの設定と評価の方法 【アクティブラーニングの内容】 健康課題改善に向けた公衆栄養プログラムの評価デザインを検討させる。	予習30分：経過評価、影響評価及び結果評価について教科書等で理解しておく。 復習60分：アクティブラーニングの内容について復習し、理解を深める。
第5回	公衆栄養プログラムに関連する関係者・機関との合意づくり 公衆栄養プログラムの展開①	合意形成のための資料づくり 事業計画書提出の対象者の選定 【アクティブラーニングの内容】 健康課題と目標を関係者・機関に提示するための資料を作成する。また、プレゼンテーションを行うためのシナリオ及び資料を作成する。	予習30分：公衆栄養プログラムの推進に不可欠な地域資源について調べておく。 復習60分：アクティブラーニングの内容について復習し、理解を深める。
第6回	公衆栄養プログラムの展開②	発表準備 【アクティブラーニングの内容】 前回に引き続き、プレゼンテーション用シナリオ及び資料を作成し、発表に備える。	予習30分：効果的なプレゼンテーションの手法・スキルについて調べておく。 復習60分：アクティブラーニングの内容について復習し、理解を深める。
第7回	公衆栄養プログラムの展開③	発表、評価 【アクティブラーニングの内容】 対象地域の健康課題と目標についてグループごとに発表を行い、互いに評価し合う。	予習30分：発表内容について事前に練習しておく。 復習60分：他班の発表および事犯への評価からの学びを次回に活かせるように整理する。

第8回	食事調査の概要 個人内変動・個人間変動①	食事調査の種類、特徴 習慣的な摂取量の把握 【アクティブラーニングの内容】 代表的な食事調査法の特徴について意見交換させる。また、エネルギー及び栄養素の摂取状況をグラフ化させ、個人内変動の栄養素による違いを理解させる。	予習30分：各種食事調査法及び個人内変動・個人間変動について教科書等で理解しておく。 復習60分：アクティブラーニングの内容について復習し、理解を深める。
第9回	個人内変動・個人間変動② 調査倫理	基本統計量の算出 インフォームドコンセント取得の必要性 【アクティブラーニングの内容】 エネルギー及び栄養素摂取量の基本統計量を計算させ、栄養素による違いを理解させる。	予習30分：習慣的な摂取量を得るために必要な調査日数の違いについて教科書等で理解しておく。 復習60分：アクティブラーニングの内容について復習し、理解を深める。
第10回	食事記録法	秤量記録法・目安量記録法を用いたコード化 【アクティブラーニングの内容】 食事記録調査のコード化作業のポイントを示し、実際にコード化させる。	予習30分：食事記録法の長所及び欠点について教科書等で理解しておく。 復習60分：アクティブラーニングの内容について復習し、理解を深める。
第11回	国民健康・栄養調査	食物摂取状況調査の実際 【アクティブラーニングの内容】 食物摂取状況調査票を用い、ロールプレイングにより食事記録調査の内容について聞き取らせる。また、食品番号表を活用し、食事記録調査の内容をコード化させる。	予習30分：国民健康・栄養調査における食物摂取状況調査について教科書等で理解しておく。 復習60分：アクティブラーニングの内容について復習し、理解を深める。
第12回	24時間思い出し法	24時間思い出し法を用いた栄養計算 【アクティブラーニングの内容】 24時間思い出し法の手引書及び各種ツールを活用し、面接による食事の聞き取りをロールプレイングにより行わせる。	予習30分：24時間思い出し法の長所及び欠点について教科書等で理解しておく。 復習60分：アクティブラーニングの内容について復習し、理解を深める。
第13回	データ解析	栄養素の基本統計量の算出、エネルギー調整 【アクティブラーニングの内容】 食事調査によって得られた情報から、基本統計量及び分布を調べさせ、栄養素ごとの違いを理解させる。	予習30分：基本的なエクセルの使い方について理解しておく。 復習60分：アクティブラーニングの内容について復習し、理解を深める。
第14回	食事摂取基準による栄養素等摂取	集団における食事摂取基準の活用方法 【アクティブラーニングの内容】 日本人の食事摂取基準に基づき、特定集団の	予習30分：集団における食事摂取基準の活用について教科書等で理解しておく。 復習60分：アクティブ

	量の評価	栄養素等摂取量の評価をさせる。	ラーニングの内容について復習し、理解を深める。
第15回	まとめ	公衆栄養アセスメント、公衆栄養プログラム、食事調査とその活用のまとめ 【アクティブラーニングの内容】 これまでの授業で修得した知識及び技術を実際の現場で適用する場面を想定させ、将来像と結び付けた目標と限界点について意見交換させる。	予習：これまでの授業の振り返りを行う。 復習60分：意見交換により得た学びを整理し、将来に活かせるようにする。

教科書

健康・栄養科学シリーズ 公衆栄養学 改訂第6版：南江堂
公衆栄養学2018年版 地域・国・国際レベルでの栄養マネジメント 第5版：医歯薬出版株式会社
日本人の食事摂取基準［2015年版］[2020年版（予定）]

参考書

日本食品標準成分表2015年版（七訂）
調理のためのベーシックデータ 第5版

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上。定期試験を実施します。
（原則定期試験100％評価だが課題等の未提出者は10％まで減点する）

課題等に対するフィードバックの方法

授業内での課題は返却の際に解説を行う。

履修のポイント

授業内容に連続性があり、習得度に合わせた内容変更の可能性もあるので欠席はしないこと。

オフィス・アワー

月曜日 昼休み
11号館栄養教育準備室

講義コード	20840002
講義名	公衆栄養学実習Ⅰ（Bクラス）
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	前期
講義区分	実験・実習
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	３時限
区分	専門科目
必修/選択	必修
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UE-R272
学年	4学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 橘 陽子	指定なし

授業の概要と教育目標

公衆栄養活動は、地域住民の健康の維持・増進を目的として綿密なる計画を堅実に実行し、その結果を的確に評価するという行為の繰り返しである。そのためには，正確な情報の収集による問題点の把握（公衆栄養アセスメント）及びヘルスプロモーションの考えに基づく計画・実施・評価・改善（公衆栄養マネジメント）の技術が必須となる。本授業では、地域集団の健康・栄養状態を把握する技術の修得、問題解決のための論理的な公衆栄養プログラムの樹立方法及び実施方法の修得及びそれらを支持する法的根拠の正しい理解を目指し、成果の見える公衆栄養施策を行うための技術を養うことを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマ・ポリシーとの関連として、多様な対象や人間のライフステージ・ライフサイクルに沿った、利用者の身体の状況、栄養状態、生活習慣に係る公衆栄養分野に関する必要な知識や技術を修得することを目指し、地域集団への公衆栄養アセスメントおよび公衆栄養プログラムの実施を通じてその目的達成に資する知識を養う。将来的な展望としては、多様な社会のニーズ及び変化に対応できる知識及び技術を身に付け、実践的な職業人として活躍できる基盤を修得することを目指すものとする。

到達目標

1.地域集団の健康状態及び食事・栄養素等摂取状況などの分析方法及び・診断方法、優先すべき課題の抽出の実際、その改善のための活動・事業のマネジメント方法を理解する。
2.各種食事調査法の長所・欠点と活用、「日本人の食事摂取基準」の活用の実際、国民健康・栄養調査データの解析、食事・栄養素摂取量のデータ処理・統計解析方法を理解する。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
	公衆栄養マネジメントとモデルの	ガイダンス PDCAサイクル、プリシード・プロシードモデル、計画のレベル 実態把握・分析 【アクティブラーニングの内容】 市町村における健康分野の各種計画を複数示	予習60分：公衆栄養マネジメントの理論的モデル、健康日本21（第2次）につい

第1回	理解 公衆栄養アセスメント①	し、それぞれの相互関係について意見交換する。 都道府県別性別疾患別年齢調整死亡率を示し、順位付けを行わせ、対象となる地域の課題となる疾患を抽出させる。また、その原因となる栄養・食生活要因について意見交換を行い、仮説を設定させる。	て教科書等で理解しておく。 復習60分：アクティブラーニングの内容について復習し、理解を深める。
第2回	公衆栄養アセスメント②	優先すべき健康課題の特定 健康課題の要因の特定 【アクティブラーニングの内容】 対象地域の健康課題について、当該地域の保健所管内地域別標準化死亡比を示し、順位付けを行わせ、地域特性について意見交換を行わせる。また、健康課題の背景にある食習慣及び食環境の要因分析を行わせる。	予習30分：標準化死亡比について教科書等で理解しておく。 復習60分：アクティブラーニングの内容について復習し、理解を深める。
第3回	公衆栄養アセスメント③ 公衆栄養プログラムの目標設定と計画の立案	ターゲット層と食生活の特徴の明確化 目標設定の方法、計画の立案 【アクティブラーニングの内容】 国民健康・栄養調査結果をもとに、性別、年齢階級別、地域ブロック別の栄養・食品摂取状況をアセスメントさせる。また、健康課改善に向けた短期目標達成のための事業計画書を作成させる。	予習60分：国民・健康栄養調査の最新の調査結果を調べておく。 復習60分：アクティブラーニングの内容について復習し、理解を深める。
第4回	公衆栄養プログラムの評価	評価デザインの設定と評価の方法 【アクティブラーニングの内容】 健康課題改善に向けた公衆栄養プログラムの評価デザインを検討させる。	予習30分：経過評価、影響評価及び結果評価について教科書等で理解しておく。 復習60分：アクティブラーニングの内容について復習し、理解を深める。
第5回	公衆栄養プログラムに関連する関係者・機関との合意づくり 公衆栄養プログラムの展開①	合意形成のための資料づくり 事業計画書提出の対象者の選定 【アクティブラーニングの内容】 健康課題と目標を関係者・機関に提示するための資料を作成する。また、プレゼンテーションを行うためのシナリオ及び資料を作成する。	予習30分：公衆栄養プログラムの推進に不可欠な地域資源について調べておく。 復習60分：アクティブラーニングの内容について復習し、理解を深める。
第6回	公衆栄養プログラムの展開②	発表準備 【アクティブラーニングの内容】 前回に引き続き、プレゼンテーション用シナリオ及び資料を作成し、発表に備える。	予習30分：効果的なプレゼンテーションの手法・スキルについて調べておく。 復習60分：アクティブラーニングの内容について復習し、理解を深める。
第7回	公衆栄養プログラムの展開③	発表、評価 【アクティブラーニングの内容】 対象地域の健康課題と目標についてグループごとに発表を行い、互いに評価し合う。	予習30分：発表内容について事前に練習しておく。 復習60分：他班の発表および事犯への評価からの学びを次回に活かせるように整理する。

第8回	食事調査の概要 個人内変動・個人間変動①	食事調査の種類、特徴 習慣的な摂取量の把握 【アクティブラーニングの内容】 代表的な食事調査法の特徴について意見交換させる。また、エネルギー及び栄養素の摂取状況をグラフ化させ、個人内変動の栄養素による違いを理解させる。	予習30分：各種食事調査法及び個人内変動・個人間変動について教科書等で理解しておく。 復習60分：アクティブラーニングの内容について復習し、理解を深める。
第9回	個人内変動・個人間変動② 調査倫理	基本統計量の算出 インフォームドコンセント取得の必要性 【アクティブラーニングの内容】 エネルギー及び栄養素摂取量の基本統計量を計算させ、栄養素による違いを理解させる。	予習30分：習慣的な摂取量を得るために必要な調査日数の違いについて教科書等で理解しておく。 復習60分：アクティブラーニングの内容について復習し、理解を深める。
第10回	食事記録法	秤量記録法・目安量記録法を用いたコード化 【アクティブラーニングの内容】 食事記録調査のコード化作業のポイントを示し、実際にコード化させる。	予習30分：食事記録法の長所及び欠点について教科書等で理解しておく。 復習60分：アクティブラーニングの内容について復習し、理解を深める。
第11回	国民健康・栄養調査	食物摂取状況調査の実際 【アクティブラーニングの内容】 食物摂取状況調査票を用い、ロールプレイングにより食事記録調査の内容について聞き取らせる。また、食品番号表を活用し、食事記録調査の内容をコード化させる。	予習30分：国民健康・栄養調査における食物摂取状況調査について教科書等で理解しておく。 復習60分：アクティブラーニングの内容について復習し、理解を深める。
第12回	24時間思い出し法	24時間思い出し法を用いた栄養計算 【アクティブラーニングの内容】 24時間思い出し法の手引書及び各種ツールを活用し、面接による食事の聞き取りをロールプレイングにより行わせる。	予習30分：24時間思い出し法の長所及び欠点について教科書等で理解しておく。 復習60分：アクティブラーニングの内容について復習し、理解を深める。
第13回	データ解析	栄養素の基本統計量の算出、エネルギー調整 【アクティブラーニングの内容】 食事調査によって得られた情報から、基本統計量及び分布を調べさせ、栄養素ごとの違いを理解させる。	予習30分：基本的なエクセルの使い方について理解しておく。 復習60分：アクティブラーニングの内容について復習し、理解を深める。
第14回	食事摂取基準による栄養素等摂取	集団における食事摂取基準の活用方法 【アクティブラーニングの内容】 日本人の食事摂取基準に基づき、特定集団の	予習30分：集団における食事摂取基準の活用について教科書等で理解しておく。 復習60分：アクティブ

	量の評価	栄養素等摂取量の評価をさせる。	ラーニングの内容について復習し、理解を深める。
第15回	まとめ	公衆栄養アセスメント、公衆栄養プログラム、食事調査とその活用のまとめ 【アクティブラーニングの内容】 これまでの授業で修得した知識及び技術を実際の現場で適用する場面を想定させ、将来像と結び付けた目標と限界点について意見交換させる。	予習：これまでの授業の振り返りを行う。 復習60分：意見交換により得た学びを整理し、将来に活かせるようにする。

教科書

健康・栄養科学シリーズ 公衆栄養学 改訂第6版：南江堂
公衆栄養学2018年版 地域・国・国際レベルでの栄養マネジメント 第5版：医歯薬出版株式会社
日本人の食事摂取基準［2015年版］[2020年版（予定）]

参考書

日本食品標準成分表2015年版（七訂）
調理のためのベーシックデータ 第5版

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上。定期試験を実施します。
（原則定期試験100％評価だが課題等の未提出者は10％まで減点する）

課題等に対するフィードバックの方法

授業内での課題は返却の際に解説を行う。

履修のポイント

授業内容に連続性があり、習得度に合わせた内容変更の可能性もあるので欠席はしないこと。

オフィス・アワー

月曜日 昼休み
11号館栄養教育準備室

講義コード	20850001
講義名	給食経営管理論Ⅰ
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	２時限
区分	専門科目
必修/選択	必修
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UE-R232
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 神戸 美恵子	指定なし

授業の概要と教育目標

給食施設における管理栄養士の役割は、対象（喫食）者の健康の保持・増進、心身の健全な成長及び疾病予防と治療を促すための食事管理と栄養教育を行うことである。そのため、給食施設における給食業務を円滑に管理･経営するための基本な知識と技術（方法）について学習する。なお、給食施設の概要及び給食施設における管理栄養士の役割を理解し、さらに、特定多数の人々の健康状態・栄養状態の改善・維持・向上・ＱＯＬの向上を目標とした栄養・食事管理を効率的、かつ効果的に継続して実施していくための生産、安全・衛生について理解することを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマ・ポリシーとの関連として、多様な対象に沿って、利用者の身体の状況、栄養状態、生活習慣に係る栄養・食事管理、栄養教育に関して給食経営管理に必要な知識や技術を修得することを目指すものとする。

到達目標

１．給食の意義及び運営について説明できる。
２．特定多数の人々に食事を提供する給食施設における食事の提供にかかわる栄養・食事管理について説明できる。
３．給食経営における品質管理について説明できる。
４．安全・衛生な給食の経営管理について説明できる。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	オリエンテーション 給食の概要(1)	給食経営管理論について 給食の定義、意義と目的 給食における管理栄養士の役割 課題：授業のまとめプリント	予習60分：教科書の該当箇所を読む。 復習60分：課題プリントによる復習を行い、給食の定義、意義と目的 給食における管理栄養士の役割について理解を深める。

第2回	給食の概要(2)	給食システムの概念 健康増進法における特定給食施設 課題：授業のまとめプリント	予習60分：教科書の該当箇所を読む。 復習60分：課題プリントによる復習を行い、給食システムの概念、健康増進法における特定給食施設について理解を深める。
第3回	給食の概要(3) 栄養・食事管理(1)	給食経営と献立 栄養・食事のアセスメント 課題：授業のまとめプリント	予習60分：教科書の該当箇所を読む。復習60分：課題プリントによる復習を行い、給食経営と献立、栄養・食事のアセスメントについて理解を深める。
第4回	栄養・食事管理(2)	食事の計画 課題：授業のまとめプリント	予習60分：教科書の該当箇所を読む。 復習60分：課題プリントによる復習を行い、食事の計画について理解を深める。
第5回	栄養・食事管理(3)	食事計画の実施、評価、改善 課題：授業のまとめプリント	予習60分：教科書の該当箇所を読む。 復習60分：課題プリントによる復習を行い、食事計画の実施、評価、改善について理解を深める。
第6回	栄養・食事管理(4)	アセスメントに基づく食事計画 【アクティブラーニングの内容】 アセスメント結果に基づく食事計画の作成手順についてグループディスカッションを行う。 課題：食事計画ワークシート	予習60分：1年次の食事設計計画実習で行った特定の集団を対象とした給与栄養目標量の考え方について復習する。 復習60分：ワークシートを仕上げる。
第7回	栄養・食事管理(5)	食事計画から献立計画へ 【アクティブラーニングの内容】 前回作成した食事計画にそった献立計画についてグループディスカッションを行う。 課題：献立計画ワークシート	予習60分：1年次の食事設計計画実習で学習した献立作成の手順や要点について復習する。 復習60分：ワークシートを仕上げる。
第8回	栄養・食事管理(6)	栄養教育教材としての給食 【アクティブラーニングの内容】 前回作成した献立計画にそった栄養教育教材を考える。 課題：栄養教育教材	予習60分：献立計画を確認する。 復習60分：栄養教育教材を仕上げる。
第9回	給食経営における品質管理(1)	品質と標準化 課題：授業のまとめプリント	予習60分：教科書の該当箇所を読む。 復習60分：課題プリントによる復習を行い、品質と標準化について理解を深める。
第10回	給食経営における品質管	食材管理 課題：授業のまとめプリント	予習60分：教科書の該当箇所を読む。 復習60分：課題プリントによる復習を行い、食材管理 について理解を深める。

	理(2)		
第11回	給食経営における品質管理(3)	生産管理 課題：授業のまとめプリント	予習60分：教科書の該当箇所を読む。 復習60分：課題プリントによる復習を行い、生産管理について理解を深める。
第12回	給食経営における品質管理(4)	提供管理 課題：授業のまとめプリント	予習60分：教科書の該当箇所を読む。 復習60分：課題プリントによる復習を行い、提供管理について理解を深める。
第13回	給食の安全・衛生(1)	安全・衛生の概念 課題：授業のまとめプリント	予習60分：教科書の該当箇所を読む。 復習60分：課題プリントによる復習を行い、安全・衛生の概念について理解を深める。
第14回	給食の安全・衛生(2)	安全・衛生の実際 課題：授業のまとめプリント	予習60分：教科書の該当箇所を読む。 復習60分：課題プリントによる復習を行い、安全・衛生の実際について理解を深める。
第15回	給食の安全・衛生(3)	大量調理施設衛生管理マニュアル	予習60分：第9～12回を確認する。 復習60分：大量調理施設衛生管理マニュアルについて理解を深める。

教科書

サクセス管理栄養士講座 給食経営管理論 第一出版
講義のスライドを随時プリントして配布する。

参考書

日本人の食事摂取基準
日本標準食品成分表
給食のための基礎からの献立作成
はじめての大量調理
調理のためのベーシックデータ（第5版）
給食経営管理用語辞典

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上
筆記試験90%、レポート10%、平常点（授業参加度・貢献度等）を加味して総合的に判断する。
評価方法の基準を講義初回時にアナウンスする。

課題等に対するフィードバックの方法

課題提出時に模範解答を配布する。
定期試験に課題を一部反映させる。

履修のポイント

給食経営管理論実習Ⅰ、給食経営管理論実習Ⅱ（臨地実習）に臨むうえで必要な基礎的知識を得るための科目ですので、積極的に取り組むこと。
予習・復習の時間数：不足分については試験前の学習で補完すること。

オフィス・アワー

月曜日～金曜日 昼休み 研究室15（神戸研究室）
質問はメールでも受け付けます。

講義コード	20860001
講義名	給食経営管理論Ⅱ
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	３時限
区分	専門科目
必修/選択	必修
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UE-R244
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 神戸 美恵子	指定なし

授業の概要と教育目標

給食施設における管理栄養士の役割は、対象（喫食）者の健康の保持・増進、心身の健全な成長及び疾病予防と治療を促すための食事管理と栄養教育を行うことである。そのため、給食経営管理の概念について理解し、給食運営や関係の資源を総合的に判断し、栄養面・安全面・経営管理全般のマネジメントを行う能力を養う。なお、給食運営や関係の資源（食品流通や食品開発の状況、給食に関わる組織や経費等）を総合的に判断し、栄養面・安全面・経済面全般のマネジメントについて理解することを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマ・ポリシーとの関連として、多様な対象に沿って、利用者の身体の状況、栄養状態、生活習慣に係る栄養・食事管理、栄養教育に関して給食経営管理に必要な知識や技術を修得することを目指すものとする。

到達目標

１．給食経営管理の概念について説明することができる。
２．給食における原価管理について説明できる。
３．栄養管理、生産管理、安全・衛生管理に関するマネジメントについて説明できる。
４．事故・災害時対策について説明できる。
５．各施設、対象（喫食）者に応じた給食の概要について説明できる。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	給食の施設・設備	生産（調理）施設・設備設計 食事環境の設計と設備 課題：授業のまとめプリント	予習60分：教科書の該当箇所を読む。 復習60分：生産（調理）施設・設備設計 食事環境の設計と設備について理解を深める。
	栄養・食事管理、	給食のPDCAサイクル 計画（予定献立・作業計画・作業工程・作業動線・発注等）	予習60分：給食経営管理論Ⅰ第4～7回を確認する。

第2回	生産管理の実際(1)	【アクティブラーニングの内容】 各計画書の作成手順についてグループで確認する。 課題：計画書	復習60分：指定された計画書を仕上げる。
第3回	栄養・食事管理、生産管理の実際(2)	作業管理（検収・下処理・調理・配膳配食・洗浄等） 【アクティブラーニングの内容】 各作業についてグループで確認する。	予習90分：給食経営管理論Ⅰ第9～15回を確認する。 復習60分：各作業について配布資料を確認し、理解を深める。
第4回	栄養・食事管理、生産管理の実際(3)	評価・改善（実施献立・インシデントレポート・評価表等） 【アクティブラーニングの内容】 グループで、予定献立と実施献立の違いや、過去の実習でのインシデントレポートを参考に注意点についてディスカッションする。	予習90分：給食経営管理論Ⅰ第3～15回を確認する。 復習60分：配布資料を確認し、理解を深める。
第5回	給食経営管理の概念(1)	経営管理の概要 給食運営業務の外部委託 課題：授業のまとめプリント	予習60分：教科書の該当箇所を読む。 復習60分：課題プリントによる復習を行い、経営管理の概要 給食運営業務の外部委託について理解を深める。
第6回	給食経営管理の概念(2)	給食とマーケティング 課題：授業のまとめプリント	予習60分：教科書の該当箇所を読む。 復習60分：課題プリントによる復習を行い、給食とマーケティングについて理解を深める。
第7回	給食経営管理の概念(3)	給食経営と組織、管理栄養士とマネジメント 課題：授業のまとめプリント	予習60分：教科書の該当箇所を読む。 復習60分：課題プリントによる復習を行い、給食経営と組織、管理栄養士とマネジメントについて理解を深める。
第8回	給食における原価管理	給食の原価構成 収入と原価管理 課題：授業のまとめプリント	予習60分：教科書の該当箇所を読む。 復習60分：課題プリントによる復習を行い、給食の原価構成、収入と原価管理について理解を深める。
第9回	給食の安全・衛生	事故・災害対策 災害時の給食の役割と対策 課題：授業のまとめプリント	予習60分：教科書の該当箇所を読む。 復習60分：課題プリントによる復習を行い、事故・災害対策、災害時の給食の役割と対策について理解を深める。
第10回	給食の人事	給食業務従事者の雇用形態、教育・訓練 課題：授業のまとめプリント	予習60分：教科書の該当箇所を読む。 復習60分：課題プリントによる復習を行い、給食業務従事者の雇用形態、教育・訓練について理解を深める。
	給食施設		予習60分：教科書の該当箇所を読む。

第11回	の特徴と関連法規(1)	医療施設 課題：授業のまとめプリント	復習60分：課題プリントによる復習を行い、医療施設の特徴と関連法規について理解を深める。
第12回	給食施設の特徴と関連法規(2)	高齢者・介護福祉施設 課題：授業のまとめプリント	予習60分：教科書の該当箇所を読む。 復習60分：課題プリントによる復習を行い、高齢者・介護福祉施設の特徴と関連法規について理解を深める。
第13回	給食施設の特徴と関連法規(3)	児童福祉施設、障害者福祉施設 課題：授業のまとめプリント	予習60分：教科書の該当箇所を読む。 復習60分：課題プリントによる復習を行い、児童福祉施設、障害者福祉施設の特徴と関連法規について理解を深める。
第14回	給食施設の特徴と関連法規(4)	学校、事業所、その他の施設 課題：授業のまとめプリント 給食経営管理論のまとめ	予習60分：教科書の該当箇所を読む。 復習60分：課題プリントによる復習を行い、学校、事業所、その他の施設の特徴と関連法規について理解を深める。
第15回	まとめ	給食経営管理論のまとめ	予習90分：課題（給食経営管理論のまとめ）を解き、わからない問題は調べ学習をする。 復習90分：課題を見直し、理解を深める。

教科書

サクセス管理栄養士講座 給食経営管理論

参考書

日本食品標準成分表、給食施設のための献立作成マニュアル、管理栄養士栄養士必携、給食経営管理用語辞典

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上
筆記試験90%、課題10%、平常点（授業参加度・貢献度等）を加味して総合的に判断する。

課題等に対するフィードバックの方法

課題提出時に模範解答を配布する。
定期試験に課題を一部反映させる。

履修のポイント

給食経営管理論実習Ⅰ、給食経営管理論実習Ⅱ（臨地実習）へ繋がるよう理解を深めること。
予習・復習の時間数：不足分については試験前の学習で補完すること。

オフィス・アワー

月曜日～金曜日昼休み 研究室15（神戸研究室）
質問はメールでも受け付けます。

講義コード	20870001
講義名	給食経営管理論実習Ⅰ（Aクラス）
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期
講義区分	実験・実習
基準単位数	1
代表曜日	木曜日
代表時限	３時限
区分	専門科目
必修/選択	必修
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UE-R245
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 神戸 美恵子	指定なし

授業の概要と教育目標

給食現場での管理栄養士の実践力を身につけるために、関連教科で学習した基本的な知識や技術をもとに、給食経営管論で学習した給食運営のPDCA(マネジメント)サイクルを活用し、健康な学生を対象とした約100食の給食提供実習を行うことより、アセスメントから評価までの一連の業務について理解する。給食提供実習は班編制、班内の役割分担により行う。さらに、実習献立を活用した期間献立を作成する。なお、給食提供実習を通して、アセスメントから評価までの一連の業務について理解するとともに、栄養面・安全面・経済面などを統合した給食経営管理マネジメントを行う能力を養うこと、給食経営管理論実習Ⅱ（臨地実習）に向けて個人個人が給食経営管理に関するスキルや意欲を高めることを目標とする。
また、給食業務を行うために必要な食事の計画や調理を含めた給食サービス提供に関する実習を通して、フードサービスシステムやマーケティングを理解するとともに、給食経営管理の基本的な考え方や技法を修得することを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマ・ポリシーとの関連として、健康な人を対象として、身体の状況、栄養状態、生活習慣に係る栄養・食事管理、栄養教育等給食経営管理に必要な技術を修得することを目指すものとする。

到達目標

１．健康な人を対象とした給食提供を経営管理のPDCAサイクルに従い計画することができる。
２．「大量調理施設衛生管理マニュアル」に基づく衛生管理について確認することができる。
３．給食組織運営やチームワークやコミュニケーション力を身に付けることができる。
４．給食運営業務に関する基本的な方法、技術を取得することができる。
５．栄養面、安全面、経済面全般について円滑にマネジメントすることができる。
６．提供する給食を活用した栄養教育を実施することができる。
７．実施給食を活用した期間献立を作成することができる。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習と そのために必要な時間

第1回	オリエンテーション	実習の目的、方法、日程、実習室説明等	予習90分：給食経営管理論Ⅰの内容を復習する。 復習90分：実習室配置図をもとに、設備、動線等について確認する。
第2回	予定献立案作成	給与栄養目標量に基づく献立作成・検討（グループワーク）	予習90分：献立資料を参考に、テーマに沿った献立案を考える。 復習60分：献立の見直しをする。
第3回	試作	作成した献立案の試作（グループワーク）	予習60分：使用する食材や器具、調理手順の確認をする。 復習60分：試作の結果に基づき、献立の修正案を考える。
第4回	予定献立作成	試作の結果に基づく献立案の修正、決定（グループワーク）	予習30分：献立修正案の確認をする。 復習60分：決定した献立を仕上げる。
第5回	献立に基づく作業計画作成	作業計画表、作業工程表、作業動線図等作成（グループワーク）	予習60分：決定した献立の食材の使用量、作り方を整理する。 復習60分：各作業工程表を仕上げる。
第6回	献立に基づく帳票、栄養指導資料作成	発注書、衛生管理チェック表、栄養指導資料等作成（グループワーク）	予習60分：献立に基づく栄養指導に参考になる資料を集め、案を作成する。 復習60分：栄養指導資料等を仕上げる。
第7回	給食提供実習事前準備､確認	補助グループとの作業確認、準備（グループワーク）	予習90分：給食提供実習の流れについて説明できるよう準備する。 復習60分：給食提供実習に向け、担当作業について整理する。
第8回	給食提供実習（1）	献立、栄養指導担当（グループワーク）	予習60分：各計画書に目を通し、担当する作業の確認をする。 復習60分：インシデントレポート、個人評価表、実習記録をまとめる。
第9回	給食提供実習（2）	調理・洗浄担当①（グループワーク）	予習60分：各計画書に目を通し、担当する作業の確認をする。 復習60分：インシデントレポート、個人評価表、実習記録をまとめる。
第10回	給食提供実習（3）	調理・洗浄担当②（グループワーク）	予習60分：各計画書に目を通し、担当する作業の確認をする。 復習60分：インシデントレポート、個人評価表、実習記録をまとめる。
第11回	給食提供実習	事務・情報処理担当（グループ	予習60分：アンケート調査の集計やまとめ方、事務処理方法の確認をする。

	（4）	ワーク）	復習60分：振り返りを行い、記録をする。
第12回	実施献立表作成	給食提供実習結果に基づき実施献立表を作成（グループワーク）	予習60分：実習記録を整理する。 復習90分：実施献立表を仕上げる。期間献立を考える。
第13回	給食提供実習の評価とまとめ	個人評価表に基づき給食提供実習の評価とまとめを行う（グループワーク）	予習60分：個人評価表を整理する。 復習0分：実施評価とまとめを参考に振り返りを行う。期間献立を考える。
第14回	給食提供実習報告会	グループごとに給食提供実習について報告（グループワーク）	予習60分：報告準備をする。 復習90分：各グループの報告を整理する。 期間献立を考える。
第15回	新調理システム、期間献立作成	真空調理法 実習献立を活用した期間献立作成	予習60分：新調理システムについて教科書で確認する。 復習60分：真空調理の振り返りを行う。

教科書

担当教員作成実習書（プリント）及び帳票類
サクセス管理栄養士講座 給食経営管理論
日本標準食品成分表

参考書

日本人の食事摂取基準
給食施設のための献立作成マニュアル
栄養・食事管理のための施設別給食献立集
大量調理

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上
課題（期間献立等）30%、小テスト10%、平常点（授業参加度・貢献度等）60%として総合的に評価する。

課題等に対するフィードバックの方法

課題は、添削しコメント・アドバイスをつけて返却する。また、必要に応じて、受講者間で共有しディスカッションを行う。

履修のポイント

グループワークが中心の実習なので、各自主体的に取り組む。
給食の特性を考慮し、健康管理、衛生的な身支度・行動を心がける。
大型の厨房機器も使用するため、作業に関する注意点を守り、安全に作業を行う。
課題は提出期限を厳守する。
課題（期間献立）作成は、授業時間では不足するため、家庭学習で補完すること。

オフィス・アワー

月曜日～金曜日昼休み 研究室15（神戸研究室）
質問はメールでも受け付けます。

講義コード	20870002
講義名	給食経営管理論実習Ⅰ（Bクラス）
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期
講義区分	実験・実習
基準単位数	1
代表曜日	木曜日
代表時限	１時限
区分	専門科目
必修/選択	必修
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UE-R245
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 神戸 美恵子	指定なし

授業の概要と教育目標

給食現場での管理栄養士の実践力を身につけるために、関連教科で学習した基本的な知識や技術をもとに、給食経営管論で学習した給食運営のPDCA(マネジメント)サイクルを活用し、健康な学生を対象とした約100食の給食提供実習を行うことより、アセスメントから評価までの一連の業務について理解する。給食提供実習は班編制、班内の役割分担により行う。さらに、実習献立を活用した期間献立を作成する。なお、給食提供実習を通して、アセスメントから評価までの一連の業務について理解するとともに、栄養面・安全面・経済面などを統合した給食経営管理マネジメントを行う能力を養うこと、給食経営管理論実習Ⅱ（臨地実習）に向けて個人個人が給食経営管理に関するスキルや意欲を高めることを目標とする。
また、給食業務を行うために必要な食事の計画や調理を含めた給食サービス提供に関する実習を通して、フードサービスシステムやマーケティングを理解するとともに、給食経営管理の基本的な考え方や技法を修得することを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマ・ポリシーとの関連として、健康な人を対象として、身体の状況、栄養状態、生活習慣に係る栄養・食事管理、栄養教育等給食経営管理に必要な技術を修得することを目指すものとする。

到達目標

１．健康な人を対象とした給食提供を経営管理のPDCAサイクルに従い計画することができる。
２．「大量調理施設衛生管理マニュアル」に基づく衛生管理について確認することができる。
３．給食組織運営やチームワークやコミュニケーション力を身に付けることができる。
４．給食運営業務に関する基本的な方法、技術を取得することができる。
５．栄養面、安全面、経済面全般について円滑にマネジメントすることができる。
６．提供する給食を活用した栄養教育を実施することができる。
７．実施給食を活用した期間献立を作成することができる。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習と そのために必要な時間

第1回	オリエンテーション	実習の目的、方法、日程、実習室説明等	予習90分：給食経営管理論Ⅰの内容を復習する。 復習90分：実習室配置図をもとに、設備、動線等について確認する。
第2回	予定献立案作成	給与栄養目標量に基づく献立作成・検討（グループワーク）	予習90分：献立資料を参考に、テーマに沿った献立案を考える。 復習60分：献立の見直しをする。
第3回	試作	作成した献立案の試作（グループワーク）	予習60分：使用する食材や器具、調理手順の確認をする。 復習60分：試作の結果に基づき、献立の修正案を考える。
第4回	予定献立作成	試作の結果に基づく献立案の修正、決定（グループワーク）	予習30分：献立修正案の確認をする。 復習60分：決定した献立を仕上げる。
第5回	献立に基づく作業計画作成	作業計画表、作業工程表、作業動線図等作成（グループワーク）	予習60分：決定した献立の食材の使用量、作り方を整理する。 復習60分：各作業工程表を仕上げる。
第6回	献立に基づく帳票、栄養指導資料作成	発注書、衛生管理チェック表、栄養指導資料等作成（グループワーク）	予習60分：献立に基づく栄養指導に参考になる資料を集め、案を作成する。 復習60分：栄養指導資料等を仕上げる。
第7回	給食提供実習事前準備､確認	補助グループとの作業確認、準備（グループワーク）	予習90分：給食提供実習の流れについて説明できるよう準備する。 復習60分：給食提供実習に向け、担当作業について整理する。
第8回	給食提供実習（1）	献立、栄養指導担当（グループワーク）	予習60分：各計画書に目を通し、担当する作業の確認をする。 復習60分：インシデントレポート、個人評価表、実習記録をまとめる。
第9回	給食提供実習（2）	調理・洗浄担当①（グループワーク）	予習60分：各計画書に目を通し、担当する作業の確認をする。 復習60分：インシデントレポート、個人評価表、実習記録をまとめる。
第10回	給食提供実習（3）	調理・洗浄担当②（グループワーク）	予習60分：各計画書に目を通し、担当する作業の確認をする。 復習60分：インシデントレポート、個人評価表、実習記録をまとめる。
第11回	給食提供実習	事務・情報処理担当（グループ	予習60分：アンケート調査の集計やまとめ方、事務処理方法の確認をする。

	（4）	ワーク）	復習60分：振り返りを行い、記録をする。
第12回	実施献立表作成	給食提供実習結果に基づき実施献立表を作成（グループワーク）	予習60分：実習記録を整理する。 復習90分：実施献立表を仕上げる。期間献立を考える。
第13回	給食提供実習の評価とまとめ	個人評価表に基づき給食提供実習の評価とまとめを行う（グループワーク）	予習60分：個人評価表を整理する。 復習0分：実施評価とまとめを参考に振り返りを行う。期間献立を考える。
第14回	給食提供実習報告会	グループごとに給食提供実習について報告（グループワーク）	予習60分：報告準備をする。 復習90分：各グループの報告を整理する。 期間献立を考える。
第15回	新調理システム、期間献立作成	真空調理法 実習献立を活用した期間献立作成	予習60分：新調理システムについて教科書で確認する。 復習60分：真空調理の振り返りを行う。

教科書

担当教員作成実習書（プリント）及び帳票類
サクセス管理栄養士講座 給食経営管理論
日本標準食品成分表

参考書

日本人の食事摂取基準
給食施設のための献立作成マニュアル
栄養・食事管理のための施設別給食献立集
大量調理

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上
課題（期間献立等）30%、小テスト10%、平常点（授業参加度・貢献度等）60%として総合的に評価する。

課題等に対するフィードバックの方法

課題は、添削しコメント・アドバイスをつけて返却する。また、必要に応じて、受講者間で共有しディスカッションを行う。

履修のポイント

グループワークが中心の実習なので、各自主体的に取り組む。
給食の特性を考慮し、健康管理、衛生的な身支度・行動を心がける。
大型の厨房機器も使用するため、作業に関する注意点を守り、安全に作業を行う。
課題は提出期限を厳守する。
課題（期間献立）作成は、授業時間では不足するため、家庭学習で補完すること。

オフィス・アワー

月曜日～金曜日昼休み 研究室15（神戸研究室）
質問はメールでも受け付けます。

講義コード	20880001
講義名	管理栄養士総合演習Ⅰ
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	通年
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	３時限
区分	専門科目
必修/選択	必修
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UE-R350
学年	3学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 中山 優子	指定なし
教員	橘 陽子	指定なし
教員	宮原 公子	指定なし
教員	増野 弥生	指定なし
教員	神戸 美恵子	指定なし
教員	島田 美樹子	指定なし

授業の概要と教育目標

給食経営管理論・給食の運営、臨床栄養学、公衆栄養学分野の専門的知識と技術を統合し、課題発見（気づき）、問題解決をしていく過程を学ぶ。それにより、専門職である管理栄養士が身につけるべき態度や行動、職業倫理観に触れて意識を深めることを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

専門的な知識や技術の学習を統合・発展させ、栄養評価・判定に基づく適切なマネジメントを行うために必要とされる知識及び技術を身につけ、実践活動の場での課題発見、解決できる知識・技術を修得する。

到達目標

①臨地実習の意義や目的を理解し、実習に向けての意欲を高めることができる。
②課題発見力と問題解決能力を身に付けために自己課題の設定ができる。
③大学での学びと臨地における学習内容を統合する準備ができる。
④管理栄養士として専門的な知識や技術を修得できる。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	授業オリエンテーション	・教員紹介 ・授業の概要 ・前期・後期授業の概要	予習：臨地実習と授業の関係いついて理解をしておく 60分 復習：授業内容の復習 60分
	臨地実習	・管理栄養士養成課程におけるカリキュラムと必要なスキル ・臨地実習の位置づけと重要性	予習：栄養士法第1条、第2条を理解しておく 60分

第2回	へのアプローチ①	・臨地実習と校外実習の相違点 ・研究課題の意義・目的、課題設定	復習：臨地実習の意義、重要性をノートにまとめる 60分
第3回	臨地実習へのアプローチ②	・臨地実習にふさわしい服装、身だしなみ ・電話のかけ方 【アクティブラーニングの内容】 ロールプレイを行い、課題を明確にして理解を一層深める。	予習：服装、身だしなみ、電話のかけ方について想定する 60分 復習：授業内容をもとに各自の服装、持ち物などを確認する 60分
第4回	臨地実習へのアプローチ③	・レポートを書くために必要なスキル ・注意したい表現や留意点 ・誤字脱字、誤表現を訂正 【アクティブラーニングの内容】 適切な言葉を用いて実習日誌を仕上げる。	予習：実習に用いる用語を調べる 60分 復習：実習日誌を参考にレポートの書き方を復習 60分
第5回	臨地実習へのアプローチ④	・敬語の種類及び活用方法 ・礼状のマナーおよび書き方 【アクティブラーニングの内容】 目上の方への礼状を検討し、実際に書き上げ、投函する。	予習：敬語に関する基礎的知識を調べ、礼状の下書きをする 90分 復習：礼状を仕上げ、投函する 60分
第6回	給食経営管理論分野①	給食経営管理論復習① ・栄養・食事管理 ・品質管理 【アクティブラーニングの内容】 講義内容についてグループワークを通して理解を深める	予習：2年次に学習した給食経営管理論（栄養・食事管理、品質管理）の復習を行う 60分 復習：授業内容の復習を行う 60分
第7回	給食経営管理論分野②	給食経営管理論復習② ・財務管理、食材管理、生産（調理） ・提供管理 【アクティブラーニングの内容】 講義内容についてグループワークを通して理解を深める	予習：2年次に学習した給食経営管理論（財務管理、食材管理、生産（調理）・提供管理）の復習を行う 60分 復習：授業内容の復習を行う 60分
第8回	給食経営管理論分野③	給食経営管理論復習③ ・安全・衛生管理 ・施設設備管理 【アクティブラーニングの内容】 講義内容についてグループワークを通して理解を深める	予習：2年次に学習した給食経営管理論（安全・衛生管理、施設設備管理）の復習を行う 60分 復習：授業内容の復習を行う 60分
第9回	給食経営管理論分野④	給食施設の概要と管理栄養士の役割① ・福祉施設 ・自己課題設定① 【アクティブラーニングの内容】 福祉施設の管理栄養士の役割と業務を理解し課題について学ぶ	予習：福祉施設給食に関する法規の確認をする 60分 復習：授業内容の復習を行う 60分
第10回	給食経営管理論分野⑤	給食施設の概要と管理栄養士の役割② ・学校 ・自己課題設定② 【アクティブラーニングの内容】 学校の管理栄養士の役割と業務を理解し課題について学ぶ	予習：学校給食に関する法規の確認をする 60分 復習：授業内容の復習を行う 60分

第11回	給食経営管理論分野⑥	給食施設の概要と管理栄養士の役割③ ・事業所 ・自己課題設定③ 【アクティブラーニングの内容】 事業所の管理栄養士の役割と業務を理解し課題について学ぶ	予習：事業所給食に関する法規の確認をする 60分 復習：授業内容の復習を行う 60分
第12回	給食経営管理論分野⑦	・事前訪問について 【アクティブラーニングの内容】 事前挨拶、マナー、敬語の演習をする	予習：第3回、第5回の学習内容を復習する 60分 復習：事前訪問について整理する 60分
第13回	給食経営管理論分野⑧	・自己課題解決の取組の検討① 課題：自己課題研究ワークシート	予習：自己課題について整理する 60分 復習：自己課題研究のワークシートを作成する 90分
第14回	給食経営管理論分野⑨	・実習ノートについて ・自己課題解決の取組の検討②	予習：実習ノートの内容を確認する 60分 復習： 施設概要など実習ノートにまとめる 60分
第15回	給食経営管理論分野⑩	・実習に向けた準備と確認 【アクティブラーニングの内容】 実習施設ごとに、実習内容、施設課題、所持品等の確認をする。	予習：実習ノートを整理する 60分 復習：報告会に向けた準備をする 60分
第16回	給食経営管理論分野⑪	・実習終了の報告・確認 ・お礼状作成 【アクティブラーニングの内容】 実習施設ごとに、お礼状を作成する。	予習：お礼状の下書きをする 60分 復習：実習ノートを整理する 60分
第17回	給食経営管理論分野⑫	・実習ノート整理	予習：実習ノートを整理する 60分 復習：実習ノートを仕上げる 90分
第18回	給食経営管理論分野⑬	・実習報告会資料及び原稿の作成	予習：実習報告に使用する内容を整理する 60分 復習：実習報告資料・原稿を仕上げる 60分
第19回	公衆栄養学臨地実習分野①	・上級生の臨地実習報告会の聴講 【アクティブラーニングの内容】 発表内容について情報をまとめ、質疑応答を行う。	予習：居住地及び出身地の保健所・保健センターの名称及び役割について調べる 60分 復習：報告会で得た知識を整理し、公衆栄養学Ⅰの内容との統合を図る 60分
第20回	公衆栄養学臨地実習分野②	臨地実習報告会のまとめ 【アクティブラーニングの内容】 報告会での学びについてディスカッションし、選択希望について検討する。	予習：保健所・保健センターの法的根拠について調べる 60分 復習：ディスカッションの内容を整理し、理解を深める 60分
第21回	臨床栄養学臨地実習の分野①	・臨床臨地実習の目的及び目標と心構え ・感染管理及びワクチン接種スケジュールの立案 ・緊急連絡マニュアル	予習：第１～5回で学んだ内容を復習する 60分 復習：守秘義務、挨拶、感染抗体についての復習を行う 60分
第22回	臨床栄養学臨地実	・実習施設の概要	予習：実習施設概要に必要な情報を得る 60分

	習の分野②	・書類作成（個人票など）	復習：施設概要の不足していた情報を得る 60分
第23回	臨床栄養学臨地実習の分野③	・施設における管理栄養士の役割 ・認定資格の調査 ・自己課題の設定とまとめ	予習：自己課題の設定に必要な分野を予習する 60分 復習：自己課題設定のために不足していた情報を得る 60分
第24回	臨床栄養学臨地実習の分野④	・自己課題の修正 ・実習の手引きを概説 ・事前訪問①（グループワーク）準備 【アクティブラーニングの内容】 日程調整、施設課題、自己課題など訪問時に必要な内容を検討する。	予習：事前訪問の準備に必要な情報を復習する 60分 復習：実習の手引きを熟読し、臨床の管理栄養士の役割を復習する 60分
第25回	臨床栄養学臨地実習の分野⑤	・日程調整の連絡 ・事前挨拶①の報告書作成 ・自己課題の修正 ・事前報告の施設別発表 【アクティブラーニングの内容】 事前報告の発表内容を聴講し要点をまとめることで、他施設の事例から学ぶ。	予習：報告書作成のために事前訪問の内容を個々にまとめる 60分 復習：発表後の指摘事項を改善し仕上げる 60分
第26回	臨床栄養学臨地実習の分野⑥	・施設課題の準備 ・実習の手引きの記録（事前部分）	予習：施設課題を個々にまとめる 60分 復習：施設課題のために不足していた情報を収集する 60分
第27回	臨床栄養学臨地実習の分野⑦	・施設課題のテーマを決定 ・内容を詳細に調べ整理する	・施設課題のテーマを決定 ・内容を詳細に調べ整理する 予習：施設課題の詳細に必要な分野を予習する 60分 復習：施設課題を仕上げる 60分
第28回	臨床栄養学臨地実習の分野⑧	・提出書類（誓約書、感染報告書、個人票、健康診断書、課題等）の管理 ・感染対策スケジュールの確認（ワクチン接種済、予定、母子手帳の整理、インフルエンザワクチンの確認）	予習：感染に関する自己結果とワクチン接種状況をまとめる 60分 復習：実習日程までのワクチン接種スケジュールを組み直し調整する 60分
第29回	臨床栄養学臨地実習の分野⑨	・事前挨拶②の報告書作成 ・自己課題と施設課題、献立作成 ・事前報告の施設別発表 【アクティブラーニングの内容】 事前報告の発表内容を傾聴し要点をまとめることで、他施設の事例から学ぶ	予習：課題や献立作成に必要な分野を予習する 60分 復習：授業で指導された不足していた内容を検討する 60分
第30回	臨床栄養学臨地実習の分野⑩	・マナー、敬語、守秘義務 ・実習ノートの書き方 ・実習準備（検便検査、感染報告、衛生管理） ・物品の確認 ・事後報告のための準備	予習：実習ノートや物品、備品の確認 60分 復習：実習内容の復習と事後のための準備 60分

教科書

給食経営管理論・給食の運営、臨床栄養学、公衆栄養学分野の専門教科の教科書。

各臨地実習の手引き及び臨地実習ノート。

参考書

給食経営管理論・給食の運営、臨床栄養学、公衆栄養学分野の専門実習教科の教科書。管理栄養士・栄養士必携等。

成績評価の方法・基準

単位認定試験60点以上。給食経営管理論・給食の運営、臨床栄養学、公衆栄養学分野の課題とレポートの提出を80%、平常点（授業参加度・貢献度）20%として総合的に判断する。

課題等に対する
フィードバックの方法

レポート（ワークシート）は確認後、返却するので各臨地実習記録に綴じ、臨地実習で活用する。

履修のポイント

到達目標を達成するよう努力をして、遅刻・欠席をしない。
臨地実習の意義や目的を理解し、課題発見力と問題解決能力を身に付る。
大学での学びと各臨地における学習内容を統合し、管理栄養士として専門的な知識や技術を修得する。

オフィス・アワー

中山月曜日～金曜日昼休み 研究室17（中山研究室）
宮原
神戸 月曜日～金曜日昼休み 研究室15（神戸研究室）
増野 月曜日～金曜日 昼休み 研究室18
島田 火曜日～木曜日 昼休み 研究室12
橘 月曜日 昼休み 栄養教育準備室

講義コード	20890001
講義名	管理栄養士総合演習 II
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	火曜日
代表時限	３時限
区分	専門科目
必修/選択	必修
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UE-R370
学年	4学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 中山 優子	指定なし
教員	橘 陽子	指定なし
教員	宮原 公子	指定なし
教員	増野 弥生	指定なし
教員	神戸 美恵子	指定なし
教員	島田 美樹子	指定なし

授業の概要と教育目標

本演習は、管理栄養士としての専門的な知識や技術を向上させるための基礎力を高め、自己課題に立脚しながら学習を進めていく。学生の問題発見能力と問題解決能力を伸ばし、管理栄養士として、時代に即した生涯を通じて学習をしていく態度を身に付けることを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

実践活動の場での課題発見、解決を通して、多様な社会ニーズ、変化に対応できる知識・技術を身につけ、実践的な職業人として活躍できる知識・技術を修得する。

到達目標

①本演習を通じて傾聴力を養い、問題解決のために必要な基本事項の理解度を増すことができる。
②コミュニケーションをとり、良好な人間関係を築くことができる。
③食を通して人々の健康と幸せに寄与したいと思う意欲を高めることができる。
④管理栄養士として専門的な知識や技術の習得から課題発見力を身に付けることができる。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	オリエンテーション	・授業教員紹介 ・授業概要の説明 ・自己課題の準備	予習：自己課題の準備 90分 復習：自己課題を仕上げる 90分
第2回	自己課題解決：課題発見・解決	・自己課題の発表準備 ・自己課題の整理とま	予習：自己課題の修正 90分

	のための準備	とめ	復習：発表原稿を仕上げる 90分
第3回	課題解決のための指導 臨床栄養学、公衆栄養学	各自の課題解決の参考となる情報や考え方について講義する	予習：疾患の食事栄養指導について特徴を復習する 90分 復習：ディスカッションによるあいまいな点を修正し復習する 90分
第4回	課題解決のための指導 応用栄養学 給食経営管理論	各自の課題解決の参考となる情報や考え方について講義する	予習：ライフステージ別における特性、アセスメント方法についてまとめる。給食経営管理論の復習を行う。90分 復習：実習日誌を参考にレポートの書き方を復習 90分
第5回	課題解決のための指導 栄養教育論	各自の課題解決の参考となる情報や考え方について講義する	予習：栄養指導について要点を復習する 90分 復習：ディスカッションによるあいまいな点を修正し復習する 90分
第6回	発表原稿作成	パワーポイントを仕上げる	予習：各教科の要点を復習する 90分 復習：ディスカッションによるあいまいな点を修正し復習する 90分
第7回	自己課題解決①	自己課題の発表・ディスカッション、レポート作成①	予習：各教科の要点を復習する 90分 復習：ディスカッションによるあいまいな点を修正し復習する 90分
第8回	自己課題解決②	自己課題の発表・ディスカッション、レポート作成②	予習：各教科の要点を復習する 90分 復習：ディスカッションによるあいまいな点を修正し復習する 90分
第9回	自己課題解決③	自己課題の発表・ディスカッション、レポート作成③	予習：各教科の要点を復習する 90分 復習：ディスカッションによるあいまいな点を修正し復習する 90分
第10回	自己課題解決④	自己課題の発表・ディスカッション、レポート作成④	予習：各教科の要点を復習する 90分 復習：ディスカッションによるあいまいな点を修正し復習する 90分
第11回	自己課題解決⑤	自己課題の発表・ディスカッション、レポート作成⑤	予習：各教科の要点を復習する 90分 復習：ディスカッションによるあいまいな点を修正し復習する 90分
第12回	自己課題解決⑥	自己課題の発表・ディスカッション、レポート作成⑥	予習：各教科の要点を復習する 90分 復習：授業内容の復習を行う 90分
第13回	自己課題解決⑦	自己課題の発表・ディスカッション、レポート作成⑦	予習：各教科の要点を復習する 90分 復習：授業内容の復習を行う 90分
第14回	自己課題解決⑧	自己課題の発表・ディスカッション、レポート作成⑧	予習：各教科の要点を復習する 90分 復習：栄養教育の場での実践事例を復習す 90分
第15回	自己課題解決⑨ まとめ	自己課題の発表・ディスカッション、レポート作成⑨ 自己課題のまとめ	予習：各教科の要点を復習する 90分 復習：事例の再評価とまとめ 90分

教科書

給食経営管理論・給食の運営、臨床栄養学、公衆栄養学分野の専門教科の教科書。

参考書

各臨地実習の手引き及び臨地実習ノート。

専門基礎科目、専門科目の教科書。

成績評価の方法・基準

単位認定試験60点以上。給食経営管理論・給食の運営、臨床栄養学、公衆栄養学分野の自己課題とレポートの提出を80%、平常点（授業参加度・貢献度）20%として総合的に判断する。

課題等に対する
フィードバックの方法

レポート（ワークシート）は確認後、返却するので各臨地実習記録に綴じ、臨地実習で活用する。

履修のポイント

到達目標を達成するよう努力をして、遅刻・欠席をしない。
大学での学びと各臨地における学習内容を統合し、管理栄養士として専門的な知識や技術を修得する。

オフィス・アワー

中山 月曜日～金曜日昼休み 研究室17
宮原 月曜日～金曜日昼休み 研究室
神戸 月曜日～金曜日昼休み 研究室15（神戸研究室）
増野 月・火・水・金 昼休み 研究室18
島田 火曜日～木曜日 昼休み 研究室12
橘 月曜日 昼休み 栄養教育準備室

講義コード	20900001
講義名	給食経営管理論実習 II （臨地実習）
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	通年
講義区分	実験・実習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
区分	専門科目
必修/選択	必修
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UE-R351
学年	3学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 神戸 美恵子	指定なし
教員	増野 弥生	指定なし

授業の概要と教育目標

給食現場での管理栄養士の実践力を身につけるために、給食経営管理論 I ・ II 、給食経営管理論実習 I 、管理栄養士総合演習 I および関連科目で学んだ基本的な知識や技術をもとに、給食施設において対象者のニーズや施設の条件に適した給食経営管理について、実習先にて、到達目標達成に向けて10日間（90時間）実習を行う。
給食運営や関連する資源を総合的に判断し、栄養面、安全面、経済面全般のマネジメントを行う能力を身につける。また、実践活動の場での課題発見、解決を通して、栄養評価・判定に基づく適切なマネジメントを行うために必要とされる専門的知識および技術の統合を図り、管理栄養士として具備すべき知識及び技能を修得することを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマ・ポリシーとの関連として、本実習を通して、多様な対象や人間のライフステージ・ライフサイクルに沿って、利用者の身体の状況、栄養状態、生活習慣に係る栄養・食事管理、栄養教育、給食経営分野に関して必要な知識や技術を修得するとともに、これまでの学習を統合･発展させ、多様な社会のニーズ、変化に対応できる知識・技術を身につけ、実践的な職業人として活躍できる知識・技術を修得することを目指すものとする。

到達目標

1．施設の特徴や管理栄養士業務について説明できる。
2．栄養・食事・食材管理（献立作成）について説明できる。
3．安全で衛生的に食事を提供することができる。
4．施設の特徴に応じた給食全般のマネジメントについて説明できる。
5．実践活動の場での課題解決に取り組むことができる。
6．多（他）職種との連携について説明できる。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
		給食施設における管理栄養士の役割、実習施設の特徴・給食の内容等	

第1回	事前学習(1)	の確認 【アクティブラーニングの内容】 実習施設ごとのグループで、給食施設における管理栄養士の役割、実習施設の特徴・給食の内容等を確認する。	予習90分：実習先の特徴・給食内容等について調べる 復習90分：内容を整理する
第2回	事前学習(2)	実習内容の確認 【アクティブラーニングの内容】 実習施設ごとのグループで、実習施設での実習内容を予め把握し、必要な学習、準備を行う	予習90分：実習内容に関係する復習を行う 復習90分：内容を整理する
第3回	事前学習(3)	自己課題の決定、課題解決のための調査、方法の検討	予習90分：自己課題解決に向けてこれまでに学習した内容の復習を行う 復習90分：内容を整理する
第4回	施設実習(1)	実習先管理栄養士の指導を受ける ・実習施設の概要、施設の特性、給食の目標、目的 ・実習施設における給食業務の法的根拠 ・実習施設における管理栄養士の役割	予習90分：実習内容を確認し、これまでに学習した内容の復習を行う 復習90分：実習内容を整理する
第5回	施設実習(2)	実習先管理栄養士の指導を受ける ・栄養・食事計画と評価 ・献立作成 ・栄養教育	予習90分：実習内容を確認し、これまでに学習した内容の復習を行う 復習90分：実習内容を整理する
第6回	施設実習(3)	実習先管理栄養士の指導を受ける ・食材の計画と管理 ・会計・原価管理と評価	予習90分：実習内容を確認し、これまでに学習した内容の復習を行う 復習90分：実習内容を整理する
第7回	施設実習(4)	実習先管理栄養士の指導を受ける ・生産（調理）の計画と実際 ・提供の計画と実際	予習90分：実習内容を確認し、これまでに学習した内容の復習を行う 復習90分：実習内容を整理する
第8回	施設実習(5)	実習先管理栄養士の指導を受ける ・マニュアルに基づく安全・衛生管理の実際 ・事故対策・災害対策	予習90分：実習内容を確認し、これまでに学習した内容の復習を行う 復習90分：実習内容を整理する
第9回	施設実習(6)	実習先管理栄養士の指導を受ける ・実習施設の給食経営とマネジメント	予習90分：実習内容を確認し、これまでに学習した内容の復習を行う 復習90分：実習内容を整理する
第10回	施設実習(7)	実習先管理栄養士の指導を受ける ・給食の組織、人事管理と労務管理	予習90分：実習内容を確認し、これまでに学習した内容の復習を行う 復習90分：実習内容を整理する
第11回	施設実習(8)	実習先管理栄養士の指導を受ける ・調理施設・設備・機器の整備と保全管理	予習90分：実習内容を確認し、これまでに学習した内容の復習を行う 復習90分：実習内容を整理する
第12回	施設実習(9)	実習先管理栄養士の指導を受ける ・多（他）職種との連携	予習90分：実習内容を確認し、これまでに学習した内容の復習を行う 復習90分：実習内容を整理する
第13回	施設実習(10)	実習先管理栄養士の指導を受ける ・課題解決に向けた調査研究①	予習90分：課題について、実習中にいただいた指導や気づき等を整理する 復習90分：調査研究内容を整理する
	事後		予習90分：課題解決に向けた情報を

第14回	学習(1)	実習先管理栄養士の指導を受ける ・課題解決に向けた調査研究②	収集する 復習90分：調査研究内容をまとめる
第15回	事後学習(2)	実習のまとめと報告	予習90分：実習ノートを整理する 復習90分：報告会に向けた準備をする

教科書

給食経営管理論Ⅰ・Ⅱで使用した教科書
実習の手引き 実習ノート

参考書

日本人の食事摂取基準 日本標準食品成分表
給食のための基礎からの献立作成 はじめての大量調理
調理のためのベーシックデータ（第5版）
実習に関係する教科書や資料

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上
実習施設の指導者の評価と実習記録及び事前準備・事後報告等の内容を含めて総合評価する。

課題等に対する
フィードバックの方法

課題、実習ノートは、コメントを付して返却する。
実習報告会に向けて作成した資料は資料集として配布する。

履修のポイント

実習先にて10日間（1日9時間（1時間を45分として換算）、到達目標達成に向けて実習を行う。
そのため、関連科目を予習・復習および十分な準備を行うこと。
常に問題意識や課題を持って積極的に臨み、自ら考え、行動すること。
予習・復習の時間数：不足分については各自の学習で補完すること。

オフィス・アワー

月曜日～金曜日昼休み 研究室15（神戸研究室）
質問はメールでも受け付けます。

講義コード	20910001
講義名	臨床栄養学実習Ⅲ（臨地実習）H29入学
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期
講義区分	実験・実習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
区分	専門科目
必修/選択	必修
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UE-R360
学年	3学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 中山 優子	指定なし
教員	島田 美樹子	指定なし

授業の概要と教育目標

医療現場での管理栄養士の実践力を身に付けるために、臨床栄養学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、臨床栄養学実習Ⅰ・Ⅱ、管理栄養士総合演習Ⅰ及び関連科目で学んだ基本的な知識や技術を元に実習を行う。さらに、実践活動の場での課題発見、解決をとして、栄養評価・判定に基づく適切なマネジメントを行う。
実習先にて、到達目標達成に向けて２週間実習を行う。

卒業認定・学位授与の方針との関連

臨床栄養学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳと臨床栄養学実習Ⅰ、Ⅱで修得した知識及び技術を栄養管理の実践の場面に適用し、理論と実践を結びつけて理解することにある。チーム医療の重要性を理解し、多職種や患者とのコミュニケーションを円滑に進める能力を養う。

到達目標

①実習施設における栄養マネジメントシステムを学び理解し説明できる。
②実習施設の指導担当者との協議を十分に行い、自らが選択した課題に対し、その解決を深め説明できる。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）
第1回	【学内実習】事前学習①	実習の準備①
第2回	【学内実習】事前学習②	実習の準備②
第3回	【学内実習】事前学習③	事前学習③
第4回	【病院実習】臨地実習①	病院管理栄養士の指導を受ける①
第5回	【病院実習】臨地実習②	病院管理栄養士の指導を受ける②

第6回	【病院実習】 臨地実習③	病院管理栄養士の指導を受ける③
第7回	【病院実習】 臨地実習④	病院管理栄養士の指導を受ける④
第8回	【病院実習】 臨地実習⑤	病院管理栄養士の指導を受ける⑤
第9回	【病院実習】 臨地実習⑥	病院管理栄養士の指導を受ける⑥
第10回	【病院実習】 臨地実習⑦	病院管理栄養士の指導を受ける⑦
第11回	【病院実習】 臨地実習⑧	病院管理栄養士の指導を受ける⑧
第12回	【病院実習】 臨地実習⑨	病院管理栄養士の指導を受ける⑨
第13回	【病院実習】 臨地実習⑩	病院管理栄養士の指導を受ける⑩
第14回	【学内実習】 事後学習①	実習の反省と整理
第15回	【学内実習】 事後学習②	実習のまとめと報告

教科書

臨床栄養学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳの教科書と実践臨床栄養学・実習、栄養食事療法必携 糖尿病食品交換表 腎臓病食品交換表

参考書

日本標準食品成分表、臨地実習ノート

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上。
実習施設の指導者の評価と実習記録及び事前準備・事後報告の内容を含めて総合評価とする。

課題等に対する
フィードバックの方法

実習施設の特徴、診療科目、栄養課の栄養指導について理解を深めておく。
臨床栄養学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、臨床栄養学実習Ⅰ・Ⅱ、管理栄養士総合演習Ⅰ及び関連科目の復習。

履修のポイント

実習施設での体験がより良い実りある実習となるよう、傷病者の病態や栄養状態の特徴に基づいた適正な栄養管理を理解を深める事前準備を行い、自らの主体的な取り組むこと。

オフィス・アワー

中山：17研究室・臨床栄養学実習準備室にて対応
島田：12研究室（月・木 12:45～13:15）

講義コード	20910002
講義名	臨床栄養学実習Ⅲ（臨地実習）H28入学
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	通年
講義区分	実験・実習
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	５時限
区分	専門科目
必修/選択	必修
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UE-R360
学年	3学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 中山 優子	指定なし
教員	島田 美樹子	指定なし

授業の概要と教育目標

医療現場での管理栄養士の実践力を身に付けるために、臨床栄養学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、臨床栄養学実習Ⅰ・Ⅱ、管理栄養士総合演習Ⅰ及び関連科目で学んだ基本的な知識や技術を元に実習を行う。さらに、実践活動の場での課題発見、解決をとして、栄養評価・判定に基づく適切なマネジメントを行う。
実習先にて、到達目標達成に向けて２週間実習を行う。

卒業認定・学位授与の方針との関連

臨床栄養学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳと臨床栄養学実習Ⅰ、Ⅱで修得した知識及び技術を栄養管理の実践の場面に適用し、理論と実践を結びつけて理解することにある。チーム医療の重要性を理解し、多職種や患者とのコミュニケーションを円滑に進める能力を養う。

到達目標

①実習施設における栄養マネジメントシステムを学び理解し説明できる。
②実習施設の指導担当者との協議を十分に行い、自らが選択した課題に対し、その解決を深め説明できる。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）
第1回	【学内実習】事前学習①	実習の準備①
第2回	【学内実習】事前学習②	実習の準備②
第3回	【学内実習】事前学習③	事前学習③
第4回	【病院実習】臨地実習①	病院管理栄養士の指導を受ける①
第5回	【病院実習】臨地実習②	病院管理栄養士の指導を受ける②

第6回	【病院実習】 臨地実習③	病院管理栄養士の指導を受ける③
第7回	【病院実習】 臨地実習④	病院管理栄養士の指導を受ける④
第8回	【病院実習】 臨地実習⑤	病院管理栄養士の指導を受ける⑤
第9回	【病院実習】 臨地実習⑥	病院管理栄養士の指導を受ける⑥
第10回	【病院実習】 臨地実習⑦	病院管理栄養士の指導を受ける⑦
第11回	【病院実習】 臨地実習⑧	病院管理栄養士の指導を受ける⑧
第12回	【病院実習】 臨地実習⑨	病院管理栄養士の指導を受ける⑨
第13回	【病院実習】 臨地実習⑩	病院管理栄養士の指導を受ける⑩
第14回	【学内実習】 事後学習①	実習の反省と整理
第15回	【学内実習】 事後学習②	実習のまとめと報告

教科書

臨床栄養学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳの教科書と実践臨床栄養学・実習、栄養食事療法必携 糖尿病食品交換表 腎臓病食品交換表

参考書

日本標準食品成分表、臨地実習ノート

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上。
実習施設の指導者の評価と実習記録及び事前準備・事後報告の内容を含めて総合評価とする。

課題等に対する
フィードバックの方法

実習施設の特徴、診療科目、栄養課の栄養指導について理解を深めておく。
臨床栄養学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、臨床栄養学実習Ⅰ・Ⅱ、管理栄養士総合演習Ⅰ及び関連科目の復習。

履修のポイント

実習施設での体験がより良い実りある実習となるよう、傷病者の病態や栄養状態の特徴に基づいた適正な栄養管理を理解を深める事前準備を行い、自らの主体的な取り組むこと。

オフィス・アワー

17研究室・臨床栄養学実習準備室にて対応。

講義コード	20920001
講義名	公衆栄養学実習 II （臨地実習）
(副題)	
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	通年
講義区分	実験・実習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
区分	専門科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UE-C371
学年	4学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 橘 陽子	指定なし
教員	宮原 公子	指定なし

授業の概要と教育目標

「公衆栄養学」分野の臨地実習においては、地域における行政栄養士による健康づくり及び栄養・食生活の改善に関する施策が法律および関連規則等に基づいてどのように実施されているかを理解する必要がある。本授業では、地域や職域等における保健・医療・福祉・介護システムの栄養関連サービスに関するプログラムの作成・実施・評価を総合的にマネジメントする行政栄養士の実際を学び、これらの技術の習得を目指す。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマ・ポリシーとの関連として、実践的な管理栄養士として活躍するため、また多様な社会のニーズ、変化に対応できる知識・技術を身につけるため、これまでの学習を統合･発展させることを目指し、地域保健の場を通してその目的達成に資する技術を養う。将来的な展望としては、地域や職域等における保健・医療・福祉・介護システムの栄養関連サービスに関するプログラムの作成・実施・評価を総合的にマネジメントする能力を養うことを目指すものとする。

到達目標

1.法律に基づいて地方公共団体では健康・栄養行政における様々な施策が実施されていることを知る。
2.保健師等の他職種との連携や組織内での管理栄養士の立場と役割について体験する。
3.住民への栄養・食生活の改善に関連する様々なサービス事業を体験する。
4.事業計画の立案・実施・評価に関するマネジメントサイクルのシュミレーションを体験する。
5.「健康日本２１（第2次）」「食育推進基本計画」等の国の施策が、地方公共団体でどのように計画、施策化、実践されているのか学ぶ。
6.地域における行政栄養士による健康づくり及び栄養・食生活の改善の基本指針を踏まえ、地方公共団体が行っている具体的な施策の基本指針での位置づけと必要性について学ぶ。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習と そのために必要な時間

第1回	事前学習①	実習施設、実習地域の理解と地域診断 【アクティブラーニングの内容】 実習ノートに記入した実習施設、実習地域の概要について他の実習生と比較し、意見交換を行う。	予習60分：実習施設の概要等情報収集を行い、施設及び地域の特徴を調べておく。 復習60分：アクティブラーニングの内容について復習し、理解を深める
第2回	事前学習②	実習内容の理解と現状把握 【アクティブラーニングの内容】 実習スケジュールに基づく実習内容を理解し、地域の現状及び目指すべき方向性との関連性を検討する。	予習60分：実習施設での実習内容を予め把握し、予習を行う。 復習60分：アクティブラーニングの内容について復習し、理解を深める
第3回	事前学習③	自己課題の設定 【アクティブラーニングの内容】 地域診断及び実習内容に基づき自己課題を設定するとともに、他の実習生とも比較し、意見交換を行う。	予習60分：自己課題のテーマ設定を行い、文献や資料を準備する。 復習60分：アクティブラーニングの内容について復習し、理解を深める
第4回	保健所・市町村保健センターの実習①	組織体制・管内の現状	予習60分：保健所・保健センターの組織体制及び地域の現状を再度確認しておく。 復習60分：学びを実習ノートにまとめる。
第5回	保健所・市町村保健センターの実習②	公衆衛生行政の概要（保健所・市町村保健センターの役割）	予習60分：公衆衛生行政における保健所・保健センターの役割を再度確認しておく。 復習60分：学びを実習ノートにまとめる。
第6回	保健所・市町村保健センターの実習③	管理栄養士の業務の概要、関連法規（法的根拠）	予習60分：行政栄養士の役割とその法的根拠について再度確認しておく。 復習60分：学びを実習ノートにまとめる。
第7回	保健所・市町村保健センターの実習④	健康・栄養課題の明確化とPDCAサイクル	予習60分：地域における健康・栄養課題とその改善に向けた公衆栄養マネジメントの在り方について再度確認しておく。 復習60分：学びを実習ノートにまとめる。
第8回	保健所・市町村保健センターの実習⑤	公衆栄養マネジメントにおける事業① 生活習慣病の発症予防と重症化予防、社会生活を営むために必要な機能の維持・向上	予習60分：地域の2次予防及び3次予防における行政栄養士の役割について再度確認しておく。 復習60分：学びを実習ノートにまとめる。
第9回	保健所・市町村保健センターの実習⑥	公衆栄養マネジメントにおける事業② 食を通じた社会環境の整備	予習60分：食環境整備における行政栄養士の役割について再度確認しておく。 復習60分：学びを実習ノートにまとめる。
	保健所・市	公衆栄養マネジメントにおける	予習60分：保健所と市町村との関わ

第10回	町村保健センターの実習⑦	事業③ 市町村との連絡調整、栄養・食生活改善のための技術的な支援	り及びそれぞれの役割について再度確認しておく。 復習60分：学びを実習ノートにまとめる。
第11回	保健所・市町村保健センターの実習⑧	公衆栄養マネジメントにおける事業④ 保健所（都道府県）との連絡調整、栄養・食生活の改善ための協働	予習60分：保健所と市町村との関わり及びそれぞれの役割について再度確認しておく。 復習60分：学びを実習ノートにまとめる。
第12回	保健所・市町村保健センターの実習⑨	公衆栄養マネジメントにおける事業⑤ 人材（地域活動栄養士等）の育成と活用	予習60分：地域で活動する管理栄養士及び栄養士との連携について再度確認しておく。 復習60分：学びを実習ノートにまとめる。
第13回	保健所・市町村保健センターの実習⑩	実習のまとめ・反省会	予習60分：反省会での発表資料を作成する。 復習60分：学びを実習ノートにまとめる。
第14回	事後学習①	実習内容の確認、礼状の作成、実習報告会の準備 【アクティブラーニングの内容】 実習生ごとに実習内容を発表し、意見交換を行う。礼状を作成し、投函する。報告会資料の作成を行う。	予習90分：発表資料を作成する。礼状の下書きをする。 復習60分：授業内発表での学びを整理し、理解を深める
第15回	事後学習②	実習報告会 【アクティブラーニングの内容】 次年度生へ向けて実習内容の報告を行う。また、質疑応答に対応する。	予習90分：報告会資料を作成する。 復習60分：報告会での学びを整理し、理解を深める

教科書

公衆栄養学Ⅰ及び公衆栄養学Ⅱで使用した教科書

参考書

臨地実習に関する各種統計資料等（国民衛生の動向、各自治体の統計資料等）

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上。
臨地実習の内容について臨地実習先施設からの評価も加味する。

課題等に対する
フィードバックの方法

授業内発表については、その都度コメントする。実習ノートについては、提出後確認し、返却時にコメントする。

履修のポイント

事前学習として公衆衛生学・公衆栄養学の学習内容を復習して実習に臨むこと。
実習前の事前の準備も含めて授業に連続性がある。
また臨地実習のため遅刻・欠席は通常授業とは異なる。

オフィス・アワー

月曜日 昼休み 栄養教育準備室

講義コード	20930001
講義名	特別演習Ⅰ
(副題)	
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	２時限
区分	専門科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UE-C372
学年	4学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 小林 葉子	指定なし
教員	影山 晴秋	指定なし

授業の概要と教育目標

栄養士法改正に伴い、専門職種として今まで以上に保健･医療サービスの担い手として､医学を基調とした人間栄養学を実践できる人材としての管理栄養士が求められている。特別演習Ⅰでは、「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」について学ぶ。授業は、管理栄養士国家試験新ガイドラインに沿って行う。

卒業認定・学位授与の方針との関連

栄養学科専門基礎科目（特別演習）の選択科目である。特別演習Ⅰは、「時代が求める管理栄養士としての質の確保」を目的とする。
医療保健学部栄養学科のディプロマポリシーとの関連として、「2. 人間の健康を規定する要因として幅広く社会・環境を科学的に理解し、さらに健康の維持・増進プログラムを実践するために必要な人体の構造並びに疾病の成り立ちから食べ物と健康の知識や技能を修得している。」にもとづいて、人体の構造と機能および疾病の成り立ちについて、これまでに修学した知識を体系づけてアウトプットできるようにすることを目指す。

到達目標

管理栄養士国家試験受験に向け、「人体と構造と機能及び疾病の成り立ち」を自ら学習する。自分の弱点を見出すとともに、それを解決する力をつける。
管理栄養士国家試験レベルの問題で、正答率を60%以上にする。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	生化学	細胞・アミノ酸・タンパク質 アクティブラーニング 予習・復習によって、未解決の部分があった場合には、時間内で質問、議論を行い解決する。	予習90分：配布プリントの問題を解き、クエスチョンバンクを利用してキーワードを調べたノートを作る。 復習90分：授業で配布したプリント

			で、知識があいまいなところを再度確認し、正しい知識の定着を図る。
第2回	生化学	糖質・脂質 アクティブラーニング 予習・復習によって、未解決の部分があった場合には、時間内で質問、議論を行い解決する。	予習90分：配布プリントの問題を解き、クエスチョンバンクを利用してキーワードを調べたノートを作る。 復習90分：授業で配布したプリントで、知識があいまいなところを再度確認し、正しい知識の定着を図る。
第3回	生化学	ヌクレオチド・生体エネルギー アクティブラーニング 予習・復習によって、未解決の部分があった場合には、時間内で質問、議論を行い解決する。	予習90分：配布プリントの問題を解き、クエスチョンバンクを利用してキーワードを調べたノートを作る。 復習90分：授業で配布したプリントで、知識があいまいなところを再度確認し、正しい知識の定着を図る。
第4回	生化学	タンパク質の合成・分解 アクティブラーニング 予習・復習によって、未解決の部分があった場合には、時間内で質問、議論を行い解決する。	予習90分：配布プリントの問題を解き、クエスチョンバンクを利用してキーワードを調べたノートを作る。 復習90分：授業で配布したプリントで、知識があいまいなところを再度確認し、正しい知識の定着を図る。
第5回	生化学	酵素・アミノ酸の代謝 アクティブラーニング 予習・復習によって、未解決の部分があった場合には、時間内で質問、議論を行い解決する。	予習90分：配布プリントの問題を解き、クエスチョンバンクを利用してキーワードを調べたノートを作る。 復習90分：授業で配布したプリントで、知識があいまいなところを再度確認し、正しい知識の定着を図る。
第6回	生化学	糖質・脂質の代謝 代謝調節 アクティブラーニング 予習・復習によって、未解決の部分があった場合には、時間内で質問、議論を行い解決する。	予習90分：配布プリントの問題を解き、クエスチョンバンクを利用してキーワードを調べたノートを作る。 復習90分：授業で配布したプリントで、知識があいまいなところを再度確認し、正しい知識の定着を図る。
第7回	生化学	細胞内情報伝達・臨床検査 アクティブラーニング 予習・復習によって、未解決の部分があった場合には、時間内で質問、議論を行い解決する。	予習90分：配布プリントの問題を解き、クエスチョンバンクを利用してキーワードを調べたノートを作る。 復習90分：授業で配布したプリントで、知識があいまいなところを再度確認し、正しい知識の定着を図る。
第8回	解剖生理・病理学	消化器系の構造と機能およびその関連疾患 【アクティブラーニングの内容】 事前に配布したプリントの問題について、学生各自が解説を行う。学生および教員からの質疑に答えてもらう。	予習90分：配布プリントの問題を解く。 復習90分：演習で行った内容を教科書をつかって、確認しながらまとめる。
第9回	解剖生理・病理学	呼吸器系の構造と機能およびその関連疾患 【アクティブラーニングの内容】 事前に配布したプリントの問題について、学生各自が解説を行う。学生および教員からの質疑に答えてもら	予習90分：配布プリントの問題を解く。 復習90分：演習で行った内容を教科書をつかって、確認しながらまとめる。

		う。	
第10回	解剖生理・病理学	筋系および循環器系の構造と機能およびその関連疾患 【アクティブラーニングの内容】 事前に配布したプリントの問題について、学生各自が解説を行う。学生および教員からの質疑に答えてもらう。	予習90分：配布プリントの問題を解く。 復習90分：演習で行った内容を教科書をつかって、確認しながらまとめる。
第11回	解剖生理・病理学	泌尿器系の構造と機能およびその関連疾患 【アクティブラーニングの内容】 事前に配布したプリントの問題について、学生各自が解説を行う。学生および教員からの質疑に答えてもらう。	予習90分：配布プリントの問題を解く。 復習90分：演習で行った内容を教科書をつかって、確認しながらまとめる。
第12回	解剖生理・病理学	内分泌系の構造と機能およびその関連疾患 【アクティブラーニングの内容】 事前に配布したプリントの問題について、学生各自が解説を行う。学生および教員からの質疑に答えてもらう。	予習90分：配布プリントの問題を解く。 復習90分：演習で行った内容を教科書をつかって、確認しながらまとめる。
第13回	解剖生理・病理学	生殖系および免疫系の構造と機能およびその関連疾患 【アクティブラーニングの内容】 事前に配布したプリントの問題について、学生各自が解説を行う。学生および教員からの質疑に答えてもらう。	予習90分：配布プリントの問題を解く。 復習90分：演習で行った内容を教科書をつかって、確認しながらまとめる。
第14回	解剖生理・病理学	神経系の構造と機能およびその関連疾患 【アクティブラーニングの内容】 事前に配布したプリントの問題について、学生各自が解説を行う。学生および教員からの質疑に答えてもらう。	予習90分：配布プリントの問題を解く。 復習90分：演習で行った内容を教科書をつかって、確認しながらまとめる。
第15回	まとめ	全体のまとめ	予習90分：1回から14回までの内容を、配布プリントと個人でまとめたノートを使いながら、総まとめを行う 復習90分：まとめのプリントを使って、見直し、できていない箇所はもう一度調べ直す。

教科書

クエスチョンバンク2019 メディックメディア社

参考書

生化学：シンプル生化学 林典夫/廣野治子 南江堂
サイエンスビュー生物資料牛 木 辰男 (監修), 長野 敬 実教出版

エキスパート管理栄養士養成シリーズ 分子栄養学 金本 龍平 編 化学同人
解剖生理：管理栄養士を目指す学生のための解剖生理学テキスト（文光堂）

成績評価の方法・基準

人体の構造と機能、その疾病の成り立ちの範囲の定期試験で正解率が60%以上

課題等に対する
フィードバックの方法

授業時間内で、受講者に説明をする。必要な場合には、個人に連絡をし説明をする。

履修のポイント

生化学：授業の前に自ら学習し、不明点を授業内で解決するようにする。各自ノートを作成し、必要事項を覚える。
解剖生理：QBだけに頼らず、必ず教科書を読んでキーワードを学習すること。自ら学習し、国家試験受験に向け、自分の学習スタイルを習得する。 授業内容に連続性があり、習得度に合わせ内容の変更もあるので欠席はしないこと。

オフィス・アワー

小林：月～金 お昼休み（3限授業の場合は不可） 3限 11号館3階16研究室
影山：月曜日から木曜日までの9:00-17:00 11号館3階第10研究室にて対応。演習終了時、適宜受け付けます。

講義コード	20940001
講義名	特別演習 II
(副題)	
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	木曜日
代表時限	１時限
区分	専門科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UE-C373
学年	4学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 中山 優子	指定なし
教員	増野 弥生	指定なし

授業の概要と教育目標

管理栄養士として、地域住民の保健・福祉医療サービスの担い手として、栄養と健康を実践できる人材が求められている。特別演習 II では、「臨床栄養学」、「応用栄養学」について学ぶ。授業は、講義・演習・小テスト形式を用いて行う。

卒業認定・学位授与の方針との関連

多様な対象や人間のライフステージ・ライフスタイルに沿って、利用者の身体の状況、栄養状態、生活習慣に係る必要な知識や技術を修得することを目的とする。

到達目標

習得した専門知識を総復習し、管理栄養士養成課程修了の水準に達するための総合力を身につけることができる。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	【臨床栄養学】臨床栄養総論１	①臨床栄養学の意義と目的 ②医療・介護制度の基本 ③医療と臨床栄養 ④福祉・介護と臨床栄養 【ケーススタディによるグループワーク】を行い発表する。	予習：臨床栄養学使用テキストを読んでおく。90分 復習：配布プリントをまとめておく 90分
第2回	【臨床栄養学】臨床栄養総論２	①栄養アセスメントの意義と方法 ②栄養ケアの目標設定と 計画作成 ③栄養・食事療法と栄養補給法 【ケーススタディによるグループワーク】を行い発表する。	予習：臨床栄養学使用テキストを読んでおく。90分 復習：配布プリントをまとめておく 90分
			予習：臨床栄養学使

第3回	【臨床栄養学】 臨床栄養総論３	①傷病者、要介護者・要支援者への栄養教育 ②モニタリングと再評価 ③薬と栄養・食事の相互作用 ④栄養ケアの記録 【ケーススタディによるグループワーク】を行い発表する。	用テキストを読んでおく。90分 復習：配布プリントをまとめておく 90分
第4回	【臨床栄養学】 臨床栄養各論１	①栄養障害 ②肥満と代謝疾患 ③消化器疾患 【ケーススタディによるグループワーク】を行い発表する。	予習：臨床栄養学使用テキストを読んでおく。90分 復習：配布プリントをまとめておく 90分
第5回	【臨床栄養学】 臨床栄養各論２	①循環器疾患 ②腎・尿路疾患 【ケーススタディによるグループワーク】を行い発表する。	予習：臨床栄養学使用テキストを読んでおく。90分 復習：配布プリントをまとめておく 90分
第6回	【臨床栄養学】 臨床栄養各論３	①内分泌疾患 ②神経疾患 ③摂食障害 【ケーススタディによるグループワーク】を行い発表する。	予習：臨床栄養学使用テキストを読んでおく。90分 復習：配布プリントをまとめておく 90分
第7回	【臨床栄養学】 臨床栄養各論４	①呼吸器疾患 ②血液系疾患 ③筋・骨格疾患 【ケーススタディによるグループワーク】を行い発表する。	予習：臨床栄養学使用テキストを読んでおく。90分 復習：配布プリントをまとめておく 90分
第8回	【臨床栄養学】 臨床栄養各論５	①免疫・アレルギー疾患 ②感染症 ③癌 【ケーススタディによるグループワーク】を行い発表する。	予習：臨床栄養学使用テキストを読んでおく。90分 復習：配布プリントをまとめておく 90分
第9回	【臨床栄養学】 臨床栄養各論６	①手術・周術期患者患者の栄養管理 ②クリティカル ③摂食機能の障害 ④身体・知的障害 【ケーススタディによるグループワーク】を行い発表する。	予習：臨床栄養学使用テキストを読んでおく。90分 復習：配布プリントをまとめておく 90分
第10回	【応用栄養学】 授業の概要 栄養マネジメント	①ライフステージ別栄養管理 乳幼児 妊産婦・授乳婦 高齢者②栄養ケア・マネジメントの概念 【ケーススタディによるグループワーク】を行い発表する。	予習：応用栄養学使用テキストを読んでおく。(第1章）90分 復習：配布プリントをまとめておく 90分
第11回	【応用栄養学】 妊娠期・授乳期	①妊婦・授乳婦のための各期の生理的特徴 ②各期の栄養アセスメントと栄養ケア ③妊婦・授乳婦のための食生活指針・食事バランスガイド 【ケーススタディによるグループワーク】を行い発表する。	予習：応用栄養学使用テキストを読んでおく。(第章）90分 復習：配布プリントをまとめておく 90分

第12回	【応用栄養学】 新生児期・乳児期	①各期の生理的特徴 ②授乳・離乳の支援ガイド 【ケーススタディによるグループワーク】を行い発表する。	予習：応用栄養学使用テキストを読んでおく。(第章）90分 復習：配布プリントをまとめておく 90分
第13回	【応用栄養学】 幼児期・学童期・思春期	①各期の生理的特徴 ②各期の栄養アセスメントと栄養ケア ③授乳・離乳の支援ガイド・神経性食欲不振症診断基準	予習：応用栄養学使用テキストを読んでおく。(第章）90分 復習：配布プリントをまとめておく 90分
第14回	【応用栄養学】 成人期・高齢期	①各期の生理的特徴 ②各期の栄養アセスメントと栄養ケア ③メタボリックシンドローム診断基準④更年期障害・日常生活動作（ADL）・老年症候群【ケーススタディによるグループワーク】を行い発表する。	予習：応用栄養学使用テキストを読んでおく。(第章）90分 復習：配布プリントをまとめておく 90分
第15回	【応用栄養学】 運動・スポーツと栄養 環境と栄養	①運動時の生理的特徴とエネルギー代謝 ②運動と栄養ケア ③運動指針アクティブガイド ④ストレスと栄養ケア ④特殊環境と栄養ケア ⑤災害時の栄養ケア【ケーススタディによるグループワーク】を行い発表する。	予習：応用栄養学使用テキストを読んでおく。(第章）90分 復習：配布プリントをまとめておく 90分

教科書

臨床栄養学分野、応用栄養学分野で使用した教科書
クエスションバンクQ＆B
配布プリント

参考書

臨床栄養学：臨床栄養学、栄養食事療法必携、糖尿病食品交換、腎臓病食品交換
応用栄養学：応用栄養学分野で使用した教科書

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上（定期試験100％）

課題等に対する
フィードバックの方法

授業の前に自ら予習学習をし、不明点を授業で解決するように、各自ノートを作成する。必ず教科書を読んでキーワードを学習し復習を行う。

履修のポイント

臨床栄養学分野、応用栄養学分野の専門的な知識や技術を習得する。
自ら学習し、自分の学習スタイルを習得する。

オフィス・アワー

中山：月曜日～金曜日 昼休み 研究室17
増野：月曜日～金曜日 昼休み 研究室18

講義コード	20950001
講義名	特別演習Ⅲ
(副題)	
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	木曜日
代表時限	２時限
区分	専門科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UE-C374
学年	4学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 荒井 勝己	指定なし
教員	榮 昭博	指定なし

授業の概要と教育目標

1年～2年に掛けて開講された食べ物と健康（食品学分野）および基礎栄養学についての復習を行うともに、管理栄養士として働く上で必要な知識の再確認および理解を深めることを目的とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマ・ポリシーとの関連として、食品学および基礎栄養学分野について管理栄養士として第一歩を踏み出す際の、基本的知識の再構築を目的とする。

到達目標

既に習得した専門知識を総復習し、管理栄養士養成課程修了の水準に達するための総合力を養う。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	【食品学】人間と食品（食べ物）食品の分類と食品の成分Ⅰ	①食分化と食生活 ②食生活と健康 ③食料と環境問題 ④食品成分表の理解 ※事前に配布された課題に基づき、学生に解答および調べた内容について発表してもらう。教員はその内容について補足を行い、単元内容についての理解を深めさせる（第1回～第7回）。	予習60分：事前に配布された課題を解き、説明ができるようまとめる。 復習60分：講義中に理解できなかった内容について参考書等を利用し調べ、まとめる。
	【食品学】食品の		予習60分：前回の授業で配布された課題を解き、説明ができるようまとめる。

第2回	分類と食品の成分Ⅱ	①植物性食品（加工を含む）	復習60分：講義中に理解できなかった内容について参考書等を利用し調べ、まとめる。
第3回	【食品学】食品の分類と食品の成分Ⅲ	①動物性食品（加工を含む） ②油脂、調味料、香辛料、嗜好飲料 ③微生物利用食品	予習60分：前回の授業で配布された課題を解き、説明ができるようまとめる。 復習60分：講義中に理解できなかった内容について参考書等を利用し調べ、まとめる。
第4回	【食品学】食品の機能Ⅰ	①一次機能（たんぱく質、炭水化物、脂質、ﾋﾞﾀﾐﾝ、ﾐﾈﾗﾙ）	予習60分：前回の授業で配布された課題を解き、説明ができるようまとめる。 復習60分：講義中に理解できなかった内容について参考書等を利用し調べ、まとめる。
第5回	【食品学】食品の機能Ⅱ食品の表示と規格基準Ⅰ	①二次機能（色素成分、呈味成分、香気成分、ﾃｸｽﾁｬｰ） ②三次機能（消化管内で作用する機能） ③表示の種類	予習60分：前回の授業で配布された課題を解き、説明ができるようまとめる。 復習60分：講義中に理解できなかった内容について参考書等を利用し調べ、まとめる。
第6回	【食品学】食品の表示と規格基準Ⅱ	①健康や栄養に関する表示の制度 ②基準	予習60分：前回の授業で配布された課題を解き、説明ができるようまとめる。 復習60分：講義中に理解できなかった内容について参考書等を利用し調べ、まとめる。
第7回	【食品学】食品の生産・加工・保存・流通と栄養	①食料生産と栄養 ②食品加工と栄養、加工食品とその利用 ③食品流通・保存と栄養 ④器具と容器包 栄養の概念、食事摂取、栄養学の歴史の内容の確認試験を事前に配布する	予習60分：前回の授業で配布された課題を解き、説明ができるようまとめる。 復習60分：講義中に理解できなかった内容について参考書等を利用し調べ、まとめる。
第8回	基礎栄養学	栄養の概念、食事摂取、栄養学の歴史の確認試験を正答を学生が発表し、これに対して教員を含めてディスカッションする。また、消化吸収・タンパク質の栄養の確認試験を配布する。	配布された確認試験を解答し、かつ誤文を正文に直す作業を行う。この単元において2時間以上の学習を行う。
第9回	基礎栄養学	消化吸収・タンパク質の栄養の確認試験を正答を学生が発表し、これに対して教員を含めてディスカッションする。また、糖の栄養の栄養の確認試験を配布する。	配布された確認試験を解答し、かつ誤文を正文に直す作業を行う。この単元において2時間以上の学習を行う。

第10回	基礎栄養学	糖の栄養の確認試験を正答を学生が発表し、これに対して教員を含めてディスカッションする。また、脂質の栄養の確認試験を配布する。	配布された確認試験を解答し、かつ誤文を正文に直す作業を行う。この単元において2時間以上の学習を行う。
第11回	基礎栄養学	脂質の栄養の確認試験を正答を学生が発表し、これに対して教員を含めてディスカッションする。また、ビタミンの確認試験を配布する。	配布された確認試験を解答し、かつ誤文を正文に直す作業を行う。この単元において2時間以上の学習を行う。
第12回	基礎栄養学	ビタミンの確認試験を正答を学生が発表し、これに対して教員を含めてディスカッションする。また、ミネラルの確認試験を配布する。	配布された確認試験を解答し、かつ誤文を正文に直す作業を行う。この単元において2時間以上の学習を行う。
第13回	基礎栄養学	ミネラルの確認試験を正答を学生が発表し、これに対して教員を含めてディスカッションする。また、水・電解質の代謝、エネルギー代謝の確認試験を配布する。	配布された確認試験を解答し、かつ誤文を正文に直す作業を行う。この単元において2時間以上の学習を行う。
第14回	基礎栄養学	水・電解質の代謝、エネルギー代謝の確認試験を正答を学生が発表し、これに対して教員を含めてディスカッションする。	配布された確認試験を解答し、かつ誤文を正文に直す作業を行う。この単元において2時間以上の学習を行う。
第15回	まとめ	食べ物と健康（食品学分野）および基礎栄養学のまとめ	

教科書

演習毎にプリントを配布する。

参考書

クエスチョンバンク 管理栄養士 国家試験問題解説

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上 筆記試験100％

課題等に対する
フィードバックの方法

予習：シラバスに従って、予め各講義内容に関してこれまでの知識を整理しておくこと。
復習：講義の内容を十分理解するとともに、管理栄養士国家試験に向けて再構築できるようにしておくこと。

履修のポイント

管理栄養士国家試験受験に向け、講義・小テスト等の内容を各自ノートにまとめ、理解度を向上させる。

オフィス・アワー

月～金の昼休み、第１３または第１４研究室にて対応する。

講義コード	20960001
講義名	特別演習Ⅳ
(副題)	
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	火曜日
代表時限	１時限
区分	専門科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UE-C380
学年	4学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 宮原 公子	指定なし
教員	橘 陽子	指定なし
教員	神戸 美恵子	指定なし
教員	岩田 昇	指定なし

授業の概要と教育目標

本演習は、「社会・環境と健康」、「栄養教育論」「公衆栄養学」「給食経営管理論」の各分野に重点を置き、管理栄養士として具備すべき必要な知識を習得し、実践活動の即戦力となる能力を身に付けることを目指す。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマ・ポリシーとの関連として、実践的な管理栄養士として活躍するため、また多様な社会のニーズ、変化に対応できる知識・技術を身につけるため、これまでの学習を統合･発展させることを目指し、「社会・環境と健康」、「栄養教育論」「公衆栄養学」「給食経営管理論」の各分野の知識の習得と実践力を養う。将来的な展望としては、これまでの学習を統合･発展させ、実践活動の即戦力となる能力を身に付けることを目指すものとする。

到達目標

1.「社会・環境と健康(公衆衛生学分野）」における最新の情報を確認し、管理栄養士として必要な知識と技術を理解する。
2.「公衆栄養学」における最新の情報を確認し、管理栄養士として必要な公衆栄養に関する知識と技術を理解する。
3.「栄養教育論」における理論及び実践を確認し、管理栄養士として必要な知識と技術を理解する。
4.「給食経営管理論」における理論及び実践を確認し、管理栄養士として必要な知識と技術を理解する。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
	【社会・	社会保障の動向と衛生行政の体系	予習60分：国民衛生の動向第1～2編を読んでおく。

第1回	環境と健康】(1)	衛生の主要指標	復習60分：最新のデータを確認し、ポイントを整理する。
第2回	【社会・環境と健康】(2)	保健と医療の動向 医療提供体制と医療保健 介護保険	予習60分：国民衛生の動向第3～5編を読んでおく。 復習60分：最新のデータを確認し、ポイントを整理する。
第3回	【社会・環境と健康】(3)	生活環境 労働衛生 環境保健 学校保健	予習60分：国民衛生の動向 第7～10編を読んでおく。 復習60分：最新のデータを確認し、ポイントを整理する。
第4回	【公衆栄養 学】(1)	国民健康・栄養調査	予習60分：平成30年度国民健康・栄養調査の結果（概要版）を読んでおく。 復習60分：最新のデータを確認し、ポイントを整理する。
第5回	【公衆栄養 学】(2)	健康日本21（第2次）	予習60分：健康日本21（第2次）中間報告を読んでおく。 復習60分：最新のデータを確認し、ポイントを整理する。
第6回	【公衆栄養 学】(3)	日本人の食事摂取基準（2020年版）	予習60分：日本人の食事摂取基準（2020年版）を読んでおく。 復習60分：最新のデータを確認し、ポイントを整理する。
第7回	【栄養教育 論】(1)	栄養教育論の意義・目的 栄養教育の歴史を踏まえた必要性と方向性 行動科学の理論とモデルと栄養教育（個人または個人間） 【アクティブラーニング】 重要な用語をまとめ、理論と技術を統合できるようプレゼンテーションと事例演習を行う。	予習60分：栄養士法第1条を熟読し、管理栄養士の役割や使命を理解しておく。 復習：管理栄養士の業務を整理し、これからの方向性をまとめる。
第8回	【栄養教育 論】(2)	栄養教育における行動科学の理論とモデル① 栄養教育の分野における必要性と役割 栄養教育におけるカウンセリング 【アクティブラーニング】 重要な用語をまとめ、理論と技術を統合できるようプレゼンテーションと事例演習を行う。	予習60分：栄養カウンセリングに関する理論を理解しておく。 復習60分：カウンセリングに関するプレゼンと事例演習の準備をする。
第9回	【栄養教育 論】(3)	栄養教育における行動科学の理論とモデル② 行動変容技法と概念と技法（集団や社会） 【アクティブラーニング】 重要な用語をまとめ、理論と技術を統合できるようプレゼンテーションと事例演習を行う。	予習60分：行動変容技法の理論を理解しておく。 復習60分：集団や社会に対する行動変容技法に関するプレゼンと事例演習の準備をする。
第10回	【栄養教育	栄養教育における行動科学の理論とモデル③ 栄養教育における組織・地域・食環境づくり 【アクティブラーニング】	習60分：組織・地域・食環境づくりの重要性を理解しておく。 復習60分：栄養教育における組織・

	論】(4)	重要な用語をまとめ、理論と技術を統合できるようプレゼンテーションと事例を行う。	地域・食環境づくりに関するプレゼンと事例演習の準備をする。
第11回	【給食経営管理論】(1)	給食の概念	予習60分：課題を解き、わからない問題は調べ学習をする。 復習60分：課題を見直し、理解を深める。
第12回	【給食経営管理論】(2)	栄養・食事管理	予習60分：課題を解き、わからない問題は調べ学習をする。 復習60分：課題を見直し、理解を深める。
第13回	【給食経営管理論】(3)	品質管理	予習60分：課題を解き、わからない問題は調べ学習をする。 復習60分：課題を見直し、理解を深める。
第14回	【給食経営管理論】(4)	安全・衛生管理 施設・設備管理	予習60分：課題を解き、わからない問題は調べ学習をする。 復習60分：課題を見直し、理解を深める。
第15回	【給食経営管理論】(5)	財務管理 人事管理	予習60分：課題を解き、わからない問題は調べ学習をする。 復習60分：課題を見直し、理解を深める。

教科書

国民衛生の動向 2019/2020(2019年8月末刊行予定の最新版)

参考書

各科目（公衆衛生学、公衆栄養学、栄養教育論、給食経営管理論）の教科書

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上。
定期試験を実施する。(定期試験100％)

課題等に対するフィードバックの方法

基本的には実習時間内での作業となるが、課題の進捗状況により自宅での学習も必要となる。
○課題の取り組みに対しては、コメントをつけて返却するので参考に学習を深める。

履修のポイント

授業内容を各自ノートにまとめ、理解度を向上させる。

オフィス・アワー

宮原 火曜日～金曜日 昼休み 研究室19（宮原研究室）
神戸 月曜日～金曜日 昼休み 研究室15（神戸研究室）
橘 月曜日 昼休み 栄養教育準備室

講義コード	20970001
講義名	卒業研究（大澤）
(副題)	
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	通年
講義区分	演習
基準単位数	4
代表曜日	
代表時限	
区分	専門科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UE-R375
学年	4学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 大澤 靖彦	指定なし

授業の概要と教育目標

【授業の概要】主に心理学研究法に基づく調査・実験の手法を用いて実際にデータを収集・分析し、結果を出し、その結果を考察するという一連の研究の流れを学習する。研究テーマは、自分の興味関心のある事柄を中心に検討するが、興味関心のある事柄を科学的な方法論に基づいて研究の形にしていくことは、意外と容易ではない。研究するとはどういうことか、研究テーマを形にする方法にはどのようなものがあるのか、一連の研究の流れを記述するときにはどのような文章で記述すればよいのかなどにも触れながら、自分の興味関心のある事柄を“研究”の形に整えていくことを体験する。
【教育目標】研究をまとめるためには、事象を捉える幅広い視野、批判的思考、問題解決能力、事象を客観的に文章化する能力などが必要となる。それは社会に出てからも役立つものと考えられる。卒業研究では、学生は最終的には各自が設定した研究テーマをレポートにまとめる。そのために必要なスキルを意識し実践することを目指す。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマポリシーとの関連として、社会・環境・コミュニケーションなどの諸側面から人に対する理解を深めることを目指す。また、学習を統合･発展させ、多様な社会のニーズ、変化に対応できる知識・技術を身につけ、実践的な職業人として活躍できる知識・技術を修得するために“研究”の形で栄養学科の学修の「総まとめ」の一端を担うことを目指す。

到達目標

１．自らの興味関心のあるテーマが、心理学の研究の中でどのような位置づけになるかを考えることができる。
２．自らが決めた研究テーマに基づいて、調査・実験計画を立てることができる。
３．調査・実験を行い、その結果ならびに考察をレポートにまとめることができる。
４．研究テーマに仮説があれば、その検証を通して仮説が認められたかどうかを実証することができる。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
			予習90分：テーマ設定

第1回	１回～４回 研究テーマに関する指導（１）	ガイダンス、興味関心の確認と研究の方向性の指導	の調べ学習。 復習90分：教員との面談内容・指導内容の整理・まとめ。
第2回	５回～８回 研究テーマに関する指導（２）	具体的なテーマ決定のための指導、研究テーマに関する図書や論文（先行研究）の紹介 【アクティブラーニングの内容】 ディスカッションを通した文献検索とクリティーク。	予習90分：テーマ設定の調べ学習。 復習90分：教員との面談内容・指導内容の整理・まとめ。
第3回	９回～１２回 研究テーマに関する指導（３）	先行研究の検索、文献の収集、研究テーマの決定 【アクティブラーニングの内容】 ディスカッションを通した文献検索とクリティーク。	予習90分：テーマ設定の調べ学習。 復習90分：教員との面談内容・指導内容の整理・まとめ。
第4回	１３回～１６回 研究方法に関する指導（１）	先行研究や関連書籍の紹介・指導 【アクティブラーニングの内容】 ディスカッションを通した文献検索とクリティーク。	予習90分：研究方法設定の調べ学習。 復習90分：教員との面談内容・指導内容の整理・まとめ。
第5回	１７回～２０回 研究方法に関する指導（２）	実験か調査かなどの大きな方向性の決定	予習90分：研究方法設定の調べ学習。 復習90分：教員との面談内容・指導内容の整理・まとめ。
第6回	２１回～２４回 研究方法に関する指導（３）	研究法についての指導、具体的な研究法の決定	予習90分：研究方法設定の調べ学習。 復習90分：教員との面談内容・指導内容の整理・まとめ。
第7回	２５回～２８回 研究計画の作成	研究実施スケジュールの決定	予習90分：研究方法設定の調べ学習。 復習90分：教員との面談内容・指導内容の整理・まとめ。
第8回	２９回～３２回 研究の実施（１）	データ収集の時期の決定、調査・実験に必要な材料・質問紙などの準備 【アクティブラーニングの内容】 調査。実験に必要な材料（調査用紙、実験機材）作成のためのディスカッション。	予習90分：データ収集の準備、質問紙や実験計画の作成。 復習90分：教員との面談内容・指導内容の整理・まとめ。
第9回	３３回～３６回 研究の実施（２）	調査・実験の実施（データ収集の実施） 【アクティブラーニングの内容】 調査計画、実験計画に基づく、調査対象者に対する調査・実験の実践。調査対象者への教示に対するサジェスチョン。	予習90分：データ収集、データ入力。 復習90分：教員との面談内容・指導内容の整理・まとめ。
第10回	３７回～４０回 研究の実施（３）	データの入力方法、分析方法の指導と実施 【アクティブラーニングの内容】 エクセルによるデータ入力の実践、ディスカッションを通した論文掲載のための適正なデータ分析方法や結果の読み取りの実践。	予習90分：データ収集、データ入力。 復習90分：教員との面談内容・指導内容の整理・まとめ。
		データ分析とその結果の中間報告	予習90分：データ分析

第11回	４１回～４４回 研究の実施（４）	【アクティブラーニングの内容】 エクセルによるデータ分析の実践、ディスカッションを通した論文掲載のための適正なデータ分析方法や結果の読み取りの実践。	と結果のまとめ。 復習90分：教員との面談内容・指導内容の整理・まとめ。
第12回	４５回～４８回 研究の実施（５）	必要に応じて追加分析の実施、データ分析の完了 【アクティブラーニングの内容】 エクセルによるデータ分析の実践、ディスカッションを通した論文掲載のための適正なデータ分析方法や結果の読み取りの実践。	予習90分：データ分析と結果のまとめ。 復習90分：教員との面談内容・指導内容の整理・まとめ。
第13回	４９回～５２回 卒業研究レポートの執筆・作成（１）	論文の書き方、引用参考文献、論文フォーマットの指導	予習90分：研究結果のまとめ、論文フォーマットに沿った論文作成。 復習90分：教員との面談内容・指導内容の整理・まとめ。
第14回	５３回～５６回 卒業研究レポートの執筆・作成（２）	アウトラインの作成、図表作成の指導 【アクティブラーニングの内容】 エクセルによる図表作成の実践、ディスカッションを通した論文掲載のための適正な図形作成の実践。	予習90分：研究結果のまとめ、論文フォーマットに沿った論文作成。 復習90分：教員との面談内容・指導内容の整理・まとめ。
第15回	５７回～６０回 卒業研究レポートの執筆・作成（３）	教員による添削、卒業研究レポートの最終的な修正と完成	予習90分：研究結果のまとめ、論文フォーマットに沿った論文作成。 復習90分：教員との面談内容・指導内容の整理・まとめ。

教科書

特になし。

参考書

適宜紹介する。

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上。
授業への参加度50%、提出論文（レポート）50%を総合して評価します。

課題等に対するフィードバックの方法

授業内でレポートや課題を課すことがある。返却するので学習の参考にすること。また、レポートや課題についてはその内容を添削して返却しさらにディスカッションを通して研究の方向づけをしていくので、内容の理解や論文作成に役立てること。

履修のポイント

各自が問題意識を持ち、問題解決をはかれるような積極的・主体的な取組を期待します。積極的に自分の研究テーマに関わる情報を収集すること、教員とのディスカッションを通して自ら研究を進めることが授業時間外の学習となります。

オフィス・アワー

水曜日・木曜日、12：30～13：20（昼休み）、11 号館第 8 研究室。

※その他、教員の空き時間であれば適宜受け付けます。

講義コード	20970002
講義名	卒業研究（荒井）
(副題)	
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	通年
講義区分	演習
基準単位数	4
代表曜日	
代表時限	
区分	専門科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UE-R375
学年	4学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 荒井 勝己	指定なし

授業の概要と教育目標

ひとつの食品および成分にターゲットを絞って成分分析を行い、その機能性や食品としての価値を再認識することを目的とした実験を行います。実験（主に夏期休暇期間に実施）を中心に進めるため、実験や成分分析等に興味のある学生の履修を希望します。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマポリシーとの関連として、「2. 人間の健康を規定する要因として幅広く社会・環境を科学的に理解し、さらに健康の維持・増進プログラムを実践するために必要な人体の構造並びに疾病の成り立ちから食べ物と健康の知識や技能を修得している。」ならびに「4. これまでの学習を統合･発展させ、多様な社会のニーズ、変化に対応できる知識・技術を身につけ、実践的な職業人として活躍できる知識・技術を修得している。」に基づき、食品学および食品学実験で学んだ知識や技術を利用して実験を行い、論文検索やデータ処理、論文のまとめ方などについての習得を目指します。

到達目標

各グループで決めたテーマに沿って実験を行い、その結果について論文にまとめることを目標とします。また、グループが複数ある場合、報告会を行います。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	卒業研究実験準備	実験内容の決定、文献検索、実験スケジュールの作成など【アクティブラーニング】 文献等を調べ、自分の行いたい実験の方法や内容について検討を行い、実験の準備を行う。（14回）	予習・復習をあわせて60分
第2回	卒業研究実験	ある食品および食品成分について分析実験を行う（30回）	予習・復習をあわせて60分

第3回	卒業研究実験まとめ	卒業研究実験において得た結果（データ）について解析し、論文にまとめる。 【アクティブラーニング】 実験結果についてデータを読み取り、論文をまとめるために必要な知識や方法論を身につけ、協力して論文をまとめる。 （16回）	予習・復習をあわせて60分

教科書
食品学実験書（食品学実験ⅠおよびⅡで使用した実験書）
参考書
適宜紹介する。
成績評価の方法・基準
単位認定60点以上 実験・論文作成 100%
課題等に対する フィードバックの方法
配布した参考文献やデータ等は必ず目を通し理解すること。
履修のポイント
食品や食品成分分析等に興味のある学生または食品学に自信のない学生の履修を希望します。
オフィス・アワー
月～金曜日のお昼休み（12:30～13:20）に11号館3F研究室13で受け付ける。

講義コード	20970003
講義名	卒業研究（小林）
(副題)	
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	通年
講義区分	演習
基準単位数	4
代表曜日	
代表時限	
区分	専門科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UE-R375
学年	4学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 小林 葉子	指定なし

授業の概要と教育目標

テーマに沿って、各自、論文を読み、実験を組み立てて、実験を行う。実験結果から、考察し、卒業論文としてまとめる。
論文を読み、口頭や研究論文として研究をまとめることを目標とする。同時に、科学倫理を理解する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

栄養学科専門科目選択科目である。卒業研究を通して、研究の組み立て、口頭発表や論文の書き方を学ぶ。

到達目標

テーマに沿った和・英文論文を読み、実験を遂行する。結果から、自分の考えをまとめ、卒業論文を書くことを目標とする。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	テーマ決め	卒業論文の具体的なテーマを決める。 アクティブラーニング 自分の興味のあるテーマについて、考える。	予習90分：情報収集 復習90分：議論内容をもとにまとめる
第2回	関連論文の調査	卒業論文の具体的なテーマに関連する論文の調査 アクティブラーニング 自ら、関連論文を見つけ、論文を読む。	予習90分：情報収集 復習90分：関連論文講読
第3回	関連論文の調査	卒業論文の具体的なテーマに関連する論文の調査 アクティブラーニング	予習90分：情報収集 復習90分：関連論文講読

		自ら、関連論文を見つけ、論文を読む。	
第4回	関連論文の調査	卒業論文の具体的なテーマに関連する論文の調査 アクティブラーニング 自ら、関連論文を見つけ、論文を読む。	予習90分：情報収集 復習90分：関連論文講読
第5回	関連論文の調査	卒業論文の具体的なテーマに関連する論文の調査 アクティブラーニング 自ら、関連論文を見つけ、論文を読む。	予習90分：情報収集 復習90分：関連論文講読
第6回	関連論文の調査	卒業論文の具体的なテーマに関連する論文の調査 アクティブラーニング 自ら、関連論文を見つけ、論文を読む。	予習90分：情報収集 復習90分：関連論文講読
第7回	実験手法の組み立て	論文をもとに実験計画を組む。 アクティブラーニング 自分の遂行できる実験計画を組む。	予習90分：実験計画の作成 復習90分：計画の見直し
第8回	実験手法の組み立て	論文をもとに実験計画を組む。 アクティブラーニング 自分の遂行できる実験計画を組む。	予習90分：実験計画の作成 復習90分：計画の見直し
第9回	実験手法の組み立て	論文をもとに実験計画を組む。 アクティブラーニング 自分の遂行できる実験計画を組む。	予習90分：実験計画の作成 復習90分：計画の見直し
第10回	実験手法の組み立て	論文をもとに実験計画を組む。 アクティブラーニング 自分の遂行できる実験計画を組む。	予習90分：実験計画の作成 復習90分：計画の見直し
第11回	実験手法の組み立て	論文をもとに実験計画を組む。 アクティブラーニング 自分の遂行できる実験計画を組む。	予習90分：実験計画の作成 復習90分：計画の見直し
第12回	実験手法の組み立て	論文をもとに実験計画を組む。 アクティブラーニング 自分の遂行できる実験計画を組む。	予習90分：実験計画の作成 復習90分：計画の見直し
第13回	実験	計画をした実験を遂行する。 アクティブラーニング 自ら実験に必要な試薬・器具を準備し、実験を遂行する。	予習90分：実験計画の作成 復習90分：行った実験のまとめ
第14回	実験	計画をした実験を遂行する。 アクティブラーニング 自ら実験に必要な試薬・器具を準備し、実験を遂行する。	予習90分：実験計画の作成 復習90分：行った実験のまとめ
第15回	実験	計画をした実験を遂行する。 アクティブラーニング 自ら実験に必要な試薬・器具を準備し、実験を遂行する。	予習90分：実験計画の作成 復習90分：行った実験のまとめ
		計画をした実験を遂行する。	

第16回	実験	アクティブラーニング 自ら実験に必要な試薬・器具を準備し、実験を遂行する。る。	予習90分：実験計画の作成 復習90分：行った実験のまとめ
第17回	実験	計画をした実験を遂行する。 アクティブラーニング 自ら実験に必要な試薬・器具を準備し、実験を遂行する。	予習90分：実験計画の作成 復習90分：行った実験のまとめ
第18回	実験	計画をした実験を遂行する。 アクティブラーニング 自ら実験に必要な試薬・器具を準備し、実験を遂行する。	予習90分：実験計画の作成 復習90分：行った実験のまとめ
第19回	実験	計画をした実験を遂行する。 アクティブラーニング 自ら実験に必要な試薬・器具を準備し、実験を遂行する。	予習90分：実験計画の作成 復習90分：行った実験のまとめ
第20回	実験	計画をした実験を遂行する。 アクティブラーニング 自ら実験に必要な試薬・器具を準備し、実験を遂行する。	予習90分：実験計画の作成 復習90分：行った実験のまとめ
第21回	実験	計画をした実験を遂行する。 アクティブラーニング 自ら実験に必要な試薬・器具を準備し、実験を遂行する。	予習90分：実験計画の作成 復習90分：行った実験のまとめ
第22回	実験	計画をした実験を遂行する。 アクティブラーニング 自ら実験に必要な試薬・器具を準備し、実験を遂行する。	予習90分：実験計画の作成 復習90分：行った実験のまとめ
第23回	実験	計画をした実験を遂行する。 アクティブラーニング 自ら実験に必要な試薬・器具を準備し、実験を遂行する。	予習90分：実験計画の作成 復習90分：行った実験のまとめ
第24回	実験	計画をした実験を遂行する。 アクティブラーニング 自ら実験に必要な試薬・器具を準備し、実験を遂行する。	予習90分：実験計画の作成 復習90分：行った実験のまとめ
第25回	実験	計画をした実験を遂行する。 アクティブラーニング 自ら実験に必要な試薬・器具を準備し、実験を遂行する。	予習90分：実験計画の作成 復習90分：行った実験のまとめ
第26回	実験	計画をした実験を遂行する。 アクティブラーニング 自ら実験に必要な試薬・器具を準備し、実験を遂行する。	予習90分：実験計画の作成 復習90分：行った実験のまとめ

第27回	実験	計画をした実験を遂行する アクティブラーニング 自ら実験に必要な試薬・器具を準備し、実験を遂行する。	予習90分：実験計画の作成 復習90分：行った実験のまとめ
第28回	実験	計画をした実験を遂行する。 アクティブラーニング 自ら実験に必要な試薬・器具を準備し、実験を遂行する。	予習90分：実験計画の作成 復習90分：行った実験のまとめ
第29回	実験	計画をした実験を遂行する。 アクティブラーニング 自ら実験に必要な試薬・器具を準備し、実験を遂行する。	予習90分：実験計画の作成 復習90分：行った実験のまとめ
第30回	実験	計画をした実験を遂行する。 アクティブラーニング 自ら実験に必要な試薬・器具を準備し、実験を遂行する。	予習90分：実験計画の作成 復習90分：行った実験のまとめ
第31回	実験	計画をした実験を遂行する。 アクティブラーニング 自ら実験に必要な試薬・器具を準備し、実験を遂行する。	予習90分：実験計画の作成 復習90分：行った実験のまとめ
第32回	実験	計画をした実験を遂行する。 アクティブラーニング 自ら実験に必要な試薬・器具を準備し、実験を遂行する。	予習90分：実験計画の作成 復習90分：行った実験のまとめ
第33回	実験	計画をした実験を遂行する。 アクティブラーニング 自ら実験に必要な試薬・器具を準備し、実験を遂行する。	予習90分：実験計画の作成 復習90分：行った実験のまとめ
第34回	実験	計画をした実験を遂行する。 アクティブラーニング 自ら実験に必要な試薬・器具を準備し、実験を遂行する。	予習90分：実験計画の作成 復習90分：行った実験のまとめ
第35回	実験	計画をした実験を遂行する。 アクティブラーニング 自ら実験に必要な試薬・器具を準備し、実験を遂行する。	予習90分：実験計画の作成 復習90分：行った実験のまとめ
第36回	実験	計画をした実験を遂行する。 アクティブラーニング 自ら実験に必要な試薬・器具を準備し、実験を遂行する。	予習90分：実験計画の作成 復習90分：行った実験のまとめ
第37回	実験	計画をした実験を遂行する。 アクティブラーニング 自ら実験に必要な試薬・器具を準備し、実験を遂行する。	予習90分：実験計画の作成 復習90分：行った実験のまとめ

第38回	実験	計画をした実験を遂行する。 アクティブラーニング 自ら実験に必要な試薬・器具を準備し、実験を遂行する。	予習90分：実験計画の作成 復習90分：行った実験のまとめ
第39回	実験	計画をした実験を遂行する。 アクティブラーニング 自ら実験に必要な試薬・器具を準備し、実験を遂行する。	予習90分：実験計画の作成 復習90分：行った実験のまとめ
第40回	実験	計画をした実験を遂行する。 アクティブラーニング 自ら実験に必要な試薬・器具を準備し、実験を遂行する。	予習90分：実験計画の作成 復習90分：行った実験のまとめ
第41回	実験	計画をした実験を遂行する。 アクティブラーニング 自ら実験に必要な試薬・器具を準備し、実験を遂行する。	予習90分：実験計画の作成 復習90分：行った実験のまとめ
第42回	実験	計画をした実験を遂行する。 アクティブラーニング 自ら実験に必要な試薬・器具を準備し、実験を遂行する。	予習90分：実験計画の作成 復習90分：行った実験のまとめ
第43回	実験	計画をした実験を遂行する。 アクティブラーニング 自ら実験に必要な試薬・器具を準備し、実験を遂行する。	予習90分：実験計画の作成 復習90分：行った実験のまとめ
第44回	実験	計画をした実験を遂行する。 アクティブラーニング 自ら実験に必要な試薬・器具を準備し、実験を遂行する。	予習90分：実験計画の作成 復習90分：行った実験のまとめ
第45回	実験	計画をした実験を遂行する アクティブラーニング 自ら実験に必要な試薬・器具を準備し、実験を遂行する。	予習90分：実験計画の作成 復習90分：行った実験のまとめ
第46回	実験	計画をした実験を遂行する。 アクティブラーニング 自ら実験に必要な試薬・器具を準備し、実験を遂行する。	予習90分：実験計画の作成 復習90分：行った実験のまとめ
第47回	実験	計画をした実験を遂行する。 アクティブラーニング 自ら実験に必要な試薬・器具を準備し、実験を遂行する。	予習90分：実験計画の作成 復習90分：行った実験のまとめ
第48回	実験	計画をした実験を遂行する。 アクティブラーニング 自ら実験に必要な試薬・器具を準備し、実験を遂行する。	予習90分：実験計画の作成 復習90分：行った実験のまとめ

第49回	まとめ	実験結果をもとに、考察し、論文を書く。 アクティブラーニング 実験結果をもとに、関連論文との関連をディスカッションし、自分の考えをまとめる。	予習90分：結果の整理 復習90分：実験内容に関する情報の再収集、データーのまとめ
第50回	まとめ	実験結果をもとに、考察し、論文を書く。 アクティブラーニング 実験結果をもとに、関連論文との関連をディスカッションし、自分の考えをまとめる。	予習90分：結果の整理 復習90分：実験内容に関する情報の再収集、データーのまとめ
第51回	まとめ	実験結果をもとに、考察し、論文を書く。 アクティブラーニング 実験結果をもとに、関連論文との関連をディスカッションし、自分の考えをまとめる。	予習90分：結果の整理 復習90分：実験内容に関する情報の再収集、データーのまとめ
第52回	まとめ	実験結果をもとに、考察し、論文を書く。 アクティブラーニング 実験結果をもとに、関連論文との関連をディスカッションし、自分の考えをまとめる。	予習90分：結果の整理 復習90分：実験内容に関する情報の再収集、データーのまとめ
第53回	まとめ	実験結果をもとに、考察し、論文を書く。 アクティブラーニング 実験結果をもとに、関連論文との関連をディスカッションし、自分の考えをまとめる。	予習90分：結果の整理 復習90分：実験内容に関する情報の再収集、データーのまとめ
第54回	まとめ	実験結果をもとに、考察し、論文を書く。 アクティブラーニング 実験結果をもとに、関連論文との関連をディスカッションし、自分の考えをまとめる。	予習90分：結果の整理 復習90分：実験内容に関する情報の再収集、データーのまとめ
第55回	まとめ	実験結果をもとに、考察し、論文を書く。 アクティブラーニング 実験結果をもとに、関連論文との関連をディスカッションし、自分の考えをまとめる。	予習90分：結果の整理 復習90分：実験内容に関する情報の再収集、データーのまとめ
第56回	まとめ	実験結果をもとに、考察し、論文を書く。 アクティブラーニング 実験結果をもとに、関連論文との関連をディスカッションし、自分の考えをまと	予習90分：結果の整理 復習90分：実験内容に関する情報の再収集、データーのまとめ

		める	
第57回	まとめ	実験結果をもとに、考察し、論文を書く。 アクティブラーニング 実験結果をもとに、関連論文との関連をディスカッションし、自分の考えをまとめる	予習90分：結果の整理 復習90分：実験内容に関する情報の再収集、データーのまとめ
第58回	まとめ	実験結果をもとに、考察し、論文を書く アクティブラーニング 実験結果をもとに、関連論文との関連をディスカッションし、自分の考えをまとめる。	予習90分：結果の整理 復習90分：実験内容に関する情報の再収集、データーのまとめ
第59回	まとめ	実験結果をもとに、考察し、論文を書く。 アクティブラーニング 実験結果をもとに、関連論文との関連をディスカッションし、自分の考えをまとめる。	予習90分：結果の整理 復習90分：実験内容に関する情報の再収集、データーのまとめ
第60回	まとめ	実験結果をもとに、考察し、論文を書く。 アクティブラーニング 実験結果をもとに、関連論文との関連をディスカッションし、自分の考えをまとめる。	予習90分：結果の整理 復習90分：実験内容に関する情報の再収集、データーのまとめ

教科書

シンプル生化学 林典夫/廣野治子著 南江堂
エキスパート管理栄養士養成シリーズ 分子栄養学 金本 龍平 編 化学同人

参考書

特になし

成績評価の方法・基準

卒業論文の評価が60点以上

**課題等に対する
フィードバックの方法**

提出された卒業論文に対して、訂正箇所を指摘する。これを繰り返す。

履修のポイント

科学倫理の基本を理解し、研究を行う。自分で考えて、実験を行う。失敗を恐れず、実験に取り組む。結果を読み考察する。

オフィス・アワー

月～金 お昼休み（ただし、3限に授業がある日は不可） 11号館3階16研究室

講義コード	20970004
講義名	卒業研究（中山）
(副題)	
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	通年
講義区分	演習
基準単位数	4
代表曜日	
代表時限	
区分	専門科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UE-R375
学年	4学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 中山 優子	指定なし

授業の概要と教育目標

卒業研究テーマは、食事・栄養療法に関する研究と食育に関する研究を行う。
卒業研究は、学生自身が関心のあるテーマを選択し、自らの問題意識をもって研究課題を追及する。研究の基本的な過程をたどりながら研究活動に取り組み、その成果をまとめる。

卒業認定・学位授与の方針との関連

卒業研究を通じて養ったスキルは管理栄養士として社会に出て、現場で大きく活かすことことを理解する。
研究計画書の立案に基づいて研究活動を遂行し成果をまとめることで自己の管理栄養士としての役割や洞察力を養う。

到達目標

①栄養・健康領域に関する研究課題を見出すことができる。
②研究の基本的なステップに基づいて、研究計画書を立案することができる。
③研究計画書に基づいて、研究活動を遂行できる。
④研究成果を抄録にまとめることができる。
⑤研究活動を通して、自己の管理栄養士としての役割を洞察できる。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	前期：前半 第1回～第15回 テーマ探しと研究概略検討	何を研究するのか、調べたいのか、という研究の主題を検討する。 【ディスカッションやプレゼンテーション】を行い発表する。	予習：文献テキストを読んでおく。90分 復習：文献テキストをまとめておく 90分
第2回	前期：後半 第１６回～第３０回 文献調査と研究概略詳細化	事例報告、指導法の検討について、検討する。 【ディスカッションやプレゼンテーション】を行い発表する。	予習：文献テキストを読んでおく。90分 復習：文献テキストをまとめておく 90分
	後期：前半		

第3回	第３１回～４５回 論文のアウトラインを書く	論文のアウトラインを書いてみて、足りないものを見つけ出す。 【ディスカッションやプレゼンテーション】を行い発表する。	予習：文献テキストを読んでおく。90分 復習：文献テキストをまとめておく 90分
第4回	後期：後半 第４６回～第６０回 初稿完成	研究の足りないところを補う。 【ディスカッションやプレゼンテーション】を行い発表する。	予習：文献テキストを読んでおく。90分 復習：文献テキストをまとめておく 90分

教科書

研究に関わる教科書および文献資料、臨床栄養学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳの教科書と実践臨床栄養学・実習、栄養食事療法必携 糖尿病食品交換表 腎臓病食品交換表

参考書

研究に関わる教科書および文献資料、臨床栄養学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳの教科書と実践臨床栄養学・実習、栄養食事療法必携 糖尿病食品交換表 腎臓病食品交換表

成績評価の方法・基準

単位認定、60点以上。研究課題とレポートの提出を80%、平常点（授業参加度・貢献度）20%として総合的に判断する。

課題等に対する
フィードバックの方法

学生自身が関心のあるテーマを選択し、自らの問題意識をもって研究課題を追及することを期待する。

履修のポイント

管理栄養士として社会に出て、現場で大きく活かすこととことへの繋がるよう理解を深める。

オフィス・アワー

中山 月曜日～金曜日昼休み 研究室17（中山研究室）

講義コード	20970005
講義名	卒業研究（宮原）
(副題)	
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	通年
講義区分	演習
基準単位数	4
代表曜日	
代表時限	
区分	専門科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UE-R375
学年	4学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 宮原 公子	指定なし

授業の概要と教育目標

栄養教育の機会と場には、様々なライフステージ・ライフスタイル別がある。健康増進法、栄養教諭制度創設および食育基本法の成立を契機にわが国の食育・栄養教育の重要性が高まった。この背景には、栄養すなわち食生活の仕方で、健康を損なうことが種々のエビデンスとして示されており、その改善には、食生活をとおした一次・二次・三次予防を行うことが必要とされてきた。特に、近年生活習慣病の低年齢化が懸念されている中、学校における食育に期待が寄せられ、その中核的な役割をする栄養教諭の役割は大きい。
本研究は、学校の食育と給食管理の範ちゅうである献立を一体的にとらえ、教材となる献立マネジメントし教材研究を深め、生活習慣病一次予防としての食育の研究をすることを教育目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

栄養教諭は、管理栄養士養成課程で教職課程を履修することで、管理栄養士の資質をもった教員として免許状が取得でき得る。これまでの学習を統合･発展させ、多様な社会のニーズ、変化に対応できる知識・技術を身につけ、実践的な職業人として活躍できる栄養教諭としての資質を修得している。

到達目標

１．学校給食法を理解し、食育と給食管理を一体的にとらえることができる。
２．学校における食に関する指導計画に基づく献立計画が作成できる。
３．献立計画と連動させた給食時間の学習指導計画案の作成ができる。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	卒業研究へのアプロー	○オリエンテーション：卒業研究概要（研究内容、研究の進め方、評価など）の説明 ○研究の骨子の理解：全授業60回を15段階に分けて研究を深めることの説明により研究意欲の向上 ○15段階による研究区分の理解：1段	予習60分：学校の食育に期待されていることを調べておく。 復習60分：学校給食が教育

	チ（1）	階概ね4回授業 ○1段階：学校教育と学校給食の理解 【アクティブラーニング】 学校給食に関する法律を調べ、研究メンバーとディスカッショ ンをする。	の一環として実施されている法的根拠をまとめる。
第2回	卒業研究へのアプローチ（2）	○2段階：栄養教諭の職務と使命の理解 【アクティアブラーニング】 栄養教諭の職務の実際を調べ、研究内容に生かせる情報を収集 し、研究メンバーとディスカッションをする。	予習60分：栄養教諭に期待されてい ることを調べておく。 復習60分：栄養教諭の職務をまとめ、具体的な事例を整理する。
第3回	卒業研究テーマに必要な知識（1）	○3段階：学校の食育と給食管理に関する研究内容の情報収集 【アクティブラーニング】 学校の食育と給食管理に関する研究内容に役立つ情報を収集 し、研究メンバーとディスカッションをする。	予習60分：学校給食の献立の役割を調べておく。 復習60分:学校給食の献立の教材化の理論をまとめる。
第4回	卒業研究テーマに必要な知識（2）	○4段階：学校教育における学校給食の位置づけ 学校教育法、学習指導要領の理解 【アクティブラーニング】 学校教育のシステムを理解することで学校給食の役割と使命を 踏まえた栄養教諭の活動を研究メンバーとディスカッションす る。	予習60分：小中学校学習指導要領に目をとおしておく。 復習60分：学校教育における学校給食の位置づけをまとめる。
第5回	卒業研究に必要な技術（1）	○5段階：学校給食における献立の位置づけとマネジメント 【アクティブラーニング】 献立マネジメントの必要性を各自まとめ、研究メンバーと協力 して論文形式にまとめる。	予習60分：Web上に公開されている献立計画様式を調べておく。 復習60分：献立マネジメントの様式の構築の必要性をまとめる。
第6回	卒業研究に必要な技術（2）	○6段階：学校給食献立計画と学習指導計画案の理解 アセスメントに基づく手法の研究 【アクティブラーニング】 学術的なまとめのための手法を研究メンバーとディスカッショ ンする。	予習60分：栄養アセスメントの種類 を調べておく。 復習60分：アセスメントの手法と二次データの活用をまとめる
第7回	卒業研究に必要な技術（3）	○7段階：学校給食献立計画の立案研究 食に関する指導年間計画を踏まえた献立教材の作成 【アクティブラーニング】 食育目標に基づく献立計画の作成を研究メンバーとディス カッションして仕上げる。	予習60分：食に関する指導年間の事例を収集しておく。 復習60分：食育目標の設定の仕方をまとめる。
第8回	卒業研究に必要な技術（4）	○8段階：給食時間における学習指導案の作成研究 食に関する指導年間計画に基づく給食時間の指導研究 【アクティブラーニング】 食育目標に基づく学習指導案の作成を研究メンバーとディス	予習60分：学習指導案の様式を数種、 収集しておく。 復習60分：学習指導案の書き方を熟 知する。

		カッションして仕上げる。	
第9回	研究テーマに基づく実践研究（1）	○9段階：献立の教材化と指導案の作成の実際① 【アクティブラーニング】 献立の教材化研究に向けて試作を行い、研究メンバーとディス カッションを行う。	予習60分：教材化する献立の試作研究をしておく。 復習60分：試作した献立の品質管理の観点からまとめる。
第10回	研究テーマに基づく実践研究（2）	○10段階：献立の教材化と指導案の作成の実際② 【アクティブラーニング】 献立の教材化研究に向けて試作を行い、研究メンバーとディ カッションを行う。	予習60分：教材化する献立の試作研究しておく。 復習60分：試作した献立の品質管理の観点からまとめる。
第11回	研究テーマに基づく実践研究（3）	○11段階：研究内容の評価・改善① 【アクティブラーニング】 月刊「学校給食」掲載原稿を研究メンバーと協議して、修正・ 改善しまとめる。	予習60分：掲載原稿案を作成しておく。 復習60分：掲載原稿を修正し、投稿できるように準備する。
第12回	研究テーマに基づく実践研究（4）	○12段階：研究内容の評価・改善② 【アクティブラーニング】 月刊「学校給食」掲載原稿を研究メンバーと協議して、修正・ 改善しまとめる。	予習60分：掲載原稿案を作成しておく。 復習60分：掲載原稿を修正し、投稿できるように準備する。
第13回	卒業研究のまとめ（1）	○13段階：研究のまとめ① 月刊「学校給食」掲載投稿 【アクティブラーニング】 掲載投稿する原稿を確認し合い、教材や料理等の写真撮影を行 い評価し合う。	予習60分：1学期（4月－7月）の教材作成を確認しておく。 復習60分：投稿原稿を確認する
第14回	卒業研究のまとめ（2）	○14段階：研究のまとめ② 月刊「学校給食」掲載投稿 【アクティブラーニング】 掲載投稿する原稿を確認し合い、教材や料理等の写真撮影を行 い評価し合う。	予習60分：2学期（8月－12月）の教材 作成を確認しておく。 復習60分：投稿原稿を確認する
第15回	卒業研究のまとめ（3）	○15段階：研究のまとめ③ 月刊「学校給食」掲載投稿 【アクティブラーニング】 掲載投稿する原稿を確認し合い、教材や料理等の写真撮影を行 い評価し合う。	予習60分：3学期（1月－3月）の教材 作成を確認しておく。 復習60分：投稿原稿を確認する

教科書

献立の教材化の理論と実践 東山書房 宮原公子編著
エクセル栄養君（最新版） 建帛社
食に関する指導の手引き 文部科学省

参考書

月刊「学校給食」雑誌（これまでの刊行物）

成績評価の方法・基準
単位取得基準60点以上 研究内容 70% 研究への参加度 30%
課題等に対する フィードバックの方法
毎月、1主題に基づき研究を進める。計画書（献立計画、学習指導案）や教材作成に対して、コメントをつけて 返却する。双方向のディスカッションを行い、フィードバックできるようにする。
履修のポイント
月刊」学校給食」雑誌に連載執筆する機会を得ているので、全国の読者にアピールできるように、積極的に取り組んでもらいたい。斬新なアイディアを出していただきたい。
オフィス・アワー
火曜日から金曜日 昼休み（12:30-13:20） 11号館3階19研究室（宮原研究室）

講義コード	20970006
講義名	卒業研究（榮）
(副題)	
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	通年
講義区分	演習
基準単位数	4
代表曜日	
代表時限	
区分	専門科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UE-R375
学年	4学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 榮 昭博	指定なし

授業の概要と教育目標

生活習慣病予防を目的とする成分の生理的効果その作用機序について調べる。本年度の実験予定は次のとおりである①肥満を防止する効果をもつ成分を確かめるため消化酵素活性（リパーゼ、アミラーゼ、グルコシダーゼの阻害を調べる。②コラーゲンの消化に関する研究を本年度より新たに行う ③生体内における抗酸化作用をモデルとした試験管内における食品成分の抗酸化試験を行う。④痛風の成因に深くかかわっている生体成分は尿酸である。尿酸生成を抑制するであろう食品成分の検索を目的として、食品中のキサンチンオキシダーゼ活性阻害物質についての研究を引き続き行う。これらの実験を行い、データ分析、文献検索を行い卒業論文を作成することが目標である。

卒業認定・学位授与の方針との関連

卒業認定・学位授与の方針は「「専門科目」の中に、実践的な管理栄養士として活躍するため、また多様な社会のニーズ、変化に対応できる知識・技術を身につけるため、これまでの学習を統合･発展させる科目を配置する。」であるが、卒業研究は、今まで学修してきた基礎栄養学・解剖生理学・生化学・食品学等の科目を統合発展させるものである。

到達目標

学士としての研究に対する姿勢と計画性を持つことを目標とする。具体的には、生活習慣病の予防や治療に寄与する食品成分を検索することと論文をまとめ上げる力を持てるようになることを目標達成とする。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	研究の在り方と研究内容の確認(1～15回)	実験に対する基礎知識の習得と研究関連文献の検索および内容の理解をする。また、統計処理方法を学習する。ゼミは一部英文で行うことがある。また、実験に対しては、その手技の訓練や試薬の調製を行う。ゼミは質疑応答形式で行う。	予習は実験用語や専門用語について事前に調べる。復習は当日行った実験やゼミ内容をノートに記録する。合わせて1時間以上学習する。
			予習は実験について事前

第2回	予備実験 （16～30回）	本実験に向け、あらかじめいくつかの予備実験を行い、実験の条件や試料の選択を行う。ゼミは引き続き行う。	に調べる。復習は当日行った実験やゼミ内容をノートに記録する。合わせて1時間以上学習する。
第3回	本実験 （31～45回）	予備実験の結果を基にして、本実験を行う。予習は実験用語や専門用語について事前に調べる。復習は当日行った実験やゼミ内容をノートに記録する。合わせて1時間以上学習する。。	予習は実験について事前に調べる。復習は当日行った実験やゼミ内容をノートに記録する。合わせて1時間以上学習する。
第4回	データ集計および論文の作成 （46～60回）	本実験結果のデータ分析を行う。統計処理を行い、論文を作成する。ゼミは引き続き行う。	予習は実験結果を計算しておく。復習は当日行ったゼミ内容をノートに記録する。また論文を作成する。合わせて、４時間以上学習する。

教科書

なし

参考書

各関連項目の論文等（文献検索）

成績評価の方法・基準

実験遂行の状態（５０％）、卒業論文の内容（５０％）を点数化して行う。60点以上

**課題等に対する
フィードバックの方法**

実験デザイン・実験は教員と連携して行う。データ分析を行い担当教員に報告をし、その都度、指示・示唆を受ける。毎週のゼミの中でディスカッションして相互に確認する。

履修のポイント

英文文献を読むことが多いので、英語になれておくこと。

オフィス・アワー

12:30～13:20に第14研究室にて行う。担当教員の授業や校務のない時間においても随時研究室で行うことができる。

講義コード	20970007
講義名	卒業研究（影山）
(副題)	
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	通年
講義区分	演習
基準単位数	4
代表曜日	
代表時限	
区分	専門科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UE-R375
学年	4学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 影山 晴秋	指定なし

授業の概要と教育目標

生活習慣病の1つである肥満を理解するためには、正常の食欲のメカニズムを理解する必要がある。食欲は中枢神経系（脳）における満腹中枢、摂食中枢と摂食調節中枢で情報が統御されるだけで無く、グレリンやレプチンといったホルモンによっても制御されている。その食欲のメカニズムについて、個人またはグループで、最新の英語論文を読み、本卒業研究のテーマである「中枢神経系（脳）における摂食調節機構」についてまとめる。
研究テーマを進めるにあたり、文献検索、議論の進め方、まとめ方等について修得する。ディスカッションを行いながら、最新の肥満研究に対して理解を深めていくことを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマポリシーとの関連として、「2. 人間の健康を規定する要因として幅広く社会・環境を科学的に理解し、さらに健康の維持・増進プログラムを実践するために必要な人体の構造並びに疾病の成り立ちから食べ物と健康の知識や技能を修得している。」ならびに「3. これまでの学習を統合･発展させ、多様な社会のニーズ、変化に対応できる知識・技術を身につけ、実践的な職業人として活躍できる知識・技術を修得している。」に基づき、食欲という生理現象を研究していく。さらに、実践的な職業人として活躍するために、理論的な思考力の育成を目指すものとする。

到達目標

1. 中枢神経系における食欲のメカニズムを説明することができる。
2. 自ら疑問に思ったことを調べることができる。
3. 自らが積極的に考えることができる。
4. 調べたものを理論的に組み立て、まとめることができる。

授業計画

教科書

適宜、プリントしたものを渡します。

参考書

使用しません

成績評価の方法・基準

60点以上 進捗状況の発表（40%）、課題（60%） 前期の終わりと後期の15回目に進捗状況を発表してもらいます。最終演習日に提出してもらう課題を総合的に評価します。
課題等に対する フィードバックの方法
成績発表時にコメントを付して作成した課題レポートを返却します。
履修のポイント
英語の論文を読みますので、英語の読解力が必要となります。また卒業研究なので、自ら考え、積極的に自ら行動に移せるようにしてください。
オフィス・アワー
月から木曜日 5限目 研究室10で対応いたします。

講義コード	20970008
講義名	卒業研究（増野）
(副題)	
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	通年
講義区分	演習
基準単位数	4
代表曜日	
代表時限	
区分	専門科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UE-R375
学年	4学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 増野 弥生	指定なし

授業の概要と教育目標

ライフステージのなかでも妊娠期・授乳期、乳児期の栄養の方法、母の出生体重と子の体重との関係などに着目し、文献検索やデータ収集を行い、最近の動向や問題点などについて学ぶ。また、幼児期において多く見られる「食物アレルギー」について、現状や問題点、原因食品などについて学び、代替食品や活用法などに着目し、レシピ作成を行い、食物アレルギーについて学ぶ。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマポリシーの関連として、「3.多様な対象や人間のライフステージ・ライフサイクルに沿って、利用者の身体の状況、栄養状態、生活習慣に係る栄養・食事管理、栄養教育、臨床栄養ならびに公衆栄養、給食経営分野に関して必要な知識や技術を修得している」「4.これまでの学習を統合・発展させ、多様な社会のニーズ、変化に対応できる知識・技術を身につけ、実践的な職業人として活躍できる知識・技術を修得している」に基づき、応用栄養学で学んだ知識を基礎としてデータ処理を行い、論文検索や論文のまとめ方などを習得する。また、代替食レシピ作成では代替食品について調べ、パワーポイントにまとめ、知識・技術を身につけ、プレゼンテーション能力を養うことを目指す。

到達目標

・各自が決めたテーマごとに先行研究を調べ、データを分析することができる。
・食物アレルギーの原因食品、代替食品についての知識を身につけることができる。
・自らレシピを考案し実施、検討することができる。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	テーマ決定	各自が興味を持っているテーマをどのように進めていくか、今後の方向性について話し合う。 【アクティブラーニング】 具体的に事例を用いて発表を行い、検討する。 （プレゼンテーション、ディスカッション、	予習：テーマに関係する資料を集める。90分 復習：調べ学習をノートなどにまとめ

		グループワーク） 前期 1～8回（8回）	る。90分
第2回	卒業研究計画 立案・準備	・関係する論文を集め勉強会を行う。 ・レシピに基づいて調理を行い、改善点について検討する。 【アクティブラーニング】 具体的に事例を用いて発表を行い、検討する。 （プレゼンテーション、ディスカッション、グループワーク） 前期 9～20回（12回）	予習：テーマに関係する資料を集める。90分 復習：調べ学習をノートにまとめる。90分
第3回	データ収集・調査など レシピの検討	.データ収集・調査をする。 .レシピに基づいて調理を行い、改善点について検討する。 【アクティブラーニング】 具体的に事例を用いて発表を行い、検討する。 （プレゼンテーション、ディスカッション、グループワーク） 前期～夏季休暇期間 20～30回（10回）	予習：テーマの分析方法などを調べる。90分 復習：データを整理する 90分
第4回	卒業研究まとめ①	.文献検索や調査などから得られたデータをまとめる。 .レシピに基づいて調理を行い、改善を加え、レシピを完成させる。 【アクティブラーニング】 具体的に作成例を用いて発表を行い、検討する。 （プレゼンテーション、ディスカッション、グループワーク） 後期 30～45回（15回）	予習：テーマの分析方法などを調べる。90分 復習：データを整理する 90分
第5回	卒業研究まとめ②	・データをまとめて、検討し論文形式にまとめる。 ・レシピ、活動経過をパワーポイントにてまとめる。 【アクティブラーニング】 （ディスカッション、グループワーク） 後期 45～60回（15回）	

教科書

随時、プリントを渡す。

参考書

国民健康・栄養調査(最新版)
応用栄養学で使用している教科書
レシピ集 成分表
伊藤浩明監修、新 食物アレルギーの基礎と対応、株式会社みらい、2018

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上 進捗状況の発表、レシピの作成(40%）調査・論文作成、パワーポイント作成などの取り組み(60%）
課題等に対する フィードバックの方法
提出課題、パワーポイント、論文の作成、図表などについては添削しフィードバックするので、次回までに訂正すること。
履修のポイント
興味を持っている対象に関して、文献をよく読む。 研究の方法、時期などについては相談すること。卒業研究の進捗については必ず報告すること。
オフィス・アワー
前期：月・火・水・木・金曜日の昼休み 後期：月・火・水・金曜日の昼休みに11号館１８研究室で対応する。

講義コード	20970009
講義名	卒業研究（田口）
(副題)	
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	通年
講義区分	演習
基準単位数	4
代表曜日	
代表時限	
区分	専門科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UE-R375
学年	4学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 田口 和人	指定なし

授業の概要と教育目標

子どもの「食」と人間形成を結びつけながら、「食」「農」「社会」「自然」の観点から考える。今日の子どもたちの「食」をめぐる情況を把握し、そこで何が問題となっているかについて自分自身の問題意識を明確にさせながら、人間形成論・人間関係論の視点から考えていく。「今日の子どもたちの『食』をめぐる情況」を把握するに当たっては、「ぐんま食育こころプラン＜1次＞＜2次＞＜3次＞」なども参考にする。
子どもの「食」が、人間形成に深く関わっていることを理解することを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマポリシーと関連して、「人間に対して、社会・環境・コミュニケーションなどの諸側面から理解している。」「多様な社会のニーズ、変化に対応できる知識・技術を身に付け、実践的な職業人として活躍できる知識・技術を修得している。」に関連して、子どもの「食」と人間形成について考える。そして、主体的で、対話的な学習を通じて、理論的・実践的な資質と能力を育成することを目指すものとする。

到達目標

１．自分自身の問題意識を明確にする。
２．子どもの「食」が、人間形成に深く関わっていることを理解する。
３．行動力をもって研究に取り組む。

授業計画

教科書

適宜、資料・プリントを配布します。

参考書

「ぐんま食育こころプラン＜1次＞＜2次＞＜3次＞」など。

成績評価の方法・基準

60点以上
問題意識についての報告（40%）、レジュメを用いた研究の報告（60%）
最終的にまとめたものを総合的に評価します。

課題等に対する

フィードバックの方法
成績発表時に、最終的にまとめたものにコメントをつけて、返却します。
履修のポイント
自分自身の問題意識を持つことを大切にします。そして、主体的、対話的で深い学びを期待します。
オフィス・アワー
火曜日・木曜日の12：30〜13：20（昼休み） 11号館第７研究室

講義コード	20970010
講義名	卒業研究（石井）
(副題)	
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	通年
講義区分	演習
基準単位数	4
代表曜日	
代表時限	
区分	専門科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UE-R375
学年	4学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 石井 広二	指定なし

授業の概要と教育目標

今までの学習をもとに、食や栄養に関してのコンピュータを活用した学習方法について、各自がテーマを設定し、検討を行う。例えば、Webなどのインターネットを活用した教材やテストの配信、テキストマイニングの手法を利用した学習内容の分析などがあげられる。
そのため、各自で設定したテーマに対し、主体的に文献調査を行いながら研究を遂行し、発表やディスカッションを通して1つの成果としてまとめ、食や栄養に関する知識の理解を深めていくとを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

この科目は、栄養学科のDPにおける「これまでの学習を統合･発展させ、多様な社会のニーズ、変化に対応できる知識・技術を身につけ、実践的な職業人として活躍できる知識・技術を修得している。」に該当する。

到達目標

・テーマに沿った課題のポイントをみつけられる
・主体的に調査・研究を進められる
・結果を最終成果物としてまとめられる

授業計画

教科書

使用しません

参考書

各自のテーマにより適宜指定する

成績評価の方法・基準

研究の取り組み資料40％と最終的なまとめ課題60％で評価

課題等に対する
フィードバックの方法

取り組み資料やまとめ課題などを提出もしくは発表してもらいます。その際にコメントを伝えますので参考にしてください。

履修のポイント
コンピュータを利用した課題を中心に取り扱います。各自でテーマを決めて、積極的に取り組んでください。
オフィス・アワー
火曜日の昼休みに9号館3階第11研究室で対応。それ以外の曜日・時間については、授業の際に伝える。

講義コード	20970011
講義名	卒業研究（島田）
(副題)	
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	通年
講義区分	演習
基準単位数	4
代表曜日	
代表時限	
区分	専門科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UE-R375
学年	4学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 島田 美樹子	指定なし

授業の概要と教育目標

生活習慣病と臨床栄養を関連付けて学び、各疾患ごとの栄養管理や食事提供に関する工夫、患者の立場に立って疾患と向き合い長く付き合っていくための食事療法など医療に貢献できる栄養学に視点をあてた研究を行っている。個人またはグループで、最新の論文を読み、本卒業研究のテーマである「疾患と栄養」「チーム医療」「嚥下障害」「システマティックレビュー」などについてまとめる。 研究テーマを進めるにあたり、文献調査、まとめ方等について、ディスカッションを行いながら、最新の臨床栄養研究に対して理解を深めていくことを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマポリシーとの関連として、「2. 人間の健康を規定する要因とし て幅広く社会・環境を科学的に理解し、さらに健康の維持・増進プログラムを実践するために必要な人体の構造並びに疾病の成り立ちから食べ物と健康の知識や技能を修得している。」ならびに「3. これまでの学習を統合･発展させ、多様な社会のニーズ、変化に対応できる知識・技術を身につけ、 実践的な職業人として活躍できる知識・技術を修得している。」に基づき、食欲という生理現象を研究していく。さらに、実践的な職業人として活躍するために、理論的な思考力の育成を目指すものとする。

到達目標

1. テーマに沿った疾患のメカニズムを説明することができる。
2. 学びから自ら疑問に思ったことを調べることができる。
3. 自らが積極的に考えまとめることができる。

授業計画

教科書

講義や実習に使用した教科書と配布するプリントを使用します。

参考書

大学のテキスト、各疾患のガイドライン

成績評価の方法・基準

60点以上
進捗状況の発表（40%）、課題（60%）

前期の終わりと後期の15回目に進捗状況を発表してもらいます。最終演習日に提出してもらう課題を総合的に評価します。
課題等に対する フィードバックの方法
成績発表時にコメントを付して作成した課題レポートを返却します（2部提出、1部返却、1部保管）。
履修のポイント
日本語でも多くの論文を読みますので、読解力が必要となります。また卒業研究なので、自ら考え、積極的に自ら行動に移せるようにしてください。
オフィス・アワー
月曜日から水曜日 5限 研究室12

講義コード	20970012
講義名	卒業研究（橘）
(副題)	
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	通年
講義区分	演習
基準単位数	4
代表曜日	
代表時限	
区分	専門科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UE-R375
学年	4学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 橘 陽子	指定なし

授業の概要と教育目標

公衆栄養活動は、地域住民の健康の維持・増進を目的として綿密なる計画を堅実に実行し、その結果を的確に評価するという行為の繰り返しである。そのためには、正確な情報の収集による問題点の把握（公衆栄養アセスメント）及びヘルスプロモーションの考えに基づく計画・実施・評価・改善（公衆栄養マネジメント）の技術が必須となる。卒業研究では、地域集団に対する公衆栄養活動の展開方法に関する論文を読み、まとめる。文献調査とそのまとめ方等について、ディスカッションを行いながら、最新の公衆栄養に関する理解を深めていくことを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマポリシーとの関連として、多様な対象や人間のライフステージ・ライフサイクルに沿った、利用者の身体の状況、栄養状態、生活習慣に係る公衆栄養分野に関する必要な知識や技術を修得することを目指し、地域集団の公衆栄養アセスメントの研究を通じてその目的達成に資する知識及び技術を養う。将来的な展望としては、多様な社会のニーズ及び変化に対応できる知識及び技術を身に付け、実践的な職業人として活躍できる、理論的思考力の育成を目指すものとする。

到達目標

1.地域集団に対する公衆栄養活動の展開方法について説明することができる。
2.自ら疑問に思ったことを調べることができる。
3.自らが積極的に考えることができる。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	公衆栄養アセスメント・公衆栄養マネジメント	公衆栄養アセスメント・公衆栄養マネジメント 【アクティブラーニングの内容】	予習： 復習：
第2回	公衆栄養アセスメント・公衆栄養マネジメント	公衆栄養アセスメント・公衆栄養マネジメント 【アクティブラーニングの内容】	予習： 復習：

第3回	公衆栄養アセスメント・公衆栄養マネジメント	公衆栄養アセスメント・公衆栄養マネジメント 【アクティブラーニングの内容】	予習： 復習：
第4回	公衆栄養アセスメント・公衆栄養マネジメント	公衆栄養アセスメント・公衆栄養マネジメント 【アクティブラーニングの内容】	予習： 復習：
第5回	公衆栄養アセスメント・公衆栄養マネジメント	公衆栄養アセスメント・公衆栄養マネジメント 【アクティブラーニングの内容】	予習： 復習：
第6回	公衆栄養アセスメント・公衆栄養マネジメント	公衆栄養アセスメント・公衆栄養マネジメント 【アクティブラーニングの内容】	予習： 復習：
第7回	公衆栄養アセスメント・公衆栄養マネジメント	公衆栄養アセスメント・公衆栄養マネジメント 【アクティブラーニングの内容】	予習： 復習：
第8回	公衆栄養アセスメント・公衆栄養マネジメント	公衆栄養アセスメント・公衆栄養マネジメント 【アクティブラーニングの内容】	予習： 復習：
第9回	公衆栄養アセスメント・公衆栄養マネジメント	公衆栄養アセスメント・公衆栄養マネジメント 【アクティブラーニングの内容】	予習： 復習：
第10回	公衆栄養アセスメント・公衆栄養マネジメント	公衆栄養アセスメント・公衆栄養マネジメント 【アクティブラーニングの内容】	予習： 復習：
第11回	公衆栄養アセスメント・公衆栄養マネジメント	公衆栄養アセスメント・公衆栄養マネジメント 【アクティブラーニングの内容】	予習： 復習：
第12回	公衆栄養アセスメント・公衆栄養マネジメント	公衆栄養アセスメント・公衆栄養マネジメント 【アクティブラーニングの内容】	予習： 復習：
第13回	公衆栄養アセスメント・公衆栄養マネジメント	公衆栄養アセスメント・公衆栄養マネジメント 【アクティブラーニングの内容】	予習： 復習：
第14回	公衆栄養アセスメント・公衆栄養マネジメント	公衆栄養アセスメント・公衆栄養マネジメント 【アクティブラーニングの内容】	予習： 復習：
第15回	公衆栄養アセスメント・公衆栄養マネジメント	公衆栄養アセスメント・公衆栄養マネジメント 【アクティブラーニングの内容】	予習： 復習：

教科書

国民衛生の動向
公衆栄養学Ⅰおよび公衆栄養学Ⅱで用いた教科書

参考書

適宜提示します

成績評価の方法・基準

60点以上
発表40%、課題60%

課題等に対する
フィードバックの方法

課題返却時にコメントを付します。
履修のポイント
公衆栄養に対する理解や関心、自ら考え、積極的に行動できる姿勢を求めます。
オフィス・アワー
月曜～木曜 昼休み 栄養教育準備室

講義コード	20970013
講義名	卒業研究（吉村）
(副題)	
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	通年
講義区分	演習
基準単位数	4
代表曜日	
代表時限	
区分	専門科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UE-R375
学年	4学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 吉村 英悟	指定なし

授業の概要と教育目標

スポーツ栄養はトップアスリートだけで無く、健康の維持・増進のために運動をしている人を含め幅広く対象とする。よってプロスポーツ選手だけで無く高校生や中学生・小学生等を対象と行ったアマチュアスポーツを対象にも栄養マネージメントに基づいた栄養サポートが実施されている。特に将来、トップアスリートになったときに自己管理出来るように食育の重要性は高い。なかでもバランス食や通学時間と食事時間の関係から補食サポートなどが顕著である。
本研究では、スポーツ栄養マネジメントにおける基本的なプログラム作成や、アセスメントなど理解を深める。

卒業認定・学位授与の方針との関連

本学科のディプロマポリシーの関連として②での生理学的な理解と③でのライフステージ別での必要な知識と技術、④実践的な管理栄養士として活躍できるための知識や技術を学ぶ。
卒業後には、スポーツ栄養の現場等での活躍出きるように修得する。

到達目標

１．スポーツ栄養マネジメントを理解すること。
２．それぞれ必要なアセスメント等の技術・知識を身につける。
３．世代別のプログラム作成を行える。

授業計画

教科書

適宜、プリントを配ります。

参考書

エクセル栄養君建帛社。
エクセル栄養君FFQｇ 建帛社
健康づくりと競技力向上のための スポーツ栄養マネジメント．日本医療企画．鈴木 志保子 (著)他
アスリートの栄養アセスメント．第一出版．田口 素子 (著)他

成績評価の方法・基準

単位取得基準60点以上

研究内容 70% 研究への参加度 30%
課題等に対する フィードバックの方法
1主題に基づき研究を進める。進捗状況に対して、コメントをつけて返却する。双方向のディスカッションを行い、フィードバックできるようにする。
履修のポイント
日本語論文等を読みます。積極的に自己課題を見つけ行動できるようにする事。
オフィス・アワー
曜 日：月曜日～金曜日 時 間：12：30～13：15 場 所：11号館3階 研究室6

講義コード	20970014
講義名	卒業研究（齋藤）
(副題)	
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	通年
講義区分	演習
基準単位数	4
代表曜日	
代表時限	
区分	専門科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UE-R375
学年	4学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 齋藤 陽子	指定なし

授業の概要と教育目標

栄養教育の機会と場には、様々なライフステージ・ライフスタイル別がある。健康増進法、栄養教諭制度創設および食育基本法の成立を契機にわが国の食育・栄養教育の重要性が高まった。この背景には、栄養すなわち食生活の仕方で、健康を損なうことが種々のエビデンスとして示されており、その改善には、食生活をとおした一次・二次・三次予防を行うことが必要とされてきた。特に、近年生活習慣病の低年齢化が懸念されている中、学校における食育に期待が寄せられ、その中核的な役割をする栄養教諭の役割は大きい。
本研究は、学校の食育と給食管理の範ちゅうである献立衣を一体的Bにとらえ、教材となる献立マネジメントし教材研究を深め、生活習慣病一次予防としての食育の研究をすることを教育目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

栄養教諭は、管理栄養士養成課程で教職課程を履修することで、管理栄養士の資質をもったきょういんとして免許状が取得できる。これまでの学習を統合・発展させ、多様な社会のニーズ、変化に対応できる知識・技術を身につけ、実践的な職業人として活躍できる栄養教諭としての資質を修得している。

到達目標

１．学校給食法を理解し、食育と給食管理を一体的にとらえることができる。
２．学校における食に関する指導計画に基づく献立計画が作成できる。
３．献立計画と連動させた給食時間の学習指導計画案の作成ができる。

授業計画

教科書

献立の教材化の理論と実践 東山書房 宮原公子編著
エクセル栄養君（最新版） 建帛社
食に関する指導の手引き 文部科学省

参考書

月刊「学校給食」雑誌（これまでの刊行物」

成績評価の方法・基準

単位取得基準60点以上 研究内容 70% 研究への参加度 30%
課題等に対する フィードバックの方法
毎月、1主題に基づき研究を進める。計画書（献立計画、学習指導案）や教材作成に対して、コメントをつけて返却する。双方向のディスカッションを行い、フィードバックできるようにする。
履修のポイント
月刊「学校給食」雑誌に連載執筆する機会を得ているので、全国の読者にアピールできるように、積極的に取り組んでもらいたい。斬新なアイディアを出していただきたい。
オフィス・アワー
曜 日：月曜日～金曜日 時 間：12：30～13：15 場 所：11号館3階 研究室6

講義コード	20970015
講義名	卒業研究（神戸）
(副題)	
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	通年
講義区分	演習
基準単位数	4
代表曜日	
代表時限	
区分	専門科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UE-R375
学年	4学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 神戸 美恵子	指定なし

授業の概要と教育目標

自分の研究テーマについて、指導教員と連絡相談を繰り返しながら計画的に研究を進め、卒業論文を作成する。
「給食」や「食育」に関する課題について、これまで学修した基礎的・専門的知識を用いて、その課題を解決するための計画を立て、実験・調査を行い、論理的思考および手法によって総合的に判断する力を習得することを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマポリシーとの関連として、対象者のの身体の状況、栄養状態、生活習慣に係る栄養・食事管理、栄養教育、給食経営分野に関して必要な知識や技術を修得し、これまでの学習を統合･発展させ、多様な社会のニーズ、変化に対応できる知識・技術を身につけ、実践的な職業人として活躍できる知識・技術を修得することを目指すものとする。

到達目標

1. 研究計画を立てることができる。
2. 自ら意欲的に実験・調査を実施することができる。
3. 論理的思考や手法を用いて総合的に判断することができる。
4. 課題解決に取り組むことができる。
5. 得られた結果を適切な手法を用いて表現することができる。

授業計画

教科書

必要に応じて、資料等を配布する。

参考書

初めての栄養学研究論文 第一出版
管理栄養士・栄養士のための統計処理入門

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上
研究貢献度50%、論文内容30%、研究発表20%

課題等に対する

フィードバックの方法
提出された課題にはコメントともに返却する。また、ゼミ内でディスカッションを行う。
履修のポイント
日頃から、自身の研究に関連する研究論文をできるだけたくさん読むようにする。 自己のテーマであるので、主体的に取組むことが求めらる。 予習・復習の時間数：不足分については各自の学習で補完すること。
オフィス・アワー
月曜日～金曜日 昼休み 研究室15（神戸研究室） 質問はメールでも受け付けます。

講義コード	20980001
講義名	薬理学
(副題)	
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	１時限
区分	専門科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UE-C381
学年	4学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 影山 晴秋	指定なし

授業の概要と教育目標

近年、高血圧症、糖尿病などの生活習慣病や痴呆症が大きな課題となっている。多くの疾患の治療に医薬品が使われている。その様な中で、本講義では、薬に対する基礎知識を十分身につけ、疾患の治療薬の作用機序に対する理解、薬と食品との相互作用を理解して、管理栄養士としての知識の幅を広げることを目標に講義を行う。
授業は講義形式で行い、「食」を通して健康に関わる管理栄養士にとって、医薬品の基礎知識のみならず薬と食品との関係を理解することが、本科目の教育目標である。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマポリシーとの関連として、「3. 多様な対象や人間のライフステージ・ライフサイクルに沿って、利用者の身体の状況、栄養状態、生活習慣に係る栄養・食事管理、栄養教育、臨床栄養ならびに公衆栄養、給食経営分野に関して必要な知識や技術を修得している。」に基づき、生活習慣病を代表とする疾患に対する医薬品の基本的な知識と医薬品と食品の相互作用を理解することを目指すものとする。

到達目標

1. 医薬品の基礎知識を十分に修得する。
2. 管理栄養士として薬と栄養・食事の相互作用について理解する

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	医薬品の総論	医薬品の総論	予習90分：教科書第17と18章をよく読む。 復習90分：教科書と授業ノートを活用し、授業内容を理解できるようにする。
第2回	薬の作用・自律神経	医薬品の作用機序、自律神経	予習90分：教科書第1と2章をよく読む。 復習90分：教科書と授業ノートを活用し、授業内容

			を理解できるようにする。。
第3回	抗炎症薬	炎症時に使用する医薬品（副腎皮質ステロイド薬と非ステロイド性抗炎症薬）	予習90分：教科書第3と4章をよく読む。 復習90分：教科書と授業ノートを活用し、授業内容を理解できるようにする。
第4回	抗アレルギー薬 血液	抗リウマチ薬・免疫抑制薬 貧血、輸血と輸液に使う医薬品	予習90分：教科書第4と5章をよく読む。 復習90分：教科書と授業ノートを活用し、授業内容を理解できるようにする。
第5回	輸液 循環器疾患で使用する医薬品（1）	輸液と中心静脈栄養法 降圧剤、血管拡張薬	予習90分：教科書第6と7章をよく読む。 復習90分：教科書と授業ノートを活用し、授業内容を理解できるようにする。
第6回	循環器疾患で使用する医薬品（2） 呼吸器疾患で使用する医薬品（1）	カルシウム拮抗薬、狭心症・心筋梗塞心不全に使用する医薬品、心不全治療薬、抗不整脈薬、利尿薬 気管支喘息（リリーバー）	予習90分：教科書第7と8章をよく読む。 復習90分：教科書と授業ノートを活用し、授業内容を理解できるようにする。
第7回	呼吸器疾患で使用する医薬品（２） 消化器疾患で使用する医薬品（１）	気管支喘息（コントローラー）、去痰薬、鎮咳・感冒薬 消化性潰瘍治療薬、健胃薬、制吐薬、瀉下薬、止痢薬	予習90分：教科書第8と9章をよく読む。 復習90分：教科書と授業ノートを活用し、授業内容を理解できるようにする。
第8回	消化器疾患で使用する医薬品（２） 代謝疾患で使用する医薬品（１）	肝疾患、その他の消化器疾患に対する医薬品 糖尿病、インスリン治療（1）	予習90分：教科書 第9と10章をよく読む。 復習90分：教科書と授業ノートを活用し、授業内容を理解できるようにする。
第9回	代謝疾患で使用する医薬品（２）	血糖降下薬、痛風、抗脂質異常症薬、骨粗鬆症薬	予習90分：教科書第10章をよく読む。 復習90分：教科書と授業ノートを活用し、授業内容を理解できるようにする。
第10回	内分泌疾患で使用する医薬品	ホルモン製剤、妊娠中の薬剤投与	予習90分：教科書第11章をよく読む。 復習90分：教科書と授業ノートを活用し、授業内容を理解できるようにする。
第11回	中枢神経系の異常に対して使用する医薬品（１）	パーキンソン病に対する医薬品、抗不安薬、睡眠薬、抗精神病薬	予習90分：教科書第12章をよく読む。 復習90分：教科書と授業ノートを活用し、授業内容を理解できるようにする。
第12回	中枢神経系の異常に対して使用する医薬品（２）	抗うつ薬、抗てんかん薬 麻薬性鎮痛薬、非合法麻薬、吸	予習90分：教科書 第12と13章をよく読む。 復習90分：教科書と授業ノートを活用し、授業内容

	麻酔	入・静脈麻酔薬	を理解できるようにする。
第13回	麻酔 抗菌薬（1）	局所麻酔薬、麻酔の種類、特殊な鎮痛剤 抗菌薬の種類、ペニシリン系	予習90分：教科書 第13と14章をよく読む。 復習90分：教科書と授業ノートを活用し、授業内容を理解できるようにする。
第14回	抗菌薬（2） 抗がん薬	アミノ配糖体系抗菌薬、マクロライド系抗菌薬、抗真菌薬、耐性菌、抗ウィルス薬、日和見感染 様々な抗がん薬、抗がん薬の副作用と投与法	予習90分：教科書 第14と15章をよく読む。 復習90分：教科書と授業ノートを活用し、授業内容を理解できるようにする。
第15回	特殊な薬	散瞳薬・縮瞳薬、緑内障治療薬、解毒薬、消毒薬	予習90分：教科書第16章をよく読む。 復習90分：教科書と授業ノートを活用し、授業内容を理解できるようにする。

教科書

イラストで学ぶ薬理学 田中越郎 著（医学書院）

参考書

使用しない

成績評価の方法・基準

単位認定 60 点以上。
レポート・課題100%。

課題等に対するフィードバックの方法

提出した課題レポートに関しては、レポートにコメントを入れて返却するので、成績発表後研究室ま10まで取りに来ること。コメントに対して、もう一度教科書などで調べ直しておくこと。

履修のポイント

医薬品の名前がたくさん出てきますが、薬のカテゴリーで作用を分類し、作用点と作用機序といった基礎知識を理解する。また医薬品の作用機序を通して、解剖生理学の復習を行う。

オフィス・アワー

月曜日から木曜日：9:00-16:00。11号館研究室10にて対応します。講義終了前後にも、適宜受け付けます。

講義コード	20990001
講義名	食品バイオテクノロジー
(副題)	
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	３時限
区分	専門科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UE-C352
学年	3学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 荒井 勝己	指定なし

授業の概要と教育目標

地球温暖化、エネルギー問題、食料問題などを解決する方法のひとつにバイオテクノロジーの応用がある。その中で、食品分野における食品バイオテクノロジーの役割と応用食品についての学ぶものである。また、分子生物学、遺伝子工学の基礎、遺伝子組み換え農作物、クローン技術、バイオリアクターなどについて理解を深め食品、医薬品（創薬）、農畜産物、環境における分野にバイオテクノロジーが利用されていることについての理解も深める。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマポリシーとの関連として、「２．人間の健康を規定する要因として幅広く社会・環境を科学的に理解し、さらに健康の維持・増進プログラムを実践するために必要な人体の構造並びに疾病の成り立ちから食べ物と健康の知識や技能を修得している。」に基づき、バイオテクノロジー全般の基礎的知識と食品の加工特性・保存性・嗜好性・生理機能・栄養性の向上においてバイオテクノロジーを利用した食品についてこの食品バイオテクノロジーの講義から習得することを目指すものとする。

到達目標

食品バイオテクノロジーの現状と問題点などについて、管理栄養士として食品の安全性を科学的視点から評価できる能力を養うことを到達目標とする。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	バイオテクノロジーの背景	生物と無生物、遺伝学と遺伝子、遺伝子組換え、バイオテクノロジーにおける技術革新 【アクティブラーニング】 “バイオテクノロジー”ということばについて、イメージしたものを挙げてもらい、今後の授業内容とすり合わせる。	予習90分：教科書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習90分：配布した試料をまとめ、復習問題を解き、理解できなかった内容について調べる。
			予習90分：教科書を読

第2回	微生物の利用Ⅰ	微生物の種類とその性質、微生物の生育条件、醸造や発酵食品製造における微生物の利用 ① 【アクティブラーニング】 食品学で習得した微生物利用食品を挙げてもらい、その特徴について発表させる。	み、わからない単語や内容について調べる。 復習90分：配布した試料をまとめ、復習問題を解き、理解できなかった内容について調べる。
第3回	微生物の利用 Ⅱ	微生物の種類とその性質、微生物の生育条件、醸造や発酵食品製造における微生物の利用 ②	予習90分：教科書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習90分：配布した試料をまとめ、復習問題を解き、理解できなかった内容について調べる。
第4回	酵素の利用	酵素とは、酵素の生産と利用技術、酵素の利用 【アクティブラーニング】 “酵素”とは何かを具体的に発表してもらい、復習した上で講義を行う。	予習90分：教科書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習90分：配布した試料をまとめ、復習問題を解き、理解できなかった内容について調べる。
第5回	遺伝子工学技術への利用Ⅰ	ゲノムとは、クローニング技術、遺伝子組換え技術、有用物質の生産、遺伝子組換えの応用例 ①	予習90分：教科書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習90分：配布した試料をまとめ、復習問題を解き、理解できなかった内容について調べる。
第6回	遺伝子工学技術への利用Ⅱ	ゲノムとは、クローニング技術、遺伝子組換え技術、有用物質の生産、遺伝子組換えの応用例 ②	予習90分：教科書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習90分：配布した試料をまとめ、復習問題を解き、理解できなかった内容について調べる。
第7回	植物のバイオテクノロジーⅠ	植物の組織培養技術、植物の遺伝子組換え技術、遺伝学的手法を用いた植物遺伝子解析法、新品種の育成 ①	予習90分：教科書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習90分：配布した試料をまとめ、復習問題を解き、理解できなかった内容について調べる。
第8回	植物のバイオテクノロジーⅡ	植物の組織培養技術、植物の遺伝子組換え技術、遺伝学的手法を用いた植物遺伝子解析法、新品種の育成 ②	予習90分：教科書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習90分：配布した試料をまとめ、復習問題を解き、理解できなかった内容について調べる。

第9回	動物のバイオテクノロジー	様々な組換え技術と組換えマウスを用いた医療・病理への応用、家畜におけるバイオテクノロジー、小型魚類を用いた遺伝子組換え技術の水産分野への応用、RNA干渉とその応用	予習90分：教科書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習90分：配布した試料をまとめ、復習問題を解き、理解できなかった内容について調べる。
第10回	環境とバイオテクノロジー	水の浄化・環境修復、環境汚染物質とモニタリングと処理、バイオエネルギー、バイオプラスチック	予習90分：教科書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習90分：配布した試料をまとめ、復習問題を解き、理解できなかった内容について調べる。
第11回	食品機能とバイオテクノロジー	食品の機能性とは、保健機能食品、特別用途食品、機能性食品、機能性食品の制度、健康食品とその問題点 【アクティブラーニング】 “食品の機能性”についてイメージするものを発表してもらい、その内容を基に講義を行う。	予習90分：教科書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習90分：配布した試料をまとめ、復習問題を解き、理解できなかった内容について調べる。
第12回	食環境とバイオテクノロジー	食の安全・安心とセンシング、食環境への応用、遺伝子組換え食品、食品衛生への応用	予習90分：教科書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習90分：配布した試料をまとめ、復習問題を解き、理解できなかった内容について調べる。
第13回	医療とバイオテクノロジー	抗生物質、インスリン、血栓溶解剤、造血剤、インターフェロン、モノクローナル抗体、新しいがん治療、遺伝子診断	予習90分：教科書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習90分：配布した試料をまとめ、復習問題を解き、理解できなかった内容について調べる。
第14回	再生医療とバイオテクノロジー技術	幹細胞とは、iPS細胞の誕生、これからの再生医療 最新の医療で用いられている	予習90分：教科書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習90分：配布した試料をまとめ、復習問題を解き、理解できなかった内容について調べる。
第15回	食品バイオテクノロジーのまとめ	食品バイオテクノロジー分野の現状と問題点などについて評価する管理栄養士の役割 【アクティブラーニング】 まとめとして、食品におけるバイオテクノロジーが管理栄養士の業務としてどのように役立つかについて検討する。	予習90分：教科書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習90分：配布した試料をまとめ、復習問題を解き、理解できなかった内容について調

			べる。

教科書
バイオテクノロジー入門 高畑京也・蔡晃植・齊藤修 編著 建帛社
参考書
授業で適宜紹介する。
成績評価の方法・基準
単位認定 60 点以上。筆記試験 100%
課題等に対する フィードバックの方法
授業内に問題を提示したり、課題を課すことがある。学期末の筆記試験にも関与する事柄なので、必ず復習しておくこと。また、単元ごとに復習問題を配付するので、必ず問題を解いて授業内容の理解に役立てること。
履修のポイント
予習・復習の積み重ねが知識を身につける力となり、試験対策にもつながっていく。教科書の内容以外の事柄についても取り入れていくので、授業には積極的に参加すること。
オフィス・アワー
授業内容等の質問については、授業終了後、または月～金曜日のお昼休みに11号館3F研究室13で受け付ける。

講義コード	21000001
講義名	調理科学実験
(副題)	
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期
講義区分	実験・実習
基準単位数	1
代表曜日	金曜日
代表時限	４時限
区分	専門科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UE-C340
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 野沢 弘子	指定なし

授業の概要と教育目標

日常食品を用いた調理に関する基礎的実験をとおして、調理過程に起きる諸現象を科学的に理解し、実際の調理や食事提供の場面に応用できる力を養う。また、おいしさの評価である主観的手法（官能検査）および客観的手法（機器測定）について実験を通して理解するとともに、食品や食べ物の鑑別の能力を養うことを目的とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

保健医療学部栄養学科のディプロマポリシーの関連として、２、人間の健康を規定する要因として幅広く社会・環境を科学的に理解し、さらに健康の維持・増進プログラムを実践するために必要な人体の構造並びに疾病の成り立ちから食べ物と健康の知識や技能を修得している。に基づき、調理科学の知識をふまえ、食事作りの基礎となる食品の調理過程における変化や現象を科学的に捉えて説明できることを目指すものとする。

到達目標

（１）食品の調理性について、条件を変えた比較実験を通して、科学的にとらえてそ の理論を理解することができる。
（２）官能評価や機器測定を通して、おいしさを評価することおよび食品や食べ物の 鑑別についてその方法を理解できる
（３） 食品のテクスチャーの違いについて学び、摂食機能障害に対応した食事形態 のあり方を理解できる。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	調理学実験の目的 実験の進め方 レポートの書き方等	調理科学実験の目的を知る レポートの形式を学ぶ 【アクティブラーニングの内容】 実験の進め方や実験の注意点	予習60分教科書・プリント 復習60分結果及び考察を書いて提出 プリントを配布
		計測〇粒状、粉状食品の容量と重量	予習60分教科書・

第2回	基礎実験 計測とｐＨ	○固形食品の体積，膨化率、形均率、密度について ○比重、形状 測定○ｐＨの測定,温度の測定、色の測定	プリント 復習60分結果及び考察を書いて提出 プリントを配布
第3回	植物性食品の調理特性 米	実験○浸水による給水量 ○うるち米の炊飯と粥 ○もち米の蒸し加熱	予習60分教科書・プリント 復習60分結果及び考察を書いて提出 プリントを配布
第4回	植物性食品の調理特性 小麦粉	実験○強力粉と薄力粉の観察 ○グルテンの採取 ○小麦粉の膨化調理	予習60分教科書・プリント 復習60分結果及び考察を書いて提出 プリントを配布
第5回	植物性食品の調理特性 芋	実験○じゃがいものマシュポテト、でんぷんの観察 ○じゃがいもの過熱温度が軟化に及ぼす影響 ○サツマイモの温度上昇速度と食味	予習60分教科書・プリント 復習60分結果及び考察を書いて提出 プリントを配布
第6回	植物性食品の調理特性 野菜 豆	実験○野菜の色とｐＨ ○生野菜の放水と吸水 ○野菜の過熱軟化に及ぼす調味料の影響	予習60分教科書・プリント 復習60分結果及び考察を書いて提出 プリントを配布
第7回	動物性食品の調理特性 鶏卵 生クリーム	実験○鶏卵調理特性 ○生クリームの調理特性	予習60分教科書・プリント 復習60分結果及び考察を書いて提出 プリントを配布
第8回	動物性食品の調理特性 食肉	実験○ステーキの過熱程度とテクスチャー測定	予習60分教科書・プリント 復習60分結果及び考察を書いて提出 プリントを配布
第9回	動物性食品の調理特性 魚介類	実験○魚肉のすりみ ○イカの調理特性	予習60分教科書・プリント 復習60分結果及び考察を書いて提出 プリントを配布
第10回	抽出素材の調理特性 寒天	実験○寒天ゲルの凝固に及ぼす砂糖の影響 ○ゼラチンゼリーの接着性 ○寒天ゼリーの接着性	予習60分教科書・プリント 復習60分結果及び考察を書いて提出 プリントを配布
第11回	抽出素材の調理特性 砂糖	実験○砂糖の加熱温度とそのときの砂糖の状態を観察 ○フォンダンの条件 ○カラメルソースの状態を観察	予習60分教科書・プリント 復習60分結果及び考察を書いて提出 プリントを配布
第12回	抽出素材の調理特性 油脂	実験○ドレッシングの調製 ○マヨネーズの調製 ○揚げ物の吸油	予習60分教科書・プリント 復習60分結果及び考察を書いて提出

			プリントを配布
第13回	高齢者の食物 嚥下困難者の食事	実験〇隠し包丁の効果 〇人参を用いた嚥下困難者用食事の調製 〇軟食、粥の調製	予習60分教科書・プリント 復習60分結果及び考察を書いて提出 プリントを配布
第14回	官能評価	〇２点識別試験法 〇３点試験法 〇順位法	予習60分教科書・プリント 復習60分結果及び考察を書いて提出 プリントを配布
第15回	まとめ	調理学実験で学んだ内容と他の教科との関連をまとめる 【アクティブラーニングの内容】 この実験を通じて学んだことや感想をグループで話し合い、まとめ発表する。	予習60分教科書・プリント 復習60分結果及び考察を書いて提出 プリントを配布

教科書

改訂 食事設計と栄養のための 調理科学実験
奥田弘枝 畑江敬子 吉岡慶子 編著 光生館

参考書

随時紹介

成績評価の方法・基準

評価方法（テスト、レポート、課題等） 筆記試験 30% 課題レポート（70%）...出席と連動してレポート提出がある。（3）受講態度...身支度の不備等は減点を行う。

課題等に対する
フィードバックの方法

プリントや教科書を使った予習を行う。授業前に必ず該当する実験内容に目を通して、授業に臨むこと。復習では、実験の経過と結果をまとめ、テーマに関連する研究事項や興味をもった事項について調べて記述してレポートして提出する。

履修のポイント

食品を口にすることが多いため、身支度の不備は減点とし、実験不適切とみなす。各自が自己管理の自覚を持って実験すること。

オフィス・アワー

月曜日・火曜日・水曜日 １２：３０～１３：２０（昼休み）
１１号館 調理学実習室準備室
＊講義終了前後にも、適宜受け付けます。

講義コード	21010001
講義名	調理学実習Ⅲ
(副題)	
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	前期
講義区分	実験・実習
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	１時限
区分	専門科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UE-C375
学年	4学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 野沢 弘子	指定なし

授業の概要と教育目標

調理学実習では、食物摂取の最終段階である調理を通して、食品が人に摂取されるまでの過程を理解するとともに、人々の健康をサポートする管理栄養士として必要な調理の基礎について、実習をとおして学び、確かな知識と技術を習得する。「調理学実習Ⅰ」及び「調理学実習Ⅱ」で修得したことをもとに、調理作業や操作の幅をさらに広げる。季節に応じた献立や行事食、供応食のほか、様々な食様式の実習を行い、献立構成の流れをつかむ。また、調理特性を科学的、具体的に把握できるようにする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマポリシーの関連として、、2、人間の健康を規定する要因として幅広く社会・環境を科学的に理解し、さらに健康の維持・増進プログラムを実践するために必要な人体の構造並びに疾病の成り立ちから食べ物と健康の知識や技能を修得している。に基づき、調理科学の知識と調理技術並びに献立作成やその評価など食事設計の方法の修得を目指すものとする。「調理学実習Ⅰ」及び「調理学実習Ⅱ」で修得したことをもとに、調理作業や操作の幅をさらに広げる。季節に応じた献立や行事食、供応食のほか、様々な食様式の実習を行い、献立構成の流れをつかむ。また、調理特性を科学的、具体的に把握できるようにする。

到達目標

（1）調理に関する基礎知識や技術を、応用することができる。
（2）食品の調理特性について科学的に理解できるようになる。
（3）季節に応じた献立や行事食について実践できるようになる。
（4）様々な国の食様式を実習を通して理解する。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	オリエンテーション	○調理学実習ⅠⅡで学んだこと ○調理・献立作成の基礎 【アクティブラーニング】 日本料理、中国料理、西洋料理の特徴について話し合う	予習60分教科書 P44～47を読む 復習90分実習結果の考察（レポート） 家庭での技術の向上 レポート作成

第2回	各国の料理１ ベトナム料理	○ベトナム風春巻き（ゴイ クン）フォーガー（鶏の米麺） 鶏のベトナム風唐揚げ（ガー クアイ） ・ベトナム料理の特徴を知る	予習60分教科書Ｐ155を読む 復習90分実習結果の考察（レポート） 家庭での技術の向上
第3回	行事食１ 端午の節句	○炊きおこわ 結びキスのすまし汁 天ぷら、そら豆のひすい煮 柏餅 ・端午の節句の行事食について調べる	予習60分教科書 Ｐ44～47を読む 復習90分実習結果の考察（レポート） 家庭での技術の向上
第4回	各国の料理２ タイ料理	○エビのトムヤムスープ（トムヤムクン）グリーンカレー（ケーン キアオ ワーンガイ） 焼きビーフン（パットタイ） ・タイ料理の特徴を知る 食材 調味料	予習60分教科書Ｐ155を読む 復習90分実習結果の考察（レポート） 栄養計算をして栄養価を知る 家庭での技術の向上
第5回	各国の料理３ インド料理	○キーマカレー タンドリーチキン ナン ・インド料理の特徴を知る 食材 調味料	予習90分教科書 Ｐ76～79を読む 復習90分実習結果の考察（レポート） 家庭での技術の向上 栄養計算
第6回	各国の料理４ 韓国料理	○ビビンバ、あじの韓国風照り焼き、ナムルスープ キムチチゲ ・韓国料理の特徴を知る 食材 調味料	予習60分教科書 Ｐ153～154を読む 復習90分実習結果の考察（レポート） 家庭での技術の向上 栄養計算
第7回	各国の料理５ スペイン料理	○スペイン風オムレツ パエリア ガスパチョ ・韓国料理の特徴を知る 食材 調味料	予習60分教科書Ｐ149を読む 復習90分実習結果の考察（レポート） 家庭での技術の向上 栄養計算
第8回	各国の料理６ メキシコ料理	○トルティーヤ タコス 若鶏メキシカンソース ・韓国料理の特徴を知る 食材 調味料	予習60分教科書 Ｐ112～115を読む 復習90分実習結果の考察（レポート） 家庭での技術の向上 栄養計算
第9回	各国の料理７ イタリア料理	○ミネストローネ ピッツア トマトとモッツアレラのサラダ パスタ（ジェノベーゼ）ラザニア スズキのオーブン焼き ・イタリア料理の特徴を知る 食材 調味料	予習60分配布プリントを読む 復習90分実習結果の考察（レポート） 家庭での技術の向上 栄養計算
第10回	各国の料理８ ロシア料理	○ボルシチ ピロシキ ビーフストロガノフ ・ロシア料理の特徴を知る 食材 調味料	予習60分配布プリントを読む 復習90分実習結果の考察（レポート） 家庭での技術の向上 栄養計算
第11回	行事食	○冷やしそうめん ハモの湯引き梅肉しょうゆ	予習60分教科書配布プリントを読む 復習90分実習結果の考察

	七夕	添え かぼちゃのそぼろあんかけ 水ようかん	（レポート） 家庭での技術の向上 栄養計算
第12回	行事食 敬老の日	○松花堂弁当 枝豆入り茶飯 萩しんじょのすまし汁 里芋の含め煮 つくね煮 さわの松風焼き 菊花カブ エビの東寺揚げ シシ唐辛子の素揚げ ほうれん草と菊花のクルミ酢揚	予習60分教科書 Ｐ124～129を読む 復習90分実習結果の考察（レポート） 家庭での技術の向上
第13回	行事食 お祝い事（和風献立）	○赤飯 吸い物 タイの平づくり 炊き合わせ タイの木の芽焼き 貝ときゅうりの黄身酢和え	予習60分教科書を読む 復習90分実習結果の考察（レポート） 家庭での技術の向上
第14回	行事食 お祝い事（洋風献立）	○ カナッペ カニのカクテル キャロットスープ 魚介のコキール パスタサラダ アイスクリーム メロン フランスパン コーヒー	予習60分教科書Ｐ136～Ｐ138を読む 復習90分実習結果の考察（レポート） 家庭での技術の向上
第15回	まとめ	調理技術と知識の到達度の確認	予習 プリント 復習 プリント

教科書

・流れと要点が分かる・調理学実習 香西みどり・綾部園子編著 光生館

参考書

これからの調理学実習 基本手法から各国料理・行事食まで 新調理研究会編
オーム社

成績評価の方法・基準

レポート５０％ 実習への積極性５０％

課題等に対する
フィードバックの方法

実習後のレポートに、調理のポイントと実習内容に関連した事項を調べてまとめる。
実習した献立の栄養計算をする。

履修のポイント

基礎技術の習得と実習への積極的な取り組み
献立の栄養計算ができる

オフィス・アワー

月曜日・火曜日・水曜日 １２：３０～１３：２０（昼休み）
１１号館 調理学実習室準備室
＊講義終了前後にも、適宜受け付けます。

講義コード	21020001
講義名	健康スポーツ栄養学
(副題)	
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	５時限
区分	専門科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UE-C382
学年	4学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 吉村 英悟	指定なし

授業の概要と教育目標

スポーツ栄養はトップアスリートだけで無く、健康の維持・増進のために運動をしている人を含め幅広く対象とする。よってプロスポーツ選手だけで無く高校生や中学生・小学生等を対象と行ったアマチュアスポーツを対象にも栄養マネージメントに基づいた栄養サポートが実施されている。特に将来、トップアスリートになったときに自己管理出来るように食育の重要性は高い。そこで、本授業ではスポーツ選手の栄養管理について学び、マネジメントにおける基本的なプログラム作成や、アセスメントなど理解を深める。
よって①～⑤を学ぶ。
①スポーツ選手に必要な各栄養素の生理的作用について
②スポーツ選手に必要なエネルギーや栄養素の補給量について
③スポーツ選手の食事について
④試合期とトレーニング期の食事について
⑤ケーススタディについて

卒業認定・学位授与の方針との関連

本学科のディプロマポリシーの関連として②での生理学的な理解と③でのライフステージ別での必要な知識と技術、④実践的な管理栄養士として活躍できるための知識や技術を学ぶ。
卒業後には、スポーツ栄養の現場等での活躍出きるように修得する。

到達目標

１．スポーツ栄養マネジメントを理解すること。
２．それぞれ必要なアセスメント等の技術・知識を身につける。
３．世代別のプログラム作成を行える。
４．スポーツ選手の栄養サポートが出来るようになる。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	ガイダンス	授業概要説明 スポーツ栄養の概要	予習30分（スポーツ栄養をしらべる） 復習60分（授業の記録をノートと資料で再確認す

			る）
第2回	スポーツ栄養について	スポーツ栄養に関する科学的理論と根拠	予習30分（運動生理学や運動時の栄養について調べる） 復習60分（授業の記録をノートと資料で再確認する）
第3回	栄養素補給	スポーツ選手の身体組成（種目別身体組成の特徴）とエネルギー補給量	予習30分（種目別の代謝の特徴をしらべる） 復習60分（授業の記録をノートと資料で再確認する）
第4回	栄養素補給	糖質、脂質、たんぱく質の補給量	予習30分（運動時の糖質や脂質、たんぱく質の補給量をしらべる） 復習60分（授業の記録をノートと資料で再確認する）
第5回	栄養素補給	ビタミン、ミネラルの補給量	予習30分（運動時のビタミン、ミネラルの補給量をしらべる） 復習60分（授業の記録をノートと資料で再確認する）
第6回	水分補給、栄養補助食品	・スポーツドリンクのエネルギー及び栄養素量 ・スポーツ時の栄養補助食品の利用	予習30分（スポーツドリンクの種類や特徴を調べる） 復習60分（授業の記録をノートと資料で再確認する）
第7回	スポーツ選手の食事	・種目別食事献立の基礎	予習30分（競技毎の栄養補給の違いを調べる） 復習60分（授業の記録をノートと資料で再確認する）
第8回	スポーツ選手の食事	・食事のタイミング ・試合前・当日・試合後の栄養管理	予習30分（栄養摂取のタイミングや違いを調べる） 復習60分（授業の記録をノートと資料で再確認する）
第9回	スポーツ栄養マネジメントの概要１	スポーツ栄養マネジメントの概要１	予習30分（栄養マネジメントをしらべる） 復習60分（授業の記録をノートと資料で再確認する）
第10回	スポーツ栄養マネジメントの概要２	スポーツ栄養マネジメントの概要２	予習30分（スポーツ栄養マネジメントをしらべる） 復習60分（授業の記録をノートと資料で再確認する）
第11回	スポーツ栄養マネジメント	ケーススタディによるスポーツ栄養マネジメントの実践 ケアプランの作成グループでのプログラムづくりするためアクティブ	予習30分（ケアプランの作成に向けての資料集めを行う。） 復習60分（授業の記録をノートと資料で再確認す

		ラーニングを行う。	る）
第12回	スポーツ栄養マネジメント	ケーススタディによるスポーツ栄養マネジメントの実践 ケアプランに基づく献立作成１ グループでのプログラム(献立）づくりするためアクティブラーニングを行う。	予習30分（ケアプランの作成に向けての資料集めを行う。） 復習60分（授業の記録をノートと資料で再確認する）
第13回	スポーツ栄養マネジメント	ケーススタディによるスポーツ栄養マネジメントの実践 ケアプランに基づく献立作成２ グループでのプログラム(献立）づくりするためアクティブラーニングを行う。	予習30分（ケアプランの作成に向けての資料集めを行う。） 復習60分（授業の記録をノートと資料で再確認する）
第14回	スポーツ栄養マネジメント	ケーススタディによるスポーツ栄養マネジメントの実践 ケアプランに基づく献立作成３ スポーツ栄養マネジメント実習（グループ研究）発表準備 グループでの発表を行うためアクティブラーニングを行う。	予習30分（ケアプランの作成に向けての資料集めを行う。） 復習60分（授業の記録をノートと資料で再確認する）
第15回	スポーツ栄養マネジメント	スポーツ栄養マネジメント実習（グループ研究）発表・評価	予習30分（発表を行うための準備を行う） 復習60分（授業の記録をノートと資料で再確認する）

教科書

適宜プリント

参考書

健康づくりと競技力向上のための スポーツ栄養マネジメント．日本医療企画．鈴木 志保子 (著)他
エクセル栄養君建帛社。
エクセル栄養君FFQｇ 建帛社
アスリートの栄養アセスメント．第一出版．田口 素子 (著)他

成績評価の方法・基準

単位認定：60点以上
提出物50% 発表50%

課題等に対する
フィードバックの方法

予習と授業終了後のノート整理を行うこと。課題や発表に対してコメント付け返却する。

履修のポイント

スポーツ選手等の栄養管理の実際について検討する各研究発表において、各自が積極的に発言し意見交換を行うこと。

オフィス・アワー

曜 日：月曜日～金曜日
時 間：12：30～13：15
場 所：11号館3階 研究室6

講義コード	21030001
講義名	クックチルシステム概論演習
(副題)	
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	４時限
区分	専門科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UE-C361
学年	3学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 増野 弥生	指定なし

授業の概要と教育目標

近年、フードサービスの分野では、安全、高品質で多様なメニューの食事を作業や食材料の無駄を省いて合理的、計画的に提供することを目的に、さまざまな調理システムの開発が進んできた。従来の調理方式である同一日に調理し提供するクックサーブシステムに加え、事前に調理を行い、提供時に再加熱をする新調理システム（クックチル、クックフリーズ、真空調理など）の導入が進んでいる。講義、演習、実習を通して、新調理システムに関する知識や技術、品質管理、生産管理についてを学ぶとともに、従来の調理方式であるクックサーブシステムとの比較を行いながら、給食運営の効率化、メニューの多様化、TT管理、料理の安全性の向上等について学ぶ。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマポリシーとの関連として、「3.多様な対象や人間のライフステージ・ライフサイクルに沿って、利用者の身体の状況、栄養状態、生活習慣に係わる栄養・食事管理、栄養教育、臨床栄養ならびに公衆栄養、給食分野に関して必要な知識や技術を修得している」「4.これまでの学習を統合・発展させ、多様な社会のニーズ、変化に対応できる知識・技術を身につけ、実践的な職業人として活躍できる知識・技術を修得している」に基づいて、新調理システムについて理解し、施設及び対象者に応じた活用についての知識を身につけることを目指す。

到達目標

1.新調理システムの概要について説明することができる。
2.施設等におけるクックチル導入の効果的利用法について説明することができる。
3.新調理システムの特性を踏まえた食事を計画することができる。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	オリエンテーション 新調理システムの概要	講義概要 新調理システム① 新調理システムの概要(講義)	予習：大量調理マニュアルを読んでくる。 90分 復習；配布資料を見直す。90分

第2回	新調理システム①	真空調理法（講義）	予習：大量調理マニュアルを読んでくる。 90分 復習；配布資料を見直す。90分
第3回	新調理システム②	真空調理法とクックサーブ（演習） 【アクティブラーニング】 真空調理法による献立作成(グループワーク）	予習：給食管理実習のテキスト及び資料を見直す。90分 復習：配布資料を見直す。 90分
第4回	新調理システム③	真空調理法（演習） 【アクティブラーニング】 真空調理機を使用しリンゴのコンポート、野菜のピクルスを作る。(グループワーク）	予習：給食管理実習のテキスト及び資料を見直す。90分 復習：配布資料を見直す。 90分
第5回	新調理システム④	クックチルとニュークックチル（講義、演習） 【アクティブラーニング】 具体的に事例を用いて導入効果について検討を行う。（ディスカッション、グループワーク）	予習：給食管理実習のテキスト及び資料を見直す。90分 復習：配布資料を見直す。 90分
第6回	新調理システム⑤	施設における新調理システムの導入(講義）	予習：給食管理実習のテキスト及び資料を見直す。90分 復習：配布資料を見直す。 90分
第7回	食分野別のクックチル利用法①	食分野別のクックチル利用法 フードサービス業界の現状 (講義）	予習：給食管理実習のテキスト及び資料を見直す。90分 復習：配布資料を見直す。 90分
第8回	食分野別のクックチル利用法②	新調理システム導入効果の検討 (講義、演習） 【アクティブラーニング】 具体的に事例を用いて導入効果について検討を行う。（ディスカッション、グループワーク）	予習：給食管理実習のテキスト及び資料を見直す。90分 復習：配布資料を見直す。 90分
第9回	食分野別のクックチル利用法③	食分野別のクックチル利用法 病院における課題 (講義）	予習：給食管理実習のテキスト及び資料を見直す。90分 復習：配布資料を見直す。 90分
第10回	食分野別のクックチル利用法④	食分野別のクックチル利用法 病院における課題 (講義 演習） 【アクティブラーニング】 献立作成例について発表する。(プレゼンテーション、グループワーク）	予習：給食管理実習のテキスト及び資料を見直す。90分 復習：配布資料を見直す。 90分
第11回	食分野別のクックチル利用法⑤	食分野別のクックチル利用法 高齢者施設における課題 (講義）(演習） 【アクティブラーニング】 献立作成例について発表する。(プレゼンテーション、グループワーク）	予習：給食管理実習のテキスト及び資料を見直す。90分 復習：配布資料を見直す。 90分
第12回	食分野別のクックチル利	食分野別のクックチル利用法 高齢者施設における課題 (講義）(演習） 【アクティブラーニング】	予習：給食管理実習のテキスト及び資料を見直す。90分

	用法⑥	献立作成例について発表する。(プレゼンテーション、グループワーク)	復習：配布資料を見直す。 90分
第13回	クックチルの実際①	基本工程に沿った衛生管理（実習） 【アクティブラーニング】 実際のクックチルの流れを学ぶ。(グループワーク)	予習：給食管理実習のテキスト及び資料を見直す。90分 復習：配布資料を見直す。 90分
第14回	クックチルの実際②	基本工程に沿った生産(一次加熱、冷却）（実習） 【アクティブラーニング】 実際のクックチルの流れを学ぶ。(グループワーク)	予習：給食管理実習のテキスト及び資料を見直す。90分 復習：配布資料を見直す。 90分
第15回	クックチルの実際③	基本工程に沿った提供（再加熱、提供）（実習） 【アクティブラーニング】 実際のクックチルの流れを学ぶ。(グループワーク)	予習：給食管理実習のテキスト及び資料を見直す。90分 復習：配布資料を見直す。 90分

教科書

配布資料

参考書

・フードサービスの課題とクックチルの活用法 楠見五郎著 幸書房
・改訂新版 大量調理ー品質管理と調理の実際ー 殿塚婦美子編 学建書院
・調理のためのベーシックデータ 女子栄養大学出版部
・その他献立立案資料

成績評価の方法・基準

単位認定：60点以上
レポート・課題・確認テスト80% 講義・演習への取り組み20%

課題等に対する
フィードバックの方法

提出課題はコメントを入れて返却する。

履修のポイント

理論をふまえ、演習を通して新調理システム活用に当たっての留意点を理解する。
課題については提出期限を守ること。

オフィス・アワー

月・火・水・金曜日の昼休み、１１号館１８研究室にて対応する

講義コード	21040001
講義名	フードスペシャリスト論
(副題)	
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	５時限
区分	専門科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UE-C341
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教 員	◎ 金澤 亜希子	指定なし

授業の概要と教育目標

我々が食生活を営めるといういうことは、生産者がいて、それを流通させる人がいて、販売する人がいて、調理する人がいてという一連の流れの元に成り立っている。また、食生活の歴史の元に成り立っている。この教科では、食に関連する事項を生産、流通、販売、食文化など幅広く講義することで、広い視野をもった食のスペシャリストを育成することを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマ・ポリシーとの関連として、これまでの学習を統合・発展させ、社会のニーズ、変化に対応できる知識・技術を身に付け、実践的な職業人として活躍できる知識・技術の修得を目指す。

到達目標

現在の食の生産・開発・流通・消費に至るあらゆる分野でどのような問題点があるか考え、どう改善に取り組んでいけるか、また、今後食の産業に於いてどのようなニーズがあるのか考え、解決に取り組めるようになる。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	フードスペシャリスト概論	・オリエンテーション（授業の進め方、成績の評価方法など） ・フードスペシャリスト概論 ＜アクティブラーニング＞ ・今後注目される食の分野、そこで必要となる食のスペシャリストについてｸﾞﾙｰﾌﾟﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝし、指定の用紙にまとめる。	＜予習：90分＞ ・教科書Ｐ１～Ｐ１５までを読んでおく ＜復習：90分＞ ・ｸﾞﾙｰﾌﾟﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝした内容をまとめ、翌授業の発表の準備をする
第2回	フードスペシャリストの	・フードスペシャリストの責務を４つ理解する ・食育について理解する ＜アクティブラーニング＞ ・前回の講義でまとめた課題をグループごとに発表し、意見交換をする	＜予習：90分＞ ・教科書Ｐ１５～２８までを読んでおく ＜復習：90分＞ ・食育のイベント企画

	責務	・食育のイベントをグループになって企画し、指定の用紙にまとめる。	について内容をまとめ、翌授業の発表の準備をする
第3回	人類の歩みと食物	・人類の歩みと食物の関係を理解する ・食品加工・保存技術について理解する ＜アクティブラーニング＞ ・食育イベントの発表と意見交換 ・未来の食品加工について考え、指定の用紙にまとめて提出する。	＜予習：90分＞ ・教科書P２９～４６までを読んでおく ＜復習：90分＞ ・日常の食生活の中で、使用されている食品加工技術、保存技術に注目する
第4回	世界の食（食作法と食物禁忌）	・世界の三大食作法を知る ・食の禁忌と忌避について知る ＜アクティブラーニング＞ ・箸の使い方、和食のマナーの動画を視聴し、実際に箸を使用して正しい箸使いを学ぶ。	＜予習：90分＞ ・教科書P４７～５４までを読んでおく ・日本の箸使いのタブーを調べておく ＜復習：90分＞ ・日常の食生活の中で、正しい箸使いを行うよう、心がける
第5回	世界各国の食事情	・世界各国の食の特徴について理解する ・世界各国の代表的な料理を知る ＜アクティブラーニング＞ ・予習してきた内容をもとに、融合料理（フュージョン料理）を５つ考え、指定の用紙にまとめ、意見交換をする	＜予習：90分＞ ・教科書P５５～６２までを読んでおく ・自分の興味がある世界の料理について５つ以上作り方を調べておく ＜復習：90分＞ ・フュージョン料理の課題を指定の用紙にまとめる
第6回	日本の食文化①	・日本の食物史の流れを理解する ・現代の食生活の特徴について考える ＜アクティブラーニング＞ ・現代日本の食生活の問題点について、その時代的背景についても考え、指定の用紙にまとめ、グループ内で発表し合う	＜予習：90分＞ ・教科書P６３～７３までを読んでおく ・日本の歴史年表を見ておく ＜復習：90分＞ ・課題をまとめ、翌授業の際に提出する
第7回	日本の食文化②	・日本の食の地域差を野菜、調味料、料理の視点かあら理解する ・群馬の食の地域性について理解する ＜アクティブラーニング＞ ・自分の出身地の郷土料理についてまとめる ・自分の家のお雑煮についてイラストも書いて指定用紙にまとめる	＜予習：90分＞ ・教科書P７３～８０までを読んでおく ・日本地図を見ておく ・自分の家のお雑煮の作り方を調べておく ＜復習：90分＞ ・課題をまとめ、翌授業の際に提出する
第8回	現代日本の食生活①	・戦後の食生活の変化について理解する ・食生活の現状と消費生活について理解する ＜アクティブラーニング＞ ・自分自身の食事一日分を書き出し、食の外部化に頼っている部分を洗い出す。その後グループで食の外部化の利用についてメリット、デメ	＜予習：90分＞ ・教科書P８１～９５までを読んでおく ＜復習：90分＞ ・課題をまとめ、翌授業の際に提出する ・スーパーやコンビニ

		リットをディスカッションする。	で食の外部化の動向について注目する
第9回	現代日本の食生活②	・食生活の変化と食産業について理解する ・食料の供給と食料自給率について理解する ＜アクティブラーニング＞ ・身の回りの地産地消の取り組みについて、調べてきたことを発表し合う	＜予習：90分＞ ・教科書P９６～１０４までを読んでおく ・身の回りの地産地消の取り組みを調べてまとめておく ＜復習：90分＞ ・食をとりまく環境問題について、問題意識をもち、食品ロスを減らす努力をする
第10回	食産業の役割①	・フードシステムと食品産業の関係を理解する ・食品製造業の規模・動向・目的・特徴を理解する ・食品卸売業の規模・動向・目的・特徴を理解する ・6次産業化について、６次産業化に関する動画を視聴し、理解する	＜予習：90分＞ ・教科書P１０５～１１７を読んでおく ＜復習：90分＞ ・教科書を読み返し、深く理解しておく
第11回	食産業の役割②	・食品小売業について理解する ・外食産業について理解する	＜予習：90分＞ ・教科書P１１７～１２４を読んでおく ＜復習：90分＞ ・教科書を読み返し、深く理解しておく
第12回	食品の品質規格と表示①	・食品の品質規格、表示にかかわる法律を知る ・食品表示法施行によって変更された食品表示を理解する ＜アクティブラーニング＞ ・持参した食品表示の切り抜きを指定の用紙に貼り、食品表示法施行に伴う変更点などを理解する	＜予習：90分＞ ・教科書P１２５～１５６を読んでおく ・お菓子や弁当、清涼飲料水などの食品表示を切り抜いて３つ持参する ・のり持参 ＜復習：90分＞ ・日常の生活の中で、食品を購入する際、食品表示を見るように習慣付ける
第13回	食品の品質規格と表示②	・食品表示法の添加物表示、栄養成分に関する表示を理解する ・健康や栄養に関する表示制度を理解する ・食品表示法に関する動画を視聴し、食品表示の理解を深める	＜予習：90分＞ ・教科書P１５６～１６８を読んでおく ＜復習：90分＞ ・日常生活の中で、機能性表示食品、特定保健用食品を見つけたら表示を確認する
第14回	食品の品質規格と表示③	・JAS法について知る ・国際的な食品基準（コーデックス、GAP）について理解する ・動画の視聴を通してGAPへの理解を深める	＜予習：90分＞ ・教科書P１６８～１７２を読んでおく ＜復習：90分＞ ・J－GAPの認証、コーデックス規格について調べ、深く理解しておく

第15回	食情報と消費者保護	・情報の発信、受容について理解する ・情報の氾濫について考える ＜アクティブラーニング＞ ・食のスペシャリストとして、食の安全性をどのように守るかをｸﾞﾙｰﾌﾟﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝする。	＜予習：90分＞ ・教科書P１７３～１８９を読んでおく ＜復習：90分＞ ・日常の生活の中で、広い視野をもって食に関わるように努力する

教科書

フードスペシャリスト論第４版
日本フードスペシャリスト協会編
建帛社

参考書

適宜紹介する

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上
レポート６０％ 課題への取り組み３０％ 授業への参加度１０％

**課題等に対する
フィードバックの方法**

提出された課題につき、A、B、Cで評価し、返却するので、学習の参考にすること。

履修のポイント

食への関心、探究力が旺盛であること。グループ討議でも食知識を活かし発言が活発であること。

オフィス・アワー

授業日の授業開始前もしくは終了後に教室などで相談に応じる。

講義コード	21050001
講義名	フードマーケティング論
(副題)	
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	２時限
区分	専門科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UE-C362
学年	3学年

担当教員

職種	氏名	所属
教 員	◎ 飯島 正義	指定なし

授業の概要と教育目標

授業では、フードビジネスの視点から農水産物や加工食品などの流通を中心に学んでいきます。また、世界の食料事情、食の安全・安心、食料消費と環境問題など私たちと関わりの深い問題についても説明します。授業は、講義形式で行いますが、授業内容が理解できているかどうかを確認するために「確認プリント」を実施する予定です。本講義は、授業を通じて社会や環境などをより深く理解することを目標とします。

卒業認定・学位授与の方針との関連

栄養学科のディプロマ・ポリシーとの関連では、１．人間に対して、社会・環境・コミュニケーションなど諸側面から理解している、４．これまでの学習を統合・発展させ、多様な社会のニーズ、変化に対応できる知識・技術を身につけ、実践的な職業人として活躍できる知識・技術を修得しているの2項目と関連しています。本講義を通して、社会や環境などをより深く理解するとともに、変化に対応できる知識を身につけることを目指します。

到達目標

１．私たちの食生活とその変化について説明できるようになる。
２．農水産物や加工食品の流通について説明できるようになる
３．流通の担い手である卸売業・小売業について説明できるようになる。
４．食の安心・安全などの身近な食料問題についても説明できるようになる。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	フードビジネスとは何か	オリエンテーション（授業内容と進め方、成績評価等） フードビジネス、フードマーケティングとは何かについて学びます。	予習90分：シラバスをよく読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第2回	食生活の変化	日本の食生活の変化とその要因について学びます。	予習90分：プリント資料をよく読んでおくこと。復習90分：授業の授業の重要事

	（1）		項を整理・まとめておくこと。
第3回	食生活の変化（2）	食生活の変化が食料の生産・消費にどのような変化を及ぼしたのかを学びます。	予習90分：プリント資料をよく読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第4回	食品流通（1）	食品流通と他の商品流通との違いについて学びます。	予習90分：プリント資料をよく読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第5回	食品流通（2）	卸売市場の仕組みと現状について学びます。	予習90分：プリント資料をよく読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第6回	食品流通（3）	生鮮食品（青果物・水産物・食肉）の流通と近年の状況について学びます。	予習90分：プリント資料をよく読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第7回	食品流通（4）	食品業界の特徴と加工食品の流通について学びます。	予習90分：プリント資料をよく読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第8回	食品流通（5）	食品卸売業の役割と近年の状況について学びます。	予習90分：プリント資料をよく読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第9回	食品流通（6）	食品小売業の変遷とスーパー・コンビニ等の登場について学びます。	予習90分：プリント資料をよく読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第10回	食品流通（7）	1990年代以降の食品小売業の多様化について学びます。	予習90分：プリント資料をよく読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第11回	外食産業	外食産業の発展と現状について学びます。	予習90分：プリント資料をよく読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第12回	世界の食料事情	今日の世界の食料事情がどのようになっているのかを学びます。	予習90分：プリント資料をよく読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第13回	日本の食料生産	日本の農業・水産業の現状と問題点について学びます。	予習90分：プリント資料をよく読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第14回	食の安心・安全	食料の輸入大国である日本の食の安心・安全について学びます。	予習90分：プリント資料をよく読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第15回	食料消費と環境問題	食料消費と環境問題との関係について学びます。	予習90分：プリント資料をよく読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。

教科書

使用しません。プリントを配布します。

参考書

日本フードスペシャリスト協会編『三訂食品の消費と流通』建帛社

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上
筆記試験60%、平常点（確認プリントの提出、授業への取り組みなど）40%

課題等に対する
フィードバックの方法

授業で実施した確認プリント等については、原則として次週返却します。
履修のポイント
授業の重要事項の整理・まとめを着実に積み重ねて下さい。
オフィス・アワー
授業日の授業開始前もしくは終了後に教室等で質問に応じます。

講義コード	21060001
講義名	フードコーディネート論
(副題)	
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	３時限
区分	学部共通科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UE-C383
学年	4学年

担当教員

職種	氏名	所属
教 員	◎ 金澤 亜希子	指定なし

授業の概要と教育目標

フードコーディネートとしての仕事内容を、経験をもとに、実践的な部分も交えて講義する。食事文化、マナー、テーブルコーディネート、レストランプロデュースなど、幅広く実習なども取り入れた講義内容ですすめていく。写真を撮る際の美しく料理を盛り付けるコツ、流行のコーディネートなど、フードスタイリングに関しては、実際にコーディネートをし、写真を撮影できるよう実習する。試験はレポート形式で、各自フードスタイリングをし、写真も撮り、評価する。
食をコーディネートしていく際の幅広い知識を、広い視野から学ぶ態度を望む。

卒業認定・学位授与の方針との関連

管理栄養士を目指して学んできた知識、技術を発展させ、現在必要性が高まっている「食の情報発信」の仕方を学ぶことで、管理栄養士＋αの知識、技術を習得できる。講義の内容は実践的な部分が多く、社会に出てからすぐに使える技術になるであろう。

到達目標

基本的なﾌｰﾄﾞｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰとしての専門知識を身に付けたうえで、フードスタイリングができるようになる。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	ﾌｰﾄﾞｺｰﾃﾞｨﾈｰﾄ概論	フードコーディネートとは何か、また、フードコーディネーターの仕事とはどのようなものがあるのか講じる。基本的な知識となる、おいしさとの本質、ホスピタリティについても講じる。 おいしさとは何か、ホスピタリティとは何かについてｸﾞﾙｰﾌﾟﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝし、レポートにまとめる。	＜予習（90分）＞ 教科書P１～P１３までを予め読むこと。 ＜復習（90分）＞ おいしさについて、ホスピタリティーについてディスカッションの内容を指定の用紙にまとめること。
			＜予習（90分）＞ 教科書P１５～P３３までを

第2回	現代の食事文化とその課題	日本だけでなく、世界の食事文化の流れを追い、現代の食事文化の傾向を講じる。 現在の食文化の傾向、ｽﾛｰﾌｰﾄﾞ運動についても講じた上で、ｽﾛｰﾌｰﾄﾞ運動、今後の食文化の傾向について考え、発表する。	予め読むこと。 日本の歴史年表を見て、時代の流れを復習しておく。 ＜復習（90分）＞ 前橋市のスローフード運動について調べ、理解を深める。
第3回	テーブルウェアと食卓の演出①	テーブルコーディネートの基本を、日本料理の様式に合わせたセッティング、食器の種類を講じる。 実際に日本料理に使用される食器、食具を使用して、セッティングを体験する。	＜予習（90分）＞ 教科書P３５～P４３までを予め読むこと。 日常の食事で使用する食器、食具に注目しておく。 ＜復習（90分）＞ 日常の食事の中で、セッティングに気を付けて食事をする。また、器の種類や素材に興味をもつこと。
第4回	テーブルウェアと食卓の演出②	世界各国の食器、テーブルウェア、テーブルコーディネートの特徴などを講じ、理解する。 実際にハロウィンのテーブルコーディネートを体験し、テーブルコーディネートとはどういうことかを理解する。	＜予習（90分）＞ 教科書P４３～P５５までを予め読むこと。 日常の食事で使用する食器、食具に注目しておく。 ＜復習（90分）＞ 日常の食事の中で、テーブルコーディネートを取り入れること。
第5回	食卓のサービスとマナー	食卓に於けるホスピタリティの精神を中心に、サービス、マナーの基本理念を講じる。 実際にサービスする側、サービスされる側をロールプレイを通して体験する。また、日本食のマナーの基本となるお箸の使い方の動画を見て、忌み箸について理解する。	＜予習（90分）＞ 教科書P５８～P８０までを予め読むこと。 ＜復習（90分）＞ 日常の食事のマナーに気を付けること。特に箸の使い方については正しく使えるようになること。
第6回	メニュープランニング	メニュープランニングの３つの軸、売れるメニューの作り方、レストランの業種、業態に合ったメニューの組み立て方を講じる。 実際にランチメニューのプランニングを考え、発表する。	＜予習（90分）＞ 教科書P８１～P９８までを予め読むこと。 自分の良く行く外食産業のメニューに注目しておく。 ＜復習（90分）＞ メニュープランニングの課題を完成させる。外食産業のメニューに興味をもち、どのような意味があるのか常に考える。
第7回	カラーコーディネート	フードビジネスに於いて重要となるカラーコディネートについて講じる。 色鉛筆を使用し、「まんだら塗り絵」の実習を通し、色彩感覚を身に付ける。	＜予習（90分）＞ 教科書P１０５～P１０７までを予め読むこと。 色鉛筆持参 ＜復習（90分）＞ 日常生活の中でカラーコーディネートの知識を活かし、洋服のコーディネート、食事の盛り付け等を工夫する。

第8回	食空間のコーディネート	食事空間、厨房設備のコーディネートについて、基本的なコンセプトから、音響設備、照明設備に至るまで講じる。 店舗計画を雰囲気、インテリア、店の間取り図を書いてイメージする。	＜予習（90分）＞ 教科書P９９～P１２１までを予め読むこと。 色鉛筆持参 ＜復習（90分）＞ 店舗計画の課題を仕上げ、翌講義の際に提出する。
第9回	フードサービスマネジメント①	フードサービスの動向と特性、外食産業を起業する方法について講じる。 レストランの出店計画を作り、フードマネジメントの基本を理解する。	＜予習（90分）＞ 教科書P１２３～P１３４までを予め読むこと。 色鉛筆持参 ＜復習（90分）＞ 出店計画の課題を仕上げ、翌講義の際に提出する。
第10回	フードマネジメント②	実際に外食産業を出店する際の費用の計算方法を、投資計画、収支計画について講じる。 実際に出店する際の費用の計算をし、特に損益分岐点についての計算を確実にできるようにする。	＜予習（90分）＞ 教科書P１３４～P１４４までを予め読むこと。 計算機持参 ＜復習（90分）＞ 教科書P１４３、１４４の演習問題を3回以上行う
第11回	食企画の実践コーディネート	食企画の種類、実際にイベントを行う際の手順について講じる。 グループで食育イベントの企画を立て、それを行う場合の手順、注意点などについて理解する。	＜予習（90分）＞ 教科書P１４５～P１６３までを予め読むこと。 ＜復習（90分）＞ 食企画の課題を仕上げ、翌講義の際に提出する。
第12回	フードスタイリング	写真に写す際のﾌｰﾄﾞｽﾀｲﾘﾝｸﾞについて、使用する道具、配置、見せ方について、講じる。 実際に様々なスタイリングをしながら、どうスタイリングしたら美味しそうに見えるのかを理解する。	＜予習（90分）＞ SNSや料理雑誌などに目を通し、どういったスタイリングが美味しそうに見えるのかを考えておく ＜復習（90分）＞ 日常の食事の中で、どうスタイリングしたら写真に美しく収まるかを考える。
第13回	美味しい料理写真の撮り方①	美味しく見える料理写真の撮り方の基本と、スマホで美味しく料理写真を撮る方法を講じる。 りんごをスマホで撮影してみて、どう撮ったら美味しく見えるかを理解する。	＜予習（90分）＞ SNSや料理雑誌などに目を通し、どういった料理写真が美味しく見えるのかを考えておく。 ＜復習（90分）＞ 日常の食事の中で、料理写真を10枚以上撮影する
第14回	美味しい料理写真の撮り方②	予め準備した食材を、スタイリングし、料理写真を撮影する。	＜予習（90分）＞ SNSや料理雑誌などに目を通し、どういった料理写真が美味しく見えるのかを考えておく。 カメラ持参 ＜復習（90分）＞ 撮影した写真をプリントアウトし、レポートにまとめる。
			＜予習（90分）＞

第15回	まとめと発表	実際にレシピ提案をし、フードスタイリングした写真とレシピを各自持参し、発表する。 また、実際にフードコーディネートとして働く際の仕事の運び方を講じる。	日常の生活の中で、ﾌｰﾄﾞｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰの仕事にどのようなものがあるのか注目しておく。 ＜復習（90分）＞ 講義で学んだことを日常の勉強、生活に活かすように努める。

教科書
フードコーディネート論日本フードスペシャリスト協会編（建帛社）
参考書
適宜紹介する。
成績評価の方法・基準
単位認定60点以上。レポート６０％、課題３０％、授業の参加度１０％
課題等に対する フィードバックの方法
提出した課題についてはA,B,Cの三段階の評価で返却するので、学習の参考にすること。
履修のポイント
フードコーディネートに興味をもち、実践的に学びたい学生、食のトレンドを知りたい学生を期待します。知識がなくても、この講義を受けて、食のトレンドについて関心を持っていただけたらと期待します。
オフィス・アワー
授業日の授業開始もしくは終了後に教室等で相談に応じます。

講義コード	21070001
講義名	現代教職論
(副題)	【教職必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
区分	教職科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UM-F420
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教 員	◎ 佐々木 尚毅	指定なし

授業の概要と教育目標

教職についての理解を深め、自らの教職への意欲、適性等を熟考し、将来教職に就くことについて多角的に考察するために、教職の意義や教員の役割、職務内容等に関する知識を修得することを目標とする。さらに予定されている学習指導要領改訂の中で重要な改訂点となる「カリキュラム・マネジメント」、「アクティブ・ラーニング」、「外国語(英語)の教科化」などについて、その導入理念を理解する。これらを通じて「時代の変化に対応した新しい学びを支える教育・教師」について理解し自らの適正を考え、どのような教師となるかキャリア・デザインできる事が目標である。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部のディプロマ・ポリシーのひとつである「人間に対して、社会・環境・コミュニケーションなどの諸側面から理解している」ことを第一に内容を精選する。人は年齢を重ねただけでは大人にはなれない。人は人のなかで人になっていく。その人のなかでも、教師は重要な機能と役割をもって子どもが大人になることを見守り、支え励ます。そうした教員の職務内容を理解し、教職の意義及び役割を学ぶ。また、受講者が自分自身の適正について熟考し、進路を考える。

到達目標

１)現代日本の子どもの状況と公教育の目的とを理解する。
２)教職の意義や教員の役割、職務内容・服務内容等を理解する。
３)ひとり一人の子どもの成長を支える「チーム学校」、「学校内外の専門家等との連携と分担」の必要性とその運営・活用について理解する。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	イントロダクション	何を学ぶのか、何のために学ぶのか。「自らと向き合い適正を考える」	復習90分:レポート作成「教師志望の動機」作成
			予習30分:第1回配布資料の

第2回	子どもの社会化の現代的特質	親・教師・学校・社会の変化、世界の中の日本の子ども	通読 復習30分:『子ども・若者白書』指定個所を読む
第3回	子どもの現状と近年の教育の動向	子どもを中心にした、連携と教師の役割の拡大	予習20分:『白書』指定個所のまとめと課題文書作成 復習20分:『白書』指定個所のまとめと課題文書作成
第4回	教育とは、教員とは(１)	－日本国憲法・教育関連法規－	予習20分:教育基本法通読 復習30分:教基法確認テストに向けた学習
第5回	教育とは、教員とは(２)	－中央教育審議会の教育構想－	予習30分:配布中教審答申を読む 復習30分:答申案のポイントまとめ
第6回	教育とは、教員とは(３)	－学習指導要領改訂の理念とポイント－	予習40分:調べ学習「指導要領の変遷」 復習50分:今次改定のポイントを学習
第7回	教育とは、教員とは(４)	－学校の組織運営(校務分掌／新しい職による組織の変化)－	予習20分:調べ学習「1条校」の変遷 復習30分:校内職名の確認(次回確認テスト)
第8回	教育とは、教員とは(５)	－学級担任の職務と教科指導－	予習20分:『子ども・若者白書』の指定個所を読む 復習60分:配布資料に関する感想文作成
第9回	教育とは、教員とは(６)	－養護教諭・栄養教諭の職責と協働・連携－	予習60分:現職教師の日記を読む 復習60分:視聴映像の感想文作成
第10回	教育とは、教員とは(７)	－職務、研修、「学び続ける教師」－	予習20分:調べ学習「生涯学習」 復習20分:配布資料の再読
第11回	インクルージブ教育システム	「特別な支援を必要とする子ども」	予習30分:調べ学習「障害者総合支援法」 復習60分:視聴映像感想文作成
第12回	「チーム学校」の目的と運営	－事例の検討を含む－	予習20分:調べ「チーム学校」 復習90分:課題作成「私が目指す教師像」
第13回	家庭・地域等との連携・協働の推進	－開かれた学校、学校安全の具体例とその検討－	予習20分:配布資料を読む 復習60分:課題作成「私が目指す家庭と地域と教師の関係」
第14回	教師の力量を考える	－教科指導、生活指導、学級経営等－	予習20分:配布資料を読む 復習90分:作文「私が目指す教師像」
第15回	自分の教師としての力量を考える	－学び続ける教師－	予習90分:作文「教師とは学校とは教育とは」 復習90分:総復習

教科書
『中学校学習指導要領』(文科省、平成29年3月)、『高等学校学習指導要領』(文科省、未刊)
参考書
各種法規、審議会答申は適宜配布する。
成績評価の方法・基準
定期試験(70%)、リアクションペーパー(30%) 単位認定60点以上
課題等に対する フィードバックの方法
授業では持ち帰り課題を多く課す。その自宅学習の成果を次の授業時間内に発表者を指名して受講者の前で発表させる。その発表内容について意見交換を行う。このアクティブ・ラーニングへの取り組み姿勢とその内容を評価に加える。提出された課題文章はすべて添削し、文章作成能力の向上を図る。仲間と協働することの意義と楽しさを体得させる。
履修のポイント
大学は教育・研究機関である。自ら課題を発見し、その課題にどの様に取り組み、そして解決するかを学びとることにこそ大学での学びである。「仲間とともに、積極的に」という姿勢を自ら育てていくこと。
オフィス・アワー
講義時間の前後の時間及び休み時間

講義コード	21080001
講義名	教育心理学
(副題)	【教職必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	１時限
区分	教職科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UM-F421
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 大澤 靖彦	指定なし

授業の概要と教育目標

教師が学校現場で児童・生徒と対応する際には、彼らが、今現在発達的にどのような状況におかれてるのか、また、そのときの心の状態はいかなるものなのか、ということに配慮しながら接することが求められる。この科目では、人は環境と相互に作用しあう存在であることを踏まえて、人の発達過程、学習過程、教授過程について講義する。授業は講義形式で行うが、授業後半では実習も取り入れ、学生による「模擬授業」を実施する。なお、青年期までの人の発達過程とその特徴、学習のしくみと学習を規定する要因と障がい、教授の類型について理解を深めることを教育目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部看護学科・栄養学科のディプロマポリシーとの関連として、社会・環境・コミュニケーションなどの諸側面から人に対する理解を深めることを目指し、心理的側面の理解を通してその目的達成に資する知識を養う。そして将来的な展望としては、心身の発達理論を理解しつつ、多様な人間のライフステージ、ライフサイクルを理解するという発達の側面、そして知識を収めていく学習の側面、発達課題に直面した際の課題未達成からくる適応の問題の側面から教職実践の基盤となる学修を行うことを目指すものとする。

到達目標

１．教育心理学で使用されるさまざまな専門用語の意味を理解する。
２．青年期までの人の発達過程とその特徴について理解する。
３．学習のしくみと学習を規定する要因、および障がいについて理解する。
４．「教える」ということを体験を通じて実感し、自ら「教える」立場をシュミレーションする。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	教育心理学の	教育心理学で取り扱う内容について、その概要（発達・学習・教授）を取り上げる。	予習90分：教科書pp.12-21を読む。 復習90分：配布

	概要		資料を見直す。
第2回	人生初期の発達①	発達の基本的な原理、発達の最近接領域について取り上げる。	予習90分：教科書pp.22-25,33-39を読む。 復習90分：配布資料を見直す。
第3回	人生初期の発達②	認知発達を中心に、乳児期から児童期の発達を取り上げる。	予習90分：教科書pp.25-30を読む。 復習90分：配布資料を見直す。
第4回	青年期の発達①	人生初期からの人間関係と社会性の発達を取り上げる。	予習90分：教科書104-114を読む。 復習90分：配布資料を見直す。
第5回	青年期の発達②	青年期の発達課題として、エリクソンのアイデンティティの獲得について取り上げる。	予習90分：教科書pp.30-33、114‐122を読む。 復習90分：配布資料を見直す。
第6回	障がいの理解	発達障がいの種類や特徴、学級内で障がいを抱えた児童・生徒への理解と対応について取り上げる。	予習90分：教科書pp.159-174を読む。 復習90分：配布資料を見直す。
第7回	さまざな学習理論①	刺激と反応の結びつきを重視する学習の連合理論と認知の変容を重視する学習の認知理論を中心に、学習のしくみを取り上げる。さらに学習理論から発展したソーシャルスキルトレーニングについても取り上げる。	予習90分：教科書pp.41-54を読む。 復習90分：配布資料を見直す。
第8回	さまざな学習理論②	記憶、授業における学習指導の理論、学習の個性化を取り上げる。	予習90分：教科書pp.55-70、175-182を読む。 復習90分：配布資料を見直す。
第9回	学習の規定因①	学習の規定因としての動機づけ理論と、動機づけ向上に必要な事項について取り上げる。	予習90分：教科書pp.72-88を読む。 復習90分：配布資料を見直す。
第10回	学習の規定因②	学習を規定する要因としてのパーソナリティの理論、知能の構造、測定方法を取り上げる。	予習90分：教科書pp.89-103を読む。 復習90分：配布資料を見直す。
第11回	学習の規定因③	適応と不適応、適応機制の考え方を取り上げる。	予習90分：教科書pp.141-157を読む。 復習90分：配布資料を見直す。

第12回	学校教育相談	教育相談の意義と役割および教育相談の歩みとその方法について取り上げる。	（予習90分：教科書8章を読む。） 復習90分：配布資料を見直す。
第13回	教授技法①	教える技術、伝える技術、授業づくりの留意点をおさえて、「教える」ことをシュミレートする模擬授業を行う。他の履修者は、授業評価をし、授業担当者にフィードバックする。この経験を教育実習の参考として役立てられるようにする。	予習90分：模擬講義資料作り。 復習90分：模擬講義ふり返り。
第14回	教授技法②	第14回目の授業から、さらに発展させ、応答技法の留意点もおさえて、「教える」ことをシュミレートする模擬授業を行う。他の履修者は、授業評価をし、授業担当者にフィードバックする。この経験を教育実習の参考として役立てられるようにする。	予習90分：模擬講義資料作り。 復習90分：模擬講義ふり返り。
第15回	教育評価授業のまとめ	教育評価の方法や手法、さまざまな観点から見た評価の種類と特徴、学力のとらえ方や測定方法について取り上げる。	予習90分：教科書pp.182-192を読む。 復習90分：配布資料を見直す。

教科書

桜井茂男監修 『実践につながる教育心理学』 北樹出版

参考書

適宜紹介する。

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上。
筆記試験40%、レポート課題30%、模擬授業・授業への参加度30%を総合して評価します。

課題等に対するフィードバックの方法

授業内でレポートや課題を課すことがある。返却するので学習の参考にすること。また、授業の振り返りの資料とその解答を配布するので、授業内容の理解に役立てること。

履修のポイント

授業への積極的な取り組みを期待します。予習として各回の主題に該当する教科書の章に目を通すこと、復習として配布資料・ノートのまとめを勧めます。

オフィス・アワー

水曜日・木曜日、12：30〜13：20（昼休み）、11 号館第 8 研究室。
※講義終了前後にも、適宜受け付けます。

講義コード	21090001
講義名	教育課程論
(副題)	【教職必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
区分	教職科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UM-F430
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教 員	◎ 佐々木 尚毅	指定なし

授業の概要と教育目標

学校教育が所期の目的をより効果的に達成しようとする観点から、まず、教育課程の意義、構造、機能、歴史といった基本的な事項について説明を行う。次いで、学習指導要領を用いて、学校や地域、子どもの実情を踏まえたカリキュラムマネジメントの実際、評価の観点、教育計画と教育方法との接続について体験的学習を交えながら、理解を深めていく。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部のディプロマ・ポリシーのひとつである「人間に対して、社会・環境・コミュニケーションなどの諸側面から理解している」ことを第一に内容を精選する。人は年齢を重ねただけでは大人にはなれない。人は人のなかで人になっていく。その人のなかでも、学校は児童生徒の発達段階に則して、その成長を支え見守り励ますという重要な機能と役割をもっている。そうした学校教育の背景にあるカリキュラム理論を理解し、教育の意義及び役割を学ぶ。また、受講者が自分自身の適正について熟考し、進路を考える。

到達目標

学校教育における教育課程の意義と構造・機能を理解し、編成に関する基本的な事項についての知識を学ぶことが目的である。その際、学習指導要領を教育課程編成の基準としながら、各学校の実情に合ったカリキュラムマネジメントを行うことにより、社会に開かれた教育課程を実現していく意義と具体的な手立てについて考察を深めていく。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	学校教育と教育課程	学校の性質と教育内容の組織化、教育課程の意義	復習90分:レポート作成「教師志望の動機」作成
第2回	教育課程の概念	教育課程の定義、学習内容観と教育課程のタイプ	予習30分:第1回配付資料の通読 復習30分:『子ども・若者白書』指定個所を読む
		哲学的条件、社会学的条	30 :

第3回	教育課程の条件	件、心理学的条件、教育学的条件	予習　分 課題図書を読み課題文書作成 復習20分:教科書の指定個所を読む
第4回	歴史のなかの教育課程	社会の発展段階と教育課程の特徴	予習30分:教育基本法通読 復習30分:教基法確認テストに向けた学習
第5回	現代社会と教育課程	「知識基盤社会」の「人間化」された「社会に開かれた教育課程」	予習30分:配布課題図書を読む 復習30分:配布課題図書を読む
第6回	人間の成長と教育内容	発達段階への対応、可塑性への働きかけ、社会化と教育内容	予習40分:調べ学習「指導要領の変遷」 復習50分:今次改定のポイントを学習
第7回	教育内容の構造	教科の構成、教育内容の精選と構造化、教科外の教育内容	予習40分:調べ学習「指導要領の変遷」 復習50分:今次改定のポイントを学習
第8回	単元の設定	単元の意義、教材単元と経験単元、単元の構成と教材の準備	予習40分:調べ学習「指導要領の変遷」 復習50分:今次改定のポイントを学習
第9回	教育課程の編成	全体的教育課程と個別的教育課程、教育課程編成に関する法令等	予習40分:調べ学習「指導要領の変遷」 復習50分:今次改定のポイントを学習
第10回	教育課程編成における定性化	教育課程編成の基本的観点、内容の重点化と構造化	予習20分:調べ学習（学校「年間指導計画」）復習20分:配布資料の再読
第11回	教育課程編成における定量化	定量化の必要性と観点、配当時間との関係	予習30分:配付資料「評価」を読む 復習60分:「指導と評価の計画」の作成
第12回	教育課程の実施	年間計画と時間割・日課表、教材・教具との関係	予習90分:「総合的な学習の時間」の指導案作成 復習90分:「総合的な学習の時間」の指導案修正
第13回	教育課程の評価	評価の視点と方法、教育課程の接続と改善	予習90分:「道徳の時間」の指導案作成 復習90分:「道徳の時間」の指導案修正
第14回	学習指導要領の教育課程改革	現代社会に対する学習指導要領の戦略	予習90分:「特別活動」の指導案作成 復習90分:「特別活動」の指導案修正
第15回	授業のまとめ	基準性と個別性の観点から振り返り	予習90分:作文「教師とは学校とは教育とは」 復習90分:総復習

教科書

平成29年3月31日公示小学校学習指導要領、中学校学習指導要領

参考書

広岡義之著『はじめて学ぶ教育課程』ミネルヴァ書房 2016年 無藤 隆著『新しい教育課程におけるｱｸﾃｨﾌﾞな学びと教師力・学校力』図書文化社 2017年

成績評価の方法・基準

定期試験50％、授業末に実施する小テストや課題提出物等50％の割合で総合評価し、60点以上合格。

課題等に対する フィードバックの方法
授業では持ち帰り課題を多く課す。その自宅学習の成果を次の授業時間内に発表者を指名して受講者の前で発表させる。その発表内容について意見交換を行う。このアクティブ・ラーニングへの取り組み姿勢とその内容を評価に加える。提出された課題文章はすべて添削し、文章作成能力の向上を図る。仲間と協働することの意義と楽しさを体得させる。
履修のポイント
大学は教育・研究機関である。自ら課題を発見し、その課題にどの様に取り組み、そして解決するかを学びとることにこそ大学での学びである。「仲間とともに、積極的に」という姿勢を自ら育てていくこと。
オフィス・アワー
講義時間の前後の時間及び休み時間

講義コード	21100001
講義名	教育方法論
(副題)	【教職必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
区分	教職科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UM-F440
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教 員	◎ 山上 裕子	指定なし
教 員	宮内 洋	指定なし

授業の概要と教育目標

教育の方法は、学ぶ者、学ばれる内容に関連する生きたものである。将来、社会を担っていく子どもの成長を考えた学びをどう実現していくのかを問い、授業を創意工夫していく必要がある。特に現在は、自ら主体的に考えるアクティブな学びとなるような授業が求められている。本講義では、授業を創意工夫していくための基礎的理論をもとに、授業の構成要素や学習評価、授業の基礎的な技術や指導案の作成及び模擬授業を行う。そして、授業機器を活用した効果的な授業や情報活用能力の育成を視野に入れた適切な教材の作成・活用に関する基礎的な能力を身に付ける。

卒業認定・学位授与の方針との関連

各科において獲得された専門知識を発達段階に応じて主体的に自ら学ぼうとするアクティブな学びをどう工夫するかを考えることを目指す。また、授業を考えるために、チームを組んで議論をし、様々なニーズや問題を解決する力の修得を目指す。

到達目標

①教育方法の基礎理論について理解する。
②授業の構成要素や多様な学習評価について理解する。
③授業の指導技術のポイントを理解する。
④授業の基礎理論を踏まえた指導案を作成できる。
⑤児童・生徒の興味・関心を高めたり、学習内容を的確にまとめさせたりするために、情報機器を活用し、効果的に教材等を作成・提示することができる。
⑥児童・生徒の情報活用能力を育成するための指導法を理解し、情報モラル教育についても理解し、児童・生徒を指導できる。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
	オリエンテー		・予習：シラバスを通読し授業

第1回	ション 現在求められている授業	・講義内容について説明を受け、学習目標を確認する。 ・自身が受けてきた授業について情報交換し、善い授業を考える。 ・現在求められている学びについて考える。	内容を知る。（30分） ・復習：授業内容をノートにまとめる。（30分）
第2回	教育方法の基礎理論	・子どもから学びが始まる、という教育観にたった先人たちの提案した教育方法の考え方とその実践について学ぶ。具体的には、ルソーの消極的な教育、ペスタロッチの直観教授法、デューイの問題解決学習などである。	・予習：配付資料を読む。（30分） ・復習：授業内容をノートにまとめる。（30分）
第3回	授業の構成要素	・基礎理論から授業には様々な要素があることを見出し、授業の目的に応じて環境を構成する必要性を学ぶ。	・予習：配付資料を読む。（30分） ・復習：授業内容をノートにまとめる。（30分）
第4回	多様な学習の評価	・授業形態に応じた多様な評価について、基礎理論に立ち返りつつ、何をどのように評価を行うのかを学ぶ。 ・模擬授業の内容をグループで話し合う。	・予習：配付資料を読む。（30分） ・復習：模擬授業に向けて準備を進める。（30分）
第5回	指導案の作成	・基礎理論を踏まえて、指導案を作成する。 ・指導案の作成の仕方について、具体的な注意点を学ぶ。 ・協力して、指導案を作成する。	・予習：模擬授業の準備を進める。（60分） ・復習：模擬授業に向けて準備を進める。（60分）
第6回	模擬授業	・話し方、板書の仕方等に留意し、作成した指導案を試す。 ・より善い授業について討議を行う。	・予習：模擬授業の準備を進める。（60分） ・復習：これまでの学びを振返りレポートにまとめる。(90分)
第7回	情報機器とネットの活用	・情報機器を活用して効果的に教材等を作成・提示する方法とその注意点を学ぶ。	・予習：情報機器の練習（30分） ・復習：授業の振り返り（30分）
第8回	情報機器とネットの問題点	・児童・生徒の情報活用能力（情報モラルを含む）を育成するための指導法を学ぶ。	・予習：情報機器の練習（30分） ・復習：授業の振り返り（30分）

教科書
・中学校学習指導要領総則（平成29年3月告示 文部科学省） ・高等学校学習指導要領総則（平成30年3月告示 文部科学省）
参考書
・佐藤学『教育の方法』左右社、2012年。 ・古藤泰弘『教育方法学の実践研究』教育出版、2013年。 ・今度珠美ほか『スマホ世代の子どものための主体的・対話的で深い学びにむかう情報モラルの授業』日本標準 その他、授業中に適宜資料を配付する。
成績評価の方法・基準
単位認定60点以上（レポート80％、授業参加度20％）
課題等に対する フィードバックの方法
授業中のワークは、ワーク後返却するので、適宜、自身の学びに役立てること。
履修のポイント
これまで受けてきた授業を振り返るとともに、自身で授業が工夫できるようにポイントをつかむこと。
オフィス・アワー
授業日の授業開始前もしくは終了後に教室等で質問に応じます。 yamakami@koriyama-kgc.ac.jp

講義コード	21110001
講義名	生徒指導論
(副題)	【教職必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	5時限
区分	教職科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UM-F441
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 田口 和人	指定なし

授業の概要と教育目標

①教科・道徳・総合的な学習の時間・特別活動における生徒指導の意義や重要性を理解すると同時に、教育課程全般のなかでの生徒指導の位置づけを理解する。
②集団指導・個別指導また「個人と集団」という概念のもとで、生徒指導について考える。
③子どもの成長発達の段階を踏まえながら、基本的生活習慣や規範意識の重要性について考える（養護教諭・栄養教諭の立場から）。
④学校教育における体罰、いじめ、不登校、インターネットや性、また児童虐待に関する問題などを具体的に取り上げながら、これらへの対応について考える。

卒業認定・学位授与の方針との関連

人間を対象とする教育職員の役割を念頭に置いて、社会・環境・コミュニケーションについての認識を深める。また、多様な社会のニーズ、変化に対応できるように、自らの「資質・能力」を高めることに努める。

到達目標

生徒指導は、一人ひとりの児童及び生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して教育活動全体を通じて行われる、学習指導と並ぶ重要な教育活動である。他の教職員や関係機関と連携しながら組織的に生徒指導を進めていくために必要な知識・技能や素養を身に付ける。

授業計画

	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	「生徒指導とは何か？」について、これまで受けてきた学校教育の記憶やイメージをたどりながら、教育課程のなかでのその位置付けについて理解する。	予習90分：教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。
第2回	生徒指導の経験的なイメージを踏まえながら、教育活動の二つの形態（教授と陶冶）について考える。	予習90分：教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。

第3回	学校教育また学校生活の具体的な場面をイメージしながら、生徒指導の有り様について考える。― 視聴覚教材を用いる ―	予習90分：教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。
第4回	特別活動・総合的な学習の時間における生徒指導の様態について考える。	予習90分：教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。
第5回	児童生徒の問題行動に対する生徒指導の対応の仕方ついて学び、考える。	予習90分：教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。
第6回	学校教育・部活動でなくならない体罰の実態について考える。	予習90分：教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。
第7回	校則及び不登校（引きこもり）について考える。	予習90分：教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。
第8回	「いじめ（いじめ自殺）」の視聴覚教材をみて、感想・意見をレポートする。	予習90分：教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。
第9回	第８回での感想・意見をもとに、「いじめ」問題についての理解を相互に深める。	予習90分：教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。
第10回	児童生徒を取り巻くインターネットや性に関する問題について考える。	予習90分：教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。
第11回	養護教諭・栄養教諭を前提として、基礎的生活習慣の確立や規範意識の醸成に向けた生徒指導について考える。― 朝食欠食問題・不規則な生活習慣などを事例に―	予習90分：教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。
第12回	養護教諭・栄養教諭が担任教諭との協力で進める生徒指導について考える。	予習90分：教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。
第13回	クラスでの生徒指導に関するケース・スタディとグループディスカッション。	予習90分：教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。
第14回	第13回でのディスカッションをもとに、プレゼンテーションと相互検討。	予習90分：教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。
第15回	学校教育における生徒指導に関する総合的な理解を深める。	予習90分：教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。

教科書
なし
参考書
『生徒指導提要』（平成22年）『小学校学習指導要領』（平成29年） 『中学校学習指導要領』（平成29年） 岩城隆次・森嶋昭伸編著『生徒指導の新展開』ミネルヴァ書房
成績評価の方法・基準
定期試験（80%）、授業時のレポート（20%） 単位認定基準60%以上
課題等に対する フィードバックの方法
授業内でレポートや課題を課すことがある。返却するので、授業の振り返りとして役立てること。
履修のポイント
主体的、対話的で深い学びを期待します。
オフィス・アワー
火曜日・木曜日の12：30～13：20（昼休み） 11号館第7研究室 ※授業終了後も、適宜受け付けます。

講義コード	21111001
講義名	特別支援教育論
(副題)	【教職必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
区分	教職科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UM-F422
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教 員	◎ 小林 徹	指定なし

授業の概要と教育目標

担当者の中学校特別支援学級担任教諭としての指導経験や市町村教育支援委員としての幼稚園・保育所等との連携の経験に基づき、研究成果も踏まえて以下の内容を講義する。
１．特別支援教育を支える理念や歴史的変遷について理解する。
２．特別支援教育の場（機関）と制度の現状をとらえる。
３．さまざまな障がいと障がい児、特別な配慮を要する子どもの理解の視点と方法について理解する。
４．障がい児等の個別支援計画の作成、評価について理解する。
５．特別支援教育の実際について理解を深める。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマ・ポリシーとの関連としては、社会・環境・コミュニケーションなどの諸側面から、さまざまな障がいと障がい児、特別な配慮を要する子どもを理解することで人間理解を目ざす。
また、特別支援教育の理解を通して、多様な社会のニーズ、変化に対応できる知識・技術を身につけ、実践的な職業人となることを目ざす。

到達目標

１．特別支援教育の理念や制度、その歴史や支援機関の現状をどの程度理解できたか。
２．障がい児や特別な配慮を要する子どもの個別指導（支援）計画の作成、評価についてどの程度理解できたか。
３．さまざまな障がいと障がい児や特別な配慮を要する子どもを支援するための視点と方法について理解できたか。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	特別支援教育の考え方、制度と仕組み	障がい児、特別な配慮を要する子ども、特別支援教育の基礎概念、特別支援教育と障がい児福祉の制度とその仕組みについて学習する。	【予習90分】当日の内容をテキストで確認する。 【復習90分】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。

第2回	障がいとの出合いと子育て、保護者支援	保護者と障がいとの出合いと保護者支援、障がいのある子どもの子育ての考え方と療育の実際を映像を通して学習する。	【予習90分】当日の内容をテキストで確認する。 【復習90分】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。
第3回	障がい児の理解と支援①発達障がい・知的障がい・情緒障がい	映像を通して発達障がい、知的障がい、情緒障がいに関する基礎的概念を整理し、その支援方法を考える。	【予習90分】当日の内容をテキストで確認する。 【復習90分】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。
第4回	障がい児の理解と支援②肢体不自由・視覚障がい・聴覚障がい・言語障がい	肢体不自由・視覚障がい・聴覚障がい・言語障がいに関する基礎的概念を整理し、その支援方法を考える。	【予習90分】当日の内容をテキストで確認する。 【復習90分】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。
第5回	障がい児の理解と支援③病弱・重複障がい・その他の特別な教育的ニーズ	病弱・重複障がいに関する基礎的概念を整理し、その支援方法を考える。また、障がいはないが、特別な教育的ニーズをもつ子どもについて学び、その支援方法を考える。	【予習90分】当日の内容をテキストで確認する。 【復習90分】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。
第6回	他機関との連携、幼保小中高の接続	障がい児支援に関わるさまざまな工夫について紹介し、理解を深める。また、幼保小中高の接続を含めたさまざまな機関との連携について学習する。	【予習90分】当日の内容をテキストで確認する。 【復習90分】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。
第7回	個別の教育支援計画と個別の指導計画の作成と活用	子どもの有する特別な教育的ニーズをどのように見出し、理解するかを個別の教育支援計画や個別の指導計画の作成を通して学習する。また、作成した計画をもとにして具体的な支援を考察する。	【予習90分】当日の内容をテキストで確認する。 【復習90分】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。
第8回	特別支援教育のこれまでとこれから	特別支援教育の歴史的変遷について学習する。そして、今後のインクルーシブ教育システムの構築に向けた考察を行う。	【予習90分】当日の内容をテキストで確認する。 【復習90分】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。

教科書

小林徹・栗山宣夫編著『ライフステージを見通した障害児の保育・教育』みらい,2016

参考書

適宜紹介する。

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上。
レポート試験（50%）、毎回提出する小レポート（30%）、小テスト（20%）

**課題等に対する
フィードバックの方法**

毎回提出する小レポートや小テストを参考にして、期末のレポート試験を受けること。

履修のポイント

障がいや障がい児について関心をもち、学習を深めてほしい。

オフィス・アワー

授業日の授業開始前もしくは終了後に教室等で質問に応じる。

講義コード	21120001
講義名	道徳教育及び特別活動の研究
(副題)	【教職必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	木曜日
代表時限	３時限
区分	教職科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UM-F470
学年	4学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 田口 和人	指定なし

授業の概要と教育目標

教育課程における道徳教育・特別活動の位置について理解することを第一に行います。その上で、道徳教育と特別活動を一応区分したうえで、それぞれについて「グループ討議」を行います。また視聴覚教材を見て道徳の授業についての理解を深めます。
教育課程における道徳教育・特別活動の位置について理解すると同時に、今日の子どもたちが置かれた状況を考慮した場合に、どのような道徳教育・特別活動が求められるのかについて考えることを学習の目標とします。

卒業認定・学位授与の方針との関連

人間を対象とする教育職員の役割を念頭に置いて、社会・環境・コミュニケーションについての認識を深める。また、多様な社会のニーズ、変化に対応できるように、自らの「資質・能力」を高めることに努める。

到達目標

日本の道徳教育は1945年を境とする戦前・戦後では大きく変わりました。それは特別活動にも同様のことがいえます。何がどのように変わったのかについて理解することを一つの目標とします。その上で、今日の子どもたちが抱える様々な教育問題を想定しながら、求められる道徳教育・特別活動はどのようなものであるかについて、自分自身で考えることを二つ目の目標とします。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	教育課程における道徳教育／特別活動	道徳教育とは、特別活動とは（教育課程についての説明）。日本の近代教育における道徳教育と特別活動について考える。	予習90分：教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。
第2回	学校教育について	教育活動の二つの形態（教授と陶冶）について学習する。	予習90分：教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。

第3回	学習指導要領と道徳教育／特別活動	今日の道徳の教科化を念頭に、学習指導要領と道徳教育・特別活動について学習する。	予習90分：教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。
第4回	道徳の授業	道徳の授業の視聴覚教材を見て、批判的な検討・学習を行う。 ＜アクティブ・ラーニング＞	予習90分：教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。
第5回	特別活動の授業	学級活動、児童会活動及び生徒会活動、学校行事について学習する。	予習90分：教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。
第6回	道徳教育／特別活動についてのグループ討議①	テーマを設定してグループごとに討議を行う。＜アクティブ・ラーニング＞	予習90分：教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。
第7回	道徳教育／特別活動についてのグループ討議②	グループ討議した内容を整理して、発表する。＜アクティブ・ラーニング＞	予習90分：教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。
第8回	まとめ	道徳教育と特別活動の現状と展望についてのまとめを行う。	予習90分：教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。

教科書

なし

参考書

適宜、資料を配付します。

成績評価の方法・基準

単位認定：60点以上 筆記試験80%、授業中のレポート、発言20%で評価します。

課題等に対するフィードバックの方法

授業内でレポートを課すことがある。返却するので学習の参考にすること。また、授業内での自分自身の発言の参考にすること。

履修のポイント

主体的、対話的で深い学びを期待します。

オフィス・アワー

火曜日・木曜日12：30～13：20（昼休み） 11号館第７研究室
※授業終了後も、適宜受け付けます。

講義コード	21120002
講義名	道徳理論・特別活動論（旧 道徳教育及び特
(副題)	【教職必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
区分	教職科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UM-F470
学年	4学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 田口 和人	指定なし

授業の概要と教育目標

教育課程における道徳教育と特別活動の位置について理解することを第一義的に行う。その上で、道徳教育と特別活動を一応区分した上で、それぞれについてグループ討議を行う。また、視聴覚教材を見て道徳の授業について理解を深める。

卒業認定・学位授与の方針との関連

人間を対象とする教育職員の役割を念頭に置いて、社会・環境・コミュニケーションについての認識を深める。また、多様な社会のニーズ、変化に対応できるように、自らの「資質・能力」を高めることに努める。

到達目標

教育課程における道徳教育と特別活動の位置について理解すると同時に、今日の子どもたちが置かれた状況を踏まえて、どのような道徳教育と特別活動が求められるかについて考えることを目標とする。

授業計画

	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	教育課程のうえで、道徳教育・特別活動について理解する。また、日本の近代教育における道徳教育と特別活動について学習し、考える。	予習90分：教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。
第2回	学校教育の教育活動の二つの形態（教授と陶冶）について学習する。	予習90分：教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。
第3回	学習指導要領と道徳教育・道徳科・特別活動について学習する。	予習90分：教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。
第4回	道徳の授業についての視聴覚教材を見て、批判的な検討・学習を行う。＜アクティブ・ラーニング＞	予習90分：教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。

第5回	学級活動、児童会活動及び生徒会活動、学校行事について学習する。	予習90分：教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。
第6回	「食と命」をテーマとした指導案を、グループごとに作成する。 ＜アクティブ・ラーニング＞	予習90分：教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。
第7回	第６回で作成した指導案を報告して、相互検討を行う。 ＜アクティブ・ラーニング＞	予習90分：教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。
第8回	道徳教育と特別活動の現状と展望についてのまとめを行う。	予習90分：教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。

教科書

なし

参考書

『小学校学習指導要領』『中学校学習指導要領』『道徳の教科書』

成績評価の方法・基準

定期試験（80%）、授業時のレポート（20%）
単認定基準60%以上

**課題等に対する
フィードバックの方法**

授業内でレポートを課すことがある。返却するので学習の参考にすること。また、授業内での自分自身の発言の参考にすること。

履修のポイント

主体的、対話的で深い学びを期待します。

オフィス・アワー

火曜日・木曜日の12：30～13：20（昼休み） 11号館第7研究室
※授業終了後も、適宜受け付けます。

講義コード	21130001
講義名	教育相談論
(副題)	【教職必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	４時限
区分	教職科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UM-F472
学年	4学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 山本 裕詞	指定なし

授業の概要と教育目標

学校における教育相談について、その目的の理解から入り、徐々に具体的技法や現実の児童生徒を想定した教育相談の在り方を明らかにしていきます。カウンセリングやソーシャルワークの技法にも学びながら、教師の専門性として教育相談が展開されることの意義について理解を深めていきます。

卒業認定・学位授与の方針との関連

ディプロマポリシーで重視されている「人間と環境の理解」との関係で、教育相談の必要性を理解し、基礎的知識を得るとともに、実践する際の基礎力を身に付けます。

到達目標

1.教育相談の必要性、学校教育上の位置付けについて理解する。
2.子どもの成長発達上の課題や、それに対する現代社会の影響を踏まえた対応を理解する。
3.教育相談の技法を支える人間観を理解する。
4.教育相談に係わる多様な専門職性を理解し、チームアプローチの基礎的知識を得る。
5.事例を通して、教育相談を実践する基礎を培う。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	1.オリエンテーション 2.教育相談の目的	1.授業のねらい、方法、評価の在り方について 2.なぜ学校が必要で、なぜ学校で教育相談が必要とされるのか アクティブ・ラーニングの内容（上記２について、自己の体験を省みて意見をまとめ、発表を通して学びを共有する）	復習180分
第2回	教育相談の現在	1.広義の教育相談と狭義の教育相談 2.近年の学校教育相談の動向 アクティブ・ラーニングの内容（生徒指導と教育相談の関係を実感できた経験を、グ	生徒指導提要等によって、事前に教育相談と生徒指導の概念間の関係を下調べする。

		ループ間で話し合い、発表を通して学びを共有する）	復習。合計180分
第3回	教育相談の機能と学校内の位置付け	1.学校教育相談の４機能 2.学校内組織における教育相談の位置付け アクティブ・ラーニングの内容（自己の体験を上記１の４機能に分けてワークシートにまとめる）	生徒指導提要等によって、当該主題の下調べを行う。 復習。合計180分
第4回	教育相談の基本姿勢	1.心理的事実の受容・共感と客観的指導 2.教育相談の「心」 アクティブ・ラーニングの内容（グループ・ワークにより受容と共感を体験的に学ぶ）	生徒指導提要等によって、当該主題の下調べを行う。 復習。合計180分
第5回	教育相談の理論と技法	1.理論と技法に関する基礎知識の必要性 2.主な理論と技法に学ぶ アクティブ・ラーニングの内容（上記２について、個々人でワークシートに整理する）	生徒指導提要等によって、当該主題の下調べを行う。 復習。合計180分
第6回	児童生徒理解とは何か	1.意義と分類 2.児童生徒理解の基本姿勢と具体的方法 アクティブ・ラーニングの内容（ケース事例について、教師として適当な対応を考察し、意見を述べ合う）	生徒指導提要等によって、当該主題の下調べを行う。 復習。合計180分
第7回	児童生徒の一般的理解	1.一般的理解の必要性 2.心に関わる疾病・障害・行動特性・言動 アクティブ・ラーニングの内容（ケース事例について、教師として適当な対応を考察し、意見を述べ合う）	生徒指導提要等によって、当該主題の下調べを行う。 復習。合計180分
第8回	発達段階の理解	1.「発達」という概念の特徴 2.発達課題の考え方 アクティブ・ラーニングの内容（ケース事例について、教師として適当な対応を考察し、意見を述べ合う）	生徒指導提要等によって、当該主題の下調べを行う。 復習。合計180分
第9回	児童生徒理解の手法	1.「みる」「きく」ことによる理解 2.「探る」ための基礎知識 アクティブ・ラーニングの内容（心理テストを体験し、その結果について自己分析し、効果と感想をワークシートにまとめる）	生徒指導提要等によって、当該主題の下調べを行う。 復習。合計180分
第10回	校内教育相談体制の構築	1.管理職の役割と可能性 2.校内教育相談体制と担任の役割 アクティブ・ラーニングの内容（ケース事例について、教師として適当な対応を考察し、意見を述べ合う）	生徒指導提要等によって、当該主題の下調べを行う。 復習。合計180分
第11回	教育相談の組織的展開	1.異なる専門職との連携 2.専門機関との連携 アクティブ・ラーニングの内容（ケース事例について、教師として適当な対応を考察し、意見を述べ合う）	生徒指導提要等によって、当該主題の下調べを行う。 復習。合計180分
第12回	教育相談に必要な法令解釈	1.教育相談と法令 2.専門団体の倫理規定と校内の申し合わせ アクティブ・ラーニングの内容（当該主題に関する教員採用試験既出問題を各自が解いて提出する）	生徒指導提要等によって、当該主題の下調べを行う。 復習。合計180分
		1.	

第13回	開発的・予防的教育相談	自尊感情を育て、共感力を高める支援 2.相互支援を進め、集団成長を促す アクティブ・ラーニングの内容（ケース事例について、教師として適当な対応を考察し、意見を述べ合う）	生徒指導提要等によって、当該主題の下調べを行う。 復習。合計180分
第14回	問題解決的教育相談	1.発達障害のある児童生徒への対応 2.多様化する問題への対応 アクティブ・ラーニングの内容（ケース事例について、教師として適当な対応を考察し、意見を述べ合う）	生徒指導提要等によって、当該主題の下調べを行う。 復習。合計180分
第15回	これからの教育相談	1.授業のまとめ 2.小試験による学習効果の自己確認	復習180分

教科書

使用しません。授業中、必要に応じてプリント等を配布いたします。但し、下記「参考書」に示した『生徒指導提要』は予習復習に活用できますので、用意することを強く推奨します。

参考書

文部科学省『生徒指導提要』2010年、文部科学省「児童生徒の教育相談の充実について（報告）」（以上の2点は、文科省HPから入手可能）、島崎政男『入門 学校教育相談』学事出版2014年。

成績評価の方法・基準

60点以上の評価で単位を認定します。評価の割合は、授業中に数回実施予定の確認テストで50%、授業最終回のまとめの後に実施する試験によって50%です。欠席、遅刻、早退、課題の未提出等は減点の対象とします。詳細は、初回授業オリエンテーションにおいて説明します。

課題等に対するフィードバックの方法

授業内容の予習・復習を中心とした自主的な学びが必要となります。

履修のポイント

「教育相談」の原理的理解に努めながらも、同時に、児童生徒の多様な状況・生活背景等を想像することが重要です。

オフィス・アワー

授業の前後で質問に応じます。また、文章で質問してくだされば、次回の授業時で回答をお渡しします。

講義コード	21140001
講義名	栄養教諭論
(副題)	【教職必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	１時限
区分	教職科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UE-F450
学年	3学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 神戸 美恵子	指定なし
教 員	武井 弘美	指定なし

授業の概要と教育目標

栄養教諭のための科目です。栄養教諭は，管理栄養士・栄養士を基礎資格とした教員免許であり、「児童生徒の栄養の指導及び管理をつかさどる」教員として、その専門性を生かし、食に関する指導における全体計画作成や実践等で中心的な役割を果たすとともに、学校給食の管理を行い、学校内における教職員間及び家庭や地域との連携・調整で要としての役割を果たすことが求められている。本授業では、教育課程における栄養教諭の教育活動や、栄養教諭に必要とされる資質能力を習得し、教師の視点で児童生徒や教育の今日的課題に関心を持てるようになることを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマ・ポリシーとの関連として、管理栄養士に必要なこれまでの学習を統合･発展させ、学校教育における多様なニーズ、変化に対応できる知識・技術を身につけ、実践的な職業人として活躍できる知識・技術を修得することを目指すものとする。

到達目標

１．栄養教諭の役割について説明できる。
２．学校教育における学校給食の役割について説明できる。
３．学校給食と食に関する指導の一体化について説明できる。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	オリエンテーション 栄養教諭制度	栄養教諭制度創設の経緯 栄養教諭の配置と身分 関係法規	予習60分：教科書の該当箇所を読む。 復習60分：配布資料、教科書を見直し、理解を深める。
第2回	栄養教諭の役割	栄養教諭の職務	予習60分：教科書の該当箇所を読む。 復習60分：配布資料、教科書を見直

			し、理解を深める。
第3回	学校給食の教育的意義と役割	学校給食法 学校給食の教育的な意義と役割	予習60分：教科書の該当箇所を読む。 復習60分：配布資料、教科書を見直し、理解を深める。
第4回	学校組織と栄養教諭の位置づけ	学校組織と栄養教諭 学校給食の組織と栄養教諭	予習60分：教科書の該当箇所を読む。 復習60分：配布資料、教科書を見直し、理解を深める。
第5回	学校給食の歴史と食文化の変遷	学校給食の歴史 日本人の食生活と学校給食 地場産物の活用と郷土食	予習60分：教科書の該当箇所を読む。 復習60分：配布資料、教科書を見直し、理解を深める。
第6回	子どもの発達と食生活	子どもの体位と健康 エネルギー、栄養素の摂取量 食生活、食習慣と健康	予習60分：教科書の該当箇所を読む。 復習60分：配布資料、教科書を見直し、理解を深める。
第7回	「食に関する指導」の全体計画	「食に関する指導」の全体計画の必要性、内容と作成手順	予習60分：教科書の該当箇所を読む。 復習60分：配布資料、教科書を見直し、理解を深める。
第8回	「食に関する指導」の展開	カリキュラムと指導計画 年間指導計画に基づいた指導の成果と評価	予習60分：教科書の該当箇所を読む。 復習60分：配布資料、教科書を見直し、理解を深める。
第9回	給食時間における食に関する指導	学習指導要領における給食の時間の位置づけ 給食の時間における食に関する指導の特徴と進め方	予習60分：教科書の該当箇所を読む。 復習60分：配布資料、教科書を見直し、理解を深める。
第10回	給食時間における食に関する指導の実際	給食時間における食に関する指導の実際 給食時間の指導上の留意点と指導の評価	予習60分：教科書の該当箇所を読む。 復習60分：配布資料、教科書を見直し、理解を深める。
第11回	家庭・地域との連携	家庭・地域の関係機関・団体社会との連携と留意点 地産市長を進めるための連携	予習60分：教科書の該当箇所を読む。 復習60分：配布資料、教科書を見直し、理解を深める。
第12回	食に関する指導と学校給食(1)	食に関する指導の全体計画と学校給食 【アクティブ・ラーニングの内容】 示された例についてディスカッションを行う。 課題：食に関する全体計画作成	予習90分：第1～12回の学習内容を確認する。 復習90分：ディスカッションをもとに食に関する全体計画を作成する。
第13回	食に関する指導と学校給食(2)	学校給食年間指導 【アクティブ・ラーニングの内容】 示された例についてディスカッションを行う。	予習90分：第1～12回の学習内容を確認する。 復習90分：ディスカッションをもとに学校給食年間指導計画を作成す

		課題：学校給食年間指導計画作成	る。
第14回	食に関する指導と学校給食(3)	学校給食の教材化 【アクティブ・ラーニングの内容】 示された例についてディスカッションを行う。 課題：献立に基づく給食時間の指導計画作成	予習90分：第1～12回の学習内容を確認する。 復習90分：ディスカッションをもとに献立に基づく給食時間の指導計画を作成する。
第15回	まとめ	食に関する指導と学校給食 【アクティブ・ラーニングの内容】 第12～14回課題で作成した計画の発表を行い、評価する。 課題：発表評価表作成	予習90分：第12～14回課題で作成した計画の発表準備を行う。 復習60分：発表評価表を作成し提出する。

教科書

三訂 栄養教諭 第３版

参考書

学習指導要領（文部科学省）、 栄養教諭のための学校栄養教育論

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上
課題60％、授業参加度・意欲40％とし総合的に評価する。

課題等に対する
フィードバックの方法

課題は、添削しコメント・アドバイスをつけて返却する。また、必要に応じて、受講者間で共有する。

履修のポイント

栄養教諭は、栄養に関する専門性と教育に関する資質を併せ持つことが要求される。学校給食の管理と食に関する指導とを結び付けられるよう意識して授業に臨んで欲しい。
予習・復習時間数：不足分については、自主的に子どもたちの食生活上の課題の解決案について研究すること

オフィス・アワー

神戸：月曜日～金曜日12：35～13：15 11号館3F15研究室（神戸研究室）

講義コード	21150001
講義名	学校食育指導論
(副題)	【教職必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	３時限
区分	教職科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UE-F460
学年	3学年

担当教員

職種	氏名	所属
教 員	◎ 武井 弘美	指定なし
教員	宮原 公子	指定なし

授業の概要と教育目標

『栄養教諭論』において学修した児童及び生徒の栄養の実態と課題、栄養教諭の役割、職務内容、食生活に関する歴史的、文化的事項を踏まえて、幼児、児童・生徒に食に関する指導を展開するために必要な知識・技術を習得し実践能力を養う。その場として教科、道徳、総合的な学習の時間及び特別活動等の模擬授業を体験することで、その方法・知識・技術を習得し栄養教諭としての教育力を養う。さらに、教育課程に位置づけた「食に関する指導」と「学校給食管理」を一体化させた指導の重要性の学習を深める。

卒業認定・学位授与の方針との関連

これまでの教職課程の学習を統合･発展させ、多様な社会のニーズ、変化に対応できる知識・技術を身につけ、教育の場における実践的な職業人である管理栄養士の資質をもった「栄養教諭」として活躍できる知識・技術を修得している。

到達目標

教職に関する科目や栄養教諭論の学修内容を基に、幼児、児童・生徒に食に関する指導を展開する知識と技術を習得し、学校の食育における実践能力を養うことを到達目標とする。
１．教科、特別活動等における食に関する指導計画の立案ができ、専門的な対場から効果的な指導を展開することができるようになる。
２．食に関する指導に必要な知識や技術を習得し、学校教育活動全般で実践できる能力を身につけている。
３．教科等で学習した内容を給食時間において体験学習をし、児童生徒が自己の食生活に生かすことができる教育場面を設定することができる。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習と そのために必要な時間
	食に関す	○ガイダンス：授業概要（授業内容・進め方・評価法）の説明	予習90分：栄養教諭の職務の確認を

第1回	る指導法へアプローチ	○栄養教諭の職務と使命 【アクティブラーニング】 栄養教諭の職務と役割をテーマにディスカッションする。	する。 復習90分：学校の食育と給食管理を役割をまとめる。
第2回	食に関する指導の方法と知識(1)	○教科等と給食時間の関連指導 ○学校給食献立の教材化 ・アセスメントを基にした食育 ・献立計画から食育計画	予習90分：給食時間の指導の重要性を確認しておく。 復習90分：学校給食献立の教材化の理論を整理する。
第3回	食に関する指導の方法と知識(2)	○教科における指導① ・家庭科（小学校） ・技術家庭科：家庭分野（中学校) 【アクティブラーニング】 ・小・中学校家庭分野教科書を用いて、食育関連指導ができる単元を調べる。 ・食育の関連をディスカッションする。	予習90分：家庭科（小学校）、技術家庭科（中学校）の教科書を確認しておく。 復習90分：家庭分野における学習指導案の事例研究をする。
第4回	食に関する指導の方法と知識(3)：	○教科における指導② ・体育科：保健分野（小学校） ・保健体育科：保健分野（中学校） 【アクティブラーニング】 ・小・中学校保健分野の教科書を用いて、食育関連指導ができる単元等を調べる。 【アクティブラーニング】 ・小・中学校保健分野教科書を用いて、食育関連指導ができる単元を調べる。 ・食育の関連をディスカッションする。	予習90分：体育科（小学校）、保健体育科（中学校）の教科書を確認しておく。 復習90分：保健分野における学習指導案の事例研究をする。
第5回	食に関する指導の方法と知識(4)	○教科における指導③ ・社会科、 理科、 生活科（小学校） ・社会科（地理・歴史・公民）、理科（中学校） 【アクティブラーニング】 ・小・中学校社会科、理科、生活科教科書を用いて、食育関連指導ができる単元を調べる。 ・食育の関連をディスカッションをする。	予習90分：小学校（社会科、理科、生活科）、中学校（社会科、理科）の教科書で食育と関連単元を確認しておく。 復習90分：保健分野における学習指導案の事例研究をる。
第6回	食に関する指導の方法と知識(5）：	○教科における指導④ ・道徳科 ・外国語活動 ・総合的な学習の時間の指導 【アクティブラーニング】 総合的な学習時間において実践可能な指導の場や題材ををデスカッションする。	予習90分：総合的な学習の時間での指導分野を調べておく。 復習90分：総合的な学習の時間における学習指導案の事例研究をする。
		○特別活動(学級活動 、児童	

第7回	食に関する指導の方法と知識(6)	会・生徒会活動等）の指導 ・学級活動 ・児童会・生徒会活動 ・学校行事 ・クラブ活動 【アクティブラーニング】 アセスメントを基にした学級活動における題材や発達段階に応じた指導内容をディスカッションする。	予習90分：特別活動における学級活動の内容を調べておく。 復習90分：学級活動における学習指導案の事例研究をする。
第8回	食に関する指導の方法と技術(1)	○教職員との連携・調整、学校給食と家庭地域との連携 ・教職員との連携 ・地域家庭との連携 【アクティブラーニング】 教職員との連携事例を基にディスカッションをする。そのことにより、具体的な方法を習得する。	予習90分：家庭における健康課題を整理しておく。 復習90分：栄養教諭の職務である連絡・調整・連携等の役割をまとめる。
第9回	食に関する指導の方法と技術(2)	○個別栄養相談活動、栄養相談とカウンセリング技法 ・栄養教諭と個別指導 ・相談者：児童生徒、保護者等との信頼関係の構築 【アクティブラーニング】 二人一組になり、相談活動の模擬練習をする。	予習90分：栄養教諭の職務である個別指導の方法を調べておく。 復習90分：栄養相談におけるラポールの形成を要点をまとめ、実践力を高める。
第10回	食に関する指導の方法と技術(3)	○教科・総合的な学習時間・特別活動の指導計画案の作成 ・学習指導案の様式と書き方 ・教科等の指導と給食時間の指導の関連 ・給食時間の指導と学校給食の献立の教材化 【アクティブラーニング】 教科等における学習指導案に作成に取り組み、アドバイスを基に修正する。	予習80分：学習指導案の様式を調べ、プリントをしておく。 復習90分：アドバイスを受けた学習指導案を完成させる。
第11回	食に関する指導の方法と技術(4）：	○食に関する指導計画案作成、教材作成・教材研究(1) ・学習指導案の作成 ・教材作成 ・教材研究	予習90分：教材作成、教材研究の意味を調べておく。 復習90分：教材作成、教材研究の要点をまとめる。予習したこととの違いを確認する。
第12回	食に関する指導の方法と技術(5)	○食に関する指導計画案作成、教材作成・教材研究(2) ・学習指導案の作成 ・教材作成 ・教材研究	予習90分：教材作成、教材研究の意味を調べておく。 復習90分：教材作成、教材研究を深める。
第13回	食に関する指導の実践・演習(1)	○模擬授業の実践(1)：１組 ・食に関する全体計画の説明 ・展開・評価 ・授業反省会	予習90分：模擬教育に向けて準備をする。 復習90分：模擬授業を体験し、相互に評価した点をまとめる。教育実習に生かすよう意欲を持つ。

第14回	食に関する指導の実践・演習(2)	○模擬授業の実践(2): 2組 ・食に関する全体計画の説明 ・展開・評価 ・授業反省会	予習90分：模擬教育に向けて準備をする。 復習90分：模擬授業を体験し、相互に評価した点をまとめる。教育実習に生かすよう意欲を持つ。
第15回	食に関する指導の実践・演習(3	○模擬授業の実践(3)：3組 ・食に関する全体計画の説明 ・展開・評価 ・授業反省会、まとめ	予習90分：模擬教育に向けて準備をする。 復習90分：模擬授業を体験し、相互に評価した点をまとめる。教育実習に生かすよう意欲を持つ。
第16回			

教科書

栄養教諭論 建帛社 金田雅代編著
献立の教材化の理論と実践 東山書房 宮原公子編著

参考書

小学校学習指導要領、中学校学習指導要領
小学校 教科書（社会科 理科 生活科 家庭科 体育科：保健分野）
中学校 教科書（社会科 理科 技術家庭科 保健体育科：保健分野）

成績評価の方法・基準

認定基準60点以上
課題・レポート（50%）、模擬教育（30%）、授業に対する参加度（20%）とし
総合的な評価する。

課題等に対する
フィードバックの方法

毎回、授業概要として内容や授業目的を示すとともに、授業に対す評価や感想を記述することを求める。双方向（学生と教員）の授業の振り返りをとおしてフィードバックできるようにする。
課題・レポートは、コメントをつけて返却する。

履修のポイント

栄養教諭の職務である学校の食育の実践力を養う教科である。栄養教育実習に直結する授業であるため、指導案作成、教材作成、模擬授業などの一連の流れを理解しておくこと。また、そのために必要な知識と技術を習得することが重要となる。

オフィス・アワー

武井 水曜日 授業前後
宮原 火曜日～金曜日 昼休み 研究室19（宮原研究室）

講義コード	21160001
講義名	教職実践演習（栄養教諭）
(副題)	【教職必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	２時限
区分	教職科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UE-F480
学年	4学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 田口 和人	指定なし
教 員	武井 弘美	指定なし

授業の概要と教育目標

第1回は、教職担当教員によりオリエンテーションを行う。第2～3回は、栄養教育実習を振り返りながら、教師（栄養教諭）という仕事について考える。第4～6回は栄養教育実習での経験を踏まえ、学校給食（調理場）についての学習を深めることにより、栄養教諭としての資質向上に努める。第7～10回では、教師に求められる様々な指導力を伸ばすために、道徳、生徒指導、総合的な学習の時間、特別活動の指導を前提として、児童生徒に対する洞察力・観察力そして創造力を高めるため視聴覚教材を用いて学ぶ。第11～14回は栄養教育実習の研究授業を踏まえ、栄養教諭の指導的側面の向上を図る。第15回は、学校教育が抱える諸問題をふまえながら教師の役割について考え、最後に教職課程履修に関するまとめを行う。

卒業認定・学位授与の方針との関連

履修カルテにより、個人別の履修状況や教諭になるための実践的指導力等を把握しながら、演習を通して受講者が栄養教諭になるために必要な能力を培うことを目的とする。また、組織の一員としての自覚や地域社会とのつながりを意識しながら（地産地消）、社会性や人間関係能力（コミュニケーション能力）を育成する。

到達目標

"①履修カルテにより、履修状況を確認する。
②栄養教諭になるために必要な資質・能力を、身につける。
③学校という組織の一員として自覚するとともに、教師としての豊かな感性や人間関係能力を高める。 "

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	オリエンテーション	教職実践演習の内容とスケジュールの確認。履修カルテ」の確認。	予習90分：食及び教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。
			予習90分：食及び教育に

第2回	学校教育・栄養教諭の役割	教育実習を踏まえて、教師（栄養教諭）の役割について学び、考える。＜アクティブ・ラーニング＞	関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。
第3回	教育課程	学習指導要領と教育課程について再度確認する。食育基本法・学校給食法の理解を含む。	予習90分：食及び教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。
第4回	学校給食の実際	自校方式とセンター方式の双方から、学校給食の状況について学ぶ。	予習90分：食及び教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。
第5回	学校給食の指導について	「食のバランス」「食事の大切さ」など学校給食についての指導について考える。	予習90分：食及び教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。
第6回	献立発表	教育実習で経験した「献立」をもとに、お互いに検討する。＜アクティブ・ラーニング＞	予習90分：食及び教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。
第7回	教育実習報告会を受けて	教育実習報告会を受けて、学校給食・子どもの実態・子どもの生活についてディスカッションを行なう。＜アクティブ・ラーニング＞	予習90分：食及び教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。
第8回	いじめ問題を考える	学校全体の問題として「いじめ」をとらえ、改めて考える。	予習90分：食及び教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。
第9回	学校教育の抱える多様な問題を考える。①	視聴覚教材を用いて、学校教育が抱える多様な問題（障がい児）を考える。	予習90分：食及び教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。
第10回	学校教育の抱える多様な問題を考える。②	視聴覚教材を見て、学校教育が抱える多様な問題（障がい児）ついて、ディスカッションを行なう。＜アクティブ・ラーニング＞	予習90分：食及び教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。
第11回	食に関する指導計画	全学年を対象とした食に関する指導計画の作成	予習90分：食及び教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。
第12回	給食・教科等での時間における授業①	給食の場を利用した食育	予習90分：食及び教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。
第13回	給食・教科等での時間における授業②	給食・教科等での指導案作成	予習90分：食及び教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。
第14回	給食・教科等での時間における授業③	給食・教科等での指導案検討	予習90分：食及び教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。
			予習90分：食及び教育に

第15回	まとめ	履修カルテを用いて、教職課程の総合的な確認を行う。	関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。

教科書
なし
参考書
適宜、資料を配付します。
成績評価の方法・基準
単位認定：60点以上 演習・発表内容を総合的に評価します。
課題等に対する フィードバックの方法
授業内で課したレポートを返却します。見直して自分自身の発言に役立てること。
履修のポイント
主体的、対話的で深い学びを期待します。
オフィス・アワー
火曜日・木曜日の12：30～13：20（昼休み） 11号館第7研究室 ※授業終了後も、適宜受け付けます。

講義コード	21170001
講義名	栄養教育実習
(副題)	【教職必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	通年
講義区分	実験・実習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
区分	教職科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UE-F473
学年	4学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 田口 和人	指定なし

授業の概要と教育目標

教育実習事前事後指導を踏まえ、5日間の栄養教育実習に取り組む。学校現場での教育活動全般の実際について学ぶ。そして、栄養教諭の役割について、研究授業や子どもたちとの関わりを通じて学ぶ。

卒業認定・学位授与の方針との関連

人間を対象とする教育職員の役割を念頭に置いて、社会・環境・コミュニケーションについての認識を深める。また、多様な社会のニーズ、変化に対応できるように、自らの「資質・能力」を高めることに努める。

到達目標

栄養教諭であることを自覚したうえで、①豊かな人間性とコミュニケーション能力を有する教員、②幅広い視野と高い専門性を有する教員、③社会人としての優れた識見を有する教員、の三つの観点を到達目標とします。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	栄養教育実習	実習校での指導の下、「主体的、対話的で深い学び」を目指す。	実習に向けて、予習・復習をしっかりと行なうこと。
第2回	栄養教育実習	実習校での指導の下、「主体的、対話的で深い学び」を目指す。	実習に向けて、予習・復習をしっかりと行なうこと。
第3回	栄養教育実習	実習校での指導の下、「主体的、対話的で深い学び」を目指す。	実習に向けて、予習・復習をしっかりと行なうこと。
第4回	栄養教育実習	実習校での指導の下、「主体的、対話的で深い学び」を目指す。	実習に向けて、予習・復習をしっかりと行なうこと。
第5回	栄養教育実習	実習校での指導の下、「主体的、対話的で深い学び」を目指す。	実習に向けて、予習・復習をしっかりと行なうこと。

教科書

なし
参考書
なし
成績評価の方法・基準
実習校での指導評価による。
課題等に対する フィードバックの方法
実習ノートを返却するので、それをもとに教育実習を振り返る。
履修のポイント
主体的、対話的で深い学びを期待します。
オフィス・アワー
火曜日・木曜日12：30～13：20（昼休み） 11号館第7研究室

講義コード	21180001
講義名	教育実習事前事後指導
(副題)	【教職必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
区分	教職科目
必修/選択	選択
当該授業科目の教育課程内での位置づけ	UE-F474
学年	4学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 田口 和人	指定なし
教 員	武井 弘美	指定なし

授業の概要と教育目標

教育実習事前・事後指導は、教育実習の事前と事後に2年間を通じて行う。事前指導においては、実習を効果的なものにするために、学校組織についての学習をはじめ、心構え・態度・姿勢など、身につけておかなければならないことを中心に行う。事後指導においては、教育実習を終えての報告会を通じて、経験交流と意見交換を行う。

卒業認定・学位授与の方針との関連

人間を対象とする教育職員の役割を念頭に置いて、日常的「生活空間」そして社会・環境・コミュニケーションについての認識を深める。また、多様な社会のニーズ、変化に対応できるように、自らの「資質・能力」を高めることに努める。

到達目標

次の4つを学習目標とします。
①教育実習の意義を理解すること、②教育実習についての基礎的事項（知識・技能・心構え）を理解すること、③教育実習に自信をもって臨むための準備をすること、④教育実習の経験をみんなで共有し、自分なり成果等をまとめること。

授業計画

	主題	授業内容と方法、課題（アクティブラーニングの内容を含む）	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	教育実習の現実	学校とはどんなところか、教師の仕事（組織）がどのようになっているかについて学習する。	予習90分：教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。
第2回	教育実習に向けて	学校の教育活動の1年間（3年間も含む）を学習する。 教師の1週間および1日の教育活動について学習する。	予習90分：教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。
第3回	学習指導要領についての学習	学習指導要領及び「解説」について学ぶ	予習90分：教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。

第4回	教材研究	指導案とは、なにかについて学習する。 指導案を作成する。	予習90分：教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。
第5回	教材研究	指導案を作成する。	予習90分：教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。
第6回	模擬授業	作成した指導案をもとに、模擬授業を行う。	予習90分：教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。
第7回	実習報告会①（まとめ）	それぞれの教育実習経験を発表し、お互いに講評する。	予習90分：教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。
第8回	実習報告会②（まとめ）	それぞれの教育実習経験を発表し、お互いに講評する。	予習90分：教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。

教科書

なし

参考書

適宜、資料を配付します。

成績評価の方法・基準

授業時の発言、レポート。
単位認定基準60%以上

課題等に対するフィードバックの方法

授業内でレポートを課すことがある。返却するので学習の参考にすること。また、授業内での自分自身の発言の参考にすること。

履修のポイント

主体的、対話的で深い学びを期待します。

オフィス・アワー

火曜日・木曜日の12：30～13：20（昼休み） 11号館第７研究室
※授業終了後も、適宜受け付けます。